

SCMRF Configuration Definition for Windows

解説・手引・操作書

3020-3-710-C0

対象製品

P-262C-4114 SCMRF Configuration Definition for Windows 03-00 (適用 OS : Windows 7 , Windows 8 , Windows 8.1)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Ethernet は、米国 Xerox Corp. の商品名称です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Access は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

発行

2015 年 5 月 3020-3-710-C0

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 1997, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-710-C0) SCMRF Configuration Definition for Windows 03-00

追加・変更内容	変更箇所
オンラインヘルプ非サポートに伴い、オンラインヘルプに関する記載を削除した。	1.4.7, 2.7, 4.6.1, 6.2.1, 付録 E.1
適用 OS の変更に伴い、OS の記載、ウィンドウの表示例、およびデータベースの拡張子を変更した。	2.10.2(2), 4.1.1(1), 4.22.2, 5.1.3, 5.2.3, 6.1.1, 6.1.2(1), 6.2.2(2), 付録 E.3
SCMRF CD for Windows の使用方法の説明から、SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文との関係、および SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係を参照できるようにした。	4.
<ul style="list-style-type: none">• VOS3/US 03-00 ~ VOS3/US 05-00 で使用する入出力構成を定義できるようにした。• PRMA E3 07-00 ~ PRMA E3 08-00 で使用する PRMF 構成を定義できるようにした。	4.2.1(1), 4.2.2(1), 4.2.2(2), 4.2.3(1)
メッセージを追加した。 SC010	付録 E.3
メッセージを変更した。 IA008, IA011	付録 E.3
SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係について記載した。	付録 H

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトの使用方法について説明したものです。

- P-262C-4114 SCMRF Configuration Definition for Windows

このプログラムプロダクトは、次に示すオペレーティングシステム（OS：Operating System）上で使用できます。

- Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (32 ビット版)
- Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)
- Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (32 ビット版)
- Windows(R) 8 Pro 日本語版 (32 ビット版)
- Windows(R) 8 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)
- Windows(R) 8.1 Pro 日本語版 (32 ビット版)
- Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)

このプログラムプロダクトは、プログラムプロダクト S-1198-21 SCMRF/Configuration Definition とあわせて使用します。

対象読者

このマニュアルはホストコンピュータの入出力機器構成の計画・管理をするセンタ管理者の方を対象にしています。また、パーソナルコンピュータで使用される OS の基本操作をご理解いただいていることを前提としています。

なお、このマニュアルの前提マニュアルであるマニュアル「VOS3 システム構成管理機能 / 構成定義 SCMRF/Configuration Definition」を必ずお読みください。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 SCMRF CD for Windows とは

SCMRF CD for Windows の特長、構成、機能概要について説明しています。

第 2 章 SCMRF CD for Windows の機能

SCMRF CD for Windows の機能について説明しています。

第 3 章 SCMRF CD for Windows を使用する前に

SCMRF CD for Windows で入出力機器の構成を定義するときの作業手順やウィンドウに共通する操作について説明しています。

第 4 章 SCMRF CD for Windows の使用方法

SCMRF CD for Windows の使用方法について説明しています。

第 5 章 使用例

SCMRF CD for Windows の構成定義例、操作例について説明しています。

はじめに

第 6 章 SCMRF CD for Windows の導入

SCMRF CD for Windows の動作環境およびセットアップ方法について説明しています。

第 7 章 表示される情報の見方

SCMRF CD for Windows が出力する各種情報の見方について説明しています。

第 8 章 障害対策

SCMRF CD for Windows で起こる障害とその対策方法について説明しています。

付録 A SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文との関係

SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文の SCMRF CD for Windows での扱いについて説明しています。

付録 B ファイル転送

ホストコンピュータとのファイルの転送方法について説明しています。

付録 C SCMRF CD for Windows の初期化ファイル

SCMRF CD for Windows 起動時の設定が格納されている初期化ファイルについて説明しています。

付録 D Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows からの移行

Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows のデータを SCMRF CD for Windows に移行する場合の注意事項について説明しています。

付録 E メッセージ

SCMRF CD for Windows で表示されるエラー番号およびメッセージテキストについて要因と対処方法を説明しています。

付録 F 互換性

SCMRF/Configuration Definition と SCMRF CD for Windows の構成定義データ比較機能との相違点について説明しています。

付録 G 構成定義データの比較範囲

SCMRF CD for Windows の比較対象について説明しています。

付録 H SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係

SCMRF CD for Windows での SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値の扱いと相違点について説明しています。

付録 I 各バージョンの変更内容

過去 3 版の変更内容について説明しています。

付録 J 用語解説

マニュアル中の SCMRF CD for Windows の用語について説明しています。

関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

Windows 関連

CommuniNet Version 4 (3020-3-N71)

VOS3/US , VOS3/LS , および VOS3/FS 関連

システムゼネレーション (6190-3-100)

センタ運営 -JSS3- 解説編 (6190-3-101)

センタ運営 -JSS4- 解説編 (6190-3-106)

ストレージ設計 (6190-3-110)

システムゼネレーション - IPP 方式編 - (6190-3-113)

システム構成管理機能 SCMRF (6190-3-335)

システム構成管理機能 / 構成定義 SCMRF/Configuration Definition (6190-3-338)

統合システム自動運転 AOMPLUS 運用の手引 - 運用編 - (6190-3-311)

統合システム自動運転 AOMPLUS 運用の手引 - 文法編 - (6190-3-342)

XNF TCP/IP 接続機能 XNF/TCP 使用の手引 (6190-3-582)

XNF TCP/IP 接続機能 XNF/TCP メッセージ (6190-3-585)

VOS3/AS 関連

システムゼネレーション (6180-3-100)

システム構成管理機能 SCMRF (6190-3-335)

システム構成管理機能 / 構成定義 SCMRF/Configuration Definition (6190-3-338)

統合システム自動運転 AOMPLUS 運用の手引 - 運用編 - (6190-3-311)

統合システム自動運転 AOMPLUS 運用の手引 - 文法編 - (6190-3-342)

PRMF 関連

プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引 (6190-3-900)

プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引 (6190-3-910)

プロセッサ資源分割管理機構 (PRMF)(8080-2-148)

プロセッサ資源分割管理機構 (PRMF)(CD01-8-001)

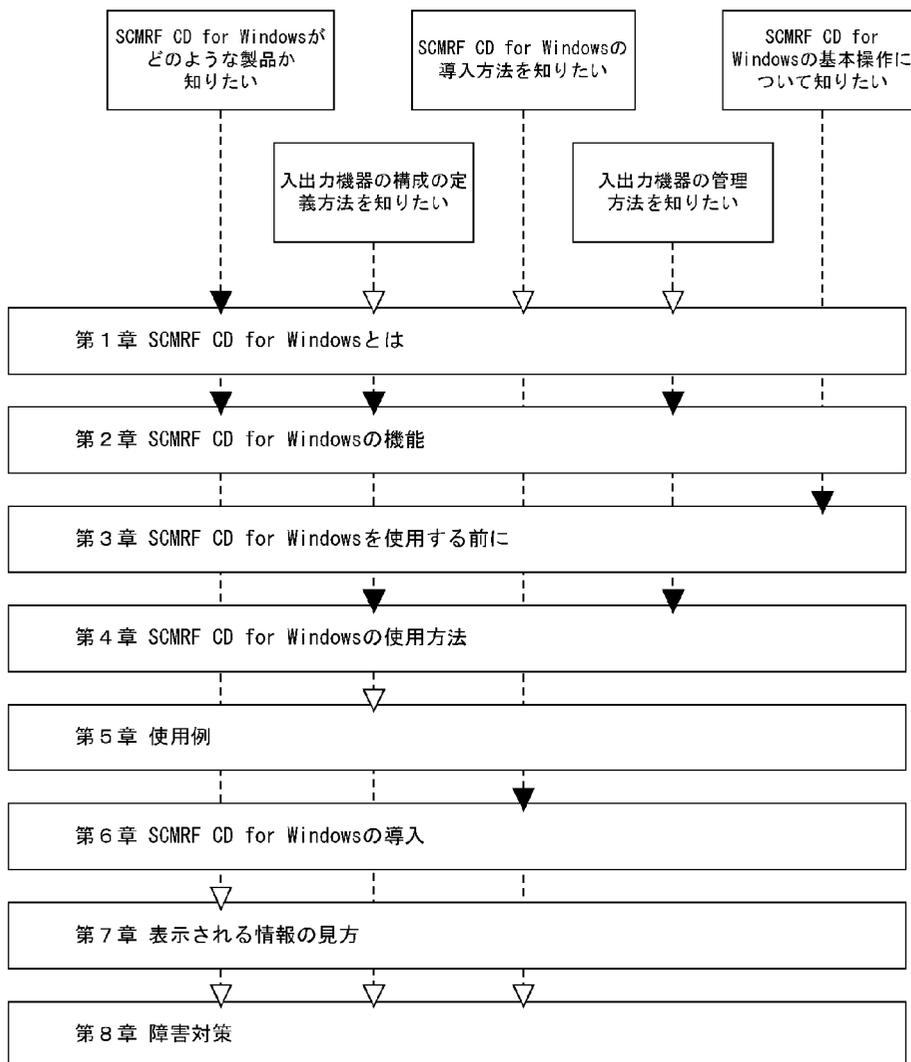
ハードウェア関連

M シリーズ 入出力構成情報 (8080-2-141)

M-880/M-860 および M パラレルプロセッサグループ ACONARC システム (8080-2-171)

読書手順

このマニュアルは、使用する目的別に次に示す手順でお読みいただくことをお勧めします。



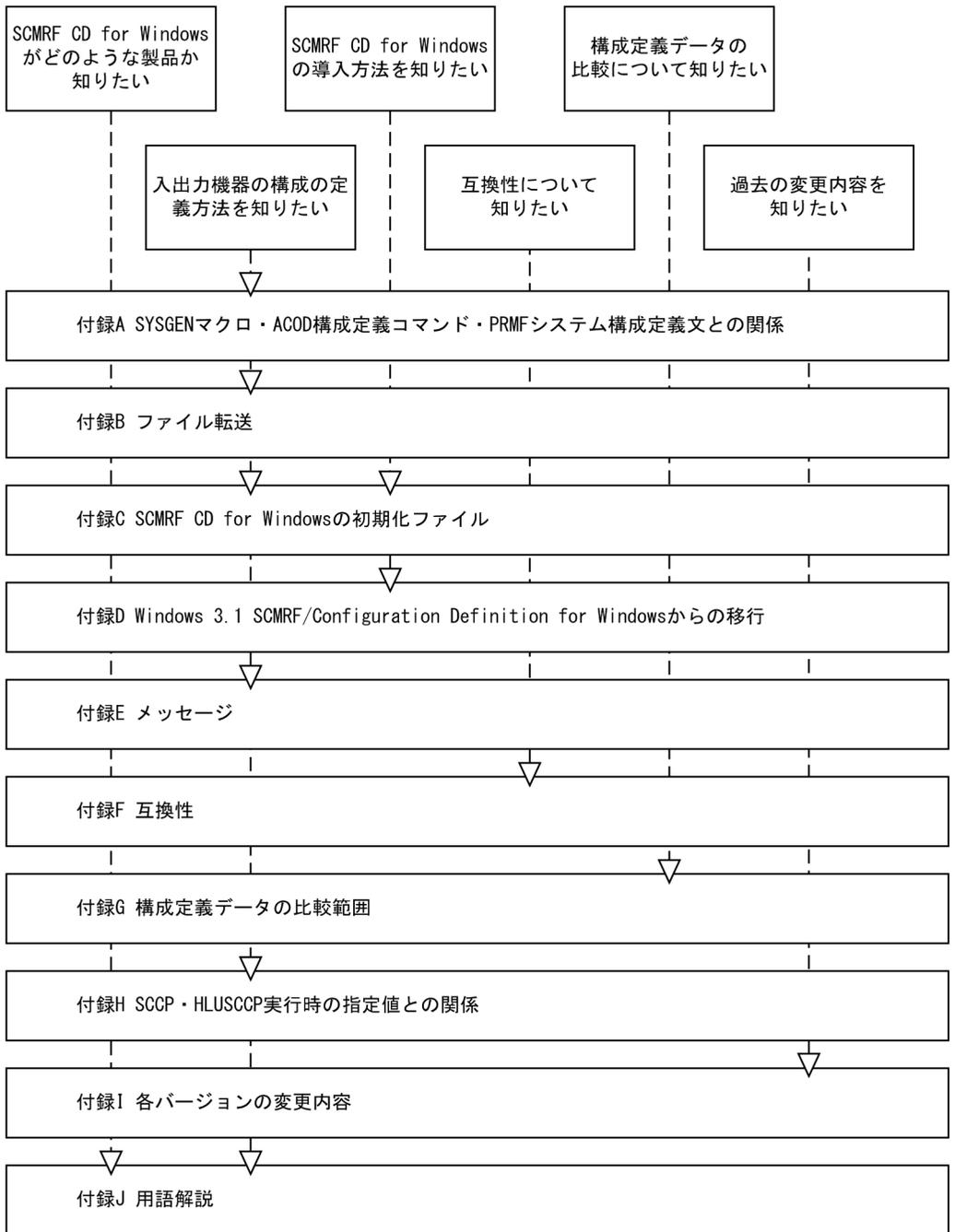
(凡例)



：必ず読む項目



：必要に応じて読む項目



(凡例)

 : 必要に応じて読む項目

このマニュアルでの表記

< 製品名称の表記 >

製品名称	略称・総称	
SCMRF Configuration Definition for Windows	SCMRF CD for Windows	
SCMRF/Configuration Definition	SCMRF/CD	
CommuniNet Version 4	CommuniNet	
Microsoft Access ^(R)	Access	
Microsoft ^(R) Excel	Excel	
Microsoft ^(R) Windows ^(R) 7 Professional 日本語版 (32 ビット版)	Windows 7	Windows
Microsoft ^(R) Windows ^(R) 7 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)		
Microsoft ^(R) Windows ^(R) 7 Ultimate 日本語版 (32 ビット版)		
Windows ^(R) 8 Pro 日本語版 (32 ビット版)	Windows 8	
Windows ^(R) 8 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)		
Windows ^(R) 8.1 Pro 日本語版 (32 ビット版)	Windows 8.1	
Windows ^(R) 8.1 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)		
Microsoft ^(R) Windows ^(R) Operating System Version 3.1	Windows 3.1	

このマニュアルでは OS を区別する必要がない場合、Windows と総称して表記することがあります。

< 用語の表記 >

- 「ホストコンピュータ」を「ホスト」, 「パーソナルコンピュータ」を「PC」と表記します。
- ACONARC ディレクタ (Advanced Connection Optical Director) を「ACOD」と表記します。
- FIBARC ディレクタ (FiBarc Director) を「FBD」と表記します。
- 「ACOD」, 「FBD」を総称して、「ディレクタ」と表記します。

< マニュアルの表記 >

- 次に示すマニュアルを本文中では「マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」」と表記します。ご使用の VOS3 システムに対応するマニュアルをご覧ください。

「VOS3 システムゼネレーション」(6190-3-100), 「VOS3 システムゼネレーション - IPP 方式編 - 」(6190-3-113), 「VOS3/AS システムゼネレーション」(6180-3-100)

- 次に示すマニュアルを本文中では「マニュアル「センタ運営」」と表記します。ご使用の VOS3 システムに対応するマニュアルをご覧ください。

「センタ運営 -JSS3- 解説編」(6190-3-101), 「センタ運営 -JSS4- 解説編」(6190-3-106)

このマニュアルで使用する記号

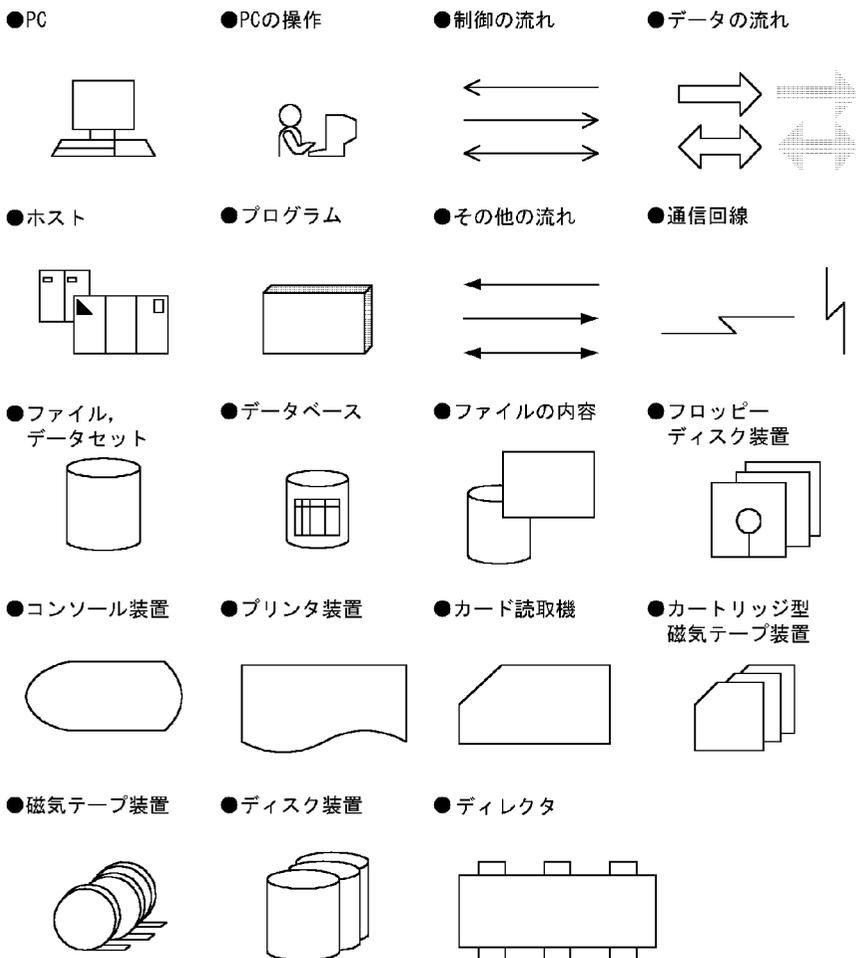
このマニュアルでは次に示す記号を使用して、操作方法を説明しています。

記号	意味
[]	メニュー，またはウィンドウのボタン
[] - []	「 - 」の前に示したメニューの中にあるコマンド
+	複数のキーを同時に押すこと（例：Shift+Enter キー）

また，メニューやウィンドウの説明で使用している，(A) などの括弧で囲んだ英数字は，ショートカットキーを示します。

図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。



KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

ウィンドウの説明箇所

SCMRF CD for Windows で表示されるウィンドウの説明箇所を次に示します。

ウィンドウ名	図番号
ACOD 経路生成結果表示ウィンドウ	図 4-129
ACOD 経路生成結果表示ダイアログ	図 4-128

ウィンドウ名	図番号
ACOD 経路定義ウィンドウ (1 段接続)	図 4-28
ACOD 経路定義ウィンドウ (多段接続)	図 4-29
ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ	図 4-57
ACOD 定義ウィンドウ	図 4-26
ACOD 搬入プロセッサ確認ダイアログ	図 4-127
ACOD 名称指定ダイアログ	図 4-126
ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログ	図 4-31
CNC/FC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログ CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログと同じ	-
CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログ	図 4-30
EXPATH 定義ウィンドウ	図 4-38
I/O グループへの変更ダイアログ	図 4-10
LPAR 共通の構成定義ダイアログ	図 4-34
LPAR 構成定義ウィンドウ (制御システムが PRMA E2 の場合)	図 4-32
LPAR 構成定義ウィンドウ (制御システムが PRMA E3 の場合)	図 4-33
LPAR への共用チャネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウ (LPAR 基準)	図 4-43
LPAR への共用チャネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウ (入出力装置基準)	図 4-42
LPAR へのチャネル割り当て定義ウィンドウ (LPAR 基準)	図 4-37
LPAR へのチャネル割り当て定義ウィンドウ (チャネル基準)	図 4-36
PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウ	図 4-56
エラー情報詳細表示ウィンドウ (PRMF を使用する物理プロセッサのエラーを表示する場合)	図 4-51
エラー情報詳細表示ウィンドウ (VOS3 のプロセッサのエラーを表示する場合)	図 4-50
エラー情報表示ダイアログ (PRMF を使用する物理プロセッサのエラーを表示する場合)	図 4-49
エラー情報表示ダイアログ (VOS3 のプロセッサのエラーを表示する場合)	図 4-48
エラーの内容ダイアログ	図 4-47
オプションダイアログ (構成定義データ比較オプション)	図 4-69
オプションダイアログ (ゼネレーションパラメタ生成オプション)	図 4-67
オプションダイアログ (入出力制御装置定義オプション)	図 4-64
オプションダイアログ (入出力装置定義オプション)	図 4-65
オプションダイアログ (搬入オプション)	図 4-66
オプションダイアログ (ファイル転送オプション)	図 4-68
オプションダイアログ (編集オプション)	図 4-70
ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (チャネルの定義)	図 4-44

ウィンドウ名	図番号
ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (入出力制御装置の定義)	図 4-45
ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (入出力装置の定義)	図 4-46
ゲスト OS 入出力装置定義の修正ダイアログ	図 4-41
ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウ	図 4-125
ゲスト OS への変更ダイアログ	図 4-8
ゲスト OS への変更チェックダイアログ	図 4-55
ゲスト OS ライブラリ装置記号名の定義ダイアログ	図 4-14
検索ダイアログ	図 3-8
構成定義データチェック結果表示ウィンドウ (ACOD 構成定義データ)	図 4-54
構成定義データチェック結果表示ウィンドウ (入出力構成定義データ)	図 4-53
構成定義データチェックダイアログ	図 4-52
構成定義データ比較確認ダイアログ (比較 ACOD が「全 ACOD」の場合)	図 4-60
構成定義データ比較確認ダイアログ (比較 ACOD が「任意の ACOD」の場合)	図 4-61
構成定義データの比較ダイアログ	図 4-58
構成定義表示 (ACOD) ウィンドウ	図 4-98
構成定義表示 (LPAR 構成) ウィンドウ	図 4-100
構成定義表示 (システム構成詳細) ウィンドウ	図 4-88
構成定義表示 (システム構成詳細) ウィンドウ (ACOD 構成表示)	図 4-89
構成定義表示 (システム構成) ウィンドウ	図 4-87
構成定義表示 (装置グループ) ウィンドウ	図 4-96
構成定義表示 (装置タイプ) ウィンドウ	図 4-97
構成定義表示 (チャネル) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)	図 4-91
構成定義表示 (チャネル) ウィンドウ (入出力構成定義データ)	図 4-90
構成定義表示 (ディレクタ) ウィンドウ	図 4-140
構成定義表示 (入出力制御装置) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)	図 4-93
構成定義表示 (入出力制御装置) ウィンドウ (入出力構成定義データ)	図 4-92
構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)	図 4-95
構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウ (入出力構成定義データ)	図 4-94
構成定義表示 (ポート) ウィンドウ	図 4-99
構成定義表示ダイアログ (ACOD を表示する場合)	図 4-85
構成定義表示ダイアログ (LPAR 構成を表示する場合)	図 4-86
構成定義表示ダイアログ (システム構成を表示する場合)	図 4-83
構成定義表示ダイアログ (入出力機器別の構成を表示する場合)	図 4-84

ウィンドウ名	図番号
コメント表示 (チャンネル) ウィンドウ	図 4-107
コメント表示 (入出力制御装置) ウィンドウ	図 4-108
コメント表示 (入出力装置) ウィンドウ	図 4-109
コメント表示 (入出力装置) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)	図 4-110
コメント表示ダイアログ	図 4-106
システム構成オプションの設定ダイアログ	図 4-11
システム構成の設定ウィンドウ	図 4-6
システム構成の設定ウィンドウ (512 チャンネル拡張機能を使用する場合)	図 4-9
システム構成の設定ウィンドウ (PRMF を使用する場合)	図 4-7
初期ウィンドウ	図 4-2
新規登録 / 削除ダイアログ	図 4-135
ズームダイアログ	図 3-7
ストレージ計算結果表示 (V=R ニュークリアス領域 - 入出力構成情報部分) ウィンドウ	図 4-114
ストレージ計算ダイアログ	図 4-111
接続定義ウィンドウ (チャンネル基準)	図 4-23
接続定義ウィンドウ (入出力制御装置基準)	図 4-24
接続定義ウィンドウ (入出力装置基準)	図 4-25
ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウ	図 4-115
装置記号名の確認ダイアログ	図 4-16
装置グループ定義ウィンドウ (装置グループ基準)	図 4-18
装置グループ定義ウィンドウ (入出力装置基準)	図 4-19
装置タイプ定義ウィンドウ	図 4-20
装置タイプの確認ダイアログ	図 4-17
装置タイプの挿入ダイアログ	図 4-22
装置割り当て順序定義ウィンドウ	図 4-21
チャンネル定義 (PRMF) ウィンドウ	図 4-35
チャンネル定義ウィンドウ	図 4-12
追加データの登録ダイアログ	図 4-116
追加データ編集ダイアログ	図 4-117
ディレクタ経路定義ウィンドウ ACOD 経路定義ウィンドウと同じ	-
ディレクタ経路不整合エラー情報表示ウィンドウ ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウと同じ	-
ディレクタ定義ウィンドウ	図 4-138

ウィンドウ名	図番号
ディレクトリ名称指定ダイアログ ACOD 名称指定ダイアログと同じ	-
転送ファイル内容一覧表示ダイアログ	図 4-121
転送ファイル名入力ダイアログ	図 4-122
入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウ	図 4-39
入出力制御装置定義ウィンドウ	図 4-13
入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウ	図 4-40
入出力装置定義ウィンドウ	図 4-15
任意のラベル名称定義ダイアログ (CONTRLR を選択した場合)	図 4-102
任意のラベル名称定義ダイアログ (SCHEDULR を選択した場合)	図 4-103
パスワードの変更ダイアログ	図 4-136
搬出ウィンドウ	図 4-130
搬出実行ダイアログ	図 4-131
搬出実行ダイアログ (512 チャンネル構成定義データの場合)	図 4-132
搬入ウィンドウ	図 4-118
搬入実行ダイアログ (ACOD 構成定義データ)	図 4-120
搬入実行ダイアログ (入出力構成定義データ, PRMF 構成定義データ)	図 4-119
比較 ACOD 選択ダイアログ	図 4-59
ファイル転送ダイアログ	図 4-133
不一致データ一覧表示 (ACOD) ダイアログ	図 4-124
不一致データ一覧表示 (システム構成) ダイアログ	図 4-123
フィルタ条件の指定ダイアログ	図 3-6
分類 V の説明ダイアログ	図 4-113
分類の説明ダイアログ	図 4-112
ベースシステム情報表示ダイアログ	図 4-82
変更記録のクリアダイアログ	図 4-71
変更記録表示 (EXPATH) ウィンドウ	図 4-81
変更記録表示 (LPAR 構成) ウィンドウ	図 4-80
変更記録表示 (接続) ウィンドウ	図 4-78
変更記録表示 (装置グループ) ウィンドウ	図 4-76
変更記録表示 (装置割り当て順序) ウィンドウ	図 4-77
変更記録表示 (チャンネル) ウィンドウ	図 4-73
変更記録表示 (入出力制御装置) ウィンドウ	図 4-74

ウィンドウ名	図番号
変更記録表示（入出力装置）ウィンドウ	図 4-75
変更記録表示（ポート）ウィンドウ	図 4-79
変更記録表示ダイアログ	図 4-72
ポートアドレス使用状況ウィンドウ	図 4-63
ポートアドレス使用状況ダイアログ	図 4-62
ポートアドレスの変更ダイアログ（ACOD）	図 4-27
ポートアドレスの変更ダイアログ（ディレクタ）	図 4-139
メインウィンドウ（構成定義）	図 4-4
メインウィンドウ（ユティリティ）	図 4-5
ユーザ権限の設定ダイアログ	図 4-137
ユーザ登録ダイアログ	図 4-134
ラベル名称確認ダイアログ	図 4-104
ラベル名称定義ウィンドウ	図 4-101
ラベル名称表示ウィンドウ	図 4-105
ログオンダイアログ	図 4-3

目次

1	SCMRF CD for Windows とは	1
1.1	SCMRF CD for Windows の特長	2
1.1.1	ホストの入出力機器の構成を表形式で定義できます	2
1.1.2	入力時にエラーチェックされるので定義ミスを防止できます	3
1.1.3	定義データの管理が容易です	3
1.1.4	既存の SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文を流用できます	3
1.1.5	構成定義データからゼネレーションパラメタを生成してホストへ転送できます	4
1.2	ホストプログラムとの関係	5
1.3	SCMRF CD for Windows の構成	7
1.3.1	必要なプログラムプロダクト	7
1.3.2	SCMRF CD for Windows の構成要素	7
1.4	SCMRF CD for Windows の機能	9
1.4.1	構成定義機能	9
1.4.2	構成定義支援機能	12
1.4.3	定義データの管理機能	12
1.4.4	機器管理支援機能	14
1.4.5	ゼネレーションパラメタ生成機能	14
1.4.6	追加データ登録機能	15
1.4.7	操作支援機能	15
1.4.8	搬入・搬出機能	15
1.4.9	ファイル転送機能	16
1.4.10	ユティリティ機能	16
2	SCMRF CD for Windows の機能	19
2.1	構成定義機能	20
2.1.1	定義方法	21
2.1.2	入出力機器の管理名称	25
2.1.3	ACONARC 制御機能対象範囲の登録機能	27
2.1.4	CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録機能	28
2.1.5	VOS3 の入出力構成・ACOD 構成の定義順序	32
2.1.6	PRMF を使用する場合の定義順序	33
2.1.7	512 チャネル構成の定義	34

2.1.8	エラーのチェック・表示機能	35
2.1.9	構成定義データの比較	38
2.1.10	FBD の定義	39
2.2	構成定義支援機能	42
2.2.1	ポートアドレス変更機能	42
2.2.2	ポートアドレスの使用状況表示機能	43
2.2.3	オプション機能	44
2.2.4	ベーシックモードのプロセサの定義データのゲスト OS への流用	46
2.2.5	256 チャンネル構成の物理プロセサの I/O グループへの流用	47
2.2.6	ストレージ計算機能	47
2.3	定義データの管理機能	49
2.3.1	データの管理情報	49
2.3.2	変更記録機能	52
2.3.3	ベースシステム情報の記録機能	54
2.4	機器管理支援機能	56
2.4.1	コメント機能	56
2.4.2	機器構成表示機能	57
2.4.3	ラベル名称定義機能	58
2.5	ゼネレーションパラメタ生成機能	59
2.6	追加データ登録機能	63
2.7	操作支援機能	64
2.7.1	編集支援機能	64
2.8	搬入・搬出機能	66
2.8.1	データベースと転送ファイルの関係	66
2.8.2	搬入機能	67
2.8.3	搬出機能	77
2.9	ファイル転送機能	79
2.10	ユティリティ機能	83
2.10.1	ユーザの管理	83
2.10.2	データベースの管理	83
2.10.3	データベースの変換	84
3	SCMRF CD for Windows を使用する前に	85
3.1	作業手順	86
3.1.1	新規導入時の作業手順	86
3.1.2	バージョンアップ時の作業手順	87

3.2	ウィンドウの体系	88
3.2.1	構成定義	88
3.2.2	ユティリティ	90
3.3	ウィンドウの共通操作	91
3.3.1	構成定義ウィンドウの構成	91
3.3.2	ヘッダの操作	91
3.3.3	定義シートの操作	94
3.3.4	文字列の操作	102
3.3.5	印刷プレビューの形式のウィンドウの操作	104
3.3.6	他アプリケーションとのデータ交換	104
3.3.7	ショートカットキー一覧	105
4	SCMRF CD for Windows の使用方法	109
4.1	起動・終了	111
4.1.1	構成定義の起動・終了	111
4.1.2	ユティリティの起動・終了	115
4.2	システム構成の設定	118
4.2.1	システム構成の設定方法	118
4.2.2	PRMF を使用する場合のシステム構成の設定方法	122
4.2.3	512 チャンネル拡張機能を使用する場合のシステム構成の設定方法	128
4.2.4	システム構成オプションの設定方法	135
4.3	入出力構成の定義	138
4.3.1	チャンネルの定義	138
4.3.2	入出力制御装置の定義	139
4.3.3	入出力装置の定義	143
4.3.4	装置グループの定義	148
4.3.5	装置タイプの定義	153
4.3.6	装置割り当て順序の定義	155
4.3.7	接続の定義	158
4.4	ACOD 構成の定義	167
4.4.1	ACOD 名称の定義	167
4.4.2	ACOD 経路の定義	170
4.4.3	CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録	176
4.4.4	ACONARC 制御機能の制御対象にする入出力制御装置の登録	178
4.5	PRMF 構成の定義	182
4.5.1	LPAR 構成の定義	182

4.5.2	PRMF 構成のチャンネルの定義	189
4.5.3	LPAR に割り当てるチャンネルの定義	191
4.5.4	EXPATH の定義	196
4.5.5	PRMF 構成の入出力制御装置の定義	199
4.5.6	PRMF 構成の入出力装置の定義	201
4.5.7	LPAR で使用できる入出力装置の割り当ての定義	204
4.5.8	ゲスト OS の定義状態の確認	208
4.6	構成定義エラーの確認	211
4.6.1	構成定義ウィンドウでのエラーメッセージの表示	211
4.6.2	エラー情報の表示	211
4.6.3	エラーチェックの実行	215
4.7	構成定義データの比較	223
4.7.1	比較するデータの指定	223
4.7.2	比較する ACOD の指定	227
4.7.3	比較するデータの確認と比較の実行	228
4.8	ポートアドレスの使用状況の表示	231
4.9	オプションの設定	233
4.10	変更記録の表示	242
4.10.1	変更記録の採取とクリア	242
4.10.2	変更記録の表示操作	243
4.10.3	変更記録の表示形式	246
4.11	ベースシステムの確認	252
4.11.1	ベースシステム情報の表示	252
4.11.2	ベースシステムの切り替え	253
4.12	機器構成の表示	254
4.12.1	機器構成の表示操作	254
4.12.2	機器構成の表示形式	259
4.13	ラベル名称の定義・確認	272
4.13.1	ラベル名称の定義	272
4.13.2	ラベル名称の確認	277
4.13.3	ラベル名称をコメントにコピーする	279
4.14	コメントの表示	280
4.14.1	コメントの表示操作	280
4.14.2	コメントの表示形式	281
4.15	表示情報の出力方法	284
4.15.1	印刷	284
4.15.2	Excel への貼り付け	284

4.15.3	CSV 形式・DAT 形式のファイルへの出力	284
4.16	ストレージ計算	285
4.16.1	ストレージ計算の指定	285
4.17	ゼネレーションパラメタの生成	292
4.17.1	ゼネレーションパラメタ生成の指定	292
4.18	追加データの登録	297
4.18.1	追加データ一覧の指定	297
4.18.2	追加データの編集	298
4.19	搬入	301
4.19.1	搬入の指定	301
4.19.2	転送ファイル内容一覧の表示	305
4.19.3	搬入時に表示されるウィンドウ	307
4.20	搬出	317
4.20.1	搬出の指定	317
4.21	ファイル転送	323
4.21.1	ファイル転送の指定	323
4.22	ユティリティの操作	326
4.22.1	ユーザの登録	326
4.22.2	データベースの操作	328
4.23	FBD の定義	331
4.23.1	ディレクタ名称の定義	331
4.23.2	ディレクタ構成の表示	335
5	使用例	337
5.1	構成定義例	338
5.1.1	前提構成	338
5.1.2	ウィンドウの定義例	345
5.1.3	サンプルデータ	355
5.2	PRMF を使用する場合の構成定義例	356
5.2.1	PRMF を使用する場合の前提構成	356
5.2.2	PRMF を使用する場合のウィンドウの定義例	371
5.2.3	PRMF を使用する場合のサンプルデータ	388
5.3	多段接続の ACOD 経路の変更例	389
5.3.1	チャンネルから入出力制御装置までの ACOD 経路を削除する例	389
5.3.2	多段接続から 1 段接続に変更する例 (2 段目の ACOD 経路を残す)	390
5.3.3	多段接続から 1 段接続に変更する例 (1 段目の ACOD 経路を残す)	392

5.4	操作支援機能を用いた操作例	393
5.4.1	連携レコードのコピーおよび貼り付け操作例	393
5.4.2	複数コメント行のコピーおよび貼り付け操作例	408

6

SCMRF CD for Windows の導入		411
6.1	動作環境	412
6.1.1	ハードウェア環境	412
6.1.2	ソフトウェア環境	412
6.1.3	ディスク占有量	413
6.2	セットアップ方法	414
6.2.1	セットアップの手順	414
6.2.2	セットアップ時の注意事項	415
6.2.3	SCMRF CD for Windows の削除手順	415
6.2.4	SCMRF CD for Windows 削除時の注意事項	416

7

表示される情報の見方		417
7.1	SYSGEN マクロの出力情報	418
7.2	PRMF システム構成定義文の出力情報	422
7.3	ACOD 外部構成定義コマンドの出力情報	434
7.4	ACOD 内部構成定義コマンドの出力情報	435
7.5	比較結果の出力情報	436
7.5.1	入出力構成定義の比較結果の表示形式	436
7.5.2	PRMF 構成定義の比較結果の表示形式	442
7.5.3	ACOD 外部構成定義の比較結果の表示形式	452
7.5.4	ACOD 内部構成定義の比較結果の表示形式	455
7.6	変更記録を付けた比較結果の出力情報	458
7.6.1	CHANNEL マクロの出力情報	458
7.6.2	LPAR 情報	458

8

障害対策		461
8.1	障害の種類と対処方法	462
8.2	ファイルのバックアップ	463

付録

付録 A	SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文との関係	465
付録 A.1	SCMRF CD for Windows での SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文の扱い	466
付録 A.2	SCCP・AOMPLUS・PRMA E2 (HLUSCCP)・PRMA E3 (HLUSCCP) と SCMRF CD for Windows の相違点	471
付録 B	ファイル転送	474
付録 B.1	ファイル転送アプリケーションプログラムを使用したファイル転送	474
付録 B.2	搬入および搬出に伴うファイル転送時の注意事項	476
付録 C	SCMRF CD for Windows の初期化ファイル	477
付録 D	Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows からの移行	478
付録 E	メッセージ	479
付録 E.1	メッセージの表示形式	479
付録 E.2	メッセージの記述形式	480
付録 E.3	メッセージの説明	480
付録 F	互換性	608
付録 F.1	SCMRF/CD の「SYSGEN マクロ・PRMF 構成定義文生成機能 (PARMGEN 文)」との相違点	608
付録 F.2	SCMRF/CD の「構成定義データ比較機能 (COMPARE 文)」との相違点	609
付録 G	構成定義データの比較範囲	611
付録 G.1	SCMRF CD for Windows の「構成定義データ比較機能」の比較範囲	611
付録 G.2	PRMF 構成定義データ	612
付録 G.3	ACOD 構成定義データ	613
付録 G.4	シンタクスレベルで表示 / 非表示が切り替わるオペランドの比較	614
付録 G.5	構成定義データ内にエラーがある場合の比較	614
付録 H	SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係	615
付録 H.1	SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値の扱い	615
付録 H.2	SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との相違点	617
付録 I	各バージョンの変更内容	619
付録 J	用語解説	620

索引

629

図目次

図 1-1	SCMRF CD for Windows の特長	2
図 1-2	SCMRF CD for Windows の役割と位置づけ	6
図 1-3	SCMRF CD for Windows の構成	7
図 1-4	定義対象の構成	10
図 1-5	データベースの構成	12
図 1-6	変更記録の例	13
図 1-7	搬入・搬出機能	16
図 2-1	入出力構成・ACOD 構成とウィンドウの関係	21
図 2-2	入出力構成・ACOD 構成・PRMF 構成とウィンドウの関係	23
図 2-3	LPAR 間で入出力制御装置を共用する場合の IOC 名称の付け方	26
図 2-4	ACONARC 制御機能対象範囲の指定	27
図 2-5	CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録	29
図 2-6	CNC-CTC 接続用入出力制御装置の IOC 名称の付け方	30
図 2-7	AMIF を使用する場合の CNC-CTC 接続用入出力制御装置の IOC 名称の付け方	31
図 2-8	入出力構成と ACOD 構成を定義するときの順序	32
図 2-9	PRMF を使用する場合の定義順序	33
図 2-10	512 チャンネル構成の概要	34
図 2-11	構成定義データの比較機能の概要	38
図 2-12	FBD を含めた入出力構成管理	39
図 2-13	ポートアドレスの変更例	43
図 2-14	ポートアドレスの使用状況表示機能	44
図 2-15	入出力装置定義オプションの例	45
図 2-16	入出力構成のゲスト OS への流用	46
図 2-17	物理プロセッサの I/O グループへの変更	47
図 2-18	ストレージ計算機能の概要	48
図 2-19	自動計算対象とするニュークリアス領域	48
図 2-20	コメント機能の使用例	56
図 2-21	ゼネレーションパラメタ生成機能の概要	59
図 2-22	追加データ登録機能の概要	63
図 2-23	連携レコードのコピーおよび貼り付け	64
図 2-24	連携レコードのコピーおよび貼り付けとしない場合	65
図 2-25	複数コメント行のコピーおよび貼り付け	65
図 2-26	データベースと転送ファイルの関係	67

図 2-27	搬入の概要	68
図 2-28	搬入手順	76
図 2-29	搬出手順	78
図 2-30	ファイル転送の処理概要	79
図 2-31	搬入と同期したファイル転送の処理概要	80
図 2-32	搬出と同期したファイル転送の処理概要	81
図 2-33	ゼネレーションパラメタ生成と同期したファイル転送の処理概要	82
図 2-34	データベースの最適化	84
図 3-1	構成定義のウィンドウ体系 (1 / 2)	88
図 3-2	構成定義のウィンドウ体系 (2 / 2)	89
図 3-3	ユティリティのウィンドウ体系	90
図 3-4	構成定義ウィンドウの構成	91
図 3-5	定義シートの構成	94
図 3-6	フィルタ条件の指定ダイアログ	99
図 3-7	ズームダイアログ	102
図 3-8	検索ダイアログ	103
図 3-9	ページ移動ボタン	104
図 4-1	構成定義の起動方法	111
図 4-2	初期ウィンドウ	112
図 4-3	ログオンダイアログ	112
図 4-4	メインウィンドウ (構成定義)	113
図 4-5	メインウィンドウ (ユティリティ)	116
図 4-6	システム構成の設定ウィンドウ	118
図 4-7	システム構成の設定ウィンドウ (PRMF を使用する場合)	122
図 4-8	ゲスト OS への変更ダイアログ	127
図 4-9	システム構成の設定ウィンドウ (512 チャンネル拡張機能を使用する場合)	129
図 4-10	I/O グループへの変更ダイアログ	134
図 4-11	システム構成オプションの設定ダイアログ	136
図 4-12	チャンネル定義ウィンドウ	138
図 4-13	入出力制御装置定義ウィンドウ	140
図 4-14	ゲスト OS ライブラリ装置記号名の定義ダイアログ	142
図 4-15	入出力装置定義ウィンドウ	143
図 4-16	装置記号名の確認ダイアログ	146
図 4-17	装置タイプの確認ダイアログ	147
図 4-18	装置グループ定義ウィンドウ (装置グループ基準)	149

図 4-19	装置グループ定義ウィンドウ (入出力装置基準)	151
図 4-20	装置タイプ定義ウィンドウ	154
図 4-21	装置割り当て順序定義ウィンドウ	156
図 4-22	装置タイプの挿入ダイアログ	157
図 4-23	接続定義ウィンドウ (チャンネル基準)	159
図 4-24	接続定義ウィンドウ (入出力制御装置基準)	161
図 4-25	接続定義ウィンドウ (入出力装置基準)	163
図 4-26	ACOD 定義ウィンドウ	167
図 4-27	ポートアドレスの変更ダイアログ (ACOD)	169
図 4-28	ACOD 経路定義ウィンドウ (1 段接続)	171
図 4-29	ACOD 経路定義ウィンドウ (多段接続)	173
図 4-30	CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログ	177
図 4-31	ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログ	179
図 4-32	LPAR 構成定義ウィンドウ (制御システムが PRMA E2 の場合)	182
図 4-33	LPAR 構成定義ウィンドウ (制御システムが PRMA E3 の場合)	183
図 4-34	LPAR 共通の構成定義ダイアログ	187
図 4-35	チャンネル定義 (PRMF) ウィンドウ	190
図 4-36	LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウ (チャンネル基準)	192
図 4-37	LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウ (LPAR 基準)	194
図 4-38	EXPATH 定義ウィンドウ	197
図 4-39	入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウ	199
図 4-40	入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウ	201
図 4-41	ゲスト OS 入出力装置定義の修正ダイアログ	203
図 4-42	LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウ (入出力装置基準)	205
図 4-43	LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウ (LPAR 基準)	206
図 4-44	ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (チャンネルの定義)	209
図 4-45	ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (入出力制御装置の定義)	209
図 4-46	ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (入出力装置の定義)	210
図 4-47	エラーの内容ダイアログ	211
図 4-48	エラー情報表示ダイアログ (VOS3 のプロセサのエラーを表示する場合)	212
図 4-49	エラー情報表示ダイアログ (PRMF を使用する物理プロセサのエラーを表示する 場合)	213
図 4-50	エラー情報詳細表示ウィンドウ (VOS3 のプロセサのエラーを表示する場合)	214
図 4-51	エラー情報詳細表示ウィンドウ (PRMF を使用する物理プロセサのエラーを表示する 場合)	214

図 4-52	構成定義データチェックダイアログ	216
図 4-53	構成定義データチェック結果表示ウィンドウ (入出力構成定義データ)	218
図 4-54	構成定義データチェック結果表示ウィンドウ (ACOD 構成定義データ)	219
図 4-55	ゲスト OS への変更チェックダイアログ	220
図 4-56	PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウ	221
図 4-57	ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ	222
図 4-58	構成定義データの比較ダイアログ	224
図 4-59	比較 ACOD 選択ダイアログ	227
図 4-60	構成定義データ比較確認ダイアログ (比較 ACOD が「全 ACOD」の場合)	228
図 4-61	構成定義データ比較確認ダイアログ (比較 ACOD が「任意の ACOD」の場合)	229
図 4-62	ポートアドレス使用状況ダイアログ	231
図 4-63	ポートアドレス使用状況ウィンドウ	231
図 4-64	オプションダイアログ (入出力制御装置定義オプション)	233
図 4-65	オプションダイアログ (入出力装置定義オプション)	234
図 4-66	オプションダイアログ (搬入オプション)	235
図 4-67	オプションダイアログ (ゼネレーションパラメタ生成オプション)	236
図 4-68	オプションダイアログ (ファイル転送オプション)	237
図 4-69	オプションダイアログ (構成定義データ比較オプション)	239
図 4-70	オプションダイアログ (編集オプション)	240
図 4-71	変更記録のクリアダイアログ	242
図 4-72	変更記録表示ダイアログ	244
図 4-73	変更記録表示 (チャンネル) ウィンドウ	247
図 4-74	変更記録表示 (入出力制御装置) ウィンドウ	247
図 4-75	変更記録表示 (入出力装置) ウィンドウ	248
図 4-76	変更記録表示 (装置グループ) ウィンドウ	248
図 4-77	変更記録表示 (装置割り当て順序) ウィンドウ	249
図 4-78	変更記録表示 (接続) ウィンドウ	249
図 4-79	変更記録表示 (ポート) ウィンドウ	250
図 4-80	変更記録表示 (LPAR 構成) ウィンドウ	250
図 4-81	変更記録表示 (EXPATH) ウィンドウ	251
図 4-82	ベースシステム情報表示ダイアログ	252
図 4-83	構成定義表示ダイアログ (システム構成を表示する場合)	254
図 4-84	構成定義表示ダイアログ (入出力機器別の構成を表示する場合)	255
図 4-85	構成定義表示ダイアログ (ACOD を表示する場合)	257
図 4-86	構成定義表示ダイアログ (LPAR 構成を表示する場合)	258

図 4-87	構成定義表示 (システム構成) ウィンドウ	259
図 4-88	構成定義表示 (システム構成詳細) ウィンドウ	260
図 4-89	構成定義表示 (システム構成詳細) ウィンドウ (ACOD 構成表示)	260
図 4-90	構成定義表示 (チャンネル) ウィンドウ (入出力構成定義データ)	261
図 4-91	構成定義表示 (チャンネル) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)	262
図 4-92	構成定義表示 (入出力制御装置) ウィンドウ (入出力構成定義データ)	263
図 4-93	構成定義表示 (入出力制御装置) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)	264
図 4-94	構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウ (入出力構成定義データ)	265
図 4-95	構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)	266
図 4-96	構成定義表示 (装置グループ) ウィンドウ	267
図 4-97	構成定義表示 (装置タイプ) ウィンドウ	267
図 4-98	構成定義表示 (ACOD) ウィンドウ	268
図 4-99	構成定義表示 (ポート) ウィンドウ	269
図 4-100	構成定義表示 (LPAR 構成) ウィンドウ	270
図 4-101	ラベル名称定義ウィンドウ	272
図 4-102	任意のラベル名称定義ダイアログ (CONTRLR を選択した場合)	275
図 4-103	任意のラベル名称定義ダイアログ (SCHEDULR を選択した場合)	276
図 4-104	ラベル名称確認ダイアログ	277
図 4-105	ラベル名称表示ウィンドウ	278
図 4-106	コメント表示ダイアログ	280
図 4-107	コメント表示 (チャンネル) ウィンドウ	281
図 4-108	コメント表示 (入出力制御装置) ウィンドウ	282
図 4-109	コメント表示 (入出力装置) ウィンドウ	282
図 4-110	コメント表示 (入出力装置) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)	283
図 4-111	ストレージ計算ダイアログ	285
図 4-112	分類の説明ダイアログ	287
図 4-113	分類 V の説明ダイアログ	289
図 4-114	ストレージ計算結果表示 (V=R ニュークリアス領域 - 入出力構成情報部分) ウィンドウ	290
図 4-115	ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウ	292
図 4-116	追加データの登録ダイアログ	297
図 4-117	追加データ編集ダイアログ	299
図 4-118	搬入ウィンドウ	301
図 4-119	搬入実行ダイアログ (入出力構成定義データ, PRMF 構成定義データ)	303
図 4-120	搬入実行ダイアログ (ACOD 構成定義データ)	304
図 4-121	転送ファイル内容一覧表示ダイアログ	306

図 4-122	転送ファイル名入力ダイアログ	307
図 4-123	不一致データ一覧表示 (システム構成) ダイアログ	308
図 4-124	不一致データ一覧表示 (ACOD) ダイアログ	309
図 4-125	ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウ	310
図 4-126	ACOD 名称指定ダイアログ	311
図 4-127	ACOD 搬入プロセサ確認ダイアログ	312
図 4-128	ACOD 経路生成結果表示ダイアログ	314
図 4-129	ACOD 経路生成結果表示ウィンドウ	315
図 4-130	搬出ウィンドウ	318
図 4-131	搬出実行ダイアログ	320
図 4-132	搬出実行ダイアログ (512 チャンネル構成定義データの場合)	321
図 4-133	ファイル転送ダイアログ	323
図 4-134	ユーザ登録ダイアログ	326
図 4-135	新規登録 / 削除ダイアログ	327
図 4-136	パスワードの変更ダイアログ	327
図 4-137	ユーザ権限の設定ダイアログ	328
図 4-138	ディレクタ定義ウィンドウ	332
図 4-139	ポートアドレスの変更ダイアログ (ディレクタ)	334
図 4-140	構成定義表示 (ディレクタ) ウィンドウ	335
図 5-1	システム構成例	338
図 5-2	構成図の記述形式	339
図 5-3	プロセサ A の構成 (1 / 6)	340
図 5-4	プロセサ A の構成 (2 / 6)	341
図 5-5	プロセサ A の構成 (3 / 6)	342
図 5-6	プロセサ A の構成 (4 / 6)	343
図 5-7	プロセサ A の構成 (5 / 6)	344
図 5-8	プロセサ A の構成 (6 / 6)	345
図 5-9	システム構成の設定ウィンドウの設定例	346
図 5-10	チャンネル定義ウィンドウの定義例	347
図 5-11	入出力制御装置定義ウィンドウの定義例	348
図 5-12	入出力装置定義ウィンドウの定義例	348
図 5-13	装置グループ定義ウィンドウの定義例	349
図 5-14	装置タイプ定義ウィンドウの定義例	350
図 5-15	装置割り当て順序定義ウィンドウの定義例	351
図 5-16	接続定義ウィンドウの定義例	352

図 5-17 ACOD 定義ウィンドウの定義例	352
図 5-18 ACOD 経路定義ウィンドウの定義例	353
図 5-19 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログの定義例	354
図 5-20 ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログの定義例	355
図 5-21 PRMF を使用する場合のシステム構成例	356
図 5-22 構成図の記述形式 (PRMF を使用する場合)	357
図 5-23 物理プロセサ PRMF1 の構成 (1 / 7)	358
図 5-24 物理プロセサ PRMF1 の構成 (2 / 7)	359
図 5-25 物理プロセサ PRMF1 の構成 (3 / 7)	360
図 5-26 物理プロセサ PRMF1 の構成 (4 / 7)	361
図 5-27 物理プロセサ PRMF1 の構成 (5 / 7)	362
図 5-28 物理プロセサ PRMF1 の構成 (6 / 7)	363
図 5-29 物理プロセサ PRMF1 の構成 (7 / 7)	364
図 5-30 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (1 / 7)	365
図 5-31 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (2 / 7)	366
図 5-32 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (3 / 7)	367
図 5-33 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (4 / 7)	368
図 5-34 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (5 / 7)	369
図 5-35 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (6 / 7)	370
図 5-36 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (7 / 7)	371
図 5-37 システム構成の設定ウィンドウの設定例 (PRMF を使用する場合)	372
図 5-38 LPAR 構成定義ウィンドウの定義例	372
図 5-39 LPAR 共通の構成定義ダイアログの定義例	373
図 5-40 チャンネル定義 (PRMF) ウィンドウの定義例	374
図 5-41 LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウの定義例	375
図 5-42 EXPATH 定義ウィンドウの定義例	376
図 5-43 チャンネル定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)	377
図 5-44 入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウの定義例	378
図 5-45 入出力制御装置定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)	379
図 5-46 入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウの定義例	380
図 5-47 LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウの定義例	380
図 5-48 入出力装置定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)	381
図 5-49 装置グループ定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)	382
図 5-50 装置タイプ定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)	383
図 5-51 装置割り当て順序定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)	384

図 5-52	接続定義ウィンドウの定義例 (PRMF を使用する場合)	385
図 5-53	ACOD 定義ウィンドウの定義例 (PRMF を使用する場合)	385
図 5-54	ACOD 経路定義ウィンドウの定義例 (PRMF を使用する場合)	386
図 5-55	CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログの定義例 (PRMF を使用する場合)	387
図 5-56	ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログの定義例 (PRMF を使用する場合)	388
図 5-57	削除する ACOD 経路の例	389
図 5-58	変更する ACOD 経路の例 (2 段目の ACOD 経路を残す)	391
図 5-59	変更する ACOD 経路の例 (1 段目の ACOD 経路を残す)	392
図 5-60	入出力制御装置操作の構成図	393
図 5-61	接続定義操作の構成図	395
図 5-62	接続定義 (入出力装置基準時) 操作の構成図	396
図 5-63	装置グループ定義 (装置グループ基準時) 操作の構成図	398
図 5-64	装置グループ定義 (入出力装置基準時) 操作の構成図	400
図 5-65	形式を選択した貼り付けの操作例	407
図 E-1	メッセージボックス	479

表目次

表 1-1	SCMRF CD for Windows で指定値を定義できる SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義 コマンド・PRMF システム構成定義文	10
表 1-2	システム構成の設定	12
表 2-1	定義できる構成の組み合わせ	20
表 2-2	VOS3 の入出力構成・ACOD 構成の定義方法	22
表 2-3	PRMF を使用する場合の定義方法	24
表 2-4	SCMRF CD for Windows でチェックしない内容	35
表 2-5	ディレクタ定義オプションの指定値と表示される定義ウィンドウの関係	40
表 2-6	FBD と ACOD で名称が異なる定義ウィンドウ	40
表 2-7	ディレクタ定義オプションの指定値とウィンドウ内の表示項目の対応	41
表 2-8	データの管理情報	49
表 2-9	変更記録として採取される内容	52
表 2-10	ベースシステム情報	54
表 2-11	コメントを付けられる項目	56
表 2-12	機器構成表示機能で表示できる情報	57
表 2-13	ラベル名称を定義できる SYSGEN マクロおよび PRMF システム構成定義文	58
表 2-14	生成の対象となる SYSGEN マクロ	60
表 2-15	生成の対象となる PRMF システム構成定義文	60
表 2-16	生成の対象となる ACOD 外部構成定義コマンド	61
表 2-17	生成の対象となる ACOD 内部構成定義コマンド	62
表 2-18	入出力構成定義初期データおよび PRMF 構成定義初期データ搬入時のチェック内容	70
表 2-19	入出力構成定義初期データ（ゲスト OS）の搬入時のチェック内容	71
表 2-20	ACOD 構成定義初期データの搬入時のチェック内容	72
表 2-21	入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データの搬入時のチェック内容	73
表 2-22	入出力構成定義データ（ゲスト OS）の搬入時のチェック内容	74
表 2-23	ユーザ権限の種類	83
表 3-1	新規に導入したときの作業手順	86
表 3-2	バージョンアップしたときの作業手順	87
表 3-3	PRMF を使用する場合のプロセサ名称の表示形式	92
表 3-4	メインウィンドウで選択したプロセサと構成定義ウィンドウに表示される定義データの 関係	92
表 3-5	キーとなるフィールド	95
表 3-6	接続状態の抽出条件と選択できるウィンドウ	101

表 3-7	ワイルドカードに使用できる記号	103
表 3-8	共通のショートカットキー	105
表 3-9	印刷プレビューでの操作に関するショートカットキー	105
表 3-10	カーソルの移動に関するショートカットキー	106
表 3-11	領域の選択に関するショートカットキー	106
表 3-12	領域の選択 (拡張モード) に関するショートカットキー	107
表 3-13	レコードおよび文字列の操作に関するショートカットキー	107
表 3-14	セルの操作に関するショートカットキー	108
表 3-15	コンボボックスの操作に関するショートカットキー	108
表 4-1	プロセサ名称の表示形式	113
表 4-2	PRMF 構成に一致しないレコードの情報	221
表 4-3	「ウィンドウ内で連携するレコードを対象とする」オプションの設定と処理	241
表 4-4	「表示されていないコメントを対象とする」オプションの設定と処理	241
表 4-5	表示日時の範囲の指定方法	245
表 4-6	機器構成の表示範囲の指定方法	258
表 4-7	構成定義表示 (システム構成) ウィンドウの表示内容	259
表 4-8	構成定義 (システム構成詳細) ウィンドウの表示内容	261
表 4-9	構成定義表示 (チャンネル) ウィンドウの表示内容 (入出力構成定義データ)	261
表 4-10	構成定義表示 (チャンネル) ウィンドウの表示内容 (PRMF 構成定義データ)	262
表 4-11	構成定義表示 (入出力制御装置) ウィンドウの表示内容 (入出力構成定義データ)	264
表 4-12	構成定義表示 (入出力制御装置) ウィンドウの表示内容 (PRMF 構成定義データ)	264
表 4-13	構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウの表示内容 (入出力構成定義データ)	265
表 4-14	構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウの表示内容 (PRMF 構成定義データ)	266
表 4-15	構成定義表示 (装置グループ) ウィンドウの表示内容	267
表 4-16	構成定義表示 (装置タイプ) ウィンドウの表示内容	268
表 4-17	構成定義表示 (ACOD) ウィンドウの表示内容	268
表 4-18	構成定義表示 (ポート) ウィンドウの表示内容	269
表 4-19	構成定義表示 (LPAR 構成) ウィンドウの表示内容	270
表 4-20	ラベル名称に指定できる構成定義データ	272
表 4-21	SCHEDULR 以外のマクロ・定義文の定義シートの説明	275
表 4-22	ラベル名称表示ウィンドウのキーとなる値	278
表 4-23	分類の説明	287
表 4-24	構成定義表示 (ディレクタ) ウィンドウの表示内容	335
表 7-1	SYSGEN マクロの先頭に出力されるコメントの内容	421
表 7-2	PRMF システム構成定義文の先頭に出力されるコメントの内容	433

表 7-3	ACOD 外部構成定義コマンドの先頭出力されるコメントの内容	434
表 7-4	ACOD 内部構成定義コマンドの先頭出力されるコメントの内容	435
表 7-5	入出力構成定義の比較結果の出力項目	439
表 7-6	PRMF 構成定義の比較結果の出力項目	446
表 7-7	ACOD 外部構成定義の比較結果の出力項目	453
表 7-8	ACOD 内部構成定義の比較結果の出力項目	456
表 7-9	変更記録を付けて比較結果を出力したときの表示項目	458
表 7-10	変更記録を付けて比較結果を出力したときの表示項目	459
表 8-1	障害の種類と対処方法	462
表 A-1	SYSGEN マクロの SCMRf CD for Windows での扱い	466
表 A-2	ACOD 構成定義コマンドの SCMRf CD for Windows での扱い	467
表 A-3	PRMF システム構成定義文の SCMRf CD for Windows での扱い	468
表 A-4	SCCP と SCMRf CD for Windows の仕様上の相違点	471
表 A-5	AOMPLUS と SCMRf CD for Windows の仕様上の相違点	472
表 A-6	PRMA E2 (HLUSCCP) および PRMA E3 (HLUSCCP) と SCMRf CD for Windows の仕様上の相違点	472
表 E-1	エラー種別	479
表 E-2	メッセージの説明に使用する記号	480
表 F-1	SCMRf/CD の「SYSGEN マクロ・PRMF 構成定義文生成機能 (PARMGEN 文)」との相違点	608
表 F-2	SCMRf/CD の「構成定義データ比較機能 (COMPARE 文)」との相違点	609
表 G-1	入出力構成定義データの比較対象範囲	611
表 G-2	PRMF 構成定義データの比較対象範囲	612
表 G-3	ACOD 外部構成情報コマンドの比較対象範囲	613
表 G-4	ACOD 内部構成情報コマンドの比較対象範囲	614
表 G-5	シンタクスレベルで表示 / 非表示が切り替わるオペランドの比較	614
表 H-1	JASSCCP プログラムの指定値の扱い	615
表 H-2	SCCP 実行用カタログドプロシジャの指定値の扱い	616
表 H-3	HLUSCCP プログラムの指定値の扱い	617
表 H-4	JASSCCP プログラムの指定値との相違点	617
表 H-5	SCCP 実行用カタログドプロシジャの指定値との相違点	618

1

SCMRF CD for Windows とは

この章では、SCMRF CD for Windows の概要について説明します。

1.1 SCMRF CD for Windows の特長

1.2 ホストプログラムとの関係

1.3 SCMRF CD for Windows の構成

1.4 SCMRF CD for Windows の機能

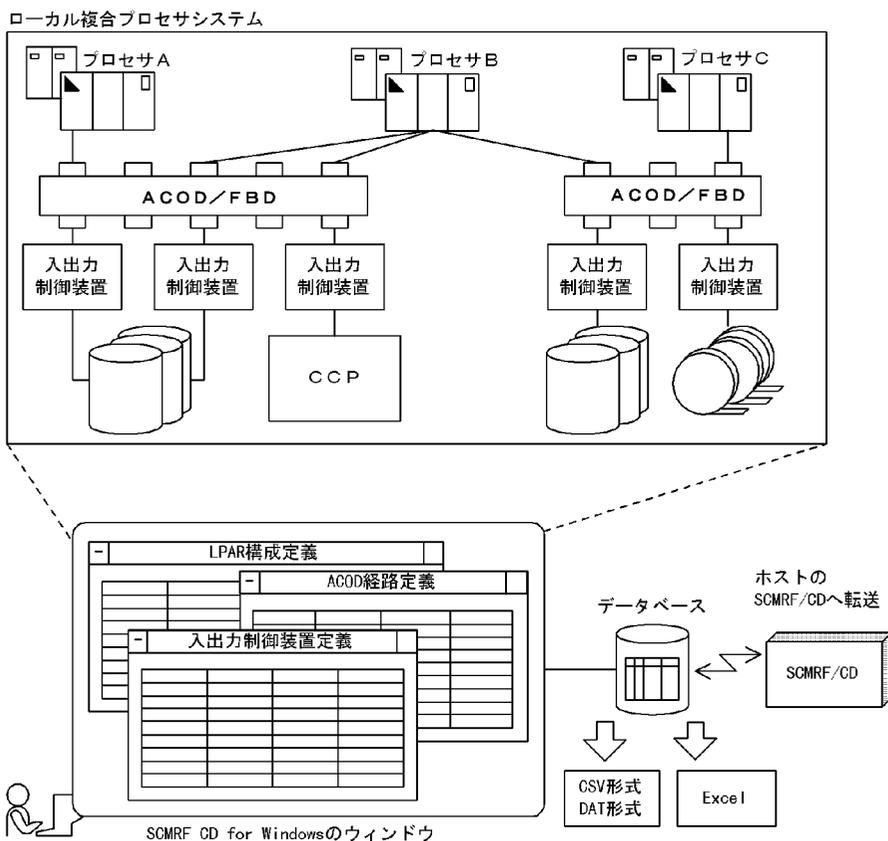
1.1 SCMRF CD for Windows の特長

SCMRF CD for Windows は、ホストの入出力機器の構成を定義・管理するためのプログラムプロダクトです。次の構成を定義・管理できます。

- チャンネル，入出力制御装置，入出力装置
- ACONARC ディレクタ (ACOD : Advanced Connection Optical Director), FIBARC ディレクタ (FBD : FiBarc Director)
- プロセッサ資源分割管理機構 (PRMF : Processor Resource Management Feature)

SCMRF CD for Windows の特長を説明します (図 1-1 参照)。

図 1-1 SCMRF CD for Windows の特長



1.1.1 ホストの入出力機器の構成を表形式で定義できます

ホストの入出力機器の構成を Windows の GUI (Graphical User Interface) 環境を使用して、表形式の入力画面で定義します。次に示す構成を定義できます。

- VOS3 の入出力構成および ACOD 構成
- PRMF を使用する場合の入出力構成，および論理パーティション（LPAR：Logical Partition）の構成（「LPAR 構成」と呼ぶ）

（1）データの編集が容易

プロセサ内の入出力機器間の接続を一つのウィンドウで一括して定義できます。入出力機器単位で定義する SYSGEN マクロ，ACOD 構成定義コマンドおよび PRMF システム構成定義文の作成に比べ，接続関係が把握しやすくなっています。

（2）定義作業の軽減

チャンネルタイプのように指定する値が限定されている項目は，コンボボックスから選択する方式になっています。

1.1.2 入力時にエラーチェックされるので定義ミスを防止できます

SCMRF CD for Windows では値を入力したときにエラーチェックが自動的に実行されます。VOS3 のシステムゼネレーション，AOMPLUS の AOPDS コティリティ，PRMA E2 および PRMA E3 のシステム構成制御プログラム（HLUSCCP）実行時と同等のエラーチェックが実行されます。さらに，定義データにエラーがあると，ホストに転送できないようになっています。

1.1.3 定義データの管理が容易です

ローカル複合プロセサシステムの機器構成が一括して管理できます。また，PRMF を使用するシステムの入出力構成・LPAR 構成（総称して「PRMF 構成」と呼ぶ）と LPAR 上のゲスト OS の入出力構成・ACOD 構成を一括して管理できます。

- 機器構成を管理するためのコメントが入力できます。コメントだけを抽出して表示できます。
- 機器構成が一覧で表示できます。
- 定義データの変更箇所を変更記録として記録できます。変更記録だけを抽出して表示できます。

表示したコメント，機器構成，変更記録は，印刷，Excel への貼り付け，または CSV（コンマ区切り）形式のファイル・DAT 形式のファイルへ出力できます。

1.1.4 既存の SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文を流用できます

既存の SYSGEN マクロ，ACOD 構成定義コマンド，および PRMF システム構成定義文を流用して，機器構成を定義できます。

1.1.5 構成定義データからゼネレーションパラメタを生成してホストへ転送できます

SCMRF CD for Windows で編集した入出力構成定義データ，ACOD 構成定義データ，および PRMF システム構成定義データからゼネレーションパラメタを生成し，ファイル転送機能を使用してホストへ転送できます。

注 このマニュアルでは，以降，SYSGEN マクロ，ACOD 構成定義コマンド，および PRMF システム構成定義文を総称してゼネレーションパラメタと記述します。

1.2 ホストプログラムとの関係

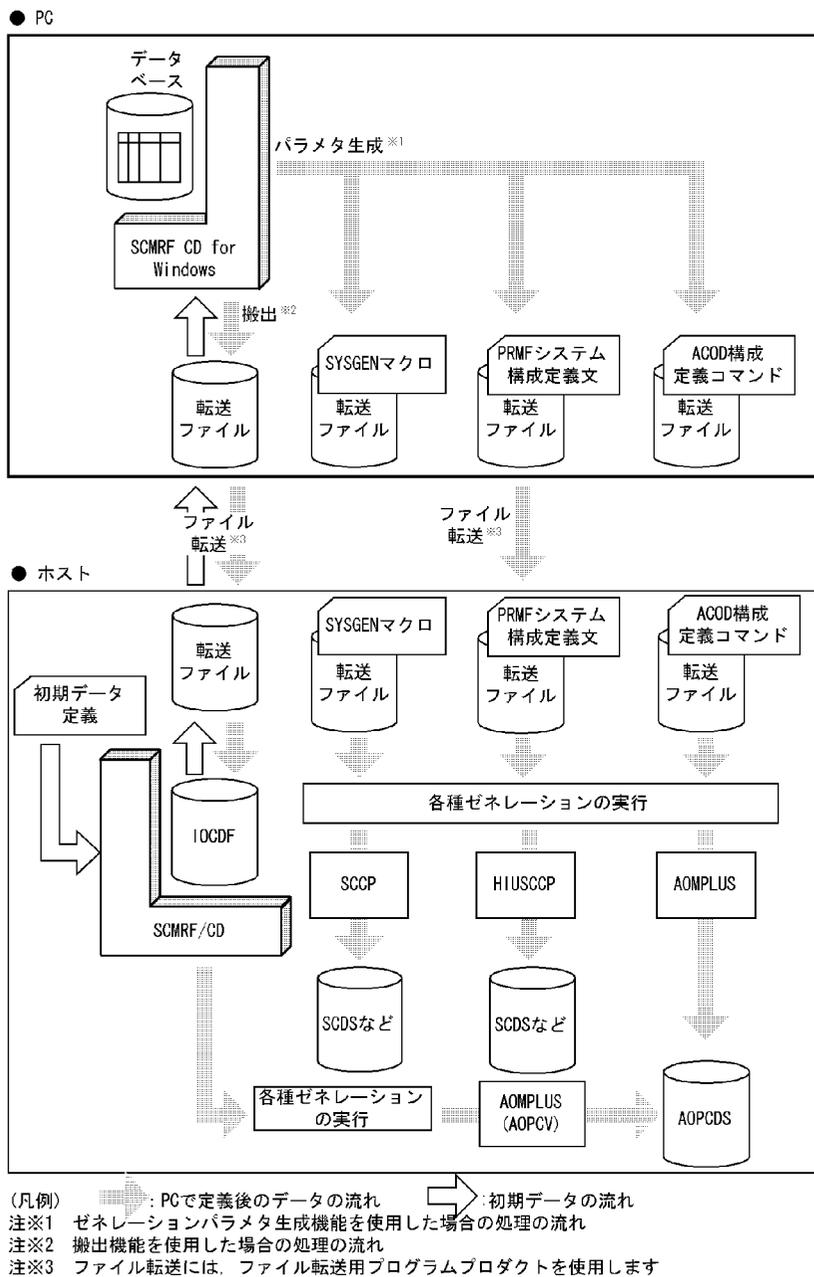
SCMRF CD for Windows は、ホストの SCMRF/CD、AOMPLUS、PRMA E2、および PRMA E3 と連携して使用します。

1. ホスト上の SCMRF/CD、SCCP、AOMPLUS、PRMA E2 または PRMA E3 の HLUSCCP を使用して、既存の SYSGEN マクロ、ACOD 構成定義コマンド、または PRMF システム構成定義文から初期データを生成します。
2. 生成した初期データを PC に転送して、SCMRF CD for Windows でゼネレーションパラメタを生成します。
3. SCMRF CD for Windows で生成したゼネレーションパラメタはホストに転送して、SCCP、HLUSCCP および AOMPLUS を使用して、ゼネレーションを実行します。
4. 定義情報はホスト側に転送しておけば、SCMRF/CD で管理できます。

SCMRF CD for Windows の役割と位置づけを図 1-2 に示します。

1. SCMRF CD for Windows とは

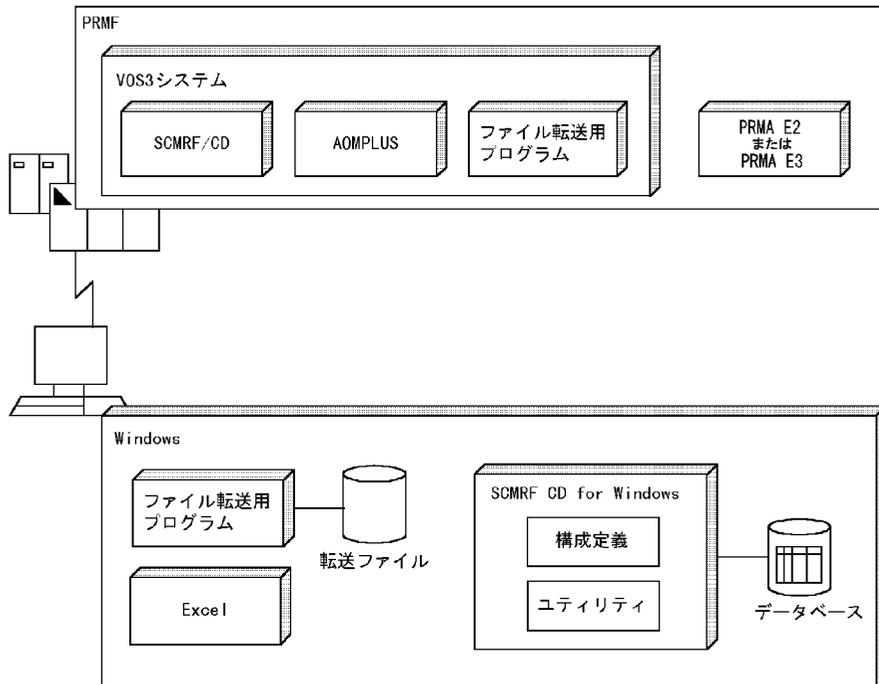
図 1-2 SCMRF CD for Windows の役割と位置づけ



1.3 SCMRF CD for Windows の構成

SCMRF CD for Windows の構成を図 1-3 に示します。

図 1-3 SCMRF CD for Windows の構成



1.3.1 必要なプログラムプロダクト

SCMRF CD for Windows は、Windows を前提にしています。

SCMRF CD for Windows の運用に必要なプログラムプロダクトを次に示します。

ファイル転送用プログラムプロダクト

ホストと PC 間は、ファイル転送によってデータを受け渡します。ファイル転送には、CommuniNet、または ftp でファイル転送できるプログラムプロダクトが必要です。

Microsoft Excel (任意)

機器構成表示機能で表示した内容を Excel に貼り付ける場合に必要です。

1.3.2 SCMRF CD for Windows の構成要素

SCMRF CD for Windows は、「構成定義」、「ユティリティ」および「データベース」の

1. SCMRF CD for Windows とは

三つの要素で構成されます。

構成定義

データベースを開いて、入出力構成、ACOD 構成、および PRMF 構成を定義・管理します。

ユティリティ

データベースの作成・保守やユーザの登録をします。

データベース

構成定義で定義したデータを格納する Access のデータベースです。Access は、SCMRF CD for Windows の一部として組み込まれています。

1.4 SCMRF CD for Windows の機能

SCMRF CD for Windows の主な機能を次に示します。

- 構成定義機能
- 構成定義支援機能
- 定義データの管理機能
- 機器管理支援機能
- ゼネレーションパラメタ生成機能
- 追加データ登録機能
- 操作支援機能
- 搬入・搬出機能
- ファイル転送機能
- ユティリティ機能

1.4.1 構成定義機能

SCMRF CD for Windows では、次に示す構成を定義対象にしています。

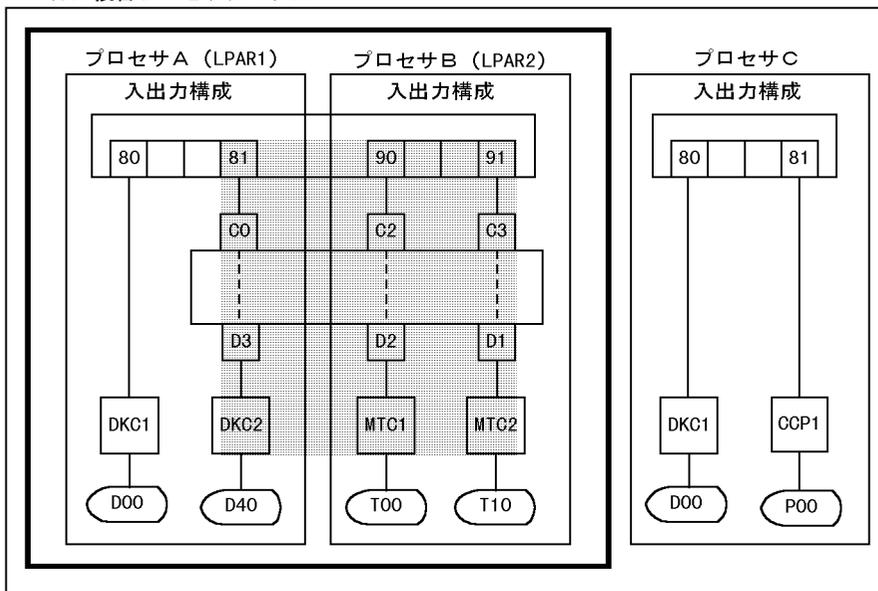
- 入出力構成
ホストでは SYSGEN マクロとして定義する構成です。
- ACOD 構成
ホストでは ACOD 構成定義コマンドとして定義する構成です。
- PRMF 構成
ホストでは PRMF システム構成定義文として定義する構成です。

定義対象の構成を図 1-4 に示します。

1. SCMRF CD for Windows とは

図 1-4 定義対象の構成

ローカル複合プロセッサシステム



SCMRF CD for Windows で定義できる SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文を表 1-1 に示します。

表 1-1 SCMRF CD for Windows で指定値を定義できる SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文

分類	定義できる SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文	SCMRF CD for Windows でのデータ名
SYSGEN マクロ	CHANNEL, CONTRLR, IODEVICE, SCHEDULR, UNITNAME	入出力構成定義データ 1
ACOD 構成定義コマンド	ACODFILE, ACODCNCT, PORTACOD, ACODEND, LINKFILE, ACODLINK, PORTLINK, ENDLINK	ACOD 構成定義データ

分類	定義できる SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文	SCMRF CD for Windows でのデータ名
PRMF システム構成定義文 ²	IOGROUP 文, CHANNEL 文, CONTRLR 文, IODEVICE 文, LPARDEF 文, PIP 文, SYSOPT 文, PFKEY 文, EXPATH 文, PARTITION 文, CPU 文, IP 文, STORAGE 文, OPTION 文, FEATOPT 文, LOADUNIT 文	PRMF 構成定義データ

注 1 LPAR 上のゲスト OS の入出力構成定義データを限定する場合、入出力構成定義データ（ゲスト OS）と呼びます。

注 2 PRMF システム構成定義文の CH 文の指定値は、CHANNEL 文で定義します。

(1) 定義できる構成

定義できる構成を次に示します。

- 入出力構成だけを定義する
- 入出力構成と ACOD 構成を定義する
- PRMF 構成だけを定義する
- PRMF 構成と ACOD 構成を定義する
- PRMF 構成、および LPAR 上のゲスト OS の入出力構成を定義する
- PRMF 構成、および LPAR 上のゲスト OS の入出力構成・ACOD 構成を定義する

それぞれの構成の定義順序については、「2.1 構成定義機能」を参照してください。

< FBD の定義について >

FBD は ACOD と同じように定義できます。詳細は「2.1.10 FBD の定義」を参照してください。

(2) 定義方法

SCMRF CD for Windows で構成を定義するには、次の二つの方法があります。

- ホストから転送したデータを搬入機能によってデータベースに格納し、編集する
- SCMRF CD for Windows で新しく定義する

(3) 定義データのエラーチェック

ウィンドウで定義するとき、またはホストからのデータをデータベースに格納するとき、自動的にエラーチェックが実施されます。エラーがある場合は、エラーメッセージ、エラー番号が表示されます。

1.4.2 構成定義支援機能

ポートアドレス変更機能

ディレクタのポートの接続を変更する場合、あるポートのポートアドレスをほかのポートに置き換えることで変更できます。この機能を「ポートアドレス変更機能」と呼びます。

オプション機能

各種操作での SCMRF CD for Windows の動作環境を設定できます。この機能を「オプション機能」と呼びます。

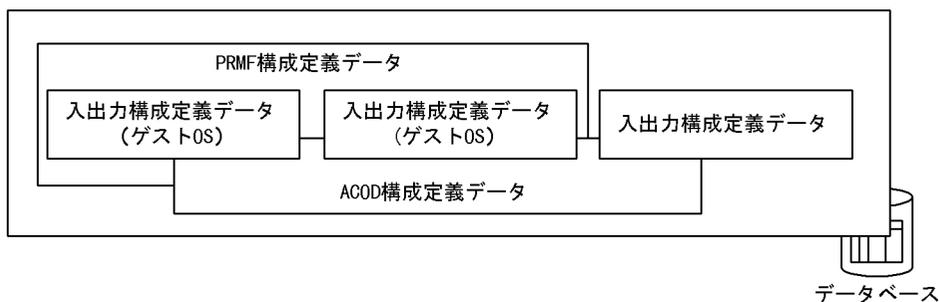
ストレージ計算機能

VOS3 システムのメモリ所要量（ニュークリアス領域）を自動計算できます。この機能を「ストレージ計算機能」と呼びます。

1.4.3 定義データの管理機能

一つのローカル複合プロセサシステム、単一システムの定義データは、一つのデータベースに格納して管理します。データベースの構成を図 1-5 に示します。

図 1-5 データベースの構成



(1) データの管理情報

SCMRF CD for Windows では、データベースや定義データを識別するための情報（データの管理情報）を設定します。データの管理情報を設定することを「システム構成の設定」と呼びます。システム構成の設定を表 1-2 に示します。

表 1-2 システム構成の設定

項番	対象	設定する情報
1	データベース	システム名称, ACONARC 制御機能使用の指定（使用することを指定した場合, ACOD 構成が定義できる）
2	入出力構成定義データ	プロセサ名称, シンタクスレベル, 物理プロセサ名称 ¹ , LPAR 番号 ¹ , CPU モデル, ACONARC の装備または非装備, 情報識別子, 構成 ID, SCDS 番号, IOD 番号

項番	対象	設定する情報
3	ACOD 構成定義データ	情報識別子, 構成 ID, ACOD 構成定義情報番号
4	PRMF 構成定義データ	物理プロセッサ名称, 制御システム, シンタクスレベル, 物理 CPU 名称 ² , IOG 番号 ² , CPU モデル, ACONARC の装備または非装備, 情報識別子, 構成 ID, SCDS 番号
5	PRMF 構成定義データ (512 チャンネル構成定義データ) ²	物理 CPU 名称, 制御システム, シンタクスレベル, CPU モデル, ACONARC, 構成 ID, SCDS 番号

注

SCMRF CD for Windows では、OS が動作する最小単位を「プロセッサ」と呼びます。PRMF を使用する場合、LPAR 上のゲスト OS が動作する最小単位を「プロセッサ」と呼び、物理計算機のことを「物理プロセッサ」と呼びます。512 チャンネル構成時は I/O グループを「物理プロセッサ」、物理計算機を「物理 CPU」と呼びます。ただし、入出力構成定義データと PRMF 構成定義データを区別しないときに「物理プロセッサ」を「プロセッサ」に含めて説明する場合があります。

注 1 LPAR 上のゲスト OS を定義する場合に設定します。

注 2 512 チャンネル構成時に設定します。

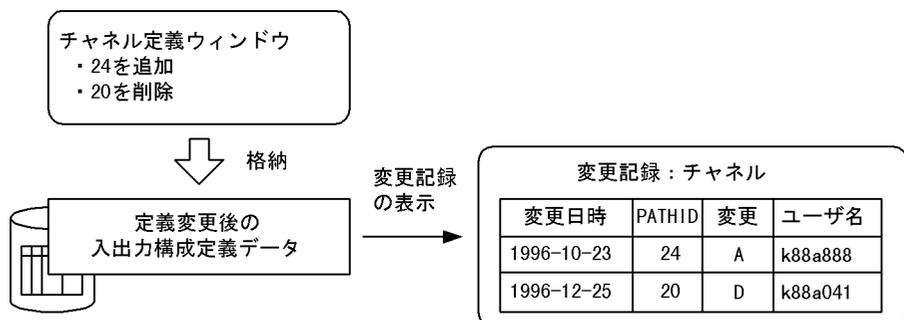
(2) ベースシステム情報

定義データを流用または更新して定義する場合、流用元または更新前のシステム構成の設定を記録できます。これを「ベースシステム情報」と呼びます。ベースシステム情報によって、定義データの経歴が確認できます。

(3) 変更記録

ある時点からある時点までの変更箇所を記録できます。変更記録の例を図 1-6 に示します。

図 1-6 変更記録の例



1. SCMRF CD for Windows とは

表示した内容は印刷または外部ファイルへの出力ができます。

(4) 構成定義データの比較

構成定義データを編集後、SCMRF CD for Windows のデータベースにある、定義データの編集前と編集後を比較して、結果をファイルに出力できます。

1.4.4 機器管理支援機能

入出力機器の構成を管理するための機能を次に示します。

(1) コメント機能

機器の用途、設置場所、システム間の共用の有無など、いろいろな情報をコメントとして入力できます。

コメントは、システム、プロセサ、各機器（チャンネル、入出力制御装置、入出力装置、ディレクタ）に対してつけられます。定義データからコメントだけを抜き出し、一覧表示できます。表示した内容は表示情報の出力機能によって出力できます。

(2) ポートアドレスの使用状況の表示機能

一つのポートと全プロセサとの間の接続を一覧表示できます。ディレクタのポートアドレスがどのように使用されているかを確認できます。

(3) 機器構成表示機能

チャンネル、入出力制御装置、入出力装置、またはディレクタのポート単位などの構成を一覧表示できます。表示した内容は表示情報の出力機能によって出力できます。

(4) ラベル名称定義機能

入出力構成定義データにラベル名称を定義できます。ラベル名称を定義すると、SCMRF/CD で入出力構成定義データから SYSGEN マクロまたは PRMF システム構成定義文を生成するとき、「名称欄」にラベル名称が付加されます。

(5) 表示情報の出力機能

表示した情報については、Excel への貼り付け、または CSV 形式のファイル・DAT 形式ファイルへの出力ができます。

1.4.5 ゼネレーションパラメタ生成機能

SCMRF CD for Windows で編集したデータベース中の入出力構成定義データ、PRMF 構成定義データおよび ACOD 構成定義データからゼネレーションパラメタを生成し、ファイルに出力できます。

出力したファイルは、ファイル転送機能（「1.4.9 ファイル転送機能」参照）でホストへ転

送できます。

1.4.6 追加データ登録機能

ゼネレーションパラメタ生成機能では生成されないゼネレーションパラメタなど、構成定義機能では定義できないデータを追加データとしてデータベースに登録し、編集および管理ができます。

1.4.7 操作支援機能

操作支援機能には、次に示す機能があります。

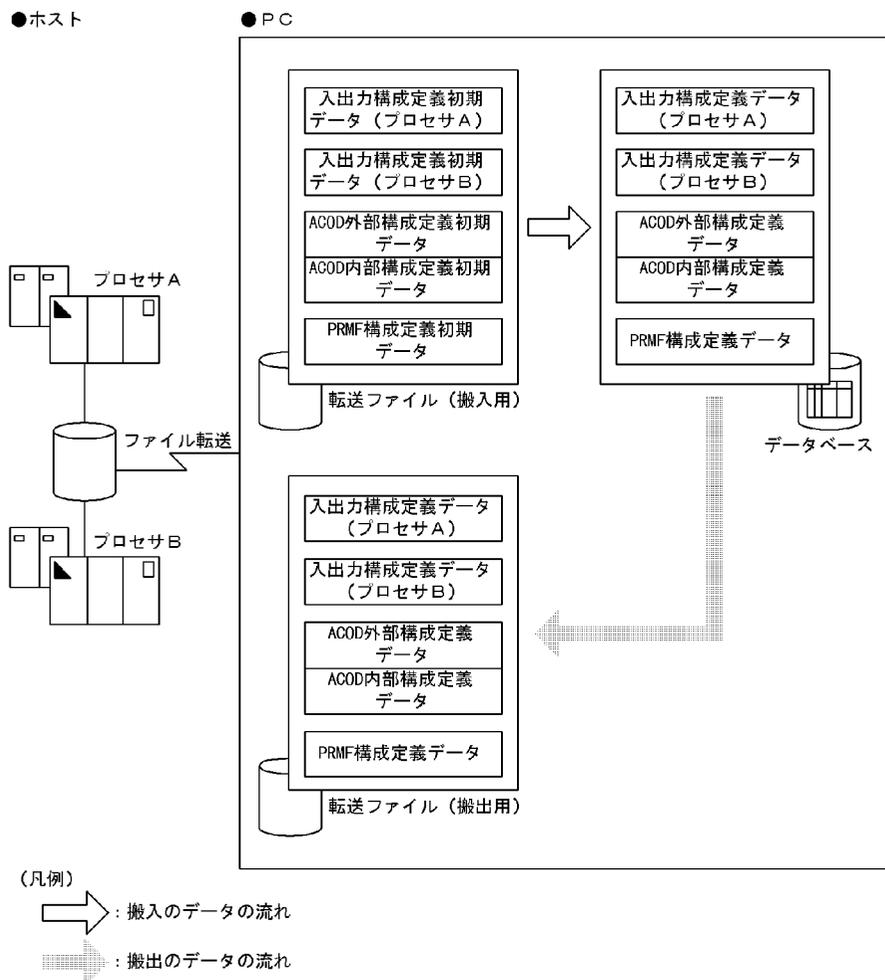
編集支援機能

- フィールド内文字列およびレコードのコピー・貼り付け
- ウィンドウ内で連携したレコードを含むコピー・貼り付け
- 複数行コメントの一括コピー・貼り付け
- 任意の文字の検索
- エラー個所・変更個所だけの表示
- セルの内容の拡大表示
- ショートカットキーの使用

1.4.8 搬入・搬出機能

ホスト上の SYSGEN マクロ、ACOD 構成情報、および PRMF システム構成定義文を SCMRF CD for Windows のデータベースに格納できます。ホストから転送されたデータを、SCMRF CD for Windows のデータベースに格納することを「搬入」と呼びます。また、定義したデータをデータベースから転送ファイルに格納することを「搬出」と呼びます。搬入・搬出機能を図 1-7 に示します。

図 1-7 搬入・搬出機能



ホストと PC 間のファイル転送は、ファイル転送用のプログラムプロダクトを使用します。

1.4.9 ファイル転送機能

SCMRF CD for Windows で使用する搬入および搬出用の転送ファイル、ゼネレーションパラメタファイルなどの各種ファイルは、ファイル転送ダイアログの操作で PC とホスト間でファイル転送 できます。

注 実際のファイル転送には、ファイル転送用のプログラムプロダクトが必要です。

1.4.10 ユティリティ機能

データベースに関する作業とユーザの登録には、ユティリティ機能を使用します。

データベースに関する作業

データベースの作成・保守ができます。

ユーザの登録

SCMRF CD for Windows を使用するユーザ、パスワード、使用権限の登録ができます。

2

SCMRF CD for Windows の機能

この章では、SCMRF CD for Windows の機能について説明します。

-
- 2.1 構成定義機能

 - 2.2 構成定義支援機能

 - 2.3 定義データの管理機能

 - 2.4 機器管理支援機能

 - 2.5 ゼネレーションパラメタ生成機能

 - 2.6 追加データ登録機能

 - 2.7 操作支援機能

 - 2.8 搬入・搬出機能

 - 2.9 ファイル転送機能

 - 2.10 ユティリティ機能
-

2.1 構成定義機能

SCMRF CD for Windows では、一つのデータベースにローカル複合プロセサシステム全体の入出力構成、ACOD 構成および PRMF 構成を定義できます。定義できる構成の組み合わせを表 2-1 に示します。

表 2-1 定義できる構成の組み合わせ

組み合わせ	PRMF を使用するシステム				VOS3 システム	
	パターン 1	パターン 2	パターン 3	パターン 4	パターン 5	パターン 6
PRMF 構成					-	-
入出力構成			-	-		
ACOD 構成		-		-		-

(凡例)

○ : 定義できる。

- : 該当しない。

注 AOMPLUS の ACONARC 制御機能を使用する場合の定義はできません。

データベースでは、入出力機器の構成と ACOD 構成が一体化しています。このため、ACOD 構成は入出力構成、または PRMF 構成内の入出力構成とともに定義します。ACOD 構成を定義するとき、チャンネル・ACOD・入出力制御装置の接続と、ACOD のポート間の接続とを一本の経路として定義します。この経路を「ACOD 経路」と呼びます。

PRMF 構成では、CPU 動作モードが M/EX および M/ASA モードの LPAR を定義できません。LPAR 上のゲスト OS の入出力構成は、ゲスト OS が VOS3 の場合に定義できます。データベースでは、PRMF 構成内の入出力構成と、LPAR 上のゲスト OS の入出力構成が一体化しています。このためゲスト OS の入出力構成は、PRMF 構成内の入出力構成の一部分として定義します。

< FBD について >

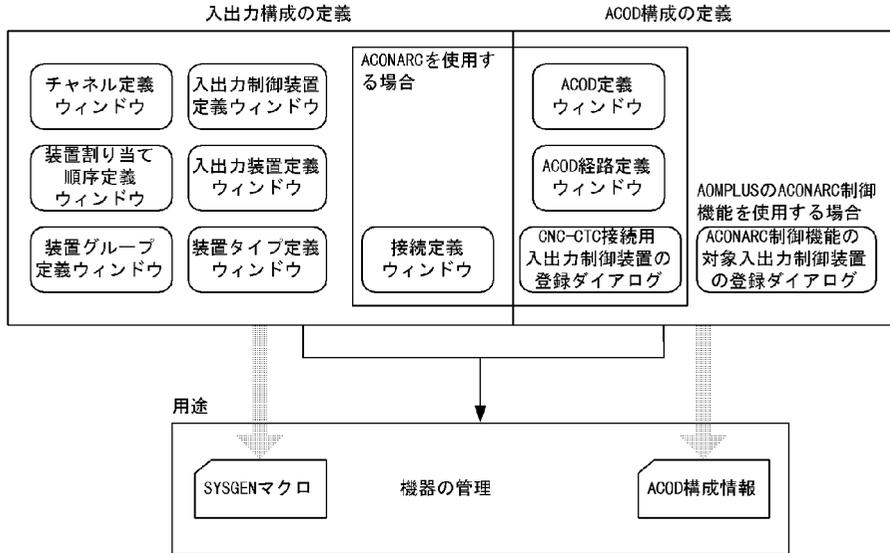
FBD も ACOD と同じようにチャンネル・FBD・入出力制御装置の接続と、FBD のポート間の接続とを一本の経路として定義できます。この場合の経路を「FBD 経路」と呼び、「ACOD 経路」、「FBD 経路」を総称して、「ディレクタ経路」と呼びます。FBD の定義については、「2.1.10 FBD の定義」を参照してください。

2.1.1 定義方法

(1) VOS3 の入出力構成・ACOD 構成の定義方法

入出力構成・ACOD 構成とウィンドウの関係を図 2-1 に示します。

図 2-1 入出力構成・ACOD 構成とウィンドウの関係



SCMRF CD for Windows で入出力構成を定義するには、各入出力機器を定義した後、機器間の接続を定義します。ACOD 構成を定義するには、入出力構成に ACOD 経路を追加します。ACOD 構成を定義すると、ACOD を含めた機器の管理ができます。

VOS3 の入出力構成・ACOD 構成の定義を表 2-2 に示します。

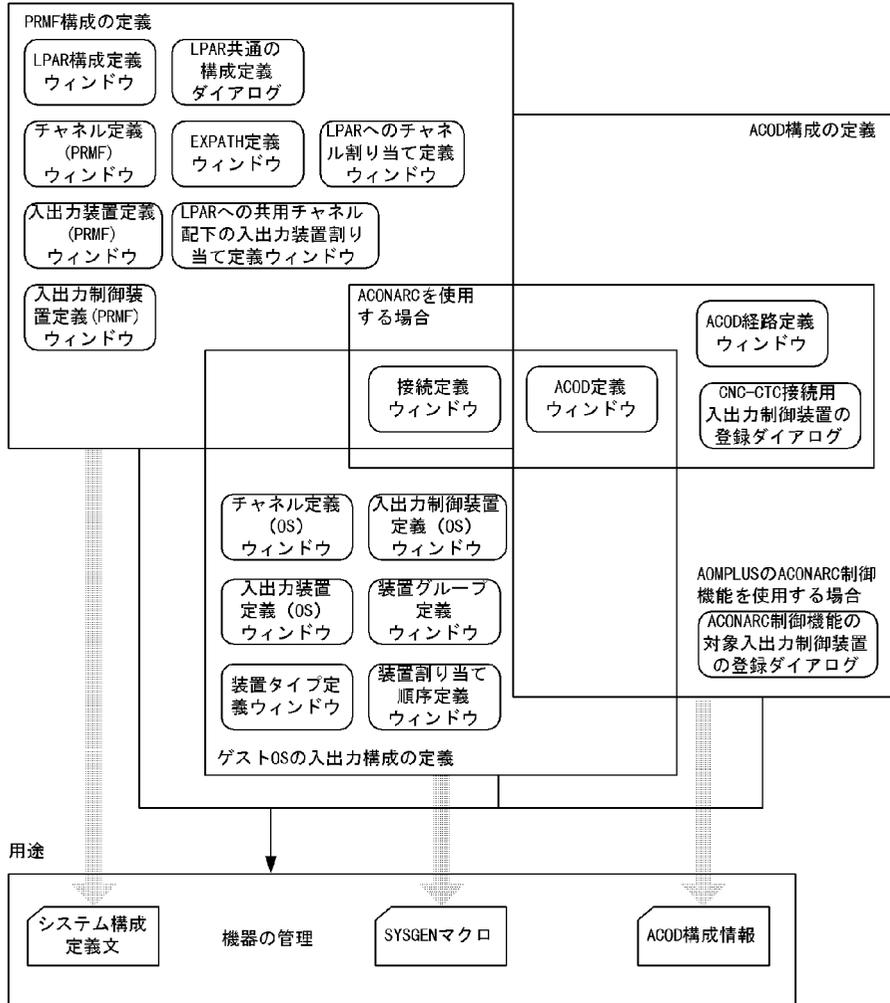
表 2-2 VOS3 の入出力構成・ACOD 構成の定義方法

定義の対象	定義方法
入出力構成	<ul style="list-style-type: none"> • チャネル定義ウィンドウ, 入出力制御装置定義ウィンドウ, 入出力装置定義ウィンドウで機器を定義する • 接続定義ウィンドウで機器間の接続を定義する • 装置割り当て順序定義ウィンドウ, 装置グループ定義ウィンドウ, 装置タイプ定義ウィンドウを定義する <p>【ACONARC を使用する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACOD 定義ウィンドウで ACOD 名称を定義する • 接続定義ウィンドウでチャネル・ACOD・入出力制御装置の接続とリンクアドレスを定義する
ACOD 構成	<ul style="list-style-type: none"> • ACOD 定義ウィンドウで ACOD 名称を定義する • ACOD 経路定義ウィンドウで ACOD 経路を定義する • CNC-CTC 接続がある場合は CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログで接続用の入出力制御装置を登録する（「2.1.4 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録機能」を参照のこと） <p>【AOMPLUS の ACONARC 制御機能を使用する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで ACONARC 制御機能対象範囲を登録する（「2.1.3 ACONARC 制御機能対象範囲の登録機能」を参照のこと）

(2) PRMF を使用する場合の定義方法

入出力構成・ACOD 構成・PRMF 構成とウィンドウの関係を図 2-2 に示します。

図 2-2 入出力構成・ACOD 構成・PRMF 構成とウィンドウの関係



PRMF を使用する場合，PRMF を使用するシステム全体の LPAR 構成・入出力構成・ACOD 構成を定義した後，LPAR 上のゲスト OS の入出力構成を定義します。PRMF を使用する場合の定義方法を表 2-3 に示します。

表 2-3 PRMF を使用する場合の定義方法

定義の対象	定義方法
PRMF 構成	<ul style="list-style-type: none"> • LPAR 構成定義ウィンドウで LPAR および LPAR オプション機能などを定義する • LPAR 共通の構成定義ダイアログで、すべての LPAR に共通する機能を定義する • チャネル定義 (PRMF) ウィンドウ, 入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウ, 入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウで入出力機器を定義する • LPAR へのチャネル割り当て定義ウィンドウで、チャネルと LPAR の割り当てを定義する • EXPATH 定義ウィンドウで、入出力装置に接続するチャネルのチャネルタイプの組み合わせを定義する • LPAR への共用チャネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウで、LPAR で使用できる入出力装置の割り当てを定義する • 接続定義ウィンドウで機器間の接続を定義する <p>【ACONARC を使用する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACOD 定義ウィンドウで ACOD 名称を定義する • 接続定義ウィンドウでチャネル・ACOD・入出力制御装置の接続とリンクアドレスを定義する
ACOD 構成	<ul style="list-style-type: none"> • ACOD 定義ウィンドウで ACOD 名称を定義する • ACOD 経路定義ウィンドウで ACOD 経路を定義する • CNC-CTC 接続がある場合は CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログで接続用の入出力制御装置を登録する (「2.1.4 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録機能」を参照のこと) <p>【AOMPLUS の ACONARC 制御機能を使用する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで ACONARC 制御機能対象範囲を登録する (「2.1.3 ACONARC 制御機能対象範囲の登録機能」を参照のこと)
ゲスト OS の入出力構成	<ul style="list-style-type: none"> • チャネル定義ウィンドウ, 入出力制御装置定義ウィンドウ, 入出力装置定義ウィンドウで入出力機器を定義する • 装置割り当て順序定義ウィンドウ, 装置グループ定義ウィンドウ, 装置タイプ定義ウィンドウを定義する

2.1.2 入出力機器の管理名称

SCMRF CD for Windows では、システム（ローカル複合プロセサシステムまたは単一システム）内で入出力機器を一元管理するために、それぞれの入出力機器を区別するための独自の名称を付けます。入出力制御装置に付ける名称を「IOC 名称」、入出力装置に付ける名称を「管理名称」と呼びます。

(1) IOC 名称

IOC 名称はシステム内で入出力制御装置を区別するために付ける名称です。

VOS3 のプロセサの場合、SCMRF CD for Windows で指定した IOC 名称が SYSGEN マクロの CONTRLR マクロの IOCMN オペランドに指定する制御装置名称になります。また、ACOD 構成定義コマンドの PORTACOD コマンドの OUTER オペランドに指定する入出力制御装置の指定値にもなります。

PRMF を使用する物理プロセサの場合、指定した IOC 名称はゲスト OS の CONTRLR マクロの IOCMN オペランドに指定する制御装置名称、および AOMPLUS の ACOD 構成定義コマンドの PORTACOD コマンドの OUTER オペランドに指定する入出力制御装置の指定値になりますが、PRMF システム構成定義文には引き継がれません。

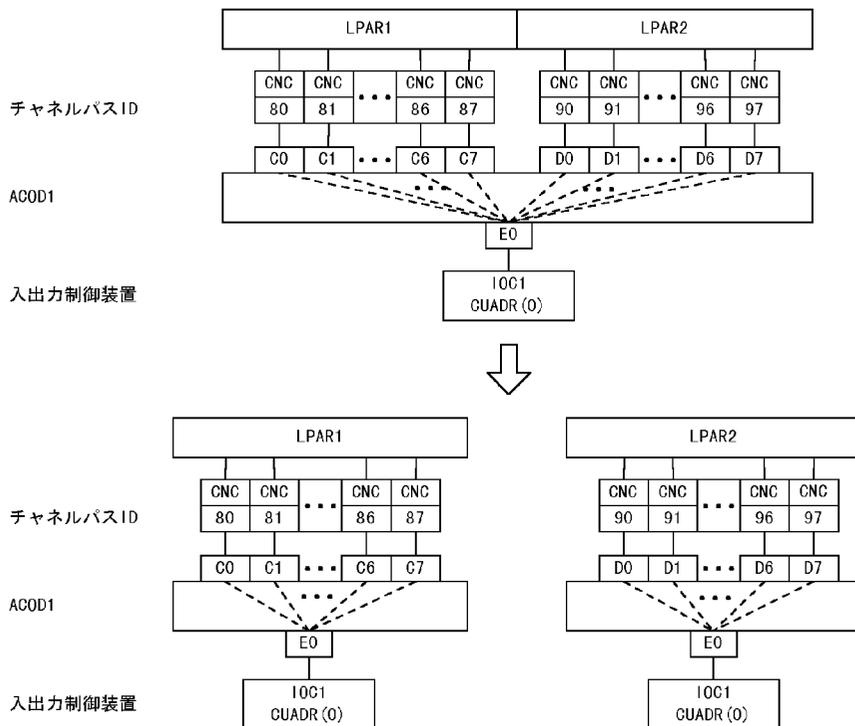
IOC 名称の付け方

プロセサ間で共有する入出力制御装置には、それぞれのプロセサで入出力制御装置を定義するときと同じ IOC 名称を指定します。

IOC 名称を付けるときの注意事項

- ACOD を経由して CNC-CTC 接続をする場合、それぞれのチャンネルに接続する入出力制御装置の IOC 名称の付け方には規則があります。ACOD を経由して CNC-CTC 接続をする場合の IOC 名称の付け方については、「2.1.4 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録機能」を参照してください。
- 一つの入出力制御装置には、8 本までしかチャンネルを接続できません。このため、LPAR 間で入出力制御装置を共用していて ACOD 経路が 8 本を超えると、入出力制御装置を複数に分割して定義する必要があります。この場合、分割して定義する入出力制御装置に付ける IOC 名称を同じにする必要があります。LPAR 間で入出力制御装置を共用する場合の IOC 名称の付け方を図 2-3 に示します。

図 2-3 LPAR 間で入出力制御装置を共有する場合の IOC 名称の付け方



一つの入出力制御装置に8台のチャンネルバスIDまでしか指定できないために入出力制御装置を二つに分割している場合、それぞれの入出力制御装置に同じIOC名称を指定する

(2) 管理名称

管理名称は、システム内で入出力装置を区別するために付ける名称です。

管理名称は、SYSGEN マクロ、ACOD 構成定義コマンド、および PRMF システム構成定義文には引き継がれません。

管理名称の付け方

SYSGEN マクロや PRMF システム構成定義文の名称欄に指定する記号と同様に付けられます。

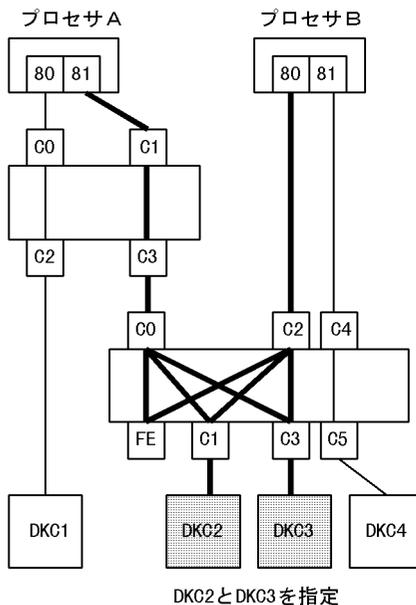
2.1.3 ACONARC 制御機能対象範囲の登録機能

ACONARC 制御機能を使用する場合，SCMRF CD for Windows で定義した ACOD 構成を ACOD 構成定義データとして搬出します。搬出した ACOD 構成定義データをホストに転送して，AOMPLUS で ACOD 構成情報を生成します。

SCMRF CD for Windows では，ACOD 構成を定義すると，入出力機器と同様に ACOD を管理できます。このとき，定義した ACOD 構成をすべて ACONARC 制御機能の制御対象とするか，または一部だけを制御対象とするかを選択できます。一部の範囲だけを指定すると，ホストでは指定した範囲だけが ACOD 構成情報として認識されます。

ACONARC 制御機能対象範囲の指定を図 2-4 に示します。

図 2-4 ACONARC 制御機能対象範囲の指定



(凡例)

-  : チャンネル
-  : 入出力制御装置
-  : ACOD構成情報が生成されるACOD経路
-  : ACOD構成情報が生成されないACOD経路

範囲の指定方法

ACOD と接続する入出力制御装置の中から制御対象を選択します。

2.1.4 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録機能

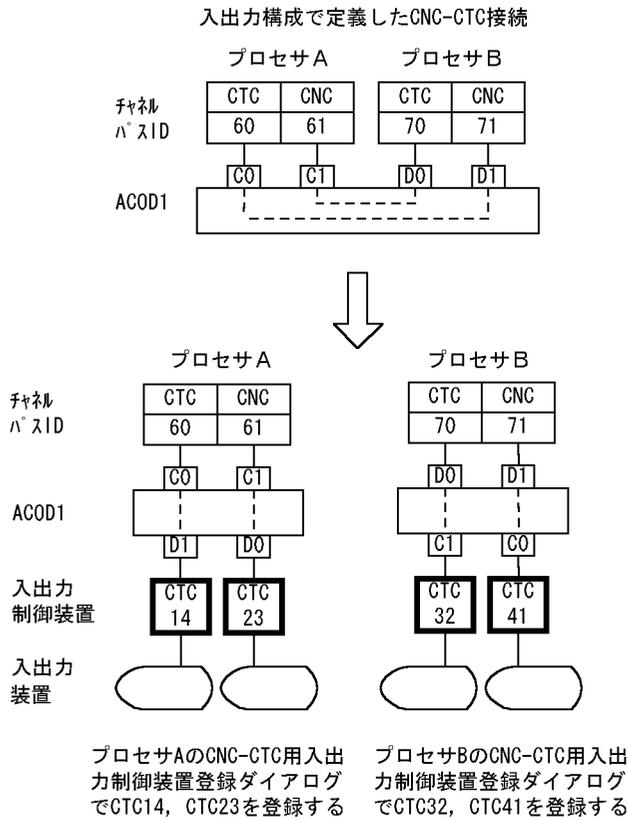
プロセサ間で CNC チャンネルと CTC チャンネルを接続する場合、実際にはない入出力制御装置、入出力装置を想定し、プロセサごとに定義します。この実際にはない装置を、「CNC-CTC 接続用装置」と呼びます。CNC チャンネル、CTC チャンネルを ACOD 経由で接続する場合、CNC-CTC 接続用入出力制御装置は、互いに相手側プロセサのチャンネルパスを接続しているポートに接続する必要があります。つまり、一つのポートにチャンネルパスと CNC-CTC 接続用入出力制御装置の両方が接続されます。

しかし、SCMRF CD for Windows では ACOD 構成をシステム全体で管理しているため、一つのポートにチャンネルパスと入出力制御装置の両方が接続されることが妥当かどうか判断できません。このため、一つのポートにチャンネルパスと CNC-CTC 接続用入出力制御装置の両方が接続されることを、SCMRF CD for Windows に通知する必要があります。

CNC-CTC 接続用入出力制御装置は、ACOD の接続段数（1 段または 2 段）、ポートの接続属性にかかわらず登録する必要があります。SCMRF CD for Windows で ACOD 構成を定義しない（ACOD 経路を定義しない）場合は、登録する必要はありません。

CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録を図 2-5 に示します。

図 2-5 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録



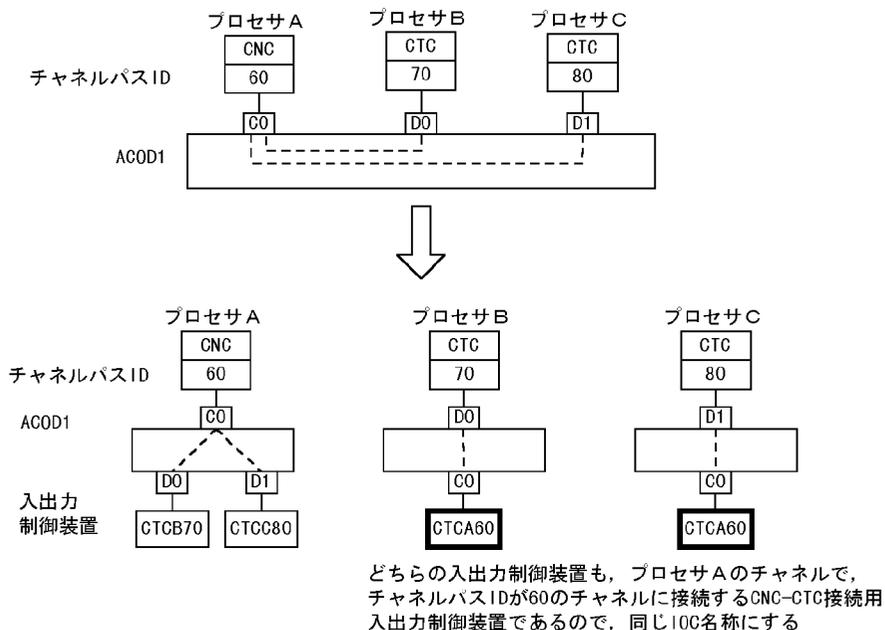
登録方法

ACOD を経由して接続する CNC-CTC 接続用入出力制御装置を登録します。

CNC-CTC 接続用入出力制御装置を定義するときの注意事項

一つのチャンネルに対して複数の CNC-CTC 接続用入出力制御装置を定義する場合は、CNC-CTC 接続用入出力制御装置に同じ IOC 名称を付けてください。それぞれの入出力制御装置に異なる IOC 名称を付けると、ACOD 経路を定義するときにエラーになります。これは、一つのポートに複数の入出力制御装置を接続できないためです。CNC-CTC 接続用入出力制御装置の IOC 名称の付け方を図 2-6 に示します。

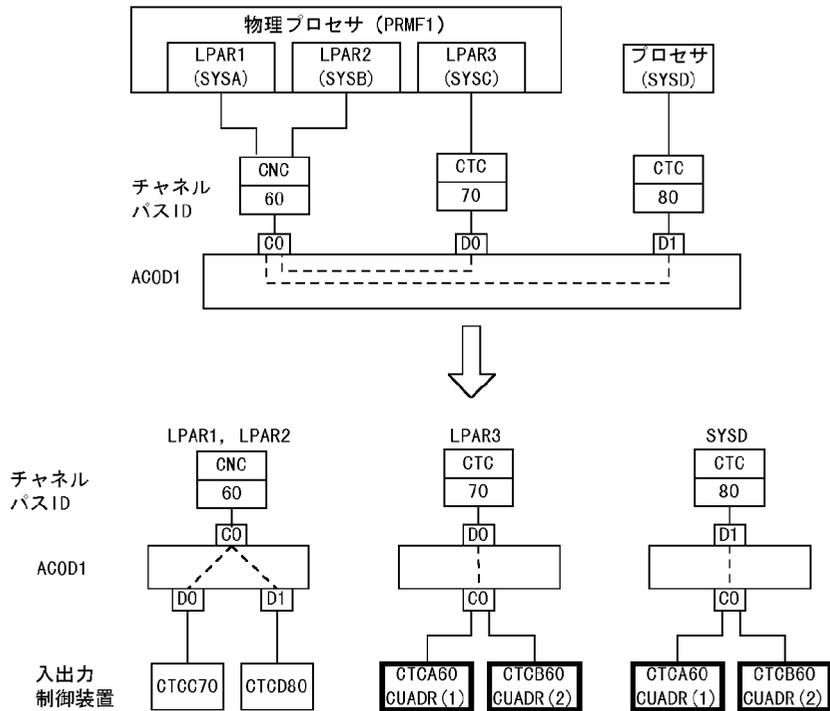
図 2-6 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の IOC 名称の付け方



AMIF を使用して CNC-CTC 接続をする場合の注意事項

ACONARC チャンネルバス共用機能（AMIF：ACONARC Multiple Image Facility）を使用して、複数の LPAR で共用しているチャンネルとの CNC-CTC 接続をする場合、それぞれの LPAR に接続する CNC-CTC 接続用入出力制御装置には、異なる IOC 名称を付けてください。それぞれの LPAR に接続する CNC-CTC 接続用入出力制御装置には異なる制御装置アドレスを付けなければならないため、SCMRF CD for Windows では別々の入出力制御装置として扱う必要があるからです。AMIF を使用する場合の CNC-CTC 接続用入出力制御装置の IOC 名称の付け方を図 2-7 に示します。

図 2-7 AMIF を使用する場合の CNC-CTC 接続用入出力制御装置の IOC 名称の付け方

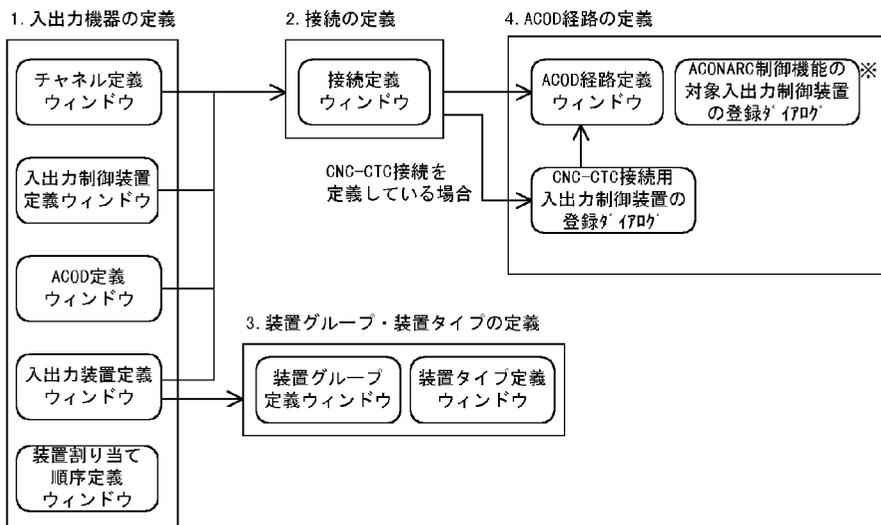


IOC名称がCTCA60およびCTCB60の入出力制御装置は、チャンネルバスIDが60のチャンネルに接続するCNC-CTC接続用入出力制御装置である
 これらはそれぞれLPAR1およびLPAR2のゲストOSで使用する入出力制御装置であるため、それぞれのIOC名称を区別して定義する必要がある
 なお、共用チャンネルに接続する入出力制御装置であるため、制御装置アドレスには通信相手のLPAR番号を指定する

2.1.5 VOS3 の入出力構成・ACOD 構成の定義順序

入出力構成と ACOD 構成を定義するときの順序を図 2-8 に示します。

図 2-8 入出力構成と ACOD 構成を定義するときの順序



注※ AOMPLUSのACONARC制御機能を使用する場合に定義する

入出力機器の定義

- チャンネル，入出力制御装置，入出力装置を定義します。ACONARC 用の定義をする場合，ACOD 名称を定義します。
- 装置割り当て順序を定義します。

接続の定義

入出力機器の定義をしてから，機器間の接続を定義します。ACONARC を使用する場合，ACOD 名称を定義してから，チャンネル・ACOD・入出力制御装置の接続，およびリンクアドレスを定義します。

装置タイプ・装置グループの定義

入出力装置を定義してから，装置タイプ，装置グループを定義します。

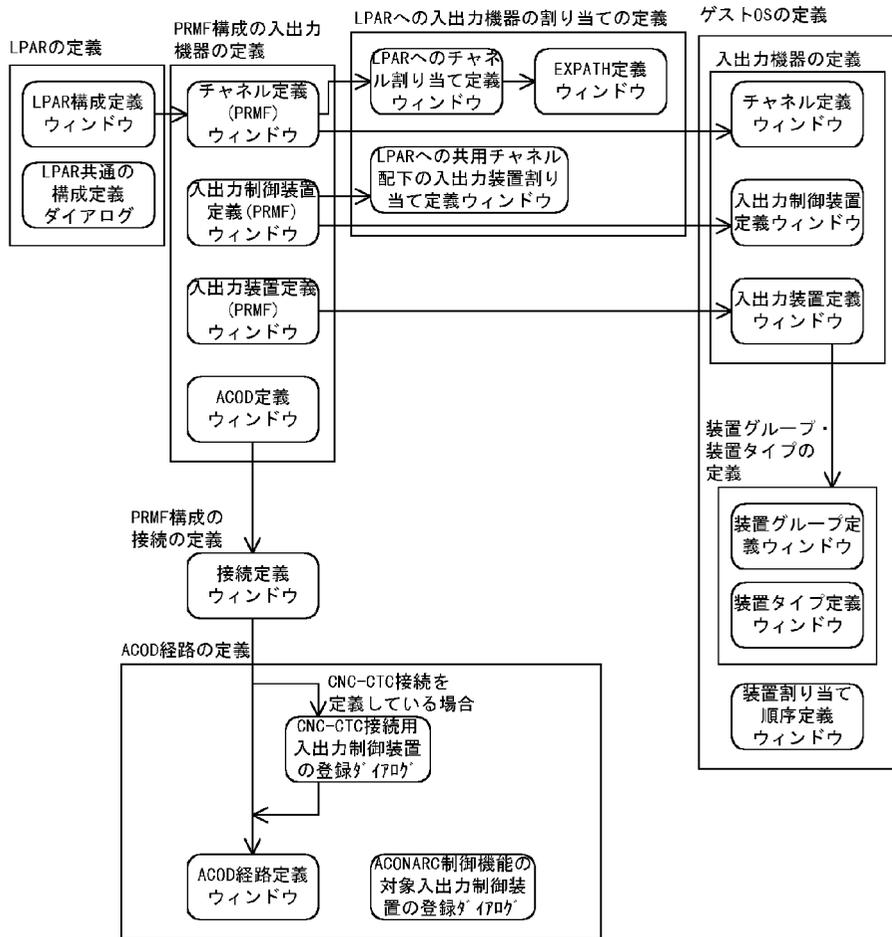
ACOD 経路の定義

- 接続の定義をしてから，ACOD 経路を定義します。CNC-CTC 接続をする場合は，ACOD 経路を定義する前に CNC-CTC 用の入出力制御装置を登録する必要があります。
- ACONARC 制御機能の対象範囲を登録します。

2.1.6 PRMF を使用する場合の定義順序

PRMF を使用する場合の定義順序を図 2-9 に示します。

図 2-9 PRMF を使用する場合の定義順序



LPAR 構成の定義

LPAR および LPAR のオプション機能を定義します。また、すべての LPAR に共通する機能を定義します。

PRMF 構成の入出力機器の定義

- チャンネル、入出力制御装置、入出力装置を定義します。
- ACONARC を使用する場合、ACOD 名称を定義します。

LPAR への入出力機器の割り当ての定義

- チャンネルと LPAR の割り当てを定義します。
- 入出力装置に接続するチャンネルのチャンネルタイプの組み合わせを定義します。

- LPAR で使用できる入出力装置の割り当てを定義します。

ゲスト OS の定義

- ゲスト OS で使用するチャンネル，入出力制御装置，入出力装置を定義します。
- 装置割り当て順序を定義します。
- 入出力装置を定義してから，装置タイプ，装置グループを定義します。

PRMF 構成の接続の定義

入出力機器を定義してから，機器間の接続を定義します。ACONARC を使用する場合，ACOD 名称を定義してから，チャンネル・ACOD・入出力制御装置の接続，およびリンクアドレスを定義します。

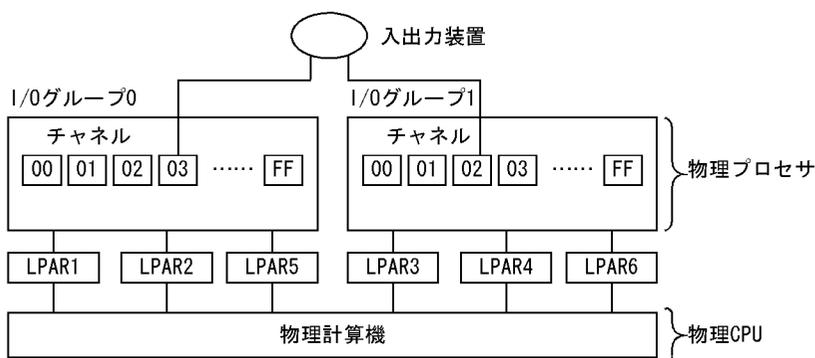
ACOD 経路の定義

- 接続の定義をしてから，ACOD 経路を定義します。CNC-CTC 接続をする場合は，ACOD 経路を定義する前に CNC-CTC 用の入出力制御装置を登録する必要があります。
- ACONARC 制御機能の対象範囲を登録します。

2.1.7 512 チャンネル構成の定義

512 チャンネル構成は，一つの物理計算機（物理 CPU）を論理的に 2 分割し，従来からの 256 チャンネル構成を I/O グループとし，二つの I/O グループ（I/O グループ 0 および 1）で 512 チャンネル構成を実現します。SCMRF CD for Windows では，システム構成の設定で一つの I/O グループを従来からの 256 チャンネル構成である物理プロセサ，二つの I/O グループを物理 CPU として定義することによって，512 チャンネル構成の定義を可能とします。512 チャンネル構成の概要を図 2-10 に示します。

図 2-10 512 チャンネル構成の概要



512 チャンネル構成定義時の注意事項

二つの I/O グループ間で，LPAR 番号および LPAR 名称が重複することはできません。

2.1.8 エラーのチェック・表示機能

SCMRF CD for Windows では、定義データに対してエラーチェックを実行できます。エラーチェックの結果はエラーの表示機能で確認できます。エラーチェックの結果を表示しながら、定義データのエラーを修正できます。

(1) エラーチェックの内容

次に示すエラーチェックが実行されます。

- VOS3 のシステムゼネレーション・AOMPLUS の AOPCV ユティリティ・PRMA E2 または PRMA E3 の HLUSSCP と同等のシンタクスチェック
- 入出力構成と ACOD 構成の整合性チェック
- PRMF 構成と ACOD 構成の整合性チェック
- PRMF 構成とゲスト OS の入出力構成の整合性チェック

注

表 2-4 に示すエラーチェックは SCMRF CD for Windows では実行しません。ホスト側で入出力構成定義データの場合は SCCP を、PRMF 構成定義データの場合は HLUSSCP を実行してチェックしてください。

表 2-4 SCMRF CD for Windows でチェックしない内容

項番	分類	SCMRF CD for Windows でチェックしない内容	ホスト側でチェックを実行するプログラム
1	統一性のチェック	<ul style="list-style-type: none"> • チャンネルクラスタ内にチャンネルタイプが混在していないか (ACONARC チャンネルと非 ACONARC チャンネルとが混在していないか) のチェック • 入出力装置を複数の入出力制御装置に接続する場合の装置アドレスの差分が一致しているかのチェック 	SCCP および HLUSSCP
2	論理制御装置 (LCU) に関する整合性チェック	<ul style="list-style-type: none"> • 台数の制限のチェック • LCU 内に同じチャンネルが含まれている構成かのチェック • LCU 内で入出力制御装置が統一されているかのチェック • 一つの入出力制御装置が複数の LCU に属していないかのチェック • LCU 内の入出力装置が、入出力制御装置ごとに異なる装置アドレスである構成かのチェック 	SCCP および HLUSSCP

項番	分類	SCMRF CD for Windows でチェックしない内容	ホスト側でチェックを実行するプログラム
3	上限値のチェック	• BLMPX チャンネルを割り当てられる本数の制限のチェック	SCCP および HLUSCCP
		• サブ装置グループ数の上限値チェック • 装置グループに定義する装置総台数の上限値のチェック	SCCP
		• サブチャンネル分割後のサブチャンネル数の上限値のチェック • LCU 分割後の LCU 数の上限値のチェック	HLUSCCP

(2) エラーチェックの契機

次に示す契機でエラーチェックが実行されます。

- プロセサのシンタクスレベル, CPU モデル, または ACONARC 装備・非装備を変更したとき
- ベーシックモードのプロセサの定義データを LPAR 上のゲスト OS に流用するとき
- データの搬入時
- データの定義時

関連するほかの定義ウィンドウの定義内容もチェックされます。ただし、定義内容の変更によってエラーが解消される場合、関連するほかの定義ウィンドウではエラーが解消されないことがあります。この場合は、エラーの発生している定義内容を一度編集状態にしてからレコードの保存を実行してください。エラーチェックが実行されエラーが解消されます。

- 構成定義データチェックの実行時
定義中に表示されていないでも搬出できないエラーをチェックするため、構成定義データチェックの実行を指定すると、エラーチェックが実行されます。
- データの搬出時

(3) チェック結果の表示

エラーを確認するためには、次に示す表示機能を使います。

(a) 構成定義ウィンドウでのエラーメッセージの表示

構成定義ウィンドウでエラーがあると、エラー番号が表示されます。ウィンドウに表示されたエラー番号から、エラーメッセージを表示できます。

(b) エラー情報の表示

次に示すエラー情報を表示できます。

エラー件数の表示

構成定義ウィンドウごとのエラーの件数を表示できます。

エラーの詳細表示

構成定義ウィンドウごとのエラーのある個所をすべて表示できます。

定義データのエラーの表示

構成定義ウィンドウに表示できないエラーを表示できます。

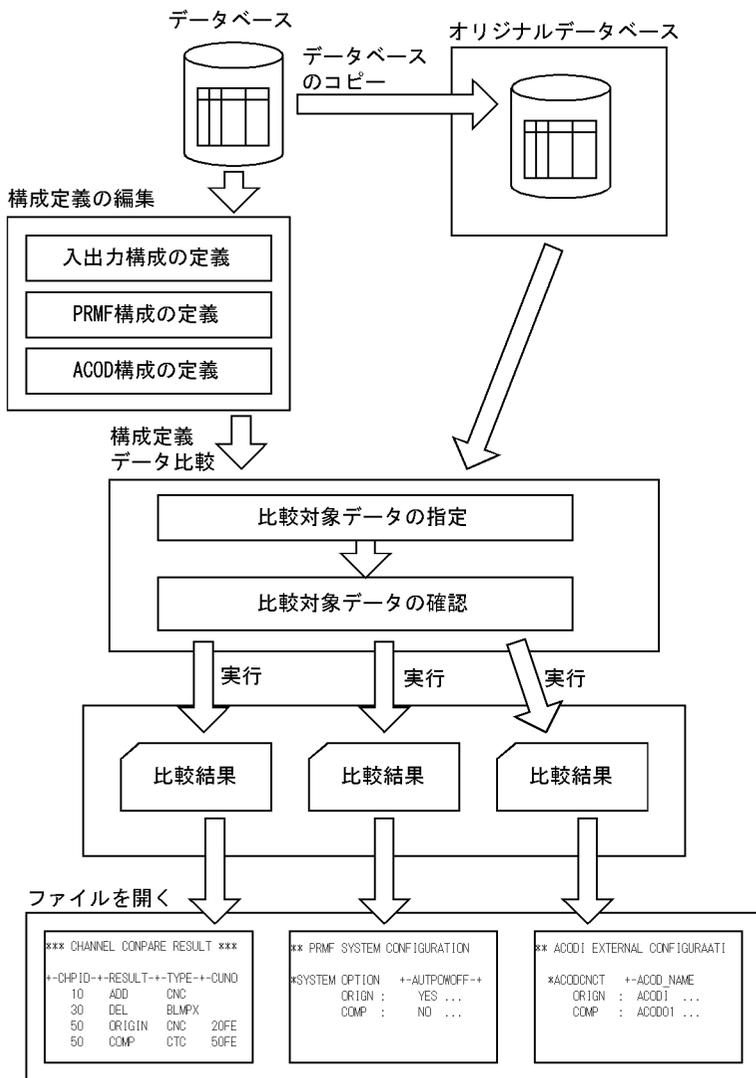
PRMF 構成と LPAR 上のゲスト OS との不整合エラーの表示

PRMF 構成と一致しないゲスト OS の定義データのエラーを表示できます。

2.1.9 構成定義データの比較

入出力構成定義データ、PRMF 構成定義データ、および ACOD 構成定義データは編集する前のデータと比較をして、編集結果の確認ができます。比較機能の概要を図 2-11 に示します。

図 2-11 構成定義データの比較機能の概要



(1) 比較の単位

比較は入出力構成定義データ同士、PRMF 構成定義データ同士、および ACOD 構成定義データ同士を比較します。そのため、比較結果を確認することで構成定義の編集で行った内容が確認できます。

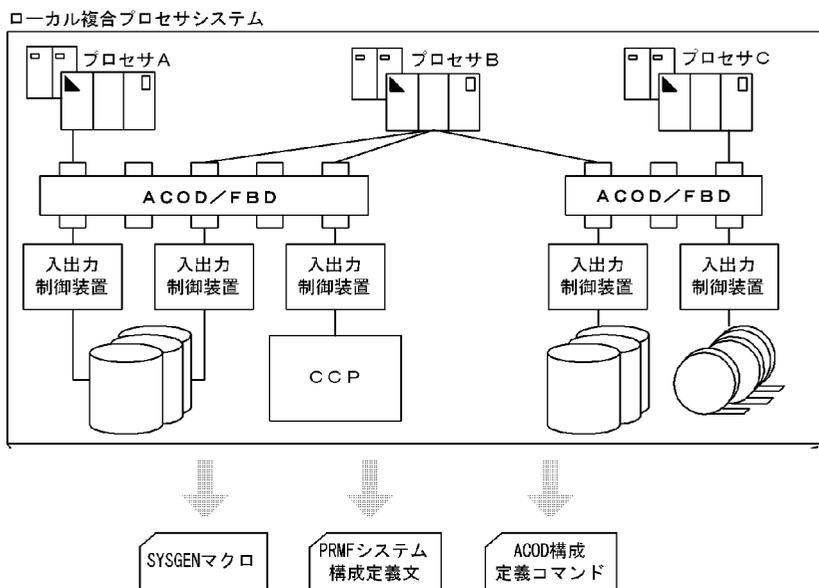
(2) 比較結果を確認する

比較結果のファイルは比較処理の終了後、自動的に開くことができます。そのため、結果確認のためにファイルを開くというわずらわしい操作は不要となります。この機能はオプションによって選択できます。

2.1.10 FBD の定義

SCMRF CD for Windows では、ACOD と同じように FBD を定義できるので、FBD を含めた機器全体を管理できます。FBD を含めた入出力構成管理を図 2-12 に示します。

図 2-12 FBD を含めた入出力構成管理



ホストへの搬出

- VOS3 には FBD を管理するプログラムが存在しないため、FBD の定義は ACOD 構成情報の搬出時に削除されます。
- FBD と ACOD の両方を定義した場合は、ACOD に関する定義だけが ACOD 構成情報として搬出されます。

(1) FBD の定義方法

SCMRF CD for Windows では、ACOD と同じように FBD を定義できるので、FBD を含めた機器全体を管理できます。

FBD の定義方法、定義順序は ACOD と同じです。システム構成の設定ウィンドウのディレクタ定義オプションで「FBD を定義する (B)」を指定すると、FBD が定義できる

ようになります。

ディレクタ定義オプションの指定値と表示される定義ウィンドウの関係を表 2-5 に示します。

表 2-5 ディレクタ定義オプションの指定値と表示される定義ウィンドウの関係

ディレクタ定義オプション	定義ウィンドウ
「FBD を定義する (B)」を指定	FBD の定義ウィンドウ (例) ディレクタ定義ウィンドウ
「FBD を定義する (B)」と「ACOD を定義する (K)」の両方を指定	FBD と ACOD の両方を定義するウィンドウ (例) ディレクタ定義ウィンドウ
「ACOD を定義する (K)」を指定	ACOD の定義ウィンドウ (例) ACOD 定義ウィンドウ

(2) FBD と ACOD のウィンドウの対応

システム構成の設定ウィンドウのディレクタ定義オプションで「FBD を定義する (B)」が指定されている場合は FBD の定義ウィンドウ、「ACOD を定義する (K)」が指定されている場合は ACOD の定義ウィンドウが表示されます。

FBD と ACOD の定義ウィンドウの対応は次のとおりです。

< FBD と ACOD で名称が異なる定義ウィンドウ >

FBD と ACOD で名称が異なる定義ウィンドウを表 2-6 に示します。

表 2-6 FBD と ACOD で名称が異なる定義ウィンドウ

FBD	ACOD
ディレクタ定義ウィンドウ	ACOD 定義ウィンドウ
ディレクタ経路定義ウィンドウ	ACOD 経路定義ウィンドウ
ディレクタ経路不整合エラー情報表示ウィンドウ	ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ
ディレクタ名称指定ダイアログ	ACOD 名称指定ダイアログ
CNC/FC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログ	CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログ
構成定義表示 (ディレクタ) ウィンドウ	構成定義表示 (ACOD) ウィンドウ

FBD の定義ウィンドウでは、対応する ACOD 定義ウィンドウの表示項目名の「ACOD」が、「DIR」または「ディレクタ」になります。

< FBD と ACOD で名称が同じ定義ウィンドウ >

次のウィンドウは、FBD と ACOD で同じウィンドウ名称ですが、システム構成の設定ウィンドウのディレクタ定義オプションの指定値によって、ウィンドウ内の表示項目名が異なります。

- エラー情報詳細表示ウィンドウ
- エラー情報表示ダイアログ
- 構成定義表示（チャンネル）ウィンドウ
- 構成定義表示（ポート）ウィンドウ
- 構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウ
- 構成定義表示（入出力装置）ウィンドウ
- 構成定義表示ダイアログ
- 接続ウィンドウ
- 変更記録表示（ポート）ウィンドウ
- 変更記録表示ダイアログ
- ポートアドレスの変更ダイアログ
- ポートアドレス使用状況ウィンドウ
- ポートアドレス使用状況ダイアログ

ディレクタ定義オプションの指定値とウィンドウ内の表示項目の対応を表 2-7 に示します。

表 2-7 ディレクタ定義オプションの指定値とウィンドウ内の表示項目の対応

ディレクタ定義オプション	ウィンドウ内の表示項目名
「FBD を定義する (B)」だけを指定	「DIR」または「ディレクタ」(ただし「DIR モデル」は表示されません)
「FBD を定義する (B)」と「ACOD を定義する (K)」の両方を指定	「DIR」または「ディレクタ」
「ACOD を定義する (K)」だけを指定	「ACOD」

(3) FBD 定義時の注意事項

FBD 使用時の注意事項, および FBD に関連する SYSGEN マクロと PRMF システム構成定義文の追加情報については, マニュアル「センタ運営」を参照してください。

2.2 構成定義支援機能

入出力構成，ACOD 構成，および PRMF 構成を定義するときの支援機能について説明します。

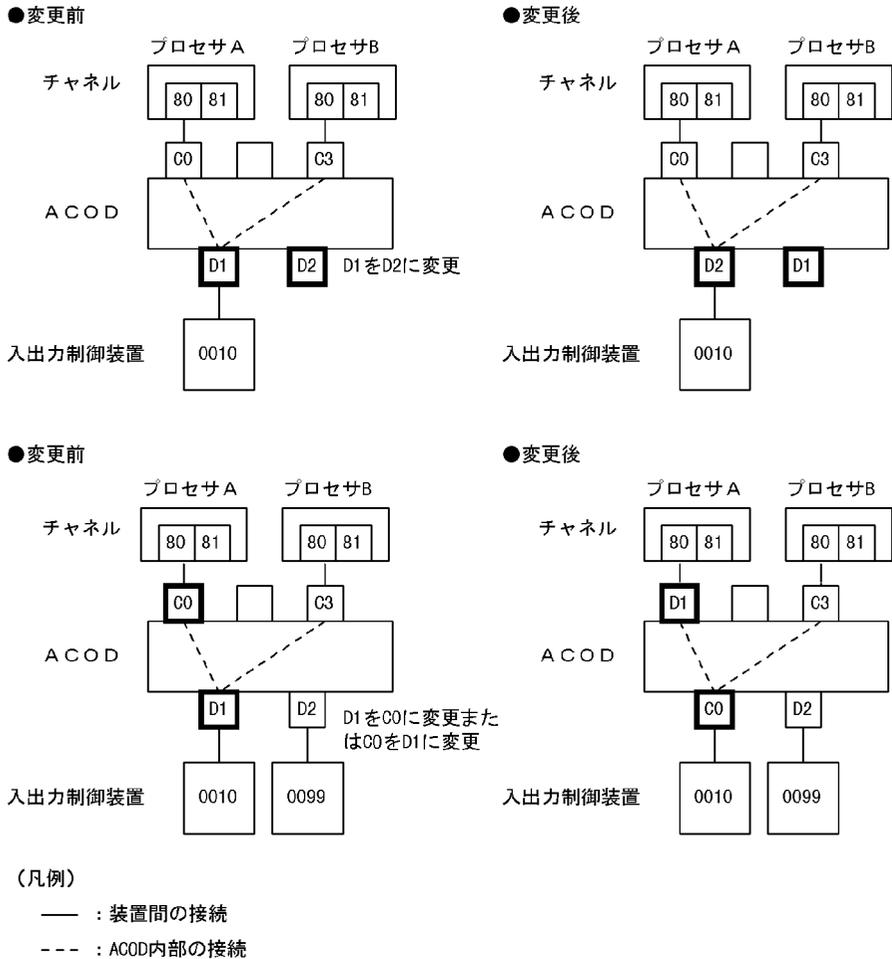
2.2.1 ポートアドレス変更機能

ポートの接続を変更する場合，あるポートの定義をほかのポートに置き換えることで定義が変更できます。この機能を「ポートアドレス変更機能」と呼びます。

ACOD 定義ウィンドウで，あるポートをほかのポートに変更することを指定すると，変更前のポートに定義されていた外部接続先・内部接続先と，変更後のポートに定義されていた外部接続先・内部接続先が置き換わります。

ポートアドレスの変更例を図 2-13 に示します。

図 2-13 ポートアドレスの変更例

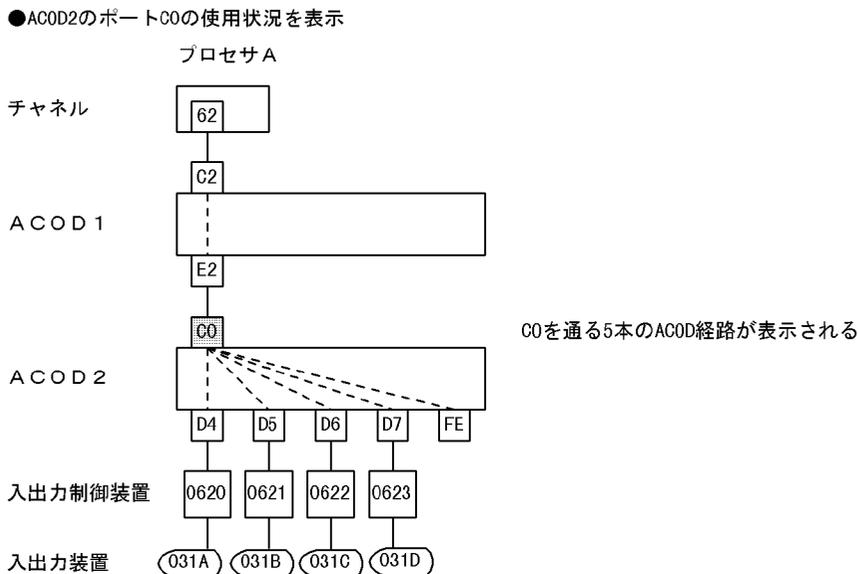


2.2.2 ポートアドレスの使用状況表示機能

ACOD のポートアドレスの使用状況を確認するため、あるポートを経由する ACOD 経路の情報が一覧で表示できます。この機能を「ポートアドレスの使用状況表示機能」と呼びます。ACOD 経路定義ウィンドウで定義したいポートがコンボボックスに表示されない場合、そのポートがどこで定義されているかをポートアドレスの使用状況表示機能によって確認できます。

ポートアドレスの使用状況表示機能を図 2-14 に示します。

図 2-14 ポートアドレスの使用状況表示機能



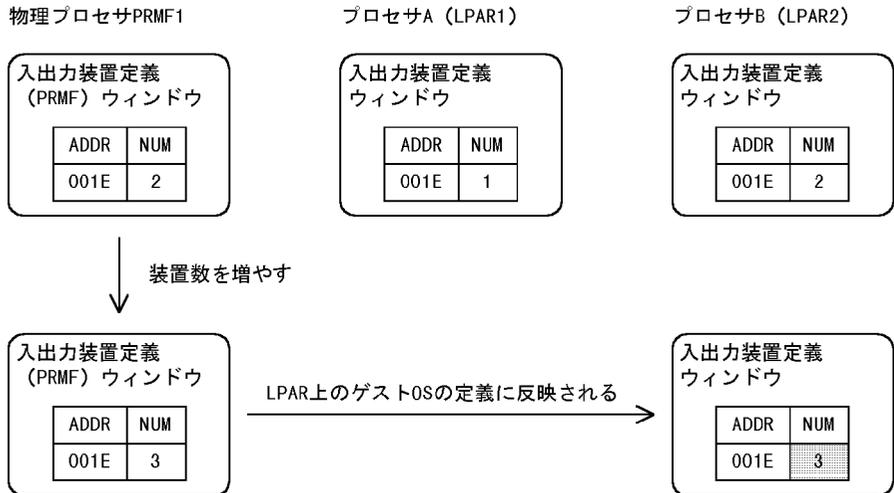
ポートアドレスの使用状況を表示するには、ACOD 名称とポートアドレスを指定します。

2.2.3 オプション機能

各種操作での SCMRF CD for Windows の動作環境を設定できます。次に示す設定があります。

- 入出力制御装置定義オプション
入出力制御装置定義ウィンドウおよび入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウの定義シート内で IOC 名称を表示する位置を指定できます。
- 入出力装置定義オプション
入出力装置定義ウィンドウおよび入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウの定義シート内で管理名称を表示する位置を設定できます。
また、PRMF 構成の入出力装置の定義で装置数を増やしたとき、LPAR 上のゲスト OS の入出力装置の定義でも同期して装置数を自動的に増加させるかどうかを設定できます。
入出力装置定義オプションの例を図 2-15 に示します。

図 2-15 入出力装置定義オプションの例



- 搬入オプション

入出力構成定義初期データ、PRMF 構成定義初期データを搬入するとき、データ中の CONTRLR マクロ（文）の LNKA に FE が定義されていると、その制御装置は ACOD として格納されるため、ACOD モデルを入力します。この ACOD モデルを設定できます。仮定値を設定しておけば、搬入時に ACOD モデルを指定する必要がありません。ただし、この仮定値が適用されるのは、搬入によって新規に格納される ACOD だけです。搬入前にすでにデータベース中に定義されていた ACOD にデータを搬入する場合は、定義済みの ACOD モデルが適用されます。

- ゼネレーションパラメタ生成オプション

拡張子を省略したときにファイル名に付ける拡張子が定義できます。また、ゼネレーションパラメタ生成後に、そのファイルを開くことを指定できます。

- 構成定義データ比較オプション

構成定義データ比較機能で出力するファイル名称に付ける拡張子が定義できます。また、比較結果の出力ファイルを開くこと、および構成定義データの変更日や変更したユーザなどの履歴を比較結果に出力することを設定できます。

- ファイル転送オプション

ファイル転送する場合に必要なホストの接続情報を設定します。また、搬入、搬出またはゼネレーションパラメタ生成と同期してファイル転送を実行するかどうかを設定できます。

- 編集オプション

編集操作で次の機能を有効にするかどうかを設定します。

- ウィンドウ内で連携したレコードを含むコピーおよび貼り付け
- 複数行コメントの一括コピーおよび貼り付け

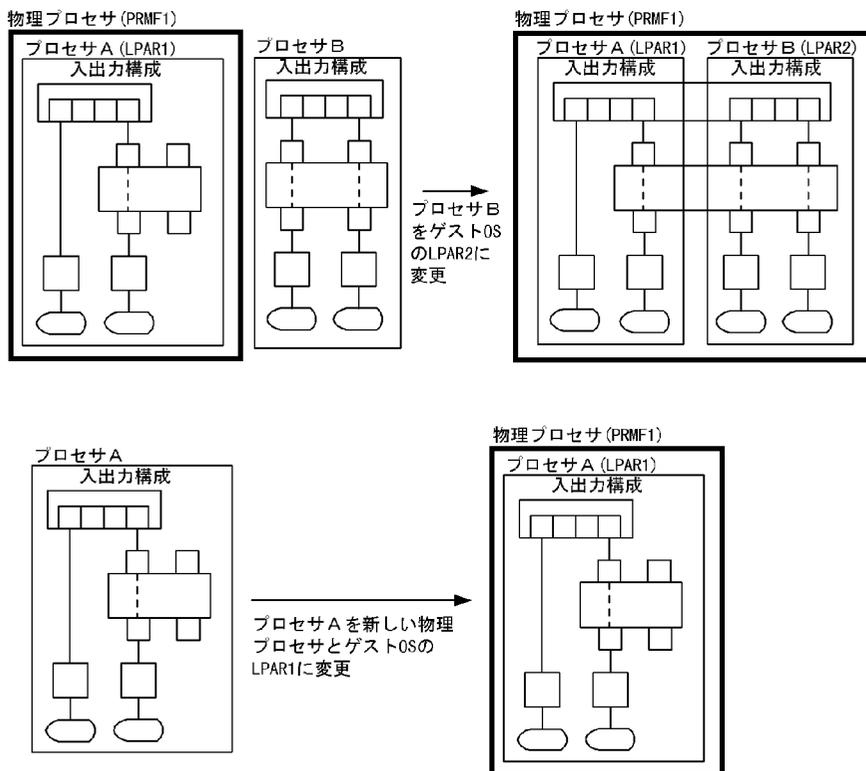
2.2.4 ベーシックモードのプロセサの定義データのゲスト OS への流用

ベーシックモードのプロセサの入出力構成定義データを、LPAR モードのプロセサの入出力構成定義データ（ゲスト OS）に流用できます。また、ベーシックモードのプロセサの入出力構成定義データを流用して、新しい PRMF 構成定義データと入出力構成定義データ（ゲスト OS）を作成できます。

システム構成の設定ウィンドウで、変更するベーシックモードのプロセサ、および変更後のゲスト OS が動作する LPAR と物理プロセサを指定します。このとき、定義していない LPAR および物理プロセサを指定すると、新しい PRMF 構成定義データと入出力構成定義データ（ゲスト OS）が追加されます。

入出力構成のゲスト OS への流用を図 2-16 に示します。

図 2-16 入出力構成のゲスト OS への流用



(凡例)

- : PRMF 構成
- : 装置間の接続
- : ACOD 内部の接続
- : チャンネル
- : 入出力制御装置
- : 入出力装置

2.2.5 256 チャンネル構成の物理プロセサの I/O グループへの流用

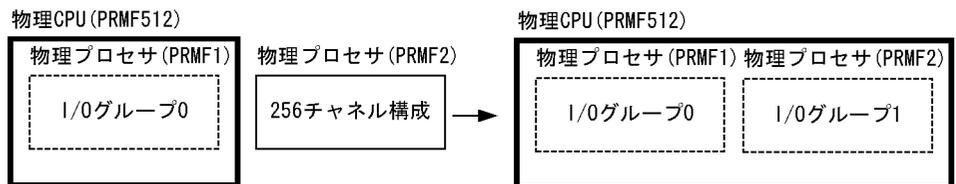
256 チャンネル構成の物理プロセサの PRMF 構成定義データを、512 チャンネル構成の一つの I/O グループ（物理プロセサ）に流用できます。また 256 チャンネル構成の物理プロセサの PRMF 構成定義データを流用して、新しい 512 チャンネル構成（物理 CPU）と一つの I/O グループ（物理プロセサ）を作成できます。

システム構成の設定ウィンドウで、流用する物理プロセサ、および変更後の I/O グループに対応する物理 CPU 名称と I/O グループ番号を指定します。

物理プロセサの I/O グループへの変更を図 2-17 に示します。

図 2-17 物理プロセサの I/O グループへの変更

(例1) 物理プロセサPRMF2をI/Oグループ1に変更する



(例2) 物理プロセサPRMF1を新しい物理CPUとI/Oグループ0に変更する



(凡例)

- : 512チャンネル構成
- : 256チャンネル構成
- : I/Oグループ

2.2.6 ストージ計算機能

ストレージ計算機能は、VOS3 システムのメモリ所要量（ニュークリアス領域）を SCMRF CD for Windows によって定義した入出力構成定義データを基に自動計算する機能です。ストレージ計算機能の概要を図 2-18 に示します。

ストレージ計算機能で自動計算対象とするニュークリアス領域を図 2-19 に示します。

図 2-18 ストージ計算機能の概要

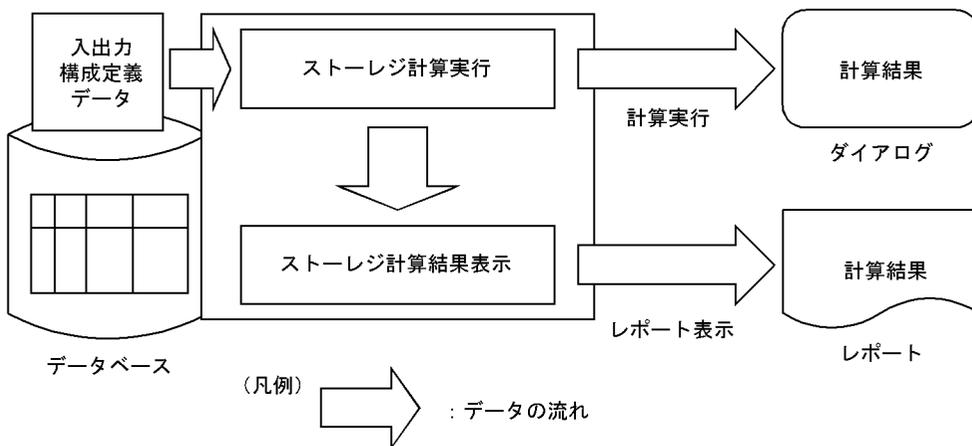
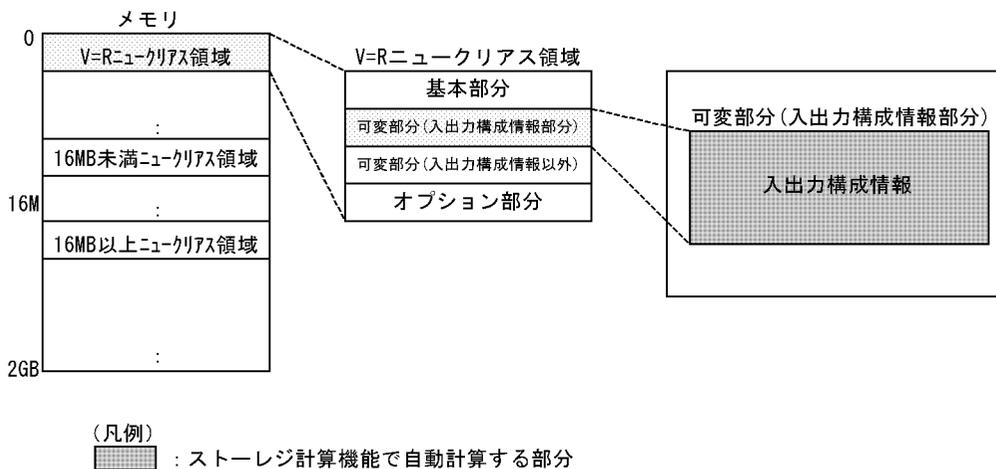


図 2-19 自動計算対象とするニュークリアス領域



2.3 定義データの管理機能

SCMRF CD for Windows では、データベースをシステム（ローカル複合プロセサシステムまたは単一システム）全体であるとして管理します。入出力構成定義データおよび PRMF 構成定義データは、それぞれが一つのプロセサとして管理します。また、ACOD 構成定義データは 1 システムに一つで管理します。

2.3.1 データの管理情報

データベースおよび定義データには、データの管理情報を設定します。また、データベースや定義データにコメントを付けて管理に利用できます。

データの管理情報とコメントは、定義データと一体になって搬出されます。ホストで SYSGEN マクロ、ACOD 構成情報、および PRMF システム構成定義文を生成するときにはこれらの情報は認識されません。ホストでの管理情報の流れについては、マニュアル「VOS3 システム構成管理機能 / 構成定義 SCMRF/Configuration Definition」を参照してください。

ホストから定義データを転送して再搬入した場合、データの管理情報とコメントはベースシステム情報として格納されます。ベースシステム情報については、「2.3.3 ベースシステム情報の記録機能」を、コメントについては、「2.4.1 コメント機能」を参照してください。

データの管理情報を表 2-8 に示します。

表 2-8 データの管理情報

対象	項目	指定する内容	変更
データベース	システム名称	データベースを識別するための任意の名称を指定する。	可
入出力構成定義データ	プロセサ名称	入出力構成定義データを識別するための任意の名称を指定する。ACONARC 制御機能を使用する場合は ACOD 構成中のプロセサ名称となる。	可
	シンタクスレベル	入出力構成定義データのシンタクスチェックのレベルを指定する。	可 ¹
	物理プロセサ名称	LPAR モードのプロセサの場合、LPAR が動作する物理プロセサの名称を指定する。何も指定しない場合、ベーシックモードのプロセサになる。	不可
	LPAR 番号	LPAR モードのプロセサの場合、ゲスト OS が動作する LPAR の LPAR 番号を指定する。何も指定しない場合、ベーシックモードのプロセサになる。	不可
	CPU モデル	SCCP の CPU 識別記号を指定する。ただし、S820 および S3600 は指定できない。指定した CPU 識別記号を基に、エラーチェックが実施される。	可 ¹

2. SCMRF CD for Windows の機能

対象	項目	指定する内容	変更
	ACONARC 装備・非装備	ACONARC の装備・非装備がオプションの CPU モデルに対して指定する。	可 ²
	情報識別子	入出力構成定義データの情報識別子を指定する。IOCDF に格納する際にメンバ名の下 4 けたとして使用される。	可
	構成 ID	入出力構成定義データの構成 ID を指定する。ホストのシステムゼネレーション指定と同様である。	可
	SCDS 番号	入出力構成定義データの SCDS 番号を指定する。ホストのシステムゼネレーション指定と同様である。LPAR 上のゲスト OS の場合は指定しない。	可
	IOD 番号	入出力構成定義データの IOD 番号を指定する。ホストのシステムゼネレーション指定と同様である。	可
ACOD 構成定義データ	ACONARC 制御機能の使用・未使用	AOMPLUS の ACONARC 制御機能を使用することを指定する。使用する指定にすると、ACOD 構成定義データが搬入できる。	可
	シンタクスレベル	ACOD 構成定義データのシンタクスチェックのレベルを指定する。	可
	情報識別子	ACONARC 制御機能を使用する場合、ACOD 構成定義データの情報識別子を指定する。IOCDF に格納する際にメンバ名の下 4 けたとして使用される。	可
	構成 ID	ACONARC 制御機能を使用する場合、ACOD 外部構成定義データ、ACOD 内部構成定義データで共通の構成 ID を指定する。構成 ID はホストの ACOD 構成情報に引き継がれる。	可
	ACOD 構成定義情報番号	ACONARC 制御機能を使用する場合、ACOD 外部構成定義データの ACOD 外部構成定義情報番号、ACOD 内部構成定義データの ACOD 内部構成定義情報番号を指定する。ACOD 構成定義情報番号はホストの ACOD 構成情報に引き継がれる。	可
PRMF 構成定義データ	PRMF の使用・未使用	PRMF を使用することを指定する。使用する指定にすると、PRMF 構成定義データが搬入できる。	不可
	物理プロセッサ名称	PRMF 構成定義データを識別するための任意の名称を指定する。ACONARC 制御機能を使用する場合は ACOD 構成中の物理プロセッサ名称となる。	可
	制御システム	物理プロセッサの制御システムとして使用する「プロセッサ資源分割管理機構支援」(PRMA E2 または PRMA E3) を指定する。	可 ¹
	シンタクスレベル	PRMF 構成定義データのシンタクスチェックのレベルを指定する。	可 ¹
	物理 CPU 名称	512 チャネル構成の I/O グループとする場合、I/O グループが属する物理 CPU の名称を指定する。何も指定しない場合 256 チャネル構成の物理プロセッサとなる。	不可

対象	項目	指定する内容	変更
	I/O 番号	512 チャンネル構成の I/O グループとする場合、I/O グループ番号を指定する。何も指定しない場合 256 チャンネル構成の物理プロセッサとなる。	不可
	CPU モデル	HLUSCCP の CPU 識別記号を指定する。指定した CPU 識別記号を基に、エラーチェックが実施される。	可 ¹
	ACONARC 装備・非装備	ACONARC の装備・非装備がオプションの CPU モデルに対して指定する。	可 ²
	情報識別子	PRMF 構成定義データの情報識別子を指定する。IOCDF に格納する際にメンバ名の下 4 けたとして使用される。	可
	構成 ID	PRMF 構成定義データの構成 ID を指定する。ホストの HLUSCCP での指定と同様である。	可
	SCDS 番号	PRMF 構成定義データの SCDS 番号を指定する。ホストの HLUSCCP での指定と同様である。	可
PRMF 構成定義データ (512 チャンネル構成時)	512 チャンネル拡張機能の使用・未使用	512 チャンネル拡張機能を使用することを指定する。使用する指定にすると、512 チャンネル構成定義データが搬入できる。	不可
	物理 CPU 名称	512 チャンネル構成時の物理 CPU を識別するための任意の名称を指定する。	可
	制御システム	物理 CPU の制御システムとして使用する「プロセッサ資源分割管理機構支援」(PRMA E3) を指定する。	不可
	シンタクスレベル	512 チャンネル構成定義データのシンタクスチェックのレベルを指定する。	不可
	CPU モデル	HLUSCCP の CPU 識別記号を指定する。指定した CPU 識別記号を基に、エラーチェックが実施される。	可 ¹
	ACONARC 装備・非装備	ACONARC の装備・非装備がオプションの CPU モデルに対して指定する。512 チャンネル構成では装備だけが選択できる。	可
	構成 ID	512 チャンネル構成定義データの構成 ID を指定する。ホストの HLUSCCP での指定と同様である。	可
	SCDS 番号	512 チャンネル構成定義データの SCDS 番号を指定する。ホストの HLUSCCP での指定と同様である。	可

注 1 変更した時点で定義データが新しいシンタクスレベルまたは CPU モデルに適合するかどうかのエラーチェックが実施されます。

注 2 ACONARC チャンネルが定義されているか、または PRMF を使用する場合のチャンネル属性で共用または専用を指定している場合、装備から非装備に変更できません。

2.3.2 変更記録機能

ある時点からある時点までの定義データの追加・変更・削除箇所，変更者，および変更日時を変更記録としてデータベースに保存できます。

採取

変更記録を採取します。採取された変更記録は，データベースに保存されます。SCMRF CD for Windows で管理されているすべてのデータベースが対象になります。構成定義ウィンドウで定義データを変更すると，そのつど保存されます。

採取の停止

「採取」の状態を取り消すと，変更記録の採取を停止します。構成定義ウィンドウで定義データを変更しても採取されません。変更記録は，採取を停止した時点のままデータベースに保存されています。

クリア

採取した変更記録をデータベースから消去します。

変更記録の採取を指定すると，構成定義ウィンドウで追加または変更したレコードに変更種別が表示されます。レコードを削除するとウィンドウからは消えますが，削除の変更記録は保存されます。

採取した変更記録は，ウィンドウ単位に一覧で表示できます。表示した項目は，印刷，Excel への貼り付け，または CSV 形式・DAT 形式のファイルに出力できます。

変更記録として採取される内容を表 2-9 に示します。

表 2-9 変更記録として採取される内容

構成定義ウィンドウ名	変更種別	説明	変更記録表示ウィンドウ名
チャンネル定義， チャンネル定義 (PRMF)	A	チャンネルの追加	変更記録表示 (チャンネル)
	C	属性の変更	
	D	チャンネルの削除	
入出力制御装置定義， 入出力制御装置定義 (PRMF)	A	入出力制御装置の追加	変更記録表示 (入出力制御装置)
	C	属性の変更	
	D	入出力制御装置の削除	
入出力装置定義， 入出力装置定義 (PRMF)	A	入出力装置の追加	変更記録表示 (入出力装置)
	C	属性の変更	
	D	入出力装置の削除	
接続定義	A	装置間の接続の追加	変更記録表示 (接続)
	C	装置間の接続の変更	
	D	装置間の接続の削除	

構成定義ウィンドウ名	変更種別	説明	変更記録表示ウィンドウ名
装置割り当て順序定義	A	装置割り当て順序の追加	変更記録表示 (装置割り当て順序)
	C	割り当て順序の変更	
	D	装置割り当ての削除	
装置グループ定義	A	装置グループの追加	変更記録表示 (装置グループ)
	C	<ul style="list-style-type: none"> • 装置グループ名の変更 • 装置グループを構成する装置の変更 	
	D	装置グループの削除	
装置タイプ定義	A	装置タイプの追加	変更記録表示 (装置タイプ)
	C	装置タイプの変更	
	D	装置タイプの削除	
ACOD 定義	C	ポートアドレスの変更	変更記録表示 (ポート)
ACOD 経路定義 ディレクタ経路定義	A	ACOD 経路を定義 ディレクタ経路を定義	変更記録表示 (接続), 変更記録表示 (ポート)
	D	ACOD 経路を削除 ディレクタ経路を削除	
LPAR 構成定義	A	LPAR を追加	変更記録表示 (LPAR 構成)
	C	LPAR のオプション機能の 指定値の変更	
	D	LPAR を削除	
EXPATH 定義	A	EXPATH の追加	変更記録表示 (EXPATH)
	C	EXPATH の変更	
	D	EXPATH の削除	

なお、変更記録を採取している間に次に示す操作をすると、操作とは異なる変更種別になります。

- 追加したレコードの指定値を変更する：変更種別は「A」のまま
- 追加したレコードを削除する：変更種別は「D」にならないで、追加したレコードの変更記録が消去される
- 削除したレコードと同じ内容のレコードを追加する：追加したレコードの変更種別が「A」にならないで、「C」になる

2.3.3 ベースシステム情報の記録機能

SCMRF CD for Windows では、データベースの現在のデータの管理情報とベースシステム情報の二つを管理しています。

システム構成を設定したとき、入出力構成定義データ、ACOD 構成定義データ、および PRMF 構成定義データの管理情報がベースシステム情報として記録されます。ベースシステム情報は次の契機に更新されます。

データの搬入時

搬入先のプロセサまたは物理プロセサ、および ACOD 構成のベースシステム情報が搬入データの管理情報に置き換わります。ただし、ACOD 構成定義データを搬入する場合は、データベース中にすでに ACOD 構成がある場合に限り、置き換わりません。

ベースシステム情報の切り替え

任意でベースシステム情報を現在のシステム構成に置き換えられます。このことを「ベースシステムの切り替え」と呼びます。

ベースシステム情報を表 2-10 に示します。

表 2-10 ベースシステム情報

分類	情報	システム構成の設定時	データの搬入時	ベースシステムの切り替え
入出力構成定義, PRMF 構成定義	作成日時	1		
	ベースプロセサ名称	x	2	
	CPU 識別記号	x	2	
	ACONARC 装備・非 装備	x	2	
	情報識別子	x		
	構成 ID	x		
	SCDS 番号	x		
	IOD 番号 ³	x		
	更新日時	x	2	
	コメント	x	2	
ACOD 構成定義	作成日時	1		
	ベースシステム名称	x	2	
	情報識別子	x		
	構成 ID	x		
	構成定義情報番号	x		
	更新日時	x	2	

(凡例)

○ : 記録される。

○ : 搬入するデータに定義されていない場合は、記録されない。

× : 記録されない。

注 1 入出力構成定義データの作成日時はプロセサを追加した日時，ACOD 構成定義データの作成日時は ACONARC 装備のプロセサを追加した日時，PRMF 構成定義データの作成日時は物理プロセサを追加した日時になります。

注 2 初期データの場合は記録されません。

注 3 PRMF 構成定義データの場合は記録されません。

2.4 機器管理支援機能

2.4.1 コメント機能

コメントを付けられる項目を表 2-11 に示します。

表 2-11 コメントを付けられる項目

項目	コメントを入力するウィンドウ
データベース	システム構成の設定ウィンドウ
入出力構成定義データ	システム構成の設定ウィンドウ
PRMF 構成定義データ	システム構成の設定ウィンドウ
チャンネル	チャンネル定義ウィンドウ
入出力制御装置	入出力制御装置定義ウィンドウ
入出力装置	入出力装置定義ウィンドウ
ACOD	ACOD 定義ウィンドウ
LPAR	LPAR 構成定義ウィンドウ

チャンネル，入出力制御装置，入出力装置には，一つの機器当たり，最大 99 個のコメントを付けられます。この場合，「コメント番号」と呼ぶ番号で管理します。コメント番号は 1 から 99 までの数字です。この中から使用する数字を自由に選択し，複数のコメントを管理します。

コメント機能の使用例を図 2-20 に示します。

図 2-20 コメント機能の使用例

- コメント番号 1 には接続機器用のコメントを，コメント番号 2 には設置場所用のコメントを入力する

入出力制御装置定義ウィンドウ			入出力装置定義ウィンドウ		
CUNO	コメント1	コメント2	ADDR	コメント1	コメント2
0100	10 (CNC) : MT280	センタ 7F	0340	WORK	センタ 7F
0150	18 (CNC) : CCP2	センタ 7F	0440	TEST	センタ 7F

コメントだけを抽出して一覧で表示できます。また，機器構成を表示したときに同時にコメントを表示できます。機器構成の表示については，「2.4.2 機器構成表示機能」を参照してください。

コメントは定義データと一体になって搬出されます。ホストで SYSGEN マクロ，ACOD 構成情報，および PRMF システム構成定義文を生成するとき，コメントは認識されません。ホストに転送した定義データを再搬入した場合，チャンネル，入出力制御装置，入出

力装置、ディレクタ、および LPAR に付けたコメントは、搬出したときと同じ状態で復元され、定義データに対して付けるコメントはベースシステム情報として格納されます。ベースシステム情報については、「2.3.3 ベースシステム情報の記録機能」を参照してください。

2.4.2 機器構成表示機能

機器構成表示機能では、表 2-12 に示す情報が表示できます。表示した情報は、印刷、Excel への貼り付け、または CSV 形式・DAT 形式のファイルに出力できます。

表 2-12 機器構成表示機能で表示できる情報

種別	表示単位	表示内容	表示するウィンドウ
システム構成	システム	システム構成に設定した情報、定義データの作成日時・更新日時	構成定義表示（システム構成）ウィンドウ
チャンネル	プロセサ	チャンネルを基準にした、接続している入出力制御装置、入出力装置およびポートの一覧	構成定義表示（チャンネル）ウィンドウ
入出力制御装置	プロセサ	入出力制御装置を基準にした、接続しているチャンネル、入出力装置およびポートの一覧	構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウ
入出力装置	プロセサ	入出力装置を基準にした、接続しているチャンネル、入出力制御装置およびポートの一覧	構成定義表示（入出力装置）ウィンドウ
装置グループ	プロセサ	装置グループの一覧	構成定義表示（装置グループ）ウィンドウ
装置タイプ	プロセサ	装置タイプの一覧	構成定義表示（装置タイプ）ウィンドウ
ポート	ACOD	ポートを基準にした、接続しているチャンネル、入出力制御装置、およびその他のポートの一覧	構成定義表示（ポート）ウィンドウ
ACOD	システム	システムに定義されている ACOD 名称、ACOD モデルの一覧	構成定義表示（ACOD）ウィンドウ
LPAR 構成	物理プロセサ	LPAR 構成に設定した情報	構成定義表示（LPAR 構成）ウィンドウ

注 チャンネル、入出力制御装置、入出力装置、およびポートについては、表示する範囲を指定できます。

2.4.3 ラベル名称定義機能

ラベル名称を定義できる SYSGEN マクロおよび PRMF システム構成定義文を表 2-13 に示します。

表 2-13 ラベル名称を定義できる SYSGEN マクロおよび PRMF システム構成定義文

種別	マクロ・定義文
SYSGEN マクロ	CHANNEL CONTRLR IODEVICE SCHEDULR UNITNAME(装置グループ) UNITNAME(装置タイプ)
PRMF システム構成定義文	CHANNEL CONTRLR IODEVICE PFKEY EXPATH PARTTION

ラベル名称には、任意の名称またはチャネルパス ID や制御装置番号など構成定義内の特定のデータが指定できます。CHANNEL, CONTRLR, IODEVICE にラベル名称を定義した場合は、定義したラベル名称をコメントにコピーできます。

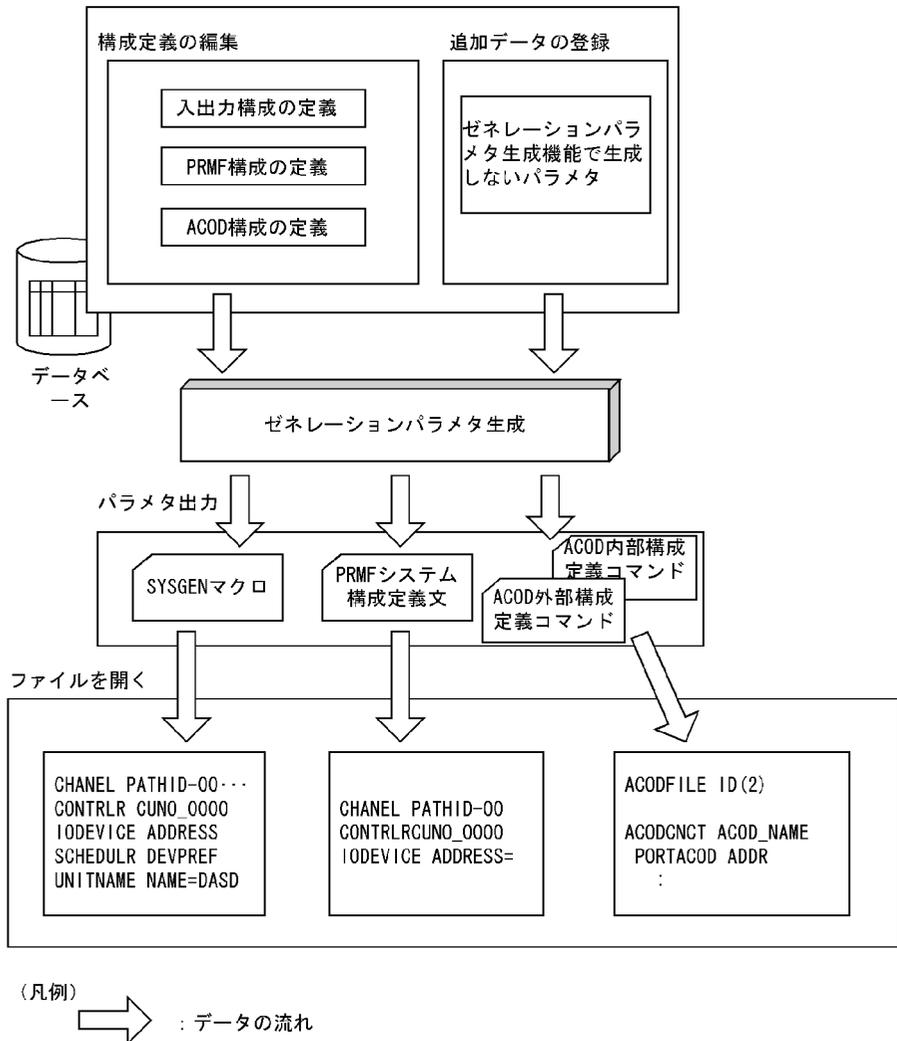
ラベル名称として構成定義内の特定のデータを定義した場合、データがラベル名称のシンタクス条件に合わないと生成できません。定義したラベル名称が生成されるかどうかは、ラベル名称表示ウィンドウで確認できます。

2.5 ゼネレーションパラメタ生成機能

SCMRF CD for Windows で編集したデータベース中の入出力構成定義データ, PRMF 構成定義データおよび ACOD 構成定義データからゼネレーションパラメタを生成し, ファイルに出力できます。ACOD 構成定義データからゼネレーションパラメタを生成する場合は, ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで制御対象にする入出力制御装置を登録します。

ゼネレーションパラメタ生成機能の概要を図 2-21 に示します。

図 2-21 ゼネレーションパラメタ生成機能の概要



(1) SYSGEN マクロの生成

入出力構成定義データから SYSGEN マクロを生成します。入出力構成定義データから生成できる SYSGEN マクロのほかに必要な SYSGEN マクロは、追加データ登録機能を使用して作成してください。生成の対象となる SYSGEN マクロを表 2-14 に示します。

表 2-14 生成の対象となる SYSGEN マクロ

マクロ名	生成対象	同一マクロ内での出力順序
CHANNEL		PATHID の昇順に出力
CONTRLR		CUNO の昇順に出力
IODEVICE		ADDRESS の昇順に出力
SCHEDULR		- (1 文しか生成されない)
UNITNAME		NAME の昇順に出力
CONSOLE	×	ユーザが登録した順序で出力
DATASET	×	
SCCPCTRL	×	
GENERATE	×	
SYSOPT	×	
JSLDUMP	×	
END		

(凡例)

: 生成します。

: 定義されている場合に生成します。

×: 生成しません。追加データ登録機能を使用して作成してください。

(2) PRMF システム構成定義文の生成

PRMF 構成定義データから PRMF システム構成定義文を生成します。生成の対象となる PRMF システム構成定義文を表 2-15 に示します。

表 2-15 生成の対象となる PRMF システム構成定義文

定義文名	生成対象	同一定義文内での出力順序
IIOGROUP		START, END の順に出力 512 チャネル構成定義データの出力時, 256 チャネル構成 (CHANNEL ~ LPARDEF) の先頭と最後にそれぞれ START と END を出力する
CHANNEL		PATHID の昇順に出力
CONTRLR		CUNO の昇順に出力
IODEVICE		ADDRESS の昇順に出力

定義文名	生成対象	同一定義文内での出力順序
LPARDEF		START, END の順に出力 PIP ~ LOADUNIT の先頭と最後にそれぞれ START と END を出力する
PIP		-
SYSOPT	1	-
PFKEY		PFNO の昇順に出力
EXPATH		LABEL(EXPATH 定義ウィンドウによる定義) 名称の昇順に出力
PARTTION		NUMBER の昇順に出力 PARTTION ~ LOADUNIT を LPAR 数分繰り返す
CPU		-
IP		-
STORAGE		-
OPTION	1	-
FEATOPT	1	-
CH	x 2	-
LOADUNIT		-

(凡例)

- : 生成します。
- : 定義されている場合に生成します。
- x : 生成しません。

注 1 省略時の仮定値以外が指定されている場合に生成します。

注 2 CHANNEL 文の ATTR, LPAR, LPARDEF, R オペランドに変換されます。

(3) ACOD 構成定義コマンドの生成

ACOD 構成定義データから ACOD 外部構成定義コマンド, および ACOD 内部構成定義コマンドを生成します。生成の対象となる ACOD 外部 / ACOD 内部構成定義コマンドを表 2-16 および表 2-17 に示します。

表 2-16 生成の対象となる ACOD 外部構成定義コマンド

コマンド名	生成対象	同一コマンド内での出力順序
ACODFILE		-
ACODCNCT		ACOD_NAME の昇順に出力 ACODCNCT ~ ACODEND を ACOD 数分繰り返す
PORTACOD		ADDR の昇順に出力 ただし, ACONARC の制御対象にならない ADDR に関しては出力しない。

2. SCMRF CD for Windows の機能

コマンド名	生成対象	同一コマンド内での出力順序
ACODEND		-

(凡例)

: 生成します。

表 2-17 生成の対象となる ACOD 内部構成定義コマンド

コマンド名	生成対象	同一コマンド内での出力順序
LINKFILE		-
ACODLINK		ACOD_NAME の昇順に出力 ACODLINK ~ ENDLINK を ACOD 数分繰り返す
PORTLINK		ADDR の昇順に出力する。 ただし, ACONARC の制御対象にならない ADDR に関しては出力しない。
ENDLINK		-

(凡例)

: 生成します。

2.6 追加データ登録機能

構成定義データ以外に、ホストの入出力機器の構成を定義・管理する上で必要となるデータを追加データとしてデータベースに登録して編集・管理することができます。この機能を追加データ登録機能と呼びます。

追加データ登録機能では、次のようなデータを登録することができます。

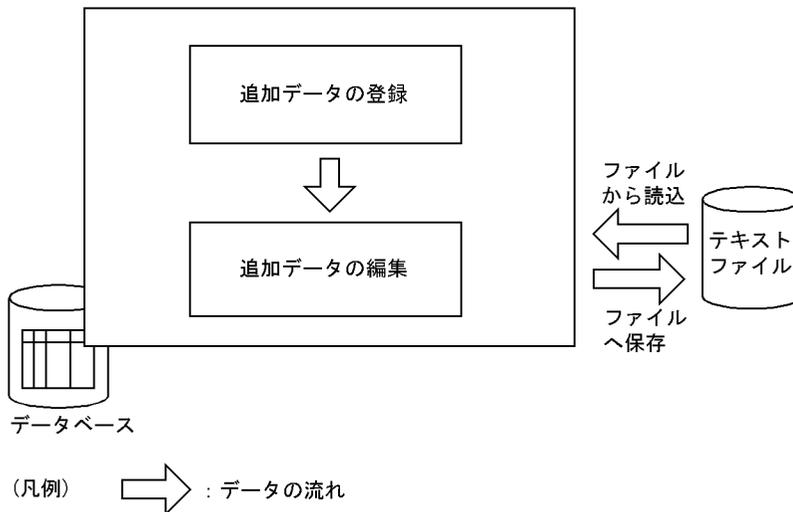
- ゼネレーションパラメタ生成機能では生成されないゼネレーションパラメタ
- ホスト側でゼネレーションを実行する際に必要な JCL
- 入出力機器の構成を管理する上で必要なコメント情報

これらのデータを追加データとして登録することで、ホストの入出力機器の構成を定義・管理する上で必要となるさまざまなデータをデータベースで一括して管理することができます。ただし、テキスト形式以外のデータを追加データとして登録することはできません。

また、追加データ登録機能ではテキスト形式のファイルを入力して追加データとしてデータベースに登録したり、データベースに登録している追加データをテキスト形式のファイルに出力したりすることができます。

追加データ登録機能の概要を図 2-22 に示します。

図 2-22 追加データ登録機能の概要



2.7 操作支援機能

操作支援機能は次の機能で構成されています。

- 編集支援機能

2.7.1 編集支援機能

SCMRF CD for Windows による各種ゼネレーションパラメタ定義で、定義済みデータのコピー・貼り付けによる定義データの流用など、定義操作をより効率よく行うための機能です。主な機能を以下に示します。

(1) 同一ウィンドウ内での連携レコードのコピーおよび貼り付け

定義ウィンドウ内に複数の定義シートがある場合、定義シート間の関係は通常 1 対多の関係となります。この場合、定義シート内のレコードを選択すると、そのレコードに連携する別定義シートのレコードを含めたレコードをコピーおよび貼り付けします。図 2-23 に連携レコードのコピーおよび貼り付けの概要を示します。

図 2-23 連携レコードのコピーおよび貼り付け

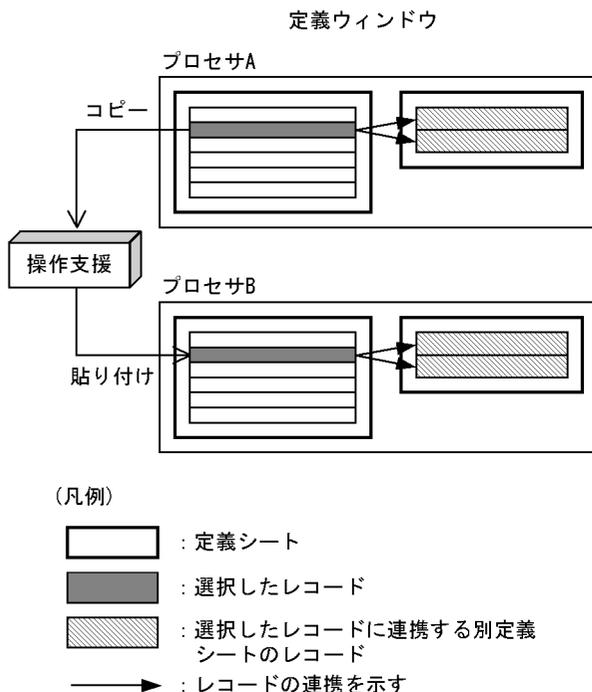
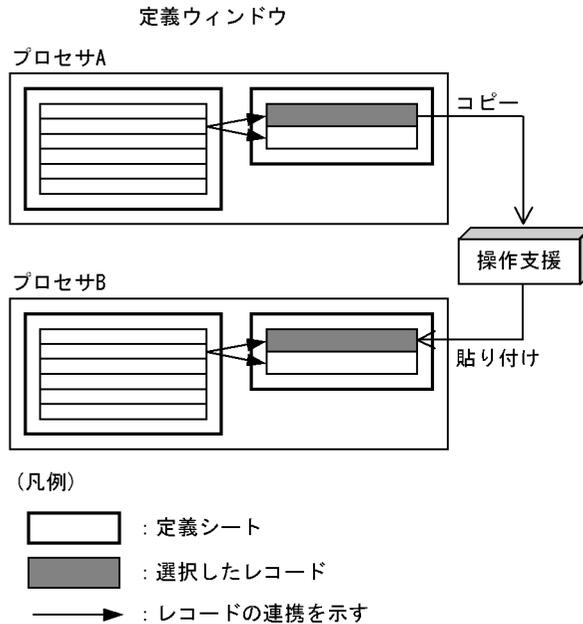


図 2-24 に示すような場合は、連携レコードのコピーおよび貼り付けとはならない。この場合は、選択したレコードだけがコピーおよび貼り付けられる。

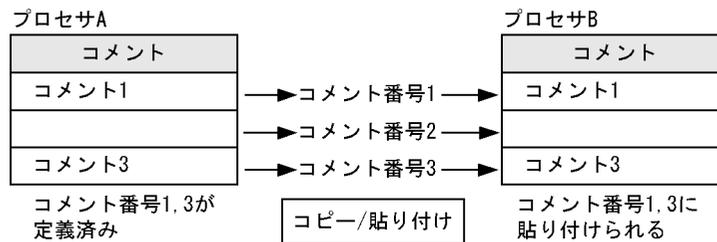
図 2-24 連携レコードのコピーおよび貼り付けとまらない場合



(2) 複数コメント行の一括コピーおよび貼り付け

複数コメント行のコピーおよび貼り付けは、複数行のコメント（最大 99 個）定義ができるチャンネル、入出力制御装置および入出力装置定義ウィンドウで、表示されていない部分も含め一括してコピーまたは貼り付けるものです。図 2-25 に複数コメント行のコピーおよび貼り付けの概要を示します。なお、コピー元と貼り付け先のコメント番号は、それぞれ対応した位置に貼り付けられます。

図 2-25 複数コメント行のコピーおよび貼り付け



2.8 搬入・搬出機能

ホストから転送されたデータは、転送ファイルに格納されます。転送ファイルからデータベースにデータを格納するための機能が搬入機能です。また、ホストにデータを転送するには、データベースから転送ファイルにデータを格納します。このための機能が搬出機能です。

2.8.1 データベースと転送ファイルの関係

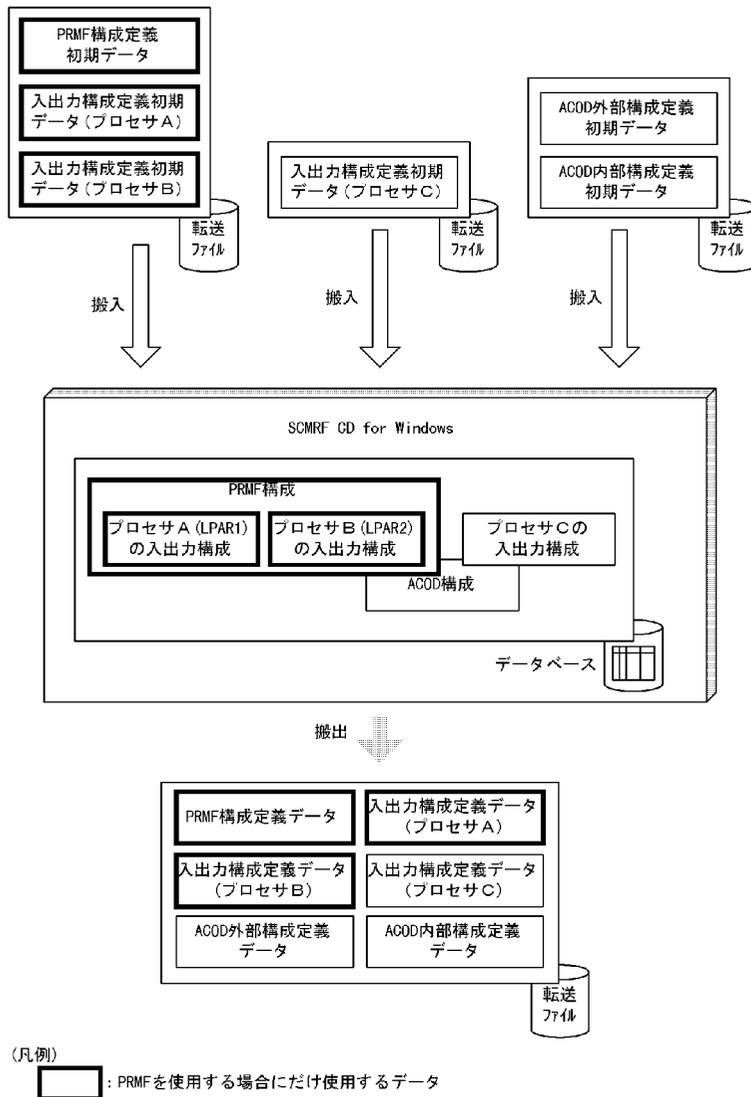
転送ファイルには、ホストから転送されたデータが格納されています。これらのデータをデータベースに格納するには、転送ファイル名とその転送ファイルに格納されているデータの情報識別子を指定します。

複数のデータを一つの転送ファイルから搬入できます。また、複数のデータが異なる複数のファイルに格納されていても搬入できます。ただし、ACOD 外部構成定義データと ACOD 内部構成定義データは、必ず一つの転送ファイルから同時に搬入します。

搬出の場合は、一回の搬出操作で指定したデータは、一つの転送ファイルに格納されません。

データベースと転送ファイルの関係を図 2-26 に示します。

図 2-26 データベースと転送ファイルの関係



2.8.2 搬入機能

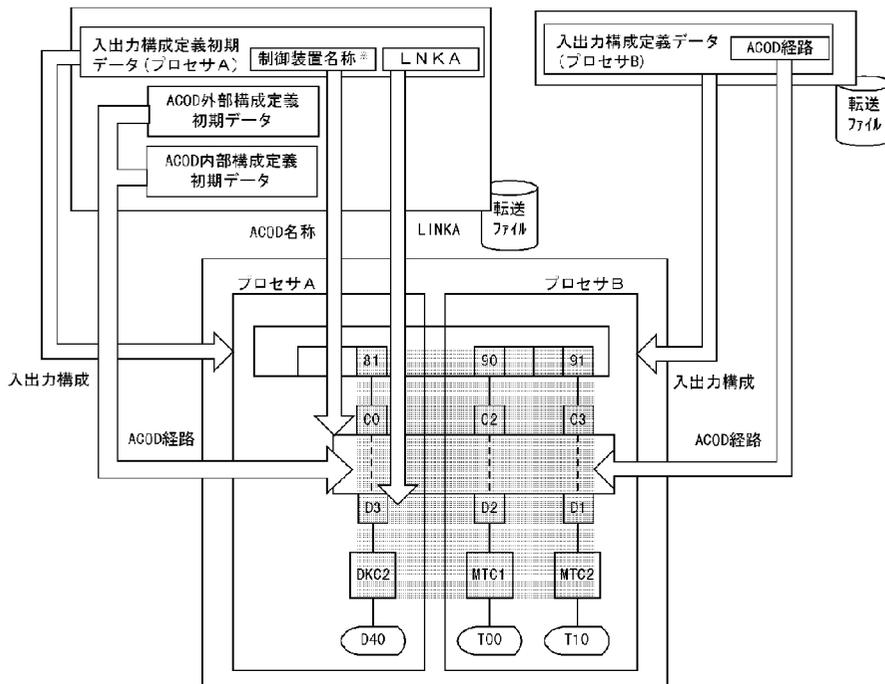
転送ファイルのデータをデータベースに格納します。

(1) 搬入の概要

ホストで作成した初期データ、または SCMRF CD for Windows で作成し、搬出したデータを、システム名称、プロセッサ名称などのシステム構成を設定したデータベースに格納します。搬入する前に、データベースのシステム構成を設定しておく必要があります。

搬入の概要を図 2-27 に示します。

図 2-27 搬入の概要



注※ PRMF構成定義初期データの場合は、制御装置番号から仮定される

(凡例)

- | | |
|---|---|
|  : ACOD構成 |  : チャンネル |
|  : 装置間の接続 |  : 入出力制御装置 |
|  : ACOD内部の接続 |  : 入出力装置 |

初期データ

- 入出力構成定義初期データ, PRMF 構成定義初期データ
搬入先プロセッサに入出力構成が格納されます。データの CONTRLR マクロの LNK A に FE が定義されていると、その IOCMN に指定した制御装置名称または制御装置番号から仮定される IOC 名称が ACOD 名称として格納されます。
- ACOD 構成定義初期データ
搬入データを解析し、データに定義されているプロセッサの入出力構成に ACOD 経路を生成します。データに定義されているプロセッサがデータベースに定義されていないと、そのプロセッサに関する部分の定義が無視されます。

SCMRF CD for Windows で作成したデータ

- 入出力構成定義データ, PRMF 構成定義データ
搬入先プロセッサに入出力構成が格納されます。SCMRF CD for Windows で ACOD

経路を定義した入出力構成を搬出すると、ACOD 経路も含めて搬出されるので、入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データを搬入しただけでそのプロセサ内の ACOD 経路も搬入されます。システムを構成するすべてのプロセサの入出力構成定義データを搬入する場合は、ACOD 構成定義データを搬入する必要はありません。

搬入先のプロセサにすでに入出力構成または ACOD 構成が定義されている場合は、次のようになります。

- 入出力構成初期定義データ、入出力構成定義データ
搬入先プロセサの既存のデータが削除され、搬入データが新しく格納されます。ただし、ACOD 構成定義ウィンドウで指定する ACOD 名称・ACOD モデルは削除されません。
- ACOD 構成定義初期データ、ACOD 構成定義データ
搬入先システムの ACOD 構成に、搬入データに基づく ACOD 経路が追加されます。既存のデータを削除して搬入したい場合は、ACOD 経路を削除してから搬入してください。ACOD 経路の削除については、「5.3.1 チャネルから入出力制御装置までの ACOD 経路を削除する例」を参照してください。

搬入後に構成定義ウィンドウを開くと、搬入によって格納されたデータが表示されます。このデータを編集することによって、入出力構成・ACOD 構成を定義できます。

搬入によって、搬入先プロセサまたは ACOD 構成定義のベースシステムが搬入データに置き換わります。ベースシステム情報については、「2.3.3 ベースシステム情報の記録機能」を参照してください。

(2) 初期データの搬入

搬入時には、データベースに格納する前に搬入データと搬入先のシステムとの整合性がチェックされます。

(a) 入出力構成定義初期データ、PRMF 構成定義初期データ

搬入先プロセサの CPU モデルに基づくシンタクスチェックが実施されます。エラーがある場合もそのまま格納されます。搬入後に構成定義ウィンドウを開くと、エラー個所にエラー番号が表示されます。エラー個所・エラー内容は、エラーのチェック機能を使って確認できます。

搬入時の操作

入出力構成定義初期データおよび PRMF 構成定義初期データには、リンクアドレスとして ACOD 構成の一部が含まれていることがあります。搬入データの CONTRLR マクロ(文)の LNKA に FE が定義されていると、その IOCMN に指定した制御装置名称または制御装置番号から仮定される IOC 名称が、ACOD 名称として格納されます。搬入処理中にこの IOC 名称が表示され、その名称で搬入するか、別の名称に変更するかを選択できます。すでにデータベースに定義されている ACOD 名称を指定すること

もできます。ACOD 名称とともに、ACOD モデルも搬入処理中に指定します。搬入データに含まれるすべての ACOD に対して ACOD モデルを指定する必要があるので、あらかじめオプション機能で搬入時の ACOD モデルの仮定値を設定しておくことができます。ACOD モデルの仮定値については、「2.2.3 オプション機能」を参照してください。

チェック内容

入出力構成定義初期データおよび PRMF 構成定義初期データの搬入時のチェック内容を表 2-18 に示します。

表 2-18 入出力構成定義初期データおよび PRMF 構成定義初期データ搬入時のチェック内容

搬入するデータの種別	チェック項目	チェック内容		搬入時のシステムの処理
		搬入データ	データベース	
入出力構成定義初期データ	CPU モデル	ホストでの指定値	システム構成の設定ウィンドウの設定値	格納先プロセサの CPU モデルに基づくエラーチェックが実施される。
	ACONARC	ACONARC チャンネルの有無	システム構成の設定ウィンドウの設定値	ACONARC 非装備のプロセサに ACONARC チャンネルが定義されているデータを搬入した場合はエラーとする。
	ACOD 名称	CONTRLR マクロの制御装置名称	ACOD 定義ウィンドウの設定値	ACOD 名称として格納されていない制御装置名称または IOC 名称を新しい ACOD 名称として格納する（搬入時に変更可）。

(b) 入出力構成定義初期データ（ゲスト OS）

入出力構成定義初期データ（ゲスト OS）は、データベースにデータと一致する PRMF 構成が格納されていないと、搬入できません。

搬入時の操作

搬入データとデータベースの PRMF 構成が一致していない場合は、不一致項目の一覧が表示され、搬入が中止されます。不一致でも搬入したい場合は、搬入先にベーシックモードのプロセサを指定し、搬入してから PRMF 構成との整合性をチェックの上、ゲスト OS の定義データに変更してください。

チェック内容

入出力構成定義初期データ（ゲスト OS）の搬入時のチェック内容は、入出力構成定義初期データと同じですが、入出力構成定義初期データ（ゲスト OS）については、表 2-19 に示すチェック内容が付加されます。

表 2-19 入出力構成定義初期データ（ゲスト OS）の搬入時のチェック内容

搬入するデータの種別	チェック項目	チェック内容		搬入時のシステムの処理
		搬入データ	データベース	
入出力構成定義初期データ（ゲスト OS）	チャンネル	CHANNEL マクロ	PRMF 構成で定義しているチャンネルタイプと接続先入出力制御装置	PRMF 構成と一致しない場合は搬入を中止する。
	入出力制御装置	CONTRLR マクロ	PRMF 構成で定義している入出力制御装置の属性と接続先チャンネル・ポート	<ul style="list-style-type: none"> PRMF 構成と一致しない場合は搬入を中止する。 PRMF 構成の IOC 名称が仮定値の場合、ゲスト OS の指定値を PRMF 構成の指定値に上書きする。 IOC 名称がゲスト OS 間で異なる場合は搬入を中止する。
		CONTRLR マクロ	ほかのプロセサで定義している同じ入出力制御装置の属性	ライブラリ装置記号名の指定の有無がほかのプロセサと一致しない場合は搬入を中止する。
	入出力装置	IODEVICE マクロ	PRMF 構成で定義している入出力装置の属性と接続	<ul style="list-style-type: none"> PRMF 構成と一致しない場合は搬入を中止する。 PRMF 構成の管理名称が仮定値の場合、ゲスト OS の指定値を PRMF 構成の指定値に上書きする。仮定値でない場合、管理名称は PRMF 構成の指定値のまま、ゲスト OS の指定値は格納しない。 装置形式およびモデル番号が PRMF 構成と一致しない場合は、搬入を中止する。 優先して選択するチャンネルバス ID が PRMF 構成と一致しない場合、ゲスト OS の指定値は格納しない。

(c) ACOD 構成定義初期データ

ACOD 構成定義初期データを搬入すると、搬入データに定義されているプロセサの入出力構成に ACOD が追加され、ACOD 経路が生成されます。搬入後に ACOD 定義ウィンドウを開くと ACOD 名称と ACOD モデルが、ACOD 経路定義ウィンドウを開くと ACOD 経路が表示されます。なお、AOMPLUS 06-01 以前で作成した ACOD 構成定義初期データの場合は、ACOD モデルに「3」が仮定されます。

ACOD 構成定義初期データの搬入に必要な条件を次に示します。

- 搬入データに定義されているプロセサがデータベースのシステム構成で設定されている
- 搬入データの ACOD 定義と一致する入出力構成の定義が搬入先プロセサに格納されている

搬入時の操作

搬入を開始すると、データに定義されているプロセサの一覧およびそのプロセサがデータベースに定義されているかが ACOD 搬入プロセサ確認ダイアログに表示されます。データベースに定義されているプロセサの定義だけが搬入され、定義されていないプロセサの定義は除外されるため、このダイアログでプロセサ名称の対応を確認します。

搬入の終了後、データベースに生成された ACOD 経路および生成できなかった ACOD 経路の一覧が表示できます。この一覧で搬入できなかった定義を確認できます。

チェック内容

ACOD 構成定義初期データの搬入時のチェック内容を表 2-20 に示します。

表 2-20 ACOD 構成定義初期データの搬入時のチェック内容

搬入するデータの種別	チェック項目	チェック内容		搬入時のシステムの処理
		搬入データ	データベース	
ACOD 構成定義初期データ	プロセサ名称	搬入データの定義	システム構成の設定ウィンドウの設定値	データベースにプロセサ名称が設定されていない場合はエラーとする。
	ACOD モデル	搬入データの定義	ACOD 定義ウィンドウの設定値	不一致がある場合は、搬入するかどうかを問い合わせる。搬入を続行すると、データベースに定義されている値を適用する。
	ACOD 名称	搬入データの定義	ACOD 定義ウィンドウの設定値	新しい ACOD 名称をデータベースに追加する。
	ポートの接続	搬入データの定義	格納先プロセサの入出力構成	格納先プロセサの入出力構成に ACOD 経路を生成する。生成できない ACOD 経路がある場合、搬入するかどうかを問い合わせる。不一致のまま搬入すると、不一致の部分は除外して搬入する。

(3) SCMRF CD for Windows で作成したデータの搬入

(a) 入出力構成定義データ、PRMF 構成定義データ

入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データには、搬出時にシステム構成の設定情報および ACOD 経路が付加されています。搬入時には、この情報が搬入先データベースのシステム構成の設定と一致するかどうかチェックされます。

SCMRF Configuration Definition 01-00 以前で作成したデータの場合は、ACOD モデルに「3」が仮定されます。

搬入時の操作

搬入データと格納先データベースのシステム名称、プロセッサ名称などが違う場合は、警告メッセージが出力され、搬入を中止するか、続行するかを選択できます。続行した場合は、搬入データの情報は無視され、データベースのシステム構成の設定に基づいて格納されます。

チェック内容

入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データの搬入時のチェック内容を表 2-21 に示します。

表 2-21 入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データの搬入時のチェック内容

搬入するデータの種別	チェック項目	チェック内容		搬入時のシステムの処理
		搬入データ	データベース	
入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データ	システム名称、プロセッサ名称、CPU モデル、ACONARC 装備・非装備	搬入データの定義	システム構成の設定ウィンドウの設定値	不一致がある場合は、搬入するかどうかを問い合わせる。搬入を続行すると、データベースに定義されている値を適用する。
	ACONARC チャンネルの有無	定義されているチャンネルタイプ	システム構成の設定ウィンドウの設定値	ACONARC 非装備のプロセッサに ACONARC チャンネルが定義されているデータの搬入をした場合はエラーとする。
	ACOD モデル	搬入データの定義	ACOD 定義ウィンドウの設定値	不一致がある場合は、搬入するかどうかを問い合わせる。搬入を続行すると、データベースに定義されている値を適用する。
	ACOD 名称	搬入データの定義	ACOD 定義ウィンドウの設定値	新しい ACOD 名称をデータベースに追加する。

(b) 入出力構成定義データ (ゲスト OS)

入出力構成定義データ (ゲスト OS) は、データベースにデータと一致する PRMF 構成が格納されていないと、搬入できません。

搬入時の操作

搬入データとデータベースの PRMF 構成が一致していない場合は、不一致項目の一覧が表示され、搬入が中止されます。不一致でも搬入したい場合は、搬入先にベーシックモードのプロセッサを指定し、搬入してから PRMF 構成との整合性をチェックの上、ゲスト OS の定義データに変更してください。

複数の入出力構成定義データ (ゲスト OS) の搬入をした場合、ACOD 経路のエラーが発生した場合、まだ搬入していない入出力構成定義データがあっても、エラーが発

生じた入出力構成定義データ（ゲスト OS）の搬入が終了すると搬入処理が中止されます。ACOD 経路のエラー内容を確認し、残りの入出力構成定義データの搬入を続行する場合は再度搬入を指定してください。

チェック内容

入出力構成定義データ（ゲスト OS）の搬入時のチェック内容を表 2-22 に示します。

表 2-22 入出力構成定義データ（ゲスト OS）の搬入時のチェック内容

搬入するデータの種別	チェック項目	チェック内容		搬入時のシステムの処理
		搬入データ	データベース	
入出力構成定義初期データ（ゲスト OS）	チャンネル	CHANNEL マクロ	PRMF 構成で定義しているチャンネルタイプと接続先入出力制御装置	PRMF 構成と一致しない場合は搬入を中止する。
	入出力制御装置	CONTRLR マクロ	PRMF 構成で定義している入出力制御装置の属性と接続先チャンネル・ポート	<ul style="list-style-type: none"> PRMF 構成と一致しない場合は搬入を中止する。 PRMF 構成の IOC 名称が仮定値の場合、ゲスト OS の指定値を PRMF 構成の指定値に上書きする。 IOC 名称がゲスト OS 間で異なる場合は搬入を中止する。
		CONTRLR マクロ	ほかのプロセサで定義している同じ入出力制御装置の属性	ライブラリ装置記号名の指定の有無がほかのプロセサと一致しない場合は搬入を中止する。
入出力装置	IODEVICE マクロ	PRMF 構成で定義している入出力装置の属性と接続	<ul style="list-style-type: none"> PRMF 構成と一致しない場合は搬入を中止する。 PRMF 構成の管理名称が仮定値の場合、ゲスト OS の指定値を PRMF 構成の指定値に上書きする。仮定値でない場合、管理名称は PRMF 構成の指定値のままで、ゲスト OS の指定値は格納しない。 装置形式およびモデル番号が PRMF 構成と一致しない場合は、搬入を中止する。 優先して選択するチャンネルパス ID が PRMF 構成と一致しない場合、ゲスト OS の指定値は格納しない。 	

搬入するデータの種別	チェック項目	チェック内容		搬入時のシステムの処理
		搬入データ	データベース	
	ポートの接続	搬入データの定義	格納先プロセッサの入出力構成	格納先プロセッサの入出力構成に ACOD 経路を生成する。生成できない ACOD 経路がある場合、搬入するかどうかを問い合わせる。不一致のまま搬入すると、不一致の部分は除外して搬入する。

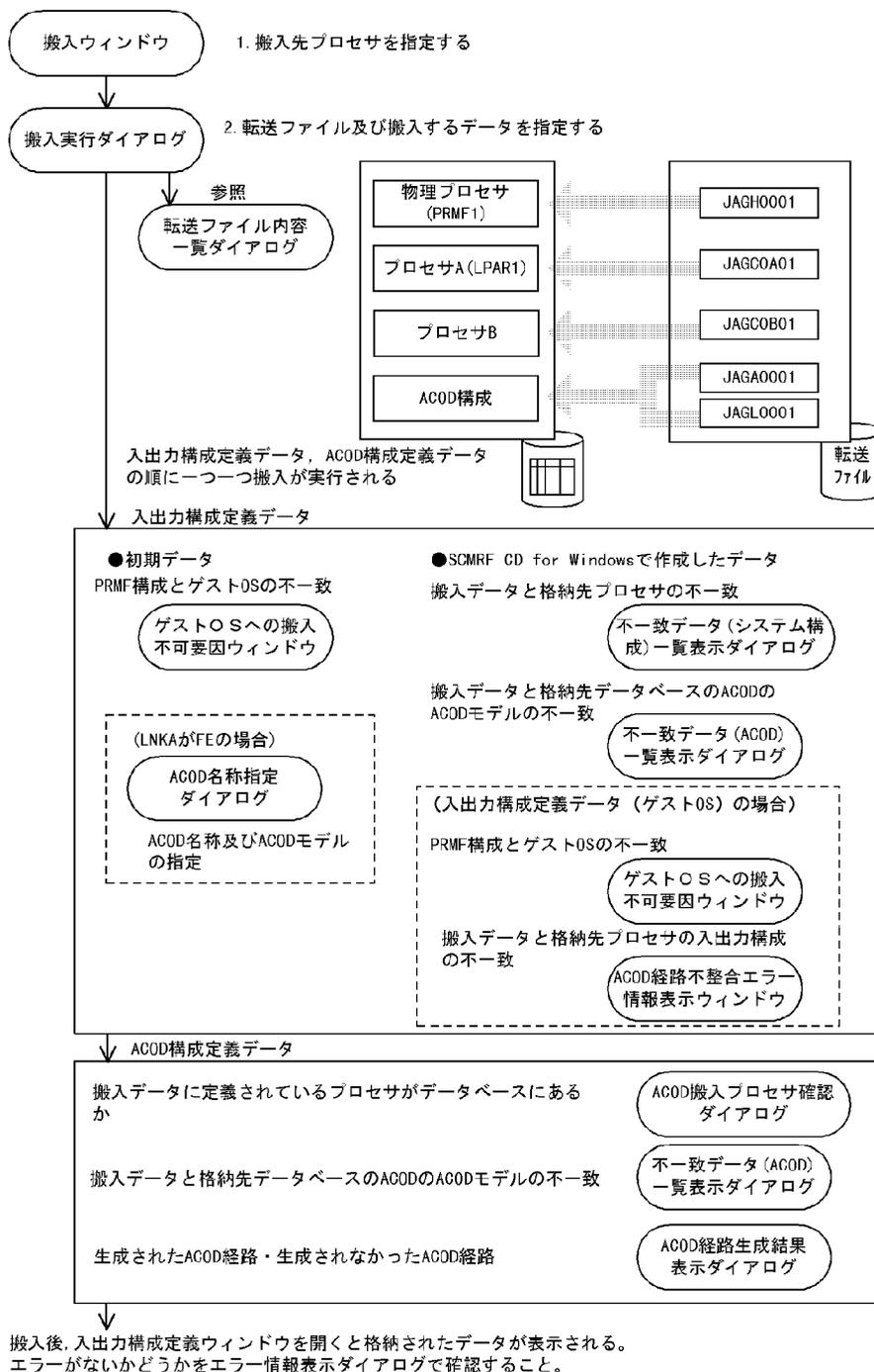
(c) ACOD 構成定義データ

ACOD 構成定義初期データと同じです。

(4) 搬入手順

搬入手順を図 2-28 に示します。

図 2-28 搬入手順



2.8.3 搬出機能

一回の搬出操作で、すべての定義データを搬出できます。必要なデータだけを選択して搬出することもできます。ただし、ACOD 外部構成定義データと ACOD 内部構成定義データは必ず一組で搬出されます。

ACOD 構成定義データを搬出する場合は、ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで制御対象にする入出力制御装置を登録します。

搬出機能によって転送ファイルに格納したデータは、ホストにファイル転送し、SCMRF/CD によって IOCDF に格納されます。

(1) 搬出するデータの条件

データに重要エラーがあると搬出できません。搬出する前に、次に示す手順で重要エラーがないことを確認してください。

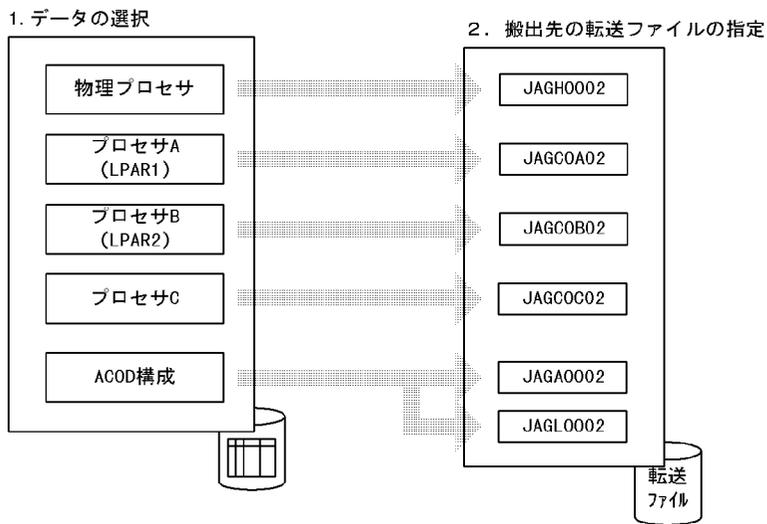
1. メインウィンドウでエラー表示を更新して、重要エラーがないことを確認します。
2. 構成定義データチェックを実行して、重要エラーがないことを確認します。

ACOD 構成定義データは、システム構成の設定で ACONARC 制御機能を使用する設定にしている場合だけ搬出できます。

(2) 搬出手順

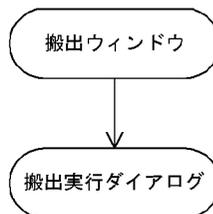
搬出手順を図 2-29 に示します。

図 2-29 搬出手順



1. データの選択
搬出するPRMF構成定義データ，入出力構成定義データ，またはACOD構成定義データを指定する。

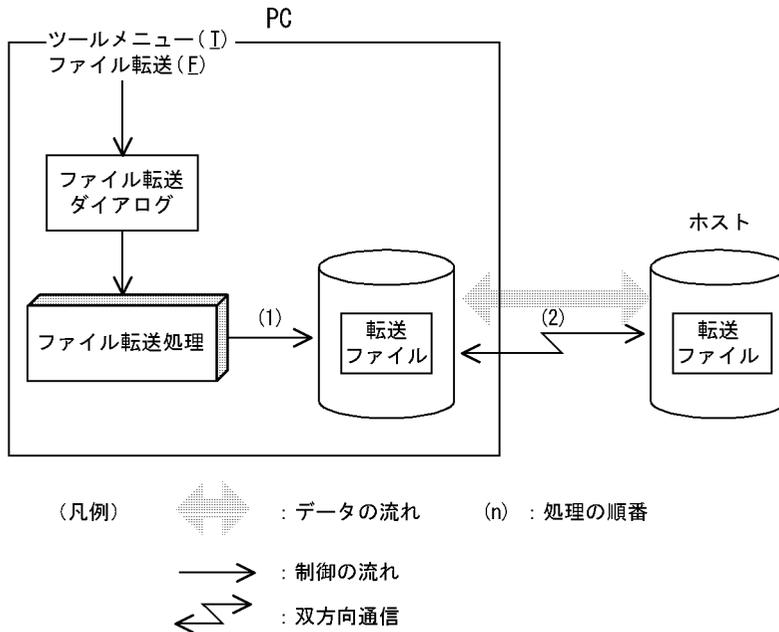
2. 搬出先の転送ファイルの指定
搬出先の転送ファイルの名称を指定する。



2.9 ファイル転送機能

SCMRF CD for Windows では PC とホスト間のファイル転送ができます。ファイル転送の処理概要を図 2-30 に示します。

図 2-30 ファイル転送の処理概要



オプションとして、ほかの機能と同期して次のようにファイル転送することができます。

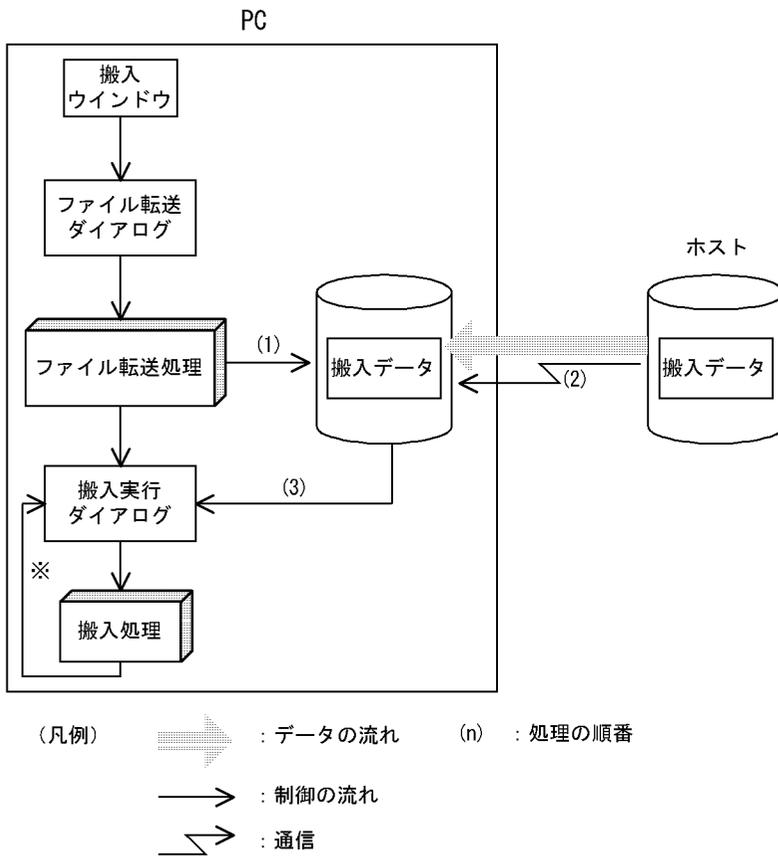
- 搬入する前に搬入データをファイル転送する (ホスト → PC)。
- 搬出した後、搬出データをファイル転送する (PC → ホスト)。
- ゼネレーションパラメタ生成後に、ゼネレーションパラメタのファイルをファイル転送する (PC → ホスト)。

それぞれの場合について次に示します。

(1) 搬入とファイル転送を同期させる

オプションダイアログで搬入と同期して転送することを指定しておけば、搬入処理前にファイル転送を自動的に行います。搬入と同期したファイル転送の処理概要を図 2-31 に示します。

図 2-31 搬入と同期したファイル転送の処理概要

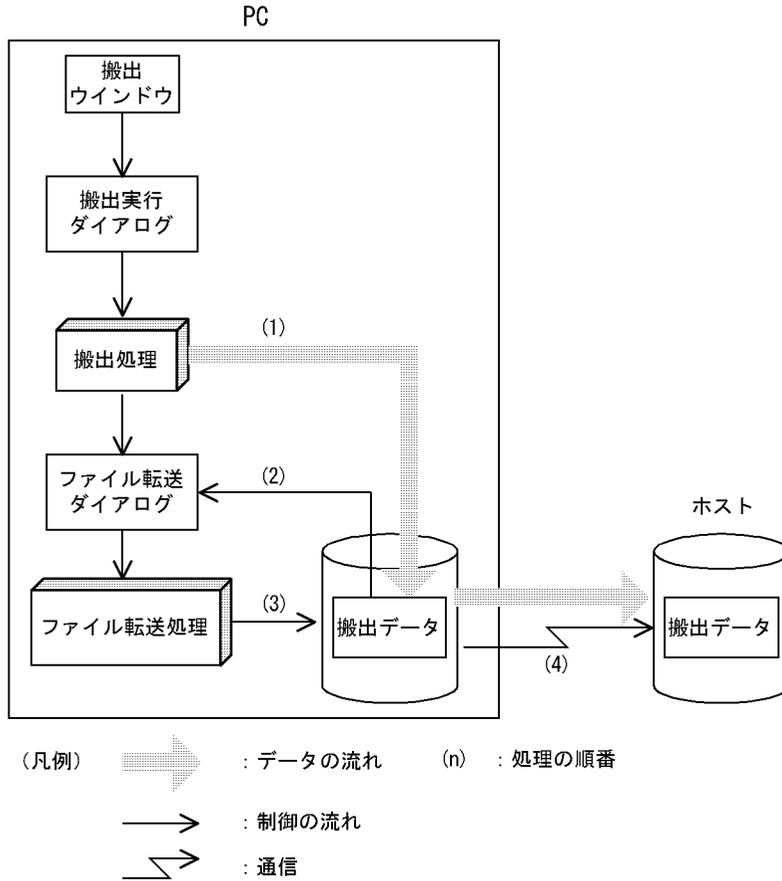


注 選択された搬入対象の回数分繰り返されます

(2) 搬出とファイル転送を同期させる

オプションダイアログで搬出と同期して転送することを指定しておけば、搬出処理後にファイル転送を自動的に行います。搬出と同期したファイル転送の処理概要を図 2-32 に示します。

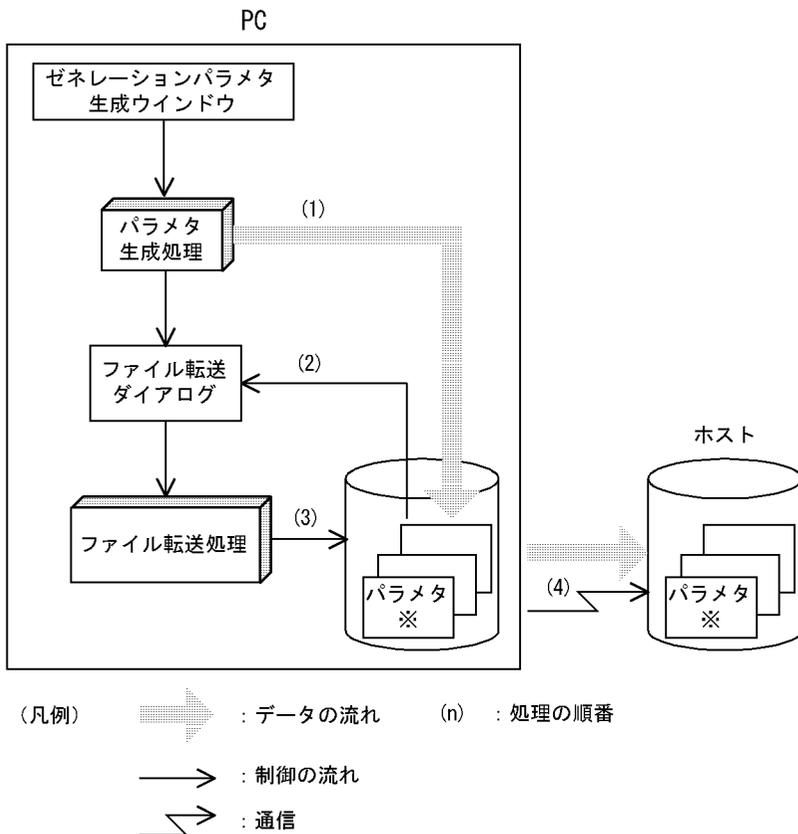
図 2-32 搬出と同期したファイル転送の処理概要



(3) ゼネレーションパラメタの生成とファイル転送を同期させる

オプションダイアログでゼネレーションパラメタ生成と同期して転送することを指定しておけば、ゼネレーションパラメタ生成後にファイル転送を自動的にを行います。ゼネレーションパラメタ生成と同期したファイル転送の処理概要を図 2-33 に示します。

図 2-33 ゼネレーションパラメタ生成と同期したファイル転送の処理概要



注 ゼネレーションパラメタは生成対象単位（プロセサ，ACOD）に生成されるため、生成ファイルは複数存在します。

2.10 ユティリティ機能

ユティリティ機能について説明します。

2.10.1 ユーザの管理

SCMRF CD for Windows のインストール時に次の設定をします。

ユーザの登録

SCMRF CD for Windows を使用するユーザを登録します。登録したユーザ名は、構成定義とユティリティで共通に使用します。

パスワードの設定（任意）

ユーザ名には、パスワードを設定できます。登録された直後のユーザ名には、パスワードが設定されていません。パスワードは、ユーザが各自で設定します。

ユーザ権限の設定（任意）

ユーザに対して SCMRF CD for Windows の使用権限を設定できます。ユーザ権限の種類を表 2-23 に示します。

表 2-23 ユーザ権限の種類

種類	設定するとできる作業
管理者権限	<ul style="list-style-type: none"> ユーザの登録，ユーザ権限の設定 データベースの作成・修復・最適化 構成の定義・搬入・搬出
構成定義権限	構成の定義・搬入・搬出
参照権限（デフォルト）	定義データの参照だけ

ユーザ権限を設定しないユーザは、参照権限が適用されます。

2.10.2 データベースの管理

データベースの管理について説明します。

(1) データベースの作成

データベースの作成機能

SCMRF CD for Windows で扱うデータベースを作成します。データベースは必要に応じていつでも作成できます。データベースを削除する場合は、Windows の機能でデータベース名を指定して削除します。

データベースの選択機能

構成定義を次に起動したときに、自動的に開くデータベースを選択します。

(2) データベースの保守

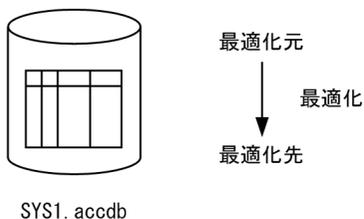
データベースを保守するために、最適化と修復ができます。

データベースの最適化機能

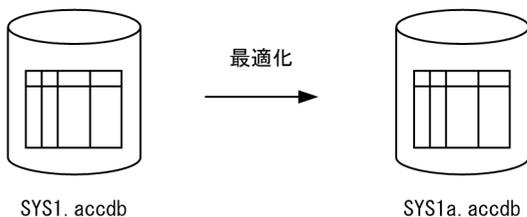
データの追加・変更・削除を繰り返すうちに、データベース中のデータが分断されるようになります。データの分断がひどくなると、データベースに読み書きする性能が下がってしまいます。そこで、データベース中のデータを再編成し、データの分断を解消します。データベースの最適化を図 2-34 に示します。

図 2-34 データベースの最適化

- ・最適化の結果を同一ファイルに出力する



- ・最適化の結果を別ファイルに出力する



データベースの修復機能

障害が発生したデータベースを修復できます。

2.10.3 データベースの変換

SCMRF CD for Windows の古いバージョンで作成したデータベースを、最新のバージョンで使用できるように変換できます。Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows で作成したデータベースは変換できません。「付録 D Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows からの移行」を参照してください。

3

SCMRF CD for Windows を使用する前に

この章では、SCMRF CD for Windows で入出力機器の構成を定義するときの作業手順やウィンドウに共通する操作について説明します。

3.1 作業手順

3.2 ウィンドウの体系

3.3 ウィンドウの共通操作

3.1 作業手順

3.1.1 新規導入時の作業手順

SCMRF CD for Windows を新規に導入したときの作業手順を表 3-1 に示します。

表 3-1 新規に導入したときの作業手順

順序	分類	作業内容	参照先
1	セットアップとユーザの登録	SCMRF CD for Windows をセットアップします。また、ユーザ名、パスワード、ユーザ権限を登録します。	「6.2 セットアップ方法」 「4.22.1 ユーザの登録」
2	データベースの作成と選択	システム単位にデータベースを作成します。また、作業対象とするデータベースを選択します。	「4.22.2 データベースの操作」
3	システム構成の設定	システム名称、プロセサ名称などの定義データの管理情報をデータベースに対して設定します。	「4.2 システム構成の設定」
4	搬入	ホストから転送したデータをデータベースに搬入します。	「4.19 搬入」
5	入出力構成・ACOD 構成・PRMF 構成の定義	入出力構成・ACOD 構成・PRMF 構成を定義します。	「2.1.5 VOS3 の入出力構成・ACOD 構成の定義順序」 「2.1.6 PRMF を使用する場合の定義順序」 「4.3 入出力構成の定義」 「4.4 ACOD 構成の定義」 「4.5 PRMF 構成の定義」
6	エラーの確認	定義データにエラーがないかを確認し、エラーがあれば修正します。	「4.6 構成定義エラーの確認」
7	搬出またはゼネレーションパラメタの生成	<ul style="list-style-type: none"> 搬出の場合 定義データをデータベースから転送ファイルに搬出します。 ゼネレーションパラメタ生成の場合 ゼネレーションパラメタをデータベースからファイルに出力します。 	「4.20 搬出」 「4.17 ゼネレーションパラメタの生成」

3.1.2 バージョンアップ時の作業手順

SCMRF CD for Windows をバージョンアップしたときの作業手順を表 3-2 に示します。

表 3-2 バージョンアップしたときの作業手順

順序	分類	作業内容	参照先
1	セットアップ	SCMRF CD for Windows をセットアップします。	「6.2 セットアップ方法」
2	旧バージョンのデータの移行	SCMRF CD for Windows の古いバージョンで作成したデータベースを最新のバージョンで使えるように変換します。 Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows で作成したデータベースは変換できないので、データを搬出し、転送ファイルから搬入してください。	「4.22.2 データベースの操作」 「付録 D Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows からの移行」

3.2 ウィンドウの体系

SCMRF CD for Windows のウィンドウの体系を示します。

3.2.1 構成定義

構成定義のウィンドウの体系を図 3-1 および図 3-2 に示します。

図 3-1 構成定義のウィンドウ体系 (1 / 2)

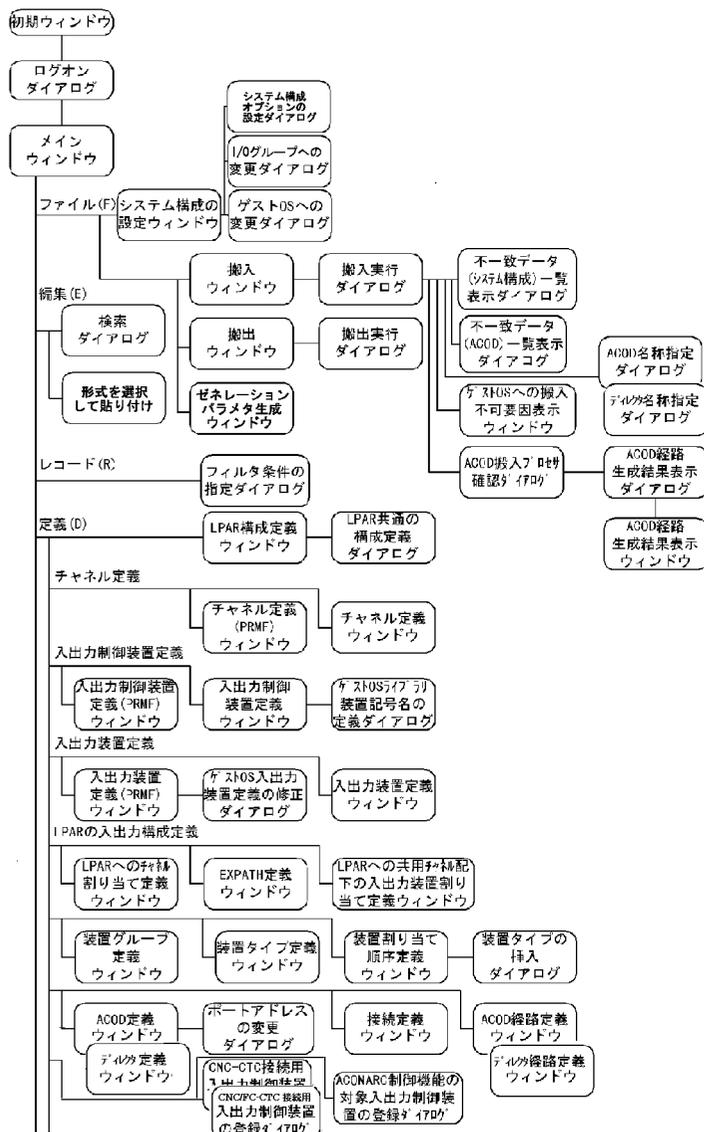
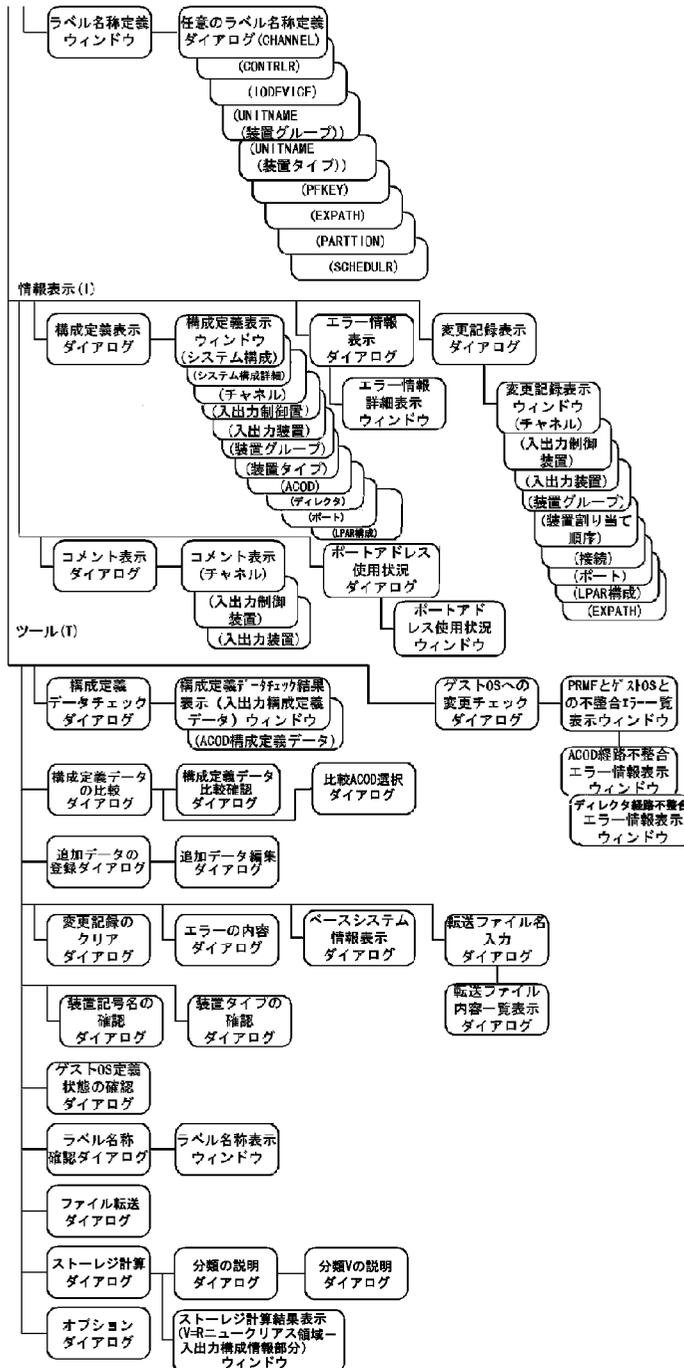


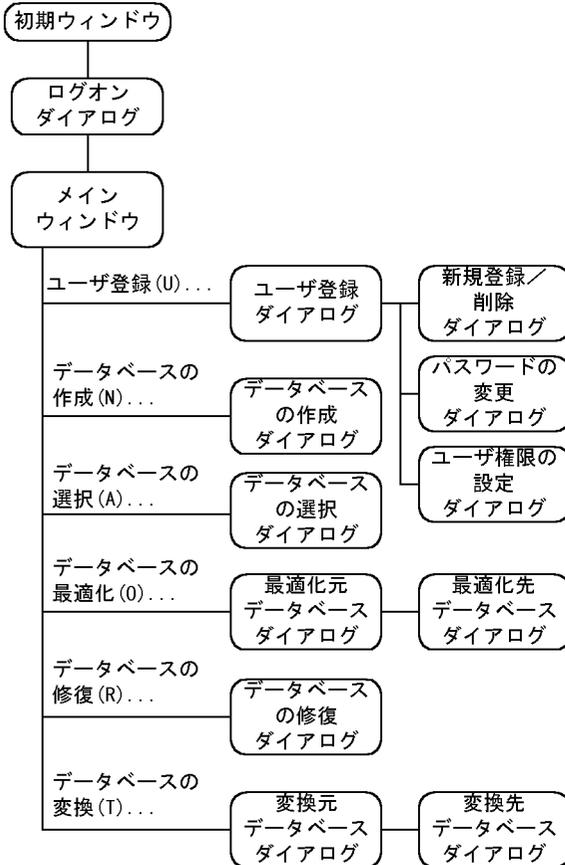
図 3-2 構成定義のウィンドウ体系 (2 / 2)



3.2.2 ユティリティ

ユティリティのウィンドウ体系を図 3-3 に示します。

図 3-3 ユティリティのウィンドウ体系



3.3 ウィンドウの共通操作

入出力構成，ACOD 構成，および PRMF 構成を定義するウィンドウを，「構成定義ウィンドウ」と呼びます。

3.3.1 構成定義ウィンドウの構成

構成定義ウィンドウの構成を図 3-4 に示します。

図 3-4 構成定義ウィンドウの構成



3.3.2 ヘッダの操作

ヘッダの表示内容を説明します。

システム名称

システム構成の設定ウィンドウで指定したシステム名称が表示されます。

プロセサ名称 (または物理プロセサ名称) (P)

定義データを識別する名称が表示されます。PRMF を使用する場合，表 3-3 に示す形式で表示されます。

3. SCMRF CD for Windows を使用する前に

表 3-3 PRMF を使用する場合のプロセサ名称の表示形式

データの種別	表示形式	
PRMF 構成定義データ (512 チャネル構成定義データ-I/O グループ)	*IOGn(物理プロセサ名称)	PRMF
PRMF 構成定義データ	*PRMF(物理プロセサ名称)	PRMF
入出力構成定義データ (ゲスト OS)	ゲスト OS のプロセサ名称	LPAR
入出力構成定義データ	プロセサ名称	BASIC

注 ゴシック体の文字はデータに設定されている名称を示します。
表示している名称を変更すると、定義中のデータを閉じ、ほかの定義データを定義シートに表示できます。システム構成の設定ウィンドウで指定したプロセサ名称または物理プロセサ名称の中から選択できます。
また、メインウィンドウで選択しているプロセサまたは物理プロセサによって、構成定義ウィンドウで表示される定義データが変わります。メインウィンドウで選択したプロセサと構成定義ウィンドウに表示される定義データの関係を表 3-4 に示します。

注 "*"IOGn" の "n" は I/O グループ番号が表示されます。

表 3-4 メインウィンドウで選択したプロセサと構成定義ウィンドウに表示される定義データの関係

選択したプロセサ	構成定義ウィンドウ	表示される定義データ
VOS3 のプロセサ (ベーシックモードの プロセサ)	PRMF 構成だけを定義するウィンドウ	メインウィンドウで一番上のレコードの PRMF 構成定義データ
	ACOD 経路定義ウィンドウ ディレクタ経路定義ウィンドウ	<ul style="list-style-type: none"> • 選択した入出力構成定義データ • ACONARC を使用しないプロセサを選択した場合、ACONARC を使用するプロセサのうち、メインウィンドウで一番上のレコードの入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データ
	上記以外のウィンドウ	選択したプロセサの入出力構成定義データ
ゲスト OS のプロセサ	PRMF 構成だけを定義するウィンドウ	選択したゲスト OS が動作する物理プロセサの PRMF 構成定義データ
	ACOD 経路定義ウィンドウ ディレクタ経路定義ウィンドウ	<ul style="list-style-type: none"> • 選択したゲスト OS の入出力構成定義データ • ACONARC を使用しないプロセサを選択した場合、ACONARC を使用するプロセサのうち、メインウィンドウで一番上のレコードの入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データ

選択したプロセサ	構成定義ウィンドウ	表示される定義データ
	上記以外のウィンドウ	選択したゲスト OS の入出力構成定義データ
物理プロセサ	VOS3 の入出力構成だけを定義するウィンドウ	<ul style="list-style-type: none"> • 選択した物理プロセサで動作するゲスト OS の入出力構成定義データ • ゲスト OS が定義されていない場合、メインウィンドウで一番上のレコードの入出力構成定義データ
	上記以外のウィンドウ	選択した物理プロセサの PRMF 構成定義データ

モード

PRMF を使用する場合に、表示している定義データの種類が次に示す形式で表示されます。

- BASIC
VOS3 の入出力構成定義データであることを示します。
- LPAR < 物理プロセサ名称 / LPAR 番号 (LPAR 名称) >
入出力構成定義データ (ゲスト OS) であることを示します。ゴシック体の文字はデータに設定されている名称を示します。
- PRMF
PRMF 構成定義データであることを示します。

コメント番号 (N)

コメントの種類を管理するための番号が表示されます。

チャンネル、入出力制御装置、入出力装置には、一つの入出力機器に最大 99 種類のコメントをつけられます。コメントの種類はコメント番号で管理します。例えば、コメント番号 1 で入出力機器の用途、コメント番号 2 で設置場所、というように使用します。

表示しているコメント番号を変更すると、定義シートのコメントフィールドに、ほかの種類のコメントを表示できます。

操作モード

表示中の定義データを編集または表示するかを選択します。[編集 (M)] ボタンをクリックすると、定義データを編集 (追加, 削除, 変更) できます。[表示 (V)] ボタンをクリックすると編集できない状態になります。

3.3.3 定義シートへの操作

定義シートの構成を図 3-5 に示します。

図 3-5 定義シートの構成

変更フィールド	エラーフィールド	フィールド	フィールドセクタ
変更	ERROR	PATHID	TYPE
		00	MPX
		03	MPX
		06	MPX
		07	BLMPX
		08	BLMPX
		09	BLMPX
		0A	BLMPX
		10	BLMPX
		15	BLMPX
		18	BLMPX
		1F	BLMPX
		20	BLMPX
		28	BLMPX
		2F	BLMPX
		30	BLMPX
		31	BLMPX
		60	CTC
		61	CNC
		62	CNC
		66	CNC
		70	CFS
		71	CFS
		72	CFS
		73	CFS
		76	CNC
		80	CNC
		81	CNC

シートセクタ
レコードセクタ
コメント
セル

レコード

定義シートの行です。

フィールド

定義シートの列です。

セル

レコード、フィールドを構成する一つのますです。

レコードセクタ

定義シートの一番左にあるフィールドで、レコードの状態が記号で表示されます。ここをクリックすると、レコード全体を選択できます。

＊

新規追加用レコードであることを示します。定義シートの一番下にある空白のレコードに表示されます。



カレントレコードが編集集中であることを示します。このマークが表示されている間に [編集 (E)] - [元に戻す (N)] を選択するか、または Esc キーを押すと、編集した内容を取り消しできます。

フィールドセレクト

レコードの一番上にあるフィールドで、フィールド名が表示されます。ここをクリックすると、フィールド全体を選択できます。

シートセレクト

レコードセレクトとフィールドセレクトが交差するセルです。ここを選択すると、定義シート全体を選択できます。

変更フィールド

変更記録を採取している場合、変更記号 (A:追加, C:変更) が表示されます。

エラーフィールド

レコード中にエラーがある場合、エラー番号が表示されます。

レコードは、そのウィンドウのキーとなるフィールドを基準に昇順で、次に示す順序に並びます。

-, #, /, @, ¥, 0~9, A~Z

搬出時、レコードは EBCDIK コード順に並べ替えられます。ホストには、EBCDIK コード順で格納されます。

各構成定義ウィンドウのキーとなるフィールドを表 3-5 に示します。

表 3-5 キーとなるフィールド

ウィンドウ	キーとなるフィールド
システム構成の設定ウィンドウ	物理プロセッサ名称 プロセッサ名称
LPAR 構成定義ウィンドウ	LPAR 番号
チャンネル定義ウィンドウ チャンネル定義 (PRMF) ウィンドウ	PATHID
入出力制御装置定義ウィンドウ 入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウ	CUNO
入出力装置定義ウィンドウ 入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウ	ADDR
装置タイプ定義ウィンドウ	装置タイプ
装置グループ定義ウィンドウ	装置グループ名 ADDR
装置割り当て順序定義ウィンドウ	順序

3. SCMRF CD for Windows を使用する前に

ウィンドウ	キーとなるフィールド
ACOD 定義ウィンドウ	ACOD 名称 ポート
接続定義ウィンドウ	PATHID CUNO ADDR
ACOD 経路定義ウィンドウ	PATHID CUNO
CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ウィンドウ	CUNO
ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ウィンドウ	IOCMN

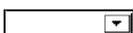
レコードを追加または挿入した時点では、レコードは並び替わりません。次に示すどれかの操作をした契機に並び替わります。

- [ウィンドウ (W)] - [最新の状態 (N)] を指定したとき
- [レコード (R)] - [フィルタの実行 (F)...] を指定したとき
- 定義しているウィンドウを閉じたとき
- プロセサ名称または物理プロセサ名称を変更したとき
- コメント番号を変更したとき
- 定義シートが複数あるウィンドウでカレントレコードを移動したとき

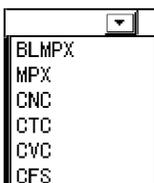
(1) セルに値を入力する

値を入力する方法には、次の二つがあります。

- キーボードから文字を入力する
- 次に示す手順でコンボボックスから値を選択する
 1. 値を指定するセルにカーソルを移動します。
 2. セルの右側に表示される下向き矢印のついたボタンをクリックします。Alt+キーまたは F4 キーを押しても同じ操作ができます。



3. コンボボックスのリストが表示されます。リストに表示できない数の選択肢がある場合はリストの右側にスクロールバーが表示されます。指定する値をリストの中から選択します。コンボボックスのセルに文字を入力すると、コンボボックスのリストが入力した文字に近い位置までスクロールします。



(2) 入力した値を確定する

セルに値を入力した直後は、レコードが編集集中の状態になります。指定した値をデータベースに格納するには、レコードの保存を実行します。レコードを保存すると、指定した値は誤りがないかチェックされ、データベースに格納されます。レコードを保存するには、次に示す方法があります。

- ほかのセルまたは操作できるボックスなどにカーソルを移動する
- [レコード (R)] - [レコードの保存 (S)] を選択するか、または Shift+Enter キーを押す

なお、省略できないフィールドに値を指定していない場合は、値を指定するまでレコードの保存ができません。

(3) レコードの追加・削除

追加

新規追加用レコードに値を入力するか、または任意の位置に新規レコードを挿入します。

挿入の手順を次に示します。

1. 挿入する位置の下にあるレコードを選択します。

	変更	ERROR	PATHID	TYPE	コメント
			00	MPX	
			03	MPX	
			06	MPX	
			07	BLMPX	

2. [編集 (E)] - [挿入 (I)] を選択します。
3. 選択したレコードの上に新しいレコードが挿入されます。

	変更	ERROR	PATHID	TYPE	コメント
			00	MPX	
			03	MPX	
		*	05		
			06	MPX	

削除

1. 削除するレコードを選択します。
2. Del キーを押すか、または [編集 (E)] - [削除 (D)] を選択します。

(4) レコードのコピー・貼り付け

レコードの貼り付け時には、レコードを入力した場合と同様のエラーチェックが実施されます。

定義シート以外でも、レコードセクタが表示されていれば、レコードのコピー・貼り付けができます。

なお、レコードのコピー・貼り付け方法は、次に示す 2 とおりの方法があり定義の性質

3. SCMRF CD for Windows を使用する前に

によってコピー・貼り付け方法を使い分けると効率よく定義操作ができます。

- 通常のコピー・貼り付け
通常のコピー・貼り付けは、選択したレコードだけをコピーおよび貼り付けの対象とするものです。したがって、そのレコードに連携するレコードは対象となりません。
- 連携レコードのコピー・貼り付け
通常のコピー・貼り付けを拡張させたものであり、選択したレコードに連携するレコードまたは選択したレコードに定義されているすべてのコメントを含めてコピーおよび貼り付けの対象とするものです。

(a) 通常のコピー・貼り付け

コピー

1. コピーするレコードを選択します。
2. [編集(E)] - [コピー(C)]を選択します。

貼り付け

1. 貼り付けるレコードを追加する場合は、新規追加用レコードを選択します。既存のレコードを置き換える場合は、置き換えたいレコードを選択します。
2. [編集(E)] - [貼り付け(P)]を選択します。

(b) 連携レコードのコピー・貼り付け

オプション設定

オプション設定の詳細については「4.9 オプションの設定」の「(7) 編集オプションの設定」を参照してください。

コピーおよび貼り付け

コピーおよび貼り付け操作の詳細については、「5.4.1 連携レコードのコピーおよび貼り付け操作例」、「5.4.2 複数コメント行のコピーおよび貼り付け操作例」を参照してください。

注意事項

- 印刷プレビュー形式のウィンドウまたはユーティリティ機能のウィンドウではレコードのコピー・貼り付けはできません。
- シンタクスエラーが発生すると貼り付け処理が中止されるため、エラーが発生した以降のレコードは貼り付けられません。
- レコードのコピーまたは貼り付けで複数レコードを選択する場合、選択範囲となるレコードの最上位レコードが必ず選択開始位置（最上位のレコードがカレントレコード）となるように操作してください。

(5) 条件を満たすレコードだけを表示する

次に示す条件を指定して、条件を満たすレコードを抽出します。抽出したレコードだけを定義シートに表示できます。

- エラーの状態（エラーの有無，エラー番号）
ERROR フィールドにエラー番号が表示されているかどうか

- 変更種別（追加，変更）
変更記録を採取している場合に変更記号が表示されているかどうか
- 接続状態（接続，未接続）
チャンネル，入出力制御装置，および入出力装置が接続されているかどうか

抽出したレコードの表示はそのウィンドウを開いている間だけ有効です。

(a) レコードの抽出手順

1. 定義シートにカーソルを移動します。
2. [レコード(R)] - [フィルタの実行(F)...] を選択します。
3. フィルタ条件の指定ダイアログで，抽出条件を指定します。フィルタ条件の指定ダイアログを図 3-6 に示します。

図 3-6 フィルタ条件の指定ダイアログ



4. [OK] ボタンをクリックします。[キャンセル] ボタンをクリックすると，指定を取り消してレコードの抽出を中止します。
5. ダイアログが閉じた後，指定した条件を満たすレコードだけが定義シートに表示されます。

(b) 抽出条件の指定方法

エラーの状態

フィルタ条件の指定ダイアログの [エラー] ボックスで，次に示すチェックボックスの中から選択します。

3. SCMRF CD for Windows を使用する前に

- すべて (O)
エラーの状態の条件を指定しない場合に選択します。このチェックボックスをオンにすると、ほかのエラーの状態のチェックボックスがオフになります。
- 正常レコード (R)
定義内容にエラーがないレコード (ERROR フィールドが空白のレコード) を抽出します。
- 警告エラーレコード (W)
定義内容に警告エラーが発生しているレコード (ERROR フィールドに W で始まるエラー番号が表示されているレコード) を抽出します。
- 重要エラーレコード (E)
定義内容に重要エラーが発生しているレコード (ERROR フィールドに E で始まるエラー番号が表示されているレコード) を抽出します。
- 任意のエラーレコード (F)
[エラーコード (D)] テキストボックスにエラー番号を指定して、エラーレコードを抽出します。エラー番号にワイルドカードも指定できます。「*」だけ指定するか、またはエラー番号を省略すると、[すべて (O)] を選択した場合と同じ結果になります。

変更種別

フィルタ条件の指定ダイアログの [変更] ボックスで、次に示すチェックボックスの中から選択します。

- すべて (H)
変更種別の条件を指定しない場合に選択します。このチェックボックスをオンにすると、ほかの変更種別のチェックボックスがオフになります。
- 無変更レコード (N)
変更がないレコード (変更フィールドが空白のレコード) を抽出します。
- 追加レコード (A)
新規追加したレコード (変更フィールドに A が表示されているレコード) を抽出します。
- 変更レコード (C)
定義内容を変更したレコード (変更フィールドに C が表示されているレコード) を抽出します。

接続状態

フィルタ条件の指定ダイアログの [接続] ボックスで、次に示すチェックボックスの中から選択し、接続しているレコードを抽出する場合「あり」を、未接続のレコードを抽出する場合「なし」を指定します。

- チャンネルとの接続定義 (L)
チャンネルと接続している、または未接続のレコードを抽出します。
- 入出力制御装置との接続定義 (U)
入出力制御装置と接続している、または未接続のレコードを抽出します。
- 入出力装置との接続定義 (V)
入出力装置と接続している、または未接続のレコードを抽出します。

複数の条件を選択した場合、両方の条件を満たすレコードを抽出するならば [AND] を、どちらか一方の条件を満たすレコードを抽出するならば [OR] を選択します。選択できる条件は、レコードを抽出する構成定義ウィンドウによって異なります。接続状態の抽出条件と選択できるウィンドウを表 3-6 に示します。

表 3-6 接続状態の抽出条件と選択できるウィンドウ

ウィンドウ	カレントレコード	チャンネルとの接続定義	入出力制御装置との接続定義	入出力装置との接続定義
チャンネル定義ウィンドウ チャンネル定義 (PRMF) ウィンドウ	チャンネル	×		
入出力制御装置定義ウィンドウ 入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウ	入出力制御装置		×	
入出力装置定義ウィンドウ 入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウ	入出力装置			×
接続定義ウィンドウ (チャンネル基準)	チャンネル	×		
	入出力制御装置	×	×	
	入出力装置	×	×	×
接続定義ウィンドウ (入出力制御装置基準)	チャンネル	×	×	×
	入出力制御装置		×	
	入出力装置	×	×	×
接続定義ウィンドウ (入出力装置基準)	チャンネル	×	×	×
	入出力制御装置		×	×
	入出力装置			×

(凡例)

：抽出条件を選択できる。

×：抽出条件を選択できない。

注 上記以外のウィンドウでは接続状態の抽出条件を選択できません。

(6) セルの内容を拡大表示する

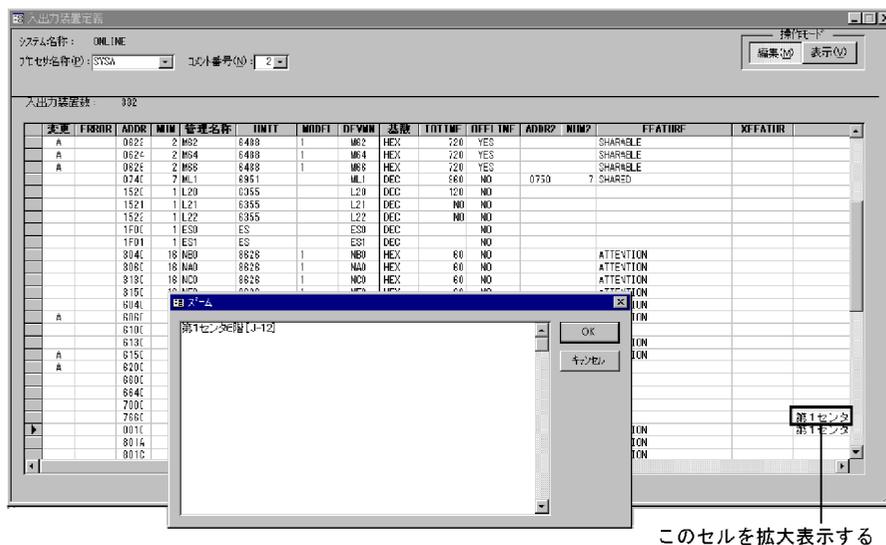
セルの内容が定義シート上で表示しきれない場合に、カーソルを置いているセルをズームして、定義内容をすべて表示します。ズームして表示した定義内容は変更できます。

1. ズームするセルにカーソルを置き、Shift + F2 キーを押します。
2. ズームダイアログが開いて、テキストボックスに定義内容が表示されます。ズームダ

3. SCMRF CD for Windows を使用する前に

イアログを図 3-7 に示します。

図 3-7 ズームダイアログ



[OK] ボタンをクリックすると、ダイアログが閉じます。ズームダイアログで定義を入力することもできます。ただし、[キャンセル] ボタンをクリックすると入力した内容は無効になります。

3.3.4 文字列の操作

(1) 文字列のコピー・貼り付け

コピー

1. コピーする文字列を選択します。フィールド内のすべての文字列をコピーする場合は、フィールド全体を選択します。
2. [編集(E)] - [コピー(C)] を選択します。

貼り付け

文字列の貼り付け処理では、文字列を入力した場合と同等のエラーチェックが実施されます。

1. 貼り付ける個所にカーソルを置きます。既存の文字列を置き換えたい場合は、置き換えたい文字列を選択します。フィールド内のすべての文字列を置き換える場合は、フィールド全体を選択します。
2. [編集(E)] - [貼り付け(P)] を選択します。

(2) 文字列の検索

指定した文字列を定義シートから検索します。文字列の検索範囲はカーソルがあるフィールドです。

1. 定義シートの検索するフィールドにカーソルを置きます。
2. [編集 (E)] - [検索 (F)...] を選択します。
3. 検索ダイアログが開きます。検索ダイアログを図 3-8 に示します。

図 3-8 検索ダイアログ



4. [検索する文字列 (N)] テキストボックスに検索する文字列を指定します。ワイルドカードを使用できます。
5. [検索条件 (H)] テキストボックスで検索するフィールドにあるセルの検索条件を次に示す中から選択します。
 - フィールド全体：検索する文字列とセルの内容が完全に一致する
 - フィールドの一部分：検索する文字列がセルの内容に含まれている
6. カーソルのある位置からの検索方向を次に示すどちらかから選択して、ラジオボタンをクリックします。
 - 上へ (U)：上方向へ検索する
 - 下へ (D)：下方向へ検索する
7. 大文字と小文字を区別して検索する場合は、[大文字と小文字を区別する (C)] チェックボックスをオンにします。
8. 次に示すボタンのどちらかをクリックして検索を開始します。
 - [先頭を検索 (S)]
検索を実行して最初に検索されるセルに移動します。
 - [次を検索 (F)]
指定した検索方向に向かって、検索を再実行します。
9. 検索が終了したら、[閉じる] ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

ワイルドカードに使用できる記号を表 3-7 に示します。記号はすべて半角で使用します。

表 3-7 ワイルドカードに使用できる記号

ワイルドカード	意味
* (アスタリスク)	任意の文字列を示す。 例：AB* は ABC, ABefgh, AB0001 などを示す。
? (疑問符)	任意の 1 文字を示す。 例：AB? は ABC, ABZ, AB2 などを示す。

3. SCMRF CD for Windows を使用する前に

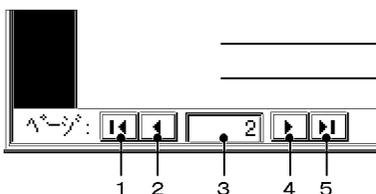
ワイルドカード	意味
# (シャープ)	任意の 1 けたの数値を示す。 例：AB# は AB0, AB2 などを示す。
[] (角括弧)	角括弧の中の文字のうちどれか 1 文字を示す。 例：A[BC]D は ABD または ACD を示す。 また、ワイルドカードに使用する記号自体を示す。 例：AB## を示す場合、AB[#][#] と指定する。
!(感嘆符)	角括弧の中の文字以外のどれか 1 文字を示す。 例：B![A] は B に続く 1 文字が A 以外の文字である、BB, B3 などを示す。
- (ハイフン)	角括弧の中で文字の範囲を指定する。 例：A[B-D]E は ABE, ACE, または ADE を示す。

3.3.5 印刷プレビューの形式のウィンドウの操作

構成表示、変更記録、およびコメントを表示するウィンドウは、印刷プレビューの形式で表示されます。これらのウィンドウを表示する前に、通常使うプリンタを Windows で設定しておく必要があります。

印刷プレビューの形式のウィンドウには、ウィンドウの左下にページを操作するためのボタンがあります。このボタンを「ページ移動ボタン」と呼びます。ページ移動ボタンを図 3-9 に示します。

図 3-9 ページ移動ボタン



1. このボタンをクリックすると、先頭ページに移動します。
2. このボタンをクリックすると、一つ前のページに移動します。
3. このテキストボックスにページ番号を指定すると、指定したページに移動します。
4. このボタンをクリックすると、一つ後ろのページに移動します。
5. このボタンをクリックすると、末尾ページに移動します。

3.3.6 他アプリケーションとのデータ交換

コピーしたデータをクリップボードを経由し、他アプリケーションと受け渡しができます。

注意事項

SCMRF CD for Windows のレコードを他アプリケーションに貼り付けることはできませんが、他アプリケーションのデータを SCMRF CD for Windows のレコードに貼り付

けることはできません。

3.3.7 ショートカットキー一覧

印刷プレビュー形式のウィンドウと、印刷プレビュー以外のウィンドウで、使用できるショートカットキーが異なります。

(1) 共通のショートカットキー

共通のショートカットキーを表 3-8 に示します。

表 3-8 共通のショートカットキー

ショートカットキー	操作
Alt + F4	<ul style="list-style-type: none"> ダイアログ表示時 表示中のダイアログを閉じる。 ダイアログ非表示時 アプリケーションを終了する。
Ctrl + F4	アクティブなウィンドウを閉じる。
Ctrl + F6	次の表示中ウィンドウに切り替える。
Ctrl + Shift + F6	前の表示中ウィンドウに切り替える。
F10	メニューをアクティブにする。

(2) 印刷プレビュー形式のウィンドウのショートカットキー

印刷プレビュー形式のウィンドウのショートカットキーを表 3-9 に示します。

表 3-9 印刷プレビューでの操作に関するショートカットキー

ショートカットキー	操作
P, Ctrl + P	印刷ダイアログを開く。
S	ページ設定ダイアログを開く。
Z	ページの一部分を拡大または縮小する。
C, Esc	印刷プレビューの形式のウィンドウを閉じる。
F5	ページ移動ボタンの横にあるテキストボックスに移動する。
Ctrl +	ページの下端にスクロールする。
Ctrl +	ページの上端にスクロールする。
Ctrl + , End	ページの右端にスクロールする。
Ctrl + , Home	ページの左端にスクロールする。
Ctrl + End	ページの右下隅にスクロールする。
Ctrl + Home	ページの左上隅にスクロールする。

(3) 印刷プレビュー以外のウィンドウのショートカットキー

カーソルの移動

カーソルの移動に関するショートカットキーを表 3-10 に示します。

表 3-10 カーソルの移動に関するショートカットキー

ショートカットキー	操作
	一つ上のセルに移動する。
	一つ下のセルに移動する。
, Shift + Tab, Ctrl +	一つ左のセルに移動する。
, Tab, Enter, Ctrl +	一つ右のセルに移動する。
Page Up	前の画面にスクロールする。
Page Down	次の画面にスクロールする。
Ctrl + Page Up	左の画面にスクロールする。
Ctrl + Page Down	右の画面にスクロールする。
Home	カレントレコードの先頭セルに移動する。
End	カレントレコードの最終セルに移動する。
Ctrl +	カレントフィールドの先頭セルに移動する。
Ctrl +	カレントフィールドの最終セルに移動する。
Ctrl + Home	データシートの先頭のセルに移動する。
Ctrl + End	データシートの最終のセルに移動する。
Ctrl + Tab	ウィンドウ内の次の入力領域に移動する。
Ctrl + Shift + Tab	ウィンドウ内の前の入力領域に移動する。
Ctrl + Alt + Home	ウィンドウの先頭の入力領域に移動する。

領域の選択

領域の選択に関するショートカットキーを表 3-11 に示します。

表 3-11 領域の選択に関するショートカットキー

ショートカットキー	操作
Ctrl + Space	カレントフィールドを選択する。
Shift + Space	カレントレコードを選択する。
Ctrl + Shift + Space, Ctrl + A	定義シート全体を選択する。
Shift +	選択したセルと一つ上のセルを選択する。
Shift +	選択したセルと一つ下のセルを選択する。
Shift +	選択したセルと一つ左のセルを選択する。

ショートカットキー	操作
Shift +	選択したセルと一つ右のセルを選択する。

領域の選択 (拡張モード)

領域の選択 (拡張モード) に関するショートカットキーを表 3-12 に示します。

表 3-12 領域の選択 (拡張モード) に関するショートカットキー

ショートカットキー	操作
F8	拡張モード (ウィンドウの右下隅に "EXT" と表示) に切り替える。 繰り返し押すことで、カーソルの選択範囲が、入力値 セル レコード すべてのレコードまで拡張する。
	選択したセルと一つ上のセルを選択する。
	選択したセルと一つ下のセルを選択する。
	選択したセルと一つ左のセルを選択する。
	選択したセルと一つ右のセルを選択する。
Shift + F8	直前に行った選択範囲の拡張を取り消す。
Esc	拡張モードを取り消す。

レコードおよび文字列の操作

レコードおよび文字列の操作に関するショートカットキーを表 3-13 に示します。

表 3-13 レコードおよび文字列の操作に関するショートカットキー

ショートカットキー	操作
Del	選択しているレコードを削除する。
Esc	レコードの変更を取り消す。
Shift + Enter	レコードを保存する。
Ctrl + C	レコードおよび文字列をコピーする。
Ctrl + V	レコードおよび文字列を貼り付けする。
F9, Shift + F9	ウィンドウを最新の状態で表示する。
CTRL + + (プラス記号)	新規追加用レコードに移動する。
Ctrl + - (マイナス記号)	カレントレコードを削除する。

3. SCMRF CD for Windows を使用する前に

セルの操作

セルの操作に関するショートカットキーを表 3-14 に示します。

表 3-14 セルの操作に関するショートカットキー

ショートカットキー	操作
F2	セル内の値を編集する状態とセル自体を操作する状態を切り替える。
Ctrl + "	セルの内容を一つ上のセルの内容に置き換える。
Ctrl + Alt + Space	セルの内容を既定値に置き換える。
Ctrl + Enter	セル内に改行文字を挿入する。
Del	選択しているセルの内容を削除する。
Back Space	選択しているセルの内容またはセル内のカーソル位置から前の 1 文字を削除する。
Esc	セルの変更を取り消す。
Ctrl + F	文字列を検索する。
Shift + F2	セルの内容を拡大表示する。

コンボボックスの操作

コンボボックスの操作に関するショートカットキーを表 3-15 に示します。

表 3-15 コンボボックスの操作に関するショートカットキー

ショートカットキー	操作
Alt + , F4	コンボボックスのリストの表示を切り替える。
	コンボボックス内のカーソルを上に移動する。
	コンボボックス内のカーソルを下に移動する。
Shift + Tab	コンボボックスのリストを閉じてカーソルを一つ左のセルに移動する。
Tab , Enter	コンボボックスのリストを閉じてカーソルを一つ右のセルに移動する。

4

SCMRF CD for Windows の 使用方法

この章では、SCMRF CD for Windows の使用方法について説明します。

SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文との関係については「付録 A SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文との関係」を、SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係については、「付録 H SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係」をそれぞれ参照してください。

-
- 4.1 起動・終了

 - 4.2 システム構成の設定

 - 4.3 入出力構成の定義

 - 4.4 ACOD 構成の定義

 - 4.5 PRMF 構成の定義

 - 4.6 構成定義エラーの確認

 - 4.7 構成定義データの比較

 - 4.8 ポートアドレスの使用状況の表示

 - 4.9 オプションの設定

 - 4.10 変更記録の表示

 - 4.11 ベースシステムの確認

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

-
- 4.12 機器構成の表示

 - 4.13 ラベル名称の定義・確認

 - 4.14 コメントの表示

 - 4.15 表示情報の出力方法

 - 4.16 ストージ計算

 - 4.17 ゼネレーションパラメタの生成

 - 4.18 追加データの登録

 - 4.19 搬入

 - 4.20 搬出

 - 4.21 ファイル転送

 - 4.22 ユティリティの操作

 - 4.23 FBD の定義
-

4.1 起動・終了

SCMRF CD for Windows の構成定義およびユティリティの起動方法について説明します。

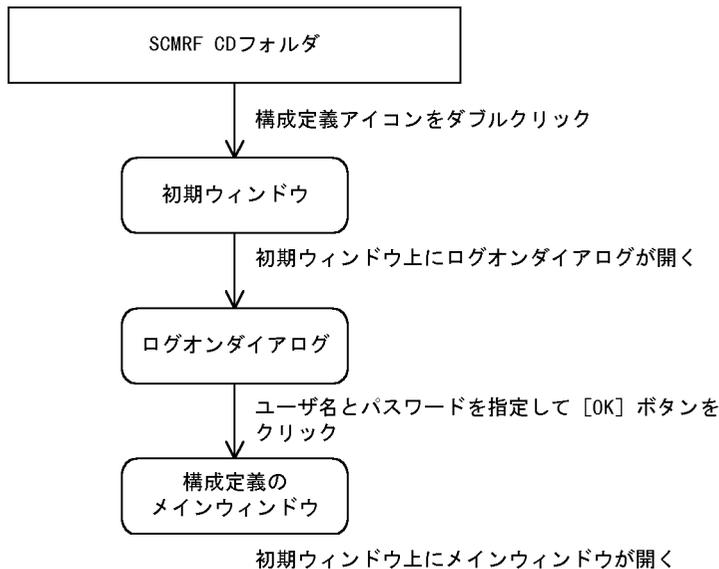
4.1.1 構成定義の起動・終了

構成定義の起動・終了方法を説明します。

(1) 構成定義の起動

構成定義の起動方法を図 4-1 に示します。

図 4-1 構成定義の起動方法



(a) 起動手順

構成定義の起動は次に示す手順で実行します。

1. スタートメニューからプログラムフォルダを開き、SCMRF CD フォルダにある [構成定義] アイコンをクリックします。
2. 初期ウィンドウ上のログオンダイアログに、ユーザ名とパスワードを指定します。初期ウィンドウを図 4-2 に、ログオンダイアログを図 4-3 に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

図 4-2 初期ウィンドウ



図 4-3 ログオンダイアログ



3. [OK] ボタンをクリックします。起動を中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

注意事項

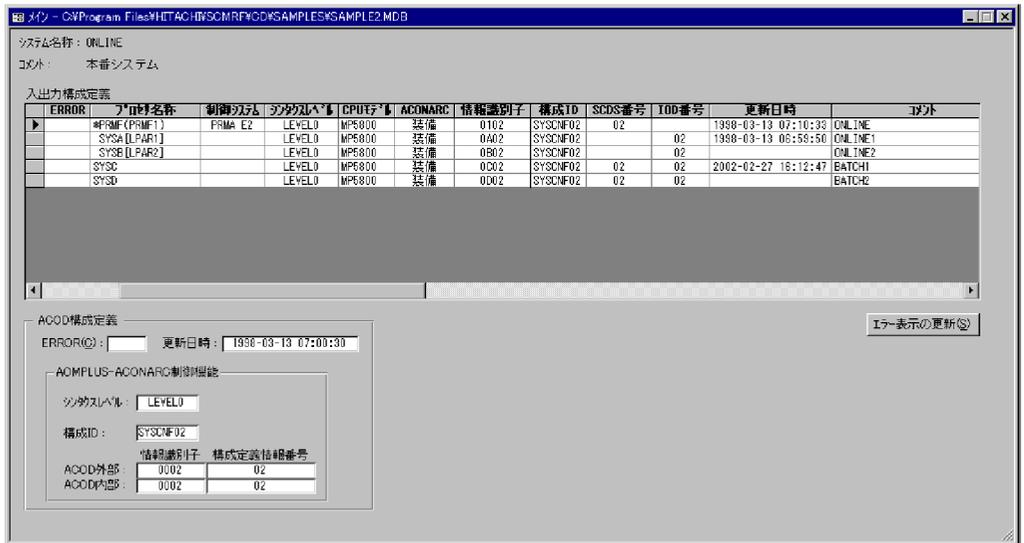
データベースを作成していない場合、またはデータベースが選択されていない場合は、メインウィンドウが開かないで初期ウィンドウだけになります。

データベースを作成していない場合は、データベースを作成してください。データベースを作成済みの場合は、[ファイル (F)] - [開く (O)...] を選択して、データベースファイルを指定してください。

(b) メインウィンドウの形式

構成定義を起動すると、構成定義のメインウィンドウが開きます。構成定義のメインウィンドウを図 4-4 に示します。

図 4-4 メインウィンドウ (構成定義)



メインウィンドウには、データの管理情報および定義データの状態が表示されます。

システム名称、コメント

システム名称およびシステムにつけるコメントが表示されます。これらはシステム構成の設定ウィンドウで設定する情報です。システム構成の設定方法については、「4.2 システム構成の設定」を参照してください。

入出力構成定義

入出力構成定義データおよび PRMF 構成定義データに関する情報が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

プロセッサ名称

VOS3 のプロセッサ名称、PRMF 構成の物理プロセッサ名称または 512 チャンネル構成時の物理 CPU 名称が表示されます。これはシステム構成の設定ウィンドウで設定する情報です。システム構成の設定方法については、「4.2 システム構成の設定」を参照してください。表示形式を表 4-1 に示します。

表 4-1 プロセッサ名称の表示形式

データの種類の	表示形式
PRMF 構成定義データ (512 チャンネル構成)	*PRMF (物理 CPU 名称)
PRMF 構成定義データ (512 チャンネル構成 - I/O グループ)	*IOGn (物理プロセッサ名称) ²
PRMF 構成定義データ	*PRMF (物理プロセッサ名称)
入出力構成定義データ (ゲスト OS)	ゲスト OS のプロセッサ名称 [LPAR 番号] ¹

データの種類	表示形式
入出力構成定義データ	プロセッサ名称

注 ゴシック体で記載している表示形式はシステム構成の設定ウィンドウで定義している名称が表示されることを示します。

注 1 LPAR 番号とプロセッサ名称を対応づけていない場合、「[LPAR*]」と表示されます。LPAR 番号とプロセッサ名称を対応づけるには、システム構成を設定した後に LPAR 構成を定義します。システム構成の設定方法については、「4.2.2 PRMF を使用する場合のシステム構成の設定方法」を、LPAR 構成の定義方法については、「4.5.1 LPAR 構成の定義」を参照してください。

注 2 “*IOGn” の “n” は I/O グループ番号が表示されます。

(例：I/O グループ 0 の場合、“IOG0 (物理プロセッサ名称)” となります)

制御システム

システム構成の設定ウィンドウで設定した、PRMF 構成の制御システム名称が表示されます。このフィールドは、PRMF 構成定義以外の場合には空白が表示されます。

システム構成の設定ウィンドウで、PRMF 構成を一つも定義していない場合、このフィールドは表示されません。

シンタクスレベル, CPU モデル, ACONARC, コメント

プロセッサまたは物理プロセッサに関する情報が表示されます。これらはシステム構成の設定ウィンドウで設定する情報です。システム構成の設定方法については、「4.2 システム構成の設定」を参照してください。

情報識別子, 構成 ID, SCDS 番号, IOD 番号

入出力構成定義データおよび PRMF 構成定義データに関する情報が表示されます。これらはシステム構成の設定ウィンドウで設定する情報です。システム構成の設定方法については、「4.2 システム構成の設定」を参照してください。

更新日時

入出力構成および PRMF 構成の更新日時が表示されます。

ACOD 構成定義

ACOD 構成定義データに関する情報が表示されます。ACONARC 制御機能を使用する場合、または ACOD が一つ以上定義されている場合に表示されます。

ERROR(C)

エラー番号が表示されます。

更新日時

ACOD 構成の更新日時が表示されます。

AOMPLUS - ACONARC 制御機能

ACONARC 制御機能を使用する場合に、ACOD 構成定義データの次に示す情報

が表示されます。これらはシステム構成の設定ウィンドウで設定する情報です。システム構成の設定方法については、「4.2 システム構成の設定」を参照してください。

- シンタクスレベル
- 構成 ID
- 情報識別子
- 構成定義情報番号

[エラー表示の更新 (S)]

定義データにエラーがあるかどうかを確認します。

(c) 作業するデータベースを変更する

データベースは複数開けません。作業中のデータベース以外のデータベースを開くには、次に示す手順で作業するデータベースを変更します。

1. メインウィンドウで、[ファイル (F)] - [閉じる (C)] を選択します。メインウィンドウ以外のウィンドウを開いている場合、それらのウィンドウも同時に閉じられます。
2. 初期ウィンドウから [ファイル (F)] - [開く (O)...] を選択します。
3. 作業するデータベースのファイル名を指定して、[開く (O)] ボタンをクリックします。

(d) ログオンダイアログにあらかじめユーザ名を表示させる

ログオンダイアログによく使うユーザ名をあらかじめ表示できます。ユーザ名をあらかじめ表示させるには、SCMRF CD for Windows の初期化ファイルでユーザ名を指定しておきます。初期化ファイルにユーザ名を指定する方法については、「付録 C SCMRF CD for Windows の初期化ファイル」を参照してください。

(e) 構成定義ウィンドウを開いたときに表示する定義データを選択する

メインウィンドウの入出力構成定義の定義シートで定義データを選択すると、構成定義ウィンドウを開いたときに表示される定義データを変更できます。

(f) 定義データにエラーがあるかどうかを確認する

定義データにエラーがあるかどうかを確認するには、[エラー表示の更新 (S)] ボタンをクリックします。定義データにエラーがあると、ERROR フィールドにエラー番号が表示されます。

(2) 構成定義の終了

構成定義を終了するには、[ファイル (F)] - [終了 (X)] を選択します。

4.1.2 ユティリティの起動・終了

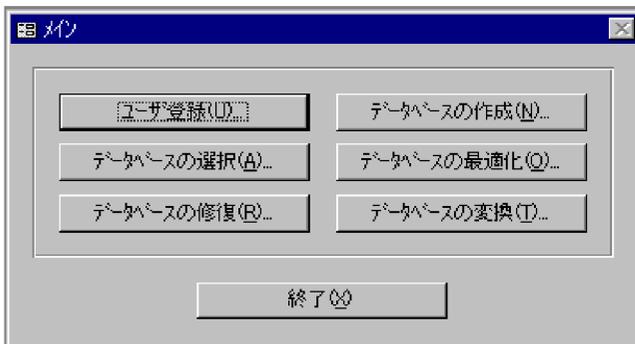
ユティリティの起動・終了方法を説明します。

(1) ユティリティの起動

ユティリティは次の手順で起動します。

1. スタートメニューからプログラムフォルダを開き、SCMRF CD フォルダにある [ユティリティ] アイコンをダブルクリックします。
2. ログオンダイアログが開きます。ユーザ名とパスワードを指定して、[OK] ボタンをクリックします。
3. メインウィンドウが開きます。ユティリティのメインウィンドウを図 4-5 に示します。

図 4-5 メインウィンドウ (ユティリティ)



ユティリティのメインウィンドウには、ユティリティで実行できる操作を示すボタンが表示されます。ユティリティで実行できる操作については、「4.22 ユティリティの操作」を参照してください。

- [ユーザ登録 (U)...]
ユーザの登録を実行します。
- [データベースの作成 (N)...]
データベースの作成を実行します。
- [データベースの選択 (A)...]
データベースの選択を実行します。
- [データベースの最適化 (O)...]
データベースの最適化を実行します。
- [データベースの修復 (R)...]
データベースの修復を実行します。
- [データベースの変換 (T)...]
データベースの変換を実行します。
- [終了 (X)]
ユティリティを終了します。

注意事項

ユティリティは構成定義と同時に起動できます。同時に起動している場合、データベースの管理作業はできません。

(2) ユティリティの終了

メインウィンドウの [終了 (X)] ボタンをクリックするか、または [ファイル (F)] - [終了 (X)] を選択します。

4.2 システム構成の設定

システムのプロセッサ構成や、構成定義データを管理するための情報をシステム構成の設定ウィンドウで設定します。新しく設定する、または設定した内容を変更するときは、構成定義ウィンドウを閉じた状態で設定してください。

PRMF を使用する場合のシステム構成の設定は、PRMF を使用しない場合と設定方法が異なります。PRMF を使用する場合には、「4.2.2 PRMF を使用する場合のシステム構成の設定方法」を、512 チャンネル拡張機能を使用する場合には、「4.2.3 512 チャンネル拡張機能を使用する場合のシステム構成の設定方法」をそれぞれ参照してください。

4.2.1 システム構成の設定方法

VOS3 の入出力構成・ACOD 構成を定義する場合のシステム構成の設定方法について説明します。

(1) ウィンドウの形式

システム構成の設定ウィンドウを図 4-6 に示します。

図 4-6 システム構成の設定ウィンドウ



システム名称 (S)

データベースにつけるシステム名称を指定します。先頭が英字で始まる、8文字以内の半角大文字の英数字で指定します。

コメント (C)

システムに対するコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

PRMF を使用する (P)

PRMF を使用するかどうかを指定します。データベースを作成した直後は使用しない状態になっています。PRMF を使用する場合には、「4.2.2 PRMF を使用する場合のシステム構成の設定方法」を参照してください。

[システム構成オプションの設定 (O)...]

システム構成オプションの設定ダイアログが表示されます。システム構成オプションの設定方法については、「4.2.4 システム構成オプションの設定方法」を参照してください。

OS 構成一覧**プロセッサ名称**

VOS3 のプロセッサを識別する名称を指定します。先頭が英字で始まる、8 文字以内の半角大文字の英数字で指定します。

シンタクスレベル

入出力構成定義データのシンタクスチェックのレベルを指定します。次に示すシンタクスレベルの中から選択します。

- LEVEL0 : VOS3/FS 02-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL1 : VOS3/FS 03-00 ~ 05-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL2 : VOS3/FS 06-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL3 : VOS3/LS 01-00 ~ 02-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL4 : VOS3/LS 03-00 以降、および VOS3/US 01-00 ~ 02-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL5 : VOS3/US 03-00 ~ 04-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL6 : VOS3/US 05-00 以降と同等のチェックを実行します。

CPU モデル

プロセッサの CPU 識別記号を指定します。構成定義できる CPU 識別記号の中から選択します。

ACONARC

ACONARC チャンネルを使用するかどうかを指定します。CPU 識別記号を指定した後に指定できます。次に示す選択肢から選択します。選択肢は CPU 識別記号によって限定されます。

- 使用する : 装備
- 使用しない : 非装備

省略すると、「装備」が仮定されます。

情報識別子

入出力構成定義データの情報識別子を指定します。半角大文字の英数字 4 文字

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

で指定します。

構成 ID

入出力構成定義データの構成 ID を指定します。

SCDS 番号

入出力構成定義データに対応する、システム構成データセット (SCDS) の面番号を指定します (先頭に 0 が自動的に付加されます)。省略すると、「00」が仮定されます。

IOD 番号

入出力構成定義データに対応する、入出力構成定義情報メンバ (JAAIOD0n) の下 2 けたを指定します。1 けたで指定すると 10 の位に 0 が自動的に設定されます。省略すると、「00」が仮定されます。

コメント

プロセサに対するコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

ACONARC 制御機能を使用する (A) ¹

AOMPLUS の ACONARC 制御機能で使用するための、ACOD 構成定義データを作成するかどうかを指定します。作成する場合、次に示す項目を指定します。

シンタクスレベル (Y) ²

ACONARC 制御機能のシンタクスレベルを次の中から指定します。

- LEVEL0 : AOMPLUS 05-04 ~ 06-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL1 : AOMPLUS 07-00 以降と同等のチェックを実行します。

構成 ID (G) ²

ACOD 構成定義データの構成 ID を指定します。

情報識別子 ²

ACOD 外部構成定義データ、ACOD 内部構成定義データの情報識別子を指定します。半角大文字の英数字 4 文字で指定します。

構成定義情報番号 ²

ACOD 外部構成定義情報番号、ACOD 内部構成定義情報番号を指定します (先頭に 0 が自動的に付加されます)。

注 1 ACONARC を使用するプロセサがある場合に活性状態になります。

注 2 ACONARC 制御機能の使用を指定した場合に、表示されます。

ディレクトリ定義オプション

定義するディレクトリを指定します。

ACOD を定義する (K)

ACONARC ディレクトリを定義する場合に指定します。

FBD を定義する (B)

FIBARC ディレクタを定義する場合に指定します。

(2) 操作方法

(a) プロセサの追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加するプロセサのプロセサ名称、およびそのほかの設定情報を指定します。削除するには、削除するプロセサのレコードを削除します。

(b) ACONARC 制御機能を使用する設定

ACONARC 制御機能を使用する場合は、[ACONARC 制御機能を使用する (A)] チェックボックスをオンにします。

(c) 指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(d) システム構成オプションを設定する

システム構成オプションを設定するための操作を説明します。

1. [システム構成オプションの設定 (O)...] ボタンをクリックします。
2. システム構成オプションの設定ダイアログで OS 構成のオプションを設定します。

(3) 注意事項

(a) プロセサに関する注意事項

- プロセサを削除すると、削除したプロセサの入出力構成定義データ (ACOD 経路を定義している場合は ACOD 経路も含む) がすべて削除されます。
- シンタクスレベル, CPU 識別記号, および ACONARC 装備・非装備を変更すると、定義エラーが発生する場合がありますので、定義エラーを確認してください。
- ACONARC 装備から非装備に変更するには、ACONARC チャンネルの定義を削除する必要があります。
- FIBARC チャンネルが定義可能なシンタクスレベルから定義不可のシンタクスレベルに変更するには、FIBARC チャンネルの定義を削除する必要があります。

(b) ACONARC 制御機能に関する注意事項

- ACONARC 制御機能を使用しない状態のときは、ACOD 構成定義データを搬入・搬出できません。
- ACONARC 装備のプロセサをすべて削除するか、または ACONARC 制御機能を使用する状態から使用しない状態に変更すると、次に示す ACONARC 制御機能に関する管理情報や定義が削除されます。
 - ACOD 構成定義データの構成 ID, 情報識別子, 構成定義情報番号
 - ACOD 構成のベースシステム情報, 搬入日時, 搬出日時, ゼネレーションパラメタ生成日時
 - ACONARC 制御機能の制御対象にする入出力制御装置の登録内容

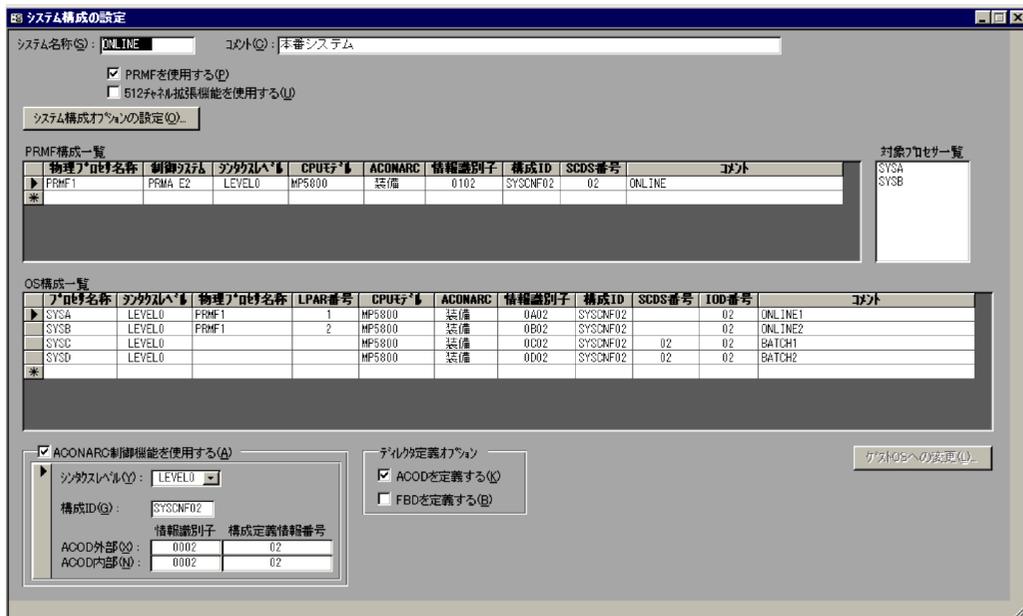
4.2.2 PRMF を使用する場合のシステム構成の設定方法

PRMF を使用する場合のシステム構成の設定方法について説明します。

(1) ウィンドウの形式

PRMF を使用する場合のシステム構成の設定ウィンドウを図 4-7 に示します。

図 4-7 システム構成の設定ウィンドウ (PRMF を使用する場合)



システム名称 (S)

データベースにつけるシステム名称を指定します。先頭が英字で始まる、8文字以内の半角大文字の英数字で指定します。

コメント (C)

システムに対するコメントを指定します。全角ならば 32文字、半角ならば 64文字以内で指定します。コメントは省略できます。

PRMF を使用する (P)

PRMF を使用するかどうかを指定します。使用する場合、チェックボックスをオンにします。データベースを作成した直後は使用しない状態になっています。

512 チャンネル拡張機能を使用する (U)

512 チャンネル拡張機能を使用するかどうかを指定します。使用する場合、チェックボックスをオンにします。データベースを作成した直後は使用しない状態になっています。512 チャンネル拡張機能を使用する場合については、「4.2.3 512 チャンネル拡張機能を使用する場合のシステム構成の設定方法」を参照してください。

[システム構成オプションの設定 (O)...]

システム構成オプションの設定ダイアログが表示されます。システム構成オプションの設定方法については、「4.2.4 システム構成オプションの設定方法」を参照してください。

PRMF 構成一覧

PRMF を使用する場合に表示される定義シートです。

物理プロセッサ名称

PRMF を使用する物理プロセッサを識別する名称を指定します。先頭が英字で始まる、8 文字以内の半角大文字の英数字で指定します。

制御システム

物理プロセッサの制御システムとして使用する「プロセッサ資源分割管理機構支援」を指定します。次に示す制御システムから選択します。

- PRMA E2
- PRMA E3

シンタクスレベル

物理プロセッサのシンタクスチェックのレベルを指定します。次に示すシンタクスレベルの中から選択します。省略した場合は、制御システムごとの最新のシンタクスレベルを設定します。

制御システムが PRMA E2 の場合

- LEVEL0 : PRMA E2 02-04 ~ 03-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL1 : PRMA E2 03-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL2 : PRMA E2 03-02 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL3 : PRMA E2 04-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL4 : PRMA E2 04-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL5 : PRMA E2 05-00 ~ 05-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL6 : PRMA E2 05-02 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL7 : PRMA E2 05-03 以降と同等のチェックを実行します。

制御システムが PRMA E3 の場合

- LEVEL0 : PRMA E3 01-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL1 : PRMA E3 01-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL2 : PRMA E3 01-02 ~ 02-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL3 : PRMA E3 03-00 ~ 03-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL4 : PRMA E3 04-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL5 : PRMA E3 05-00 ~ 06-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL6 : PRMA E3 07-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL7 : PRMA E3 08-00 以降と同等のチェックを実行します。

CPU モデル

CPU 識別記号を指定します。構成定義できる CPU 識別記号の中から選択しま

す。

ACONARC

ACONARC チャンネルを使用するかどうかを指定します。CPU 識別記号を指定した後に指定できます。次に示す選択肢から選択します。選択肢は CPU 識別記号によって限定されます。

- 使用する：装備
- 使用しない：非装備

省略すると、「装備」が仮定されます。

情報識別子

PRMF 構成定義データの情報識別子を指定します。半角大文字の英数字 4 文字で指定します。

構成 ID

PRMF 構成定義データの構成 ID を指定します。

SCDS 番号

PRMF 構成定義データに対応する、システム構成データセット (SCDS) の面番号を指定します (先頭に 0 が自動的に付加されます)。省略すると、「00」が仮定されます。

コメント

PRMF 構成に対するコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

対象プロセサー一覧

選択している物理プロセサで動作する、LPAR モードのプロセサが表示されます。

OS 構成一覧

LPAR モードのプロセサの入出力構成定義データについて設定する定義シートです。ベーシックモードのプロセサの入出力構成定義データも、PRMF を使用しない場合と同様に設定できます。ベーシックモードのプロセサの入出力構成定義データの設定方法については、「4.2.1 システム構成の設定方法」を参照してください。

プロセサ名称

VOS3 のプロセサを識別する名称を指定します。先頭が英字で始まる、8 文字以内の半角大文字の英数字で指定します。

シンタクスレベル

入出力構成定義データのシンタクスチェックのレベルを指定します。次に示すシンタクスレベルの中から選択します。

- LEVEL0 : VOS3/FS 02-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL1 : VOS3/FS 03-00 ~ 05-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL2 : VOS3/FS 06-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL3 : VOS3/LS 01-00 ~ 02-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL4 : VOS3/LS 03-00 以降、および VOS3/US 01-00 ~ 02-00 と同等の

チェックを実行します。

- LEVEL5 : VOS3/US 03-00 ~ 04-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL6 : VOS3/US 05-00 以降と同等のチェックを実行します。

物理プロセサ名称

LPAR が動作する物理プロセサを指定します。PRMF 構成一覧で指定した物理プロセサ名称の中から選択します。省略すると、ベーシックモードのプロセサになります。

LPAR 番号

ゲスト OS が動作する LPAR の LPAR 番号を指定します。

CPU モデル

物理プロセサの CPU モデルが表示されます。

ACONARC

物理プロセサの指定値が表示されます。

情報識別子

入出力構成定義データの情報識別子を指定します。半角大文字の英数字 4 文字で指定します。

構成 ID

入出力構成定義データの構成 ID を指定します。

SCDS 番号

LPAR モードのプロセサの場合は指定できません。

IOD 番号

入出力構成定義データに対応する、入出力構成定義情報メンバ (JAAIOD0n) の下 2 けたを指定します。1 けたで指定すると 10 の位に 0 が自動的に設定されます。省略すると、「00」が仮定されます。

コメント

プロセサに対するコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

ACONARC 制御機能を使用する (A)、シンタクスレベル (Y)、構成 ID(G)、情報識別子、構成定義情報番号

VOS3 の ACOD 構成を定義する場合と同様に表示されて、同じ方法で設定します。表示項目および設定方法については、「4.2.1 システム構成の設定方法」を参照してください。

ディレクタ定義オプション

定義するディレクタを指定します。

ACOD を定義する (K)

ACONARC ディレクタを定義する場合に指定します。

FBD を定義する (B)

FIBARC ディレクタを定義する場合に指定します。

[ゲスト OS への変更 (L)...]

選択しているプロセサの定義データを LPAR 上のゲスト OS の定義データに変更します。

(2) 操作方法

(a) PRMF を使用する設定

PRMF を使用する場合は、[PRMF を使用する (P)] チェックボックスをオンにします。

(b) 物理プロセサの追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加する物理プロセサの物理プロセサ名称、およびそのほかの設定情報を指定します。削除するには、削除する物理プロセサのレコードを削除します。

(c) ゲスト OS の追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加するプロセサのプロセサ名称、ゲスト OS が動作する物理プロセサ名称と LPAR 番号、およびそのほかの設定情報を指定します。

削除するには、削除するプロセサのレコードを削除します。

(d) ACONARC 制御機能を使用する設定

ACONARC 制御機能を使用する場合は、[ACONARC 制御機能を使用する (A)] チェックボックスをオンにします。

(e) 指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(f) システム構成オプションを設定する

システム構成オプションを設定するための操作を説明します。

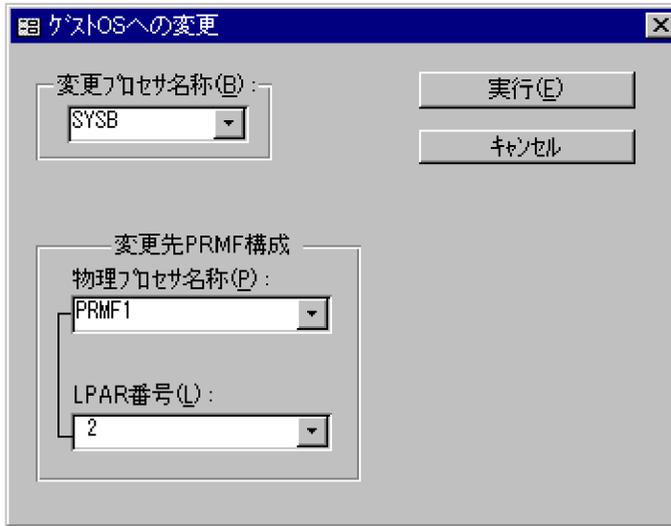
1. [システム構成オプションの設定 (O)...] ボタンをクリックします。
2. システム構成オプションの設定ダイアログで OS 構成のオプションを設定します。

(g) ベーシックモードのプロセサの定義データをゲスト OS の定義データに変更する

ベーシックモードのプロセサの定義データを LPAR 上のゲスト OS の定義データに変更できるかどうかを確認するため、事前に PRMF 構成との整合性チェックを実行してください。チェック方法については、「4.6.3 エラーチェックの実行」を参照してください。

1. ゲスト OS に変更するプロセサを選択します。
2. [ゲスト OS への変更 (L)...] ボタンをクリックします。
3. ゲスト OS への変更ダイアログで、変更後のゲスト OS が動作する物理プロセサおよび LPAR を指定します。ゲスト OS への変更ダイアログを図 4-8 に示します。

図 4-8 ゲスト OS への変更ダイアログ



物理プロセッサ名称は、システム構成の設定ウィンドウで設定している物理プロセッサの中から選択できます。LPAR 番号は、LPAR 構成定義ウィンドウで定義済みで、ゲスト OS との対応づけをしていない LPAR のの中から選択できます。

システム構成の設定ウィンドウで設定していない物理プロセッサを指定すると、ベーシックモードのプロセッサが、新しく追加された物理プロセッサとゲスト OS に変更されます。

CPU モデルが AP8000 シリーズまたは AP8800 シリーズの場合 PRMA E3 が、それ以外の場合 PRMA E2 が制御システムへ設定されます。

4. [実行(E)] ボタンをクリックします。変更を中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

変更後の物理プロセッサとゲスト OS との間で入出力構成の不整合エラーがあると変更は中止されます。なお、変更後の物理プロセッサとゲスト OS との間で ACOD 経路の不整合エラーがあっても変更できますが、エラーになった ACOD 経路は変更されないで破棄されます。

(3) 注意事項

(a) PRMF 構成に関する注意事項

- 物理プロセッサを削除すると、削除した物理プロセッサの PRMF 構成定義データ (ACOD 経路を定義している場合は ACOD 経路も含む)、および LPAR モードのプロセッサの入出力構成定義データ (ゲスト OS) がすべて削除されます。
- シンタクスレベル、CPU 識別記号および ACONARC 装備・非装備を変更すると、定義エラーが発生する場合がありますので、定義エラーを確認してください。
- ACONARC 装備から非装備に変更するには、ACONARC チャンネルの定義を削除する必要があります。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

- FIBARC チャンネルが定義可能なシンタクスレベルから定義不可のシンタクスレベルに変更するには、FIBARC チャンネルの定義を削除する必要があります。
- LPAR 間高速連携機能が定義可能なシンタクスレベルから定義不可のシンタクスレベルに変更するには、LPAR 間高速連携機能の定義を削除する必要があります。

(b) ゲスト OS に関する注意事項

- ゲスト OS に設定した LPAR 番号を、LPAR 構成の定義時にプロセッサ名称と対応づけると、ゲスト OS の入出力構成を PRMF 構成に一致させて定義できます。LPAR 構成の定義方法については、「4.5.1 LPAR 構成の定義」を参照してください。
- ゲスト OS を削除すると、削除したゲスト OS の入出力構成定義データがすべて削除されます。また、ACOD 経路を定義している場合は、ACOD 経路のゲスト OS への割り当てに関する情報も削除されます。
- シンタクスレベルを変更すると、定義エラーが発生する場合がありますので、定義エラーを確認してください。
- ゲスト OS の入出力構成をベーシックモードのプロセッサの入出力構成に変更できません。LPAR モードのプロセッサを削除して、新しくベーシックモードのプロセッサを追加してください。入出力構成定義データを引き継ぐ場合は、変更する LPAR モードのプロセッサの入出力構成定義データを一度搬出した後、追加したベーシックモードのプロセッサに搬入してください。

(c) ACONARC 制御機能に関する注意事項

- ACONARC 制御機能を使用しない状態のときは、ACOD 構成定義データを搬入・搬出できません。
- ACONARC 装備のプロセッサをすべて削除するか、または ACONARC 制御機能を使用する状態から使用しない状態に変更すると、次に示す ACONARC 制御機能に関する管理情報や定義が削除されます。
 - ACOD 構成定義データの構成 ID、情報識別子、構成定義情報番号
 - ACOD 構成のベースシステム情報、搬入日時、搬出日時、ゼネレーションパラメタ生成日時
 - ACONARC 制御機能の制御対象にする入出力制御装置の登録内容

4.2.3 512 チャンネル拡張機能を使用する場合のシステム構成の設定方法

512 チャンネル拡張機能を使用する場合のシステム構成の設定方法について説明します。

(1) ウィンドウの形式

512 チャンネル拡張機能を使用する場合のシステム構成の設定ウィンドウを図 4-9 に示します。

図 4-9 システム構成の設定ウィンドウ (512 チャンネル拡張機能を使用する場合)

システム名称(S): ONLINE コメント(C): 不番システム

PRMFを使用する(P)
 512チャンネル拡張機能を使用する(U)

システム構成オプションの設定(O)...

物理CPU構成一覧

物理CPU名称	制御システム	チャンネルレベル	CPU型番	ACONARC	構成ID	SCDS番号	コメント
PRMF512	PRMA E3	LEVEL2	AP8000	装備	SYSCNF02	02	ONLINE-512CH

対象物理プロセッサ一覧
PRMF1
PRMF2

PRMF構成一覧

物理プロセッサ名称	制御システム	チャンネルレベル	物理CPU名称	IOG番号	CPU型番	ACONARC	情報識別子	構成ID	SCDS番号	コメント
PRMF1	PRMA E3	LEVEL2	PRMF512	0	AP8000	装備	0102	SYSCNF02	02	ONLINE-10G0
PRMF2	PRMA E3	LEVEL2	PRMF512	1	AP8000	装備	0202	SYSCNF02	02	ONLINE-10G1
PRMF3	PRMA E3	LEVEL2			AP8000	装備	0302	SYSCNF02	02	ONLINE-256CH

対象プロセッサ一覧
SYSA
SYSB

OS構成一覧

プロセッサ名称	チャンネルレベル	物理プロセッサ名称	LPAR番号	CPU型番	ACONARC	情報識別子	構成ID	SCDS番号	IOG番号	コメント
SYSA	LEVEL3	PRMF1	1	AP8000	装備	0402	SYSCNF02		02	ONLINE1
SYSB	LEVEL3	PRMF1	2	AP8000	装備	0502	SYSCNF02		02	ONLINE2
SYS C	LEVEL3	PRMF2	3	AP8000	装備	0602	SYSCNF02		02	ONLINE3
SYS D	LEVEL3	PRMF2	4	AP8000	装備	0702	SYSCNF02		02	ONLINE4

ACONARC制御機能を使用する(A)

システムレベル(L): LEVEL0

構成ID(G): SYSCNF02

ACOD外部(C): 0002 02
ACOD内部(C): 0002 02

デフォルト定義オプション
 ACODを定義する(E)
 FBDを定義する(E)

リロードへの変更(O)

システム名称 (S)

データベースにつけるシステム名称を指定します。先頭が英字で始まる、8文字以内の半角大文字の英数字で指定します。

コメント (C)

システムに対するコメントを指定します。全角ならば32文字、半角ならば64文字以内で指定します。コメントは省略できます。

PRMF を使用する (P)

PRMFを使用するかどうかを指定します。使用する場合、チェックボックスをオンにします。データベースを作成した直後は使用しない状態になっています。

512 チャンネル拡張機能を使用する (U)

512チャンネル拡張機能を使用するかどうかを指定します。使用する場合、チェックボックスをオンにします。データベースを作成した直後は使用しない状態になっています。

[システム構成オプションの設定 (O)...]

システム構成オプションの設定ダイアログが表示されます。システム構成オプションの設定方法については、「4.2.4 システム構成オプションの設定方法」を参照してください。

物理 CPU 構成一覧

512チャンネル拡張機能を使用する場合に表示される定義シートです。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

物理 CPU 名称

512 チャンネル拡張機能を使用する物理 CPU を識別する名称を指定します。先頭が英字で始まる、8 文字以内の半角大文字の英数字で指定します。

制御システム

物理 CPU の制御システムとして使用する「プロセッサ資源分割管理機構支援」を指定します。次に示す制御システムから選択します。

- PRMA E3

シンタクスレベル

物理 CPU のシンタクスチェックのレベルを指定します。次に示すシンタクスレベルの中から選択します。省略した場合は、制御システムごとの最新のシンタクスレベルを設定します。

制御システムが PRMA E3 の場合

- LEVEL2 : PRMA E3 01-02 ~ 02-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL3 : PRMA E3 03-00 ~ 03-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL4 : PRMA E3 04-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL5 : PRMA E3 05-00 ~ 06-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL6 : PRMA E3 07-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL7 : PRMA E3 08-00 以降と同等のチェックを実行します。

CPU モデル

CPU 識別記号を指定します。構成定義できる CPU 識別記号の中から選択します。

ACONARC

ACONARC チャンネルを使用するかどうかを指定します。512 チャンネル拡張機能が使用できる CPU モデルでは「装備」だけが選択できます。

構成 ID

512 チャンネル構成定義データを含む PRMF 構成定義データの構成 ID を指定します。

SCDS 番号

PRMF 構成定義データに対応する、システム構成データセット (SCDS) の面番号を指定します (先頭に 0 が自動的に付加されます)。省略すると、「00」が仮定されます。

コメント

PRMF 構成に対するコメントを指定します。全角の場合 32 文字以内、半角の場合 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

対象物理プロセッサ一覧

選択している物理 CPU で動作する物理プロセッサ (I/O グループ) が表示されます。

PRMF 構成一覧

PRMF を使用する場合に表示される定義シートです。

物理プロセサ名称

PRMF を使用する物理プロセサを識別する名称を指定します。先頭が英字で始まる、8 文字以内の半角大文字の英数字で指定します。

制御システム

物理プロセサの制御システムとして使用する「プロセッサ資源分割管理機構支援」を指定します。次に示す制御システムから選択します。

- PRMA E2
- PRMA E3

シンタクスレベル

物理プロセサのシンタクスチェックのレベルを指定します。次に示すシンタクスレベルの中から選択します。省略した場合は、制御システムごとの最新のシンタクスレベルを設定します。

制御システムが PRMA E2 の場合

- LEVEL0：PRMA E2 02-04 ~ 03-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL1：PRMA E2 03-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL2：PRMA E2 03-02 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL3：PRMA E2 04-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL4：PRMA E2 04-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL5：PRMA E2 05-00 ~ 05-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL6：PRMA E2 05-02 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL7：PRMA E2 05-03 以降と同等のチェックを実行します。

制御システムが PRMA E3 の場合

- LEVEL0：PRMA E3 01-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL1：PRMA E3 01-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL2：PRMA E3 01-02 ~ 02-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL3：PRMA E3 03-00 ~ 03-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL4：PRMA E3 04-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL5：PRMA E3 05-00 ~ 06-01 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL6：PRMA E3 07-00 と同等のチェックを実行します。
- LEVEL7：PRMA E3 08-00 以降と同等のチェックを実行します。

物理 CPU 名称

物理プロセサが動作する物理 CPU を指定します。物理 CPU 構成一覧で指定した物理 CPU 名称の中から選択します。省略すると、256 チャンネル構成の物理プロセサとなります。

なお、このフィールドを指定すると次に示す情報は物理 CPU 側の情報が継続されません。フィールドの入力はできません。

- 制御システム
- シンタクスレベル

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

- CPU モデル
- ACONARC
- 構成 ID
- SCDS 番号

IOG 番号

物理プロセサに対応させる、I/O グループ番号 (0 または 1) を指定します。
なお、同一物理 CPU 名称を指定している物理プロセサ間での I/O グループ番号の重複はできません。

CPU モデル

CPU 識別記号を指定します。構成定義できる CPU 識別記号の中から選択します。

ACONARC

ACONARC チャンネルを使用するかどうかを指定します。CPU 識別記号を指定した後に指定できます。次に示す選択肢から選択します。選択肢は CPU 識別記号によって限定されます。

- 使用する：装備
- 使用しない：非装備

省略すると、「装備」が仮定されます。

情報識別子

PRMF 構成定義データの情報識別子を指定します。半角大文字の英数字 4 文字で指定します。

構成 ID

PRMF 構成定義データの構成 ID を指定します。

SCDS 番号

PRMF 構成定義データに対応する、システム構成データセット (SCDS) の面番号を指定します (先頭に 0 が自動的に付加されます)。省略すると、「00」が仮定されます。

コメント

PRMF 構成に対するコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

対象プロセサー一覧

選択している物理プロセサで動作する、LPAR モードのプロセサが表示されます。

[I/O グループへの変更 (V)...]

物理プロセサ構成一覧で選択している物理プロセサの構成定義データを、物理 CPU 上の一つの I/O グループ定義データに変更します。

OS 構成一覧 , [ゲスト OS への変更 (L)...]

PRMF を使用する場合と同様に表示されて、同じ方法で設定します。表示項目およ

び設定方法については「4.2.2 PRMF を使用する場合のシステム構成の設定方法」を参照してください。

ACONARC 制御機能を使用する (A), シンタクスレベル (Y), 構成 ID (G), 情報識別子, 構成定義情報番号

VOS3 の ACOD 構成を定義する場合と同様に表示されて, 同じ方法で設定します。

表示項目および設定方法については, 「4.2.1 システム構成の設定方法」を参照してください。

ディレクタ定義オプション

定義するディレクタを指定します。

ACOD を定義する (K)

ACONARC ディレクタを定義する場合に指定します。

FBD を定義する (B)

FIBARC ディレクタを定義する場合に指定します。

(2) 操作方法

(a) PRMF を使用する設定

PRMF を使用する場合は, [PRMF を使用する (P)] チェックボックスをオンにします。

(b) 512 チャンネル拡張機能を使用する設定

512 チャンネル拡張機能を使用する場合は, [512 チャンネル拡張機能を使用する (U)] チェックボックスをオンにします。

(c) 物理 CPU の追加・削除

追加するには, 追加用レコードに追加する物理 CPU の物理 CPU 名称, およびそのほかの設定情報を指定します。削除するには, 削除する物理 CPU のレコードを削除します。

(d) 物理プロセサの追加・削除

追加するには, 追加用レコードに追加する物理プロセサの物理プロセサ名称, およびそのほかの設定情報を指定します。削除するには, 削除する物理プロセサのレコードを削除します。

(e) ゲスト OS の追加・削除

追加するには, 追加用レコードに追加するプロセサのプロセサ名称, ゲスト OS が動作する物理プロセサ名称と LPAR 番号, およびそのほかの設定情報を指定します。

削除するには, 削除するプロセサのレコードを削除します。

(f) ACONARC 制御機能を使用する設定

ACONARC 制御機能を使用する場合は, [ACONARC 制御機能を使用する (A)] チェッ

クボックスをオンにします。

(g) 指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(h) システム構成オプションを設定する

システム構成オプションを設定するための操作を説明します。

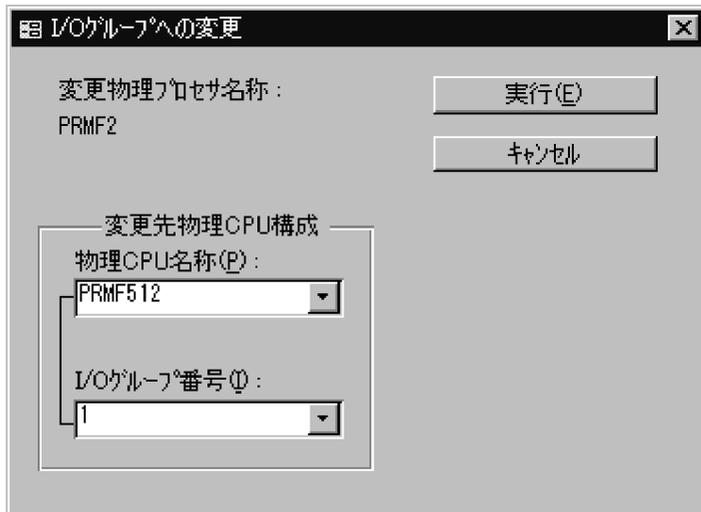
1. [システム構成オプションの設定 (O)...] ボタンをクリックします。
2. システム構成オプションの設定ダイアログで OS 構成のオプションを設定します。

(i) 既存の 256 チャンネル物理プロセッサ構成定義データを I/O グループに変更する

すでに定義済みの 256 チャンネル構成の物理プロセッサ構成定義データを、512 チャンネル構成の一つの I/O グループとして変換し流用します。

1. 変更先物理 CPU 構成の [物理 CPU 名称 (P)] および [I/O グループ番号 (I)] を指定します。I/O グループへの変更ダイアログを図 4-10 に示します。

図 4-10 I/O グループへの変更ダイアログ



変更物理プロセッサ名称は I/O グループに変更する物理プロセッサ名称が表示されます。表示される物理プロセッサ名称はシステム構成の設定ウィンドウで選択されている物理プロセッサとなります。

物理 CPU 名称は変更後の I/O グループに対応する物理 CPU 名称を指定します。

I/O グループ番号は変更先となる I/O グループ番号を指定します。

2. [実行 (E)] ボタンをクリックします。I/O グループへの変更を中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

(3) 注意事項

(a) 512 チャンネル構成（物理 CPU 構成）に関する注意事項

- 物理 CPU を削除すると、削除した物理 CPU が動作するすべての物理プロセサの PRMF 構成定義データ（ACOD 経路を定義している場合は ACOD 経路も含む）、および LPAR モードのプロセサの入出力構成定義データ（ゲスト OS）がすべて削除されます。

(b) I/O グループに関する注意事項

- I/O グループを削除すると、削除した I/O グループの PRMF 構成定義データ（ACOD 経路を定義している場合は ACOD 経路も含む）、および LPAR モードのプロセサの入出力構成定義データ（ゲスト OS）がすべて削除されます。
- シンタクスレベルを変更すると、定義エラーが発生する場合がありますので、定義エラーを確認してください。
- I/O グループの入出力構成を 256 チャンネル構成の入出力構成に変更できません。I/O グループの物理プロセサを削除して、新しく 256 チャンネル構成の物理プロセサを追加してください。入出力構成定義データを引き継ぐ場合は、変更する I/O グループの入出力構成定義データを一度搬出した後、追加した 256 チャンネル構成の物理プロセサに搬入してください。

(c) ACONARC 制御機能に関する注意事項

- ACONARC 制御機能を使用しない状態のときは、ACOD 構成定義データを搬入・搬出できません。
- ACONARC 装備のプロセサをすべて削除するか、または ACONARC 制御機能を使用する状態から使用しない状態に変更すると、次に示す ACONARC 制御機能に関する管理情報や定義が削除されます。
 - ACOD 構成定義データの構成 ID、情報識別子、構成定義情報番号
 - ACOD 構成のベースシステム情報、搬入日時、搬出日時、ゼネレーションパラメタ生成日時
 - ACONARC 制御機能の制御対象にする入出力制御装置の登録内容

4.2.4 システム構成オプションの設定方法

システム構成オプションの設定方法を説明します。

(1) ダイアログの形式

システム構成オプションの設定ダイアログを図 4-11 に示します。

図 4-11 システム構成オプションの設定ダイアログ



[OS 構成] タブ

[OS 構成一覧] データシートおよび [オプション] が表示されます。

[OS 構成一覧] データシート

システム構成の設定ウィンドウの [OS 構成一覧] では次に示す情報が表示されます。

- プロセッサ名称
- シンタクスレベル
- CPU モデル
- ACONARC

[オプション]

[OS 構成一覧] データシートで選択しているプロセッサのオプションが表示されます。

プロセッサ名称

[OS 構成一覧] データシートで選択しているプロセッサのプロセッサ名称が表示されます。

入出力装置数の上限値を拡張する

8,192 台を超える入出力装置を定義する場合に指定します。

このオプションは、シンタクスレベルが LEVEL3 以上で ACONARC 装備を設定したプロセサで指定できます。

[閉じる (C)]

システム構成オプションの設定ダイアログを閉じます。

(2) 操作方法

オプションを次に示す手順で設定します。

1. オプションを設定する OS 構成を選択します。
2. オプションを指定します。

4.3 入出力構成の定義

入出力構成の定義方法を説明します。LPAR 上のゲスト OS 固有の定義方法がある場合、「【LPAR の場合】」と表記しています。

4.3.1 チャンネルの定義

プロセッサ単位にチャンネルパス ID とチャンネルタイプをチャンネル定義ウィンドウで定義します。

(1) ウィンドウの形式

チャンネル定義ウィンドウを図 4-12 に示します。

図 4-12 チャンネル定義ウィンドウ



チャンネル数

定義しているチャンネルの数が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

PATHID

チャンネルパス ID を指定します。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義したチャンネルパス ID の中から選択します。

TYPE

チャンネルタイプを指定します。定義対象のプロセサで指定できるチャンネルタイプの中から選択できます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義したチャンネルタイプが表示されます。

コメント

コメント番号に対応したコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

(2) 操作方法**チャンネルの追加・削除**

追加するには、追加用レコードに追加するチャンネルのチャンネルパス ID を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除するチャンネルのレコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(3) 注意事項**【LPAR の場合】**

PRMF 構成で定義しているチャンネルだけを追加・削除できます。なお、定義中のプロセサの LPAR 番号に割り当てられていないチャンネルも追加・削除できます。

4.3.2 入出力制御装置の定義

プロセサ単位に入出力制御装置の制御装置番号、種類などを入出力制御装置定義ウィンドウで定義します。

(1) ウィンドウの形式

入出力制御装置定義ウィンドウを図 4-13 に示します。

図 4-13 入出力制御装置定義ウィンドウ

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	TYPE	IFMODE	CUADR	WTLIB	コメント
		0000	SVP	NS		00		
		0001	IPC1	NS		00		
		0061	ACDC	NS		00		
		0070	ALC070	NS	S	00		
		0080	ALC080	NS	S	00		
		0090	MTC090	NS	S	00		
		0091	MTC091	NS	S	00		
		00A0	MTC0A0	NS	S	00		
		00A1	MTC0A1	NS	S	00		
		0100	MTC100	S		00		第1センタ7階 [E-21]
		0150	LIC1	NS	S	00		第1センタ7階 [G-36]
		0180	MTC180	S		00		
		01F0	ESC0	NS		00		
		01F1	ESC1	NS		00		
		0200	DKC200	NS		00		
		0280	DKC280	NS		00		
		0300	CHA1	NS	S	00		
		0310	CHA2	NS	S	00		
A		0601	CTC601	NS		00		
		0602	CTC602	NS		00		
		0611	CTC611	NS		00		
A		0612	CTC612	NS		00		
A		0620	MLU21	NS		00	ML2	
A		0621	MLU22	NS		00	ML2	
A		0622	MLU23	NS		00	ML2	
A		0623	MLU24	NS		00	ML2	
		61FE	ACOD1	NS		00		

DEVA	NUM
00	1
08	4
*	

入出力制御装置数

定義している入出力制御装置の数が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

CUNO

制御装置番号を指定します。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した制御装置番号の中から選択します。

IOC 名称

制御装置名称を指定します。省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した IOC 名称が制御装置名称として表示されます。

TYPE

制御装置タイプを指定します。指定できる制御装置タイプの中から選択します。省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した制御装置タイプが表示されます。

IFMODE

インタフェースモードを指定します。指定できるインタフェースモードの中から選択します。省略すると、空欄になります。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義したインタフェースモードが表示されます。

CUADR

ACONARC を使用するプロセサの場合に、制御装置アドレスを指定します。省略すると、「00」が仮定されます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した制御装置アドレスが表示されます。

MTLIB

ライブラリ装置記号名を指定します。省略すると、空欄になります。

コメント

コメント番号に対応したコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

DEVA

選択している入出力制御装置の装置アドレスを指定します。複数の装置アドレスが連続している場合は先頭のアドレスを指定します。複数の装置アドレスが連続していない場合はレコードを分けて指定します。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した装置アドレスが表示されます。

NUM

DEVA フィールドに指定した装置アドレスから連続する装置数を指定します。省略すると、「1」が仮定されます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した装置数が表示されます。

(2) 操作方法

(a) 入出力制御装置の追加・削除、指定値の変更

入出力制御装置の追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加する入出力制御装置の制御装置番号を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除する入出力制御装置のレコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

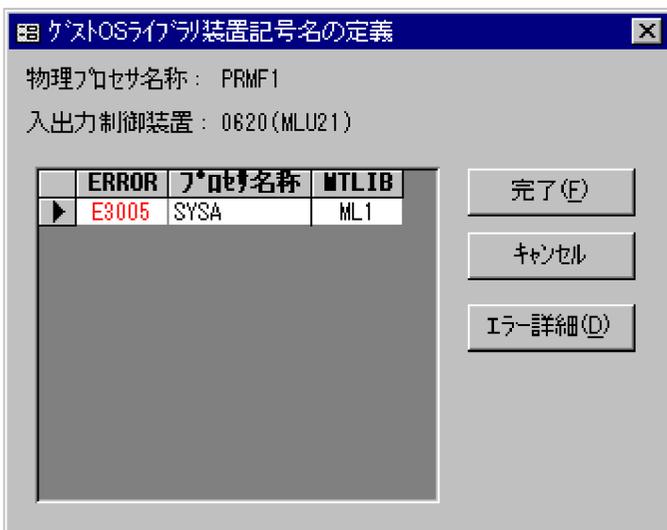
(b) ゲスト OS 間でライブラリ装置記号名を指定する

【LPAR の場合】

あるゲスト OS でライブラリ装置記号名を指定したときに、ほかのゲスト OS でライブラリ装置記号名が指定されていない場合、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージから、ゲスト OS ライブラリ装置記号名の定義ダイアログを開いて、ライブラリ装置記号名が指定されていないゲスト OS に対して、ライブラリ装置記号名を指定できます。

ゲスト OS ライブラリ装置記号名の定義ダイアログを図 4-14 に示します。

図 4-14 ゲスト OS ライブラリ装置記号名の定義ダイアログ



物理プロセッサ名称

ライブラリ装置記号名を指定したゲスト OS が動作する物理プロセッサが表示されます。

入出力制御装置

ライブラリ装置記号名を指定した入出力制御装置が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

プロセッサ名称

ライブラリ装置記号名を指定する必要があるゲスト OS が表示されます。

MTLIB

ライブラリ装置記号名を指定します。省略すると、既にほかのゲスト OS で指定されている名称が仮定されます。

[完了 (F)]

ライブラリ装置記号名の指定を完了します。

[キャンセル]

ライブラリ装置記号名の指定を取り消します。

[エラー詳細 (D)]

選択しているプロセサに対するエラーの内容を表示します。

(3) 注意事項

- CUADR フィールドに「00」以外の制御装置アドレスが指定されている入出力制御装置は、接続定義ウィンドウで CNC チャネル、CTC チャネルまたは FC チャネルと接続できます。また、制御装置アドレスに「10」以上が指定されている入出力制御装置は FC チャネルとだけ接続できます。

【 LPAR の場合 】

- PRMF 構成で定義した入出力制御装置だけを追加・削除できます。

4.3.3 入出力装置の定義

プロセサ単位に入出力装置のデバイス番号、装置形式などを入出力装置定義ウィンドウで定義します。

(1) ウィンドウの形式

入出力装置定義ウィンドウを図 4-15 に示します。

図 4-15 入出力装置定義ウィンドウ

装置	ERROR	ADDR	NUM	装置名称	UNIT	MODEL	DEVM	基破	TOTIME	OFFLINE	ADDR?	NUM?	FEATURE	XFEATUR
000C		1 C00		8416			000	DEC	60	NO			ATTENTION	
000E		1 C08		SVP	1	C08	DEC	60	NO				PFKEY	
000F		1 C09		SVP	1	C09	DEC	60	NO				PFKEY	
000A		2 10A		F8092	50	10A	HEX	60	NO					
000F		1 MSR		8268	10	MSR	DEC	60	NO				ATTENTION	
001E		2 F00		8671		F00	HEX	60	NO				ATTENTION	
014C		4 140		8588		140	HEX	120	NO					
018C		4 180		8480	1	180	HEX	200	NO				9-TRACK	
018A		4 184		8488	1	184	HEX	200	NO				9-TRACK	
028C		16 280		8485	1	280	HEX	200	YES				SHARABLE	
029C		16 290		8485	1	290	HEX	200	YES				SHARABLE	
061E		4 C16		F6214	51	C16	DEC	60	NO					
061A		4 11A		F8092	50	11A	HEX	60	NO					
062C	A	2 M60		8480	1	M60	HEX	720	YES				SHARABLE	
062A	A	2 M62		8488	1	M62	HEX	720	YES				SHARABLE	
062E	A	2 M64		8488	1	M64	HEX	720	YES				SHARABLE	
062E	A	2 M66		8480	1	M66	HEX	720	YES				SHARABLE	
074C		7 M.1		8851		M.1	DEC	600	NO	0750		7	SHARED	
152C		1 L20		8355		L20	DEC	120	NO					
152I		1 L21		8355		L21	DEC	NO	NO					
152J		1 L22		8355		L22	DEC	NO	NO					
1F0C		1 E50		ES		E50	DEC	NO	NO					
1F0I		1 E51		ES		E51	DEC	NO	NO					
1F0E		10 E50		8888		E50	HEX	60	NO				ATTENTION	

入出力装置数

定義している入出力装置の数が表示されます。表示される入出力装置の数はレコードの数ではなく、NUM フィールドの装置数の合計です。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

ADDR

デバイス番号を指定します。磁気テープライブラリ装置の装置群では、自動ライブラリ制御機構のアドレスが偶数の装置群に対するデバイス番号を指定します。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義したデバイス番号の中から選択します。

NUM

装置数を指定します。次に示す場合に指定します。

- 同じ入出力制御装置に接続されていて、装置形式が同じである、入出力装置の装置アドレスが昇順に複数個ある場合
- 通信回線アドレスが昇順に複数個ある場合

省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した装置数の範囲内で指定できます。

管理名称

入出力装置を管理するための名称を指定します。8文字以内の半角大文字の英数字で指定します。省略すると、「DEV0xxxx」(xxxx: デバイス番号)が仮定されます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した管理名称が表示されます。

UNIT

装置形式を指定します。指定できるすべての装置形式の中から選択できます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した装置形式が表示されます。

MODEL

モデル番号を指定します。UNIT フィールドに装置形式を指定した後に指定します。装置形式の値によって限定されるモデル番号の中から選択します。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義したモデル番号が表示されます。

DEVMN

装置記号名を指定します。省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

基数

装置記号名の下 2 けたの基数を指定します。指定できる基数の中から選択できます。省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

IOTIME

入出力終了割り込み監視時間を秒単位で指定します。監視時間は 10 の倍数で指定します。10 の倍数でないときには、10 の倍数に切り上げられます。入出力割り込み時間監視機能を使用しない場合、「NO」を指定します。省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

OFFLINE

システム開始時に、入出力装置をオフライン状態とみなすかどうかを選択します。省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

ADDR2

磁気テープライブラリ装置の自動ライブラリ制御機構のアドレスが奇数の装置群に対するデバイス番号を指定します。磁気テープライブラリ装置の自動ライブラリ制御機構のアドレスが奇数の装置群の場合だけ指定します。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義したデバイス番号が表示されます。

NUM2

ADDR2 フィールドに定義したデバイス番号の入出力装置が昇順に複数個連続している場合の装置数を指定します。ADDR2 フィールドに値を指定した場合に指定します。ADDR2 フィールドに値を指定した場合に省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した装置数が表示されます。

FEATURE

入出力装置に付加する選択機能の組み合わせを指定します。UNIT フィールドと MODEL フィールドの値によって限定される組み合わせの中から選択できます。省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

XFEATUR

入出力装置に付加する拡張チャンネルシステム特有の識別情報を指定します。UNIT フィールドと MODEL フィールドの値によって限定される識別情報の中から選択できます。省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

【LPAR の場合】

PRMF 構成で定義した識別情報が表示されます。ただし、PRMF 構成で「ES」を指定した場合は空白になります。

コメント

コメント番号に対応したコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

(2) 操作方法

(a) 入出力装置の追加・削除、指定値の変更

入出力装置の追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加する入出力装置のデバイス番号を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除する入出力装置のレコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(b) ウィンドウに表示されない装置記号名を確認する

装置数の指定によってウィンドウに表示されない装置記号名を確認するには、装置記号名の確認ダイアログを開きます。

- マウスのダブルクリックで開く方法
確認する入出力装置の DEVMN フィールドをダブルクリックします。
- メニューから選択して開く方法
 1. 装置記号名を確認する入出力装置を選択します。
 2. [ツール (T)] - [装置情報の確認 (P)] - [装置記号名 (D)] を選択します。

装置記号名の確認ダイアログを図 4-16 に示します。

図 4-16 装置記号名の確認ダイアログ



[装置記号名一覧] ボックスに、選択した入出力装置の装置記号名がすべて表示されず。

ダイアログを閉じるには、[OK] ボタンをクリックします。

(c) ウィンドウに表示されない装置タイプを確認する

定義している入出力装置の装置タイプを確認するには、装置タイプの確認ダイアログを開きます。

- マウスのダブルクリックで開く方法
確認する入出力装置の UNIT フィールドをダブルクリックします。
- メニューから選択して開く方法
 1. 装置タイプを確認する入出力装置を選択します。
 2. [ツール (T)] - [装置情報の確認 (P)] - [装置タイプ (T)] を選択します。

装置タイプの確認ダイアログを図 4-17 に示します。

図 4-17 装置タイプの確認ダイアログ



[装置タイプ一覧] ボックスに、選択した入出力装置の装置タイプがすべて表示されます。

ダイアログを閉じるには、[OK] ボタンをクリックします。

(3) 注意事項

- デバイス番号を指定した後は、装置形式およびモデル番号をほかの値より先に指定してください。
- 入出力装置の削除や、指定値の変更をしても、装置グループ、または仮想データセットを割り当てる装置タイプには反映されません。このため、装置グループ定義ウィンドウまたは装置タイプ定義ウィンドウで指定値を変更する必要があります。

4.3.4 装置グループの定義

プロセサ単位に装置グループを装置グループ定義ウィンドウで定義します。装置グループは次に示す二つの方法で定義できます。

- 装置グループを基準にした定義
装置グループの追加・削除・指定値の変更，および装置グループに属する入出力装置の追加・削除・指定値の変更ができます。
- 入出力装置を基準にした定義
入出力装置を基準にして，入出力装置の追加・削除・指定値の変更，および入出力装置が属する装置グループへの追加・削除ができます。

装置グループの追加・削除・指定値の変更は装置グループを基準にして定義します。装置グループに属する入出力装置は，装置グループおよび入出力装置のどちらを基準にしても定義できます。

(1) 装置グループを基準にした場合のウィンドウの形式

装置グループを基準にした場合の装置グループ定義ウィンドウを図 4-18 に示します。

図 4-18 装置グループ定義ウィンドウ（装置グループ基準）

**装置グループ数**

定義している装置グループの数が表示されます。

装置グループ

定義している装置グループがすべて表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

NAME

装置グループ名を指定します。

TYPE

装置グループの用途を指定します。指定できる用途の中から選択できます。省略すると、空欄になります。

VIO

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

装置グループを仮想データセットの割り当て対象にするかどうかを選択します。
省略すると、SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

対象入出力装置

選択している装置グループに属する入出力装置が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

UNIT

選択している装置グループに属する入出力装置のデバイス番号を指定します。
定義しているデバイス番号の中から選択できます。

NUM

デバイス番号が昇順に複数個連続している場合に装置数を指定します。省略すると、「1」が仮定されます。

DEVMN

デバイス番号に対する装置記号名が表示されます。

(2) 入出力装置を基準にした場合のウィンドウの形式

入出力装置を基準にした場合の装置グループ定義ウィンドウを図 4-19 に示します。

図 4-19 装置グループ定義ウィンドウ（入出力装置基準）

**装置グループ数**

定義している装置グループの数が表示されます。

対象装置グループ

選択している入出力装置の属する装置グループが表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

NAME

選択している入出力装置が属する装置グループ名を指定します。定義している装置グループ名の中から選択できます。

TYPE

装置グループの用途が表示されます。

VIO

装置グループを仮想データセットの割り当て対象にするかどうかが表示され
ます。

入出力装置

装置グループを構成する、すべての入出力装置が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

UNIT

装置グループを構成する入出力装置のデバイス番号を指定します。定義してい
るデバイス番号の中から選択できます。

NUM

UNIT フィールドのデバイス番号が昇順に複数個連続している場合に装置数を
指定します。省略すると、「1」が仮定されます。

DEVMN

デバイス番号に対する装置記号名が表示されます。

(3) 操作方法

(a) 定義基準の切り替え

ヘッダにある [定義基準] ボックスのボタンをクリックして切り替えます。

- [グループ (G)]: 装置グループを基準にして定義する
- [入出力装置 (C)]: 入出力装置を基準にして定義する

(b) 装置グループを基準にした場合の定義

装置グループの追加・削除

追加するには、装置グループの追加用レコードに、追加する装置グループの装置グ
ループ名を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除する装置グ
ループのレコードを削除します。

装置グループへの入出力装置の追加・削除

装置グループに入出力装置を追加する手順を次に示します。

1. 入出力装置を追加する装置グループを選択します。
2. 対象入出力装置の追加用レコードに追加する入出力装置のデバイス番号を指定しま
す。必要ならば装置数を指定します。

装置グループから入出力装置を削除する手順を次に示します。

1. 入出力装置を削除する装置グループを選択します。
2. 削除する入出力装置のレコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(c) 入出力装置を基準にした場合の定義

入出力装置が属する装置グループの追加・削除

入出力装置が属する装置グループを追加する手順を次に示します。

1. 装置グループを追加する入出力装置を選択します。
入出力装置がない場合、入出力装置の追加用レコードに追加する入出力装置のデバイス番号を指定した後、必要ならば装置数を指定します。
2. 対象装置グループの追加用レコードに装置グループ名を指定します。

入出力装置が属する装置グループを削除する手順を次に示します。

1. 装置グループを削除する入出力装置を選択します。
2. 削除する装置グループのレコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(4) 注意事項

装置グループ「SYSALLDA」は自動的に追加され、すべての直接アクセス記憶装置(DASD)が設定されます。この装置グループは削除できません。また、この装置グループの指定値の変更、およびグループ内の入出力装置の削除はできません。

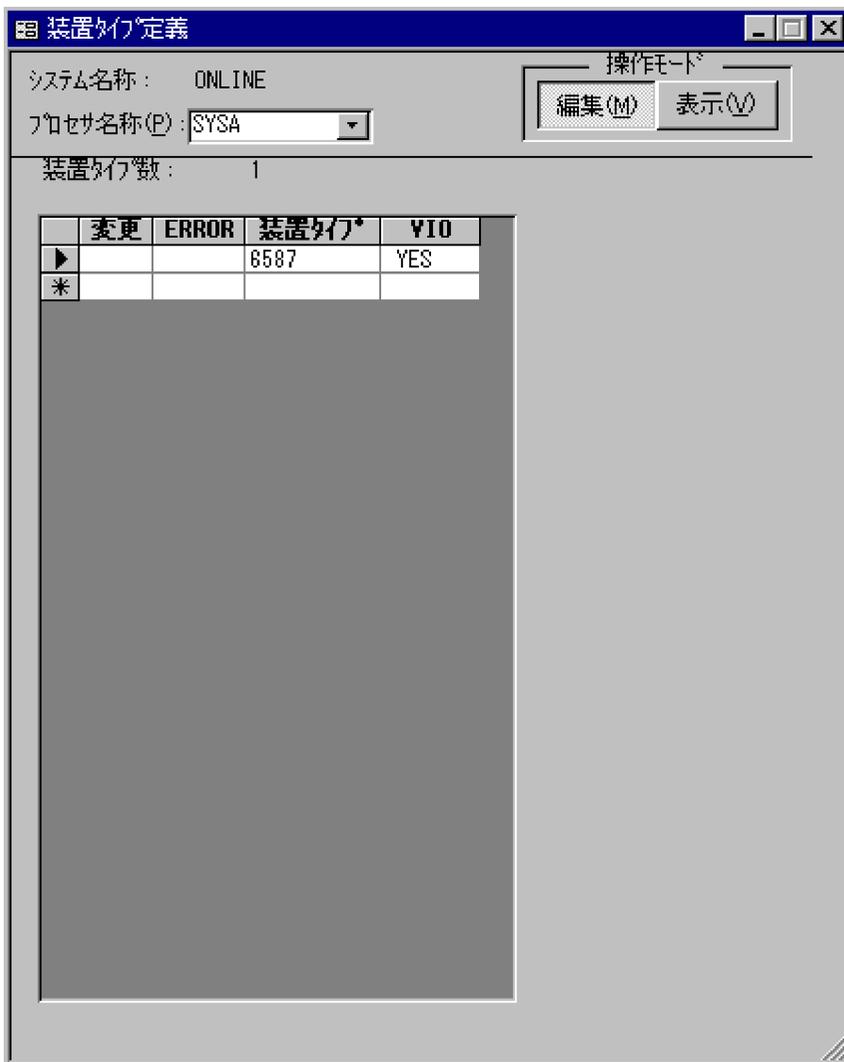
4.3.5 装置タイプの定義

プロセサ単位に、仮想データセットを割り当てる装置タイプを装置タイプ定義ウィンドウで定義します。

(1) ウィンドウの形式

装置タイプ定義ウィンドウを図 4-20 に示します。

図 4-20 装置タイプ定義ウィンドウ



装置タイプ数

定義している装置タイプの数が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

装置タイプ

仮想データセットを割り当てる装置タイプを指定します。定義している入出力装置の装置タイプの中から選択できます。

VIO

「YES」が設定されます。

(2) 操作方法

装置タイプの追加・削除

追加するには、追加用レコードに装置タイプを指定します。削除するには、レコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

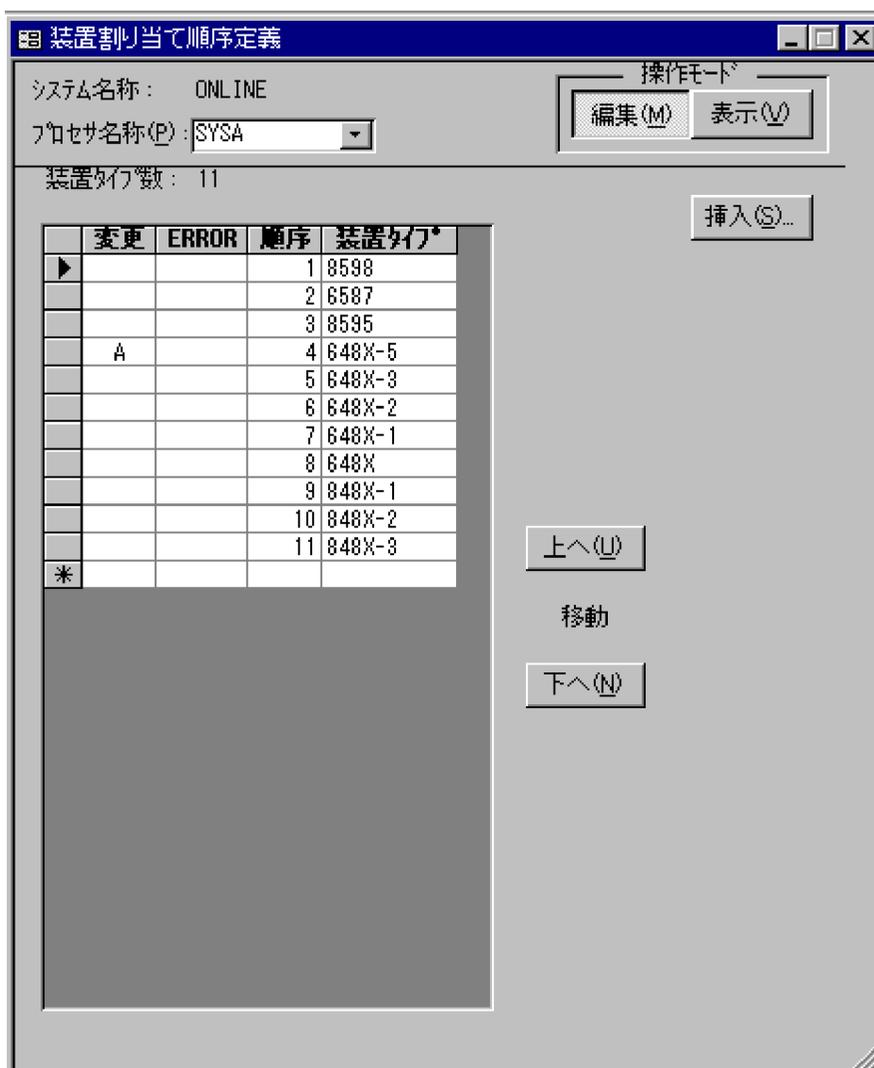
4.3.6 装置割り当て順序の定義

割り当て順序を変更する装置タイプを、装置割り当て順序定義ウィンドウでプロセサ単位に定義します。VOS3 システムで標準に割り当て順序を変更しない場合、定義する必要はありません。VOS3 システムで標準に割り当て順序については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

(1) ウィンドウの形式

装置割り当て順序定義ウィンドウを図 4-21 に示します。

図 4-21 装置割り当て順序定義ウィンドウ

**装置タイプ数**

装置割り当て順序を変更している装置タイプの数が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

順序

装置タイプを指定すると、装置割り当て順序が表示されます。

装置タイプ

割り当て順序を変更する装置タイプを指定します。装置割り当て順序を指定できる装置タイプの中から選択できます。

[挿入 (S)...]

選択している順序に装置タイプを挿入します。

[上へ (U)]

選択している装置タイプの順序を一つ上に変更します。

[下へ (N)]

選択している装置タイプの順序を一つ下に変更します。

(2) 操作方法**割り当て順序を指定する装置タイプの追加・削除**

追加するには、追加用レコードに装置タイプを指定します。自動的にレコードの中で最後の順序になります。削除するには、削除する装置タイプのレコードを削除します。

割り当て順序の変更

[上へ (U)] または [下へ (N)] ボタンをクリックして、装置タイプの順序を変更します。

装置タイプの挿入

定義している順序に装置タイプを直接挿入する手順を次に示します。

1. 装置タイプを挿入する位置で [挿入 (S)...] ボタンをクリックして、装置タイプの挿入ダイアログを開きます。
装置タイプの挿入ダイアログを図 4-22 に示します。

図 4-22 装置タイプの挿入ダイアログ



4. SCMRF CD for Windows の使用方法

2. [装置タイプ一覧] ボックスから装置タイプを選択します。
3. [OK] ボタンをクリックすると、装置タイプが挿入されます。挿入を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(3) 注意事項

定義されていない入出力装置の装置タイプを指定できます。

4.3.7 接続の定義

チャンネル、入出力制御装置、入出力装置間の接続を接続定義ウィンドウで定義します。また、チャンネルと入出力制御装置との間を ACOD で動的接続する場合、リンクアドレスを定義します。入出力構成のプロセサ単位、または PRMF を使用する場合は物理プロセサ単位に定義します。

接続は次に示す方法で定義できます。

- チャンネルを基準にした接続の定義
チャンネルを基準にして、入出力制御装置、入出力装置との接続を定義します。
- 入出力制御装置を基準にした接続の定義
入出力制御装置を基準にして、チャンネル、入出力装置との接続を定義します。
- 入出力装置を基準にした接続の定義
入出力装置を基準にして、入出力制御装置、チャンネルとの接続を定義します。

【LPAR の場合】

ゲスト OS の入出力機器の接続には PRMF 構成の入出力機器の接続が反映されるため、接続の表示だけができます。

(1) チャンネルを基準にした場合のウィンドウの形式

チャンネルを基準にした場合の接続定義ウィンドウを図 4-23 に示します。

図 4-23 接続定義ウィンドウ (チャンネル基準)



チャンネル

定義しているチャンネルがすべて表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

PATHID

定義しているチャンネルパス ID が表示されます。

TYPE

チャンネルパス ID に対するチャンネルタイプが表示されます。

ACOD 名称

ACONARC を使用するプロセッサの場合だけ表示されます。接続する ACOD の ACOD 名称を指定します。ACONARC チャンネルと入出力制御装置との間で ACOD を経由して動的接続する場合に指定します。定義している ACOD 名称の中から選択できます。

接続先入出力制御装置

選択しているチャンネルに接続している入出力制御装置が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

CUNO

チャンネルに接続する入出力制御装置の制御装置番号を指定します。定義してい

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

る制御装置番号の中から選択できます。

IOC 名称

制御装置番号に対する IOC 名称が表示されます。

CUADR

ACONARC を使用する物理プロセサの場合に、制御装置番号に対する制御装置アドレスが表示されます。

LNKA

ACONARC を使用するプロセサの場合だけ表示されます。ACOD の動的接続するリンクアドレスを指定します。ACOD 名称を指定した後に指定できます。定義している ACOD のポートアドレスの中から選択できます。

接続先入出力装置

選択している入出力制御装置に接続している入出力装置が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

DEVA

装置アドレスを指定します。定義している装置アドレスの中から選択できます。

ADDR

入出力制御装置に接続する入出力装置のデバイス番号を指定します。入出力装置定義ウィンドウで指定したデバイス番号の中から選択できます。

NUM

デバイス番号に対する装置数が表示されます。

管理名称

デバイス番号に対する管理名称が表示されます。

PREPATH

デバイス番号に対する、優先して選択するチャンネルパス ID が表示されます。

(2) 入出力制御装置を基準にした場合のウィンドウの形式

入出力制御装置を基準にした場合の接続定義ウィンドウを図 4-24 に示します。

図 4-24 接続定義ウィンドウ (入出力制御装置基準)



接続先チャネル

選択している入出力制御装置に接続しているチャンネルが表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

PATHID

入出力制御装置に接続するチャンネルのチャンネルパス ID を指定します。定義しているチャンネルパス ID の中から選択できます。

TYPE

チャンネルパス ID に対するチャンネルタイプが表示されます。

ACOD 名称

ACONARC を使用するプロセッサの場合だけ表示されます。接続する ACOD の ACOD 名称が表示されます。

LNKA

ACONARC を使用するプロセッサの場合だけ表示されます。ACOD の動的接続するリンクアドレスが表示されます。

入出力制御装置

定義している入出力制御装置がすべて表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

CUNO

定義している制御装置番号が表示されます。

IOC 名称

制御装置番号に対する IOC 名称が表示されます。

CUADR

ACONARC を使用する物理プロセサの場合に、制御装置番号に対する制御装置アドレスが表示されます。

接続先入出力装置

選択している入出力制御装置に接続している入出力装置が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

DEVA

装置アドレスを指定します。定義している装置アドレスの中から選択できます。

ADDR

入出力制御装置に接続する入出力装置のデバイス番号を指定します。定義しているデバイス番号の中から選択できます。

NUM

デバイス番号に対する装置数が表示されます。

管理名称

デバイス番号に対する管理名称が表示されます。

PREPATH

デバイス番号に対する、優先して選択するチャンネルバス ID が表示されます。

(3) 入出力装置を基準にした場合のウィンドウ形式

入出力装置を基準にした場合の接続定義ウィンドウを図 4-25 に示します。

図 4-25 接続定義ウィンドウ (入出力装置基準)



選択している入出力制御装置に接続しているチャネルが表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

PATHID

入出力制御装置に接続するチャネルのチャンネルパス ID を指定します。定義しているチャンネルパス ID の中から選択できます。

TYPE

チャンネルパス ID に対するチャンネルタイプが表示されます。

ACOD 名称

ACONARC を使用するプロセッサの場合だけ表示されます。接続する ACOD の ACOD 名称が表示されます。

LNKA

ACONARC を使用するプロセッサの場合だけ表示されます。ACOD の動的接続するリンクアドレスが表示されます。

接続先入出力制御装置

選択している入出力装置に接続している入出力制御装置が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

ERROR

エラー番号が表示されます。

CUNO

入出力装置に接続する入出力制御装置の制御装置番号を指定します。定義している制御装置番号の中から選択できます。

IOC 名称

制御装置番号に対する IOC 名称が表示されます。

CUADR

ACONARC を使用する物理プロセサの場合に、制御装置番号に対する制御装置アドレスが表示されます。

DEVA

装置アドレスを指定します。定義している装置アドレスの中から選択できます。

入出力装置

定義している入出力装置が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ADDR

定義している入出力装置のデバイス番号が表示されます。

NUM

デバイス番号に対する装置数が表示されます。

管理名称

デバイス番号に対する管理名称が表示されます。

PREPATH

デバイス番号に対する、優先して選択するチャンネルバス ID を指定します。接続しているチャンネルのチャンネルバス ID のの中から選択できます。省略すると、空欄になります。

(4) 操作方法

(a) 定義基準の切り替え

ヘッダの [定義基準] ボックスにある、次に示すボタンをクリックします。

- [チャンネル (C)]: チャンネルを基準にして定義する
- [入出力制御装置 (U)]: 入出力制御装置を基準にして定義する
- [入出力装置 (S)]: 入出力装置を基準にして定義する

(b) チャンネルを基準にした接続の定義

定義する前に、接続を定義するチャンネルを選択しておきます。

入出力制御装置の接続の追加・削除

追加するには、接続先入出力制御装置の定義シートで、追加用レコードに制御装置番号を指定します。削除するには、接続先入出力制御装置のレコードを削除します。

入出力装置の接続の追加・削除

追加するには、接続先入出力装置の定義シートで、追加用レコードに装置アドレスおよびデバイス番号を指定します。削除するには、接続先入出力装置のレコードを選択して削除します。

リンクアドレスの指定

リンクアドレスは、次に示す手順で指定します。

1. チャンネルのレコードで ACOD 名称を指定します。
2. 接続先入出力制御装置のレコードでリンクアドレスを指定します。

リンクアドレスを削除するには、チャンネルのレコードで ACOD 名称を削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(c) 入出力制御装置を基準にした接続の定義

定義する前に、接続を定義する入出力制御装置を選択しておきます。

チャンネルの接続の追加・削除

追加するには、接続先チャンネルの定義シートで、追加用レコードにチャンネルパス ID を指定します。削除するには、接続先チャンネルのレコードを削除します。

入出力装置の接続の追加・削除

追加するには、接続先入出力装置の定義シートで、追加用レコードに装置アドレスおよびデバイス番号を指定します。削除するには、接続先入出力装置のレコードを選択して削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(d) 入出力装置を基準にした接続の定義

定義する前に、接続を定義する入出力装置を選択しておきます。

チャンネルの接続の追加・削除

追加するには、接続先チャンネルの定義シートで、追加用レコードにチャンネルパス ID を指定します。削除するには、接続先チャンネルのレコードを削除します。

入出力制御装置の接続の追加・削除

追加するには、接続先入出力制御装置の定義シートで、追加用レコードに制御装置番号を指定します。削除するには、接続先入出力制御装置のレコードを削除します。

優先して接続するチャンネルパス ID の指定

入出力装置の定義シートで、優先して接続するチャンネルパス ID を指定します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

(5) 注意事項

ACOD に対する入出力制御装置をチャンネルと接続すると、ACOD 名称とリンクアドレス「FE」が自動的に設定されます。

4.4 ACOD 構成の定義

ACOD 構成の定義方法について説明します。

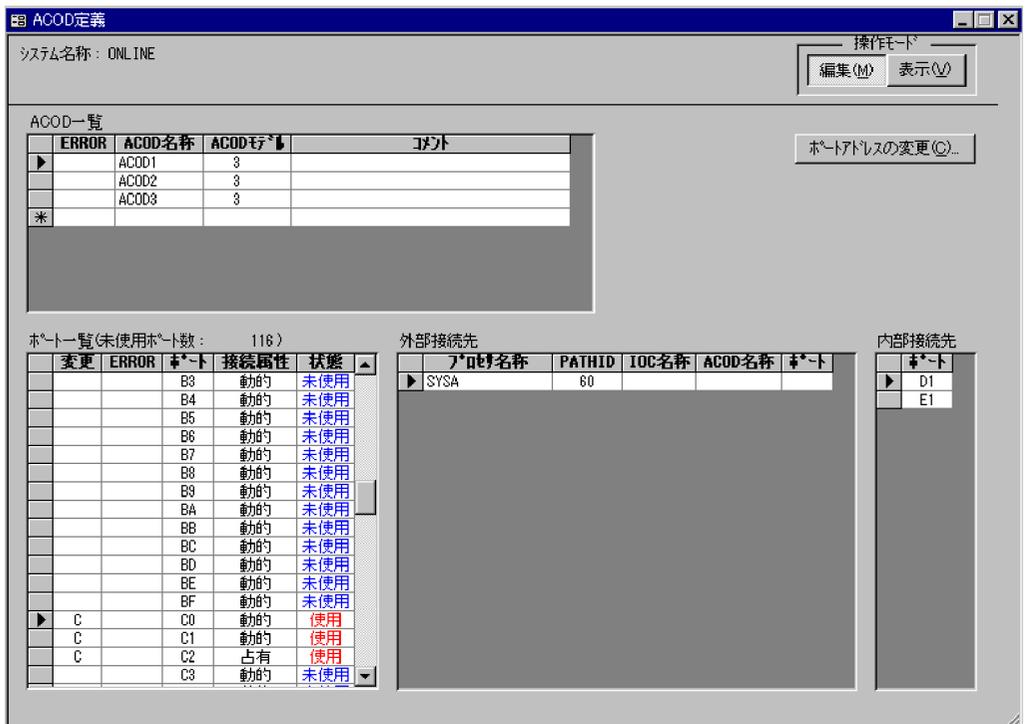
4.4.1 ACOD 名称の定義

ACOD 定義ウィンドウで、全プロセッサおよび物理プロセッサで使用する ACOD を追加・削除します。

(1) ウィンドウの形式

ACOD 定義ウィンドウを図 4-26 に示します。

図 4-26 ACOD 定義ウィンドウ



ACOD 一覧

定義している ACOD が表示されます。また、ACOD を追加・削除します。

ERROR

エラー番号が表示されます。

ACOD 名称

ACOD を識別するための名称を指定します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

ACOD モデル

ACOD モデルを指定します。

コメント

ACOD に対するコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

[ポートアドレスの変更 (C)...]

ポート一覧で選択しているポートに対して、ポートアドレス変更機能を実行します。

ポート一覧

ACOD 一覧で選択している ACOD のポートが表示されます。

未使用ポート数

外部・内部のどちらも接続していないポートの数が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

ポート

すべてのポートのポートアドレスが表示されます。

接続属性

定義しているポートの接続属性が表示されます。

- 動的接続：動的
- 占有接続：占有
- 切替可能占有接続：占有切替

未使用のポートにはすべて「動的」が表示されます。

状態

ポートの接続を定義しているかどうかが表示されます。

- 使用（黒色）：接続定義ウィンドウで接続を定義している
- 使用（赤色）：ACOD 経路定義ウィンドウで接続を定義している
- 未使用：接続を定義していない

外部接続先

選択しているポートが外部接続している接続先が表示されます。

プロセサ名称, PATHID

ポートがチャンネルと接続している場合、接続先チャンネルのプロセサのプロセサ名称と、接続先チャンネルのチャンネルパス ID が表示されます。

IOC 名称

ポートが入出力制御装置と接続している場合、接続先入出力制御装置の IOC 名称が表示されます。

ACOD 名称, ポート

ポートが ACOD と多段接続している場合、接続先 ACOD の ACOD 名称と、接続先ポートのポートアドレスが表示されます。

内部接続先

選択しているポートが内部接続している接続先のポートが表示されます。

ポート

接続先ポートのポートアドレスが表示されます。

(2) 操作方法

ACOD の追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加する ACOD の ACOD 名称を指定して、必要ならばコメントを指定します。削除するには、削除する ACOD のレコードを削除します。

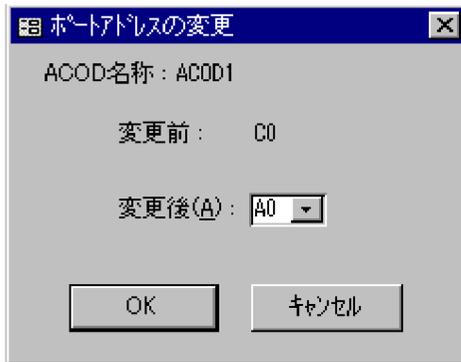
指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

ポートアドレス変更機能の実行

1. ACOD 一覧でポートアドレスを変更する ACOD を選択した後、ポート一覧で、変更するポートを選択します。
2. [ポートアドレスの変更(C)...] ボタンをクリックして、ポートアドレスの変更ダイアログを開きます。
ポートアドレスの変更ダイアログを図 4-27 に示します。

図 4-27 ポートアドレスの変更ダイアログ (ACOD)



3. 変更後のポートアドレスを指定します。変更できるポートアドレスの中から選択できます。
4. [OK] ボタンをクリックすると、ポートアドレスが変更されます。ポートアドレスの変更を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(3) 注意事項

- ACOD に対する入出力制御装置を定義している場合、ACOD に対する入出力制御装置

の IOC 名称と ACOD 名称を一致させる必要があります。

- ACOD を削除すると、ACOD に対する入出力制御装置が削除されます。ただし、ACOD の入出力装置は削除されません。また、ACOD を削除すると、削除した ACOD を経由するすべての ACOD 経路（多段接続も含む）とリンクアドレスが削除されます。
- ポートアドレス変更機能では、次に示す変更が実行できません。
 - 変更前のポートと同じポートアドレスのポートに変更する
 - ポートアドレス「FE」に変更する
 - 未使用のポート同士を変更する

4.4.2 ACOD 経路の定義

ACOD 経路定義ウィンドウで ACOD 経路をプロセッサ単位に定義します。チャンネルを基準にして、チャンネルと入出力制御装置との間のポートの接続を定義します。

ACOD 経路は、1 段接続、または多段接続を選択して定義できます。

【LPAR の場合】

ゲスト OS の ACOD 経路の定義には PRMF 構成の ACOD 経路の定義が反映されるため、ACOD 経路の表示だけができます。

(1) ACOD の 1 段接続の場合のウィンドウの形式

1 段接続の場合の ACOD 経路定義ウィンドウを図 4-28 に示します。

図 4-28 ACOD 経路定義ウィンドウ (1 段接続)

**多段接続あり (B)**

多段接続を定義するかどうかを指定します。1 段接続だけを定義している場合はチェックボックスがオフになっています。

チャネル側

接続を定義している ACONARC チャネルが表示されます。また、チャネルに接続している ACOD とポートが表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

PATHID

接続を定義している ACONARC チャネルのチャンネルパス ID が表示されます。

TYPE

チャンネルパス ID に対するチャンネルタイプが表示されます。

ACOD 名称

接続する ACOD の ACOD 名称を指定します。定義済みの ACOD 名称の中から選択できます。

IN

チャネルに接続するポートのポートアドレスを指定します。ACOD 名称を指定した後に指定します。指定できるポートアドレスの中から選択できます。

接続属性

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

IN フィールドのポートの接続属性を指定します。次に示す接続属性の中から選択できます。

- 動的接続：動的
- 占有接続：占有
- 切替可能占有接続：占有切替

入出力制御装置側

選択している ACONARC チャンネルに接続している入出力制御装置が表示されます。また、入出力制御装置に接続しているポートが表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

OUT

入出力制御装置に接続するポートのポートアドレスを指定します。指定できるポートアドレスの中から選択できます。IN フィールドのポートが動的接続の場合、定義しているリンクアドレスが自動的に設定されます。

CUNO

ACONARC チャンネルに接続している入出力制御装置の制御装置番号が表示されます。

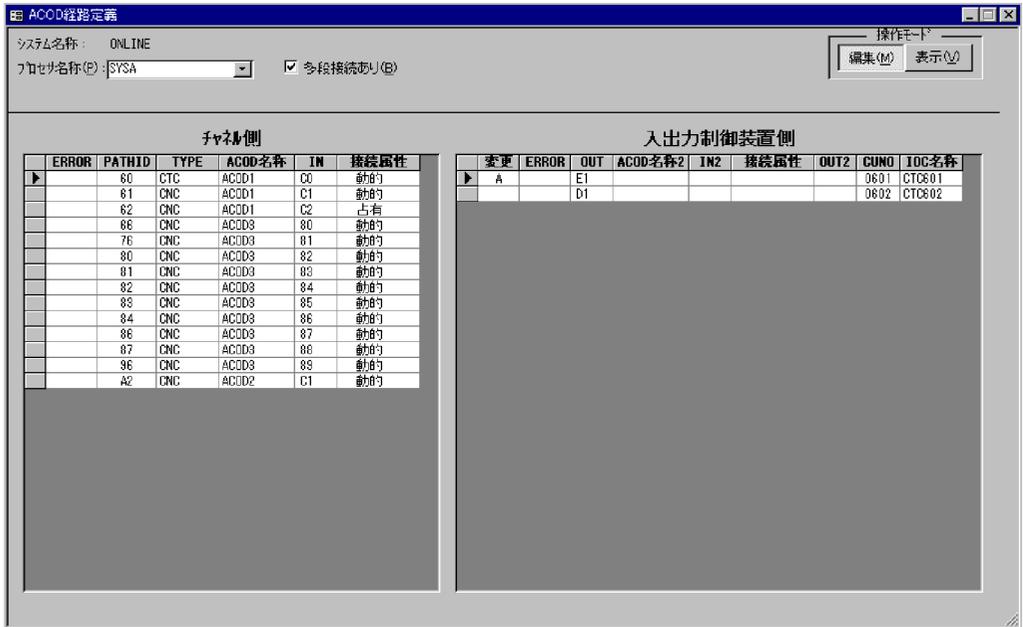
IOC 名称

制御装置番号に対する IOC 名称が表示されます。

(2) ACOD の多段接続の場合のウィンドウの形式

多段接続を定義する場合の ACOD 経路定義ウィンドウを図 4-29 に示します。

図 4-29 ACOD 経路定義ウィンドウ (多段接続)



多段接続あり (B)

多段接続を定義するかどうかを指定します。多段接続を定義する場合にチェックボックスをオンにします。多段接続が定義されているデータを搬入すると、自動的にチェックボックスがオンになります。多段接続を定義している状態ではチェックボックスをオフにできません。

チャネル側

接続を定義している ACONARC チャネルが表示されます。また、チャネルに接続している ACOD とポートが表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

PATHID

接続を定義している ACONARC チャネルのチャンネルパス ID が表示されます。

TYPE

チャンネルパス ID に対するチャンネルタイプが表示されます。

ACOD 名称

チャンネル側 ACOD の ACOD 名称を指定します。定義している ACOD 名称の中から選択できます。

IN

チャンネルに接続するポートのポートアドレスを指定します。チャンネル側 ACOD の ACOD 名称を指定した後に指定します。指定できるポートアドレスの中から

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

選択できます。

接続属性

IN フィールドのポートの接続属性を指定します。次に示す接続属性の中から選択できます。

- 動的接続：動的
- 占有接続：占有
- 切替可能占有接続：占有切替

入出力制御装置側

選択している ACONARC チャンネルに接続している入出力制御装置が表示されます。また、入出力制御装置に接続しているポート、および多段接続している ACOD 間のポートが表示されます。この定義シートで 1 段接続を定義する場合は、OUT フィールドだけを指定します。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

OUT

1 段接続の場合、入出力制御装置に接続するポートのポートアドレスを指定します。

多段接続の場合、入出力制御装置側 ACOD に接続している、チャンネル側 ACOD のポートのポートアドレスを指定します。

指定できるポートアドレスの中から選択できます。IN フィールドのポートが動的接続の場合、定義しているリンクアドレスが自動的に設定されます。

ACOD 名称 2

ACOD を多段接続する場合に、入出力制御装置側 ACOD の ACOD 名称を指定します。定義している ACOD 名称の中から選択できます。1 段接続の場合は省略します。

IN2

チャンネル側 ACOD に接続している、入出力制御装置側 ACOD のポートのポートアドレスを指定します。入出力制御装置側 ACOD の ACOD 名称を指定した後に指定します。指定できるポートアドレスの中から選択できます。1 段接続の場合は省略します。

接続属性

IN2 フィールドのポートの接続属性を指定します。次に示す接続属性の中から選択できます。

- 動的接続：動的
- 占有接続：占有
- 切替可能占有接続：占有切替

IN フィールドのポートの接続属性が占有接続または切替可能占有接続の場合に

省略すると、動的接続が自動的に仮定されます。

OUT2

入出力制御装置に接続している、入出力制御装置側 ACOD のポートのポートアドレスを指定します。指定できるポートアドレスの中から選択できます。1 段接続の場合は省略します。IN2 フィールドのポートが動的接続の場合、定義しているリンクアドレスが自動的に設定されます。

CUNO

ACONARC チャンネルに接続している入出力制御装置の制御装置番号が表示されます。

IOC 名称

制御装置番号に対する IOC 名称が表示されます。

(3) 操作方法

(a) 多段接続と 1 段接続の表示の切り替え

多段接続の ACOD 経路を定義するには、ヘッダの [多段接続あり (B)] チェックボックスをオンにします。

1 段接続の ACOD 経路を定義するには、多段接続の ACOD 経路を定義していない状態でチェックボックスをオフにします。

(b) ACOD 経路の追加・削除

1 段接続の ACOD 経路の追加

1. チャンネル側の定義シートで、ACOD 経路を追加するチャンネルを選択します。
2. ACOD 名称、チャンネルに接続するポート、接続属性の順に定義します。
3. 入出力制御装置側の定義シートで、ACOD 経路を追加する入出力制御装置を選択します。
4. 入出力制御装置に接続するポートを指定します。

多段接続の定義シートで 1 段接続を定義するには、4. の操作で OUT フィールドに入出力制御装置に接続するポートを指定し、ACOD 名称 2 から OUT2 までのフィールドを省略します。

多段接続の ACOD 経路の追加

1. チャンネル側の定義シートで、チャンネル側 ACOD の ACOD 名称、チャンネルに接続するポート、接続属性の順に指定します。
2. 入出力制御装置側の定義シートで、入出力制御装置側 ACOD に接続するチャンネル側 ACOD のポートを指定します。
3. 入出力制御装置側 ACOD の ACOD 名称、チャンネル側 ACOD に接続するポート、接続属性、入出力制御装置に接続するポートの順に指定します。

ACOD 経路の削除

- ACOD 経路と、接続定義ウィンドウで定義しているリンクアドレスの両方を削除す

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

る場合は、ACOD 名称を削除します。

- ACOD 経路だけを削除する場合は、チャンネル側のレコードを削除します。
- 多段接続の入出力制御装置側の ACOD 経路だけを削除するには、入出力制御装置側の ACOD 名称を削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(4) 注意事項

- 動的接続する ACOD の ACOD 経路を定義した結果は、入出力構成のリンクアドレスに反映されます。
- CNC-CTC 接続を定義する場合は、全プロセサおよび物理プロセサの CTC チャンネルの ACOD 経路を定義した後で、各プロセサおよび物理プロセサの CNC チャンネルの ACOD 経路を定義してください。
- 多段接続の ACOD 経路を変更する場合の操作例については、「5.3 多段接続の ACOD 経路の変更例」を参照してください。

4.4.3 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録

ACOD 経由で CNC-CTC 接続する場合、CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログで、それぞれのチャンネルに接続する入出力制御装置をプロセサおよび物理プロセサ単元に登録します。ゲスト OS で登録する必要はありません。

(1) ダイアログの形式

CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログを図 4-30 に示します。

図 4-30 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログ

システム名称: ONLINE

プロセッサ名称(P): SYSА

操作モード: 編集(M) 表示(V)

CUNO(N): CUNO(U):

IOC名称(I): IOC名称(O):

入出力制御装置(S)

CUNO	IOC名称
0000	SYP
0001	IPC1
0061	ACDC
0070	ALC070
0080	ALC080
0090	MTC090
0091	MTC091
00A0	MTC0A0
00A1	MTC0A1
0100	MTC100
0150	LIC1
0180	MTC180
01F0	ESC0
01F1	ESC1
0200	DKC200
0280	DKC280
0300	CHA1
0310	CHA2

追加(A) >

< 削除(D)

CNC-CTC接続用入出力制御装置(T)

CUNO	IOC名称
0601	CTC601
0602	CTC602
0611	CTC611
0612	CTC612

閉じる(O)

CUNO(N), IOC 名称 (I)

[入出力制御装置 (S)] ボックスで選択している入出力制御装置の制御装置番号と IOC 名称が表示されます。制御装置番号または IOC 名称を指定すると, [入出力制御装置 (S)] ボックスで入出力制御装置が選択されます。

入出力制御装置 (S)

定義している入出力制御装置の制御装置番号と IOC 名称が表示されます。

CNC-CTC 接続用入出力制御装置として登録していない入出力制御装置が表示されます。CNC-CTC 接続用入出力制御装置に追加する入出力制御装置を選択できます。

CUNO(U), IOC 名称 (O)

[CNC-CTC 接続用入出力制御装置 (T)] ボックスで選択している入出力制御装置の制御装置番号と, IOC 名称が表示されます。制御装置番号または IOC 名称を指定すると, [CNC-CTC 接続用入出力制御装置 (T)] ボックスで入出力制御装置が選択されます。

CNC-CTC 接続用入出力制御装置 (T)

CNC-CTC 接続用入出力制御装置として登録している入出力制御装置が表示されます。CNC-CTC 接続用入出力制御装置から削除する入出力制御装置を選択できます。

[追加 (A)>]

[入出力制御装置 (S)] ボックスで選択している入出力制御装置を CNC-CTC 接続用入出力制御装置に追加します。

[< 削除 (D)]

[CNC-CTC 接続用入出力制御装置 (T)] ボックスで選択している入出力制御装置を CNC-CTC 接続用入出力制御装置から削除します。

[閉じる (C)]

このダイアログを閉じ、CNC-CTC 接続用入出力制御装置を登録します。

(2) 操作方法

CNC-CTC 接続用入出力制御装置の追加

次に示すどれかの方法で、追加する入出力制御装置を選択して、[追加 (A)>] ボタンをクリックします。

- [CUNO(N)] テキストボックスに制御装置番号を指定する
- [IOC 名称 (I)] テキストボックスに IOC 名称を指定する
- [入出力制御装置 (S)] ボックスから制御装置番号と IOC 名称を選択する

CNC-CTC 接続用入出力制御装置の削除

次に示すどれかの方法で、削除する入出力制御装置を選択して、[< 削除 (D)] ボタンをクリックします。

- [CUNO(U)] テキストボックスに制御装置番号を指定する
- [IOC 名称 (O)] テキストボックスに IOC 名称を指定する
- [CNC-CTC 接続用入出力制御装置 (T)] ボックスから制御装置番号と IOC 名称を選択する

(3) 注意事項

- CNC-CTC 接続用入出力制御装置は、接続元と接続先の両方のプロセサまたは物理プロセサで登録する必要があります。
- 登録した入出力制御装置は、ACONARC 制御機能の制御対象にはできません。

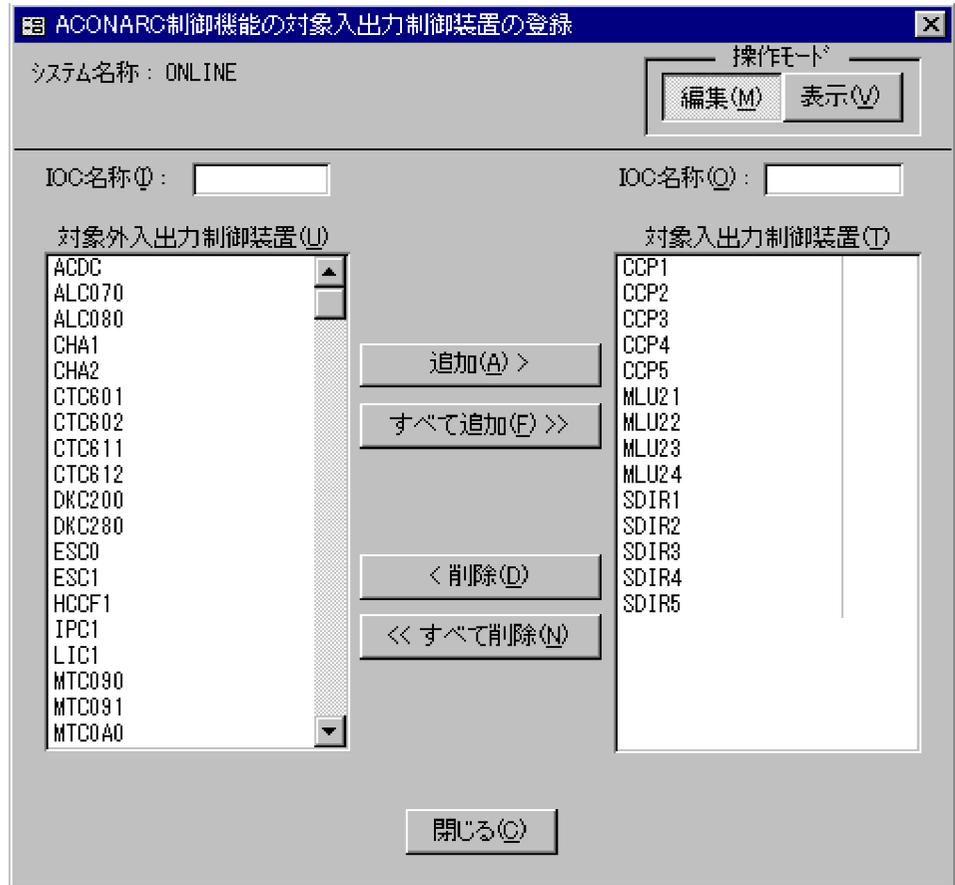
4.4.4 ACONARC 制御機能の制御対象にする入出力制御装置の登録

ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで、ACONARC 制御機能の制御対象にする入出力制御装置を登録します。全プロセサ分の入出力制御装置を一括して登録します。ACONARC 制御機能を使用する設定をした場合に、このダイアログを開くことができます。

(1) ダイアログの形式

ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログを図 4-31 に示します。

図 4-31 ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログ



IOC 名称 (I)

[対象外入出力制御装置 (U)] ボックスで選択している IOC 名称が表示されます。

IOC 名称を指定すると, [対象外入出力制御装置 (U)] ボックスで入出力制御装置が選択されます。

対象外入出力制御装置 (U)

ACONARC 制御機能の制御対象として登録していない入出力制御装置の IOC 名称が, 全プロセッサ分表示されます。登録する入出力制御装置を選択できます。

IOC 名称 (O)

[対象入出力制御装置 (T)] ボックスで選択されている IOC 名称が表示されます。

IOC 名称を指定すると, [対象入出力制御装置 (T)] ボックスで入出力制御装置が選択されます。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

対象入出力制御装置 (T)

ACONARC 制御機能の制御対象として登録する入出力制御装置の IOC 名称が表示されます。登録削除する入出力制御装置を選択できます。IOC 名称の横に「*」が表示されていると、ACONARC 制御機能の制御対象になりません。ACOD 経路を定義すると制御対象になり、「*」が消えます。ただし、CNC-CTC 接続用入出力制御装置は、ACOD 経路を定義しても制御対象になりません。

[追加 (A)>]

[対象外入出力制御装置 (U)] ボックスで選択している入出力制御装置を ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置に追加します。

[すべて追加 (F)>>]

[対象外入出力制御装置 (U)] ボックスに表示されているすべての入出力制御装置を ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置に追加します。

[< 削除 (D)]

[対象入出力制御装置 (T)] ボックスで選択している入出力制御装置を ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置から削除します。

[<< すべて削除 (N)]

[対象入出力制御装置 (T)] ボックスに表示されているすべての入出力制御装置を ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置から削除します。

[閉じる (C)]

このダイアログを閉じ、ACONARC 制御機能の制御対象にする入出力制御装置を登録します。

(2) 操作方法

対象入出力制御装置への登録

次に示すどれかの方法で、追加する入出力制御装置を選択して、[追加 (A)>] ボタンをクリックします。

- [IOC 名称 (I)] テキストボックスに IOC 名称を指定する
- [対象外入出力制御装置 (U)] ボックスから IOC 名称を選択する

すべての入出力制御装置を追加する場合は [すべて追加 (F)>>] ボタンをクリックします。

対象入出力制御装置からの登録削除

次に示すどれかの方法で、削除する入出力制御装置を選択して、[< 削除 (D)] ボタンをクリックします。

- [IOC 名称 (O)] テキストボックスに IOC 名称を指定する
- [対象入出力制御装置 (T)] ボックスから IOC 名称を選択する

すべての入出力制御装置を削除する場合は [<< すべて削除 (N)] ボタンをクリックし

ます。

(3) 注意事項

IOC 名称の横に「*」が表示されている入出力制御装置の ACOD 経路は、AOMPLUS の ACOD 構成情報には反映されません。

4.5 PRMF 構成の定義

PRMF を使用する場合の、入出力構成・LPAR 構成の定義方法について説明します。

4.5.1 LPAR 構成の定義

LPAR の追加・削除や、オプション機能の指定をします。

(1) LPAR の追加・削除、オプション機能の指定

LPAR 構成定義ウィンドウで、LPAR の追加・削除、および各 LPAR のオプション機能の指定をします。

(a) ウィンドウの形式

LPAR 構成定義ウィンドウを図 4-32 および図 4-33 に示します。

図 4-32 LPAR 構成定義ウィンドウ（制御システムが PRMA E2 の場合）

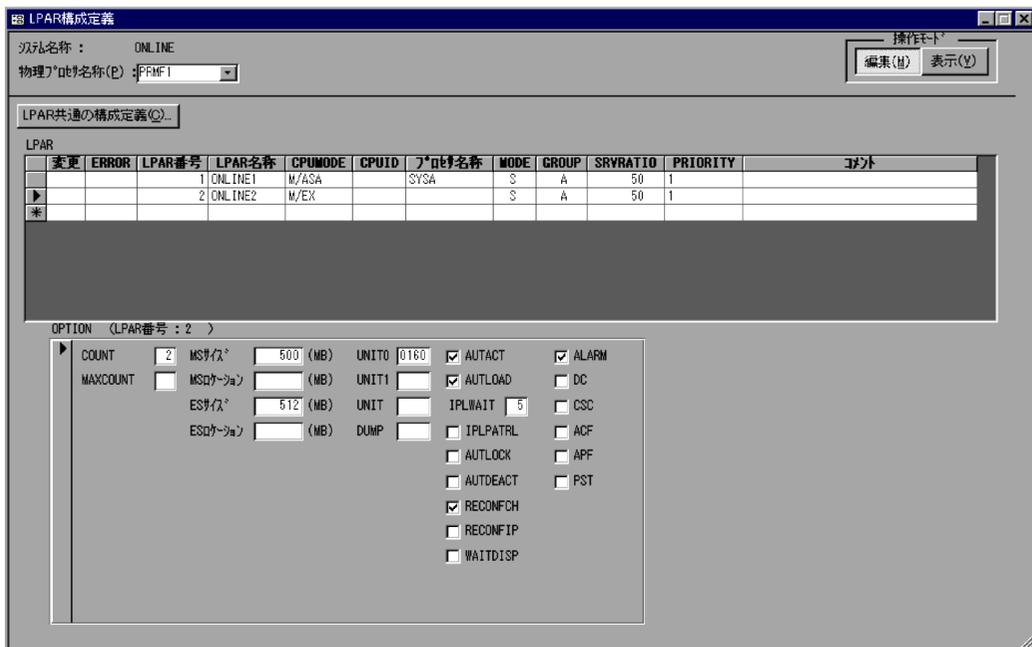
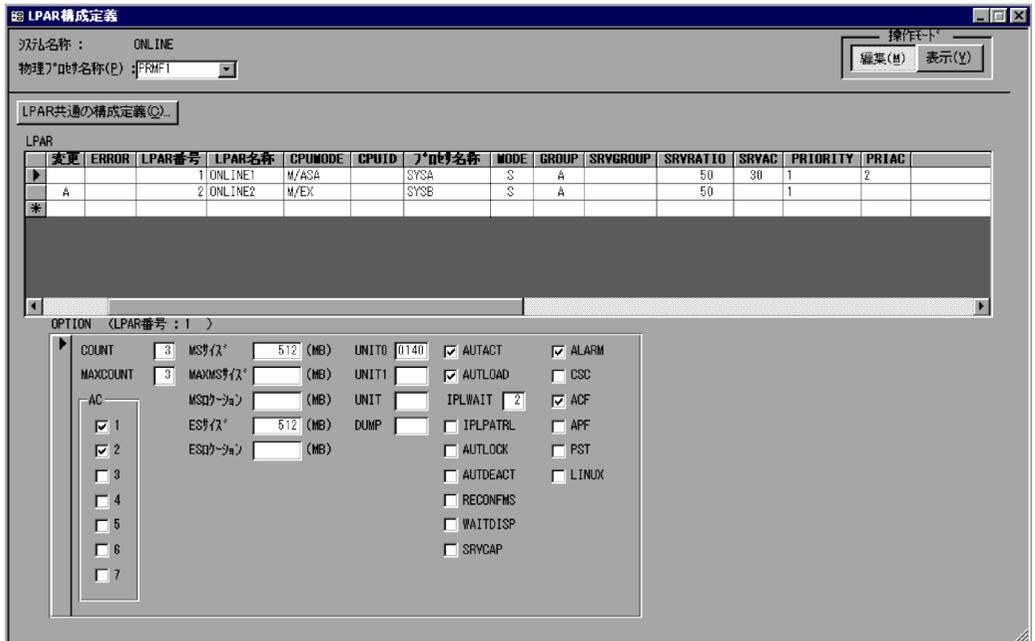


図 4-33 LPAR 構成定義ウィンドウ (制御システムが PRMA E3 の場合)



[LPAR 共通の構成定義 (C)...]

すべての LPAR に共通する機能を定義します。

LPAR

定義している LPAR が表示されます。また、LPAR を追加・削除します。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

LPAR 番号

LPAR 番号を指定します。

LPAR 名称

LPAR 名称を指定します。

CPUMODE

LPAR の CPU 動作モードを指定します。

CPUID

LPAR の CPU 識別情報のビット 16 ~ 31 の値を指定します。

プロセッサ名称

LPAR 番号に対応するゲスト OS のプロセッサ名称が表示されます。

MODE

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

論理 IP の割り当て属性を指定します。

GROUP

論理 IP の割り当て属性が共用割り当て属性の場合、論理 IP のスケジューリンググループを指定します。

SRVGROUP

論理 IP の割り当て属性が変動共用割り当て属性の場合、物理 IP の割り当て量 (CPU サービス比) の CPU サービスグループ番号を指定します。このフィールドは、制御システムが PRMA E3 でシンタクスレベルが LEVEL4 以上の場合に表示されます。

SRVRATIO

論理 IP の割り当て属性が共用割り当て属性の場合、論理 IP の割り当て量 (CPU サービス比) を指定します。

SRVAC

論理 IP の割り当て属性が共用割り当て属性の場合、論理 AC の割り当て量 (CPU サービス比) を指定します。このフィールドは、制御システムが PRMA E3 でシンタクスレベルが LEVEL4 以上の場合に表示されます。

PRIORITY

論理 IP の割り当て属性が共用割り当て属性の場合、実行優先順位を指定します。

PRIAC

論理 IP の割り当て属性が共用割り当て属性の場合、論理 AC に対する実行優先順位を指定します。このフィールドは、制御システムが PRMA E3 でシンタクスレベルが LEVEL4 以上の場合に表示されます。

コメント

LPAR に対するコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

OPTION

LPAR の定義シートで選択している LPAR のオプション機能が表示されます。

COUNT

論理 IP 台数を指定します。

MAXCOUNT

最大論理 IP 台数を指定します。

AC (1 ~ 7)

アクセラレートプロセッサを割り当てる論理 IP を指定します。

このフィールドは、制御システムが PRMA E3 でシンタクスレベルが LEVEL3 以上の場合に表示されます。

MS サイズ

主記憶装置の容量をメガバイト単位で指定します。

MAXMS サイズ

ゲスト主記憶動的再構成によって該当する LPAR に構成可能とする最大 MS 容量を指定します。

このフィールドは、制御システムが PRMA E2 でシNTAX レベルが LEVEL3 以上または制御システムが PRMA E3 の場合に表示されます。

MS ロケーション

主記憶装置を割り当てる物理主記憶装置上の先頭位置をメガバイト単位（16 進数）で指定します。

ES サイズ

拡張記憶装置の容量をメガバイト単位で指定します。

ES ロケーション

拡張記憶装置を割り当てる物理拡張記憶装置上の先頭位置をメガバイト単位（16 進数）で指定します。

UNIT0

自動 IPL 機能を使用する場合、またはシステム運転支援装置からの IPL LOAD0 指令によって IPL する場合の IPL 装置の論理装置番号を指定します。

UNIT1

システム運転支援装置からの IPL LOAD1 指令によって IPL する場合の IPL 装置の論理装置番号を指定します。

UNIT

LPROP フレームで IPL する場合の IPL 装置の論理装置番号を指定します。

DUMP

LPROP フレームでダンププログラムを IPL する場合の IPL 装置の論理装置番号を指定します。

AUTACT

自動アクティベートオプションを指定します。

AUTLOAD

自動 IPL オプションを指定します。

IPLWAIT

時差 IPL 機能を使用する場合、自動 IPL の待ち時間を分単位で指定します。

IPLPATRL

IPL 監視オプションを指定します。

AUTLOCK

自動 LPAR 操作抑止オプションを指定します。

AUTDEACT

自動ディアクティベートオプションを指定します。

RECONFCH

ゲストチャネル動的再構成機能を PRMF のフレーム操作で使用するかどうかを指定します。

このフィールドは、制御システムが PRMA E2 の場合に表示されます。

RECONFIP

ゲスト IP 動的再構成機能を使用するかどうかを指定します。

このフィールドは、制御システムが PRMA E2 の場合、または制御システムが PRMA E3 でシンタクスレベルが LEVEL2 以下の場合に表示されます。

RECONFMS

ゲスト主記憶動的再構成機能を使用するかどうかを指定します。

このフィールドは、制御システムが PRMA E2 でシンタクスレベルが LEVEL3 以上または制御システムが PRMA E3 の場合に表示されます。

WAITDISP

ウェイトディスパッチ機能を使用するかどうかを指定します。

SRVCAP

CPU サービスキャッピング機能を使用するかどうかを指定します。

このフィールドは、制御システムが PRMA E2 でシンタクスレベルが LEVEL5 以上または制御システムが PRMA E3 の場合に表示されます。

ALARM

システム停止警報オプションを指定します。

DC

ダイレクトコントロール機構を使用するかどうかを指定します。

このフィールドは、制御システムが PRMA E2 の場合に表示されます。

CSC

CSC オプションを指定します。

ACF

自動通報機構を使用するかどうかを指定します。

APF

自動電源投入機構を使用するかどうかを指定します。

PST

パラレルシステムタイマ機構を使用するかどうかを指定します。

LINUX

命令プロセサ能力の追加資源としての LINUX 専用処理機構 (LINUX IP) と、主記憶容量の増設を行う LINUX 専用増設記憶 (LINUX MS) を使用するかどうかを指定します。

このフィールドは、制御システムが PRMA E3 の場合に表示されます。

(b) 操作方法

LPAR 番号を追加・削除する

追加するには、追加用レコードに LPAR 番号を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除する LPAR のレコードを削除します。

LPAR のオプション機能を指定する

1. LPAR の定義シートでオプション機能を指定する LPAR を選択します。
2. オプション機能に値を指定するか、またはチェックボックスをオンにします。

(2) すべての LPAR に共通する機能の指定

LPAR 共通の構成定義ダイアログで、すべての LPAR に共通する機能を指定します。

(a) ダイアログの形式

LPAR 共通の構成定義ダイアログを図 4-34 に示します。

図 4-34 LPAR 共通の構成定義ダイアログ

LPAR共通の構成定義

システム名称: ONLINE

物理パーティション名称(P): PRMF1

操作モード: 編集(M) 表示(Y)

物理IP

ERROR	物理IP番号	MODE	GROUP
	0	S	A
	1	S	A
*			

エラー詳細(D)

SYSOPT(Q)

AUTPIW/OFF

AUTDUMP

AUTRSTRT

PFキー

PFNO	COMMAND	TYPE
3	CALL PRMIDX	E
*		

閉じる(O)

物理 IP

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

物理 IP のスケジューリング属性が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

物理 IP 番号

スケジューリング属性を指定する物理 IP 番号を指定します。

MODE

物理 IP の割り当て属性を指定します。

GROUP

物理 IP の割り当て属性が共用割り当て属性の場合、物理 IP のスケジューリンググループを指定します。

LPAR 番号

専用割り当て属性の物理 IP を割り当てる LPAR の番号を指定します。物理 IP を割り当てる LPAR を限定しない場合は、入力不要です。

このフィールドは、制御システムが PRMA E2 でシンタクスレベルが LEVEL1 以上または制御システムが PRMA E3 の場合に表示されます。

[エラー詳細 (D)]

エラー番号が表示されている場合、カレントレコードの物理 IP のエラー内容を表示します。

SYSOPT(O)

PRMF のオプション機能が表示されます。

AUTPWOFF

自動電源切断機能を使用するかどうかを指定します。

AUTDUMP

自動 PRMF ダンプ機能を使用するかどうかを指定します。

AUTRSTRT

自動再開始機能を使用するかどうかを指定します。

PF キー

PF キーの割り当てが表示されます。

PFNO

PF キー番号を指定します。

COMMAND

PF キーごとに対応づける PRMF コマンドテキストを指定します。

TYPE

PF キーごとに定義した PRMF コマンドを、PF キーを押すと同時に実行させるかどうか指定します。

[閉じる (C)]

このダイアログを閉じます。

(b) 操作方法

物理 IP の追加・削除

追加するには、追加用レコードに物理 IP 番号を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除する物理 IP のレコードを削除します。

PRMF のオプション機能の指定

使用するオプション機能のチェックボックスをオンにします。オプション機能を使用しない場合はチェックボックスをオフにします。

PF キーの追加・削除

追加するには、追加用レコードに PF キー番号を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除する PF キーのレコードを削除します。

4.5.2 PRMF 構成のチャネルの定義

チャネル定義 (PRMF) ウィンドウで、物理プロセサ単位にチャネルパス ID とチャネルタイプを定義します。

(1) ウィンドウの形式

チャネル定義 (PRMF) ウィンドウを図 4-35 に示します。

図 4-35 チャネル定義 (PRMF) ウィンドウ

**チャンネル数**

定義しているチャンネルの数が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

PATHID

チャンネルパス ID を指定します。

TYPE

チャンネルタイプを指定します。定義対象の物理プロセッサで指定できるチャンネルタイプの中から選択できます。

SEGNO

LPAR 間高速連携機能でのネットワークセグメントのセグメント番号を指定します。このフィールドは、次に示す制御システムの場合に表示され、VILA チャンネルの場合にだけ指定できます。

制御システムが PRMA E2 の場合

シンタクスレベルが「LEVEL7」以上で ACONARC 装備を設定している

制御システムが PRMA E3 の場合

シンタクスレベルが「LEVEL1」以上

ATTR

チャンネルパスの割り当て属性を指定します。定義対象の物理プロセッサで指定できる割り当て属性の中から選択できます。省略すると、PRMF システム構成定義文の仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

コメント

コメント番号に対応したコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

(2) 操作方法

(a) チャンネルの追加・削除、指定値の変更

チャンネルの追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加するチャンネルのチャンネルパス ID を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除するチャンネルのレコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

4.5.3 LPAR に割り当てるチャンネルの定義

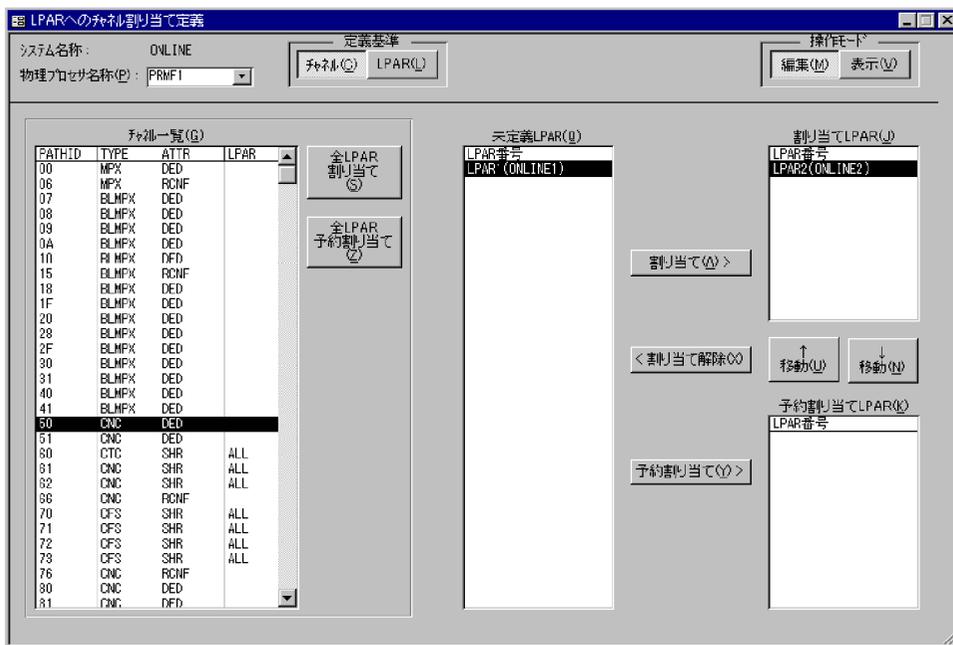
LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウで、チャンネルを LPAR に割り当てます。割り当て方法には、次に示す二つの方法があります。

- チャンネルを基準にした定義
選択したチャンネルの LPAR への割り当て、または接続予約割り当てを定義します。
- LPAR を基準にした定義
選択した LPAR に対して、チャンネルの割り当て、または接続予約割り当てを定義します。

(1) チャンネルを基準にした場合のウィンドウの形式

チャンネルを基準にした場合の LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウを図 4-36 に示します。

図 4-36 LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウ (チャンネル基準)



チャンネル一覧 (G)

PRMF 構成で定義しているチャンネルがすべて表示されます。

PATHID, TYPE, ATTR

チャンネルパス ID, チャンネルタイプ, チャンネルパスの割り当て属性が表示されます。

LPAR

チャンネルがすべての LPAR に割り当てられている場合, 「ALL」が表示されます。チャンネルがすべての LPAR に接続予約割り当てされている場合, 「ALL*」が表示されます。「ALL」が表示されているチャンネルを選択すると, [割り当て LPAR(J)] ボックスにすべての LPAR が表示されます。「ALL*」が表示されているチャンネルを選択すると, [予約割り当て LPAR(K)] ボックスにすべての LPAR が表示されます。

[全 LPAR 割り当て (S)]

選択しているチャンネルに対してすべての LPAR へのアクティブ時の割り当てを指定します。

[全 LPAR 予約割り当て (Z)]

選択しているチャンネルに対してすべての LPAR への接続予約割り当てを指定します。

未定義 LPAR(Q)

選択しているチャンネルに対して割り当てを指定していない LPAR が表示されます。

割り当て LPAR(J)

選択しているチャンネルに対してアクティベート時の割り当てを指定している LPAR が表示されます。

予約割り当て LPAR(K)

選択しているチャンネルに対して接続予約割り当てを指定している LPAR が表示されます。

[割り当て (A)>]

[未定義 LPAR(Q)] ボックスで選択している LPAR にアクティベート時のチャンネルの割り当てを指定します。

[< 割り当て解除 (X)]

[割り当て LPAR(J)] または [予約割り当て LPAR(K)] ボックスで選択している LPAR へのチャンネルの割り当ての指定を解除します。

[予約割り当て (Y)>]

[未定義 LPAR(Q)] ボックスで選択している LPAR にチャンネルの接続予約割り当てを指定します。

[移動 (U)]

接続予約割り当てをアクティベート時の割り当てに変更します。

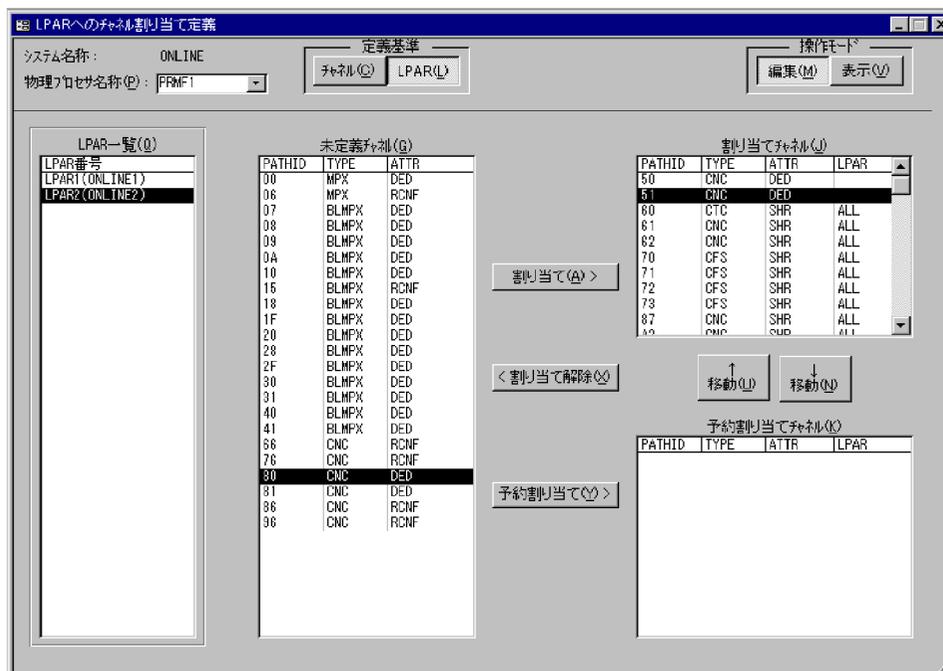
[移動 (N)]

アクティベート時の割り当てを接続予約割り当てに変更します。

(2) LPAR を基準にした場合のウィンドウの形式

LPAR を基準にした場合の LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウを図 4-37 に示します。

図 4-37 LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウ (LPAR 基準)



LPAR 一覧 (Q)

PRMF 構成で定義している LPAR がすべて表示されます。

未定義チャネル (G)

選択している LPAR への割り当てを指定しないチャンネルが表示されます。

PATHID, TYPE, ATTR

チャンネルパス ID, チャンネルタイプ, チャンネルパスの割り当て属性が表示されます。

割り当てチャネル (J)

選択している LPAR へのアクティブ時の割り当てを指定しているチャンネルが表示されます。

PATHID, TYPE, ATTR

チャンネルパス ID, チャンネルタイプ, チャンネルパスの割り当て属性が表示されます。

LPAR

すべての LPAR にアクティブ時の割り当てを指定しているチャンネルの場合, 「ALL」が表示されます。

予約割り当てチャネル (K)

選択している LPAR への接続予約割り当てを指定しているチャンネルが表示されます。

PATHID, TYPE, ATTR

チャンネルパス ID, チャンネルタイプ, チャンネルパスの割り当て属性が表示されま
す。

LPAR

すべての LPAR に接続予約割り当てを指定しているチャンネルの場合, 「ALL*」
が表示されます。

[割り当て (A)>]

[未定義チャンネル (G)] ボックスで選択しているチャンネルに対して, LPAR へのアク
ティベート時の割り当てを指定します。

[< 割り当て解除 (X)]

[割り当てチャンネル (J)] または [予約割り当てチャンネル (K)] ボックスで選択してい
るチャンネルに対して, LPAR への割り当ての指定を解除します。

[予約割り当て (Y)>]

[未定義チャンネル (G)] ボックスで選択しているチャンネルに対して, LPAR への接続
予約割り当てを指定します。

[移動 (U)]

接続予約割り当てをアクティベート時の割り当てに変更します。

[移動 (N)]

アクティベート時の割り当てを接続予約割り当てに変更します。

(3) 操作方法

(a) 定義基準の切り替え

ヘッダにある [定義基準] ボックスのボタンをクリックして切り替えます。

- [チャンネル (C)]: チャンネルを基準にして定義する
- [LPAR (L)]: LPAR を基準にして定義する

(b) チャンネルを基準にした場合の定義

選択したチャンネルの LPAR への割り当てを指定する

1. [チャンネル一覧 (G)] ボックスでチャンネルを選択します。
2. [未定義 LPAR (Q)] ボックスで割り当てを指定する LPAR を選択します。
3. アクティベート時に割り当てる場合は [割り当て (A)>] ボタンを, 接続予約割り
当てする場合は [予約割り当て (Y)>] ボタンをクリックします。

選択したチャンネルの全 LPAR への割り当てを指定する

1. [チャンネル一覧 (G)] ボックスでチャンネルを選択します。
2. アクティベート時に割り当てる場合は [全 LPAR 割り当て (S)] ボタンを, 接続予
約割り当てする場合は [全 LPAR 予約割り当て (Z)] ボタンをクリックします。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

LPAR に対する割り当ての指定を解除する

1. [割り当て LPAR(J)] ボックスまたは [予約割り当て LPAR(K)] ボックスで LPAR を選択します。
2. [< 割り当て解除 (X)] ボタンをクリックします。

(c) LPAR を基準にした場合の定義

選択した LPAR へのチャンネルの割り当てを指定する

1. [LPAR 一覧 (Q)] ボックスで LPAR を選択します。
2. [未定義チャンネル (G)] ボックスで割り当てを指定するチャンネルを選択します。
3. アクティブ時に割り当ての場合は [割り当て (A)>] ボタンを、接続予約割り当ての場合は [予約割り当て (Y)>] ボタンをクリックします。

チャンネルの割り当ての指定を解除する

1. [割り当てチャンネル (J)] ボックスまたは [予約割り当てチャンネル (K)] ボックスでチャンネルを選択します。
2. [< 割り当て解除 (X)] ボタンをクリックします。

(d) 割り当て方法の変更

アクティブ時の割り当てを接続予約割り当てに変更する

1. [割り当てチャンネル (J)] ボックスまたは [割り当て LPAR(J)] ボックスでチャンネルまたは LPAR を選択します。
2. [移動 (N)] ボタンをクリックします。

接続予約割り当てをアクティブ時の割り当てに変更する

1. [予約割り当てチャンネル (K)] ボックスまたは [予約割り当て LPAR(K)] ボックスでチャンネルまたは LPAR を選択します。
2. [移動 (U)] ボタンをクリックします。

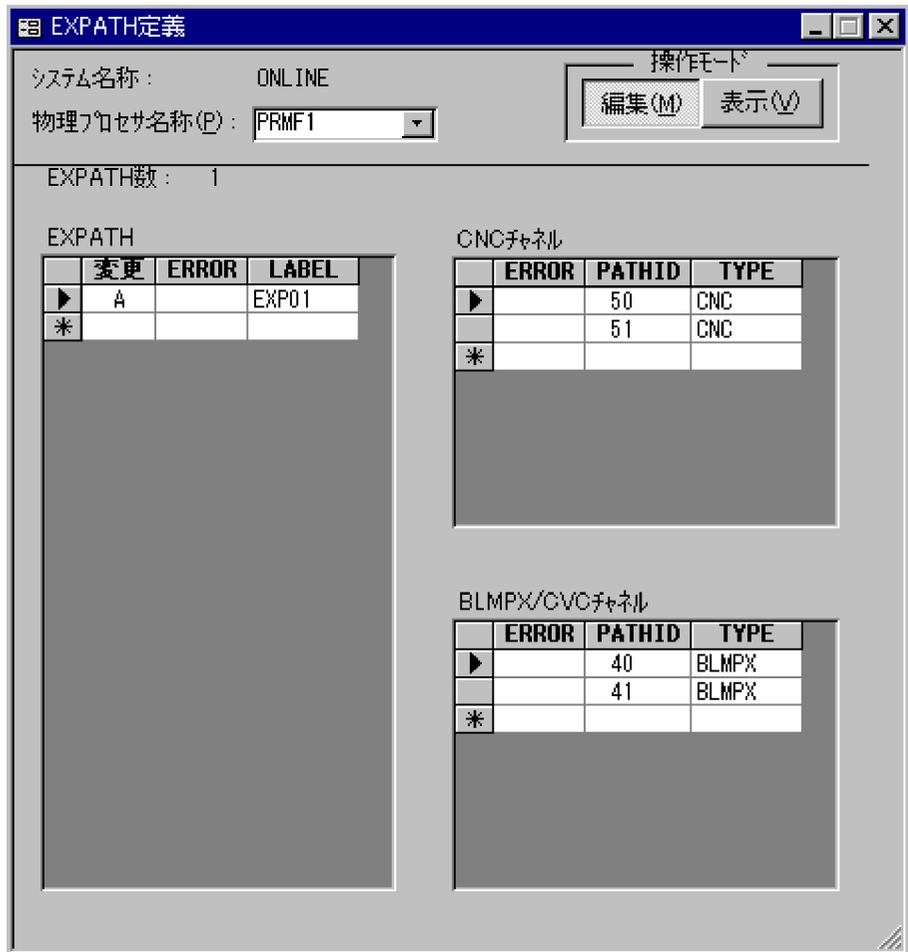
4.5.4 EXPATH の定義

EXPATH 定義ウィンドウで、一つの入出力装置を複数 LPAR 間で異なる入出力装置として定義する場合の、入出力装置に接続するチャンネルのチャンネルタイプの組み合わせを定義します。

(1) ウィンドウの形式

EXPATH 定義ウィンドウを図 4-38 に示します。

図 4-38 EXPATH 定義ウィンドウ

**EXPATH 数**

定義しているチャネルの組み合わせの数が表示されます。

EXPATH**変更**

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

LABEL

チャネルの組み合わせを管理するためのラベルを指定します。先頭が英字で始まる、8文字以内の半角大文字の英数字で指定します。システム構成定義文の名称欄に指定する名称と同様にします。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

CNC チャネル

選択しているラベルに対する、異なるチャンネルタイプと組み合わせる CNC チャネルが表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

PATHID

異なるチャンネルタイプと組み合わせる CNC チャネルのチャンネルパス ID を指定します。定義している CNC チャネルの中から選択できます。

TYPE

「CNC」が表示されます。

BLMPX/CVC チャネル

選択しているラベルに対する、CNC チャネルと組み合わせる BLMPX チャネルまたは CVC チャネルが表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

PATHID

CNC チャネルと組み合わせるチャンネルのチャンネルパス ID を指定します。定義している BLMPX チャネルまたは CVC チャネルの中から選択できます。

TYPE

チャンネルパス ID に対するチャンネルタイプが表示されます。

(2) 操作方法

チャンネルタイプの組み合わせを追加・削除する

チャンネルタイプの組み合わせを追加するには、チャンネルタイプの組み合わせにつけるラベルを指定します。削除するには、ラベルのレコードを削除します。

CNC チャネルを追加・削除する

追加する手順を次に示します。

1. ラベルを選択します。
2. CNC チャネルのチャンネルパス ID を指定します。

削除するには、CNC チャネルのレコードを削除します。

BLMPX チャネルまたは CVC チャネルを追加・削除する

追加する手順を次に示します。

1. ラベルを選択します。
2. BLMPX チャネルまたは CVC チャネルのチャンネルパス ID を指定します。

削除するには、BLMPX/CVC チャネルのレコードを削除します。

4.5.5 PRMF 構成の入出力制御装置の定義

入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウで、物理プロセッサ単位に入出力制御装置の制御装置番号、種類などを定義します。

(1) ウィンドウの形式

入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウを図 4-39 に示します。

図 4-39 入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウ



入出力制御装置数

定義している入出力制御装置の数が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

CUNO

制御装置番号を指定します。

IOC 名称

入出力制御装置を管理するための名称を指定します。先頭が英字で始まる、8文字

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

以内の半角大文字の英数字で指定します。省略すると、「IOC0xxxx」(xxxx: 制御装置番号)が仮定されます。

指定した名称はゲスト OS の制御装置名称になります。

TYPE

制御装置タイプを指定します。指定できる制御装置タイプの中から選択します。省略すると、PRMF システム構成定義文の仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

IFMODE

インタフェースモードを指定します。指定できるインタフェースモードの中から選択します。省略すると、空欄になります。

CUADR

ACONARC を使用する物理プロセサの場合に、制御装置アドレスを指定します。省略すると、「00」が仮定されます。

コメント

コメント番号に対応したコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

DEVA

選択している入出力制御装置の装置アドレスを指定します。複数の装置アドレスが連続している場合は先頭のアドレスを指定します。複数の装置アドレスが連続していない場合はレコードを分けて指定します。

NUM

DEVA フィールドに指定した装置アドレスから連続する装置数を指定します。省略すると、「1」が仮定されます。

(2) 操作方法

入出力制御装置の追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加する入出力制御装置の制御装置番号を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除する入出力制御装置のレコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

(3) 注意事項

- CUADR フィールドに「00」以外の制御装置アドレスが指定されている入出力制御装置は、接続定義ウィンドウで CNC チャネル、CTC チャネルまたは FC チャネルと接続できません。また、制御装置アドレスに「10」以上が指定されている入出力制御装置は FC チャネルとだけ接続できます。

4.5.6 PRMF 構成の入出力装置の定義

入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウで、物理プロセッサ単位に入出力装置のデバイス番号、装置形式などを定義します。

(1) ウィンドウの形式

入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウを図 4-40 に示します。

図 4-40 入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウ

変更	ERROR	ADDR	NUM	管理名称	UNIT	MODEL	ADDR2	NUM2	XFEATUR	コメント
		0000	1	C00	9415					
		000A	2	I0A	F8092	50				
		000F	1	MSR	8268	10				
		001E	2	F00	8571					
		0140	4	I40	8598					
		0180	4	I80	8488	1				
		0184	4	I84	8488	1				
		0280	16	I280	8485	1				
		0290	16	I290	8485	1				
		0616	4	C16	F6214	51				
		061A	4	I1A	F8092	50				
	A	0620	2	M60	8488	1				
	A	0622	2	M62	8488	1				
	A	0624	2	M64	8488	1				
	A	0626	2	M66	8488	1				
		0740	7	ML1	8951		0750	7		
		1520	1	L20	8355					
		1521	1	L21	8355					
		1522	1	L22	8355					
		1F00	1	ES0	ES				ES	
		1F01	1	ES1	ES				ES	
		3040	16	N60	8626	1				
		3060	16	N60	8626	1				
		3130	16	N60	8626	1				
		3150	16	N60	8626	1				
		4000	16	I400	8587					
	A	5000	16	DEV05000	8587					

入出力装置数

定義している入出力装置の数が表示されます。表示される入出力装置の数はレコードの数ではなく、NUM フィールドの装置数の合計です。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

ADDR

デバイス番号を指定します。磁気テープライブラリ装置の装置群では、自動ライブラリ制御機構のアドレスが偶数の装置群に対するデバイス番号を指定します。

NUM

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

装置数を指定します。次に示す場合に指定します。

- 同じ入出力制御装置に接続されていて、装置形式が同じである、入出力装置の装置アドレスが昇順に複数個ある場合
- 通信回線アドレスが昇順に複数個ある場合

省略すると、PRMF システム構成定義文の仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

管理名称

入出力装置を管理するための名称を指定します。先頭が英字で始まる、8文字以内の半角大文字の英数字で指定します。省略すると、「DEV0xxxx」(xxxx: デバイス番号)が仮定されます。

UNIT

装置形式を指定します。ゲスト OS で使用する入出力装置の場合、ゲスト OS で指定できる値を指定します。ゲスト OS で指定できるすべての装置形式の中から選択できます。

MODEL

モデル番号を指定します。UNIT フィールドに装置形式を指定した後に指定します。ゲスト OS で使用する入出力装置の場合、ゲスト OS で指定できる値を指定します。装置形式の値によって限定されるモデル番号の中から選択します。

ADDR2

磁気テープライブラリ装置の自動ライブラリ制御機構のアドレスが奇数の装置群に対するデバイス番号を指定します。磁気テープライブラリ装置の自動ライブラリ制御機構のアドレスが奇数の装置群の場合だけ指定します。

NUM2

ADDR2 フィールドに定義したデバイス番号の入出力装置が昇順に複数個連続している場合の装置数を指定します。ADDR2 フィールドに値を指定した場合に指定します。ADDR2 フィールドに値を指定した場合に省略すると、PRMF システム構成定義文の仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

XFEATUR

入出力装置に付加する拡張チャンネルシステム特有の識別情報を指定します。UNIT フィールドと MODEL フィールドの値によって限定される識別情報の中から選択できます。省略すると、PRMF システム構成定義文の仮定値と同じ規則で値が仮定されます。

コメント

コメント番号に対応したコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

(2) 操作方法

(a) 入出力装置の追加・削除、指定値の変更

入出力装置の追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加する入出力装置のデバイス番号を指定した後、そのほかの値を指定します。削除するには、削除する入出力装置のレコードを削除します。

指定値の変更

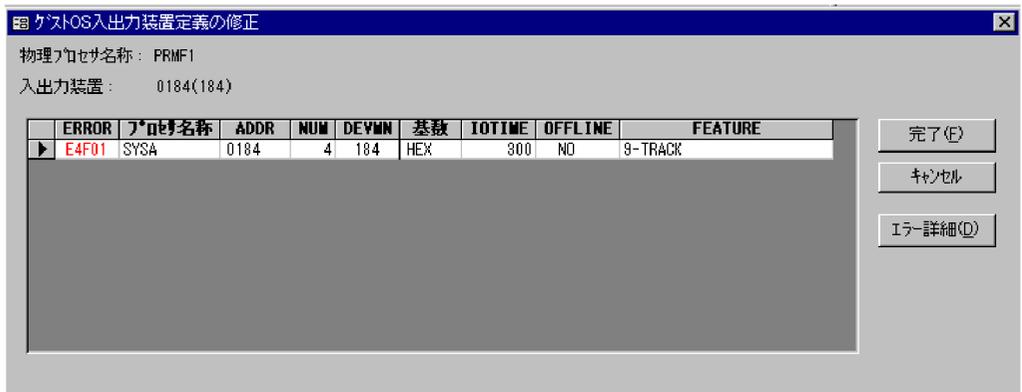
指定値を変更するには、値を上書きします。

(b) ゲスト OS の入出力装置の定義を修正する

PRMF 構成で入出力装置の指定値を変更したときに、ゲスト OS の入出力装置の定義を修正する必要があると、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージから、ゲスト OS 入出力装置定義の修正ダイアログを開いて、ゲスト OS の入出力装置の指定値を変更できます。

ゲスト OS 入出力装置定義の修正ダイアログを図 4-41 に示します。

図 4-41 ゲスト OS 入出力装置定義の修正ダイアログ



物理プロセッサ名称

入出力装置の指定値を変更した PRMF 構成が表示されます。

入出力装置

指定値を変更した入出力装置が表示されます。

ERROR

ゲスト OS の定義に対するエラー番号が表示されます。

プロセッサ名称

入出力装置の定義の修正が必要なゲスト OS のプロセッサが表示されます。

ADDR, NUM

ゲスト OS の入出力装置のデバイス番号と装置数が表示されます。

DEVMN, 基数, IOTIME, OFFLINE, FEATURE

ゲスト OS の入出力装置に対する指定値が表示されます。エラーがある値を修正します。

[完了 (F)]

ゲスト OS の入出力装置の指定値を変更します。

[キャンセル]

ゲスト OS の入出力装置の指定値の変更を取り消します。

[エラー詳細 (D)]

選択している入出力装置に対するエラーの内容を表示します。

(3) 注意事項

デバイス番号を指定した後は、装置形式とモデル番号をほかの値より先に指定してください。

4.5.7 LPAR で使用できる入出力装置の割り当ての定義

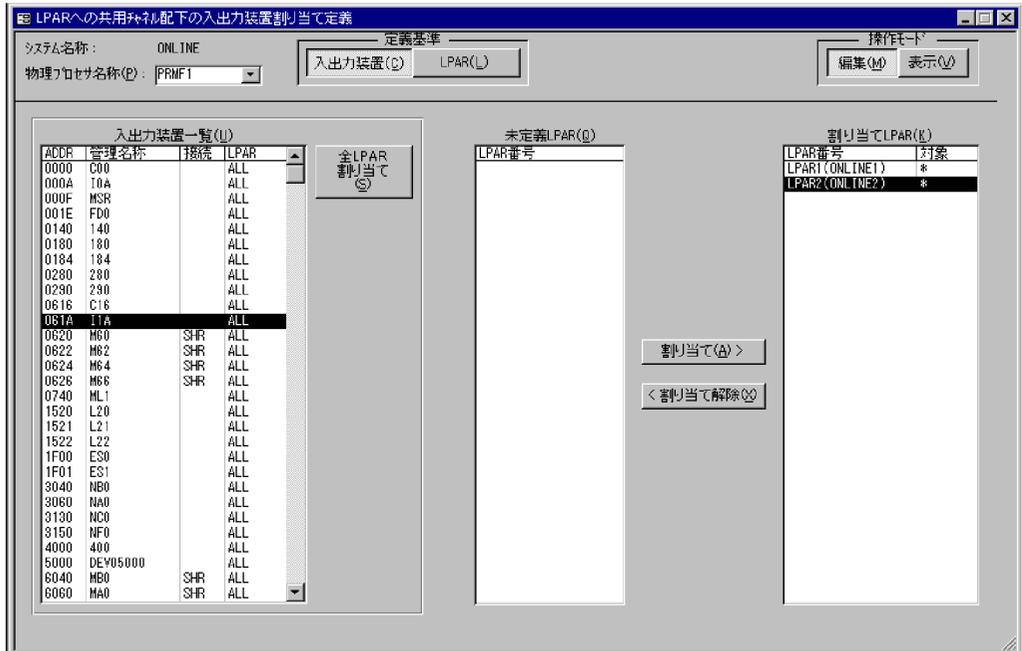
共用属性のチャンネルに接続する入出力装置に対して使用できる LPAR を制限する場合、入出力装置の LPAR への割り当てを、LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウで定義します。次に示す二つの方法で定義できます。

- 入出力装置を基準にした定義
選択した入出力装置の LPAR への割り当てを定義します。
- LPAR を基準にした定義
選択した LPAR に対して、入出力装置の割り当てを定義します。

(1) 入出力装置を基準にした場合のウィンドウの形式

入出力装置を基準にした場合の LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウを図 4-42 に示します。

図 4-42 LPAR への共用チャネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウ（入出力装置基準）



入出力装置一覧 (U)

PRMF 構成で定義しているすべての入出力装置が表示されます。

ADDR, 管理名称

デバイス番号と管理名称が表示されます。

接続

チャネルタイプが CNC, CTC または FC で割り当て属性が共用属性であるチャネルに接続する入出力装置の場合, 「SHR」が表示されます。

LPAR

共用属性のチャネルが割り当てられているすべての LPAR に対して割り当てを指定している入出力装置の場合, 「ALL」が表示されます。

[全 LPAR 割り当て (S)]

選択している入出力装置に対して, すべての LPAR への割り当てを指定します。

未定義 LPAR(Q)

選択している入出力装置に対して, 割り当てを指定していない LPAR が表示されます。

割り当て LPAR(K)

選択している入出力装置に対して, 割り当てを指定している LPAR が表示されます。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

対象

割り当ての指定が有効である場合空白になり、無効である場合「*」が表示されます。接続フィールドが空白の場合、または入出力装置と接続するチャンネルが LPAR に割り当てられていない場合、割り当ての指定が無効になります。

[割り当て (A) >]

[未定義 LPAR(Q)] ボックスで選択している LPAR への入出力装置の割り当てを指定します。

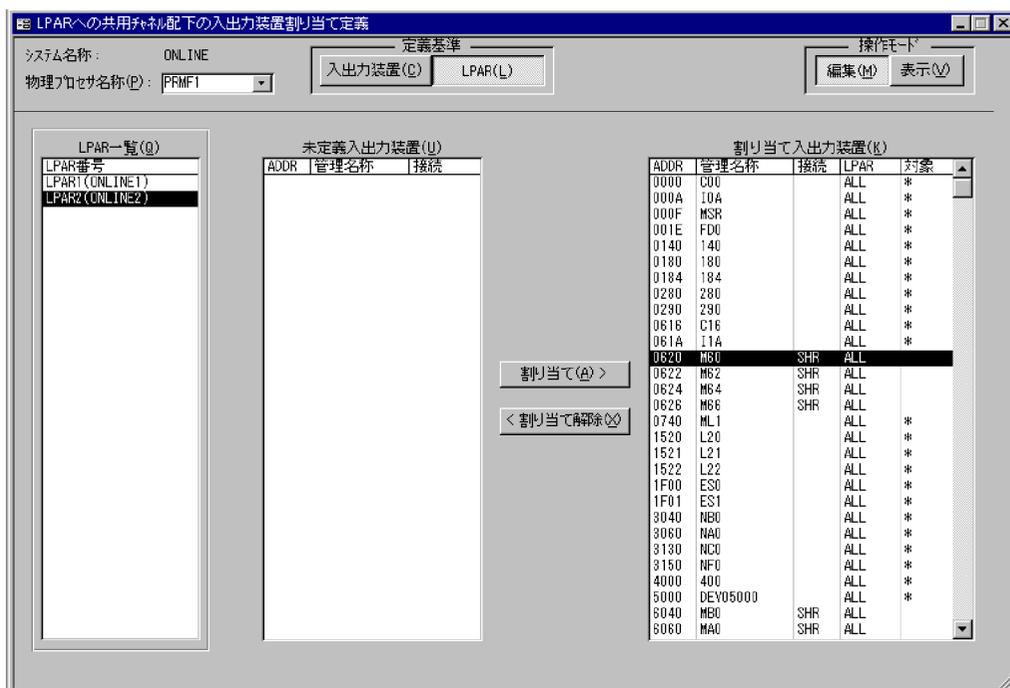
[< 割り当て解除 (X)]

[割り当て LPAR(K)] ボックスで選択している LPAR への入出力装置の割り当ての指定を解除します。

(2) LPAR を基準にした場合のウィンドウの形式

LPAR を基準にした場合の LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウを図 4-43 に示します。

図 4-43 LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウ (LPAR 基準)



LPAR 一覧 (Q)

PRMF 構成で定義しているすべての LPAR が表示されます。

未定義入出力装置 (U)

選択している LPAR への割り当てを指定していない入出力装置が表示されます。

ADDR, 管理名称

デバイス番号と管理名称が表示されます。

接続

チャンネルタイプが CNC, CTC または FC で、割り当て属性が共用属性であるチャンネルに接続する入出力装置の場合、「SHR」が表示されます。

割り当て入出力装置 (K)

選択している LPAR への割り当てを指定している入出力装置が表示されます。

ADDR, 管理名称

デバイス番号と管理名称が表示されます。

接続

チャンネルタイプが CNC, CTC または FC で、割り当て属性が共用属性であるチャンネルに接続する入出力装置の場合、「SHR」が表示されます。

LPAR

共用属性のチャンネルが割り当てられているすべての LPAR に対して割り当てを指定している入出力装置の場合、「ALL」が表示されます。

対象

割り当ての指定が有効である場合空白になり、無効である場合「*」が表示されます。接続フィールドが空白の場合、または入出力装置と接続するチャンネルが LPAR に割り当てられていない場合、割り当ての指定が無効になります。

[割り当て (A)>]

[未定義入出力装置 (U)] ボックスで選択している入出力装置に対して、LPAR への割り当てを指定します。

[< 割り当て解除 (X)]

[割り当て入出力装置 (K)] ボックスで選択した入出力装置に対して、LPAR への割り当ての指定を解除します。

(3) 操作方法

(a) 定義基準の切り替え

ヘッダにある [定義基準] ボックスのボタンをクリックして切り替えます。

- [入出力装置 (C)]: 入出力装置を基準にして定義する
- [LPAR(L)]: LPAR を基準にして定義する

(b) 入出力装置を基準にした場合の定義

LPAR への入出力装置の割り当ての指定

1. [未定義 LPAR(I)] ボックスで、入出力装置の割り当てを指定する LPAR を選択します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

2. [割り当て (A)>] を選択します。

すべての LPAR に対して入出力装置の割り当てを指定する場合は [全 LPAR 割り当て (S)] ボタンをクリックします。

LPAR への入出力装置の割り当ての解除

1. [割り当て LPAR(K)] ボックスで、入出力装置の割り当てを解除する LPAR を選択します。
2. [< 割り当て解除 (X)] を選択します。

(c) LPAR を基準にした場合の定義

入出力装置の LPAR への割り当ての指定

1. [未定義入出力装置 (U)] ボックスで、LPAR への割り当てを指定する入出力装置を選択します。
2. [割り当て (A)>] を選択します。

入出力装置の LPAR への割り当ての解除

1. [割り当て入出力装置 (K)] ボックスで、LPAR への割り当てを解除する入出力装置を選択します。
2. [< 割り当て解除 (X)] を選択します。

(4) 注意事項

対象フィールドに「*」が表示されている割り当ての指定は、PRMF システム構成定義文には反映されません。

4.5.8 ゲスト OS の定義状態の確認

定義した入出力機器に対するゲスト OS の定義を次に示すウィンドウで確認できます。

- チャネル定義 (PRMF) ウィンドウ
- 入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウ
- 入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウ

ゲスト OS の定義を確認する手順を次に示します。

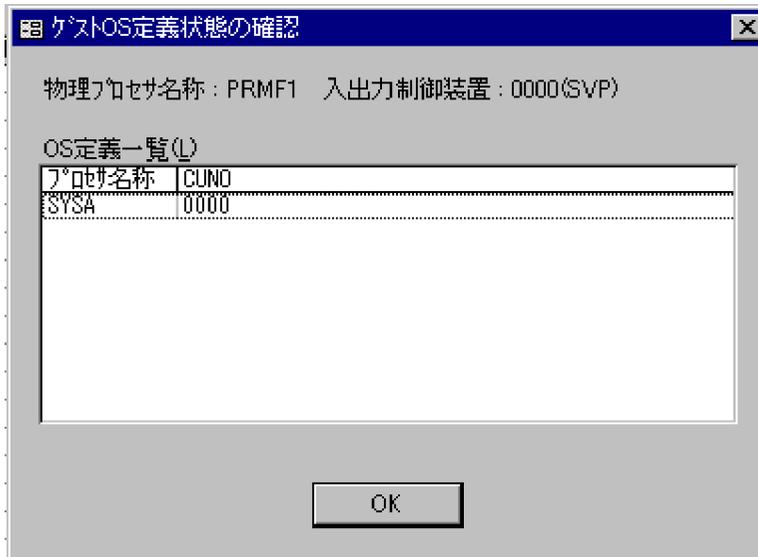
1. 確認するチャネル、入出力制御装置、または入出力装置のレコードを選択します。
2. [ツール (T)] - [ゲスト OS の定義状態の確認 (S)] を選択します。
ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログに、選択した入出力機器のゲスト OS での定義が表示されます。ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログを図 4-44 ~ 図 4-46 に示します。

図 4-44 ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (チャンネルの定義)



選択したチャンネルを定義しているゲスト OS のプロセッサ名称とチャンネルパス ID が表示されます。

図 4-45 ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (入出力制御装置の定義)



選択した入出力制御装置を定義しているゲスト OS のプロセッサ名称と制御装置番号が表示されます。

図 4-46 ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (入出力装置の定義)



選択した入出力装置を定義しているゲスト OS のプロセッサ名称, デバイス番号, および装置記号名が表示されます。

4.6 構成定義エラーの確認

構成定義エラーの確認方法を説明します。

4.6.1 構成定義ウィンドウでのエラーメッセージの表示

構成定義ウィンドウの ERROR フィールドに表示されている、エラー番号に対応するエラーメッセージを確認するには、次に示す方法でエラーの内容ダイアログを開きます。

マウスのダブルクリックで開く方法

ERROR フィールドの確認するエラー番号を選択して、ダブルクリックします。

メニューから選択して開く方法

[ツール (T)] - [エラー内容の確認 (E)] を選択します。

エラーの内容ダイアログを図 4-47 に示します。

図 4-47 エラーの内容ダイアログ



このダイアログを閉じるには、[OK] ボタンをクリックします。

注意事項

エラーの要因と対処方法については、「付録 E メッセージ」を参照してください。

4.6.2 エラー情報の表示

構成定義ウィンドウのエラー件数と、エラーの詳細を表示する方法を説明します。

(1) エラー件数の表示

エラー件数を表示するには、[情報表示 (I)] - [エラー情報 (E)...] を選択して、エラー情報表示ダイアログを開きます。

VOS3 のプロセサのエラーを表示する場合のエラー情報表示ダイアログを図 4-48 に、PRMF を使用する物理プロセサのエラーを表示する場合のエラー情報表示ダイアログを図 4-49 に示します。

図 4-48 エラー情報表示ダイアログ (VOS3 のプロセサのエラーを表示する場合)

項目	重要エラー	警告エラー
<input type="checkbox"/> 予約 (R)	0	0
<input checked="" type="checkbox"/> 入出力制御装置 (U)	0	1
<input type="checkbox"/> 入出力装置 (E)	0	0
<input checked="" type="checkbox"/> 装置ケーブル (G)	3	0
<input checked="" type="checkbox"/> 装置タイプ (Y)	0	1
<input type="checkbox"/> 装置割り当て順序 (S)	0	0
<input type="checkbox"/> ACOD (A)	0	0
<input checked="" type="checkbox"/> 接続 (D)	1	0
<input checked="" type="checkbox"/> ACOD経路 (H)	0	1

Buttons: 詳細 (D), 閉じる (C)

図 4-49 エラー情報表示ダイアログ (PRMF を使用する物理プロセサのエラーを表示する場合)

	重要エラー	警告エラー
<input checked="" type="checkbox"/> LPAR構成(K)	1	0
<input checked="" type="checkbox"/> LPAR共通の構成-物理IP(M)	1	0
<input checked="" type="checkbox"/> 予約(N)	0	1
<input checked="" type="checkbox"/> EXPATH(X)	0	1
<input checked="" type="checkbox"/> 入出力制御装置(U)	0	1
<input type="checkbox"/> 入出力装置(E)	0	0
<input type="checkbox"/> 装置ケーブル(F)	0	0
<input type="checkbox"/> 装置タイプ(Y)	0	0
<input type="checkbox"/> 装置割り当て順序(S)	0	0
<input type="checkbox"/> ACOD(A)	0	0
<input checked="" type="checkbox"/> 接続(Q)	1	0
<input checked="" type="checkbox"/> ACOD経路(H)	0	1

選択しているプロセサまたは物理プロセサについて、各構成定義ウィンドウにある重要エラーと警告エラーの件数が表示されます。ダイアログを閉じるには、[閉じる (C)] ボタンをクリックします。

(2) エラーの詳細表示

エラーの詳細は次に示す手順で表示します。なお、表示した情報の印刷方法については、「4.15.1 印刷」を参照してください。

1. エラー情報表示ダイアログで、エラーの詳細を表示するプロセサまたは物理プロセサと、構成定義ウィンドウを選択します。
2. [詳細 (D)] ボタンをクリックして、エラー情報詳細表示ウィンドウを開きます。

VOS3 のプロセサのエラーを表示する場合のエラー情報詳細表示ウィンドウを図 4-50 に、PRMF を使用する物理プロセサのエラーを表示する場合のエラー情報詳細表示ウィンドウを図 4-51 に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

図 4-50 エラー情報詳細表示ウィンドウ (VOS3 のプロセサのエラーを表示する場合)

エラー情報詳細					
システム名称: ONLINE		プロセサ名称: SYSA			
エラー表示項目	重要エラー	警告エラー	エラー番号	キー	キー値
入出力制御装置	0	1	W3001	CUNO	0801
装置ケーブル°	3	0	E5009	UNIT	6640
			E5009	UNIT	7660
			E5009	UNIT	8700
装置カバ°	0	1	W5002	装置カバ°	6587
接続	1	0	E6201	PATHID-CUNO	60-0801
ACOD経路	0	1	W7002	PATHID-CUNO	60-0801

図 4-51 エラー情報詳細表示ウィンドウ (PRMF を使用する物理プロセサのエラーを表示する場合)

エラー情報詳細					
システム名称: ONLINE		プロセサ名称: *PRMF (PRMF1)			
エラー表示項目	重要エラー	警告エラー	エラー番号	キー	キー値
LPAR構成	1	0	E0012	LPAR番号	LPAR2
LPAR共通の構成-物理IP	1	0	E0012	物理IP番号	IP1
ケーブル	0	1	W2F01	PATHID	40
入出力制御装置	0	1	W3001	CUNO	0801
EXPATH	0	1	WF230	LABEL	EXP01
接続	1	0	E6201	PATHID-CUNO	60-0801
ACOD経路	0	1	W7002	PATHID-CUNO	60-0801

システム名称

データベースに設定しているシステム名称が表示されます。

プロセサ名称

選択したプロセサのプロセサ名称が表示されます。

エラー表示項目

エラーが発生しているウィンドウ名が表示されます。

重要エラー, 警告エラー

エラーの数が表示されます。

エラー番号

エラー番号が表示されます。

キー

エラーが発生しているレコードを識別するためのフィールドが表示されます。

キー値

エラーが発生しているレコードを識別するための値が表示されます。

注意事項

エラー情報詳細表示ウィンドウは一つだけ表示できます。

4.6.3 エラーチェックの実行

メニューから操作するエラーチェックの実行方法，およびチェック結果の表示方法について説明します。

(1) 構成定義データチェックの実行

構成定義データチェックを実行するには，構成定義データチェックダイアログを開きます。

(a) ウィンドウの形式

構成定義データチェックダイアログを図 4-52 に示します。

図 4-52 構成定義データチェックダイアログ

**システム名称**

データベースを識別するシステム名称が表示されます。

入出力構成定義データ (N)

入出力構成定義データおよび PRMF 構成定義データについての情報が表示されます。

対象

エラーチェックを実行する定義データを選択します。

ERROR

エラー番号が表示されます。

プロセス名称

定義データを識別する名称が表示されます。

エラーチェックの実行

エラーチェックの実行が必要かどうかが表示されます。

- 不要：定義データのエラーチェックを実行済みであるため、実行する必要が

ないことを示します。

- 必要：定義データのエラーチェックを実行する必要があることを示します。一度もエラーチェックを実行していない、またはメインウィンドウで表示する更新日時がエラーチェック日時よりも新しい場合に、エラーチェックの実行が必要であると判断されます。
- 不可：エラーチェックを実行できないことを示します。各構成定義ウィンドウに重要エラーがある場合に表示されます。

エラーチェック日時

エラーチェック済みの場合、最後にエラーチェックを実行した日時が表示されます。

[エラー詳細 (D)]

エラー番号に対応するエラーメッセージを表示します。

ACOD 構成定義データ

ACOD 構成定義データについての情報が表示されます。ACONARC 制御機能を使用する場合に次に示す情報が表示されます。

対象 (S)

エラーチェックを実行するかどうかを選択します。

エラーチェックの実行

エラーチェックの実行が必要かどうかが表示されます。

- 不要：定義データのエラーチェックを実行済みであるため、実行する必要がないことを示します。
- 必要：定義データのエラーチェックを実行する必要があることを示します。一度もエラーチェックを実行していない、またはメインウィンドウで表示する更新日時がエラーチェック日時よりも新しい場合に、エラーチェックの実行が必要であると判断されます。
- 不可：エラーチェックを実行できないことを示します。各構成定義ウィンドウに重要エラーがある場合に表示されます。

エラーチェック日時

エラーチェック済みの場合、最後にエラーチェックを実行した日時が表示されます。

ERROR(E)

エラー番号が表示されます。

[エラー詳細 (A)]

エラー番号に対応するエラーメッセージを表示します。

[実行 (X)]

チェック対象として選択した定義データのエラーチェックを実行します。

[結果表示 (R)]

チェック対象として選択した定義データのエラーチェックの実行結果を表示します。

[閉じる (C)]

ダイアログを閉じます。

(b) 操作方法

構成定義データチェックを実行する定義データの指定

1. 構成定義データチェックを実行する定義データを選択して、対象のチェックボックスをオンにします。複数の定義データを選択できます。
 なお、512 チャンネル構成の場合、物理 CPU、物理プロセサ (I/O グループ) のうち物理 CPU だけ選択できます。
2. [実行 (X)] ボタンをクリックします。

構成定義データチェックの実行結果の表示

定義データにエラーがあると、構成定義データチェック結果表示ウィンドウにエラー番号とエラーの内容が表示されます。入出力構成 (PRMF 構成を含む) と ACOD 構成がそれぞれ異なるウィンドウに表示されます。

構成定義データチェックを実行済みの場合、最後に実行した結果を表示できます。エラーチェック日時が表示されている場合に [結果表示 (R)] ボタンをクリックすると、構成定義データチェック結果表示ウィンドウにエラー番号とエラーの内容が表示されます。

入出力構成定義データ・PRMF 構成定義データの構成定義データチェック結果表示ウィンドウを図 4-53 に、ACOD 構成定義データの構成定義データチェック結果表示ウィンドウを図 4-54 に示します。

図 4-53 構成定義データチェック結果表示ウィンドウ (入出力構成定義データ)

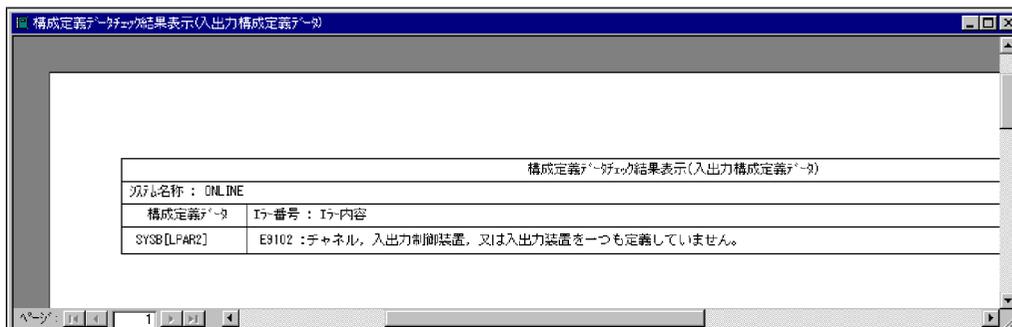
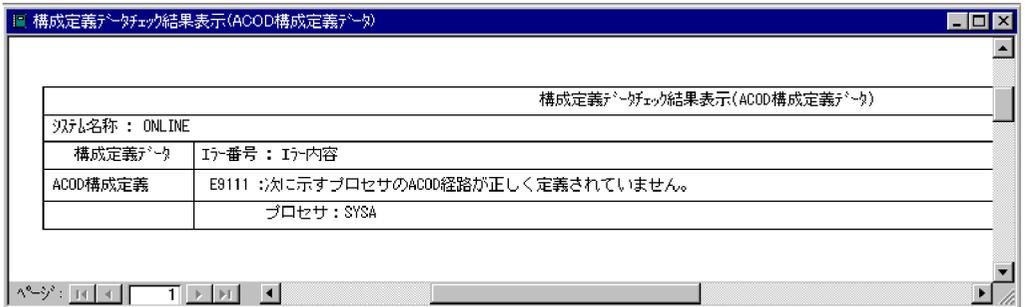


図 4-54 構成定義データチェック結果表示ウィンドウ (ACOD 構成定義データ)



システム名称

データベースを識別するシステム名称が表示されます。

構成定義データ

定義データのプロセサ名称または物理プロセサ名称が表示されます。ACOD 構成定義データの場合は「ACOD 構成定義」と表示されます。

エラー番号 : エラー内容

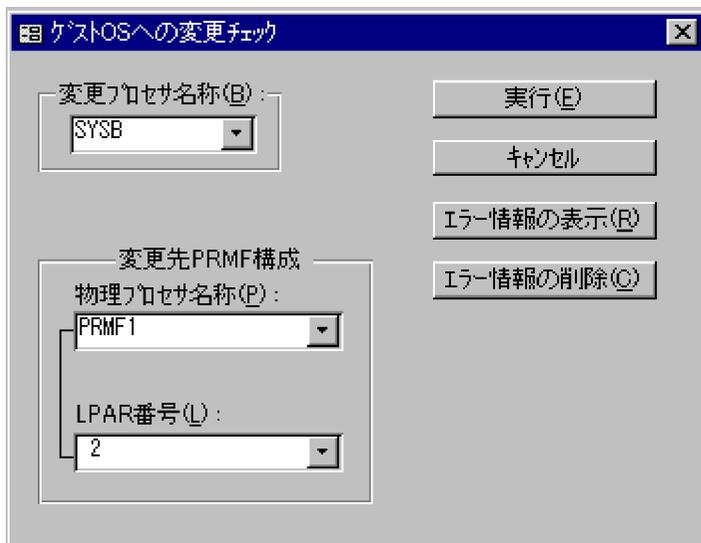
エラーチェックで発見されたエラーのエラー番号およびエラーメッセージが表示されます。

(2) PRMF 構成と LPAR 上のゲスト OS との整合性チェックの実行

ベーシックモードのプロセサの定義データを LPAR 上のゲスト OS の定義データに変更できるかどうかを確認するため、PRMF 構成との整合性チェックを実行します。

1. ゲスト OS への変更チェックダイアログを開きます。ゲスト OS への変更チェックダイアログを図 4-55 に示します。

図 4-55 ゲスト OS への変更チェックダイアログ



2. 整合性チェックを実行するプロセッサを指定します。ベーシックモードで定義しているプロセッサの中から選択できます。
3. 整合性チェックの基準にする物理プロセッサおよび LPAR を指定します。物理プロセッサ名称は、システム構成の設定ウィンドウで設定している物理プロセッサの中から選択できます。LPAR 番号は、LPAR 構成定義ウィンドウで定義済みで、ゲスト OS との対応づけをしていない LPAR のの中から選択できます。
4. [実行 (E)] ボタンをクリックします。エラーチェックを中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

エラーチェックの実行結果の表示

PRMF 構成との不整合エラーがあると、PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウに入出力構成のエラー情報が表示されます。また、ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウに ACOD 経路のエラー情報が表示されます。

エラーチェックを実行済みの場合、[エラー情報の表示 (R)] ボタンをクリックすると、以前チェックしたときのエラー情報をこれらのウィンドウに表示できます。また、以前チェックしたときのエラー情報を削除する場合には、[エラー情報の削除 (C)] ボタンをクリックします。

PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウを図 4-56 に、ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウを図 4-57 に示します。

図 4-56 PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウ



変更プロセッサ名

ゲスト OS に変更するプロセッサが表示されます。

変更先 PRMF 構成

ゲスト OS が動作する物理プロセッサおよび LPAR が表示されます。

エラーの種類, キー値, 状態, 不一致項目

PRMF 構成に一致しないゲスト OS のレコードの情報が表示されます。PRMF 構成に一致しないレコードの情報を表 4-2 に示します。

表 4-2 PRMF 構成に一致しないレコードの情報

エラーの種類 (構成定義ウィンドウ)	キー値	状態	不一致項目
PATHID (チャンネル定義)	ゲスト OS のチャンネルパス ID	未定義	-
		不一致	TYPE
CUNO (入出力制御装置定義)	ゲスト OS の制御装置番号	未定義	-
		不一致	IOC 名称 ¹ , TYPE, IFMODE, CUADR, MTLIB ² , DEVA
ADDR (入出力装置定義)	ゲスト OS のデバイス番号	未定義	-
		不一致	UNIT, MODEL, XFEATUR
PATHID - CUNO (接続定義)	ゲスト OS のチャンネルパス ID, 制御装置番号	未接続	-
		不一致	LNKA
CUNO - ADDR (接続定義)	ゲスト OS の制御装置番号, デバイス番号	未接続	-
		不一致	DEVA

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

(凡例)

未定義：ゲスト OS で定義しているが、PRMF 構成では定義していない。

不一致：ゲスト OS と PRMF 構成とで指定値が一致しない。

未接続：ゲスト OS で接続定義しているが、PRMF 構成では定義していない。

- : 該当しない。

注 キー値にはレコードに指定している値が表示されます。

注 1 PRMF 構成で SYSGEN マクロの仮定値と同じ規則で値が仮定されている場合はチェックしません。ただし、ACOD に対する入出力制御装置の IOC 名称は必ずチェックします。

注 2 変更先の PRMF 構成上にゲスト OS を既に設定している場合、そのゲスト OS の同じ入出力制御装置にライブラリ装置記号名が指定されているかどうかをチェックします。

図 4-57 ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ



The screenshot shows a window titled "ACOD経路不整合エラー情報表示" with a date and time of "日時: 2002-03-01 20:40:06". The main content is a table with the following data:

プロセッサ名称	ERROR	PATHID	ACOD名称1	IN1	接続属性	OUT1	ACOD名称2	IN2	接続属性	OUT2	IOC名称
SYSA	E7907	60	ACOD1	A0	動的	D1					CTC602
SYSA	E7907	60	ACOD1	A0	動的	E1					CTC601
SYSA	E7907	62	ACOD1	C2	占有	E3	ACOD2	B0	動的	D4	MLU21
SYSA	E7907	62	ACOD1	C2	占有	E3	ACOD2	B0	動的	D5	MLU22
SYSA	E7907	62	ACOD1	C2	占有	E3	ACOD2	B0	動的	D6	MLU23

PRMF 構成との間で整合が取れなかったゲスト OS のプロセッサ名称、ACOD 経路、およびエラー番号が表示されます。

(3) 注意事項

エラーチェックを実行するとき、エラーチェックの実行結果を表示するウィンドウを閉じてください。

4.7 構成定義データの比較

定義中の構成定義データと変更前の構成定義データを比較して、比較結果をファイルに出力する方法を説明します。

4.7.1 比較するデータの指定

比較する構成定義データの指定方法について説明します。

(1) ダイアログの形式

構成定義データの比較ダイアログを図 4-58 に示します。

図 4-58 構成定義データの比較ダイアログ

**出力先フォルダ名 (M)**

構成定義データの比較結果を出力するファイルを格納するフォルダ名を、絶対パス名で指定します。

[フォルダ参照 (B)...]

フォルダを選択できます。

オリジナル DB(R)

変更前の構成定義データを格納しているデータベース名を、絶対パス名で指定します。

[DB 参照 (D)...]

データベースを選択できます。

入出力構成定義データ (N)

入出力構成定義データおよび PRMF 構成定義データについての情報が表示されます。

対象

比較対象とする定義データを選択します。

プロセサ名称

定義データのプロセサ名称が表示されます。

オリジナルプロセサ名称

プロセサ名称を変更している場合、変更前のプロセサ名称を選択します。

ファイル名称種別

対象構成定義データの比較結果を出力するファイルの名称を選択します。選択できる項目を次に示します。

- 情報識別子
情報識別子を基にファイル名を決定するときに選択します。
ファイル名は、構成定義データに設定した情報識別子に、次に示すメンバ種別が付加された名称となります。
- 入出力構成定義データの場合：JAGC
- PRMF 構成定義データの場合：JAGH
- プロセサ名
該当するプロセサ名称をファイル名にするときに選択します。
- 任意
任意のファイル名を指定するときに選択します。

ファイル名

ファイル名称種別で「任意」を選択した場合、このフィールドに任意のファイル名を入力します。

ファイル名称種別で「情報識別子」または「プロセサ名」を選択した場合には、該当するファイル名が表示されます。

ACOD 構成定義データ

ACOD 構成定義データについての情報が表示されます。

対象 (S)

ACOD 構成定義データを比較対象とするとき選択します。

比較対象

ACOD 構成定義を比較するときの比較対象を選択します。

- 外部 / 内部 (O)
ACOD 外部および内部の両方を比較するときに選択します。
- 外部のみ (U)

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

ACOD 外部だけ比較するときに選択します。

- 内部のみ (L)

ACOD 内部だけ比較するときに選択します。

比較 ACOD

ACOD 構成定義データを比較するときの ACOD の比較範囲を選択します。

- 全 ACOD(T)

定義中の ACOD 構成定義データおよび変更前の ACOD 構成定義データに存在するすべての ACOD を比較するときに選択します。

- 任意の ACOD(P)

定義中の ACOD 構成定義データに存在する ACOD のうち、特定の ACOD を比較するときに選択します。

- [比較 ACOD 選択 (E)...]

任意の ACOD を選択している場合に、比較 ACOD 選択ダイアログが表示されます。

比較 ACOD 選択ダイアログについては、「4.7.2 比較する ACOD の指定」を参照してください。

外部 / 内部情報 (A)

- ファイル名称種別

ACOD 構成定義の比較結果を出力するファイルの名称を選択します。選択できる項目を次に示します。

- 情報識別子：情報識別子を基にファイル名を決定するときに選択します。ファイル名は、構成定義データに設定した情報識別子に次に示すメンバ種別が付加された名称となります。

- ACOD 外部構成定義データの場合：JAGA

- ACOD 内部構成定義データの場合：JAGL

- 任意：任意のファイル名を指定するときに選択します。

- ファイル名

ファイル名称種別で「任意」を選択した場合、このフィールドに任意のファイル名を入力します。

ファイル名称種別で「情報識別子」を選択した場合には、該当するファイル名が表示されます。

[実行 (X)...]

構成定義データ比較確認ダイアログを表示します。

[閉じる (C)]

構成定義データの比較ダイアログを閉じます。

(2) 操作方法

1. 構成定義データの比較ダイアログで、出力先フォルダ名、オリジナル DB をそれぞれ該当のテキストボックスに指定します。

2. 比較対象とするデータを 入出力構成定義データ (N) , ACOD 構成定義データ で指定します。
なお、512 チャンネル構成では、物理 CPU、物理プロセサ (I/O グループ) のどちらかが選択可能となります。
3. [実行 (X)...] ボタンをクリックします。

(3) 注意事項

- [オリジナル DB(R)] テキストボックスに指定したデータベースが古いバージョンで作成されている場合、比較前にあらかじめ SCMRF CD for Windows のユーティリティで「データベースの変換」を行う必要があります。
- ファイル名称に自動的に拡張子をつける場合、オプションダイアログの [構成定義データ比較] タブの [拡張子省略時にファイル名に付加する拡張子 (E)] テキストボックスに、あらかじめ拡張子を入力しておく必要があります。
- ファイル出力後に、出力したファイルを自動的に開くには、オプションダイアログの [構成定義データ比較] タブの [ファイル出力後にファイルを開く (O)] チェックボックスを、あらかじめチェック状態にする必要があります。

4.7.2 比較する ACOD の指定

任意の ACOD を比較する場合の、比較する ACOD の指定方法を説明します。

(1) ダイアログの形式

比較 ACOD 選択ダイアログを図 4-59 に示します。

図 4-59 比較 ACOD 選択ダイアログ



ACOD 選択 (A)

ACOD 構成定義データについての情報が表示されます。

対象

比較対象とする ACOD 名称を選択します。

ACOD 名称

定義中の ACOD 構成定義データの ACOD 名称が表示されます。

オリジナル ACOD 名称

ACOD 名称を変更している場合、変更前の ACOD 名称を選択します。

[OK]

指定された条件で比較対象の ACOD 構成定義を設定します。

[キャンセル]

比較対象の ACOD 構成定義を設定しません。

4.7.3 比較するデータの確認と比較の実行

比較するデータを確認して比較を実行する方法を説明します。

構成定義データ比較ダイアログの入出力構成定義データおよび ACOD 構成定義データの [対象] チェックボックスを一つ以上選択した状態で、構成定義データ比較ダイアログの [実行] ボタンをクリックして開きます。

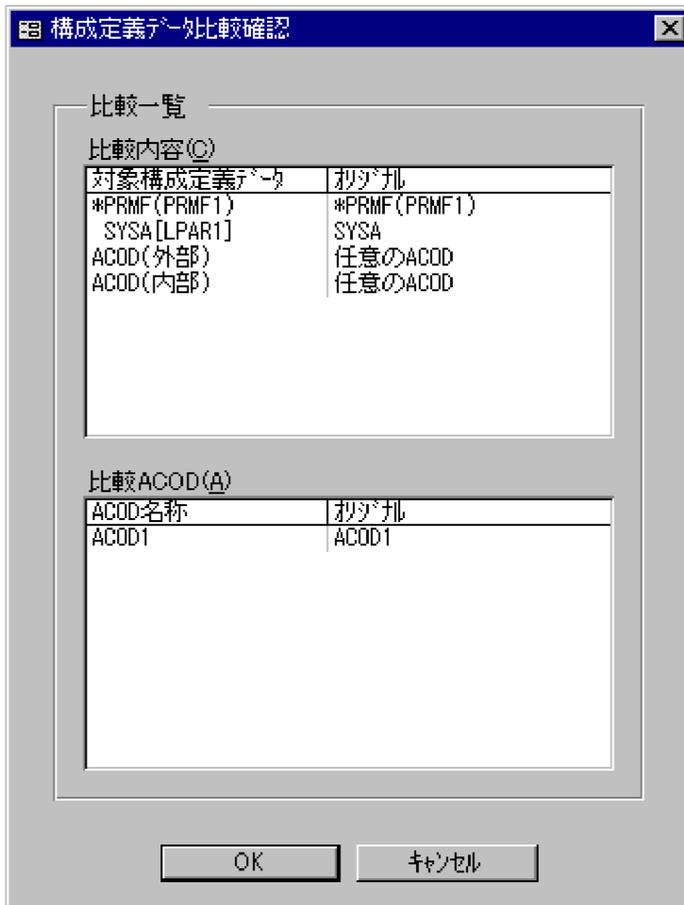
(1) ダイアログの形式

構成定義データ比較確認ダイアログを図 4-60 および図 4-61 に示します。

図 4-60 構成定義データ比較確認ダイアログ (比較 ACOD が「全 ACOD」の場合)



図 4-61 構成定義データ比較確認ダイアログ（比較 ACOD が「任意の ACOD」の場合）

**比較一覧**

比較する構成定義データの一覧が表示されます。

比較内容 (C)

構成定義データ比較ダイアログで選択した、比較対象のデータ一覧が表示されます。

対象構成定義データ

オリジナルと比較するデータの名称が表示されます。このデータは現在定義中のデータです。

オリジナル

対象構成定義データと比較するデータの名称が表示されます。このデータは変更前の構成定義データです。

比較 ACOD (A)

比較 ACOD 選択ダイアログで選択した、比較対象のデータ一覧が表示されます。

ACOD 名称

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

オリジナルと比較する、ACOD 構成定義データの名称が表示されます。このデータは現在定義中のデータです。

オリジナル

ACOD 名称と比較する変更前の ACOD 構成定義データの名称が表示されます。このデータは変更前の構成定義データです。

[OK]

構成定義データの比較処理が実行されます。

[キャンセル]

構成定義データの比較処理を実行しないで、構成定義データ比較確認ダイアログを閉じます。

(2) 操作方法

次に示す手順で操作します。

1. 比較しようとしているデータが、比較一覧に正しく表示されていることを確認します。
2. 正しく表示されている場合には、[OK] ボタンをクリックします。比較処理を中止する場合には、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(3) 注意事項

- [OK] ボタンをクリック後、構成定義データの比較処理中にキャンセルした場合、比較結果の出力ファイルの内容は保証されません。

4.8 ポートアドレスの使用状況の表示

ポートアドレス使用状況ダイアログで、ポートアドレスの使用状況を表示する ACOD とポートを指定します。ポートアドレス使用状況ダイアログを図 4-62 に示します。

図 4-62 ポートアドレス使用状況ダイアログ



1. 使用状況を表示する ACOD とポートアドレスを選択します。
2. [OK] ボタンをクリックして、ポートアドレス使用状況ウィンドウを開きます。表示を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

ポートアドレス使用状況ウィンドウを図 4-63 に示します。

図 4-63 ポートアドレス使用状況ウィンドウ

ポートアドレス使用状況												
システム名称: ONLINE ACOD名称: ACOD1 ポートアドレス: C0												
ポート名称	PATHID	CH TYPE	ACOD名称(LNKA)	LNKA	ACOD名称	IN	OUT	ACOD名称2	IN2	OUT2	CUNO	IOC名称
*PRMF(PRMF1)	60	CTC	ACOD1	E1	ACOD1	C0	E1				0601	CTC601
*SYSAL(PAR1)	60	CTC	ACOD1	E1	ACOD1	C0	E1				0601	CTC601
*PRMF(PRMF1)	60	CTC	ACOD1	D1	ACOD1	C0	D1				0602	CTC602
*SYSAL(PAR1)	60	CTC	ACOD1	D1	ACOD1	C0	D1				0602	CTC602

システム名称

システム名称が表示されます。

ACOD 名称

使用状況を表示している ACOD の ACOD 名称が表示されます。

ポートアドレス

使用状況を表示しているポートのポートアドレスが表示されます。

プロセサ名称, PATHID, CH TYPE, ACOD 名称 (LNKA), LNKA, ACOD 名称, IN, OUT, ACOD 名称 2, IN2, OUT2, CUNO, IOC 名称

指定したポートを使用している ACOD 経路およびリンクアドレスが表示されます。

注意事項

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

表示した情報の印刷方法については、「4.15.1 印刷」を参照してください。

4.9 オプションの設定

(1) 入出力制御装置定義オプションの設定

1. [入出力制御装置定義] タブを選択します。オプションダイアログを図 4-64 に示します。

図 4-64 オプションダイアログ (入出力制御装置定義オプション)



2. 入出力制御装置定義ウィンドウおよび入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウで IOC 名称フィールドを表示する位置を選択します。[IOC 名称の表示位置 (N)] コンボボックスに表示される位置から選択できます。
 - 既定の位置 : CUNO フィールドの右側に表示されます。
 - [CUNO] の左 : CUNO フィールドの左側に表示されます。
 - [コメント] の左 : コメントフィールドの左側に表示されます。
3. [OK] ボタンまたは [更新] ボタンをクリックします。設定を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(2) 入出力装置定義オプションの設定

1. [入出力装置定義] タブを選択します。オプションダイアログを図 4-65 に示します。

図 4-65 オプションダイアログ (入出力装置定義オプション)



2. 入出力装置定義ウィンドウおよび入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウで管理名称フィールドを表示する位置を選択します。[管理名称の表示位置 (N)] コンボボックスに表示される位置から選択できます。
 - 既定の位置 : NUM フィールドの右側に表示されます。
 - [ADDR] の左 : ADDR フィールドの左側に表示されます。
 - [コメント] の左 : コメントフィールドの左側に表示されます。
3. PRMF 構成で定義している入出力装置の装置数を増やしたとき、ゲスト OS で定義している入出力装置の装置数に反映するかどうかを指定します。反映する場合は、[PRMF 構成で装置数を増加した場合のゲスト OS への自動反映 (I)] チェックボックスをオンにします。
4. [OK] ボタンまたは [更新] ボタンをクリックします。設定を中止するには、[キヤ

ンセル] ボタンをクリックします。

(3) 搬入オプションの設定

1. [搬入] タブを選択します。オプションダイアログを図 4-66 に示します。

図 4-66 オプションダイアログ (搬入オプション)



2. ACOD モデルの仮定値を次の中から選択します。
 - なし：仮定値を設定しません。
 - 2：ACOD モデルに「2」を仮定します。
 - 3：ACOD モデルに「3」を仮定します。
 - 5：ACOD モデルに「5」を仮定します。
3. [OK] ボタンまたは [更新] ボタンをクリックします。設定を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(4) ゼネレーションパラメタ生成オプションの設定

1. [ゼネレーションパラメタ生成] タブを選択します。オプションダイアログを図 4-67

に示します。

図 4-67 オプションダイアログ (ゼネレーションパラメタ生成オプション)



2. ゼネレーションパラメタの生成で出力するファイル名の拡張子を省略したとき、拡張子を仮定するかどうかを指定します。拡張子を仮定する場合、[拡張子省略時にファイル名に付加する拡張子 (E)] テキストボックスに仮定する拡張子を指定します。
3. ゼネレーションパラメタの生成でファイルを出力したとき、出力したファイルを自動的に開くかどうかを指定します。自動的に開く場合、[ファイル出力後にファイルを開く (O)] チェックボックスをオンにします。ただし、出力したファイルに拡張子がついていない、または出力したファイルの拡張子にアプリケーションが関連づけられていない場合は、自動的にファイルを開くことはできません。
4. [OK] ボタンまたは [更新 (A)] ボタンをクリックします。設定を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(5) ファイル転送オプションの設定

ファイル転送機能を使用する場合に必要な各種情報を設定します。

1. [ファイル転送] タブを選択します。オプションダイアログを図 4-68 に示します。

図 4-68 オプションダイアログ (ファイル転送オプション)



2. ファイル転送ダイアログでファイル転送を実行するとき、ホスト接続情報を仮定するかどうかを指定します。ホスト接続情報を仮定する場合、仮定する情報ごとに次のとおり指定します。

- IP アドレスを仮定する場合、[IP アドレス (I)] テキストボックスに仮定する IP アドレスまたはホスト名を指定します。
- ポート番号を仮定する場合、[ポート番号 (R)] テキストボックスに仮定するポート番号を指定します。なお、[標準 (D)] ボタンをクリックすると F T P 標準のポート番号が設定されます。
- ユーザ ID を仮定する場合、[ユーザ ID (U)] テキストボックスに仮定するユーザ ID を指定します。
- パスワードを仮定する場合、[パスワード (P)] テキストボックスに仮定するパスワードを指定します。
- ユーザ ID およびパスワードとして SCMRF CD for Windows 起動時のログオンダ

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

イアログで指定したユーザ名とパスワードを仮定する場合、[ログオン時のユーザ ID/ パスワードを使用 (L)] チェックボックスをオンにします。

- ユーザ ID およびパスワードのほかに必要な情報を仮定する場合、[その他 (O)] テキストボックスに仮定する情報を指定します。
3. ファイル転送の実行について、ほかの操作と同期させてファイル転送ダイアログを開いてファイル転送を実行するかどうかを指定します。ほかの操作と同期させて実行する場合、同期させる操作ごとに次のとおり指定します。
- 搬入と同期してファイル転送を実行する場合、[搬入 (M)] チェックボックスをオンにします。
 - 搬出と同期してファイル転送を実行する場合、[搬出 (T)] チェックボックスをオンにします。
 - ゼネレーションパラメタの生成と同期してファイル転送を実行する場合、[ゼネレーションパラメタ生成 (G)] チェックボックスをオンにします。

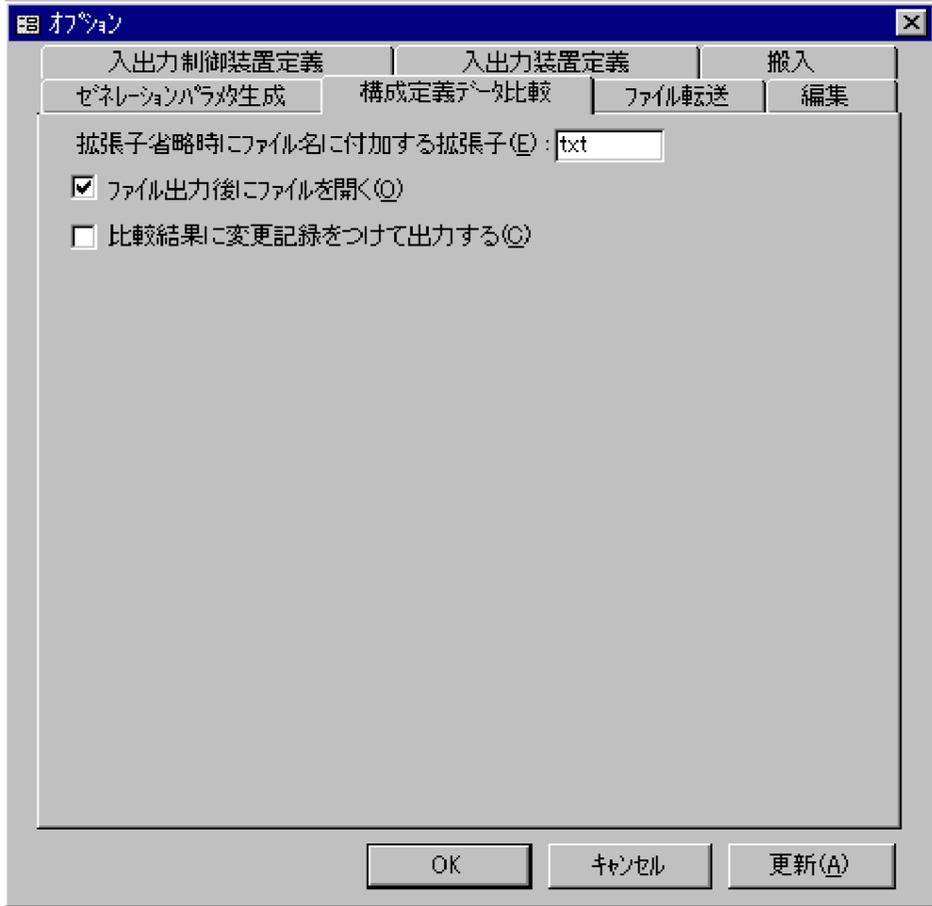
また、それぞれの操作ごとに同期してファイル転送を実行するとき、ホスト側のデータセット名を仮定する場合、[データセット名を仮定する] チェックボックスをオンにして、[データセット名] テキストボックスに仮定するデータセット名を指定します。

4. [OK] ボタンまたは [更新 (A)] ボタンをクリックします。設定を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(6) 構成定義データ比較オプションの設定

1. [構成定義データ比較] タブを選択します。オプションダイアログを図 4-69 に示します。

図 4-69 オプションダイアログ (構成定義データ比較オプション)

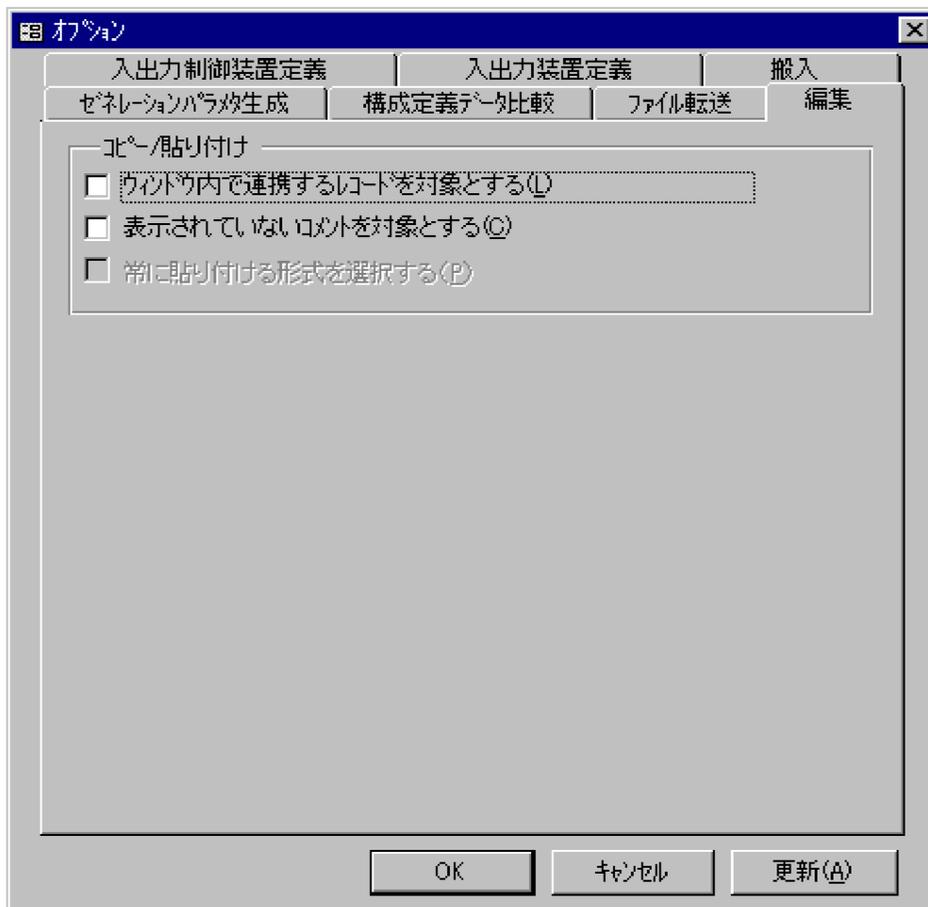


2. 構成定義データの比較で出力するファイル名の拡張子を省略したとき、拡張子を仮定するかどうかを指定します。拡張子を仮定する場合、[拡張子省略時にファイル名に付加する拡張子 (E)] テキストボックスに仮定する拡張子を指定します。
3. 構成定義データの比較でファイルを出力したとき、出力したファイルを自動的に開くかどうかを指定します。自動的に開く場合、[ファイル出力後にファイルを開く (O)] チェックボックスをオンにします。ただし、出力したファイルに拡張子が付いていない、または出力したファイルの拡張子にアプリケーションが関連づけられていない場合は、自動的にファイルを開くことはできません。
4. 構成定義データの比較結果に、定義データの更新時に採択した変更記録をつけて出力するかどうかを指定します。変更記録をつけて出力する場合、[比較結果に変更記録をつけて出力する (C)] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] ボタンまたは [更新 (A)] ボタンをクリックします。設定を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(7) 編集オプションの設定

1. [編集] タブを選択します。オプションダイアログを図 4-70 に示します。

図 4-70 オプションダイアログ (編集オプション)



2. 編集メニューの [コピー] および [貼り付け] のオプションとして、次の設定ができます。
 - ウィンドウ内で連携するレコードを対象とする場合、[ウィンドウ内で連携するレコードを対象とする (L)] チェックボックスをオンにします。
 - 複数コメントの定義ができる定義ウィンドウで、表示されていないコメントを対象とする場合、[表示されていないコメントを対象とする (C)] チェックボックスをオンにします。
 - コピーデータを貼り付けるときに、編集メニューの [貼り付け] を実行した場合でも、[形式を選択して貼り付け] ダイアログで貼り付ける形式を選択したい場合、[常に貼り付ける形式を選択する (P)] チェックボックスをオンにします。なお、このチェックボックスは [ウィンドウ内で連携するレコードを対象とする (L)]、[表示されていないコメントを対象とする (C)] チェックボックスのどちらかが

チェックされている場合だけチェックボックスのオンオフが可能となります。

3. オプションの設定とその処理内容

各オプションのチェックボックスをオンまたはオフにした場合の、コピーおよび貼り付けの処理を表 4-3、表 4-4 に示します。

なお、[ウィンドウ内で連携するレコードを対象とする (L)] および [表示されていないコメントを対象とする (C)] オプションが有効となるのは、連携レコードまたは複数行コメントの定義が可能な定義シート上でコピーまたは貼り付け操作を行った場合だけとなります。

表 4-3 「ウィンドウ内で連携するレコードを対象とする」オプションの設定と処理

チェックボックスの設定	コピー処理		貼り付け処理	
	連携レコードなし	連携レコードあり	連携レコードなし	連携レコードあり
オン				
オフ				

(凡例)

: 選択したレコードおよび連携したレコード

: 選択したレコードだけ

表 4-4 「表示されていないコメントを対象とする」オプションの設定と処理

チェックボックスの設定	コピー処理		貼り付け処理	
	複数行コメント定義不可	複数行コメント定義可	複数行コメント定義不可	複数行コメント定義可
オン				
オフ				

(凡例)

: 選択したレコードおよび非表示コメント

: 選択したレコードだけ

4.10 変更記録の表示

構成定義データの変更記録の採取、クリア、および表示方法について説明します。

4.10.1 変更記録の採取とクリア

変更記録の採取、クリア方法について説明します。

(1) 変更記録の採取

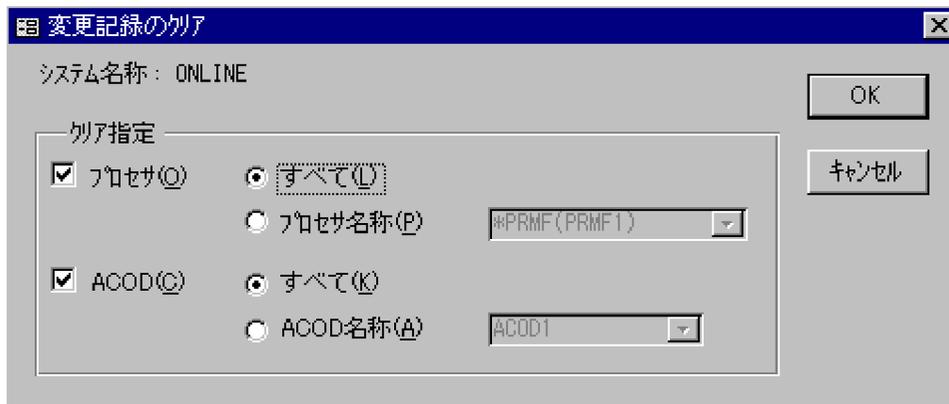
変更記録を採取するには、[ツール (T)] - [変更記録の採取 (G)] を選択します。採取する状態になるとメニューコマンドの先頭にチェックマークが付きます。

変更記録の採取をやめるには、もう一度 [ツール (T)] - [変更記録の採取 (G)] を選択して、チェックマークを消します。

(2) 変更記録のクリア

変更記録のクリアダイアログで、変更記録をクリアする定義データを選択します。変更記録のクリアダイアログを図 4-71 に示します。

図 4-71 変更記録のクリアダイアログ



入出力構成定義データ、ACOD 構成定義データ、PRMF 構成定義データのそれぞれを選択して、変更記録をクリアします。ACOD 構成定義データは、入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データのどちらかと同時に選択できます。

(a) 入出力構成定義データ・PRMF 構成定義データの変更記録のクリア

すべての定義データか、または一つの定義データを選択してクリアできます。

1. [プロセサ (O)] チェックボックスをオンにします。
2. 次に示すどちらかを選択して、クリアする範囲を指定します。
 - すべて (L) : すべての定義データの変更記録をクリアする

- プロセサ名称 (P) : 選択したプロセサ名称または物理プロセサ名称の定義データの変更記録をクリアする

3. [OK] ボタンをクリックします。変更記録のクリアを中止する場合 , [キャンセル] ボタンをクリックします。

(b) ACOD 構成定義データの変更記録のクリア

すべての ACOD か , または一つの ACOD を選択してクリアできます。

1. [ACOD(C)] チェックボックスをオンにします。
2. 次に示すどちらかを選択して , クリアする範囲を指定します。
 - すべて (K) : すべての ACOD の変更記録をクリアする
 - ACOD 名称 (A) : 選択した ACOD の変更記録をクリアする
3. [OK] ボタンをクリックします。変更記録のクリアを中止する場合 , [キャンセル] ボタンをクリックします。

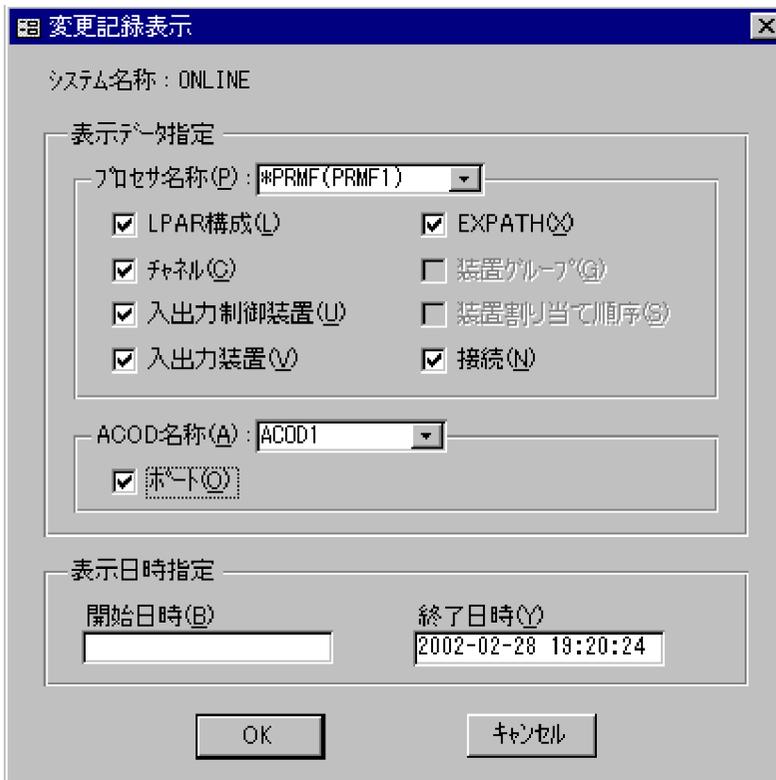
(c) 注意事項

- 変更記録の採取をやめても , 既に採取された変更記録は , クリアされるまで保存されます。
- プロセサ名称または物理プロセサ名称を選択してクリアする場合に名称を選択しないと , メインウィンドウで選択されているプロセサのプロセサ名称または物理プロセサの物理プロセサ名称が仮定されます。
- ACOD 名称を選択してクリアする場合に名称を選択しないと , リストの一番上にある名称が仮定されます。

4.10.2 変更記録の表示操作

変更記録表示ダイアログで , 変更記録の表示条件を指定します。変更記録表示ダイアログを図 4-72 に示します。

図 4-72 変更記録表示ダイアログ



表示する変更記録の種類を次に示す中から選択します。複数の種類を選択できます。

入出力構成定義データの変更記録

- チャンネル
- 入出力制御装置
- 入出力装置
- 装置タイプ・装置タイプ
- 装置割り当て順序
- 接続

ACOD 構成定義データの変更記録

- ポート

PRMF 構成定義データの変更記録

- LPAR 構成
- チャンネル
- EXPATH
- 入出力制御装置
- 入出力装置
- 接続

(1) 入出力構成定義データ・PRMF 構成定義データの変更記録の表示

1. プロセサ名称または物理プロセサ名称を選択します。
2. 表示する構成定義ウィンドウのチェックボックスをオンにします。
3. 変更記録の表示日時を指定します。
4. [OK] ボタンをクリックします。変更記録の表示を中止するには,[キャンセル] ボタンをクリックします。

(2) ACOD 構成定義データの変更記録の表示

1. [ポート(O)] チェックボックスをオンにします。
2. ACOD 名称を選択します。
3. 変更記録の表示日時を指定します。
4. [OK] ボタンをクリックします。変更記録の表示を中止するには,[キャンセル] ボタンをクリックします。

(3) 表示日時の指定方法

表示日時は次に示す形式で半角数字で指定します。

yyyy-mm-dd hh:mm:ss

(凡例)

YYYY

西暦を 0000 ~ 9999 の範囲で指定します。0000 ~ 0029 を指定すると、西暦 2000 年 ~ 2029 年になり、0030 ~ 0099 を指定すると、西暦 1930 ~ 1999 年になります。

mm

月を指定します。

dd

日を指定します。

hh:mm:ss

時を 24 時間制で指定します。また、分、秒を指定します。

表示日時で、西暦から順に数字だけを指定すると、- (ハイフン) および :(コロン) が自動的に設定されます。

表示日時の範囲は、表 4-5 に示す方法で指定できます。

表 4-5 表示日時の範囲の指定方法

指定方法	表示内容
開始日と終了日の両方を指定する。	開始日と終了日で示される範囲を表示する。
開始日だけ指定する。	開始日以降のすべての範囲を表示する。

指定方法	表示内容
終了日だけ指定する。	終了日以前のすべての範囲を表示する。
開始日と終了日のどちらも指定しない。	変更記録をすべて表示する。

(4) 注意事項

- プロセサ名称または物理プロセサ名称を選択しない場合、メインウィンドウの入出力構成定義でカレントレコードにあるプロセサ名称または物理プロセサ名称が仮定されます。
- ACOD 名称を選択しない場合、リストの一番上にある名称が仮定されます。
- 表示した変更記録の印刷、Excel への貼り付け、CSV 形式または DAT 形式のファイルへの出力方法については、「4.15 表示情報の出力方法」を参照してください。

4.10.3 変更記録の表示形式

変更記録の共通の表示形式を次に示します。

ヘッダの表示形式

- 変更記録：表示している変更記録の種類
- ページ：表示しているページ / 全ページ数
- システム名称
- コメント：システムに対するコメント
- プロセサ名称：プロセサ名称または物理プロセサ名称（入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データの変更記録の場合に表示される）
- ACOD 名称（ACOD 構成定義データの変更記録の場合に表示される）
- 出力範囲：指定した表示日時の範囲
- 件数：変更記録の件数

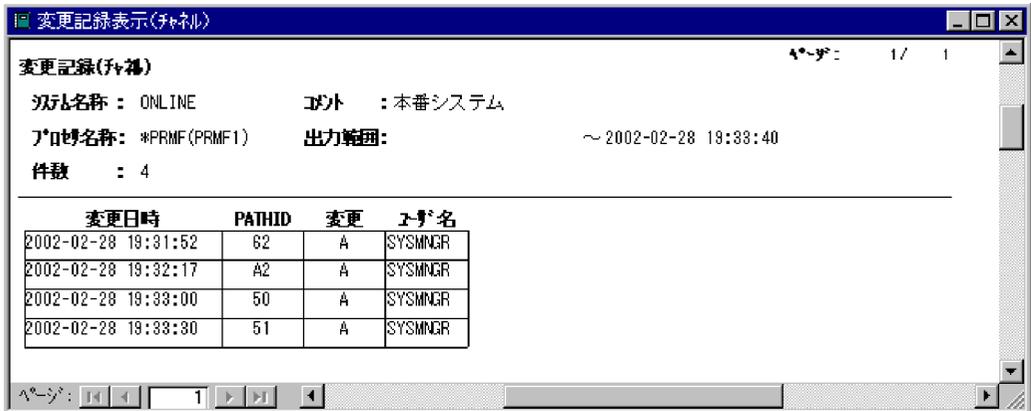
表の表示形式

- 変更日時：変更した日時
- 変更：変更種別（追加：A，変更：C，削除：D）
- ユーザ名：変更したユーザのユーザ名

(1) チャンネルの変更記録

変更記録表示（チャンネル）ウィンドウを図 4-73 に示します。

図 4-73 変更記録表示 (チャンネル) ウィンドウ



PATHID

変更したチャンネルのチャンネルバス ID が表示されます。

(2) 入出力制御装置の変更記録

変更記録表示 (入出力制御装置) ウィンドウを図 4-74 に示します。

図 4-74 変更記録表示 (入出力制御装置) ウィンドウ



CUNO

変更した入出力制御装置の制御装置番号が表示されます。

IOC 名称

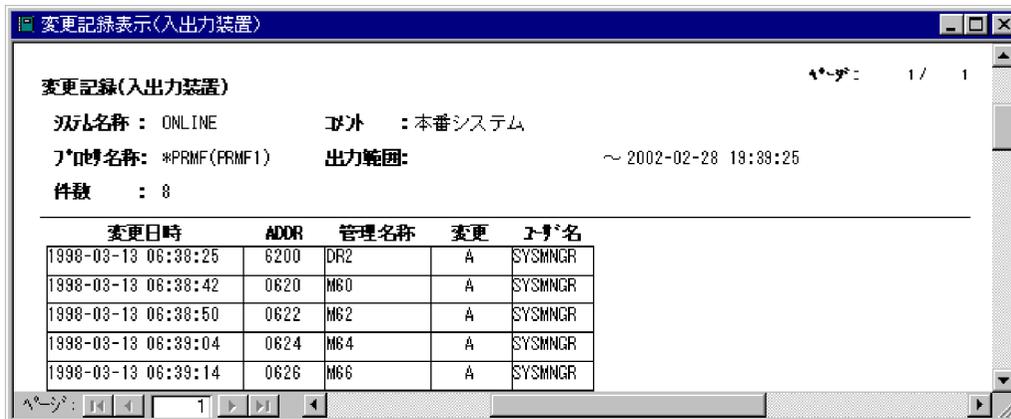
変更した入出力制御装置の IOC 名称が表示されます。

(3) 入出力装置の変更記録

変更記録表示 (入出力装置) ウィンドウを図 4-75 に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

図 4-75 変更記録表示 (入出力装置) ウィンドウ



ADDR

変更した入出力装置のデバイス番号が表示されます。

管理名称

変更した入出力装置の管理名称が表示されます。

(4) 装置グループ・装置タイプの変更記録

変更記録表示 (装置グループ) ウィンドウを図 4-76 に示します。

図 4-76 変更記録表示 (装置グループ) ウィンドウ



装置グループ名

変更した装置グループの装置グループ名が表示されます。

装置タイプ名

変更した装置タイプが表示されます。

(5) 装置割り当て順序の変更記録

変更記録表示（装置割り当て順序）ウィンドウを図 4-77 に示します。

図 4-77 変更記録表示（装置割り当て順序）ウィンドウ



装置タイプ名

変更した装置タイプが表示されます。

(6) 接続の変更記録

変更記録表示（接続）ウィンドウを図 4-78 に示します。

図 4-78 変更記録表示（接続）ウィンドウ



PATHID

接続を変更したチャンネルのチャンネルパス ID が表示されます。

CUNO

接続を変更した入出力制御装置の制御装置番号が表示されます。

ADDR

接続を変更した入出力装置のデバイス番号が表示されます。

(7) ポートの変更記録

変更記録表示 (ポート) ウィンドウを図 4-79 に示します。

図 4-79 変更記録表示 (ポート) ウィンドウ



ポート

接続を変更したポートのポートアドレスが表示されます。

(8) LPAR 構成の変更記録

変更記録表示 (LPAR 構成) ウィンドウを図 4-80 に示します。

図 4-80 変更記録表示 (LPAR 構成) ウィンドウ



LPAR 番号

変更した LPAR の LPAR 番号が表示されます。

LPAR 名称

変更した LPAR の LPAR 名称が表示されます。

(9) EXPATH 定義の変更記録

変更記録表示 (EXPATH) ウィンドウを図 4-81 に示します。

図 4-81 変更記録表示 (EXPATH) ウィンドウ



LABEL

EXPATH を変更した組み合わせにつけているラベルが表示されます。

4.11 ベースシステムの確認

ベースシステム情報の表示と切り替え方法を説明します。

4.11.1 ベースシステム情報の表示

ベースシステム情報を表示するには、[ツール (T)] - [ベースシステムの確認 (B)] を選択して、ベースシステム情報表示ダイアログを開きます。

ベースシステム情報表示ダイアログを図 4-82 に示します。

図 4-82 ベースシステム情報表示ダイアログ



システム名称

データベースのシステム名称が表示されます。

入出力構成定義

入出力構成定義データおよび PRMF 構成定義データに関する情報が表示されます。

プロセサ名称

定義データを識別する名称が表示されます。

作成日時

定義データの作成日時が表示されます。

ベースプロセサ名称

ベースシステムとして登録されている名称が次に示す形式で表示されます。

- 入出力構成定義データの場合
システム名称 / プロセサ名称
- PRMF 構成定義データの場合
システム名称 / 物理プロセサ名称

CPU モデル , ACONARC

ベースシステムとして登録されているプロセサまたは物理プロセサの情報が表示されます。

情報識別子 , 構成 ID , SCDS 番号 , IOD 番号 , 更新日時 , コメント

ベースシステムとして登録されている定義データの情報が表示されます。

ACOD 構成定義

ACONARC 制御機能を使用する場合に表示されます。ACOD 構成定義データに関する情報が表示されます。

作成日時

データベースの ACOD 構成定義データの作成日時が表示されます。

ベースシステム名称

ベースシステムとして登録されているシステム名称が表示されます。

情報識別子 , 構成 ID , 構成定義情報番号 , 更新日時

ベースシステムとして登録されている ACOD 構成定義データの情報が表示されます。

4.11.2 ベースシステムの切り替え

ベースシステムを切り替えるには , [ツール (T)] - [ベースシステムの切り替え (X)] を選択します。

4.12 機器構成の表示

システム構成，入出力機器別の構成，ACOD のポート構成，および LPAR 構成を表示します。定義した機器構成を表示する方法を説明します。

4.12.1 機器構成の表示操作

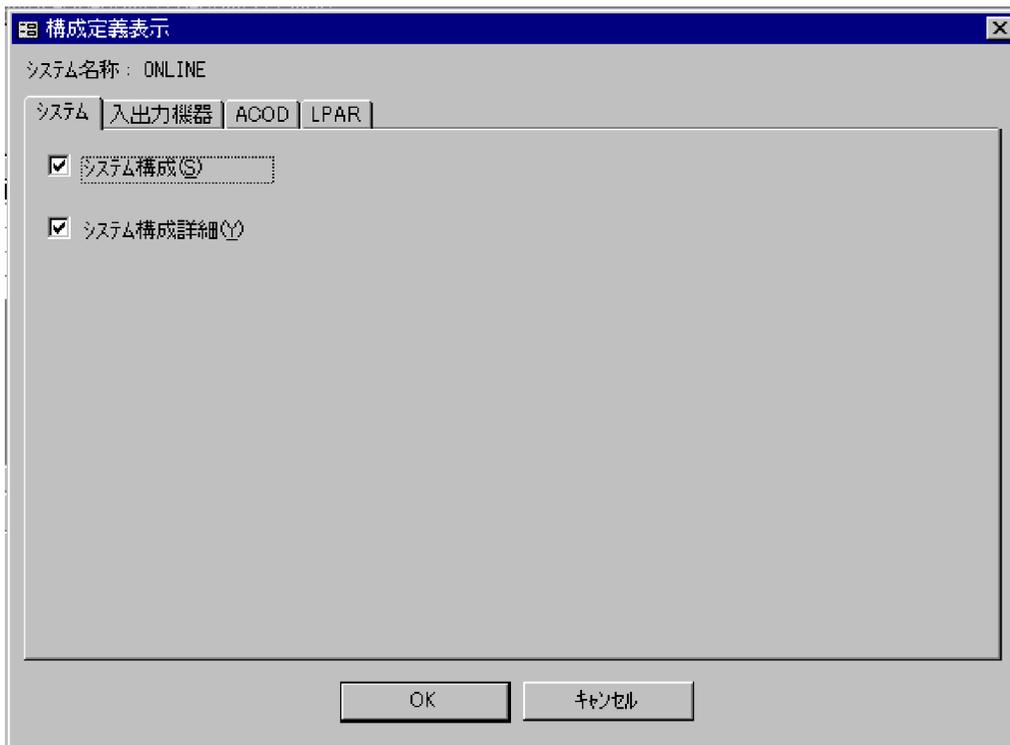
構成定義表示ダイアログで，機器構成の表示条件を指定します。表示できる機器構成の種類を次に示します。同時に複数の種類を表示できます。

- システム構成
- 入出力機器別の構成
- ACOD 構成
- LPAR 構成

(1) システム構成の表示

システム構成を表示する場合の構成定義表示ダイアログを図 4-83 に示します。

図 4-83 構成定義表示ダイアログ (システム構成を表示する場合)



1. [システム] タブを選択します。
2. 表示する項目のチェックボックスをオンにします。

- [システム構成 (S)]: システム構成の定義内容を表示します。
 - [システム構成詳細 (Y)]: システム構成の詳細を表示します。構成定義表示 (システム構成) ウィンドウで表示している項目に加えて、システム構成オプションの設定内容などの情報についても表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックします。表示を中止するには [キャンセル] ボタンをクリックします。

(2) 入出力機器別の構成の表示

入出力機器別の構成を表示する場合の構成定義表示ダイアログを図 4-84 に示します。

図 4-84 構成定義表示ダイアログ (入出力機器別の構成を表示する場合)

1. [入出力機器] タブを選択します。
2. 表示する VOS3 のプロセサまたは PRMF を使用する物理プロセサを選択します。選択しない場合、メインウィンドウで選択されているプロセサまたは物理プロセサが仮定されます。
3. 表示する装置のチェックボックスをオンにして、表示範囲を指定します。
 - チャンネル (C): チャンネルの定義内容と、チャンネルを基準にした接続を表示します。チャンネルパス ID とコメント番号を指定して、表示範囲を限定できます。
 - 入出力制御装置 (U): 入出力制御装置の定義内容と、入出力制御装置を基準にした接続を表示します。制御装置番号または IOC 名称とコメント番号を指定して、表示

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

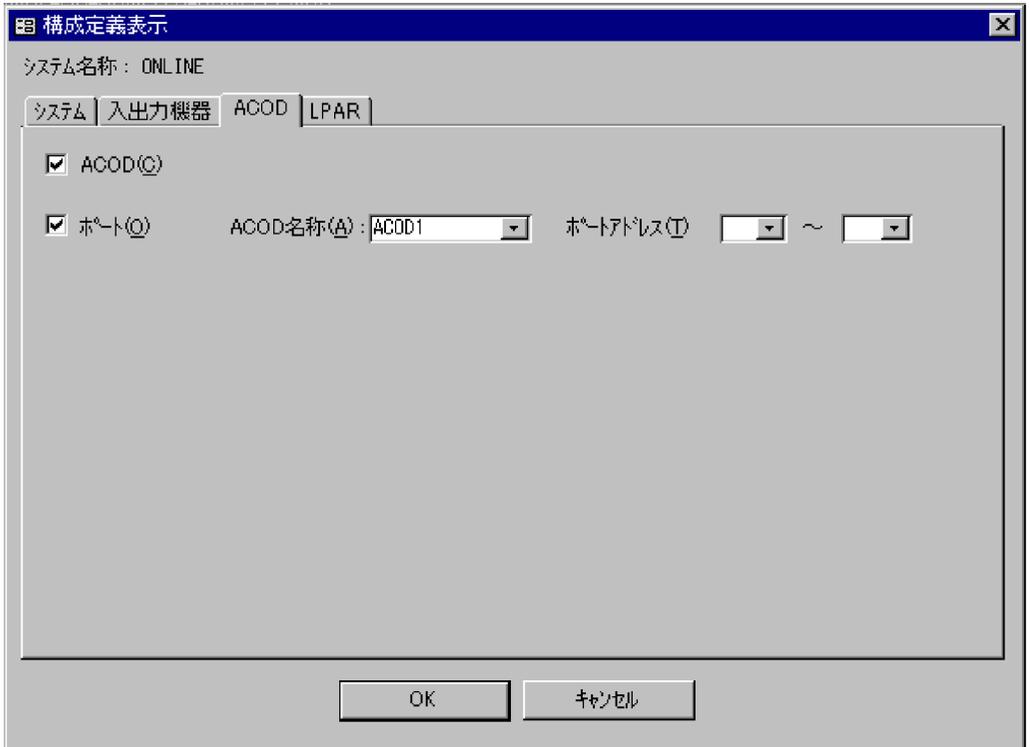
範囲を限定できます。

- 入出力装置 (D) : 入出力装置の定義内容と、入出力装置を基準にした接続を表示します。デバイス番号または装置記号名とコメント番号を指定して、表示範囲を限定できます。
 - 装置グループ (G) : 装置グループの定義内容を表示します。装置グループ名を指定して、表示範囲を限定できます。物理プロセッサを指定した場合または指定したプロセッサに装置グループが定義されていない場合、チェックボックスが非活性になります。
 - 装置タイプ (T) : 装置タイプの定義内容を表示します。装置タイプ名を指定して、表示範囲を限定できます。物理プロセッサを指定した場合または指定したプロセッサに装置タイプを生成する入出力装置が定義されていない場合、チェックボックスが非活性になります。
4. PRMF を使用する物理プロセッサで、LPAR への割り当てを指定しているチャンネルまたは入出力装置を限定して表示する場合、割り当てを指定している LPAR を選択します。選択しない場合、すべてのチャンネルまたは入出力装置が表示されます。
 5. [OK] ボタンをクリックします。表示を中止するには [キャンセル] ボタンをクリックします。

(3) ACOD 構成の表示

ACOD を表示する場合の構成定義表示ダイアログを図 4-85 に示します。

図 4-85 構成定義表示ダイアログ (ACOD を表示する場合)



1. [ACOD] タブを選択します。
2. 表示する項目のチェックボックスをオンにします。
 - [ACOD(C)]: ACOD の定義内容を表示します。
 - [ポート (O)]: ACOD のポート構成を表示します。表示する ACOD の名称を選択します。選択しない場合、すべての ACOD のポートアドレスが表示されます。ポートアドレスを指定して、表示範囲を限定できます。
3. [OK] ボタンをクリックします。表示を中止するには [キャンセル] ボタンをクリックします。

(4) LPAR 構成の表示

LPAR 構成を表示する場合の構成定義表示ダイアログを図 4-86 に示します。

図 4-86 構成定義表示ダイアログ (LPAR 構成を表示する場合)



1. [LPAR] タブを選択します。
2. 表示する PRMF 構成定義データの物理プロセッサ名称を選択します。選択しない場合、リストの一番上にある名称が仮定されます。
3. [LPAR 構成 (S)] チェックボックスをオンにします。
4. [OK] ボタンをクリックします。表示を中止するには [キャンセル] ボタンをクリックします。

(5) 表示範囲の指定方法

チャンネルパス ID, 制御装置番号, デバイス番号, ポートアドレスによる表示範囲は, 表 4-6 に示す方法で指定できます。

表 4-6 機器構成の表示範囲の指定方法

指定方法	表示内容
開始値と終了値の両方を指定する。	開始値と終了値で示される範囲を表示する。
開始値だけ指定する。	開始値以上のすべての範囲を表示する。
終了値だけ指定する。	終了値以下のすべての範囲を表示する。
開始値と終了値のどちらも指定しない。	すべて表示する。

(6) 注意事項

- IOC 名称または装置記号名にはワイルドカードとして「*」、「?」、または「#」を指定できます。ワイルドカードの指定方法については、「3.3.3 定義シートの操作」を参照してください。
- 表示した構成の印刷、Excel への貼り付け、CSV 形式または DAT 形式のファイルへの出力方法については、「4.15 表示情報の出力方法」を参照してください。

4.12.2 機器構成の表示形式

機器構成の表示形式を説明します。

(1) システム構成

データの管理情報と、データの作成・更新日時が構成定義表示（システム構成）ウィンドウに表示されます。

構成定義表示（システム構成）ウィンドウを図 4-87 に示します。

図 4-87 構成定義表示（システム構成）ウィンドウ

システム構成									
システム名称: ONLINE		ACOD構成-構成ID: SYSCNF02		更新日時: 1998-03-13 07:00:30					
ACOD外部情報識別子/構成定義情報番号: 0002/02				作成日時: 1998-10-23 15:11:08		ACOD内部情報識別子/構成定義情報番号: 0002/02			
プロセッサ名称	CPUモデル	ACONARC	情報識別子	構成ID	SCDS番号	IOD番号	作成日時	更新日時	
*PRMF (PRMF1)	MP5800	装置	0102	SYSCNF02	02		1998-01-29 18:07:24	1998-03-13 07:10:33	ONLINE
SYSALPAR1	MP5800	装置	0A02	SYSCNF02		02	1998-01-29 18:07:32	1998-03-13 06:53:50	ONLINE1
SYSB[LPAR2]	MP5800	装置	0E02	SYSCNF02		02	1998-03-13 05:53:36		ONLINE2
SYSC	MP5800	装置	0C02	SYSCNF02	02	02	1998-03-13 05:53:36		BATCH1

構成定義表示（システム構成）ウィンドウの表示内容を表 4-7 に示します。

表 4-7 構成定義表示（システム構成）ウィンドウの表示内容

見出し	表示内容
システム名称, ACOD 構成 - 構成 ID , 更新日時 , ACOD 外部情報識別子 / 構成定義情報番号 , ACOD 内部情報識別子 / 構成定義情報番号	メインウィンドウの内容
プロセッサ名称, CPU モデル, ACONARC, 情報識別子, 構成 ID, SCDS 番号, IOD 番号, 更新日時, コメント	
作成日時 (ACOD 外部情報識別子 / 構成定義情報番号の次) , 作成日時 (ACOD 内部情報識別子 / 構成定義情報番号の次) , 作成日時 (IOD 番号の次)	ベースシステム情報表示ダイアログの内容

注 ACONARC 制御機能を使用する場合に表示されます。

(2) システム構成詳細

構成定義表示（システム構成）ウィンドウで表示される情報に加えて、システム構成オプションの設定内容などの詳細情報が構成定義表示（システム構成詳細）ウィンドウで表示されます。構成定義表示（システム構成詳細）ウィンドウを図 4-88、図 4-89 に示します。

図 4-88 構成定義表示（システム構成詳細）ウィンドウ

システム構成詳細		
システム名称: ONLINE	サイト: 本番システム	
プロセッサ名称/ACOD	管理情報	
#PRMF (PRMF1)	制御シリアル	PRMA E3
	シリアルレベル	LEVEL0
	CPUシリアル	MP9000
	ACODARC	装置
	情報識別子	0102
	構成ID	SYSCNF02
	SDDS番号	02
	作成日時	1998-01-29 18:07:24
	更新日時	2002-01-22 21:09:29
	サイト	ONLINE
SYSC [L.PAR2]	シリアルレベル	LEVEL0

図 4-89 構成定義表示（システム構成詳細）ウィンドウ（ACOD 構成表示）

システム構成詳細		
システム名称: ONLINE	サイト: 本番システム	
プロセッサ名称/ACOD	管理情報	
SYSC [L.PAR2]	作成日時	1998-03-13 05:53:36
	更新日時	
	サイト	ONLINE2
SYSC	シリアルレベル	LEVEL0
	CPUシリアル	MP5800
	ACODARC	装置
	情報識別子	0002
	構成ID	SYSCNF02
	SDDS番号	02
	LDD番号	02
	作成日時	1998-03-13 05:53:36
	更新日時	
	サイト	BATCH1
ACOD構成	シリアルレベル	LEVEL0
	構成ID	SYSCNF02
	情報識別子(外部)	0002
	情報識別子(内部)	0002
	構成定義情報番号(外部)	02
	構成定義情報番号(内部)	02
	作成日時(外部)	1998-10-23 15:11:06
	作成日時(内部)	1998-10-23 15:11:10
	更新日時	1998-03-13 07:00:30

構成定義表示（システム構成詳細）ウィンドウの表示内容を表 4-8 に示します。表示順序は、[プロセッサ名称 /ACOD] をキーに、メインウィンドウの [入出力構成定義] データシートと同一の順序です。なお、ACOD 構成は最後に表示されます。

表 4-8 構成定義（システム構成詳細）ウィンドウの表示内容

見出し	表示内容
システム名称, コメント, プロセサ名称 /ACOD	メインウィンドウの内容 内容
管理情報 制御システム, シンタクスレベル, CPU モデル, ACONARC, 情報識別子, 情報識別子 (外部) ¹ , 情報識別子 (内部) ¹ , 構成 ID, SCDS 番号, IOD 番号, 構成定義情報番号 (外部) ¹ , 構成定義情報番号 (内部) ¹ , 更新日 時, コメント	
管理情報 作成日時, 作成日時 (外部), 作成日時 (内部)	ベースシステム情報表 表示ダイアログの内容
管理情報 オプション ²	システム構成オプショ ンの設定ダイアログの 内容

注 1 ACONARC 制御機能を使用する場合に表示されます。

注 2 システム構成オプションを設定している場合に表示されます。

(3) チャネル構成

チャネルの定義内容と接続先が構成定義表示（チャネル）ウィンドウに表示されます。

(a) 入出力構成定義データのチャネル構成

入出力構成定義データを選択した場合の構成定義表示（チャネル）ウィンドウを図 4-90 に示します。

図 4-90 構成定義表示（チャネル）ウィンドウ（入出力構成定義データ）

子組構成															
システム名称: ONLINE		プロセサ名称: SYSA[LPAR1]		構成ID: SYSCNF02		情報識別子: 0A02		更新日時: 1998-08-13 08:59:50							
PATHID	CH TYPE	CUNO(ACOD)	LNKA	ACOD名称	IN	OUT	ACOD名称2	IN2	OUT2	CUNO	IOC名称	ADDR	DEVMT	台数	コメント
00	MPX									0000	SVP	0000	C00	1	
	MPX									0000	SVP	0008	C08	1	
	MPX									0000	SVP	0009	C09	1	
	MPX									0000	SVP	000A	IOA	2	
	MPX									0001	IFCI	000F	MSR	1	
	MPX									0001	IFCI	001E	F00	2	

入出力構成定義データを選択した場合の構成定義表示（チャネル）ウィンドウの表示内容を表 4-9 に示します。

表 4-9 構成定義表示（チャネル）ウィンドウの表示内容（入出力構成定義データ）

見出し	表示内容
システム名称, プロセサ名称, 構成 ID, 情報識別子, 更新日時	メインウィンドウの内容

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

見出し	表示内容
PATHID, CH TYPE, コメント (番号: 表示するコメントのコメント番号)	チャンネル定義ウィンドウの定義内容
CUNO(ACOD) ¹ , LNKA ¹ , CUNO, IOC 名称, ADDR, DEVMN, 台数	接続定義ウィンドウの定義内容
ACOD 名称 ² , IN ² , OUT ² , ACOD 名称 2 ² , IN2 ² , OUT2 ²	ACOD 経路定義ウィンドウの定義内容

注 ACONARC を使用するプロセサの場合に表示されます。

(b) PRMF 構成定義データのチャンネル構成

PRMF 構成定義データを選択した場合の構成定義表示 (チャンネル) ウィンドウを図 4-91 に示します。

図 4-91 構成定義表示 (チャンネル) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)

The screenshot shows a window titled '構成定義表示 (チャンネル)' with a table of channel configuration data. The table has columns for PATHID, CH TYPE, ATTR, CH LPAR, LPARDEFR, CUNO(ACOD), LNKA, ACOD名称, IN, OUT, ACOD名称2, IN2, OUT2, CUNO, IOC名称, ADDR, 管理名称, 台数, and LPAR. The data rows include entries for MPX, RCNF, and BLMPX channels across different LPARs and ACODs.

PRMF 構成定義データを選択した場合の構成定義表示 (チャンネル) ウィンドウの表示内容を表 4-10 に示します。

表 4-10 構成定義表示 (チャンネル) ウィンドウの表示内容 (PRMF 構成定義データ)

見出し	表示内容
システム名称, プロセサ名称, 構成 ID, 情報識別子, 更新日時	メインウィンドウの内容
PATHID, CH TYPE, SEGNO ³ , ATTR, コメント (番号: 表示するコメントのコメント番号)	チャンネル定義 (PRMF) ウィンドウの定義内容
CH LPAR ¹ , LPARDEFR ¹	LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウの定義内容
CUNO(ACOD) ² , LNKA ² , CUNO, IOC 名称, ADDR, 管理名称, 台数	接続定義ウィンドウの定義内容
ACOD 名称 ² , IN ² , OUT ² , ACOD 名称 2 ² , IN2 ² , OUT2 ²	ACOD 経路定義ウィンドウの定義内容

見出し	表示内容
LPAR ¹	LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウの定義内容のうち、共用チャンネルに接続している入出力装置に対する定義内容

注 1 チャンネルを 8 台以上の LPAR に割り当てている場合など、表示データによって表示幅を拡張します。この場合、表示内容を 1 ページに収めるには、[ファイル(F)] - [ページ設定(U)...] を選択して用紙サイズを「A3」、印刷の向きを「横」に変更する必要があります。

注 2 ACONARC を使用するプロセサの場合に表示されます。

注 3 次の場合に表示されます。

制御システムが「PRMA E2」の場合

- シンタクスレベル「LEVEL7」以上で ACONARC 装備を設定

制御システムが「PRMA E3」の場合

- シンタクスレベル「LEVEL1」以上

(4) 入出力制御装置構成

入出力制御装置の定義内容と接続先が、構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウに表示されます。

(a) 入出力構成定義データの入出力制御装置構成

入出力構成定義データを選択した場合の構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウを図 4-92 に示します。

図 4-92 構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウ（入出力構成定義データ）

入出力制御装置構成																			
装置名称: ONLINE		プロセサ名称: SYSA[LPAR1]		構成ID: SYSCNF02		情報識別子: 0A02		更新日時: 1988-03-13 08:58:50											
CUNO	IDC名称	PATHID	CH	TYPE	ACOD名称	IN	OUT	ACOD名称2	IN2	OUT2	ADDR	DEVNM	台数	DEVA	TYPE	IFMODE	CUADR	MTLIB	コ
0000	SVP	00	MPX								0000	C00	1	00	NS		00		
	SVP	00	MPX								0008	C08	1	08	NS		00		
	SVP	00	MPX								0009	C09	1	09	NS		00		
	SVP	00	MPX								000A	I0A	2	0A	NS		00		
0001	IPCI	00	MPX								000F	MSR	1	0F	NS		00		
	IPCI	00	MPX								001E	F00	2	1E	NS		00		

入出力構成定義データを選択した場合の構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウの表示内容を表 4-11 に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

表 4-11 構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウの表示内容（入出力構成定義データ）

見出し	表示内容
システム名称, プロセッサ名称, 構成 ID, 情報識別子, 更新日時	メインウィンドウの内容
CUNO, IOC 名称, DEVA, TYPE, IFMODE, CUADR, MTLIB, コメント (番号: 表示するコメントのコメント番号)	入出力制御装置定義ウィンドウの定義内容
PATHID, CH TYPE, ADDR, DEVMN, 台数	接続定義ウィンドウの定義内容
ACOD 名称, IN, OUT, ACOD 名称 2, IN2, OUT2	ACOD 経路定義ウィンドウの定義内容

注 ACONARC を使用するプロセッサの場合に表示されます。

(b) PRMF 構成定義データの入出力制御装置構成

PRMF 構成定義データを選択した場合の構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウを図 4-93 に示します。

図 4-93 構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウ（PRMF 構成定義データ）

入出力制御装置構成																	
システム名称: ONLINE	プロセッサ名称: *PRMF (PRMF1)		構成ID: SYSONF02			情報識別子: 0102		更新日時: 1998-03-13 07:10:33									
CUNO	IOC名称	PATHID	CH TYPE	ACOD名称	IN	OUT	ACOD名称2	IN2	OUT2	ADDR	管理名称	台数	DEVA	TYPE	IFMODE	CUADR	コメント(番号)
0000	SVP	00	MPX							0000	C00	1	00	NS			00
	SVP	00	MPX							0008	C08	1	08	NS			00
	SVP	00	MPX							0008	C08	1	08	NS			00
	SVP	00	MPX							000A	I0A	2	0A	NS			00
0001	IPC1	00	MPX							000F	MSR	1	0F	NS			00
	IPC1	00	MPX							001E	FD0	2	1E	NS			00
0061	ACDC	06	MPX							0816	CT6	4	16	NS			00
	ACDC	06	MPX							081A	I1A	4	1A	NS			00
0070	ALC070	07	BLMPX							0740	ML1	7	40	NS	S		00
	ALC070	08	BLMPX							0740	ML1	7	40	NS	S		00
0080	ALC080	07	BLMPX							0750	ML1	7	50	NS	S		00
	ALC080	08	BLMPX							0750	ML1	7	50	NS	S		00
0080	HTC080	09	BLMPX							0280		16	80	NS	S		00

PRMF 構成定義データを選択した場合の構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウの表示内容を表 4-12 に示します。

表 4-12 構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウの表示内容（PRMF 構成定義データ）

見出し	表示内容
システム名称, プロセッサ名称, 構成 ID, 情報識別子, 更新日時	メインウィンドウの内容
CUNO, IOC 名称, DEVA, TYPE, IFMODE, CUADR, コメント (番号: 表示するコメントのコメント番号)	入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウの定義内容
PATHID, CH TYPE, ADDR, 管理名称, 台数	接続定義ウィンドウの定義内容

見出し	表示内容
ACOD 名称 , IN , OUT , ACOD 名称 2 , IN2 , OUT2	ACOD 経路定義ウィンドウの定義内容

注 ACONARC を使用するプロセサの場合に表示されます。

(5) 入出力装置構成

入出力装置の定義内容と、接続先が構成定義表示（入出力装置）ウィンドウに表示されます。

(a) 入出力構成定義データの入出力装置構成

入出力構成定義データを選択した場合の構成定義表示（入出力装置）ウィンドウを図 4-94 に示します。

図 4-94 構成定義表示（入出力装置）ウィンドウ（入出力構成定義データ）

システム名称	台数	DEVNM	PATHID	CH TYPE	ACOD名称	IN	OUT	ACOD名称2	IN2	OUT2	CUNO	IOC名称	DEVA	基数	UNIT	FEATURE	IOTIME	MODEL	OFFLINE	PREPATH
ONLINE	1	CS0	00	MPX							0000	SVP	00	DEC	3415	ATTENTION	60		NO	
	1	CS0	00	MPX							0000	SVP	00	DEC	SVP	PFKEY	60		NO	
	1	CS0	00	MPX							0000	SVP	00	DEC	SVP	PFKEY	60		NO	
	2	IDA	00	MPX							0000	SVP	0A	HEX	F0082		80	10	NO	
	1	MSR	00	MPX							0001	IPC1	0F	DEC	8268	ATTENTION	80	10	NO	
	2	FDO	00	MPX							0001	IPC1	1E	HEX	0571	ATTENTION	60		NO	

入出力構成定義データを選択した場合の構成定義表示（入出力装置）ウィンドウの表示内容を表 4-13 に示します。

表 4-13 構成定義表示（入出力装置）ウィンドウの表示内容（入出力構成定義データ）

見出し	表示内容
システム名称, プロセサ名称, 構成 ID, 情報識別子, 更新日時	メインウィンドウの内容
ADDR, 台数, DEVNM, 基数, UNIT, FEATURE, IOTIME, MODEL, OFFLINE, XFEATUR, 管理名称, コメント (番号: 表示するコメントのコメント番号)	入出力装置定義ウィンドウの定義内容
PATHID, CH TYPE, CUNO, IOC 名称, DEVA, PREPATH	接続定義ウィンドウの定義内容
ACOD 名称 , IN , OUT , ACOD 名称 2 , IN2 , OUT2	ACOD 経路定義ウィンドウの定義内容

注 ACONARC を使用するプロセサの場合に表示されます。

(b) PRMF 構成定義データの入出力装置構成

PRMF 構成定義データを選択した場合の構成定義表示（入出力装置）ウィンドウを図 4-95 に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

図 4-95 構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウ (PRMF 構成定義データ)

アドレス	台数	管理名称	LPAR	PATHID	CH TYPE	ATTR	CH LPAR	LPARDEFR	ACOD名称	IN	OUT	ACOD名称2	IN2	OUT2	CUNO	IOC名称	DEVA	UNIT	MODEL	PREPAI
0000	1	200		00	WPK	DED 1									0000	SVP	00	8415		
0008	1	208		00	WPK	DED 1									0000	SVP	08	SVP	1	
0009	1	209		00	WPK	DED 1									0000	SVP	09	SVP	1	
000A	1	20A		00	WPK	DED 1									0000	SVP	0A	F8092	50	
000F	1	MSR		00	WPK	DED 1									0001	IPC1	0F	8288	10	
001E	2	F00		00	WPK	DED 1									0001	IPC1	1E	8571		
0140	4	140		20	BLMPX	DED 1									0200	DRK200	40	8598		
0140	4	140		28	BLMPX	DED 2									0280	DRK280	40	8598		
0180	4	180		10	BLMPX	DED 1									0100	MYC100	80	8488	1	
0180	4	180		18	BLMPX	DED 2									0180	MYC180	80	8488	1	
0184	4	184		10	BLMPX	DED 1									0100	MYC100	84	8488	1	

PRMF 構成定義データを選択した場合の構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウの表示内容を表 4-14 に示します。

表 4-14 構成定義表示 (入出力装置) ウィンドウの表示内容 (PRMF 構成定義データ)

見出し	表示内容
システム名称, プロセサ名称, 構成 ID, 情報識別子, 更新日時	メインウィンドウの内容
ADDR, 台数, 管理名称, UNIT, MODEL, XFEATUR, コメント (番号: 表示するコメントのコメント番号)	入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウの定義内容
PATHID, CH TYPE, ATTR, CUNO, IOC 名称, DEVA, PREPATH	接続定義ウィンドウの定義内容
CH LPAR ¹ , LPARDEFR ¹	LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウの定義内容
ACOD 名称 ² , IN ² , OUT ² , ACOD 名称 2 ² , IN2 ² , OUT2 ²	ACOD 経路定義ウィンドウの定義内容
LPAR ¹	LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウの定義内容のうち, 共用チャンネルに接続している入出力装置に対する定義内容

注 1 チャンネルを 8 台以上の LPAR に割り当てている場合など, 表示データによって表示幅を拡張します。この場合, 表示内容を 1 ページに収めるには, [ファイル (F)] - [ページ設定 (U)...] を選択して用紙サイズを「A3」, 印刷の向きを「横」に変更する必要があります。

注 2 ACONARC を使用するプロセサの場合に表示されます。

(6) 装置グループ

装置グループの定義内容が, 構成定義表示 (装置グループ) ウィンドウに表示されます。

構成定義表示 (装置グループ) ウィンドウを図 4-96 に示します。

図 4-96 構成定義表示 (装置グループ) ウィンドウ



構成定義表示 (装置グループ) ウィンドウの表示内容を表 4-15 に示します。

表 4-15 構成定義表示 (装置グループ) ウィンドウの表示内容

見出し	表示内容
システム名称, プロセッサ名称, 構成 ID, 情報識別子, 更新日時	メインウィンドウの内容
NAME, TYPE, VIO	装置グループ定義ウィンドウの定義内容
装置一覧	装置グループに含まれる入出力装置 <ul style="list-style-type: none"> • TYPE=ES が指定されている装置グループは, 入出力装置定義ウィンドウで拡張記憶装置として定義されたすべての入出力装置 • 同期転送機能しか使用できない拡張記憶装置は, 「****(ES)」 (: 空白)

(7) 装置タイプ

装置タイプの定義内容が, 構成定義表示 (装置タイプ) ウィンドウに表示されます。

構成定義表示 (装置タイプ) ウィンドウを図 4-97 に示します。

図 4-97 構成定義表示 (装置タイプ) ウィンドウ



構成定義表示 (装置タイプ) ウィンドウの表示内容を表 4-16 に示します。

表 4-16 構成定義表示 (装置タイプ) ウィンドウの表示内容

見出し	表示内容
システム名称, プロセッサ名称, 構成 ID, 情報識別子, 更新日時	メインウィンドウの内容
装置タイプ	装置タイプの確認ダイアログに表示される装置タイプ
VIO	YES: 装置タイプ定義ウィンドウで定義されている磁気ディスク装置 NO: 装置タイプ定義ウィンドウで定義されていない磁気ディスク装置 空欄: 磁気ディスク装置以外の装置タイプ
装置一覧	装置タイプに含まれる入出力装置 同期転送機能しか使用できない拡張記憶装置は, 「****(ES)」 (: 空白)

(8) ACOD 構成

システムに定義されている ACOD の名称, ACOD モデル, コメントの一覧が構成定義表示 (ACOD) ウィンドウに表示されます。構成定義表示 (ACOD) ウィンドウを図 4-98 に示します。

図 4-98 構成定義表示 (ACOD) ウィンドウ



構成定義表示 (ACOD) ウィンドウの表示内容を表 4-17 に示します。

表 4-17 構成定義表示 (ACOD) ウィンドウの表示内容

見出し	表示内容
システム名称, ACOD 構成 - 構成 ID , 更新日時 , ACOD 外部情報識別子 / 構成定義情報番号 , ACOD 内部情報識別子 / 構成定義情報番号	メインウィンドウの内容
作成日時 (ACOD 外部情報識別子 / 構成定義情報番号の次) , 作成日時 (ACOD 内部情報識別子 / 構成定義情報番号の次)	ベースシステム情報表示ダイアログの内容
ACOD 名称, ACOD モデル, コメント	ACOD 定義ウィンドウの定義内容

注 ACONARC 制御機能を使用する場合には表示されます。

(9) ポート構成

ポートの接続属性と接続先が構成定義表示（ポート）ウィンドウに表示されます。構成定義表示（ポート）ウィンドウを図 4-99 に示します。

図 4-99 構成定義表示（ポート）ウィンドウ

ACOD名称	ポート	属性	接続先	7'位ID名称	PATHID	ACOD名称2	ポート2	IOC名称	内部接続
ACOD1	C0	動的	CPU	*PRMF(PRMF1)	80				D1,E1
		動的	CPU	SYSA	80				D1,E1
	C1	動的	CPU	*PRMF(PRMF1)	81				D0,E0,FE

構成定義表示（ポート）ウィンドウの表示内容を表 4-18 に示します。

表 4-18 構成定義表示（ポート）ウィンドウの表示内容

見出し	表示内容
システム名称, ACOD 構成 - 構成 ID , 更新日時 , ACOD 外部情報識別子 / 構成定義情報番号 , ACOD 内部情報識別子 / 構成定義情報番号	メインウィンドウの内容
作成日時 (ACOD 外部情報識別子 / 構成定義情報番号の次) , 作成日時 (ACOD 内部情報識別子 / 構成定義情報番号の次)	ベースシステム情報表示ダイアログの内容
ACOD 名称, ポート, 属性, 接続先 (CPU : チャネル, ACOD : 多段接続の ACOD, IOC : 入出力制御装置, INTERNAL : ACOD 内部), プロセサ名称, PATHID, ACOD 名称 2, ポート 2, IOC 名称, 内部接続	ACOD 経路定義ウィンドウの定義内容

注 ACONARC 制御機能を使用する場合には表示されます。

(10) LPAR 構成

PRMF を使用する場合の LPAR の定義内容が構成定義表示（LPAR 構成）ウィンドウに表示されます。構成定義表示（LPAR 構成）ウィンドウを図 4-100 に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

図 4-100 構成定義表示 (LPAR 構成) ウィンドウ

LPAR構成							
システム名称: ONLINE	物理プロセッサ名称: PRMF1	構成ID: SYSONF02	情報識別子: 0102	更新日時: 2006-12-19 15:22:29			
	LPAR名称	LPAR1	LPAR2				
	CPUMODE	M/ASA	M/EX				
	CPUID						
IP	COUNT	3	2				
	MAXCOUNT	3					
	AC	1,2					
	MODE	S	S				
	GROUP	A	A				
	SRVGROUP						
	SRVRATIO	50	50				
	SRVAC	30					
	PRIORITY	1	1				
	PRIAC	2					
STORAGE	MSサイズ ⁵	512	500				
	MAXMSサイズ ¹						
	MSロケーション ⁷						
	ESサイズ ⁶	512	512				
	ESロケーション ⁷						
OPTION	AUTACT	YES	YES				
	AUTLOAD	YES	YES				

LPAR を 9 台以上定義している場合、表示内容を 1 ページに収めるには、[ファイル (F)] - [ページ設定 (U)...] を選択して用紙サイズを「A3」、印刷の向きを「横」に変更する必要があります。

構成定義表示 (LPAR 構成) ウィンドウの表示内容を表 4-19 に示します。

表 4-19 構成定義表示 (LPAR 構成) ウィンドウの表示内容

見出し	表示内容
システム名称、物理プロセッサ名称、構成 ID、情報識別子、更新日時	メインウィンドウの内容
LPAR 名称、CPUMODE、CPUID	LPAR 構成定義ウィンドウの定義内容
<ul style="list-style-type: none"> • IP COUNT、MAXCOUNT、AC⁵、MODE、GROUP、SRVGROUP⁷、SRVRATIO、SRVAC⁷、PRIORITY、PRIAC⁷ • STORAGE MS サイズ、MAXMS サイズ¹、MS ロケーション、ES サイズ、ES ロケーション • OPTION AUTACT、AUTLOAD、IPLWAIT、IPLPATRL、AUTLOCK、AUTDEACT、RECONFCH³、RECONFIP⁶、RECONFMS¹、WAITDISP、SRVCAP² • FEATOPT ALARM、DC³、CSC、ACF、APF、PST、LINUX⁴ • LOADUNIT UNIT0、UNIT1、UNIT、DUMP 	LPAR 構成定義ウィンドウの定義内容、およびそれに該当するシステム構成定義文名

注 1 制御システムが PRMA E2 でシンタクスレベルが LEVEL3 以上または PRMA E3 の場合に表示されます。

注 2 制御システムが PRMA E2 でシンタクスレベルが LEVEL5 以上または PRMA E3 の場合に表示されます。

注 3 制御システムが PRMA E2 の場合に表示されます。

注 4 制御システムが PRMA E3 の場合に表示されます。

注 5 制御システムが PRMA E3 でシンタクスレベルが LEVEL3 以上の場合に表示されます。

注 6 制御システムが PRMA E2 の場合、または制御システムが PRMA E3 でシンタクスレベルが LEVEL2 以下の場合に表示されます。

注 7 制御システムが PRMA E3 でシンタクスレベルが LEVEL4 以上の場合に表示されます。

4.13 ラベル名称の定義・確認

ラベル名称を定義・確認する方法を説明します。また、定義したラベル名称をコメントにコピーする方法について説明します。

4.13.1 ラベル名称の定義

(1) ウィンドウの形式

ラベル名称定義ウィンドウを図 4-101 に示します。

図 4-101 ラベル名称定義ウィンドウ



マクロ・定義文

ラベル名称を定義する SYSGEN マクロまたは PRMF システム構成定義文を選択します。

ラベル名称

ラベル名称に定義できる構成定義データを選択します。すべてのラベル名称を任意に指定する場合、このフィールドは入力不要です。

ラベル名称に定義できる構成定義データを表 4-20 に示します。

表 4-20 ラベル名称に指定できる構成定義データ

プロセッサ種別	マクロ・定義文	ラベル名称にできる構成定義データ	備考
LPAR	CHANNEL	PATHID	CHxx(xx:PATHID) となる
BASIC		TYPE	なし

プロセサ種別	マクロ・定義文	ラベル名称にできる構成定義データ	備考		
		コメント			
		物理プロセサのラベル名称	LPAR プロセサに限る		
	CONTRLR	CUNO		CUxxxx(yyyy:CUNO 番号)となる	
		IOC 名称		なし	
		コメント			
		物理プロセサのラベル名称		LPAR プロセサに限る	
	IODEVICE	ADDR		DVxxxx(yyyy:ADDR)となる	
		管理名称		なし	
		DEVMN		DVxxxx(yyyy:DEVMN)となる	
		コメント		なし	
		物理プロセサのラベル名称		LPAR プロセサに限る	
	UNITNAME (装置グループ)	NAME		なし	
	PRMF	CHANNEL	PATHID		CHxx(zz:PATHID)となる
			TYPE		なし
			コメント		
CONTRLR		CUNO		CUxxxx(yyyy:CUNO 番号)となる	
		IOC 名称		なし	
		コメント			
IODEVICE		ADDR		DVxxxx(yyyy:ADDR)となる	
		管理名称		なし	
		コメント			
PFKEY		PFNO		PFn(n:PFNO)となる	
EXPATH		LABEL		なし	
PARTTION		LPAR 名称			
		LPAR 番号		LPARn(n:LPAR 番号)となる	

指定した構成定義データがラベル名称のシンタクス条件に合わない場合、ラベル名称は空白となります。

UNITNAME (装置タイプ) または SCHEDULR は、ラベル名称に構成定義データを定義できません。任意のラベル名称を定義してください。

コメント番号

ラベル名称に「コメント」を選択した場合、コメント番号を指定します。

コメントがラベル名称のシンタクス条件に合わない場合、ラベル名称は空白となります。

コメントが小文字の場合、ラベル名称は大文字に変換されます。

[任意のラベル名称 (N)...]

任意のラベル名称を定義します。

(2) 操作方法

(a) ラベル名称に特定の構成定義データを定義する

対象マクロ・定義文を選択し、ラベル名称とする構成定義データを選択します。コメントをラベル番号にする場合は、コメント番号も選択します。

構成定義データをラベル名称に定義した場合でも、特定の個所だけラベル名称を構成定義データ以外の名称にしたり、ラベル名称を「なし」にしたりすることもできます。この場合は、任意のラベル名称定義ダイアログで該当個所のラベル名称を定義します。

注意事項

ラベル名称として構成定義内の特定のデータを定義した場合、データがラベル名称のシンタクス条件に一致していないと、ラベル名称は生成されません。定義したラベル名称が生成されるかどうかをラベル名称確認ダイアログで確認してください。

(b) ラベル名称に任意の名称を定義する

ラベル名称定義ウィンドウで対象マクロ・定義文を選択し、[任意のラベル名称 (N)...] ボタンをクリックします。

任意のラベル名称定義ダイアログは、ラベル名称定義ウィンドウで選択しているマクロ・定義文ごとに定義シートが異なります。CONTRLR を選択した場合の任意のラベル名称定義ダイアログを図 4-102 に示します。

図 4-102 任意のラベル名称定義ダイアログ (CONTRLR を選択した場合)



SCHEDELR 以外のマクロ・定義文は、ラベル名称を定義する対象を選択し、ラベル名称を定義します。SCHEDELR 以外のマクロ・定義文の定義シートの説明を表 4-21 に示します。

表 4-21 SCHEDELR 以外のマクロ・定義文の定義シートの説明

マクロ・定義文	フィールド	説明
CHANNEL	PATHID	チャンネル定義ウィンドウで定義しているチャンネルからラベル名称を定義するチャンネルパス ID を選択します。
	TYPE	選択したチャンネルのチャンネルタイプが表示されます。
CONTRLR	CUNO	入出力制御装置定義ウィンドウで定義している入出力制御装置からラベル名称を定義する入出力制御装置の制御装置番号を選択します。
	IOC 名称	選択した入出力制御装置の IOC 名称が表示されます。
IODEVICE	ADDR	入出力装置定義ウィンドウで定義している入出力装置からラベル名称を定義する入出力装置のデバイス番号を選択します。
	管理名称	選択した入出力装置の管理名称が表示されます。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

マクロ・定義文	フィールド	説明
UNITNAME (装置グループ)	NAME	装置グループ定義ウィンドウで定義している装置グループからラベル名称を定義する装置グループの装置グループ名称を選択します。
UNITNAME (装置タイプ)	装置タイプ	装置タイプ定義ウィンドウで定義している装置タイプからラベル名称を定義する装置タイプの装置タイプ名称を選択します。
PFKEY	PFNO	LPAR 共通の構成定義ダイアログの PF キーのデータシートで定義している PF キーからラベル名称を定義する PF キーの PF キー番号を選択します。
EXPATH	LABEL	EXPATH 定義ウィンドウで定義している EXPATH からラベル名称を定義する EXPATH に付加されているラベルを選択します。
PARTTION	LPAR 番号	LPAR 構成定義ウィンドウの LPAR のデータシートで定義している LPAR からラベル名称を定義する LPAR の LPAR 番号を選択します。

SCHEDLR は、ラベル名称だけを定義します。SCHEDLR を選択した場合の任意のラベル名称定義ダイアログを図 4-103 に示します。

図 4-103 任意のラベル名称定義ダイアログ (SCHEDLR を選択した場合)



ラベル名称

先頭が英字の 8 文字以内の英数字でラベル名称を指定します。

ラベル名称定義ウィンドウで構成定義データをラベル名称に定義している場合、このダイアログで指定した名称が優先されます。

ラベル名称を「なし」にしたい場合は、空白にします。

[閉じる]

ダイアログを閉じます。

(c) ラベル名称を削除する

マクロ・定義文単位の削除

ラベル名称定義ウィンドウで削除するマクロ・定義文のレコードを削除します。

特定のフィールドの削除

任意のラベル名称定義ダイアログで削除する対象のレコードを削除します。

4.13.2 ラベル名称の確認

(1) ラベル名称の確認操作

ラベル名称が生成されるかどうかを確認するマクロ・定義文をラベル名称確認ダイアログで指定します。

ラベル名称確認ダイアログを図 4-104 に示します。

図 4-104 ラベル名称確認ダイアログ



対象

ラベル名称を表示するマクロ・定義文を選択します。

マクロ・定義文

ラベル名称定義ウィンドウで定義しているマクロ・定義文が表示されます。

[OK]

ラベル名称表示ウィンドウを表示します。

[キャンセル]

処理をキャンセルします。

操作方法を次に示します。

1. 生成されるラベル名称を表示するマクロ・定義文を選択し、対象のチェックボックスをオンにします。複数のマクロ・定義文を選択できます。
2. [OK] ボタンをクリックします。確認を中止するには、[キャンセル] ボタンをク

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

リックします。

3. 生成されるラベル名称がラベル名称表示ウィンドウに表示されます。

(2) ラベル名称の表示形式

ラベル名称表示ウィンドウを図 4-105 に示します。

図 4-105 ラベル名称表示ウィンドウ

マクロ・定義文	キー値	ラベル名称
CONTRLR	0000	SVP
	0001	IPC1
	0061	ACDC
	0070	ALC070
	0080	ALC080
	0090	MTC090
	0091	MTC091
	0100	MTC100

システム名称, プロセッサ名称

メインウィンドウの内容が表示されます。

マクロ・定義文

ラベル名称確認ダイアログで指定したマクロ・定義文が表示されます。

キー値

マクロ・定義文ごとにキーとなる値が表示されます。キーとなる値を表 4-22 に示します。

表 4-22 ラベル名称表示ウィンドウのキーとなる値

マクロ・定義文	キー値
CHANNEL	チャンネルバス ID
CONTRLR	制御装置番号
IODEVICE	入出力装置番号
UNITNAME(装置グループ)	装置グループ名称
UNITNAME(装置タイプ)	装置タイプ名称
PFKEY	PF キー番号
EXPATH	ラベル

マクロ・定義文	キー値
PARTTION	LPAR 番号

ラベル名称

生成されるラベル名称。空白の場合は、ラベル名称は生成されません。ラベル名称として構成定義内の特定のデータが定義されているが、ラベル名称のシンタクス条件に合わないため生成できない場合は、欄外に「*」が表示されます。

4.13.3 ラベル名称をコメントにコピーする

[レコード(R)] - [コメント操作(C)] - [ラベル名称からコピー(L)]を指定します。

一番手前の定義ウィンドウで表示しているコメント番号のコメントに、表示中の定義データに対応する SYSGEN マクロまたは PRMF システム構成定義文で定義しているラベル名称がコピーされます。

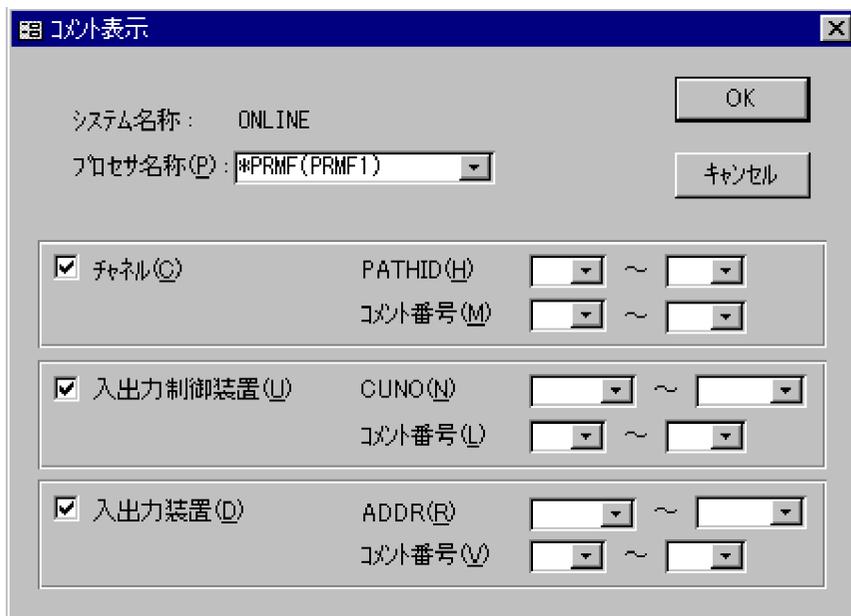
4.14 コメントの表示

チャンネル，入出力制御装置，入出力装置につけたコメントを表示する方法を説明します。

4.14.1 コメントの表示操作

コメント表示ダイアログで，コメントの表示条件を指定します。コメント表示ダイアログを図 4-106 に示します。

図 4-106 コメント表示ダイアログ



1. コメントを表示する定義データを選択します。入出力構成定義データの場合はプロセッサ名称，PRMF 構成定義データの場合は物理プロセッサ名称を選択します。
2. コメントを表示する入出力機器を選択します。複数の入出力機器を選択できます。
3. 表示範囲を指定します。それぞれの入出力機器で次に示す値を指定します。
 - チャンネル：チャンネルパス ID とコメント番号
 - 入出力制御装置：制御装置番号とコメント番号
 - 入出力装置：デバイス番号とコメント番号
4. [OK] ボタンをクリックします。表示を中止するには，[キャンセル] ボタンをクリックします。

表示範囲の指定方法

チャンネルパス ID，制御装置番号，デバイス番号，コメント番号による表示範囲は，機器構成の表示範囲を指定するときと同じ方法で指定できます。表示範囲の指定方法については，「4.12.1 機器構成の表示操作」を参照してください。

注意事項

- 定義データを選択しない場合、メインウィンドウの入出力構成定義でカレントレコードにある定義データが仮定されます。
- 表示したコメントの印刷、Excel への貼り付け、CSV 形式または DAT 形式のファイルへの出力方法については、「4.15 表示情報の出力方法」を参照してください。

4.14.2 コメントの表示形式

コメントの表示に共通しているヘッダの表示形式を次に示します。

- システム名称
- プロセサ名称：プロセサ名称または物理プロセサ名称
- 構成 ID、情報識別子、更新日時：選択した定義データについての情報

(1) チャンネルのコメント

チャンネルにつけたコメントが、コメント番号順に表示されます。コメント表示（チャンネル）ウィンドウを図 4-107 に示します。

図 4-107 コメント表示（チャンネル）ウィンドウ

コメント(チャネル)			
システム名称 : ONLINE		プロセサ名称 : *PRMF (PRMF1)	
		構成ID : SYSCNF02	
		情報識別子 : 0102	
		更新日時 : 1998-03-13 07:10:33	
コメント番号	PATHID	CH TYPE	コメント
1	66	CNC	SDIR1
	76	CNC	SDIR2
2	66	CNC	第1センタ7階[B-07]
	76	CNC	第1センタ7階[A-06]

コメント番号

コメント番号が表示されます。

PATHID, CH TYPE

コメントがついているチャンネルのチャンネルパス ID およびチャンネルタイプが表示されます。

コメント

コメント番号に対するチャンネルのコメントが表示されます。

(2) 入出力制御装置のコメント

入出力制御装置につけたコメントが、コメント番号順に表示されます。コメント表示（入出力制御装置）ウィンドウを図 4-108 に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

図 4-108 コメント表示（入出力制御装置）ウィンドウ



コメント番号

コメント番号が表示されます。

CUNO, IOC 名称

コメントがついている入出力制御装置の制御装置番号および IOC 名称が表示されます。

コメント

コメント番号に対する入出力制御装置のコメントが表示されます。

(3) 入出力装置のコメント

入出力装置に付けたコメントが、コメント番号順に表示されます。

(a) 入出力構成定義データのコメント

入出力構成定義データを選択した場合のコメント表示（入出力装置）ウィンドウを図 4-109 に示します。

図 4-109 コメント表示（入出力装置）ウィンドウ



コメント番号

コメント番号が表示されます。

ADDR, 台数, DEVMN

コメントが付いている入出力装置のデバイス番号, 装置数, および DEVMN が表示されます。

コメント

コメント番号に対する入出力装置のコメントが表示されます。

(b) PRMF 構成定義データのコメント

PRMF 構成定義データを選択した場合のコメント表示（入出力装置）ウィンドウを図 4-110 に示します。

図 4-110 コメント表示（入出力装置）ウィンドウ（PRMF 構成定義データ）

コメント(入出力装置)				
双私名称 : ONLINE		アロビ名称 : *PRMF(PRMF1)		構成ID : SYSCNF02
				情報識別子 : 0102
				更新日時 : 2004-02-16 17:18:16
コメント番号	ADDR	台数	管理名称	コメント
1	7860	32	U60	SDIR1,SDIR4
	8018	2	S10	CCP1
2	7860	32	U60	第1センタ8階[F-09]
	8018	2	S10	第1センタ6階[J-12]

コメント番号

コメント番号が表示されます。

ADDR, 台数, 管理名称

コメントが付いている入出力装置のデバイス番号, 装置数, および管理名称が表示されます。

コメント

コメント番号に対する入出力装置のコメントが表示されます。

4.15 表示情報の出力方法

表示した情報を出力する方法を説明します。

4.15.1 印刷

1. 印刷プレビューの形式のウィンドウで [ファイル (F)] - [印刷 (P)...] を選択して、印刷ダイアログを開きます。
2. 印刷するプリンタを選択します。
3. 印刷条件を指定します。また、[ページ設定 (S)...] ボタンをクリックして、印刷するページの書式を設定します。
4. [OK] ボタンをクリックします。印刷を中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

注意事項

ウィンドウの印刷プレビューに表示されている書式で印刷されます。表示されない部分を印刷するには、Excel へ貼り付けるか、またはファイルへ出力して、表示形式を編集してから印刷してください。

4.15.2 Excel への貼り付け

貼り付ける前に Excel を起動しておくか、または Excel のパスを環境変数に登録してください。

1. 印刷プレビューの形式のウィンドウで [ファイル (F)] - [Excel へ貼り付け (L)] を選択します。
2. Excel のワークシートに出力された情報が貼り付けられます。

4.15.3 CSV 形式・DAT 形式のファイルへの出力

1. 印刷プレビューの形式のウィンドウで [ファイル (F)] - [ファイルへ出力 (T)...] を選択して、ファイルへ出力ダイアログを開きます。
2. 次に示すファイルの種類のどちらかを選択します。
 - CSV 形式：CSV ファイル (*.csv)
 - DAT 形式：DAT ファイル (*.dat)
3. 出力するドライブ、フォルダ、ファイル名を指定します。
4. [保存 (S)] ボタンをクリックします。ファイルへの出力を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

4.16 ストージ計算

SCMRF CD for Windows で定義した入出力構成定義データから VOS3 システムのメモリ所要量 (V=R ニュークリアス領域 (入出力構成情報部分)) を自動計算できます。

4.16.1 ストージ計算の指定

ストージ計算ダイアログの指定方法について説明します。

(1) ダイアログの形式

ストージ計算ダイアログ (分類 'L' ~ 'その他' を表示した場合) を図 4-111 に示します。

図 4-111 ストージ計算ダイアログ

図 4-111 ストージ計算ダイアログのスクリーンショット。ダイアログにはシステム名とプロセッサ名が設定されており、V=R ニュークリアス領域 (入出力構成情報部分) の初期値に戻す、分類説明のボタンがあります。中央には以下の表が表示されています。

分類	係数	装置数	バイト数
L	16	135	2,160
M	136	130	17,680
N	128	0	0
O	236	0	0
P	132	1	132
Q	100	0	0
R	1876	14	26,264
S	1584	0	0
T	180	40	7,200
U	92	3	276
V	-	-	592
W	96	13	1,248
その他	-	-	0
合計:			80,996 バイト

ダイアログの下部には「計算(C)」、「レポート表示(R)」、「キャンセル」のボタンがあります。

システム名称

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

計算対象とするデータベースのシステム名称が表示されます。

プロセサ名称 (P)

計算対象とするプロセサ名称を選択します。

< V=R ニュークリアス領域 (入出力構成情報部分) (V) >

V=R ニュークリアス領域 (入出力構成情報部分) の計算に関する情報が表示され
ます。

[初期値に戻す (D)]

装置数およびバイト数の値をダイアログを開いた直後の値 (初期値) に戻します。

[分類説明 (K)...]

装置分類を示す記号の意味を表示するダイアログを表示します。表示内容について
は「(a) 分類の説明」を参照してください。

分類

装置の分類を示す記号 (アルファベットの A ~ W) および ' その他 ' が表示されま
す。

係数

装置分類ごとの係数が表示されます。

装置数

分類ごとの装置定義数が表示されます。

装置数は変更できます。ただし、装置分類 ' V ' および ' その他 ' については変更
できません。

バイト数

分類ごとの計算結果がバイト数で表示されます。

装置分類が ' その他 ' の場合、バイト数を任意に変更できます。

合計

V=R ニュークリアス領域 (入出力構成情報部分) の計算結果がバイト数で表示され
ます。

[計算 (C)]

選択したプロセサのストレージ計算を実行します。

[レポート表示 (R)]

計算結果が別ウィンドウ (ストレージ計算結果表示 (V=R ニュークリアス領域 - 入
出力構成情報部分) ウィンドウ) で表示されます。

[キャンセル]

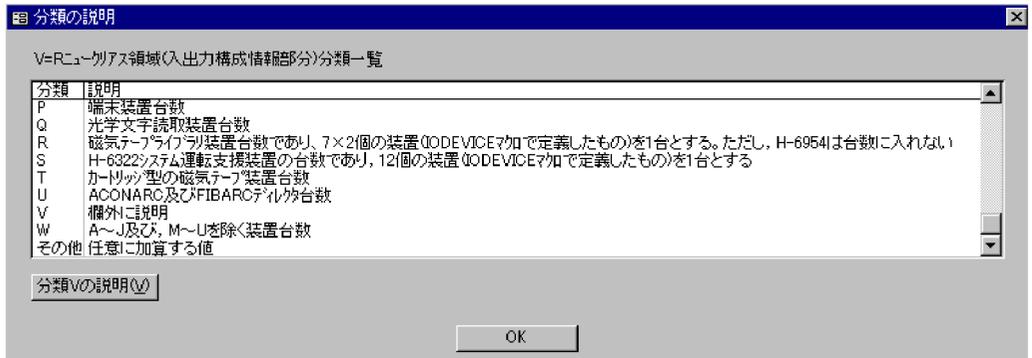
ストレージ計算ダイアログを閉じます。

(a) 分類の説明

分類の説明ダイアログについて説明します。

分類の説明ダイアログ（分類 'P' ~ 'その他' を表示した場合）を図 4-112 に示します。

図 4-112 分類の説明ダイアログ



< V=R ニュークリアス領域（入出力構成情報部分）分類一覧 >

V=R ニュークリアス領域（入出力構成情報部分）の計算で使用する分類の説明が表示されます。

分類

装置の分類を示す記号（アルファベットの A ~ W）および 'その他' が表示されます。

説明

分類に対する説明が表示されます。

本ダイアログに表示される内容を表 4-23 に示します。

表 4-23 分類の説明

分類	説明
A	ディスク装置の台数（光ディスク装置及び IODEVICE マクロで UNIT=8598，または UNIT=6587 と定義したディスク装置の台数は除く）
B	IODEVICE マクロで UNIT=8598，または UNIT=6587 と定義したディスク装置の台数
C	磁気テープ装置の台数（カートリッジ型は除く）
D	カード読取機の台数
E	カードせん孔機 / 紙テープせん孔機 / XY プロッタ / マークシート読取機 / カード印刷せん孔機の台数
F	フロッピーディスク / SVP のコンソールファイル台数
G	紙テープ読取機の台数
H	ラインプリンタ（インパクトプリンタ）の台数

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

分類	説明
I	回線 /SVP の通信回線アダプタの数
J	コンソール装置（コンソールディスプレイ及びプリンタ装置）の台数
K	IODEVICE マクロで定義した全装置数
L	デバイス番号を 4 けたで表現したときのシステムで最大のデバイス番号の上 2 けた
M	CTCA の台数
N	UIOD/HUIOD/ 光ディスク装置の台数
O	漢字プリンタの台数
P	端末装置の台数
Q	光学文字読取装置の台数
R	磁気テープライブラリ装置の台数であり、7 × 2 個の装置（IODEVICE マクロで定義したもの）を 1 台とする。ただし、H-6954 は台数に入れない。
S	H-6322 システム運転支援装置の台数であり、12 個の装置（IODEVICE マクロで定義したもの）を 1 台とする。
T	カートリッジ型の磁気テープ装置の台数
U	ACONARC 及び FIBARC ディレクタ装置の台数
V	欄外の ' 分類 V の説明 ' を参照
W	A ~ J 及び、M ~ U を除く装置台数
その他	任意に加算する値

[分類 V の説明 (V)]

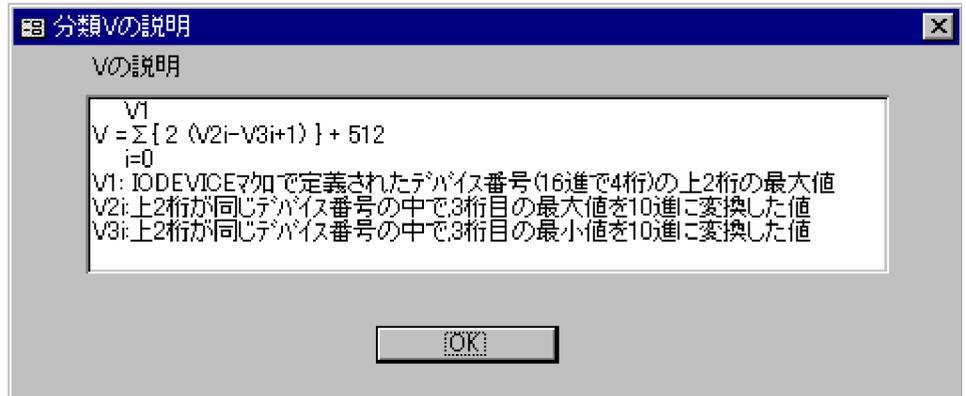
分類 V の説明ダイアログを表示します。分類 V の説明ダイアログについては「(b) 分類 V の説明」を参照してください。

(b) 分類 V の説明

分類 V の説明ダイアログについて説明します。

分類 V の説明ダイアログを図 4-113 に示します。

図 4-113 分類 V の説明ダイアログ



< V の説明 >

分類 V の説明が表示されます。

(2) 操作方法

(a) ストージ計算結果を表示する

1. ストージ計算ダイアログは、[ツール (T)] - [ストージ計算 (N)...] メニューを選択して開きます。
2. 計算対象とするプロセサを [プロセサ名称 (P)] コンボボックスから選択します。
3. 必要に応じて < V=R ニュークリアス領域 (入出力構成情報部分) > で値を指定します。
4. [計算 (C)] ボタンをクリックします。

(b) ストージ計算結果をストージ計算結果表示 (V=R ニュークリアス領域 - 入出力構成情報部分) ウィンドウで表示する

1. ストージ計算実行後、[レポート表示 (R)] ボタンをクリックします。

ストージ計算結果表示 (V=R ニュークリアス領域 - 入出力構成情報部分) ウィンドウを図 4-114 に示します。

図 4-114 ストージ計算結果表示 (V=R ニュークリアス領域 - 入出力構成情報部分) ウィンドウ

V=R ニュークリアス領域(入出力構成情報部分)計算結果 日時 : 2003-07-10 18:24:55

システム名称 : ONLINE プロセッサ名称 : SYSA

合計 : 12,146A' 件

分類	係数	装置数	A' 件数
A	176	0	0
B	190	4	720
C	184	6	984
D	188	0	0
E	184	1	184
F	126	3	378
G	108	0	0
H	120	0	0
I	132	0	0
J	120	4	512
K	4	822	1328
L	16	195	2160
M	196	21	2956
N	128	0	0
O	236	0	0
P	132	0	0
Q	100	0	0
R	1878	1	1878
S	1584	0	0
T	180	2	360
U	82	3	276
V	-	-	592
W	96	0	0
その他	-	-	0

システム名称

計算対象とするデータベースのシステム名称が表示されます。

プロセッサ名称

計算対象とするプロセッサ名称が表示されます。

合計

V=R ニュークリアス領域 (入出力構成情報部分) の計算結果が表示されます。

分類

装置の分類を示す記号 (アルファベットの A ~ W) および ' その他 ' が表示されます。

係数

装置分類ごとの係数が表示されます。

装置数

分類ごとの装置定義数が表示されます。

バイト数

分類ごとの計算結果がバイト数で表示されます。

(3) 注意事項

- ストージ計算では VOS3/LS 02-00 (マニュアル「VOS3 ストージ設計」資料番号: 6190-3-110-B0) の計算式を適用しています。したがって、VOS3/LS 02-00 と計算対象とするプロセサのバージョン (ユーザが使用している VOS3 のバージョン) が異なる場合は、対応するマニュアル中の計算式とストージ計算ダイアログ中の計算式とを比較し、異なる部分について別途ユーザ側で計算・値の置き換えが必要となります。
- 計算結果は概算値であり、実際に使用するメモリ所要量の値とは必ずしも一致しません。
- ストージ計算ダイアログへの指定値および計算結果はダイアログが開いている間だけ有効となり、いったん閉じて再度開いた場合はすべて初期値 (未計算状態) が表示されます。
- [レポート表示 (R)] ボタンクリックによって、ストージ計算結果表示 (V=R ニュークリアス領域 - 入出力構成情報部分) ウィンドウを表示する場合、すでに該当ウィンドウが開いているときはウィンドウを閉じてください。
- [レポート表示 (R)] ボタンは、計算実行済みの場合だけクリックできます。なお、ダイアログ中の値を変更した場合、再度計算を実行するまでは [レポート表示 (R)] ボタンはクリックできなくなります。

4.17 ゼネレーションパラメタの生成

データベース中の入出力構成定義データ、PRMF 構成定義データ、および ACOD 構成定義データから、ゼネレーションパラメタを生成してファイルに出力する方法を説明します。

4.17.1 ゼネレーションパラメタ生成の指定

ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウの指定方法について説明します。

(1) ダイアログの形式

ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウを図 4-115 に示します。

図 4-115 ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウ



システム名称

データベースを識別するシステム名称が表示されます。

出力先フォルダ名 (M)

対象構成定義データのゼネレーションパラメタ生成時に出力するファイルを格納す

るフォルダ名を、絶対パス名で指定します。

[参照 (B)...]

フォルダを選択できます。

入出力構成定義データ (N)

入出力構成定義データおよび PRMF 構成定義データについての情報が表示されま
す。

対象

ゼネレーションパラメタを生成する定義データを選択します。

ERROR

エラー番号が表示されます。

プロセサ名称

定義データを識別する名称が表示されます。

状態

ゼネレーションパラメタを生成できるかどうかが表示されます。

- 生成可
ゼネレーションパラメタを生成できることを示します。
- 生成否
ゼネレーションパラメタを生成できないことを示します。
- 不明
一度もエラーチェックを実行していない、またはメインウィンドウで表示す
る更新日時がエラーチェック日時よりも新しいことを示します。

生成日時

最後にゼネレーションパラメタを生成した日時が表示されます。

追加データ ID

生成するゼネレーションパラメタに追加データとして登録したゼネレーション
パラメタを付加する場合に、付加する追加データを指定します。
追加データは、生成したゼネレーションパラメタの最後 (SYSGEN マクロの場
合は END 文の直前) に付加されます。

ファイル名称種別

対象構成定義のゼネレーションパラメタを出力するファイルの名称を選択しま
す。選択できる項目を次に示します。

- 情報識別子
情報識別子を基にファイル名を決定するときに選択します。
ファイル名は、構成定義データに設定した情報識別子に次に示すメンバ種別
が付加された名称となります。
 - ・ 入出力構成定義データの場合：JAGC
 - ・ PRMF 構成定義データの場合：JAGH
- プロセサ名
該当するプロセサ名称をファイル名にするときに選択します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

- 任意
任意のファイル名を指定するときに選択します。

ファイル名

ファイル名称種別で「任意」を選択した場合、このフィールドに任意のファイル名を入力します。

ファイル名称種別で「情報識別子」または「プロセサ名」を選択した場合には、該当するファイル名が表示されます。

ACOD 構成定義データ

ACOD 構成定義データについての情報が表示されます。ACONARC 制御機能を使用する場合に次に示す情報が表示されます。

対象 (S)

ゼネレーションパラメタを生成するかどうかを選択します。

生成対象

ゼネレーションパラメタを生成するときの生成対象を選択します。

- 外部 / 内部 (O)
ACOD 外部および内部の両方を生成するときに選択します。
- 外部のみ (U)
ACOD 外部だけ生成するときに選択します。
- 内部のみ (L)
ACOD 内部だけ生成するときに選択します。

ERROR(C)

エラー番号が表示されます。

状態

ゼネレーションパラメタを生成できるかどうかが表示されます。

- 生成可
ゼネレーションパラメタを生成できることを示します。
- 生成否
ゼネレーションパラメタを生成できないことを示します。
- 不明
一度もエラーチェックを実行していない、またはメインウィンドウで表示する更新日時がエラーチェック日時よりも新しいことを示します。

外部 / 内部情報 (A)

生成日時

最後に生成した日時が表示されます。

追加データ ID

生成するゼネレーションパラメタに追加データとして登録したゼネレーションパラメタを付加する場合に、付加する追加データを指定します。

追加データは、生成したゼネレーションパラメタの最後に付加されます。

ファイル名称種別

ACOD 構成定義のゼネレーションパラメタを出力するファイルの名称を選択します。選択できる項目を次に示します。

- ・情報識別子：情報識別子を基にファイル名を決定するときに選択します。ファイル名は、構成定義データに設定した情報識別子に次に示すメンバ種別が付加された名称となります。

- ・ACOD 外部構成定義データの場合：JAGA

- ・ACOD 内部構成定義データの場合：JAGL

- ・任意：任意のファイル名を指定するときに選択します。

ファイル名

ファイル名称種別で「任意」を選択した場合、このフィールドに任意のファイル名を入力します。

ファイル名称種別で「情報識別子」を選択した場合には、該当するファイル名が表示されます。

[実行(X)...]

選択した構成定義データのゼネレーションパラメタを生成します。

(2) 操作方法

1. ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウで、出力先フォルダ名を該当のテキストボックスに指定します。
2. ゼネレーションパラメタ生成の対象とするデータを、入出力構成定義データ(N)、ACOD 構成定義データ で選択します。
なお、512 チャンネル構成の場合、物理 CPU、物理プロセサ (I/O グループ) のうち物理 CPU だけ選択できます。
3. [実行(X)...] ボタンをクリックします。

(3) 注意事項

- ・拡張子がついたファイルをホスト側に転送すると、転送方法 (ftp の mput など) によっては、VOS3 の名称規則によって転送できなくなる場合があります。
- ・ファイル名称に自動的に拡張子をつけるには、オプションダイアログの [ゼネレーションパラメタ生成] タブの [拡張子省略時にファイル名に付加する拡張子(E)] テキストボックスに、あらかじめ拡張子を入力しておく必要があります。
- ・ファイル出力後に、出力したファイルを自動的に開くには、オプションダイアログの [ゼネレーションパラメタ生成] タブの [ファイル出力後にファイルを開く(O)] チェックボックスを、あらかじめチェック状態にする必要があります。
- ・[OK] ボタンをクリック後、ゼネレーションパラメタの生成処理中にキャンセルした場合、ゼネレーションパラメタの出力ファイルの内容は保証されません。
- ・生成するゼネレーションパラメタに追加データを付加する場合、追加データ中のコメント行は無視されます。また、SYSGEN マクロ生成時に追加データ中に END 文が含まれる場合は、追加データ中の END 文以降のデータは無視されます。
- ・生成するゼネレーションパラメタに付加する追加データは、1 行の文字数が 80 文字以内ですべて半角文字である必要があります。

(4) ゼネレーションパラメタの出力形式

(a) SYSGEN マクロ

入出力構成定義データから SYSGEN マクロを出力したときの出力情報は、「7.1 SYSGEN マクロの出力情報」に示します。

(b) PRMF システム構成定義文

PRMF 構成定義データから PRMF システム構成定義文を出力したときの出力情報は、「7.2 PRMF システム構成定義文の出力情報」に示します。

(c) ACOD 外部構成定義コマンド

ACOD 構成定義データから ACOD 外部構成定義コマンドを出力したときの出力情報は、「7.3 ACOD 外部構成定義コマンドの出力情報」に示します。

(d) ACOD 内部構成定義コマンド

ACOD 構成定義データから ACOD 内部構成定義コマンドを出力したときの出力情報は、「7.4 ACOD 内部構成定義コマンドの出力情報」に示します。

4.18 追加データの登録

追加データを登録する方法を説明します。

4.18.1 追加データ一覧の指定

追加データ一覧の指定方法を説明します。

(1) ダイアログの形式

追加データの登録方法を説明します。追加データの登録ダイアログを図 4-116 に示します。

図 4-116 追加データの登録ダイアログ



システム名称

データベースを識別するシステム名称が表示されます。

追加データ一覧 (A)

追加データ ID およびコメントを指定します。

追加データ ID

追加データを識別する ID を指定します。指定範囲は 1 ~ 9999 です。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

コメント

追加データのコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

データサイズ

登録したデータのバイト数が表示されます。

[編集 (E)...]

[追加データ一覧] データシートで選択しているレコードに対応する、追加データを編集するために追加データ編集ダイアログを開きます。

[閉じる (C)]

追加データ登録ダイアログを閉じます。

(2) 操作方法

追加データ登録ダイアログは、[ツール (T)] - [追加データの登録 (I)...] メニューを選択して開きます。

4.18.2 追加データの編集

追加データの編集方法を説明します。

(1) ダイアログの形式

追加データ編集ダイアログは、[追加データ一覧] データシート中のレコードを選択した状態で、[編集 (E)...] ボタンをクリックして開きます。追加データ編集ダイアログを図 4-117 に示します。

図 4-117 追加データ編集ダイアログ

**追加データ ID**

追加データの ID が表示されます。

コメント

追加データのコメントが表示されます。

追加データ

登録されているデータが表示されます。

定義内容 (D)

追加データを作成・編集します。

[ファイルから読み込 (L)...]

テキスト形式のファイルからデータを読み込みます。

[ファイルへ保存 (S)...]

データをテキスト形式のファイルに保存します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

[OK]

編集した追加データを保存してダイアログを閉じます。

[キャンセル]

編集した追加データを保存しないでダイアログを閉じます。

[更新 (A)]

編集した追加データを保存します。

(2) 注意事項

- 追加データとして 512 キロバイトまでのデータを登録できます。
- 編集中のデータが存在する状態でテキスト形式のファイルからデータを読み込んだ場合、編集中のデータはファイルから読み込んだデータによって上書きされます。

4.19 搬入

転送ファイルからデータベースにデータを搬入する方法を説明します。

4.19.1 搬入の指定

搬入するときのデータの指定方法について説明します。

(1) 搬入データの指定

搬入するデータを搬入ウィンドウで指定します。搬入ウィンドウでは、入出力構成定義データ、PRMF 構成定義データ、または ACOD 構成定義データの中から搬入するデータを選択します。また、複数のデータを選択できます。

(a) ウィンドウの形式

搬入ウィンドウを図 4-118 に示します。

図 4-118 搬入ウィンドウ

システム名称: ONLINE

入出力構成定義データ(N)

対象	プログラム名称	データ	構成ID	搬入日時	ユニク名称
<input type="checkbox"/>	*PRMF (PRMF1)	有	SYSCNF01	1998-03-13 05:57:42	JAMCNF02
<input type="checkbox"/>	SYSA [LPAR1]	有	SYSCNF01	1998-03-13 06:00:10	JAMCNF01
<input checked="" type="checkbox"/>	SYSB [LPAR2]	無			
<input type="checkbox"/>	SYSC	無			
<input type="checkbox"/>	SYSD	無			

ACOD構成定義データ

対象(S): データ: 有 搬入日時: 1998-03-13 06:04:00

ACOD外部

構成ID: SYSCNF01
ユニク名称: JAGA0001

ACOD内部

構成ID: SYSCNF01
ユニク名称: JAGL0001

実行(F2)

システム名称

データを搬入するデータベースのシステム名称が表示されます。

入出力構成定義データ (N)

データベースに設定している、入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データが表示されます。

対象

搬入するデータを選択します。

プロセサ名称

データベースに設定している、プロセサ名称または物理プロセサ名称が表示されます。

データ

- 有：データベースに入出力構成または PRMF 構成が定義されていることを示します。
- 無：データベースに入出力構成または PRMF 構成がまったく定義されていないことを示します。

構成 ID, 搬入日時, メンバ名称

搬入済みの場合、搬入したデータに関する情報が表示されます。

ACOD 構成定義データ

ACONARC 制御機能を使用する場合に表示されます。

対象 (S)

ACOD 構成定義データを搬入するかどうかを選択します。

データ

- 有：データベースに ACOD 構成が定義されていることを示します。
- 無：データベースに ACOD 構成がまったく定義されていないことを示します。

構成 ID, 搬入日時, メンバ名称

搬入済みの場合、搬入したデータに関する情報が表示されます。

[実行 (X)...]

選択したデータに対して搬入を実行します。

(b) 操作方法

入出力構成定義データ, PRMF 構成定義データの指定

搬入する入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データを選択して、対象フィールドのチェックボックスをオンにします。複数のデータを選択できます。

なお、512 チャンネル構成の場合、物理 CPU、物理プロセサ (I/O グループ) のどちらかが選択可能となります。

ACOD 構成定義データの指定

[対象(S)] チェックボックスをオンにします。

(2) 搬入する転送ファイルの指定

搬入ウィンドウで選択したデータの転送ファイルを、搬入実行ダイアログで指定します。

搬入データが格納されている転送ファイルと、搬入データの情報識別子を指定して、搬入を実行します。

入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データの場合は選択したデータごとに指定します。ACOD 構成定義データの場合は 1 回だけ指定します。

(a) ダイアログの形式

入出力構成定義データ、PRMF 構成定義データの場合の搬入実行ダイアログを図 4-119 に、ACOD 構成定義データの場合の搬入実行ダイアログを図 4-120 に示します。

図 4-119 搬入実行ダイアログ (入出力構成定義データ、PRMF 構成定義データ)



図 4-120 搬入実行ダイアログ (ACOD 構成定義データ)



対象構成定義データ

入出力構成定義データの場合、プロセサ名称が表示されます。PRMF 構成定義データの場合、物理プロセサ名称が表示されます。ACOD 構成定義データの場合は、「ACOD」と表示されます。

入力ファイル名 (F)

データが格納されている転送ファイル名を絶対パス名で指定します。

[参照 (B)...]

転送ファイルを選択できます。

情報識別子 (I)

入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データの場合、搬入データの情報識別子を指定します。

ACOD 構成定義データの場合、次に示す二つのテキストボックスに情報識別子を指定します。

- 外部 (A)
搬入する ACOD 外部構成定義データの情報識別子を指定します。
- 内部 (L)
搬入する ACOD 内部構成定義データの情報識別子を指定します。

[OK]

搬入を開始します。

[詳細 (D)]

転送ファイルの内容一覧を表示します。

[キャンセル]

対象構成定義データの搬入を中止します。

(b) 操作方法

入出力構成定義データ，PRMF 構成定義データの場合

次に示す手順で指定します。

1. 転送ファイル名を指定します。
2. 搬入するデータの情報識別子を指定します。
入出力構成定義初期データ，PRMF 構成定義初期データは情報識別子がメンバ名の下 2 けたなので，上 2 けたを - (ハイフン) にして指定します。
なお，512 チャンネル構成定義データの場合は，I/O グループ 0 または 1 どちらかの情報識別子を指定します。
3. [OK] ボタンをクリックします。搬入を中止するには，[キャンセル] ボタンをクリックします。

ACOD 構成定義データの場合

次に示す手順で指定します。

1. 転送ファイル名を指定します。
2. ACOD 外部構成定義データの情報識別子と ACOD 内部構成定義データの情報識別子の両方を指定します。
3. [OK] ボタンをクリックします。搬入を中止するには，[キャンセル] ボタンをクリックします。

(c) 注意事項

- ACONARC チャンネルを定義しているデータは，ACONARC を使用しないプロセサに搬入できません。
- 入出力構成定義データの搬入を開始すると，データベース中のプロセサの定義内容がすべて削除された後，データが搬入されます。また，PRMF 構成定義データの搬入を開始すると，データベース中の PRMF 構成，ゲスト OS の入出力構成・ACOD 構成の定義内容がすべて削除された後，データが搬入されます。搬入を開始した後で搬入を中止しても，削除された定義内容は復元されないため，データベース中の定義内容を確認してから搬入を開始してください。

4.19.2 転送ファイル内容一覧の表示

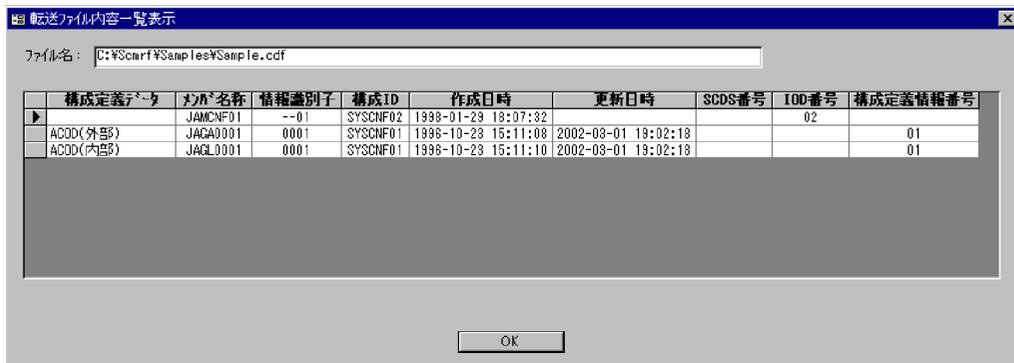
転送ファイルに格納されているデータの一覧を転送ファイル内容一覧表示ダイアログに表示します。

(a) ダイアログの形式

転送ファイル内容一覧表示ダイアログを図 4-121 に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

図 4-121 転送ファイル内容一覧表示ダイアログ



ファイル名

転送ファイル名が表示されます。

構成定義データ

データの種類の種類が表示されます。

メンバ名称

データのメンバ名が表示されます。

情報識別子

データの情報識別子が表示されます。

構成 ID

データの構成 ID が表示されます。

作成日時

データが作成された日時が表示されます。初期データの場合は、SCCP、PRMA E2 (HLUSCCP)、または AOMPLUS が初期データを生成した日時です。

更新日時

データが最後に更新された日時が表示されます。入出力構成定義初期データ、PRMF 構成定義初期データの場合は、空欄になります。

SCDS 番号、IOD 番号

SCDS 番号、IOD 番号が表示されます。データに設定されていない場合は空欄になります。

構成定義情報番号

ACOD 構成定義情報番号が表示されます。データに設定されていない場合は空欄になります。

[OK]

このダイアログを閉じます。

(b) 操作方法

表示するには、次に示す方法があります。

搬入実行ダイアログまたは搬出実行ダイアログからの表示

[詳細 (D)] ボタンをクリックして、転送ファイル内容一覧表示ダイアログを開きます。

そのほかのウィンドウからの表示

1. [ツール (T)] - [転送ファイルの確認 (T)...] を選択して、転送ファイル名入力ダイアログを開きます。転送ファイル名入力ダイアログを図 4-122 に示します。

図 4-122 転送ファイル名入力ダイアログ



2. 転送ファイル名を絶対パス名で指定します。[参照 (B)...] ボタンをクリックして、転送ファイルを選択できます。
3. [OK] ボタンをクリックして、転送ファイル内容一覧表示ダイアログを開きます。表示をやめる場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

4.19.3 搬入時に表示されるウィンドウ

搬入時に表示されるウィンドウについて説明します。

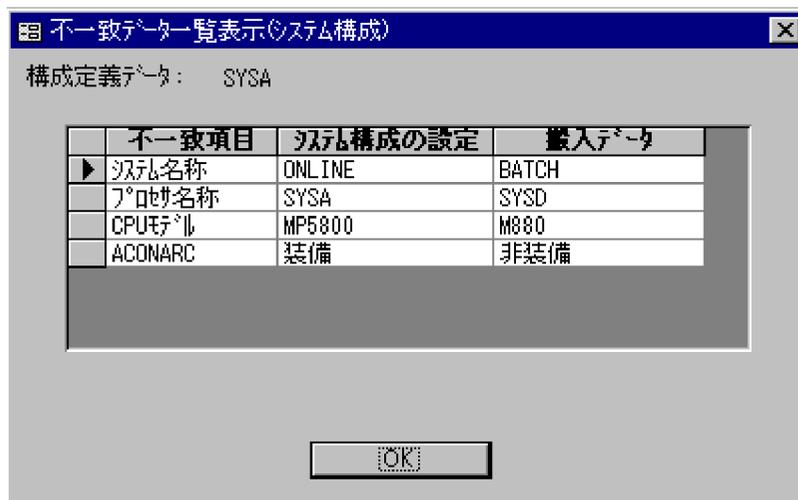
(1) 搬入データと格納先プロセサの不一致

入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データのシステム構成の情報と、格納先プロセサに設定されているシステム構成の情報とで不一致の情報があった場合、エラーメッセージが表示されます。この場合、次に示す方法を選択できます。

- [続行 (G)] ボタンをクリックして、データを搬入します。
- [詳細 (D)...] ボタンをクリックして、不一致の情報を確認します。
- [中止 (A)] ボタンをクリックして、データの搬入を中止します。

搬入データと格納先プロセサの不一致の情報は、不一致データ一覧表示 (システム構成) ダイアログに一覧表示されます。不一致データ一覧表示 (システム構成) ダイアログを図 4-123 に示します。

図 4-123 不一致データ一覧表示 (システム構成) ダイアログ



構成定義データ

搬入対象のプロセサのプロセサ名称が表示されます。

不一致項目

不一致になったデータの管理情報が表示されます。

システム構成の設定

データベースに設定されている管理情報が表示されます。

搬入データ

搬入データの管理情報が表示されます。

[OK]

このダイアログを閉じます。

ダイアログを閉じるとエラーメッセージに戻ります。

(2) 搬入データと格納先データベースの ACOD の ACOD モデルの不一致

入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データに定義されている ACOD と、データベースに定義されている ACOD の ACOD モデルが不一致だった場合、エラーメッセージが表示されます。この場合、次に示す方法を選択できます。

- [続行 (G)] ボタンをクリックして、データを搬入します。
- [詳細 (D)...] ボタンをクリックして、不一致の情報を確認します。
- [中止 (A)] ボタンをクリックして、データの搬入を中止します。

搬入データと格納先プロセサの不一致の情報は、不一致データ一覧表示 (ACOD) ダイアログに一覧表示されます。不一致データ一覧表示 (ACOD) ダイアログを図 4-124 に示します。

図 4-124 不一致データ一覧表示 (ACOD) ダイアログ

**構成定義データ**

入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データの場合は、搬入対象のプロセッサ名称が表示されます。ACOD 構成定義データの場合は「ACOD」が表示されます。

ACOD 名称

搬入データに定義されている ACOD に対する入出力制御装置名称が表示されます。

不一致項目

「ACOD モデル」が表示されます。

データベース

データベースに設定されている ACOD モデルが表示されます。

搬入データ

搬入データに定義されている ACOD モデルが表示されます。

[OK]

このダイアログを閉じます。

(3) PRMF 構成とゲスト OS の不一致

入出力構成定義データ (ゲスト OS) を搬入すると、データベース中の PRMF 構成と、搬入データとの間で整合チェックが実行されます。PRMF 構成と搬入データの入出力構成が一致しない場合は、ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウ (図 4-125 参照) が表示されます。PRMF 構成と搬入データの ACOD 構成が一致しない場合は、ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ (「4.6.3 エラーチェックの実行」参照) が表示されます。

図 4-125 ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウ



搬入プロセッサ名称

搬入データのプロセッサ名称が表示されます。

搬入先 PRMF 構成

ゲスト OS が動作する物理プロセッサおよび LPAR が表示されます。

エラーの種類, キー値, 状態, 不一致項目

PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウと同じ形式で表示されます。PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウについては、「4.6.3 エラーチェックの実行」を参照してください。

注意事項

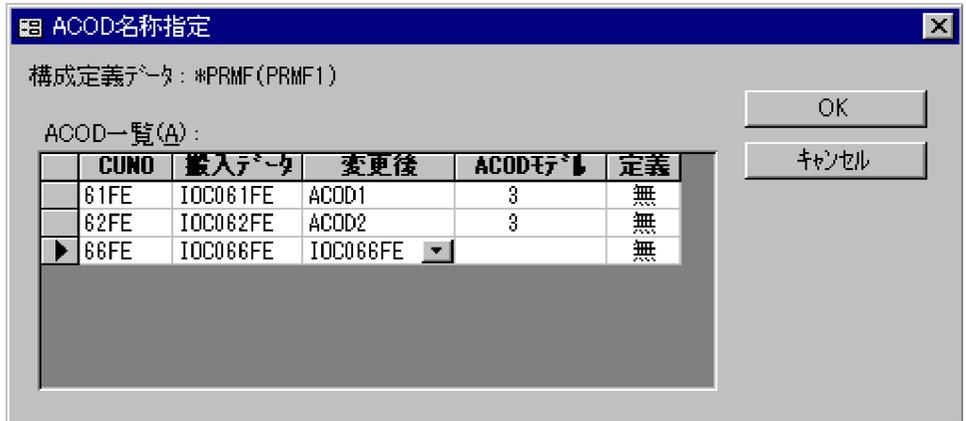
- 表示した結果を印刷する手順については、「4.15.1 印刷」を参照してください。
- 搬入を実行するとき、ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウおよび ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウは閉じてください。

(4) ACOD 名称および ACOD モデルの指定

入出力構成定義初期データまたは PRMF 構成定義初期データに定義されている ACOD に対する入出力制御装置に対して、ACOD 名称を指定します。

ACOD 名称指定ダイアログを図 4-126 に示します。

図 4-126 ACOD 名称指定ダイアログ



構成定義データ

搬入対象のプロセサ名称が表示されます。

ACOD 一覧 (A)

入出力構成定義初期データまたは PRMF 構成定義初期データに定義されている ACOD に対する入出力制御装置が表示されます。

CUNO

ACOD に対する入出力制御装置の制御装置番号が表示されます。

搬入データ

制御装置番号から仮定される IOC 名称「IOC0xxxx」(xxxx: 制御装置番号) が表示されます。

変更後

データベースに格納するときの ACOD 名称を指定します。データベース中に定義されている ACOD 名称から選択できます。指定しない場合、搬入データに指定されている ACOD 名称が仮定されます。

ACOD モデル

定義フィールドに「無」が表示されている場合に、ACOD モデルを指定します。定義フィールドに「有」が表示されている場合は、データベースに定義されている ACOD モデルが表示されます。データベースに定義されている ACOD モデルは、搬入時には変更できません。

定義

指定している ACOD 名称が、データベース中に定義されているかどうかが表示されます。

- ・ 有：データベース中に定義されていることを示します。
- ・ 無：データベース中に定義されていないことを示します。

[OK]

指定した ACOD 名称で入出力構成定義データまたは PRMF 構成定義データを搬入します。

[キャンセル]

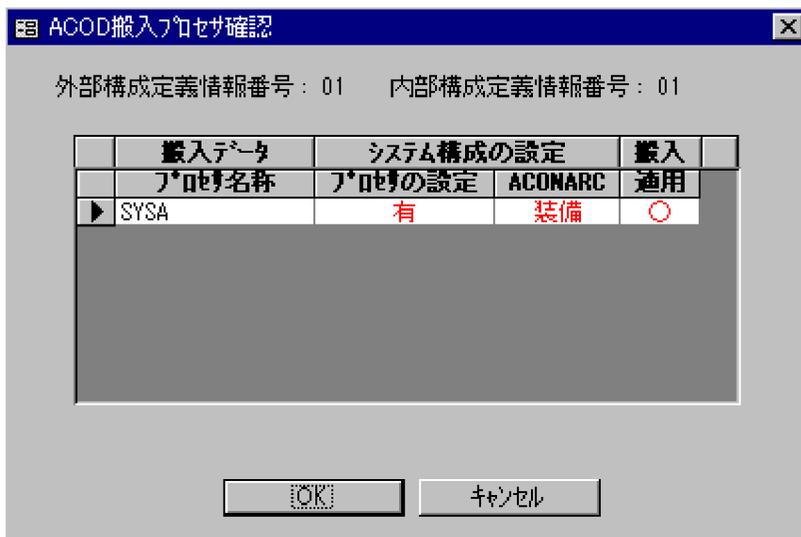
データの搬入を中止します。

(5) 搬入データに定義されているプロセサ名称または物理プロセサ名称の確認

ACOD 構成定義データを搬入するプロセサまたは物理プロセサを、ACOD 搬入プロセサ確認ダイアログで確認します。

ACOD 搬入プロセサ確認ダイアログを図 4-127 に示します。

図 4-127 ACOD 搬入プロセサ確認ダイアログ



外部構成定義情報番号，内部構成定義情報番号

搬入データの ACOD 構成定義情報番号が表示されます。

搬入データ

搬入データの内容が表示されます。

プロセサ名称

搬入データに定義されているプロセサまたは物理プロセサが表示されます。

システム構成の設定

データベースに設定されている管理情報が表示されます。

プロセサの設定

プロセサ名称で示されるプロセサまたは物理プロセサがデータベースに定義されているかどうかが表示されます。

- 有：データベース中にプロセサまたは物理プロセサが定義されていることを示します。
- 無：データベース中にプロセサまたは物理プロセサが定義されていないことを示します。

ACONARC

プロセサ名称で示されるプロセサまたは物理プロセサの ACONARC 装備・非装備の設定が表示されます。データベース中にプロセサが設定されていない場合は空欄になります。

搬入適用

搬入データに定義されているプロセサまたは物理プロセサに関する情報が搬入できるかどうかが表示されます。

- ○：搬入できます。
- ×：搬入できません。

[OK]

プロセサまたは物理プロセサに ACOD 構成定義データを搬入します。

[キャンセル]

ACOD 構成定義データの搬入を中止します。

(6) 生成された ACOD 経路・生成されなかった ACOD 経路の表示

プロセサまたは物理プロセサに ACOD 構成定義データを搬入する操作をすると、データベース中の入出力構成（PRMF を使用する場合の入出力構成を含む）と、搬入する ACOD 構成定義データ間で整合チェックが実行された後、ACOD 経路が生成されます。

ACOD 経路が生成された後、生成された ACOD 経路の数と、正常に生成されないでエラーになった ACOD 経路（エラー経路）の数がメッセージで表示されます。このとき、次に示す方法を選択できます。

- [続行 (G)] ボタンをクリックして、生成された ACOD 経路を搬入します。エラー経路は搬入されません。
- [詳細 (D)...] ボタンをクリックして、生成された ACOD 経路を確認します。

(a) 生成された ACOD 経路の確認

生成された ACOD 経路は、ACOD 経路生成結果表示ダイアログで確認します。ACOD 経路生成結果表示ダイアログを図 4-128 に示します。

図 4-128 ACOD 経路生成結果表示ダイアログ



プロセッサ名称 (P)

ACOD 経路を表示するプロセッサまたは物理プロセッサを選択します。

エラー経路数

エラーになった ACOD 経路の数が表示されます。

[エラー詳細 (D)]

エラー番号に対応するエラーメッセージを表示します。

経路一覧 (T)

チャンネルパス ID を基準に、生成した ACOD 経路が一覧に表示されます。

ERROR

エラー経路の場合、エラー番号が表示されます。

PATHID

搬入するデータに定義されているチャンネルパス ID が表示されます。

ACOD 名称 1, IN1, 接続属性, OUT1

1 段接続の場合の ACOD, または多段接続の場合のチャンネル側 ACOD の次に示す値が表示されます。

- チャンネルに接続する ACOD の ACOD 名称
- チャンネルに接続するポートのポートアドレス
- ポートの接続属性
- 入出力制御装置 (多段接続の場合入出力制御装置側 ACOD) に接続するポートのポートアドレス

ACOD 名称 2, IN2, 接続属性, OUT2

多段接続の場合, 入出力制御装置側 ACOD の次に示す値が表示されます。

- 入出力制御装置に接続する ACOD の ACOD 名称
- チャネル側 ACOD に接続するポートのポートアドレス
- ポートの接続属性
- 入出力制御装置に接続するポートのポートアドレス

IOC 名称

搬入するデータに定義されている IOC 名称が表示されます。

[OK]

エラーがない ACOD 経路を搬入します。

[全プロセッサ分のレポート表示 (R)]

生成された ACOD 経路を全プロセッサ分表示します。

[キャンセル]

生成した ACOD 経路をすべて破棄し, 搬入を中止します。

(b) 生成された ACOD 経路の表示

エラーになった ACOD 経路を定義時に参照するために ACOD 経路を表示するには, [全プロセッサ分のレポート表示 (R)] ボタンをクリックして, ACOD 経路生成結果表示ウィンドウを開きます。

ACOD 経路生成結果表示ウィンドウを図 4-129 に示します。

図 4-129 ACOD 経路生成結果表示ウィンドウ

プロセッサ名称	ERROR	PATHID	ACOD名称1	IN1	接続属性	OUT1	ACOD名称2	IN2	接続属性	OUT2	IOC名称
SYS A		61	ACOD1	C1	動的	FE					ACOD1
SYS A		66	ACOD3	80	動的	D4					SDIR1
SYS A		66	ACOD3	80	動的	FE					ACOD3
SYS A		76	ACOD3	81	動的	D2					SDIR2
SYS A	E7906	80	ACOD3	82	動的	E0					CCP1
SYS A	E7906	81	ACOD3	83	動的	E0					CCP2
SYS A	E7906	82	ACOD3	84	動的	E0					CCP3
SYS A	E7906	83	ACOD3	85	動的	E0					CCP4

ACOD 経路生成結果表示ダイアログの内容が, 全プロセッサ分表示されます。

注意事項

- このウィンドウは ACOD 経路生成結果表示ダイアログの後ろに表示されるので, 搬

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

入が終了した後でウィンドウをアクティブにします。

- 表示した結果を印刷する場合は、搬入が終了した後に実行します。印刷の手順については、「4.15.1 印刷」を参照してください。
- ACOD 構成定義データの搬入を実行するとき、このウィンドウを閉じてください。

4.20 搬出

データベースのデータを転送ファイルに搬出する方法を説明します。

4.20.1 搬出の指定

搬出するときのデータの指定方法について説明します。

(1) 搬出データの指定

搬出する定義データは搬出ウィンドウで指定します。搬出ウィンドウには、データベースに格納されているすべての定義データが表示されます。表示された定義データの中から一つまたは複数選択できます。選択した定義データはすべて一つの転送ファイルに格納されます。

(a) ウィンドウの形式

搬出ウィンドウを図 4-130 に示します。

図 4-130 搬出ウィンドウ

**システム名称**

データベースを識別するシステム名称が表示されます。

入出力構成定義データ (N)

入出力構成定義データおよび PRMF 構成定義データについての情報が表示されます。

対象

搬出する定義データを選択します。

ERROR

エラー番号が表示されます。

プロセサ名称

定義データを識別する名称が表示されます。

状態

搬出できるかどうかが表示されます。

- 搬出可: 定義データを搬出できることを示します。

- 搬出否：定義データを搬出できないことを示します。
- 不明：一度もエラーチェックを実行していない、またはメインウィンドウで表示する更新日時がエラーチェック日時よりも新しいことを示します。

搬出日時

データを搬出したことがある場合、最後に搬出した日時が表示されます。

ACOD 構成定義データ

ACOD 構成定義データについての情報が表示されます。ACONARC 制御機能を使用する場合に次に示す情報が表示されます。

対象 (S)

搬出するかどうかを選択します。

状態

ACOD 構成定義データを搬出できるかどうかが表示されます。

- 搬出可：搬出できることを示します。
- 搬出否：搬出できないことを示します。
- 不明：一度もエラーチェックを実行していない、またはメインウィンドウで表示する更新日時がエラーチェック日時よりも新しいことを示します。

搬出日時

データを搬出したことがある場合、最後に搬出した日時が表示されます。

ERROR(C)

エラー番号が表示されます。

[実行 (X)...]

搬出対象として選択した定義データの搬出を実行します。

(b) 操作方法

入出力構成定義データ・PRMF 構成定義データの指定

1. 搬出する定義データを選択して、対象フィールドのチェックボックスをオンにします。複数の定義データを選択できます。
なお、512 チャンネル構成の場合、物理 CPU、物理プロセサ (I/O グループ) のうち物理 CPU だけ選択できます。
2. [実行 (X)...] ボタンをクリックして、搬出実行ダイアログを開きます。

ACOD 構成定義データの指定

1. [対象 (S)] チェックボックスをオンにします。
2. [実行 (X)...] ボタンをクリックして、搬出実行ダイアログを開きます。

(c) 注意事項

状態フィールドに「不明」と表示されている定義データを選択すると、構成定義データチェックを実行するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。メッセージで [はい] ボタンをクリックすると、構成定義データチェックが実行されます。定義データにエラーがあった場合、構成定義データチェックダイアログから構成定義データチェック結

果表示ウィンドウを開いて、エラーを確認してください。

(2) 搬出する転送ファイルの指定

搬出データを格納する転送ファイルを、搬出実行ダイアログで指定します。

(a) ダイアログの形式

搬出実行ダイアログを図 4-131 および図 4-132 に示します。

図 4-131 搬出実行ダイアログ



図 4-132 搬出実行ダイアログ (512 チャンネル構成定義データの場合)



対象構成定義データ

入出力構成定義データの場合プロセッサ名称が、PRMF 構成定義データの場合物理プロセッサ名称が、ACOD 構成定義データの場合「ACOD (外部)」および「ACOD (内部)」が表示されます。なお、512 チャンネル構成定義データの場合、物理プロセッサ (I/O グループ 0, 1) 名称のほかに物理 CPU 名称も表示されます。

メンバ名称

構成定義データに設定した情報識別子に、次に示すメンバ種別が付加された名称が表示されます。

- 入出力構成定義データの場合：JAGC
- PRMF 構成定義データの場合：JAGH
- ACOD 外部構成定義データの場合：JAGA
- ACOD 内部構成定義データの場合：JAGL

なお、512 チャンネル構成定義データの場合、物理 CPU 名称のメンバ名称フィールドは "-----" を表示します。

出力ファイル名 (F)

データを格納する転送ファイル名を絶対パス名で指定します。

[参照 (B)...]

転送ファイルを選択できます。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

[OK]

搬出を開始します。

[詳細 (D)]

転送ファイルの内容一覧を表示します。

[キャンセル]

搬出を中止し、搬出ウィンドウに戻ります。

(b) 操作方法

転送ファイル名を指定して、[OK] ボタンをクリックします。

(c) 注意事項

- 既存の転送ファイルを指定して搬出を開始すると、既存の転送ファイルのデータが削除された後、指定したデータが格納されます。このため、転送ファイルの内容を確認してから搬出を開始してください。

4.21 ファイル転送

ホストとのデータをやりとりするためのファイル転送の方法を説明します。

4.21.1 ファイル転送の指定

ファイル転送に必要な各種情報（ホストに接続するための情報、対象ファイル情報など）を、ファイル転送ダイアログで指定します。

(1) ファイル転送ダイアログの形式

ファイル転送ダイアログを図 4-133 に示します。この図は、メニューからファイル転送する場合の表示例です。

図 4-133 ファイル転送ダイアログ

図 4-133 ファイル転送ダイアログのスクリーンショット。ダイアログには以下の項目が含まれています。

- 転送種別:** ホスト->PC、 PC->ホスト
- ホスト接続情報:**
 - IPアドレス: xxx.xxx.xxx.xxx
 - ポート番号: 21
 - ユーザID: SYSMNGR
 - パスワード: *****
 - その他: S(4096)
- ホスト側:**
 - データセット名: SYSGEN.PARM
 - メンバー名: (空)
 - メンバの置換
- PC側:**
 - ファイル名: C:\\$Scmrf\Samples\Parm\JAGC0A02
 - ファイルの置換
- コード変換:** コード変換有り、 コード変換無し

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

転送種別

ファイル転送の種別を選択します。

ホスト - > PC(C)

ホストから PC へファイル転送をする場合に選択します。

PC - > ホスト (H)

PC からホストへファイル転送する場合に選択します。

ホスト接続情報

ホスト接続情報を設定します。

IP アドレス (I)

ファイル転送したいホスト (VOS3) 側の IP アドレスまたはホスト名を指定します。

ポート番号 (R)

ホスト (VOS3) 側のポート番号を指定します。

[標準 (D)]

FTP で標準ポート番号を使用する場合にこのボタンを押します。

ユーザ ID(U)

FTP による転送時に使用するユーザ名を指定します。

パスワード (P)

ユーザ ID に対するパスワードを指定します。

その他 (A)

FTP による転送時にユーザ ID/ パスワードのほかに必要な情報 (課金情報など) を指定します。指定項目が 2 項目以上の場合は間に空白を指定します。

【指定例】

"G(G1234567) S(6500)"

ホスト側

ホスト側のデータセットを指定します。指定できるデータセット種別は、順データセットと区分データセットだけです。

データセット名 (T)

ホスト側のデータセット名を指定します。

指定形式は、部分データセット (アポストロフィなし)、または完全データセット (アポストロフィあり) です。

メンバ名 (M)

データセット種別が区分データセットの場合、メンバ名を指定します。

メンバの置換 (E)

転送種別が [PC - > ホスト] の場合、ホスト側に指定したメンバが存在するときにメンバを置換するかどうかを指定します。

PC 側

PC 側の転送ファイルを指定します。

ファイル名 (F)

PC 側の転送ファイル名を絶対パス名で指定します。

[参照 (B)...]

PC 側のファイルを選択できます。

ファイルの置換 (L)

転送種別が [ホスト - > PC] の場合、PC 側に指定したファイルが存在するときにファイルを置換するかどうかを指定します。

コード変換

転送ファイルのコードを変換するかどうかを選択します。

- コード変換有り (Y)
コード変換が必要な場合に選択します。
- コード変換無し (N)
コード変換が不要な場合に選択します。

[OK]

ファイル転送を開始します。ファイル転送実行中は、ステータスバーに転送ファイル名が完全パス名で表示されます。

[キャンセル]

ファイル転送を中止します。

(2) 操作方法

ファイル転送ダイアログは、[ツール (T)] - [ファイル転送 (F)] メニューを選択して開きます。

また、オプションダイアログ (ファイル転送オプション) での指定により、搬入、搬出、およびゼネレーションパラメタ生成の実行と同期させて自動的に開くことができます。

(3) 注意事項

搬入、搬出、およびゼネレーションパラメタ生成の実行と同期させてファイル転送を実行する場合、「転送種別」や「コード変換」といった情報は同期する操作により自動的に設定されます。

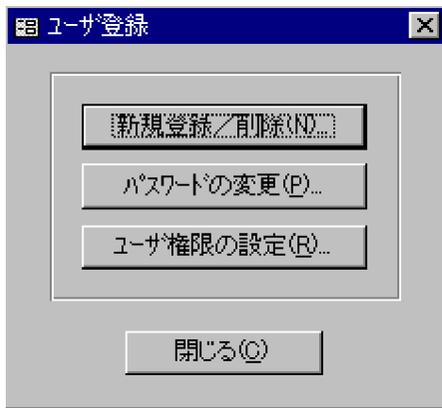
4.22 ユティリティの操作

ユティリティの操作について説明します。

4.22.1 ユーザの登録

SCMRF CD for Windows のユーザの登録は、ユーザ登録ダイアログから操作します。
ユーザ登録ダイアログを図 4-134 に示します。

図 4-134 ユーザ登録ダイアログ



[新規登録 / 削除 (N)...]

ユーザの新規登録または削除をします。

[パスワードの変更 (P)...]

ログオンしたユーザが自分のパスワードを変更します。

[ユーザ権限の設定 (R)...]

ユーザ権限を設定します。

ユーザの登録を終了するには、[閉じる (C)] ボタンをクリックします。

(1) ユーザの新規登録・削除

ユーザの新規登録または削除をするには、新規登録 / 削除ダイアログを開きます。

新規登録 / 削除ダイアログを図 4-135 に示します。

図 4-135 新規登録 / 削除ダイアログ



このダイアログを閉じるには、[閉じる (C)] ボタンをクリックします。

ユーザの新規登録手順

1. [ユーザ名 (U)] テキストボックスに、登録するユーザ名を半角 8 文字以内の英数字で指定します。
2. [新規登録 (N)] ボタンをクリックして、指定したユーザを登録します。

ユーザの削除手順

登録されているユーザ名の中で、管理者権限を持つユーザ名が一つだけの場合は、そのユーザ名を削除できません。

1. [ユーザ名 (U)] テキストボックスに、削除するユーザ名を入力するか、または既に登録されているユーザ名をコンボボックスで選択します。
2. [削除 (D)] ボタンをクリックして、指定したユーザを削除します。

注意事項

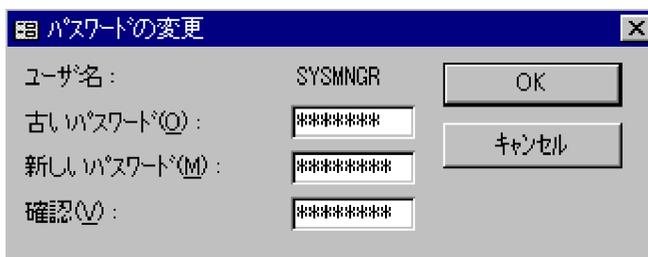
- 管理者権限を持つユーザがユーザを新規登録、および削除できます。
- 管理者権限を持つユーザを一つ以上登録しておく必要があります。

(2) パスワードの設定・変更

ログオンしたユーザが自分のパスワードを変更するには、パスワードの変更ダイアログを開きます。

パスワードの変更ダイアログを図 4-136 に示します。

図 4-136 パスワードの変更ダイアログ



パスワードの変更手順を次に示します。

4. SCMRF CD for Windows の使用方法

1. [古いパスワード (O)] テキストボックスに現在のパスワードを指定します。パスワードを設定していない場合は、何も指定しません。
2. [新しいパスワード (M)] テキストボックスに変更後のパスワードを半角 8 文字以内で指定します。
3. [確認 (V)] テキストボックスに変更後のパスワードをもう一度指定します。
4. [OK] ボタンをクリックします。パスワードの変更を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(3) ユーザ権限の設定

ユーザ権限を設定するには、ユーザ権限の設定ダイアログを開きます。ユーザ権限の設定ダイアログを図 4-137 に示します。

図 4-137 ユーザ権限の設定ダイアログ



ユーザ権限の設定手順を次に示します。

1. ユーザ権限を設定するユーザ名を選択します。
2. 与えるユーザ権限のチェックボックスをオンにします。権限を与えない場合はチェックボックスをオフにします。
3. [設定 (S)] ボタンをクリックして、ユーザに指定した権限を与えます。
4. ユーザ権限の設定を終了するには、[閉じる (C)] ボタンをクリックします。

注意事項

管理者権限を持つユーザがユーザ権限を設定できます。管理者権限を持たないユーザは、自分の権限を参照できます。

4.22.2 データベースの操作

データベースの操作方法について説明します。

(1) データベースの作成

次に示す手順でデータベースを作成します。

1. データベースの作成ダイアログを開きます。
2. ファイルの種類に「データベース (*.accdB)」が表示されていることを確認します。
3. 作成するデータベースのドライブ、フォルダ、ファイル名を指定します。

4. [保存(S)] ボタンをクリックします。データベースの作成を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

注意事項

管理者権限を持つユーザがデータベースを作成できます。

(2) データベースの選択

データベースを選択する手順を次に示します。選択したデータベースは、構成定義を起動したときに表示されます。

1. データベースの選択ダイアログを開きます。
2. ファイルの種類に「データベース (*.acddb)」が表示されていることを確認します。
3. 選択するデータベースのドライブ、フォルダ、ファイル名を指定します。
4. [開く(O)] ボタンをクリックします。選択を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(3) データベースの最適化

次に示す手順でデータベースを最適化します。

1. 最適化元データベースダイアログを開きます。
2. ファイルの種類に「データベース (*.acddb)」が表示されていることを確認します。
3. 最適化するデータベースのドライブ、フォルダ、ファイル名を指定します。
4. [開く(O)] ボタンをクリックして、最適化先データベースダイアログを開きます。最適化を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。
5. 最適化先データベースダイアログのファイルの種類に「データベース (*.acddb)」が表示されていることを確認します。
6. 最適化した後のデータベースのドライブ、フォルダ、ファイル名を指定します。
7. [保存(S)] ボタンをクリックします。最適化を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

注意事項

管理者権限を持つユーザがデータベースを最適化できます。

(4) データベースの修復

次に示す手順でデータベースを修復します。

1. データベースの修復ダイアログを開きます。
2. ファイルの種類に「データベース (*.acddb)」が表示されていることを確認します。
3. 修復するデータベースのドライブ、フォルダ、ファイル名を指定します。
4. [開く(O)] ボタンをクリックします。データベースの修復を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

注意事項

管理者権限を持つユーザがデータベースを修復できます。

(5) データベースの変換

次に示す手順でデータベースを変換します。

1. 変換元データベースダイアログを開きます。
2. ファイルの種類に「データベース (*.accdb ; *.mdb ; *.mda)」が表示されていることを確認します。
3. 変換するデータベースのドライブ、フォルダ、ファイル名を指定します。
4. [開く(O)] ボタンをクリックして、変換先データベースダイアログを開きます。変換を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。
5. 変換先データベースダイアログのファイルの種類に「データベース (*.accdb)」が表示されていることを確認します。
6. 変換した後のデータベースのドライブ、フォルダ、ファイル名を指定します。
7. [保存(S)] ボタンをクリックします。変換を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

注意事項

- 管理者権限を持つユーザがデータベースを変換できます。
- 変換後のデータベースは変換前のバージョンでは使用できません。

4.23 FBD の定義

FBD の定義方法は ACOD と同じですが、「ディレクタ定義ウィンドウ」はシステム構成の設定ウィンドウのディレクタ定義オプションの指定値によって表示される項目が一部異なります。

- 「ACOD を定義する」と「FBD を定義する」の両方を指定した場合、ACOD と FBD の両方が定義できるため、ディレクタの種別（FBD か、ACOD か）を選択する項目が追加されます。
- 「ACOD を定義する」を指定していない場合は、ACOD 用の定義項目（ディレクタの種別と ACOD モデル）が不要なため、表示されません。

この節では、ACOD を定義する場合と表示項目が異なる「ディレクタ定義ウィンドウ」、「構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウ」について説明します。

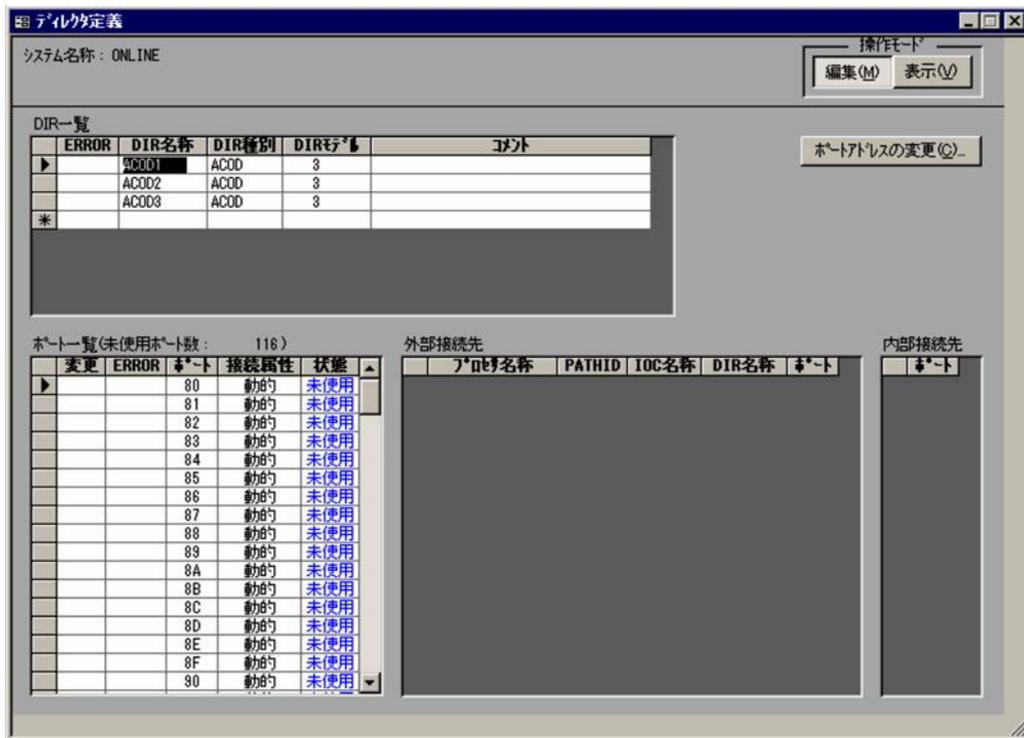
4.23.1 ディレクタ名称の定義

ディレクタ定義ウィンドウで、全プロセッサおよび物理プロセッサで使用するディレクタを追加・削除します。

(1) ウィンドウの形式

ディレクタ定義ウィンドウを図 4-138 に示します。

図 4-138 ディレクタ定義ウィンドウ



DIR 一覧

定義しているディレクタが表示されます。また、ディレクタを追加・削除します。

ERROR

エラー番号が表示されます。

DIR 名称

ディレクタを識別するための名称を指定します。

DIR 種別

ディレクタの種別を指定します。

- ACOD : ACONARC ディレクタ
- FBD : FIBARC ディレクタ

DIR モデル

DIR 種別が「ACOD」の場合、ACOD モデルを指定します。

コメント

ディレクタに対するコメントを指定します。全角ならば 32 文字、半角ならば 64 文字以内で指定します。コメントは省略できます。

注 システム構成の設定ウィンドウのディレクタ定義オプションで「ACOD を定義する (K)」を指定した場合に表示されます。

[ポートアドレスの変更 (C)...]

ポート一覧で選択しているポートに対して、ポートアドレス変更機能を実行します。

ポート一覧

DIR 一覧で選択しているディレクトクのポートが表示されます。

未使用ポート数

外部・内部のどちらも接続していないポートの数が表示されます。

変更

変更種別が表示されます。

ERROR

エラー番号が表示されます。

ポート

すべてのポートのポートアドレスが表示されます。

接続属性

定義しているポートの接続属性が表示されます。

- 動的接続：動的
- 占有接続：占有
- 切替可能占有接続：占有切替

未使用のポートにはすべて「動的」が表示されます。

状態

ポートの接続を定義しているかどうかが表示されます。

- 使用（黒色）：接続定義ウィンドウで接続を定義している
- 使用（赤色）：ディレクトク経路定義ウィンドウで接続を定義している
- 未使用：接続を定義していない

外部接続先

選択しているポートが外部接続している接続先が表示されます。

プロセッサ名称, PATHID

ポートがチャンネルと接続している場合、接続先チャンネルのプロセッサのプロセッサ名称と、接続先チャンネルのチャンネルパス ID が表示されます。

IOC 名称

ポートが入出力制御装置と接続している場合、接続先入出力制御装置の IOC 名称が表示されます。

DIR 名称, ポート

ポートがディレクトクと多段接続している場合、接続先ディレクトクの名称と、接続先ポートのポートアドレスが表示されます。

内部接続先

選択しているポートが内部接続している接続先のポートが表示されます。

ポート

接続先ポートのポートアドレスが表示されます。

(2) 操作方法

ディレクトリの追加・削除

追加するには、追加用レコードに追加するディレクトリの DIR 名称を指定して、必要ならばコメントを指定します。削除するには、削除するディレクトリのレコードを削除します。

指定値の変更

指定値を変更するには、値を上書きします。

ポートアドレス変更機能の実行

1. DIR 一覧でポートアドレスを変更するディレクトリを選択した後、ポート一覧で、変更するポートを選択します。
2. [ポートアドレスの変更(C)...] ボタンをクリックして、ポートアドレスの変更ダイアログを開きます。
ポートアドレスの変更ダイアログを図 4-139 に示します。

図 4-139 ポートアドレスの変更ダイアログ (ディレクトリ)



3. 変更後のポートアドレスを指定します。変更できるポートアドレスの中から選択できます。
4. [OK] ボタンをクリックすると、ポートアドレスが変更されます。ポートアドレスの変更を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

(3) 注意事項

- ディレクトリに対する入出力制御装置を定義している場合、ディレクトリに対する入出力制御装置の IOC 名称と DIR 名称を一致させる必要があります。
- ディレクトリを削除すると、ディレクトリに対する入出力制御装置が削除されます。ただし、ディレクトリの入出力装置は削除されません。また、ディレクトリを削除すると、削除したディレクトリを経由するすべてのディレクトリ経路 (多段接続も含む) とリンクアドレスが削除されます。
- ポートアドレス変更機能では、次に示す変更が実行できません。
 - 変更前のポートと同じポートアドレスのポートに変更する
 - ポートアドレス「FE」に変更する
 - 未使用のポート同士を変更する

- FBD は多段接続できません。
- ACONARC チャネルを FBD に接続することはできません。

4.23.2 ディレクタ構成の表示

システムに定義されているディレクタの名称、ディレクタモデル、コメントの一覧を構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウで表示できます。構成定義表示ダイアログの [ディレクタ] タブを選択し、DIR 名称、ポートアドレスを指定して [OK] ボタンをクリックすると、構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウが表示されます。構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウを図 4-140 に示します。

図 4-140 構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウ



構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウの表示内容を表 4-24 に示します。

表 4-24 構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウの表示内容

見出し	表示内容
システム名称, ACOD 構成 - 構成 ID , 更新日時 , ACOD 外部情報識別子 / 構成定義情報番号 , ACOD 内部情報識別子 / 構成定義情報番号	メインウィンドウの内容
作成日時 (ACOD 外部情報識別子 / 構成定義情報番号の次) , 作成日時 (ACOD 内部情報識別子 / 構成定義情報番号の次)	ベースシステム情報表示ダイアログの内容
DIR 名称, DIR 種別, DIR モデル, コメント	ディレクタ定義ウィンドウの定義内容

注 ACONARC 制御機能を使用する場合に表示されます。

5

使用例

この章では、SCMRF CD for Windows の構成定義例，操作例について説明します。

5.1 構成定義例

5.2 PRMF を使用する場合の構成定義例

5.3 多段接続の ACOD 経路の変更例

5.4 操作支援機能を用いた操作例

5.1 構成定義例

ローカル複合プロセサシステムの構成定義例を説明します。なお、ここで説明する構成はサンプルデータとして SCMRF CD for Windows に組み込まれています。

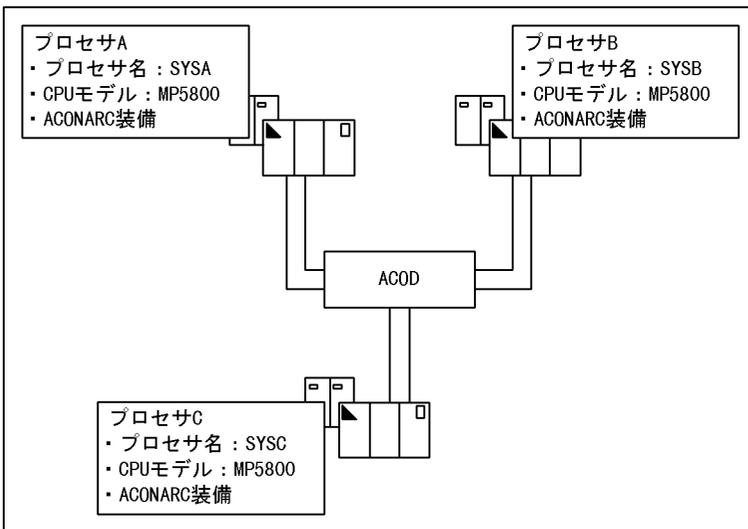
5.1.1 前提構成

(1) システム構成例

構成例のシステムは、三つのプロセサから構成されるローカル複合プロセサシステムです。システム構成例を図 5-1 に示します。

図 5-1 システム構成例

ローカル複合プロセサシステム（システム名称：ONLINE）



プロセサ A, プロセサ B, プロセサ C は ACOD を経由して接続しています。接続する ACOD は AOMPLUS の ACONARC 制御機能で制御します。

(2) プロセサの構成例

プロセサ A の入出力構成・ACOD 構成を図 5-3 ~ 図 5-8 に示します。なお、構成図は図 5-2 に示す形式で記述しています。

図 5-2 構成図の記述形式

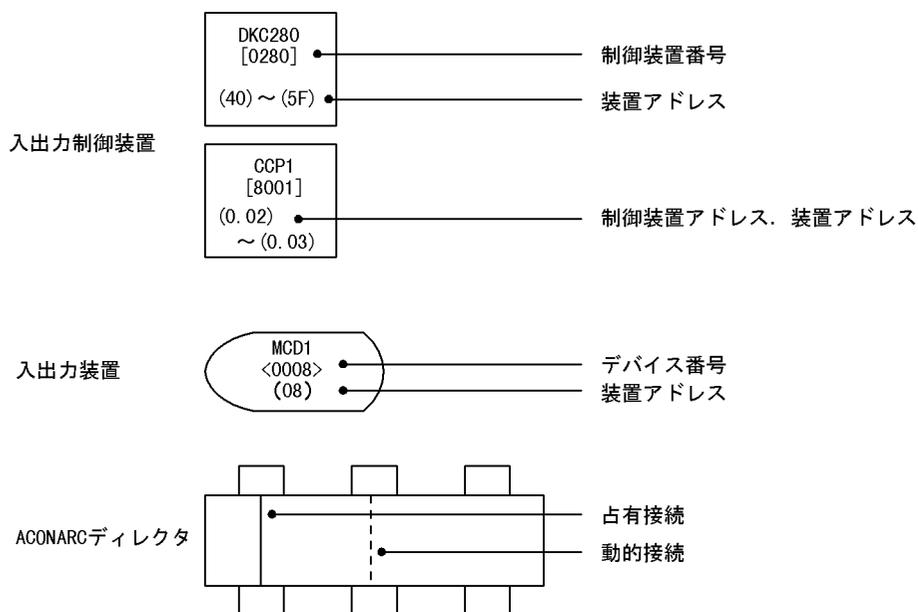


図 5-3 プロセサ A の構成 (1 / 6)

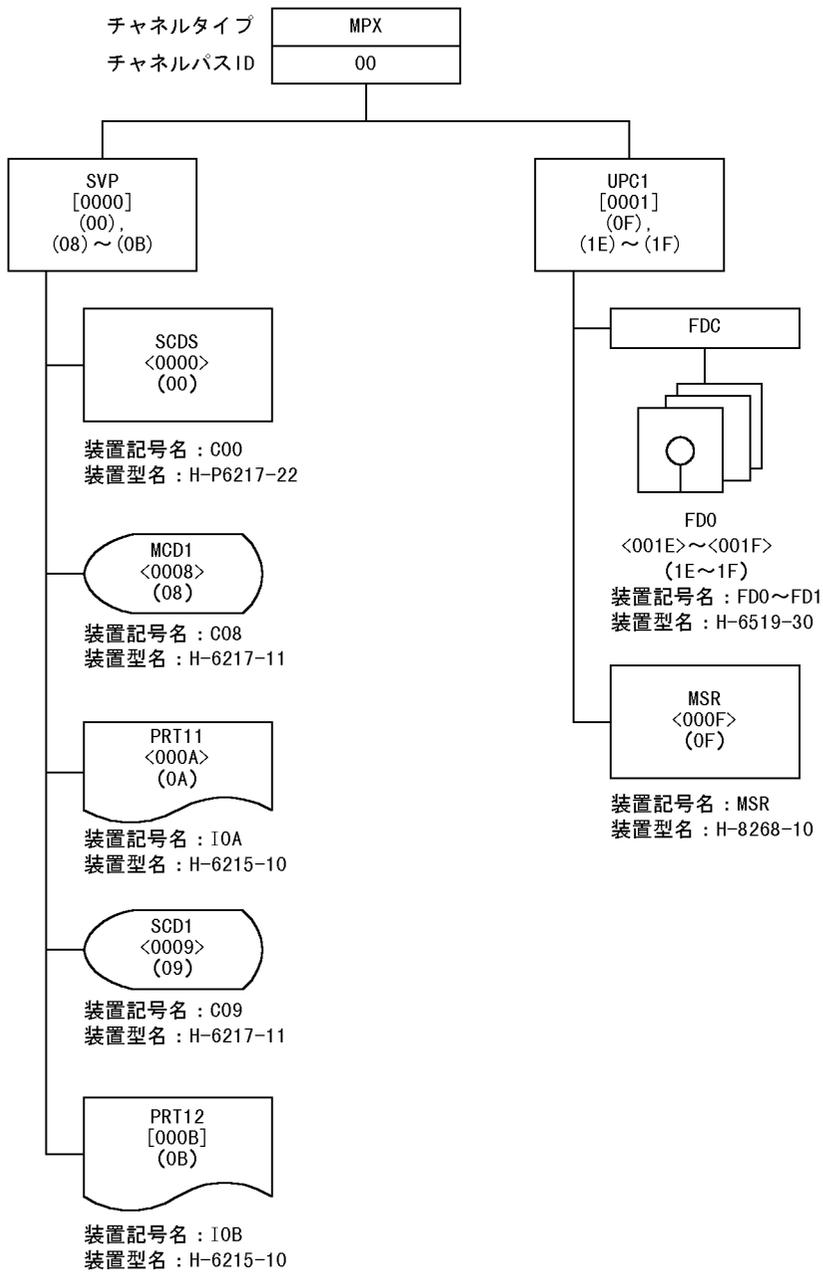


図 5-4 プロセサ A の構成 (2 / 6)

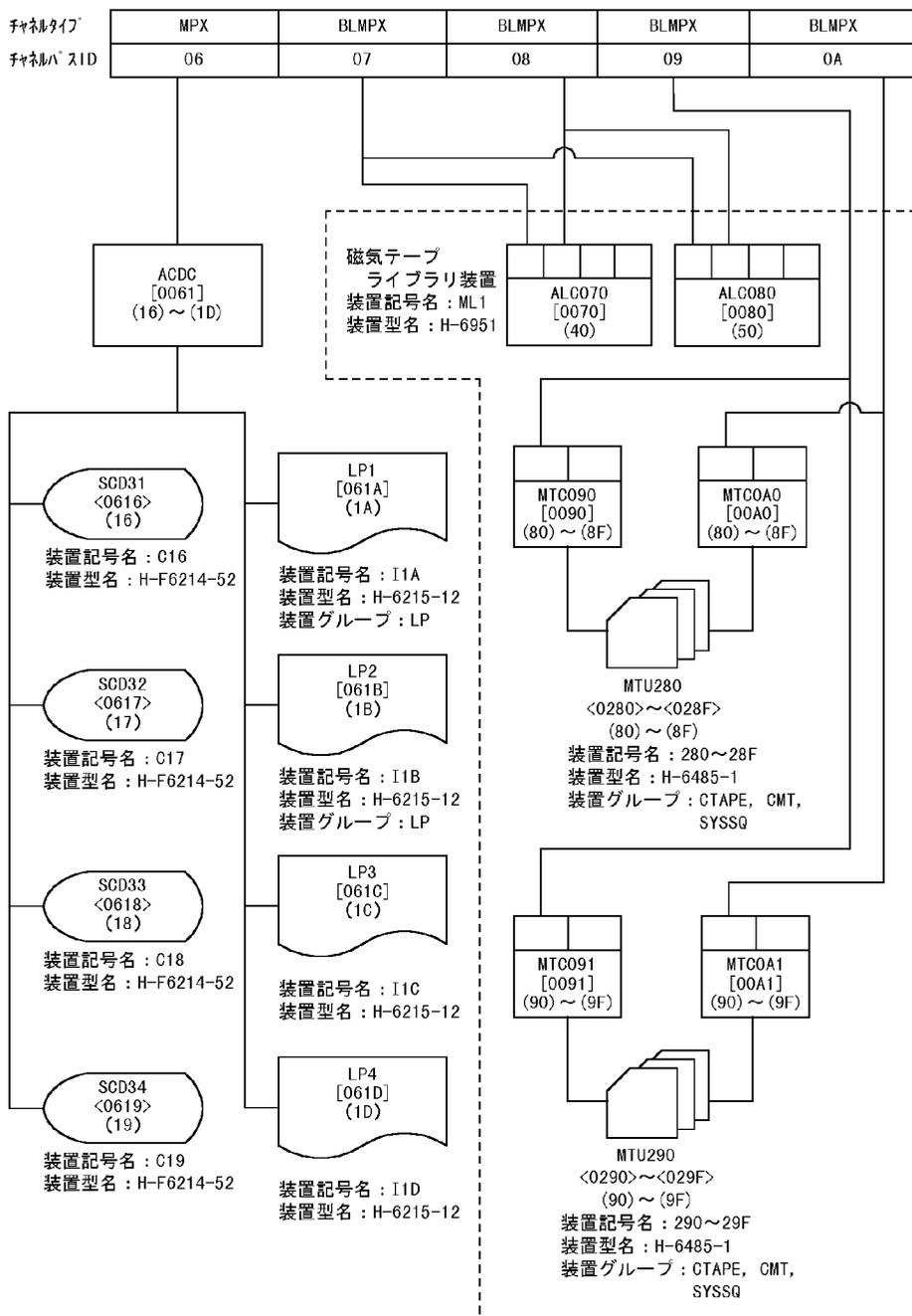


図 5-5 プロセサ A の構成 (3 / 6)

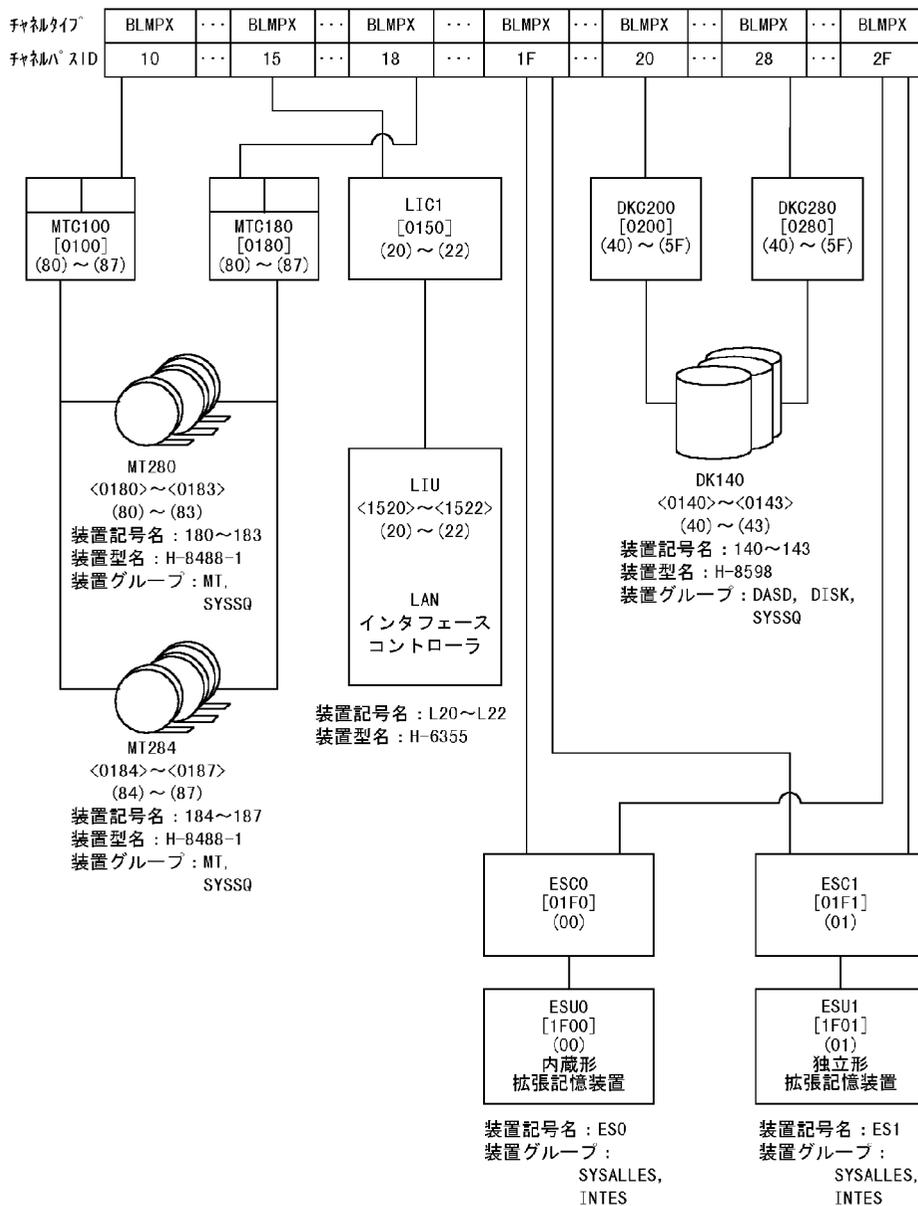
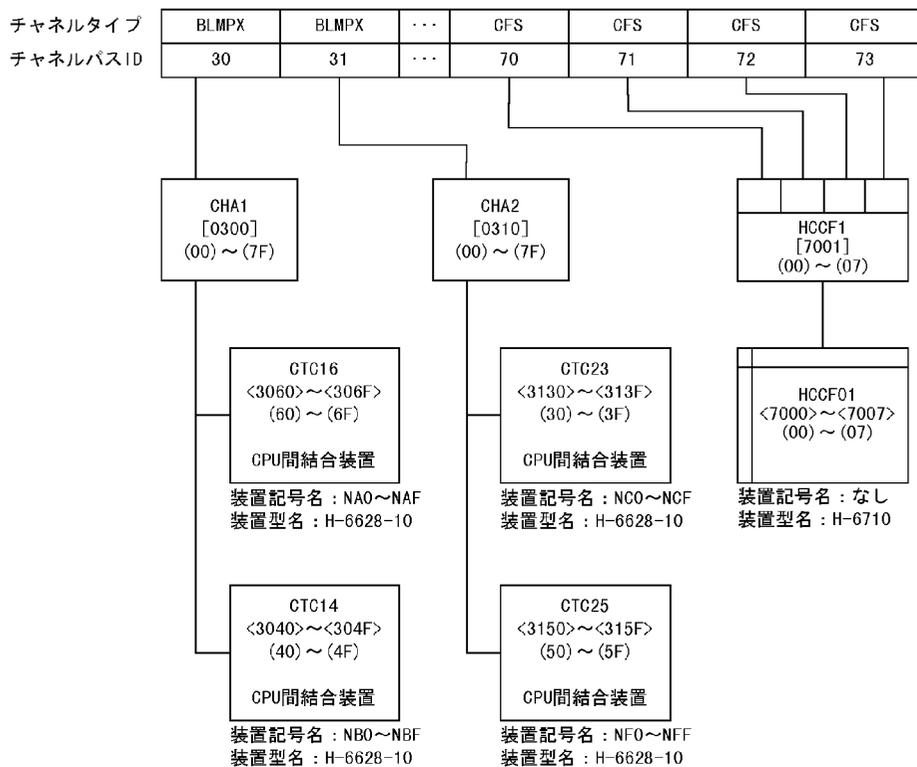


図 5-6 プロセサ A の構成 (4 / 6)



5. 使用例

図 5-7 プロセサ A の構成 (5 / 6)

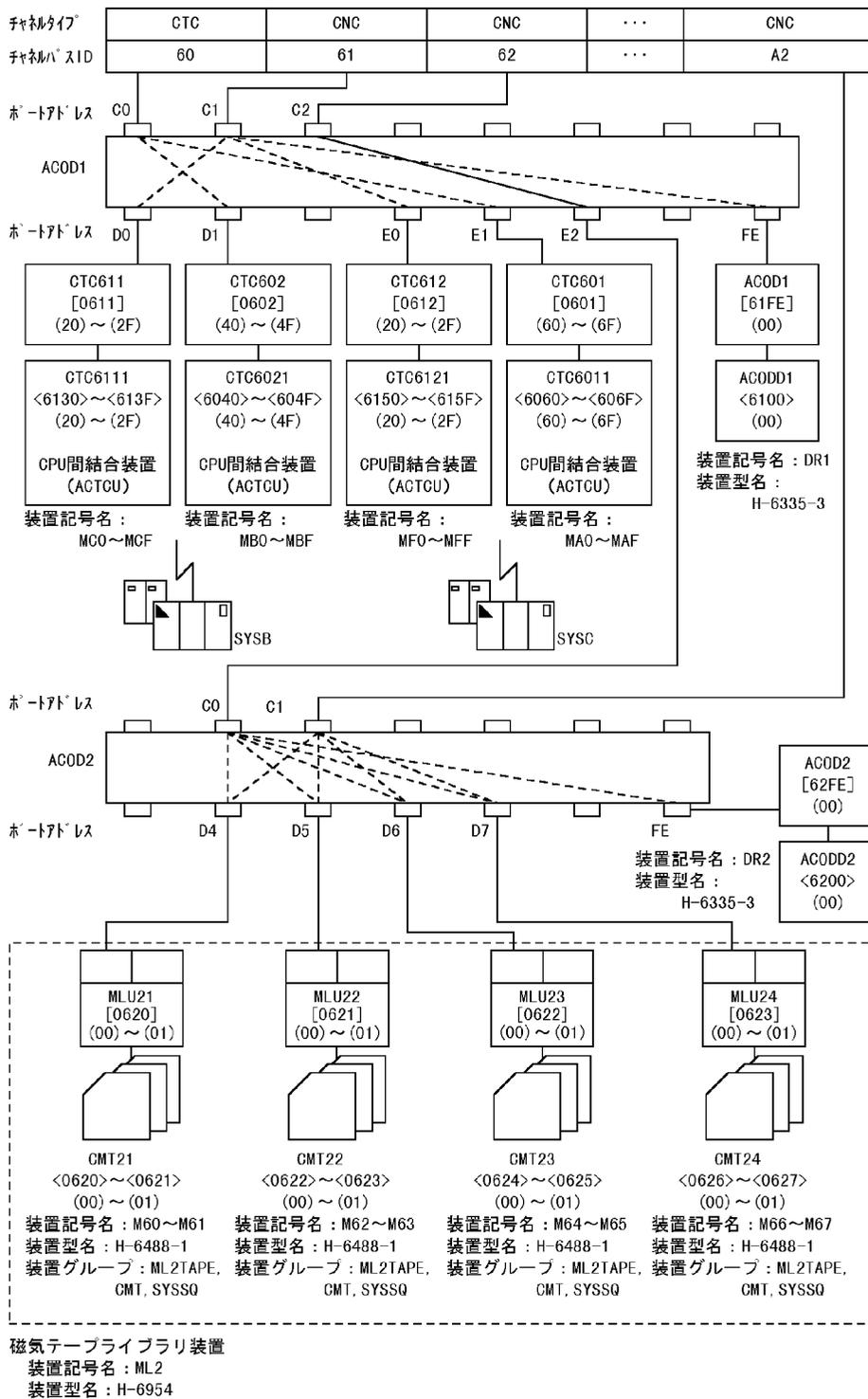
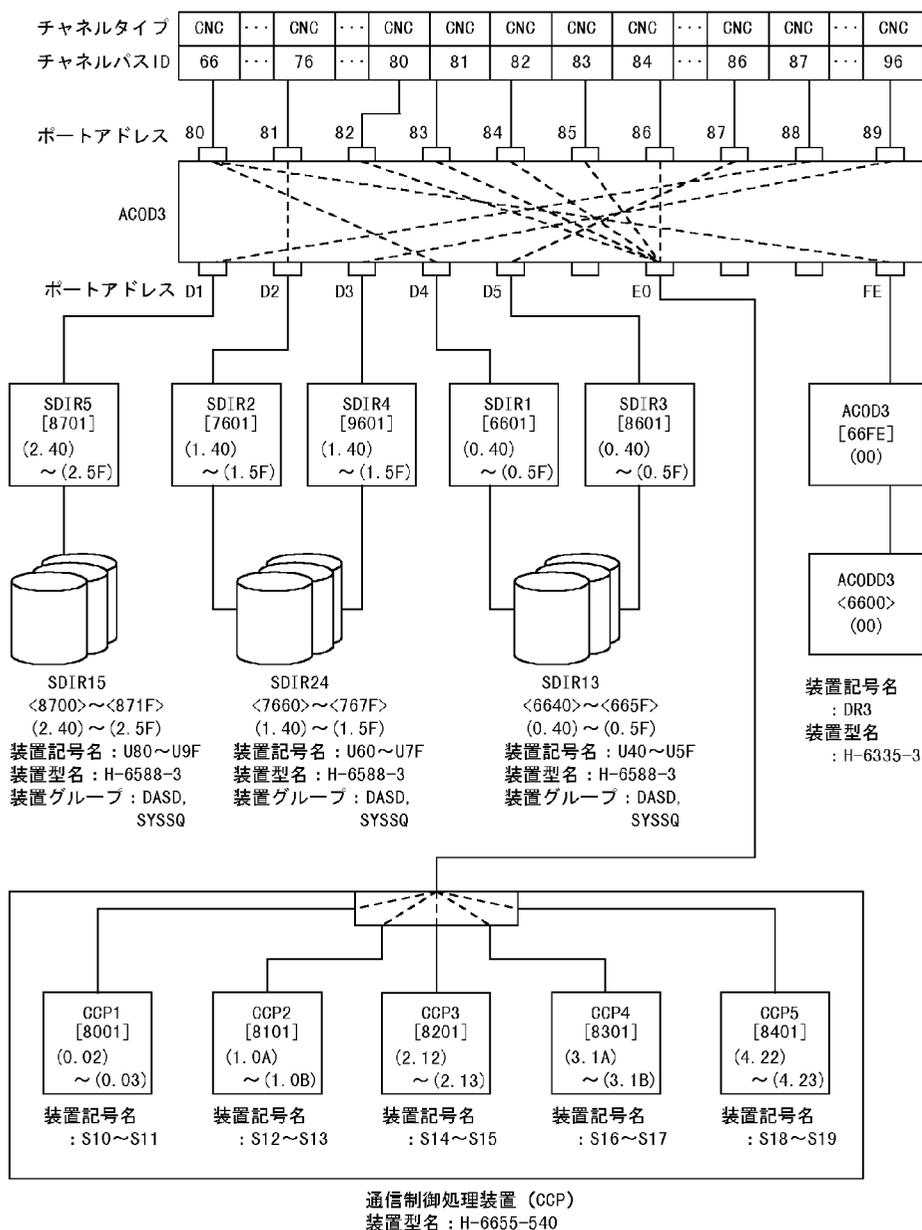


図 5-8 プロセサ A の構成 (6 / 6)



5.1.2 ウィンドウの定義例

システム構成の設定ウィンドウの設定例を図 5-9 に、構成定義ウィンドウの定義例を図 5-10 ~ 図 5-20 に示します。なお、各ウィンドウのすべての指定値については、サンプルデータを参照してください。

5. 使用例

図 5-9 システム構成の設定ウィンドウの設定例

システム構成の設定

システム名称(S): ONLINE コント(C): 本番システム

PRMFを使用する(P)

システム構成オプションの設定(O):

OS構成一覧

プロジェクト名	シカスレベル	CPU型	ACONARC	情報識別子	構成ID	SCDS番号	IOD番号	コメント
▶ SYSA	LEVEL0	MF5800	装備	0A02	SYSCNF02	02	02	ONLINE1
SYSB	LEVEL0	MF5800	装備	0B02	SYSCNF02	02	02	ONLINE2
SYSC	LEVEL0	MF5800	装備	0C02	SYSCNF02	02	02	BATCH
*								

ACONARC制御機能を使用する(A)

シカスレベル(L): LEVEL0

構成ID(G): SYSCNF02

情報識別子	構成定義情報番号
ACOD外部(O): 0002	02
ACOD内部(N): 0002	02

ディク定義オプション

ACODを定義する(K)

FBDを定義する(B)

図 5-10 チャネル定義ウィンドウの定義例

チャンネル定義

システム名称: ONLINE

装置名称(P): SYSA コメント番号(N): 2

操作モード
編集(M) 表示(V)

チャンネル数: 33

変更	ERROR	PATHID	TYPE	コメント
		00	MPX	
		06	MPX	
		07	BLMPX	
		08	BLMPX	
		09	BLMPX	
		0A	BLMPX	
		10	BLMPX	
		15	BLMPX	
		18	BLMPX	
		1F	BLMPX	
		20	BLMPX	
		28	BLMPX	
		2F	BLMPX	
		30	BLMPX	
		31	BLMPX	
		60	CTC	
		61	CNC	
A		62	CNC	
		66	CNC	第1センタ7階 [B-07]
		70	CFS	
		71	CFS	
		72	CFS	
		73	CFS	
		76	CNC	第1センタ7階 [A-06]
		80	CNC	
		81	CNC	
		82	CNC	

5. 使用例

図 5-11 入出力制御装置定義ウィンドウの定義例



図 5-12 入出力装置定義ウィンドウの定義例

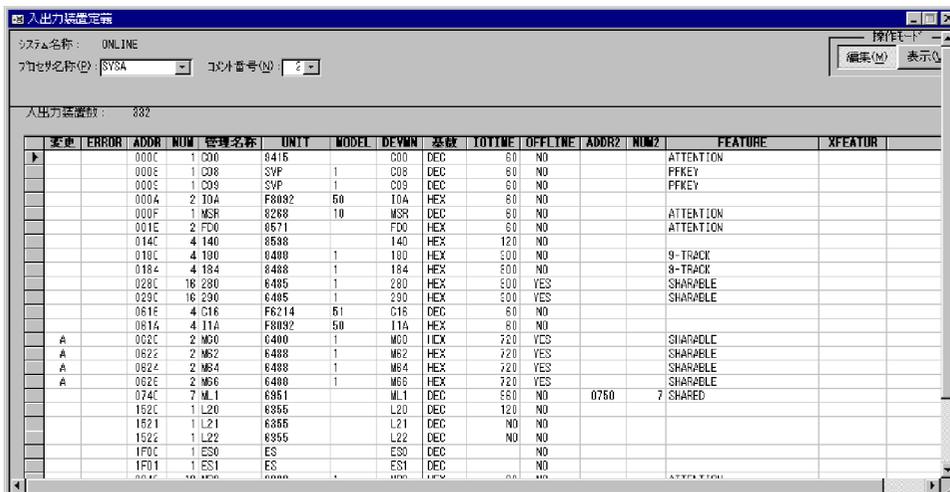


図 5-13 装置グループ定義ウィンドウの定義例

装置グループ定義

システム名称: ONLINE

プロセッサ名称(P): SYSA

定義基準: グループ(G) 入出力装置(O)

操作モード: 編集(M) 表示(V)

装置グループ数: 12

装置グループ

変更	ERROR	NAME	TYPE	YIO
▶	C	CMT		NO
		CTAPE		NO
		DASD		NO
		DISK		NO
		EXTES		NO
		INTES		NO
		LP		NO
	A	ML2TAPE		NO
		MT		NO
		SYSALLDA		NO
		SYSALLES	ES	NO
	C	SYSSQ		NO
*				

→対象入出力装置

ERROR	UNIT	NUM	DEVMN
▶	0280	32	280
	0620	8	M60
*			

図 5-14 装置タイプ定義ウィンドウの定義例

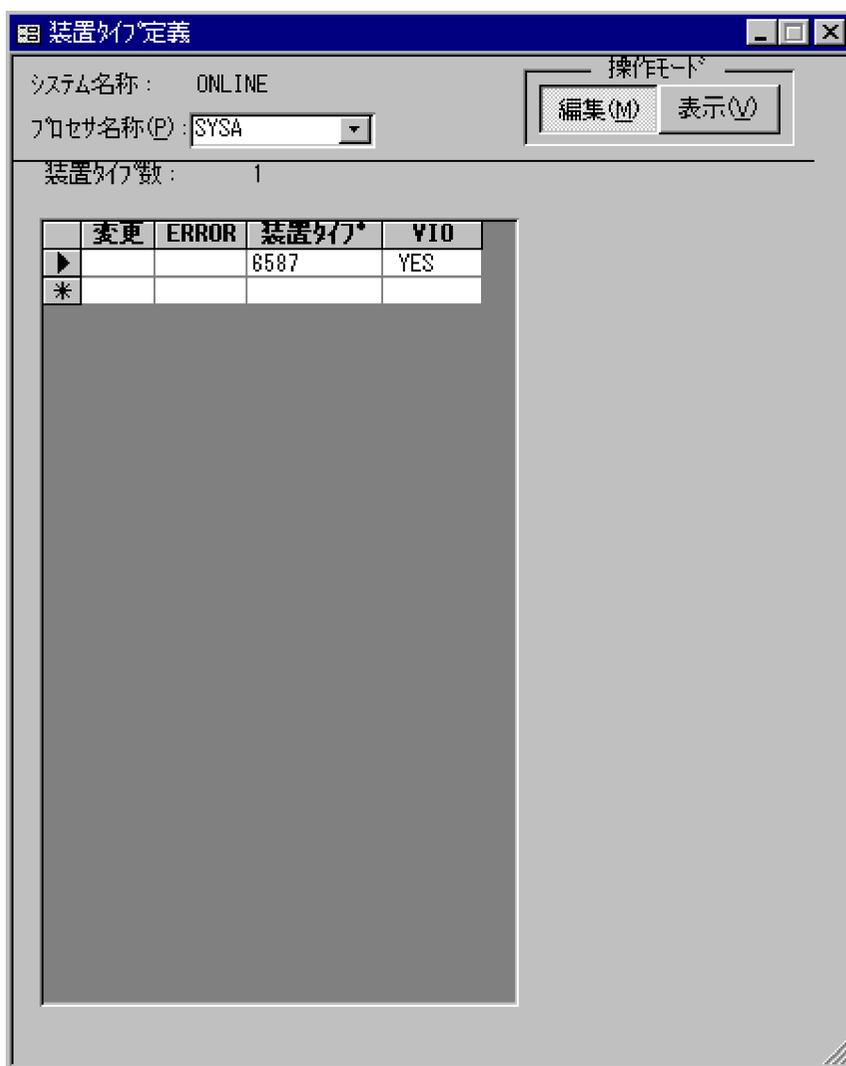
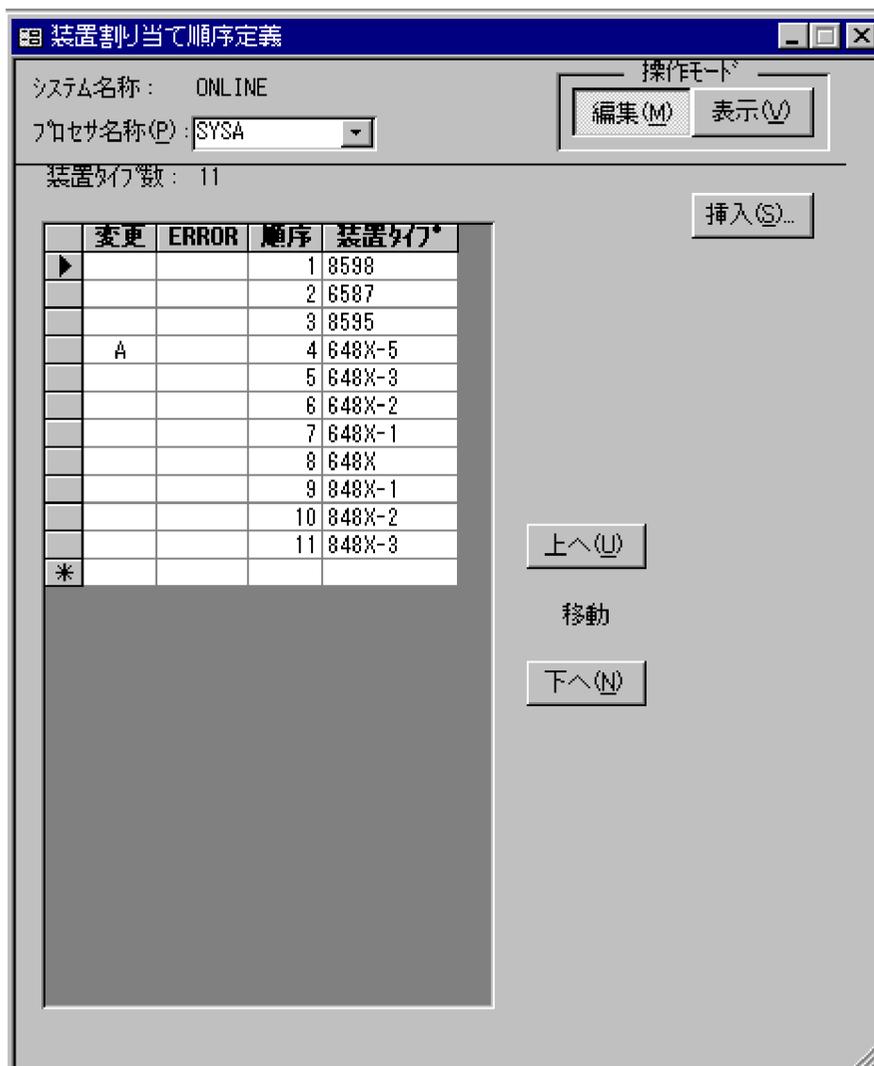


図 5-15 装置割り当て順序定義ウィンドウの定義例



5. 使用例

図 5-16 接続定義ウィンドウの定義例



図 5-17 ACOD 定義ウィンドウの定義例

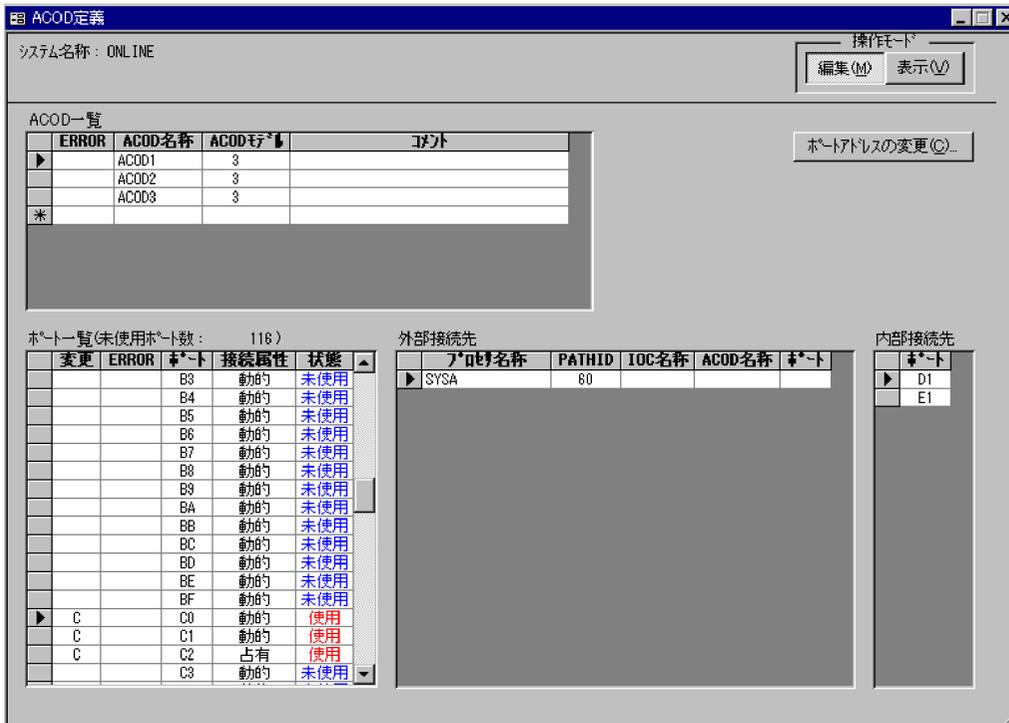


図 5-18 ACOD 経路定義ウィンドウの定義例

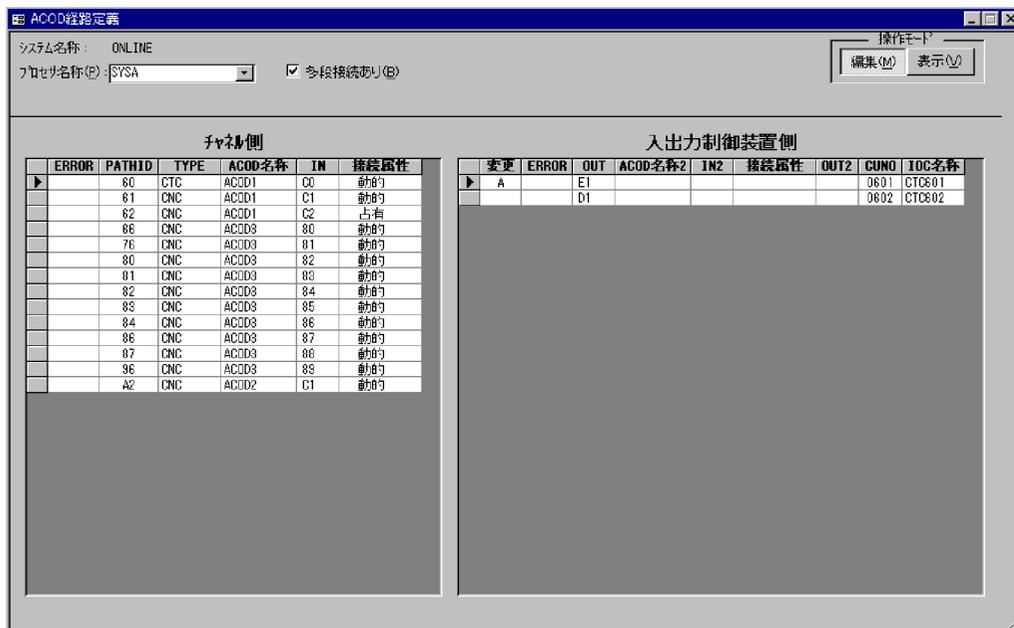


図 5-19 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログの定義例

CNC-CTC接続用入出力制御装置の登録 [X]

システム名称: ONLINE

フロッパ名称(P): SYSA

操作モード: [編集(M)] [表示(V)]

CUNO(N): [] CUNO(U): []

IOC名称(O): [] IOC名称(O): []

入出力制御装置(S)

CUNO	IOC名称
0000	SVP
0001	IPC1
0061	ACDC
0070	ALC070
0080	ALC080
0090	MTC090
0091	MTC091
00A0	MTC0A0
00A1	MTC0A1
0100	MTC100
0150	LIC1
0180	MTC180
01F0	ESC0
01F1	ESC1
0200	DKC200
0280	DKC280
0300	CHA1
0310	CHA2

追加(A) >

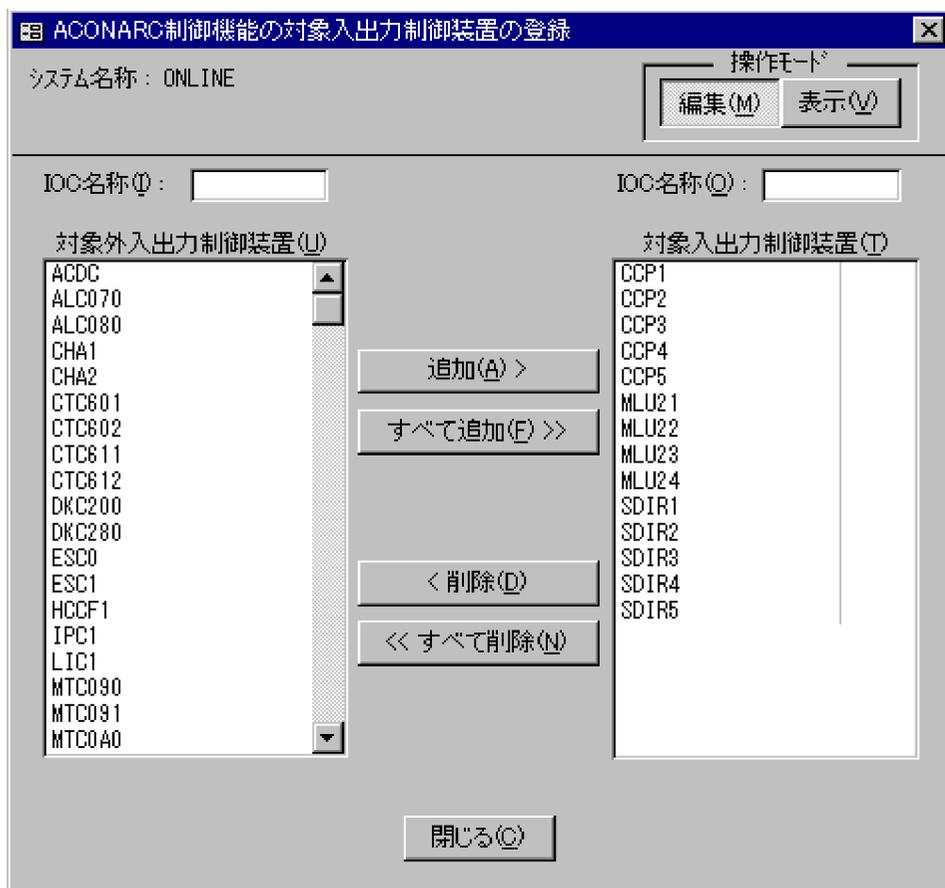
CNC-CTC接続用入出力制御装置(T)

CUNO	IOC名称
0601	CTC601
0602	CTC602
0611	CTC611
0612	CTC612

< 削除(D)

閉じる(O)

図 5-20 ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログの定義例



5.1.3 サンプルデータ

構成定義例のサンプルデータ (sample1.accdb) は、SCMRF CD for Windows をセットアップしたフォルダの下の [samples] サブフォルダに格納されています。

5.2 PRMF を使用する場合の構成定義例

PRMF を使用する場合のローカル複合プロセサシステムの構成定義例を説明します。なお、ここで説明する構成はサンプルデータとして SCMRP CD for Windows に組み込まれています。

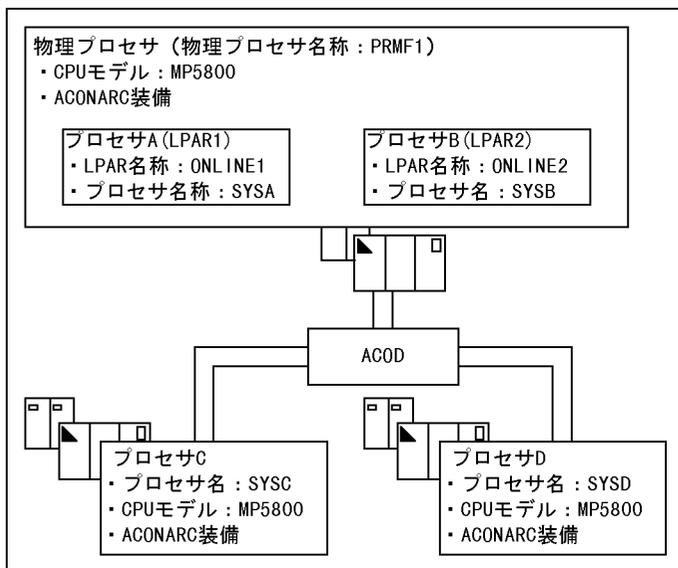
5.2.1 PRMF を使用する場合の前提構成

(1) PRMF を使用する場合のシステム構成例

構成例のシステムは、二つの LPAR に分割している物理プロセサおよび二つのベーシックモードのプロセサから構成されるローカル複合プロセサシステムです。PRMF を使用する場合のシステム構成例を図 5-21 に示します。

図 5-21 PRMF を使用する場合のシステム構成例

ローカル複合プロセサシステム (システム名称 : ONLINE)



物理プロセサ PRMF1 の下にはプロセサ A (LPAR1) およびプロセサ B (LPAR2) の二つの LPAR があります。また、ベーシックモードのプロセサ C およびプロセサ D があります。プロセサ A、プロセサ B、プロセサ C、プロセサ D は ACOD を経由して接続しています。接続する ACOD は AOMPLUS の ACONARC 制御機能で制御します。

(2) 物理プロセサの構成例

PRMF1 の入出力構成・ACOD 構成・PRMF 構成を図 5-23 ~ 図 5-29 に示します。なお、構成図は図 5-22 に示す形式で記述しています。

図 5-22 構成図の記述形式 (PRMF を使用する場合)

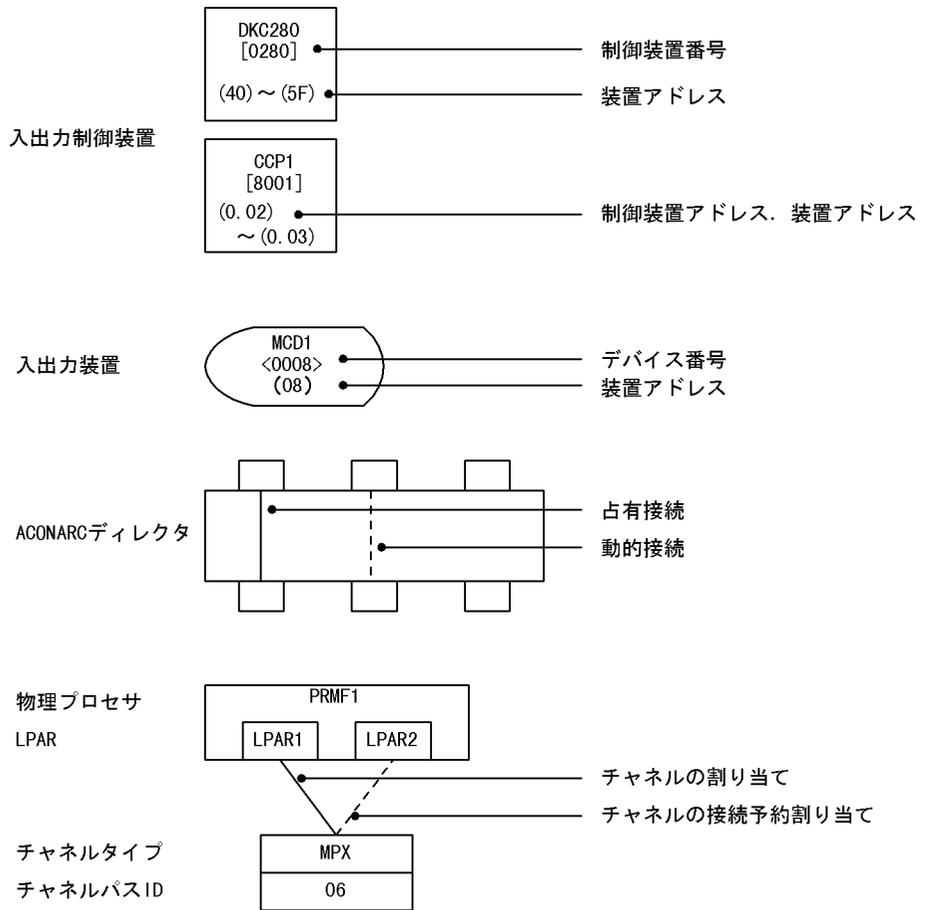


図 5-23 物理プロセサ PRMF1 の構成 (1 / 7)

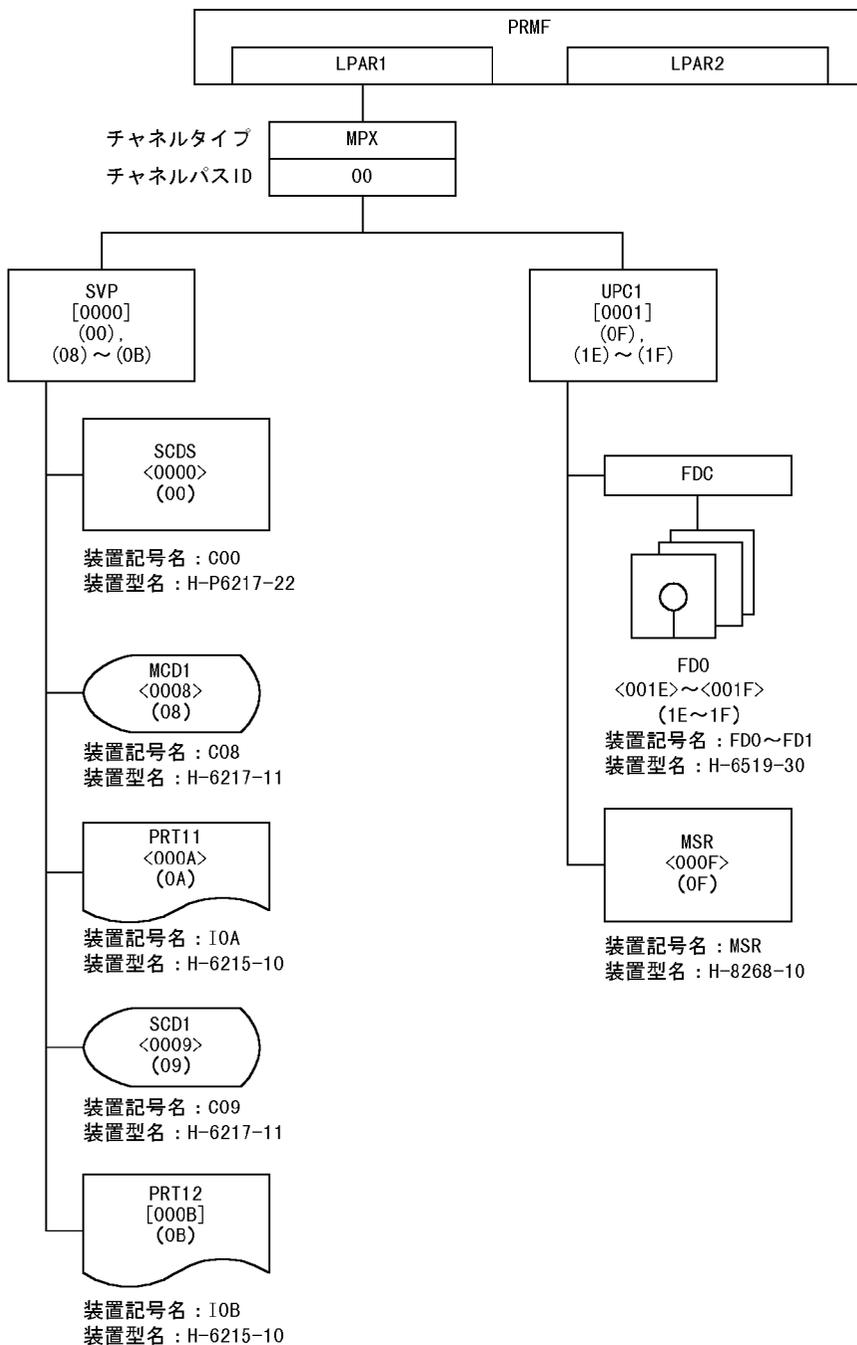


図 5-24 物理プロセッサ PRMF1 の構成 (2 / 7)

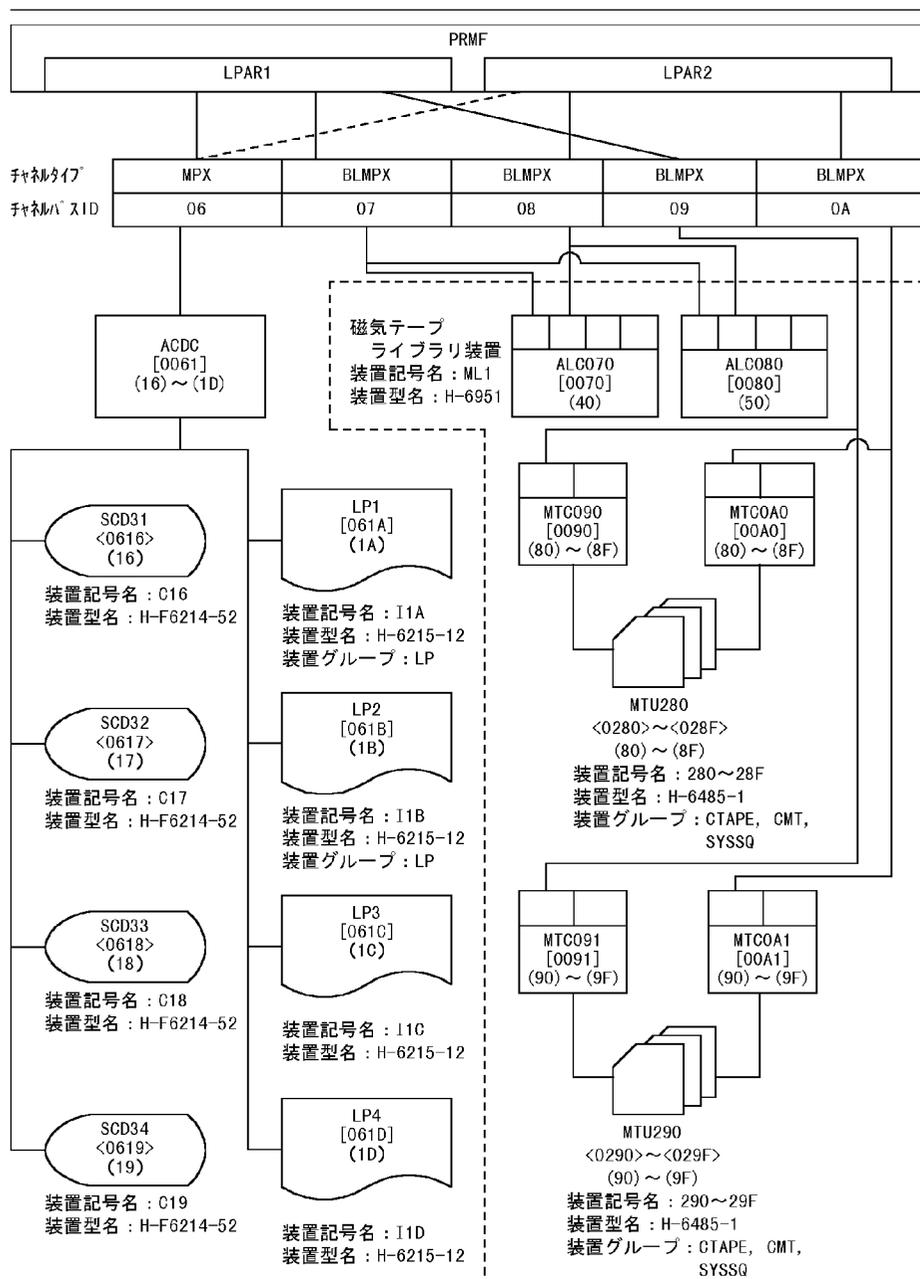


図 5-25 物理プロセッサ PRMF1 の構成 (3 / 7)

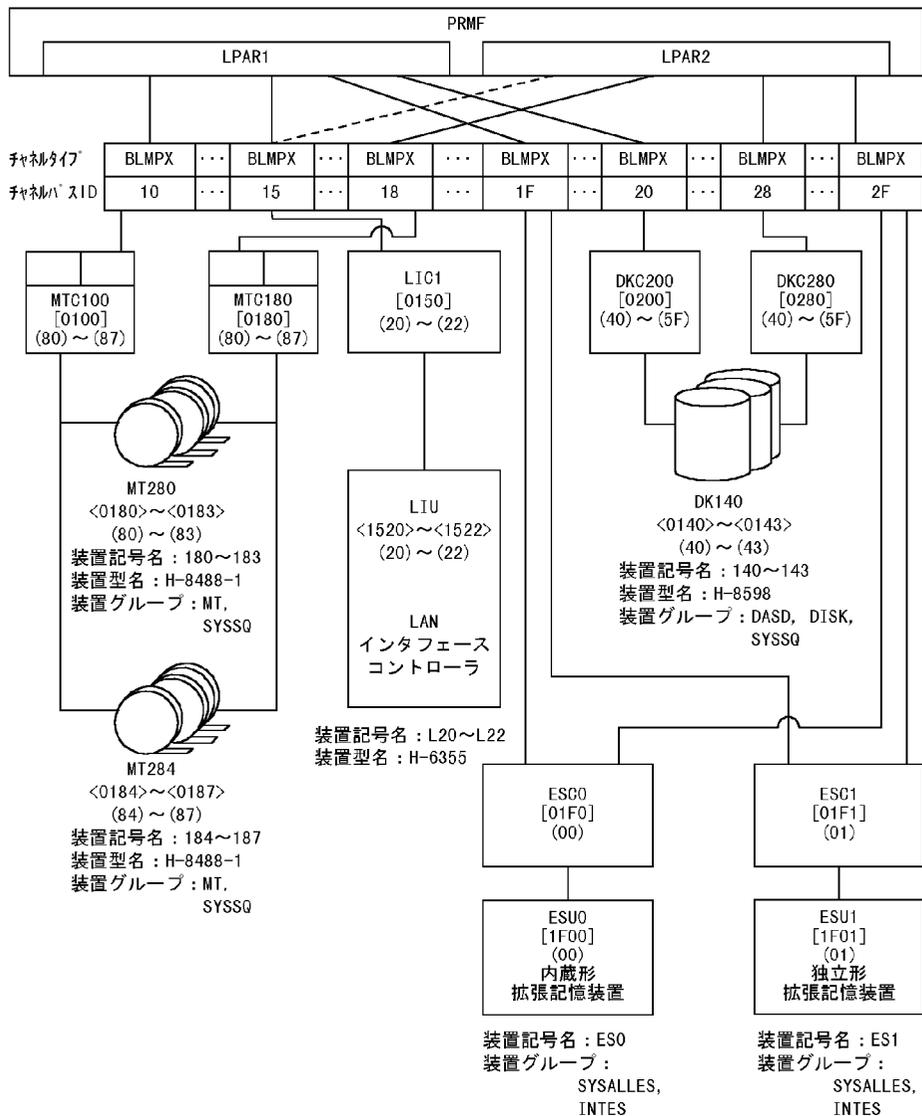


図 5-26 物理プロセッサ PRMF1 の構成 (4 / 7)

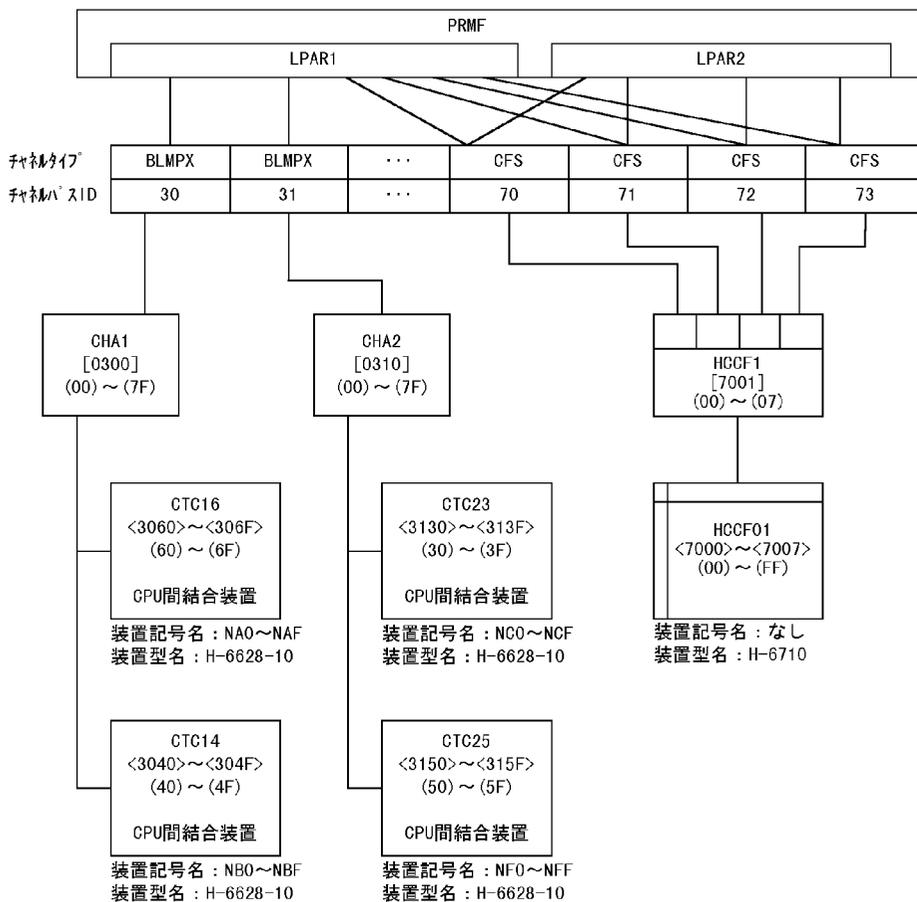


図 5-27 物理プロセッサ PRMF1 の構成 (5 / 7)

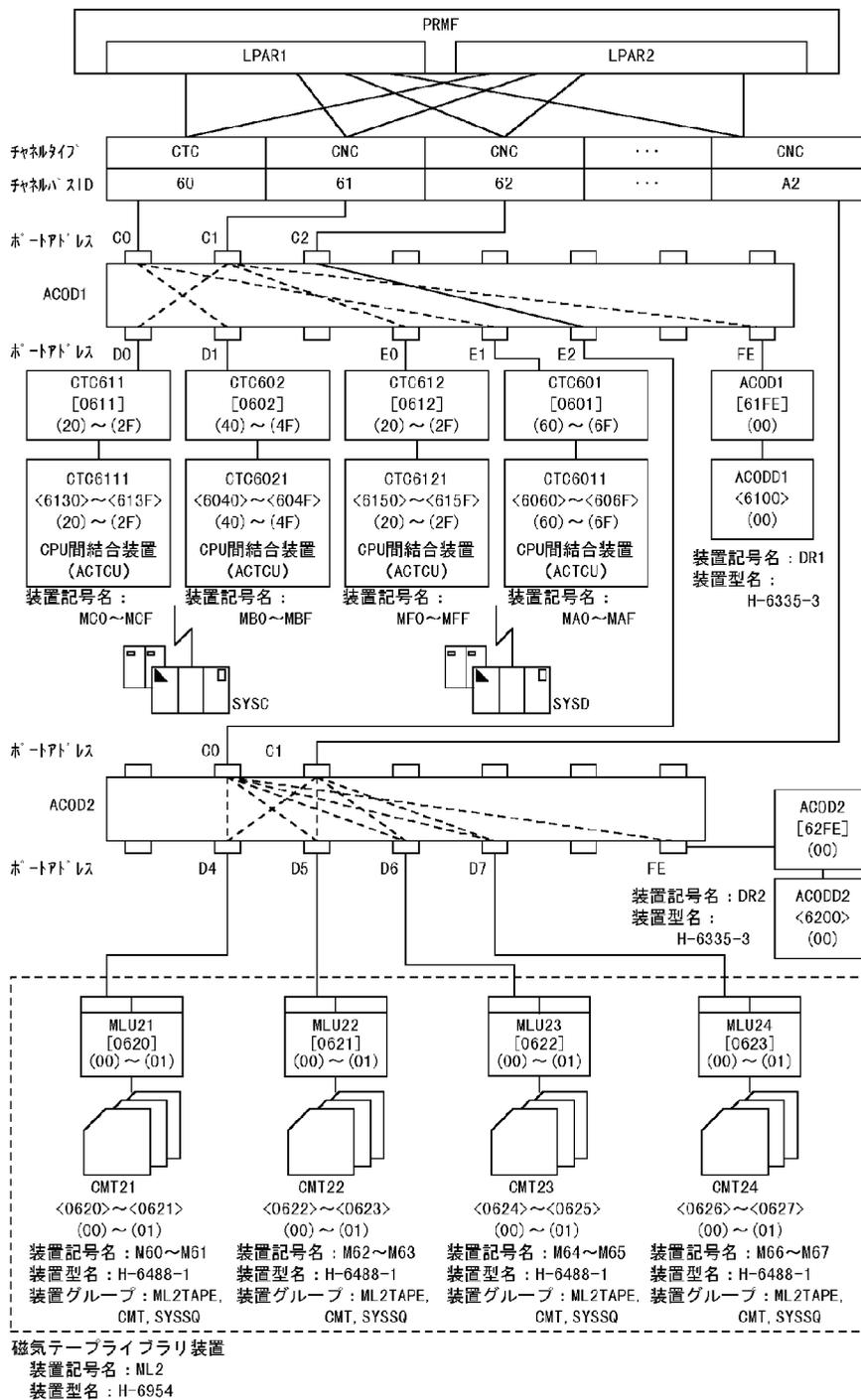
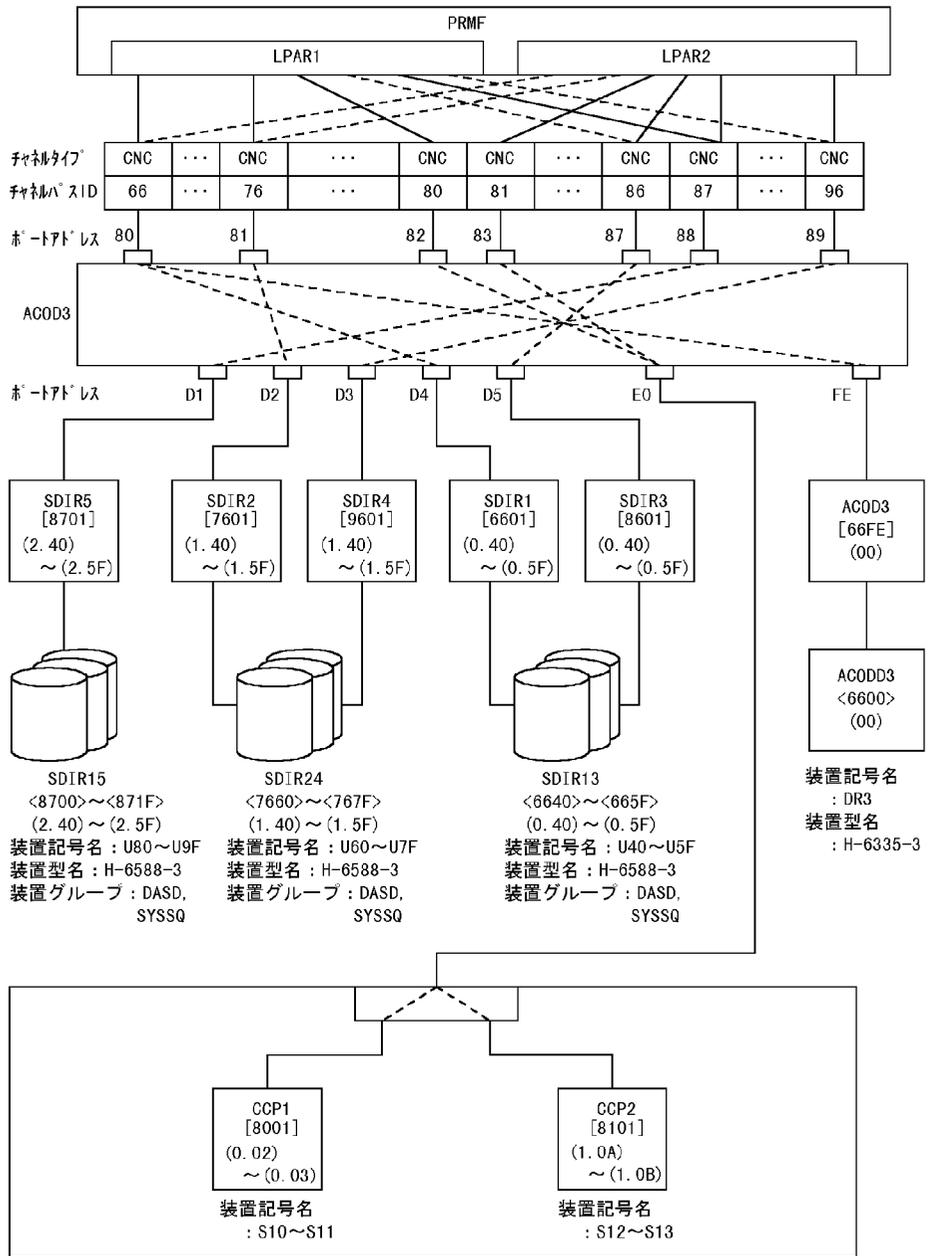
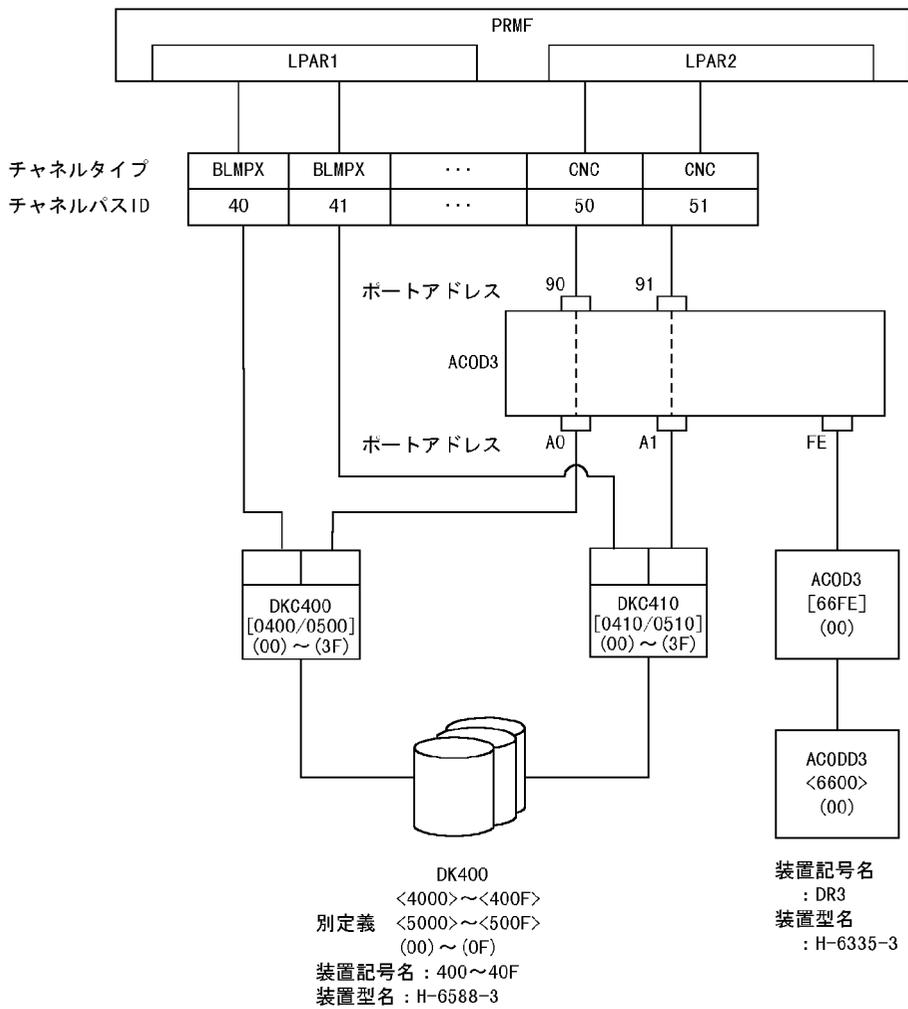


図 5-28 物理プロセサ PRMF1 の構成 (6 / 7)



通信制御処理装置 (CCP)
装置型名 : H-6655-540

図 5-29 物理プロセサ PRMF1 の構成 (7 / 7)



(3) LPAR 上のゲスト OS の構成

LPAR1 上のゲスト OS の入出力構成・ACOD 構成を図 5-30 ~ 図 5-36 に示します。なお、構成図は図 5-2 に示す形式で記述しています。

図 5-30 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (1 / 7)

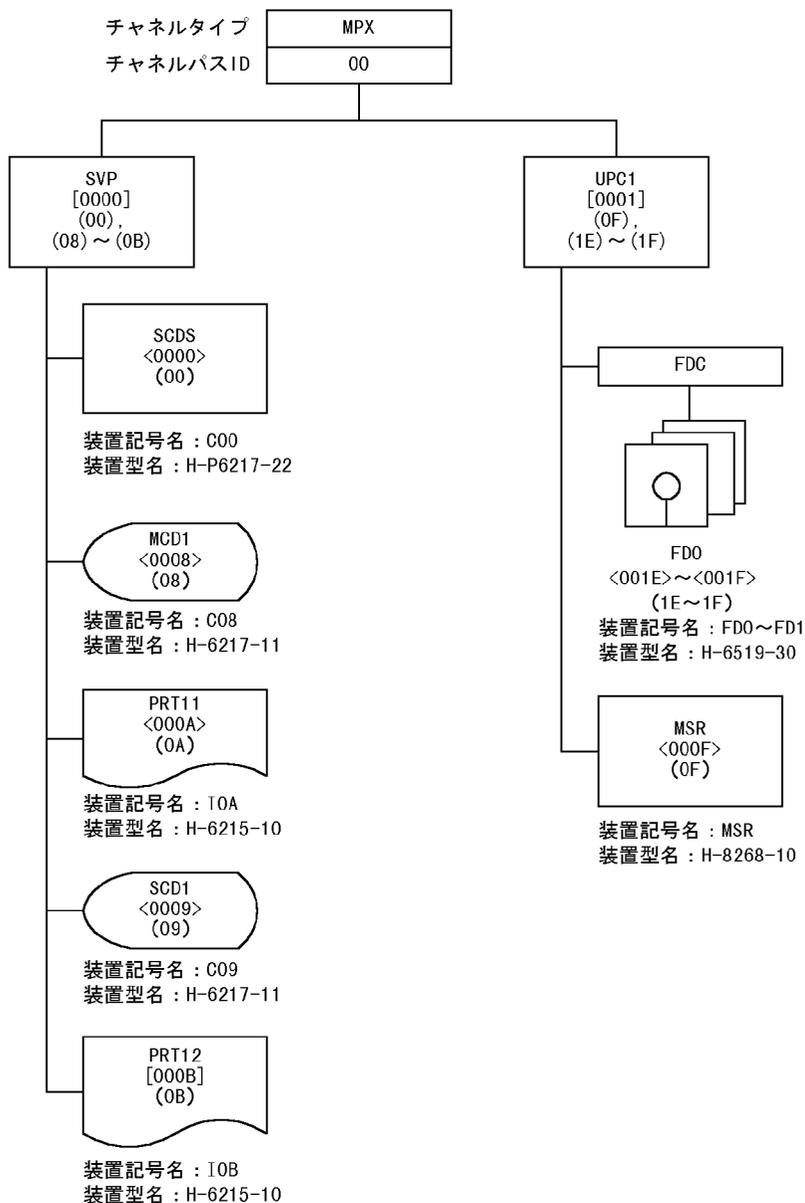


図 5-31 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (2 / 7)

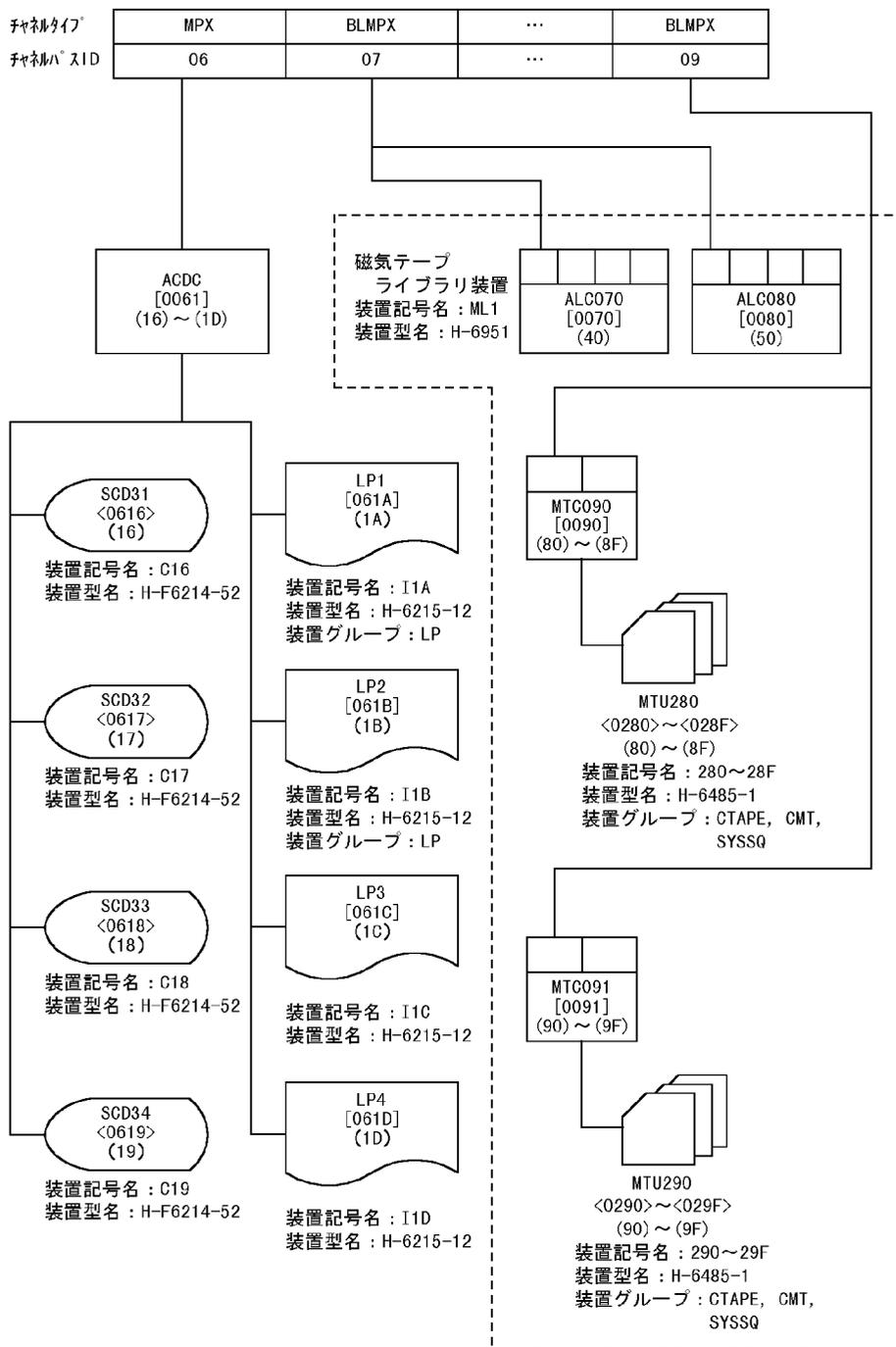
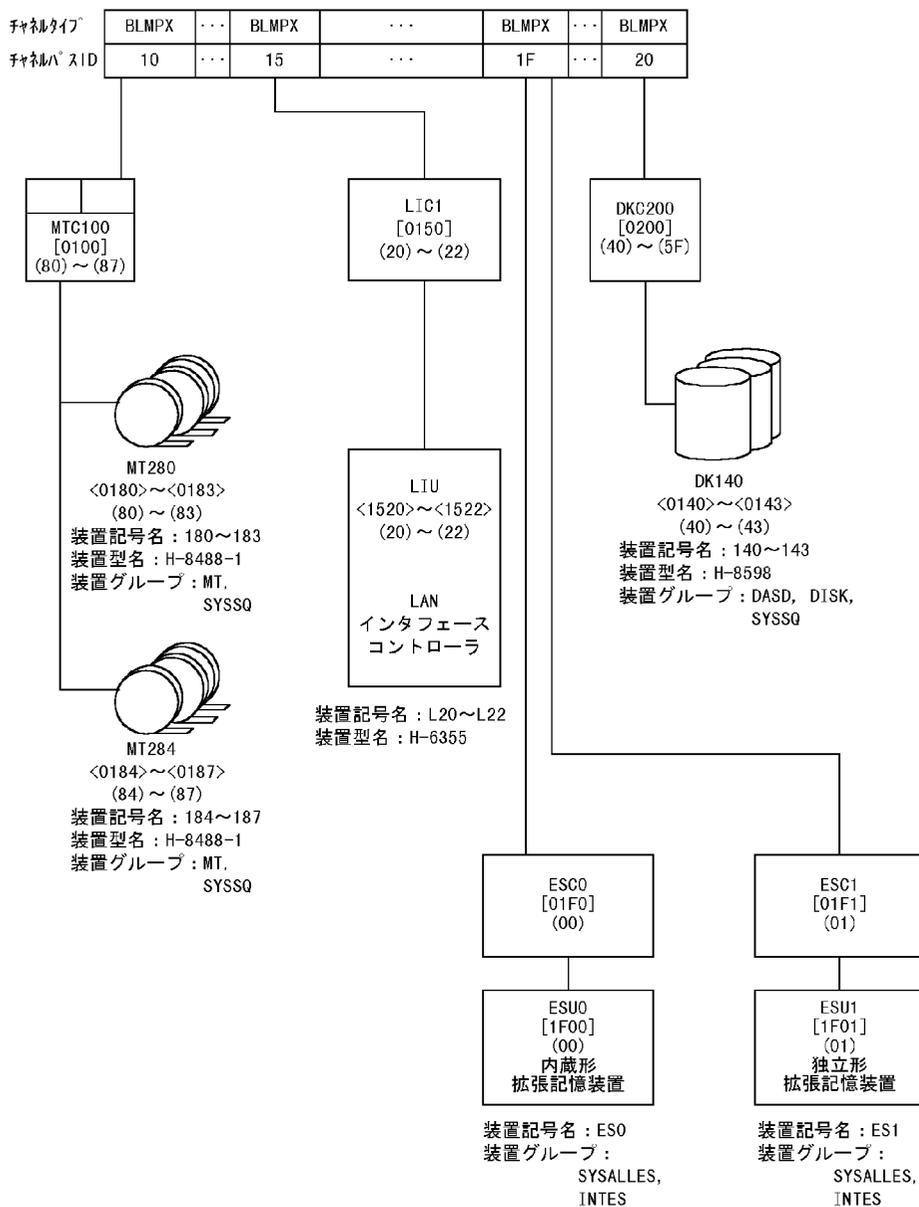


図 5-32 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (3 / 7)



5. 使用例

図 5-33 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (4 / 7)

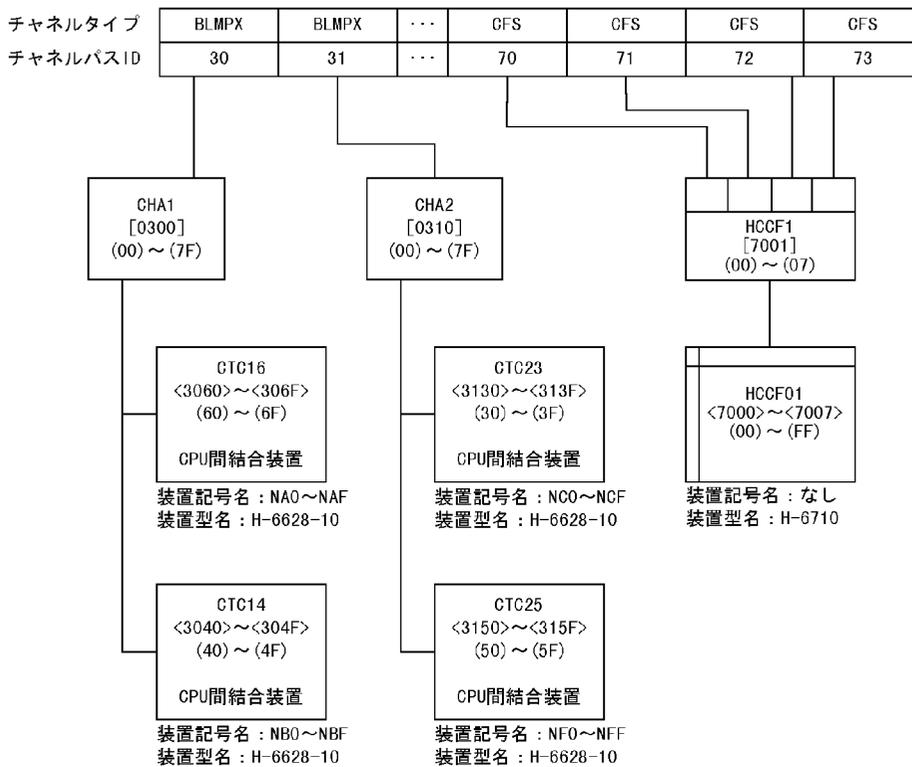
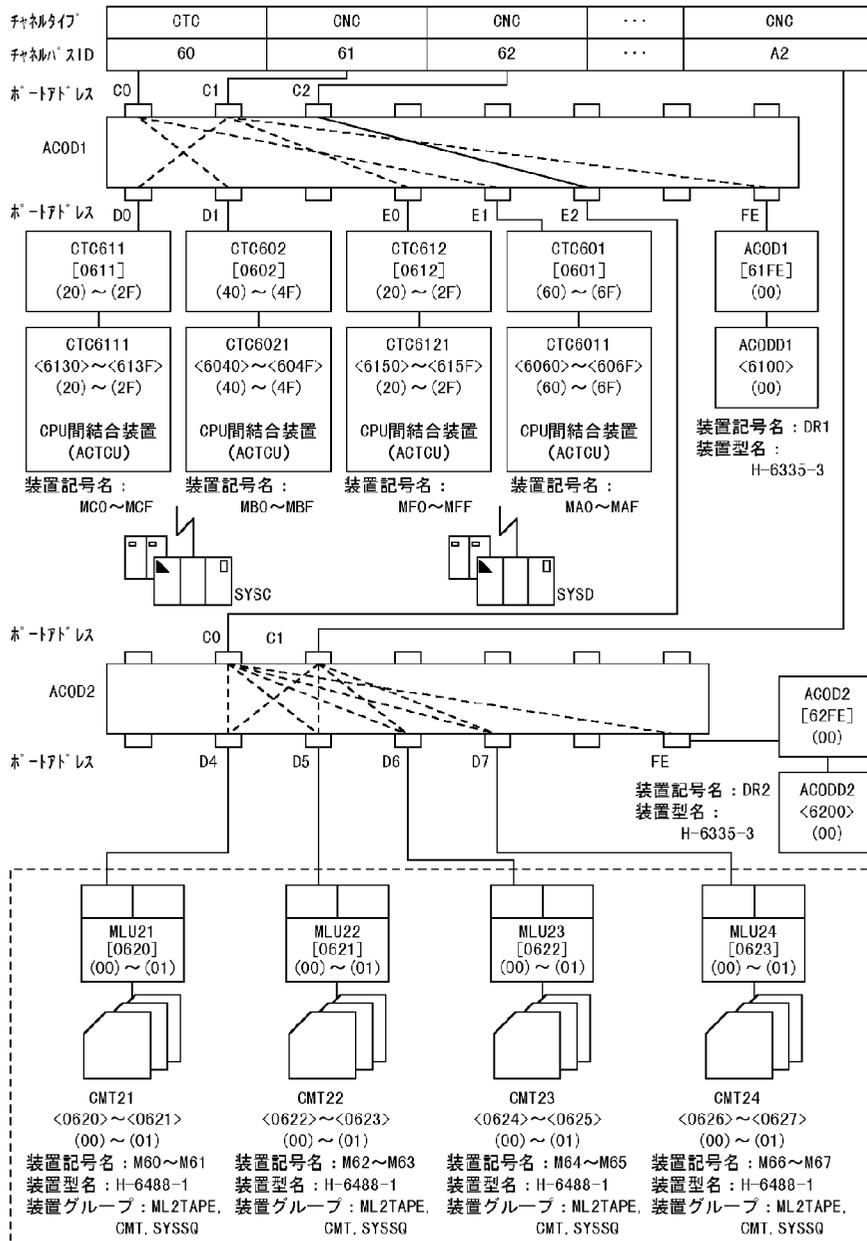


図 5-34 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (5 / 7)



5. 使用例

図 5-35 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (6 / 7)

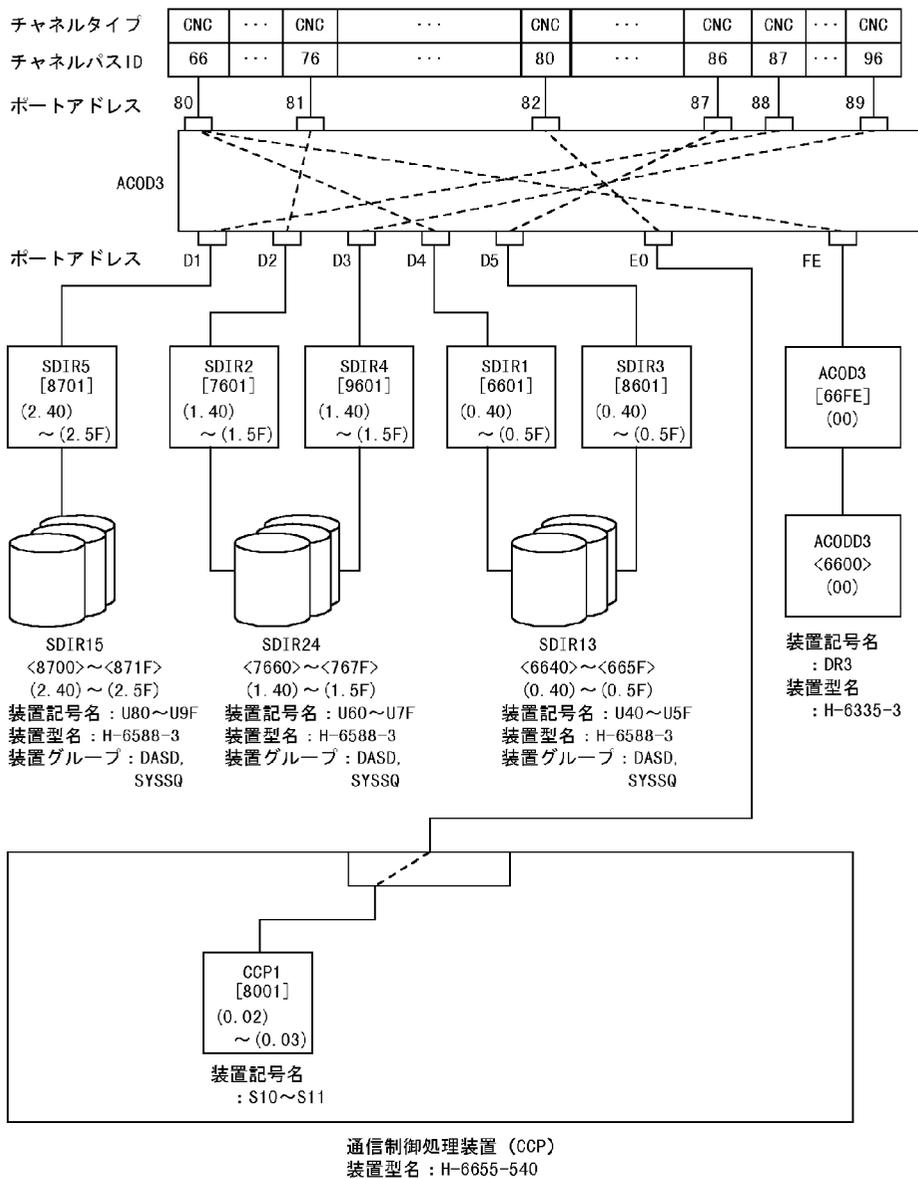
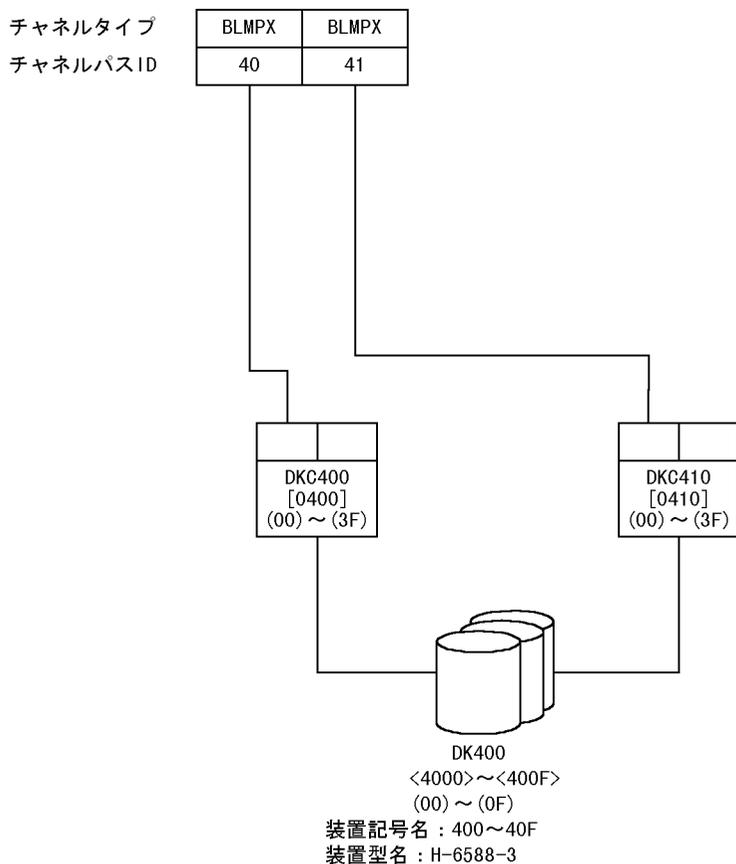


図 5-36 LPAR1 上のゲスト OS の構成 (7 / 7)



5.2.2 PRMF を使用する場合のウィンドウの定義例

システム構成の設定ウィンドウの設定例を図 5-37 に、構成定義ウィンドウの定義例を図 5-38 ~ 図 5-56 に示します。なお、各ウィンドウのすべての指定値については、サンプルデータを参照してください。

5. 使用例

図 5-37 システム構成の設定ウィンドウの設定例 (PRMF を使用する場合)

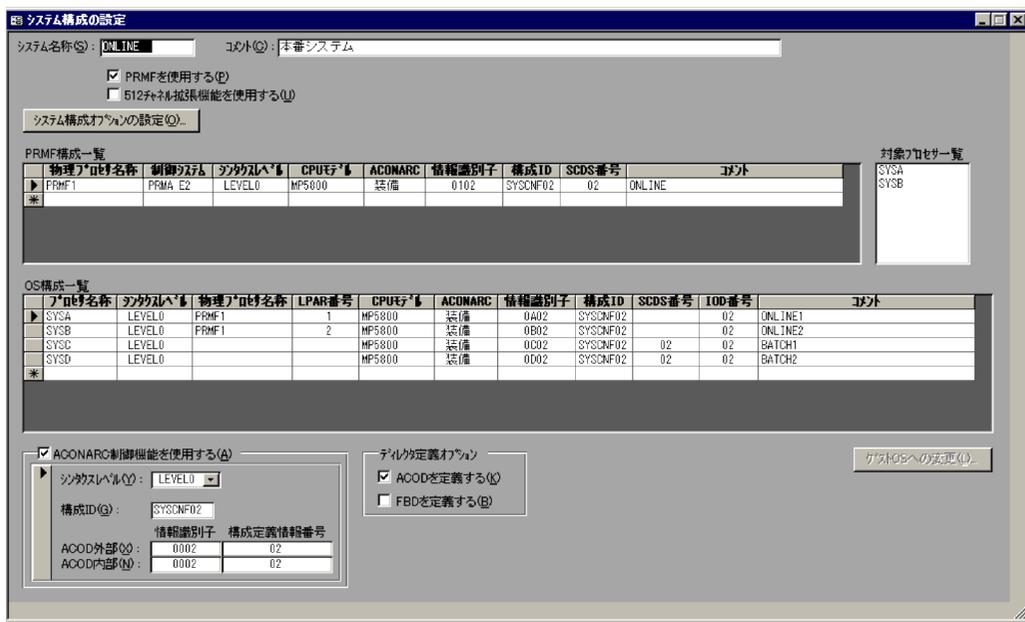


図 5-38 LPAR 構成定義ウィンドウの定義例

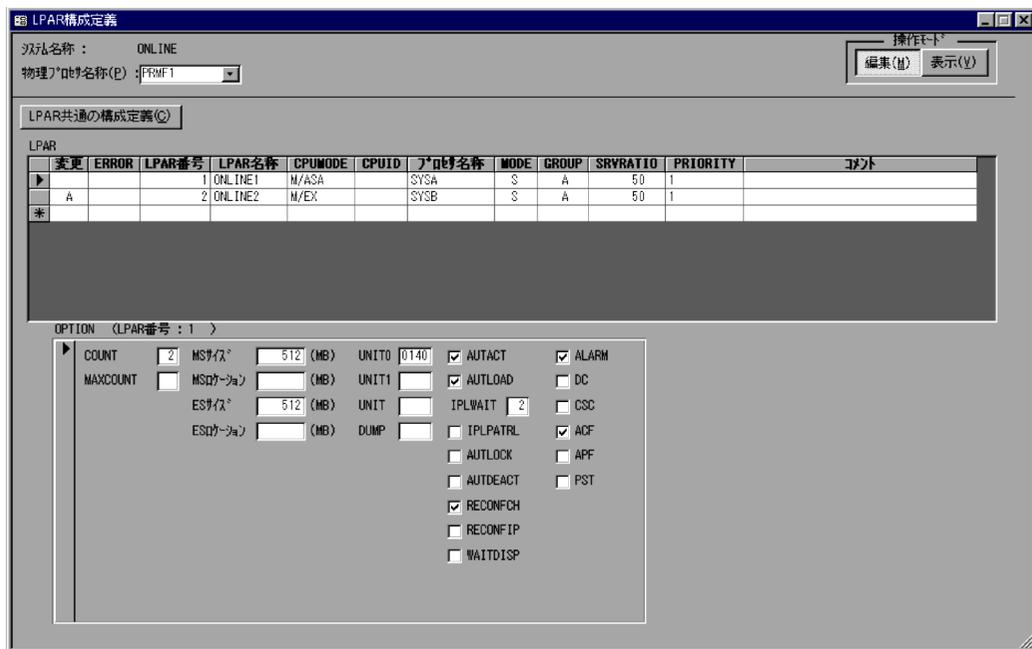


図 5-39 LPAR 共通の構成定義ダイアログの定義例

LPAR共通の構成定義

システム名称: ONLINE

物理コネクタ名称(P): PRMF1

操作モード
編集(M) 表示(Y)

物理IP

	ERROR	物理IP番号	MODE	GROUP
▶		0	S	A
		1	S	A
*				

エラー詳細(D)

SYSOPT(O)

- AUTPWFF
- AUTDUMP
- AUTRSTRT

PFキー

	PFNO	COMMAND	TYPE
▶	3	CALL PRMIDX	E
*			

閉じる(O)

5. 使用例

図 5-40 チャネル定義 (PRMF) ウィンドウの定義例

チャンネル定義 (PRMF) 操作モード

システム名称: ONLINE

物理リソース名称 (P): PRMF1 バイト番号 (N): 2 編集 (M) 表示 (V)

チャンネル数: 34

変更	ERROR	PATHID	TYPE	ATTR	コメント
		00	MPX	DED	
		06	MPX	RCNF	
		07	BLMPX	DED	
		08	BLMPX	DED	
		09	BLMPX	DED	
		0A	BLMPX	DED	
		10	BLMPX	DED	
		15	BLMPX	RCNF	
		18	BLMPX	DED	
		1F	BLMPX	DED	
		20	BLMPX	DED	
		28	BLMPX	DED	
		2F	BLMPX	DED	
		30	BLMPX	DED	
		31	BLMPX	DED	
		40	BLMPX	DED	
		41	BLMPX	DED	
A		50	CNC	DED	
A		51	CNC	DED	
		60	CTC	SHR	
		61	CNC	SHR	
A		62	CNC	SHR	
		66	CNC	RCNF	第1センタ7階[B-07]
		70	CFS	SHR	
		71	CFS	SHR	
		72	CFS	SHR	
		73	CFS	SHR	

図 5-41 LPAR へのチャネル割り当て定義ウィンドウの定義例

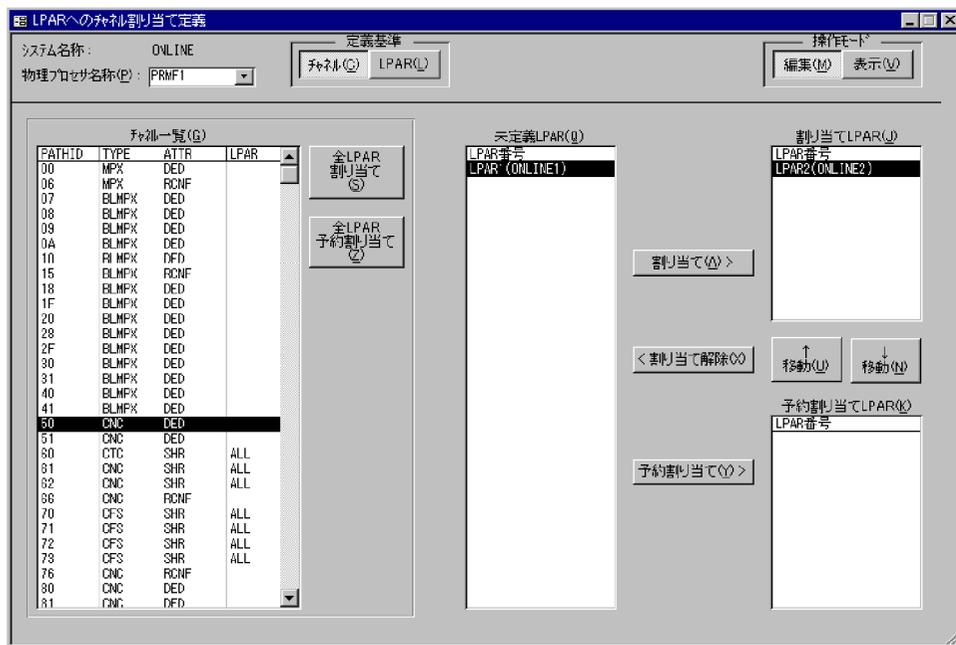


図 5-42 EXPATH 定義ウィンドウの定義例

EXPATH定義

システム名称: ONLINE

物理プロセス名称(P): PRMF1

操作モード

編集(M) 表示(V)

EXPATN数: 1

EXPATN

	変更	ERROR	LABEL
▶	A		EXP01
*			

CNCチャネル

	ERROR	PATHID	TYPE
▶		50	CNC
		51	CNC
*			

BLMPX/CVCチャネル

	ERROR	PATHID	TYPE
▶		40	BLMPX
		41	BLMPX
*			

図 5-43 チャネル定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)

チャンネル定義(OS)

システム名称: ONLINE

プロセッサ名称(P): SYSA コメント番号(N): 2

モード: LPAR<PRMF1/LPAR1 (ONLINE1)>

チャンネル数: 28

変更	ERROR	PATHID	TYPE	コメント
		00	MPX	
		06	MPX	
		07	BLMPX	
		09	BLMPX	
		10	BLMPX	
		15	BLMPX	
		1F	BLMPX	
		20	BLMPX	
		30	BLMPX	
		31	BLMPX	
		40	BLMPX	
		41	BLMPX	
		60	CTC	
		61	CNC	
A		62	CNC	
		66	CNC	第1センタ 7階[B-07]
		70	CFS	
		71	CFS	
		72	CFS	
		73	CFS	
		76	CNC	第1センタ 7階[A-06]
		80	CNC	
		86	CNC	
		87	CNC	
		96	CNC	
A		A2	CNC	
*				

操作モード
編集(M) 表示(V)

5. 使用例

図 5-44 入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウの定義例

入出力制御装置定義 (PRMF)

システム名称: ONLINE

物理プロセス名称 (P): PRMF1 コメント番号 (N): 2

操作モード: 編集 (M) 表示 (V)

入出力制御装置数: 41

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	TYPE	IFMODE	CUADR	コメント
		0000	SVP	NS		00	
		0001	IPC1	NS		00	
		0061	ACDC	NS		00	
		0070	ALC070	NS	S	00	
		0080	ALC080	NS	S	00	
		0090	MTC090	NS	S	00	
		0091	MTC091	NS	S	00	
		00A0	MTC0A0	NS	S	00	
		00A1	MTC0A1	NS	S	00	
		0100	MTC100	S		00	第1センタ7階[E-21]
		0150	LIC1	NS	S	00	第1センタ7階[G-36]
		0180	MTC180	S		00	
		01F0	ESC0	NS		00	
		01F1	ESC1	NS		00	
		0200	DKC200	NS		00	
		0280	DKC280	NS		00	
		0300	CHA1	NS	S	00	
		0310	CHA2	NS	S	00	
		0400	DKC400	NS	S	00	
		0410	DKC410	NS	S	00	
A		0500	DKC400	NS		00	
A		0510	DKC410	NS		00	
A		0601	CTC601	NS		00	
		0602	CTC602	NS		00	
		0611	CTC611	NS		00	
A		0612	CTC612	NS		00	
A		0620	MLU21	NS		00	

DEVA	NUM
00	1
08	4
*	

図 5-45 入出力制御装置定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)

入出力制御装置定義(OS)

システム名称: ONLINE

ホスト名: SYSA ユニクス番号(N): 2

モード: LPAR<PRMF1/LPAR1(ONLINE1)>

入出力制御装置数: 34

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	TYPE	IFMODE	CUADR	NTLIB	コメント
		0000	SVP	NS		00		
		0001	IPC1	NS		00		
		0081	ACDC	NS		00		
		0070	ALC070	NS	S	00		
		0080	ALC080	NS	S	00		
		0090	MTC090	NS	S	00		
		0091	MTC091	NS	S	00		
		0100	MTC100	S		00		第1センタ7階[E-21]
		0150	LIC1	NS	S	00		第1センタ7階[C-36]
		01F0	ESC0	NS		00		
		01F1	ESC1	NS		00		
		0200	DKC200	NS		00		
		0300	CHA1	NS	S	00		
		0310	CHA2	NS	S	00		
		0400	DKC400	NS	S	00		
		0410	DKC410	NS	S	00		
A		0601	CTC601	NS		00		
		0602	CTC602	NS		00		
		0611	CTC611	NS		00		
A		0612	CTC612	NS		00		
A		0620	MLJ21	NS		00	ML2	
A		0621	MLJ22	NS		00	ML2	
A		0622	MLJ23	NS		00	ML2	
A		0623	MLJ24	NS		00	ML2	
		61FE	ACOD1	NS		00		
A		62FE	ACOD2	NS		00		
		6801	SDIR1	NS		00		

DEYA	NUM
00	1
08	4

5. 使用例

図 5-46 入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウの定義例

入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウのスクリーンショット。システム名: ONLINE, 物理カロッサ名称: PRMF1, コメント番号: 2。入出力装置数: 356。

変更	ERROR	ADDR	NUM	管理名称	UNIT	MODEL	ADDR2	NUM2	XFEATUR	コメント
		0000	1	C00	3415					
		000A	2	I0A	F8092	50				
		000F	1	MSR	8268	10				
		001E	2	F00	8571					
		0140	4	140	8598					
		0180	4	180	8488	1				
		0184	4	184	8488	1				
		0280	16	280	6485	1				
		0290	16	290	6485	1				
		0616	4	C16	F8214	51				
		061A	4	I1A	F8092	50				
A		0620	2	M60	6488	1				
A		0622	2	M62	6488	1				
A		0624	2	M64	6488	1				
A		0626	2	M66	6488	1				
		0740	7	ML1	6951		0750	7		
		1520	1	L20	6355					
		1521	1	L21	6355					
		1522	1	L22	6355					
		1F00	1	ES0	ES				ES	
		1F01	1	ES1	ES				ES	
		3040	16	N60	8626	1				
		3060	16	NA0	8626	1				
		3130	16	NC0	8626	1				
		3150	16	NF0	8626	1				
		4000	16	400	6587					
A		5000	16	DEV05000	6587					

図 5-47 LPAR への共用チャネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウの定義例

LPAR への共用チャネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウのスクリーンショット。システム名: ONLINE, 物理カロッサ名称: PRMF1, 定義基準: 入出力装置 (I), LPAR (L)。

ADDR	管理名称	接続	LPAR
0000	C00		ALL
000A	I0A		ALL
000F	MSR		ALL
001E	F00		ALL
0140	140		ALL
0180	180		ALL
0184	184		ALL
0280	280		ALL
0290	290		ALL
0616	C16		ALL
061A	I1A		ALL
0620	M60	SHR	ALL
0622	M62	SHR	ALL
0624	M64	SHR	ALL
0626	M66	SHR	ALL
0740	ML1		ALL
1520	L20		ALL
1521	L21		ALL
1522	L22		ALL
1F00	ES0		ALL
1F01	ES1		ALL
3040	N60		ALL
3060	NA0		ALL
3130	NC0		ALL
3150	NF0		ALL
4000	400		ALL
5000	DEV05000		ALL
6040	M60	SHR	ALL
6060	MA0	SHR	ALL

未定義 LPAR (Q) の LPAR 番号: (空欄)

割り当て LPAR (L) の LPAR 番号と対象: LPAR1 (ONLINE1) *, LPAR2 (ONLINE2) *

図 5-48 入出力装置定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)

入出力装置定義(OS)

システム名称: ONLINE

プロセス名称(P): SYSA コス番号(N): 2

モード: LPAR<PRMF1/LPAR1 (ONLINE)>

入出力装置数: 338

変更	ERROR	ADDR	NUM	管理名称	UNIT	MODEL	DEVNM	基数	IOTIME	OFFLINE	ADDR2	NUM2	FEATURE	XFEATUR
		0000	1	C00	S415		C00	DEC	60	NO				
		000A	2	I0A	F8092	50	I0A	HEX	60	NO			ATTENTION	
		000F	1	MSR	8268	10	MSR	DEC	60	NO			ATTENTION	
		001E	2	FD0	8571		FD0	HEX	60	NO			ATTENTION	
		0140	4	I40	8599		I40	HEX	120	NO				
		0180	4	I80	8488	1	I80	HEX	300	NO			9-TRACK	
		0184	4	I84	6400	1	I84	HEX	300	NO			9-TRACK	
		0290	16	290	6405	1	290	HEX	300	YES			SHARABLE	
		0290	16	290	6405	1	290	HEX	300	YES			SHARABLE	
		0616	4	C16	F8214	51	C16	DEC	60	NO				
		061A	4	I1A	F8092	50	I1A	HEX	60	NO				
A		0620	2	M60	6400	1	M60	HEX	720	YES			SHARABLE	
A		0622	2	M62	6489	1	M62	HEX	720	YES			SHARABLE	
A		0624	2	M64	6489	1	M64	HEX	720	YES			SHARABLE	
A		0626	2	M66	6400	1	M66	HEX	720	YES			SHARABLE	
		0740	7	ML1	6351		ML1	DEC	960	NO	0750	7	SHARED	
		1520	1	L20	6355		L20	DEC	120	NO				
		1521	1	L21	6355		L21	DEC	NO	NO				
		1522	1	L22	6355		L22	DEC	NO	NO				
		1F01	1	ES0	ES		ES0	DEC		NO				
		1F01	1	ES1	ES		ES1	DEC		NO				
		3040	16	N80	8826	1	N80	HEX	60	NO			ATTENTION	
		3060	16	N80	8826	1	N80	HEX	60	NO			ATTENTION	
		3180	16	N80	8826	1	N80	HEX	60	NO			ATTENTION	
		3150	16	NF0	8826	1	NF0	HEX	60	NO			ATTENTION	
		4000	16	400	6507		400	HEX	120	NO				

5. 使用例

図 5-49 装置グループ定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)



図 5-50 装置タイプ定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)

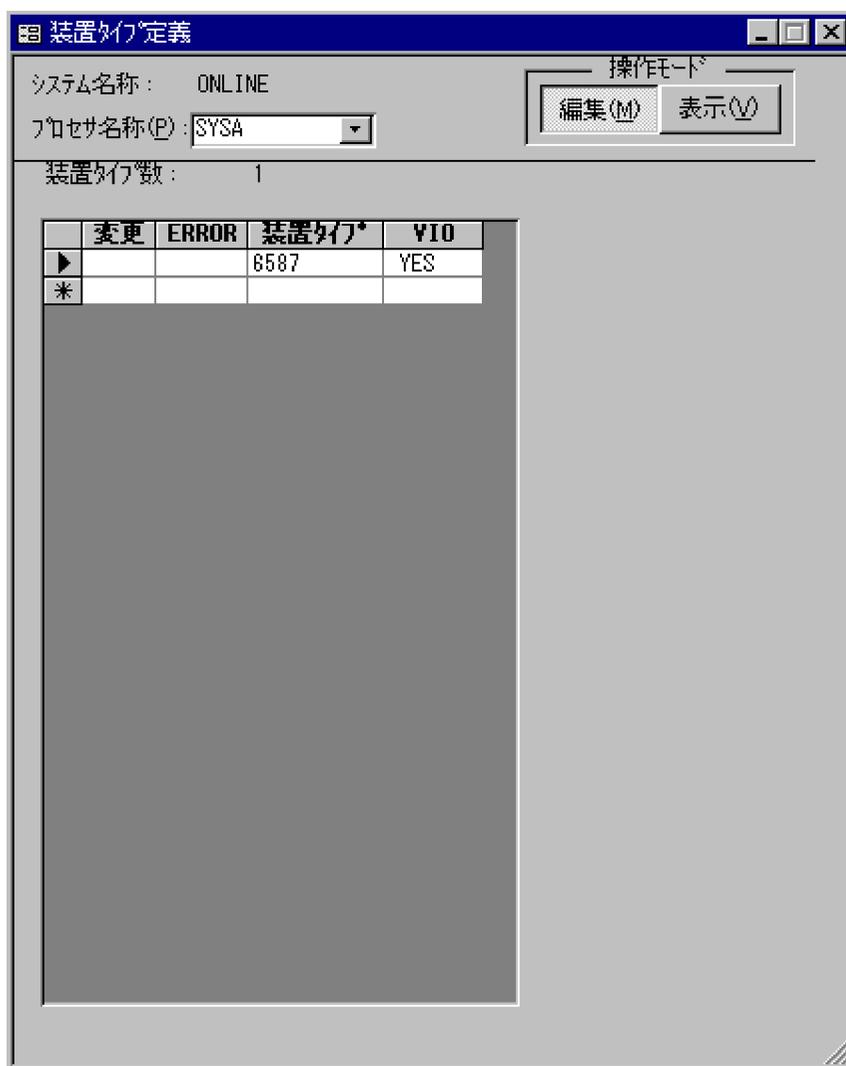


図 5-51 装置割り当て順序定義ウィンドウの定義例 (LPAR1 のゲスト OS)

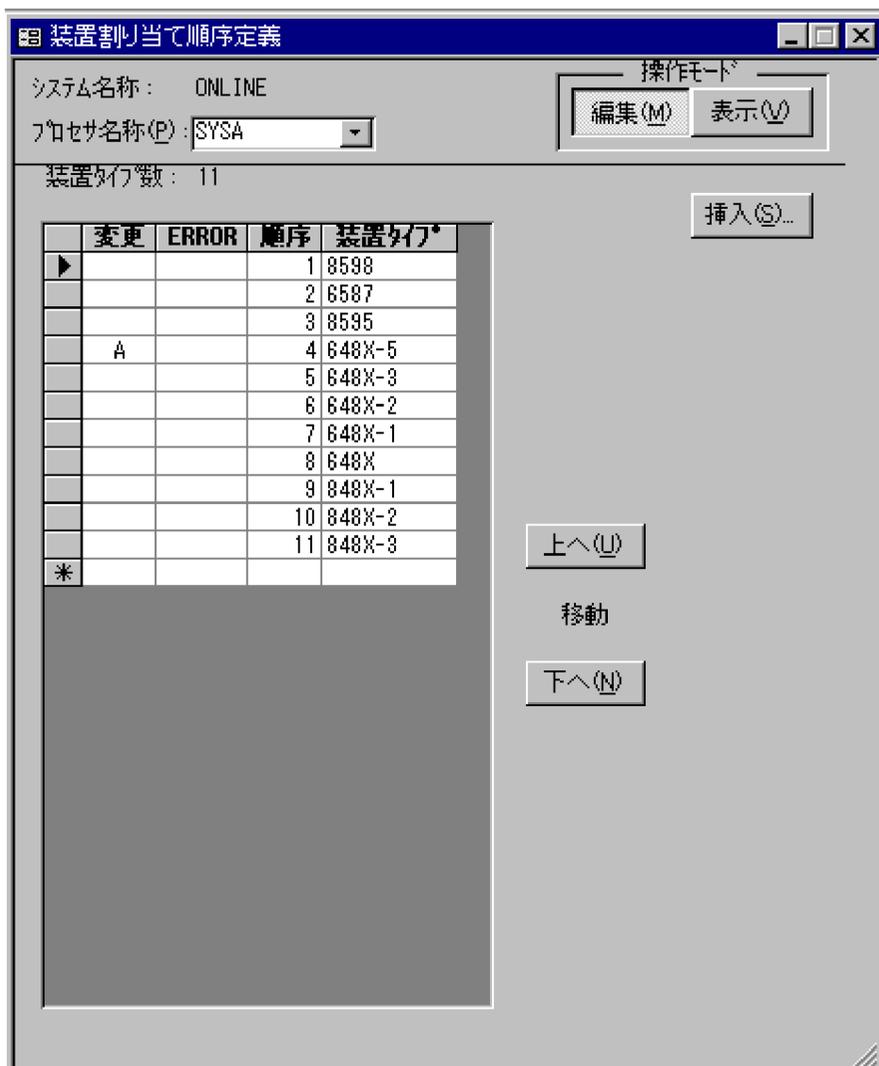
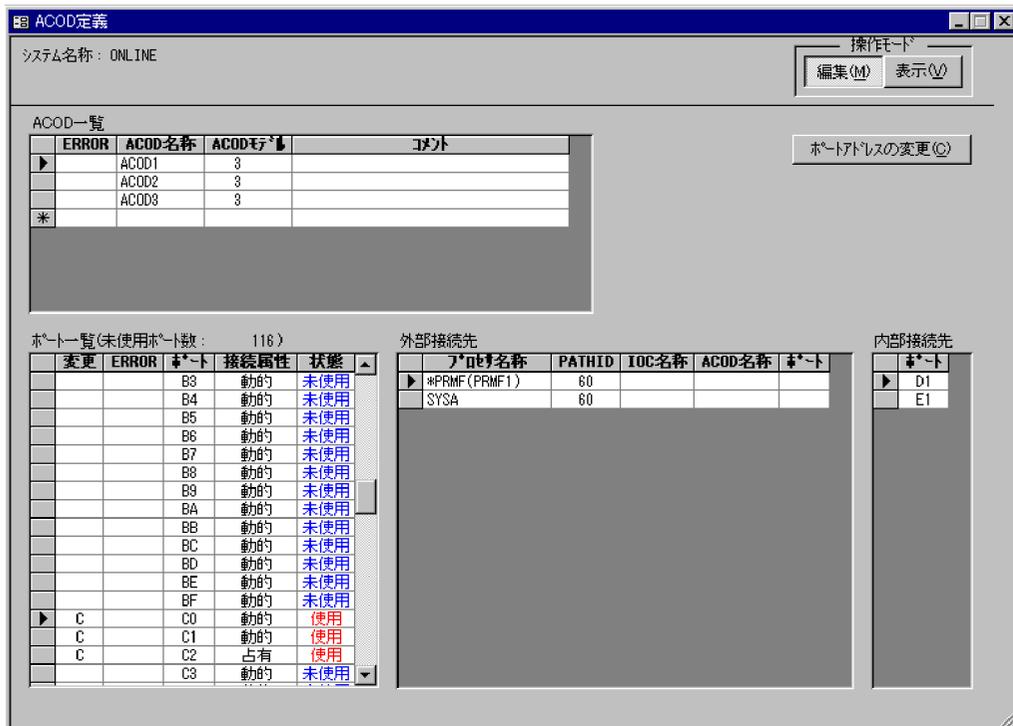


図 5-52 接続定義ウィンドウの定義例 (PRMF を使用する場合)



図 5-53 ACOD 定義ウィンドウの定義例 (PRMF を使用する場合)



5. 使用例

図 5-54 ACOD 経路定義ウィンドウの定義例 (PRMF を使用する場合)

ACOD経路定義

システム名称: ONLINE

リソース名称(P): PRMF (PRMF1) 多段接続あり(O)

モード: PRMF

操作モード

編集(M) 表示(O)

チャネル側

ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	IN	接続属性
▶	50	CNC	ACOD3	80	動的
	51	CNC	ACOD3	81	動的
	60	CTC	ACOD1	C0	動的
	61	CNC	ACOD1	C1	動的
	62	CNC	ACOD1	C2	占有
	66	CNC	ACOD3	80	動的
	76	CNC	ACOD3	81	動的
	80	CNC	ACOD3	82	動的
	81	CNC	ACOD3	83	動的
	86	CNC	ACOD3	87	動的
	87	CNC	ACOD3	88	動的
	86	CNC	ACOD3	89	動的
	A2	CNC	ACOD2	C1	動的

入出力制御装置側

変更	ERROR	OUT	ACOD名称2	IN2	接続属性	OUT2	CUMD	IOC名称
▶	A	A0					0500	DKC400

図 5-55 CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログの定義例（PRMF を使用する場合）

CNC-CTC接続用入出力制御装置の登録

システム名称： ONLINE

操作モード

編集(M) 表示(V)

プロセス名称(P)： ※PRMF (PRMF1)

CUNO(N)：

CUNO(U)：

IOC名称(I)：

IOC名称(O)：

入出力制御装置(S)

CUNO	IOC名称
0000	SVP
0001	IPC1
0061	ACDC
0070	ALC070
0080	ALC080
0090	MTC090
0091	MTC091
00A0	MTC0A0
00A1	MTC0A1
0100	MTC100
0150	LIC1
0180	MTC180
01F0	ESC0
01F1	ESC1
0200	DKC200
0280	DKC280
0300	CHA1
0310	CHA2

追加(A) >

< 削除(D)

CNC-CTC接続用入出力制御装置(T)

CUNO	IOC名称
0601	CTC601
0602	CTC602
0611	CTC611
0612	CTC612

閉じる(C)

図 5-56 ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログの定義例（PRMF を使用する場合）



5.2.3 PRMF を使用する場合のサンプルデータ

PRMF を使用する場合の構成定義例のサンプルデータ（sample2.acddb）は，SCMRF CD for Windows をセットアップしたフォルダの下の [samples] サブフォルダに格納されています。

5.3 多段接続の ACOD 経路の変更例

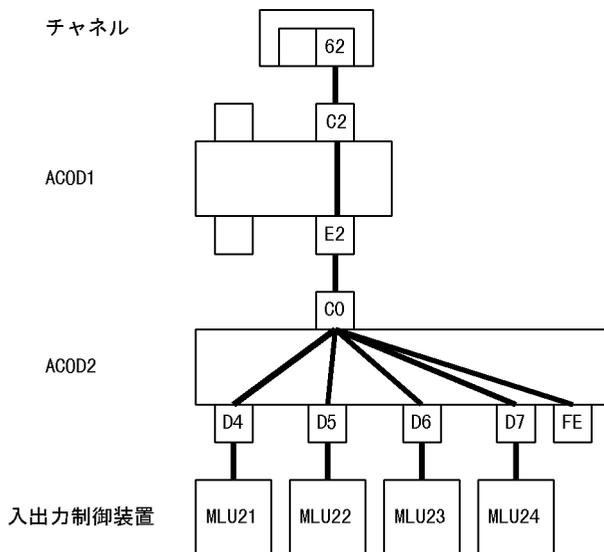
多段接続の ACOD 経路を変更する，次に示す三つの方法について説明します。

- チャンネルから入出力制御装置までの ACOD 経路を削除する
- 多段接続から 1 段接続に変更する（2 段目の ACOD 経路を残す）
- 多段接続から 1 段接続に変更する（1 段目の ACOD 経路を残す）

5.3.1 チャンネルから入出力制御装置までの ACOD 経路を削除する例

チャンネルと 1 段目の ACOD，ACOD 間，2 段目の ACOD と入出力制御装置の ACOD 経路を削除する場合の例を説明します。削除する ACOD 経路の例を図 5-57 に示します。

図 5-57 削除する ACOD 経路の例



(凡例)

- : 削除する ACOD 経路
- : 削除しない ACOD 経路

なお，ACOD 経路を削除するとともに，リンクアドレスを削除するかどうかによって，二つの操作方法があります。

ACOD 経路とリンクアドレスの両方を削除する方法
ACOD1 の ACOD 名称を削除します。

チャンネル側

ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	IN	接続属性
	60	CTC			
	61	CNC	ACOD1	C1	動的
▶	62	CNC	ACOD1	C2	占有
	66	CNC	ACOD3	80	動的

リンクアドレスを残して、ACOD 経路だけを削除する方法
チャンネル側の ACOD 経路に対するレコードを削除します。

チャンネル側

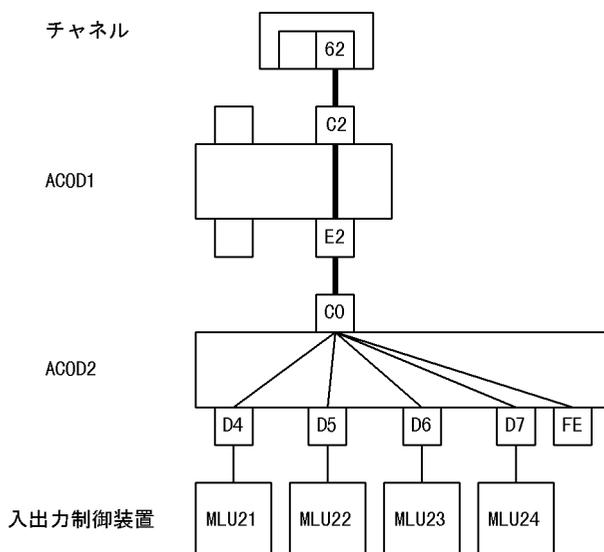
ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	IN	接続属性
	60	CTC			
	61	CNC	ACOD1	C1	動的
▶	62	CNC	ACOD1	C2	占有
	66	CNC	ACOD3	80	動的

5.3.2 多段接続から 1 段接続に変更する例（2 段目の ACOD 経路を残す）

2 段目の ACOD と入出力制御装置間の ACOD 経路を残す場合の例を説明します。変更する ACOD 経路の例を図 5-58 に示します。

この場合、チャンネルと 1 段目の ACOD、ACOD 間、2 段目の ACOD と入出力制御装置の ACOD 経路をいったん削除した後、チャンネルと 2 段目の ACOD を接続する必要があります。

図 5-58 変更する ACOD 経路の例 (2 段目の ACOD 経路を残す)



(凡例)

- : 削除するACOD経路
 : 削除しないACOD経路

1. チャンネル側の ACOD 経路に対するレコードを削除します (この例では、リンクアドレスを残して ACOD 経路を削除しています)。

チャンネル側

ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	IN	接続属性
	60	CTC			
	61	CNC	ACOD1	C1	動的
▶	62	CNC	ACOD1	C2	占有
	66	CNC	ACOD3	80	動的

2. ACOD 名称フィールドに ACOD2 を、IN1 フィールドに ACOD2 のポートアドレス「C0」を指定して、ACOD2 と入出力制御装置の ACOD 経路を定義します。

チャンネル側

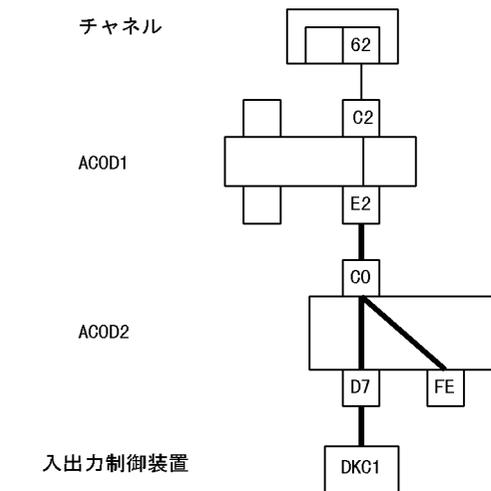
ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	IN	接続属性
	60	CTC			
	61	CNC	ACOD1	C1	動的
✎	62	CNC	ACOD2	C0	動的
	66	CNC	ACOD3	80	動的

5.3.3 多段接続から 1 段接続に変更する例（1 段目の ACOD 経路を残す）

チャンネルと 1 段目の ACOD 間の ACOD 経路を残す場合の例を説明します。変更する ACOD 経路の例を図 5-59 に示します。

この場合、2 段目の ACOD と入出力制御装置間の ACOD 経路を削除します。

図 5-59 変更する ACOD 経路の例（1 段目の ACOD 経路を残す）



(凡例)
—— : 削除するACOD経路
— : 削除しないACOD経路

1. 削除する ACOD 経路に ACOD に対する入出力制御装置が含まれている場合は、接続定義ウィンドウで ACOD に対する入出力制御装置とチャンネルとの接続を削除します。

チャンネル					→接続先入出力制御装置				
変更	PATHID	TYPE	ACOD名称	+	変更	ERROR	CUNO	IOCMN	LNKA
▶	62	CNC	ACOD2				6201	DKC1	D7
	66	CNC	ACOD3		▶		62FE	ACOD2	FE
	70	CFS			*				

2. ACOD 経路定義ウィンドウで ACOD2 の ACOD 名称を削除します。

入出力制御装置側									
変更	ERROR	OUT	ACOD名称2	IN2	接続属性	OUT2	CUNO	IOCMN	
▶		E2	ACOD2	C0	動的	D7	6201	DKC1	

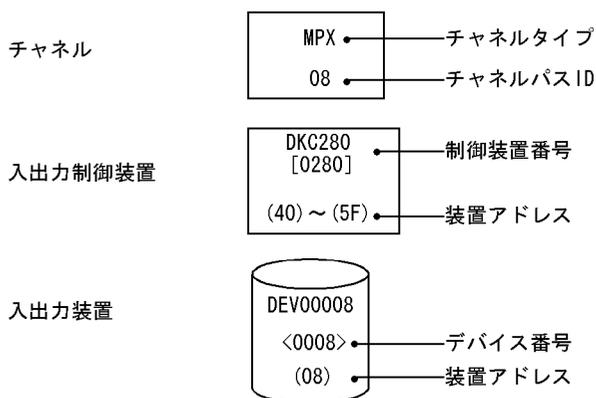
5.4 操作支援機能を用いた操作例

操作支援機能について次に示す二つの操作例を用いて説明します。

- 連携レコードのコピーおよび貼り付け操作例
- 複数コメント行のコピーおよび貼り付け操作例

5.4.1 連携レコードのコピーおよび貼り付け操作例

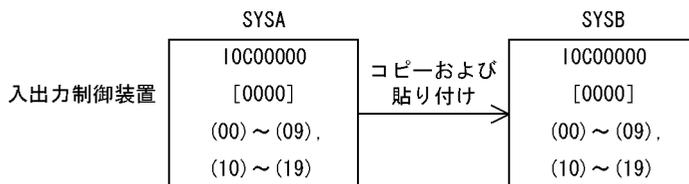
[編集オプション]で[ウィンドウ内で連携するレコードを対象にする(L)]オプションを有効にした場合の、ウィンドウごとの操作方法を説明します。なお、説明の中の構成図は次に示す形式で記述しています。



(1) 入出力制御装置定義ウィンドウ

プロセサ「SYSA」で定義している入出力制御装置のうち、一つの入出力制御装置をコピーしてプロセサ「SYSB」に追加します。構成図を図 5-60 に示します。

図 5-60 入出力制御装置操作の構成図



(a) 操作方法

1. プロセサ「SYSA」のレコードを選択し,[コピー]を実行します。

5. 使用例

システム名称: ONLINE
 プロセッサ名称(P): SYSB コント番号(N): 1

操作モード
 編集(M) 表示(V)

入出力制御装置数: 2

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	TYPE	IFMODE	CUADR	MTLIB	コメント
▶		0000	IOC0000	NS	HS	00		
*		0001	IOC0001	NS		00		

DEVA	NUM
00	10
▶	10
*	

2. プロセッサ「SYSB」の1レコードを選択し,[貼り付け]を実行します

システム名称: ONLINE
 プロセッサ名称(P): SYSB コント番号(N): 1

操作モード
 編集(M) 表示(V)

入出力制御装置数: 0

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	TYPE	IFMODE	CUADR	MTLIB	コメント
▶								

DEVA	NUM
▶	

3. 左側定義シート(キー値)のレコードが貼り付けられレコードが保存されます。この場合,手入力時と同じエラーチェックが実行されます。したがって,右側定義シート(DEVA, NUM フィールド)への貼り付けレコード保存が完了するまでは「W3001」エラー("指定した入出力制御装置に,装置アドレスを定義していません。")が表示されます。

システム名称: ONLINE
 プロセッサ名称(P): SYSB コント番号(N): 1

操作モード
 編集(M) 表示(V)

入出力制御装置数: 1

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	TYPE	IFMODE	CUADR	MTLIB	コメント
▶	W3001	0000	IOC0000	NS	HS	00		
*								

DEVA	NUM
▶	

4. 右側の定義シート(キー値に連携するレコード)にフォーカスが移動し,連携するレコードが貼り付けられレコードが保存されます。

システム名称: ONLINE
 プロセッサ名称(P): SYSB コント番号(N): 1

操作モード
 編集(M) 表示(V)

入出力制御装置数: 1

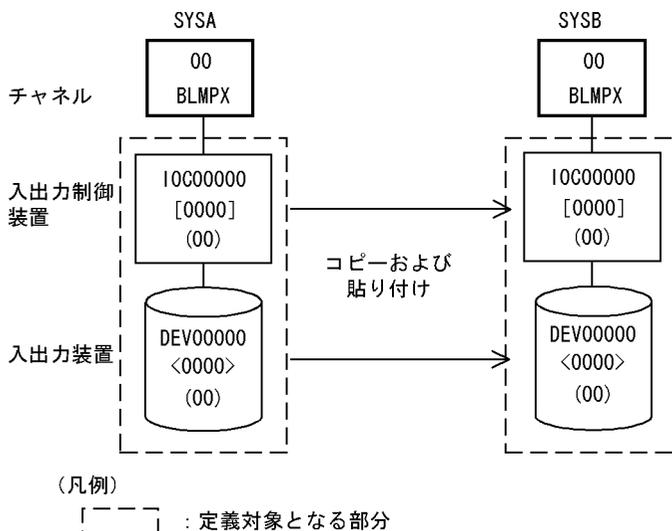
変更	ERROR	CUNO	IOC名称	TYPE	IFMODE	CUADR	MTLIB	コメント
▶	0000	0000	IOC0000	NS	HS	00		
*								

DEVA	NUM
00	10
▶	10
*	

(2) 接続定義ウィンドウ（チャンネル基準時）

プロセサ「SYSB」で定義しているチャンネル配下の接続定義をコピーしてプロセサ「SYSB」のチャンネル配下の接続定義として追加します。構成図を図 5-61 に示します。

図 5-61 接続定義操作の構成図

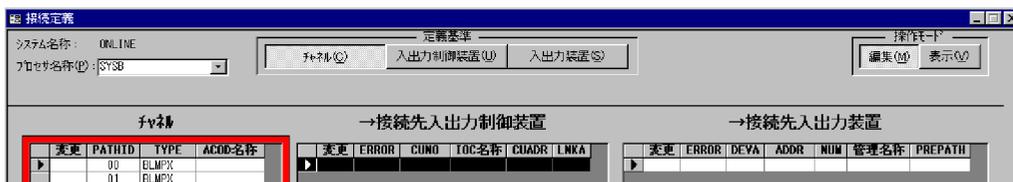


(a) 操作方法

1. プロセサ「SYSB」のチャンネルで基準とするレコードを選択後、コピーの対象とする入出力制御装置のレコードを選択（複数レコード可）します。次に [コピー] を実行します。



2. 貼り付けの対象とするプロセサ「SYSB」を選択し、貼り付け対象とするレコードを選択後 [貼り付け] を実行します。



3. 入出力制御装置にレコードが貼り付けられ、レコードが保存されます。

5. 使用例



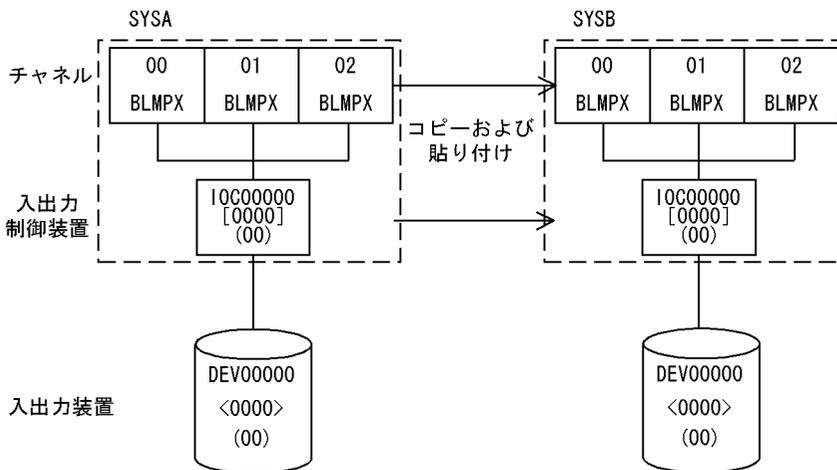
4. 入出力装置にフォーカスが移動し、連携するレコードが貼り付けられレコードが保存されます。



(3) 接続定義ウィンドウ（入出力装置基準時）

プロセサ「SYSА」で定義している入出力装置の接続定義をコピーしてプロセサ「SYSB」の入出力装置の接続定義として追加します。構成図を図 5-62 に示します。

図 5-62 接続定義（入出力装置基準時）操作の構成図



(凡例)
 [] : 定義対象となる部分

(a) 操作方法

1. プロセサ「SYSА」で入出力制御装置の1レコードを選択し,[コピー]を実行します。

接続定義

システム名称: ONLINE
 プロセッサ名称: SYSA

定義基準

操作モード

接続先チャネル ← 接続先入出力制御装置 ← 入出力装置

変更	ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	LNKA
▶		00	ELMPX		
		01	ELMPX		
		02	ELMPX		
*					

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	CUADR	DEVA
▶		0000	IOC0000	00	00
*					

変更	ADDR	NUM	管理名称	PREPATH
▶	0000	1	DEV0000	
	0100	1	DISK	

2. 貼り付け対象とするプロセッサ「SYSB」を選択し、貼り付けの対象とするレコードを選択後 [貼り付け] を実行します。

接続定義

システム名称: ONLINE
 プロセッサ名称: SYSB

定義基準

操作モード

接続先チャネル ← 接続先入出力制御装置 ← 入出力装置

変更	ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	LNKA
▶					
*					

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	CUADR	DEVA
▶		0000	IOC0000	00	00
*					

変更	ADDR	NUM	管理名称	PREPATH
▶	0000	1	DEV0000	
	0100	1	DISK	

3. 入出力制御装置にレコードが貼り付けられレコードが保存されます。

接続定義

システム名称: ONLINE
 プロセッサ名称: SYSB

定義基準

操作モード

接続先チャネル ← 接続先入出力制御装置 ← 入出力装置

変更	ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	LNKA
▶					
*					

変更	ERROR	CUNO	IOC名称	CUADR	DEVA
▶		0000	IOC0000	00	00
*					

変更	ADDR	NUM	管理名称	PREPATH
▶	0000	1	DEV0000	
	0100	2	DISK	

4. 入出力装置にフォーカスが移動し、連携するレコードが貼り付けられレコードが保存されます。

接続定義

システム名称: ONLINE
 プロセッサ名称: SYSB

定義基準

操作モード

接続先チャネル ← 接続先入出力制御装置 ← 入出力装置

変更	ERROR	PATHID	TYPE	ACOD名称	LNKA
▶		00	ELMPX		
		01	ELMPX		
		02	ELMPX		
*					

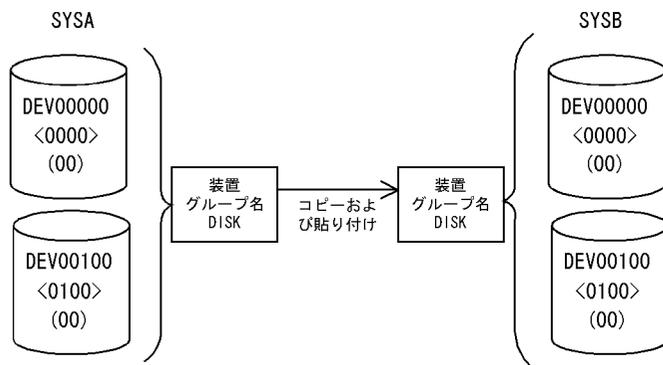
変更	ERROR	CUNO	IOC名称	CUADR	DEVA
▶		0000	IOC0000	00	00
*					

変更	ADDR	NUM	管理名称	PREPATH
▶	0000	1	DEV0000	
	0100	2	DISK	

(4) 装置グループ定義ウィンドウ (装置グループ基準時)

プロセサ「SYSА」で定義している装置グループ "DISK" をコピーしてプロセサ「SYSB」の装置グループ定義として追加します。構成図を図 5-63 に示します。

図 5-63 装置グループ定義 (装置グループ基準時) 操作の構成図



(a) 操作方法

1. プロセサ「SYSА」の1レコードを選択し,[コピー]を実行します。



2. 貼り付け対象とするプロセサ「SYSB」を選択し,貼り付け対象となるレコードを選択し,[貼り付け]を実行します。



3. 装置グループ定義シートにレコードが貼り付けられレコードが保存されます。手入力時と同じエラーチェックが実行されるため,対象入出力装置への貼り付けレ

コードの保存が完了するまでは「W5001」エラー (" 指定した装置グループに入出力装置が指定されていません。") が表示されます。



4. 対象入出力装置定義シートにフォーカスが移動し連携するレコードが貼り付けられレコードが保存されます。

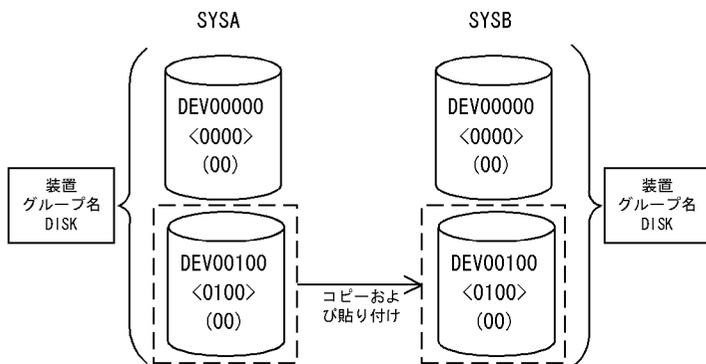


(5) 装置グループ定義ウィンドウ (入出力装置基準時)

プロセッサ「SYSA」で装置グループ「DISK」に定義している入出力装置「DEV00100」をコピーしてプロセッサ「SYSB」の装置グループ「DISK」の入出力装置として追加します。構成図を図 5-64 に示します。なお、入出力装置基準でのコピーおよび貼り付けは、同一グループへの追加だけです。そのため、コピー元の装置グループと異なる装置グループへは追加できません。

5. 使用例

図 5-64 装置グループ定義（入出力装置基準時）操作の構成図



(凡例)

[]: 定義対象となる部分

(a) 操作方法

1. プロセサ「SYSA」の1レコードを選択し,[コピー]を実行します。



2. 貼り付け対象とするプロセサ「SYSB」を選択し, 貼り付け対象となるレコードを選択し,[貼り付け]を実行します。



3. 入出力装置定義シートにレコードが貼り付けられレコードが保存されます。



4. 対象装置グループ定義シートにフォーカスが移動し連携するレコードが貼り付けられレコードが保存されます。



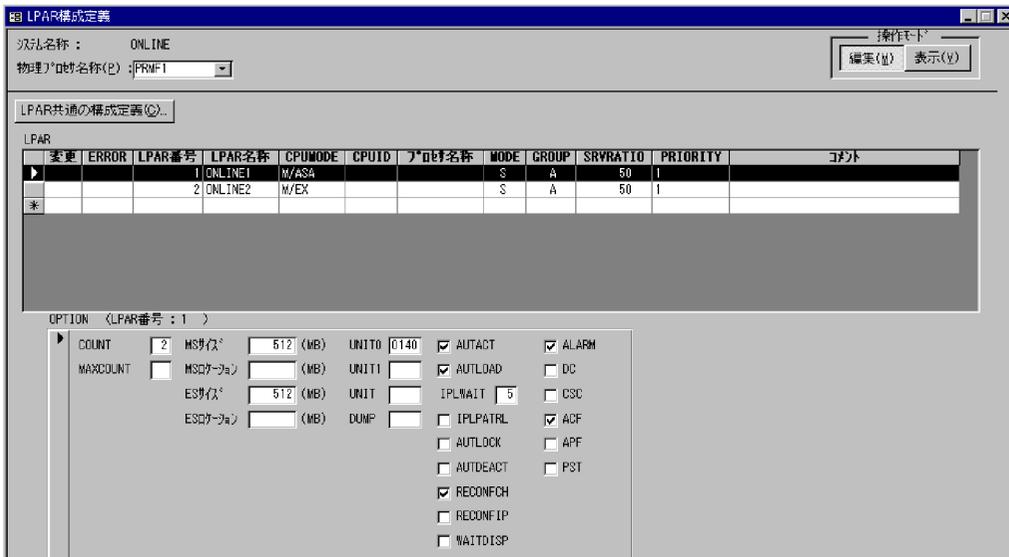
(6) LPAR 構成定義ウィンドウ

PRMF 構成で、物理プロセッサ「PRMF1」の LPAR 構成定義をコピーして、物理プロセッサ「PRMF2」の構成定義として追加します

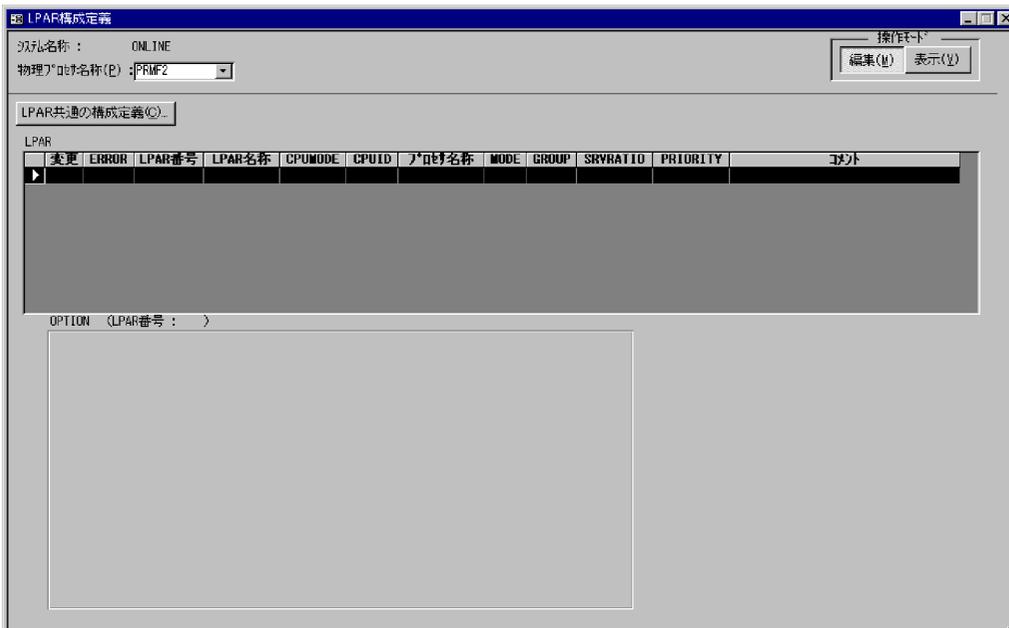
(a) 操作方法

1. 物理プロセッサ「PRMF1」の 1 レコードを選択し、[コピー] を実行します。

5. 使用例



2. 貼り付け対象とする物理プロセッサ「PRMF2」を選択し、貼り付け対象となるレコードを選択し、[貼り付け] を実行します。



3. LPAR 定義シートにレコードが貼り付けられレコードが保存されます。

LPAR構成定義

双法名称 : ONLINE
物理LPAR名称(P): PRMF2

操作モード
編集(E) 表示(Y)

LPAR共通の構成定義(C)

LPAR

変更	ERROR	LPAR番号	LPAR名称	CPUMODE	CPUID	LPAR名称	MODE	GROUP	SRVRATIO	PRIORITY	コメント
*		1	ONLINE1	M/ASA			S	A	50	1	

OPTION (LPAR番号: 1)

COUNT MS対イ* (MB) UNIT0 AUTACT ALARM
 MAXCOUNT MS対イ* (MB) UNIT1 AUTLOAD DC
 ES対イ* (MB) UNIT IPLWAIT CSC
 ES対イ* (MB) DUMP IPLPATRL ACF
 AUTLOCK APF
 AUTDEACT PST
 RECONFCH
 RECONFIP
 WAITDISP

4. OPTION 定義シート（単票）にフォーカスが移動し連携するレコードが貼り付けられレコードが保存されます。

LPAR構成定義

双法名称 : ONLINE
物理LPAR名称(P): PRMF2

操作モード
編集(E) 表示(Y)

LPAR共通の構成定義(C)

LPAR

変更	ERROR	LPAR番号	LPAR名称	CPUMODE	CPUID	LPAR名称	MODE	GROUP	SRVRATIO	PRIORITY	コメント
*		1	ONLINE1	M/ASA			S	A	50	1	

OPTION (LPAR番号: 1)

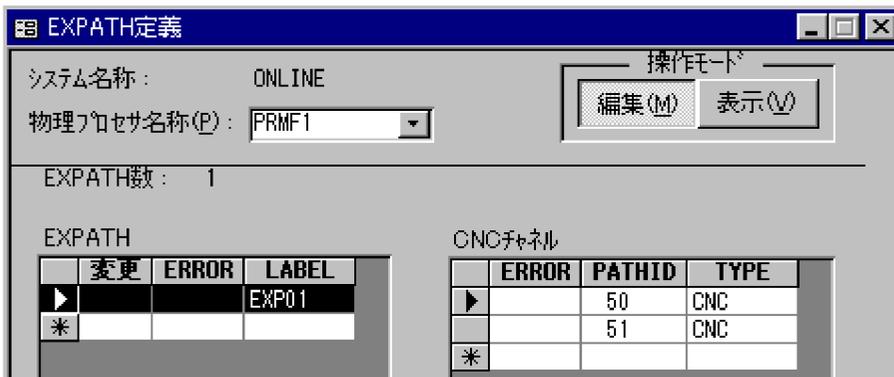
COUNT MS対イ* 512 (MB) UNIT0 0140 AUTACT ALARM
 MAXCOUNT MS対イ* (MB) UNIT1 AUTLOAD DC
 ES対イ* 512 (MB) UNIT IPLWAIT 5 CSC
 ES対イ* (MB) DUMP IPLPATRL ACF
 AUTLOCK APF
 AUTDEACT PST
 RECONFCH
 RECONFIP
 WAITDISP

(7) EXPATH 定義ウィンドウ

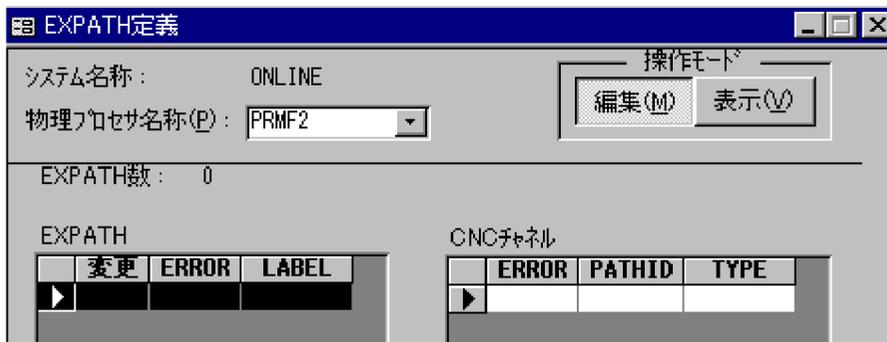
物理プロセサ「PRMF1」の EXPATH 定義（ラベル A）をコピーして、物理プロセサ「SYSB」に構成定義として追加します。

(a) 操作方法

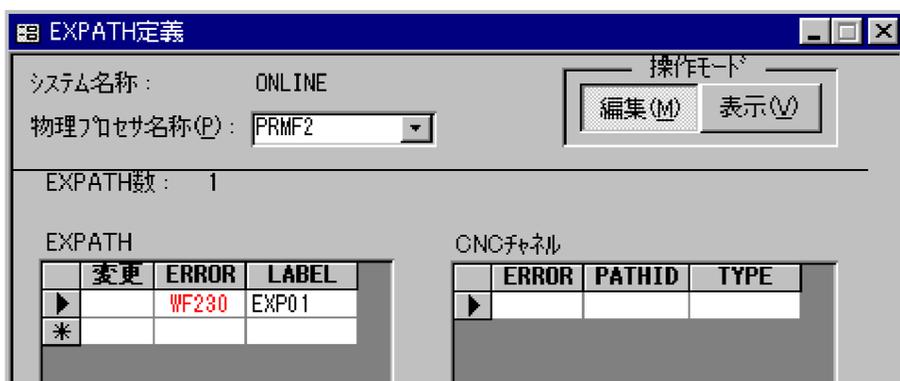
1. 物理プロセサ「PRMF1」でコピー対象レコードを選択し、編集メニューから [コピー] を実行します。



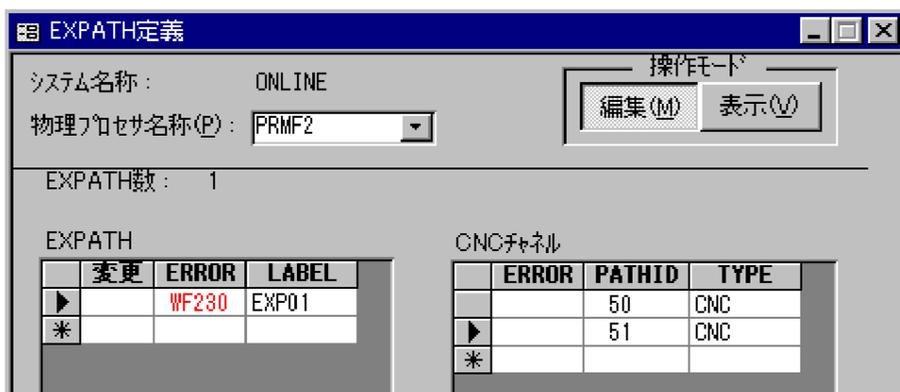
2. 貼り付け対象とする物理プロセサ「PRMF2」を選択し、貼り付け対象とするレコードを選択後「貼り付け」を実行します。



3. EXPATH 定義シートにレコードが貼り付けられレコードが保存されます。
手入力時と同じエラーチェックが実行されるため、連携するレコードの貼り付け、レコード保存が完了するまでは「WF230」エラー ("指定した EXPATH に CNC チャネル, または BLMPX・CVC チャネルのどれかが指定されていません。") が表示されません。



4. CNC チャネル定義シートにフォーカスが移動し、連携するレコードが貼り付けられレコードが保存されます。



5. BLMPX/CVC チャネル定義シートにフォーカスが移動し、連携するレコードが貼り付けられレコードが保存されます。

5. 使用例

EXPATH定義

システム名称: ONLINE

物理加工セサ名称(P): PRMF2

操作モード

編集(M) 表示(V)

EXPACH数: 1

EXPACH

	変更	ERROR	LABEL
▶			EXP01
*			

CNCチャネル

	ERROR	PATHID	TYPE
		50	CNC
▶		51	CNC
*			

BLMPX/CVCチャネル

	ERROR	PATHID	TYPE
		40	BLMPX
▶		41	BLMPX
*			

(8) 貼り付け時のデータ形式の選択

貼り付けるときに選択したレコードだけの貼り付けか、または連携レコードを含んだ貼り付けをするかがメニューで選択できます。貼り付けの操作例を図 5-65 に示します。

図 5-65 形式を選択した貼り付けの操作例



5.4.2 複数コメント行のコピーおよび貼り付け操作例

[編集オプション]で[表示されていないコメントを対象にする(C)]オプションチェックボックスをオンにした場合のチャンネル定義ウィンドウの操作方法を説明します。なお、このオプションが有効となる入出力制御装置ウィンドウ、入出力装置定義ウィンドウについても同様の操作となります。

(1) チャンネル定義ウィンドウ

プロセサ「SYSA」で定義している一つのチャンネル定義および、該当するチャンネルに定義しているコメントをすべてコピーし、プロセサ「SYSB」の構成定義として追加します。

(a) 操作方法

1. 二つのコメントを定義しているチャンネル定義の1レコードを選択して[コピー]を実行します。



コメントの定義を次に示します。

- ・コメント番号 1 を表示



- ・コメント番号 2 を表示

チャネル定義(OS)

システム名称: ONLINE

プロセッサ名称(P): SYSA コメント番号(N): 2

モード: BASIC

チャネル数: 6

変更	ERROR	PATHID	TYPE	コメント
		01	BLMPX	コメントその2
		02	BLMPX	
		20	CNC	

2. 貼り付け対象とするプロセッサ「SYSB」を選択し、貼り付け対象とするレコードを選択後 [貼り付け] を実行します。

チャネル定義(OS)

システム名称: ONLINE

プロセッサ名称(P): SYSB コメント番号(N): 1

モード: BASIC

チャネル数: 5

変更	ERROR	PATHID	TYPE	コメント
		01	BLMPX	
		02	BLMPX	
		40	CTC	
		70	CTC	
		71	CNC	
▶				

3. 入出力制御装置にレコードが貼り付けられレコードが保存されます。

チャネル定義(OS)

システム名称: ONLINE

プロセッサ名称(P): SYSB コメント番号(N): 1

モード: BASIC

チャネル数: 5

変更	ERROR	PATHID	TYPE	コメント
		02	BLMPX	
		40	CTC	
		70	CTC	
		71	CNC	
▶		01	BLMPX	コメントその1
*				

6

SCMRF CD for Windows の 導入

この章では、SCMRF CD for Windows が動作する環境および
セットアップ方法について説明します。

6.1 動作環境

6.2 セットアップ方法

6.1 動作環境

SCMRF CD for Windows が動作するのに必要な条件について説明します。

6.1.1 ハードウェア環境

SCMRF CD for Windows は次に示す条件を満たす PC で動作します。

- システム搭載メモリ：
Windows 7, Windows 8, Windows 8.1 で使用する場合：256MB 以上
- ハードディスクの空き容量：40MB 以上
- Windows が動作すること
- Windows 使用時のディスプレイの画像解像度：1,024 × 768 ドット以上
- Windows 使用時にディスプレイで表示するフォントの大きさ：小さいフォント

画像解像度とフォントの大きさが条件を満たしていないと、ウィンドウがディスプレイ上に表示しきれない、ウィンドウ内の文字が表示しきれない、またはウィンドウで文字列を入力できない場合があります。

なお、SCMRF CD for Windows の操作性を高めるための環境定義については、製品に添付のリリースノートを参照してください。

6.1.2 ソフトウェア環境

(1) PC 側

SCMRF CD for Windows が動作するためには次に示すプログラムプロダクトが必要です。

(a) オペレーティングシステム

- Windows 7
- Windows 8
- Windows 8.1

(b) アプリケーションプログラム

ホストとファイル転送するためのプログラムが必要です。

ホスト側で IFIT-TSS, IFIT-TSS E2, または XFIT を使用してファイル転送する場合

- Windows 7 で使用する場合：CommuniNet Version 4 04-02 以降
- Windows 8, Windows 8.1 で使用する場合：CommuniNet Version 4 04-04 以降

ホスト側で XNF/TCP または XFIT を使用してファイル転送する場合

ftp でファイル転送できるプログラムが必要です。

また、SCMRF CD for Windows で表示した情報を Excel へ貼り付ける場合は、

Microsoft Excel 2007 以降が必要です。

(2) ホスト側

ホスト側では次に示すプログラムプロダクトが必要です。

- SCMRF/CD 01-00 以降
- SCMRF/CD が動作するために必要なプログラムプロダクト

注

- PRMF を使用するシステムの構成定義をする場合、または VOS3/FS 03-00 以降の入出力構成を定義する場合は、SCMRF/CD 02-00 以降が必要です。
- AOMPLUS 07-00 以降で使用する ACOD 構成を定義する場合は、SCMRF/CD 02-01 以降が必要です。
- PRMA E2 03-01 で使用する PRMF 構成を定義する場合、またはラベル名称定義機能を使用する場合は、SCMRF/CD 02-02 以降が必要です。
- PRMA E2 04-00 で使用する PRMF 構成を定義する場合は、SCMRF/CD 02-03 以降が必要です。
- PRMA E2 04-01 以降で使用する PRMF 構成を定義する場合、または VOS3/FS 06-00 以降の入出力構成を定義する場合は、SCMRF/CD 02-04 以降が必要です。
- PRMA E2 05-02 以降または PRMA E3 01-00 以降で PRMF 構成を定義する場合、または VOS3/LS 01-00 以降の入出力構成を定義する場合は、SCMRF/CD 02-05 以降が必要です。
- PRMA E3 03-00 以降で PRMF 構成を定義する場合、または VOS3/LS 03-00 以降の入出力構成を定義する場合は、SCMRF/CD 03-02 以降が必要です。
- PRMA E3 04-00 以降で PRMF 構成を定義する場合、FIBARC ディレクタを定義する場合、または FIBARC CTC を定義する場合は、SCMRF/CD 03-03 以降が必要です。
- VOS3/US 03-00 以降の入出力構成を定義する場合、または PRMA E3 07-00 以降で使用する PRMF 構成を定義する場合は、SCMRF/CD 03-04 以降が必要です。

6.1.3 ディスク占有量

SCMRF CD for Windows を使用するとき最低限必要なハードディスクの空き容量を次に示します。

- SCMRF CD for Windows が動作するために必要な容量：40MB 以上
- SCMRF CD for Windows のデータベースを作成するために必要な容量：20MB 以上

6.2 セットアップ方法

SCMRF CD for Windows のセットアップおよび削除手順、セットアップおよび削除時の注意事項を説明します。

6.2.1 セットアップの手順

SCMRF CD for Windows をセットアップするには、Windows を起動しておきます。

統合 CD-ROM 提供媒体の取扱説明書にある日立総合インストーラの使用方法を参照してください。

インストーラ起動後の手順を次に示します。

1. SCMRF CD セットアップのダイアログが表示されます。
[継続] ボタンをクリックするとセットアップを継続します。[セットアップの終了 (X)] ボタンをクリックするとセットアップを終了します。
2. セットアップするフォルダを指定するダイアログが表示されます。
セットアップするフォルダを変更する場合は [フォルダの変更 (D)...] ボタンをクリックして、セットアップするフォルダを指定します。[OK] ボタンをクリックするとセットアップを継続します。
3. セットアップを開始するダイアログが表示されます。
次に示すセットアップ方法から選択してボタンをクリックします。
 - 標準セットアップ
SCMRF CD for Windows のすべての機能をセットアップします。
 - カスタムセットアップ
必要な機能だけを選択してセットアップします。
 - 最小セットアップ
SCMRF CD for Windows を実行するために最低限必要な機能だけをセットアップします。サンプルデータベースはセットアップされません。
4. プログラムフォルダを選択するダイアログが表示されます。
フォルダ名を変更するには [プログラムフォルダ (P)] テキストボックスにフォルダ名を指定するか、または [登録されているフォルダ (X)] リストボックスから既存のグループを選択します。セットアップを継続するには [継続 (C)] ボタンをクリックします。
5. 配布ディスクからハードディスクに SCMRF CD for Windows のファイルがコピーされます。コピーの進捗がパーセントとメータでダイアログに表示されます。
6. セットアップが正常に終了すると、プログラムメニューに SCMRF CD プログラムフォルダが作成され、サブメニューの中に次に示すアイコンが作成されます。
 - 構成定義
 - ユティリティ
 - Readme

7. SCMRF CD for Windows をセットアップした直後はすべてのユーザ権限を持つ「SYSMNGR」というユーザ ID だけがパスワードなしで登録されています。不当なユーザの使用を防ぐため、ユティリティを起動して SYSMNGR でログオンし、パスワードを変更します。ユティリティの起動方法およびパスワードの変更方法については、「4.22.1 ユーザの登録」を参照してください。

6.2.2 セットアップ時の注意事項

SCMRF CD for Windows をセットアップするときの注意事項を説明します。

(1) セットアップするときの注意事項

Administrators に所属するメンバでセットアップしてください。

(2) SCMRF CD for Windows が導入済みの状態でのセットアップ

SCMRF CD for Windows をすでにハードディスクに導入している状態でセットアップを実行すると、ハードディスクにある SCMRF CD for Windows のファイルのバージョンがセットアップするファイルより古い場合に上書きされます。ただし、次に示すファイルは上書きされません。

- SCMRF CD for Windows のユーザ情報データベースファイル (SCMRF CD for Windows をセットアップしたフォルダの下の cdpuser.accdb)
- SCMRF CD for Windows の初期化ファイル (Windows がセットアップされているフォルダの下の scmrfd2.ini)

また、一つの PC でバージョンの異なる SCMRF CD for Windows を同時に使用することはできません。バージョンアップの際は、セットアップ先に古いバージョンが格納されているフォルダを指定し、上書きしてください。

(3) Access との関連

SCMRF CD for Windows には Access のランタイム版のプログラムが含まれています。Access のランタイム版のプログラムは、SCMRF CD for Windows のセットアップとは別にインストールする必要があります。

なお、Access がインストールされている場合、Access のプログラムが SCMRF CD for Windows で使用されるため、Access のランタイム版のプログラムのインストールは不要です。

6.2.3 SCMRF CD for Windows の削除手順

セットアップした SCMRF CD for Windows を削除するには、次に示す手順で実行します。

1. コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を実行し、「インストール

6. SCMRF CD for Windows の導入

と削除」タブを開きます。

2. 表示される一覧から「SCMRF CD」を選択して、「追加と削除」を実行します。
3. SCMRF CD セットアップダイアログで、[すべて削除 (M)] ボタンをクリックします。
4. 削除するかどうかの確認メッセージで [はい (Y)] ボタンをクリックします。
5. メッセージに従って、Windows の再起動を実行します。

6.2.4 SCMRF CD for Windows 削除時の注意事項

SCMRF CD for Windows を削除すると、配布ディスク 1 の挿入を指示するメッセージが表示されますが、配布ディスクを挿入しなくても削除できます。

7

表示される情報の見方

この章では、SCMRF CD for Windows が出力する各種情報の見方について説明します。

7.1 SYSGEN マクロの出力情報

7.2 PRMF システム構成定義文の出力情報

7.3 ACOD 外部構成定義コマンドの出力情報

7.4 ACOD 内部構成定義コマンドの出力情報

7.5 比較結果の出力情報

7.6 変更記録を付けた比較結果の出力情報

7.1 SYSGEN マクロの出力情報

SYSGEN マクロの出力情報の表示形式を次に示します。また、SYSGEN マクロの先頭に出力されるコメントの内容について表 7-1 に示します。

```
*****
* SYSTEM NAME      : ONLINE      PROC NAME      : SYSA      *
* SYNTAX LEVEL    : LEVEL0      *
* CPUMODEL        : MP5800      ACOH           : YES       *
* CREATION TIME    : 1998-01-29 18:07:32 *
* UPDATE TIME     : 1998-03-13 06:59:50 *
*****
CHANNEL TYPE=MPX, PATHID=00
CHANNEL TYPE=MPX, PATHID=06
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=07
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=09
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=10
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=15
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=1F
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=20
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=30
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=31
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=40
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=41
CHANNEL TYPE=CTC, CUNO=61FE, PATHID=60
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=61FE, PATHID=61
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=62FE, PATHID=62
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=66
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=70
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=71
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=72
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=73
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=76
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=80
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=86
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=87
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=96
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=62FE, PATHID=A2
CONTRLR CUNO=0000, IOCMN=SVP, TYPE=NS, PATHID=00, DEVA=((00, 1), X
(08, 4))
CONTRLR CUNO=0001, IOCMN=IPC1, TYPE=NS, PATHID=00, DEVA=((0F, 1), X
(1E, 2))
CONTRLR CUNO=0061, IOCMN=ACDC, TYPE=NS, PATHID=06, DEVA=((16, 8))
CONTRLR CUNO=0070, IOCMN=ALC070, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=07, X
DEVA=((40, 8))
CONTRLR CUNO=0080, IOCMN=ALC080, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=07, X
DEVA=((50, 8))
CONTRLR CUNO=0090, IOCMN=MTC090, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=09, X
DEVA=((80, 16))
CONTRLR CUNO=0091, IOCMN=MTC091, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=09, X
DEVA=((90, 16))
CONTRLR CUNO=0100, IOCMN=MTC100, TYPE=S, PATHID=10, DEVA=((80, 8))
CONTRLR CUNO=0150, IOCMN=LIC1, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=15, X
DEVA=((20, 3))
CONTRLR CUNO=01F0, IOCMN=ESC0, TYPE=NS, PATHID=1F, DEVA=((00, 1))
CONTRLR CUNO=01F1, IOCMN=ESC1, TYPE=NS, PATHID=1F, DEVA=((01, 1))
CONTRLR CUNO=0200, IOCMN=DKC200, TYPE=NS, PATHID=20, X
DEVA=((40, 32))
```

CONTRLR CUNO=0300, IOCMN=CHA1, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=30, DEVA=((00, 128))	X
CONTRLR CUNO=0310, IOCMN=CHA2, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=31, DEVA=((00, 128))	X
CONTRLR CUNO=0400, IOCMN=DKC400, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=40, DEVA=((00, 16))	X
CONTRLR CUNO=0410, IOCMN=DKC410, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=41, DEVA=((00, 16))	X
CONTRLR CUNO=0601, IOCMN=CTC601, TYPE=NS, PATHID=60, LNKA=E1, CUADR=0, DEVA=((60, 16))	X
CONTRLR CUNO=0602, IOCMN=CTC602, TYPE=NS, PATHID=60, LNKA=D1, CUADR=0, DEVA=((40, 16))	X
CONTRLR CUNO=0611, IOCMN=CTC611, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=D0, CUADR=0, DEVA=((20, 16))	X
CONTRLR CUNO=0612, IOCMN=CTC612, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=E0, CUADR=0, DEVA=((20, 16))	X
CONTRLR CUNO=0620, IOCMN=MLU21, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D4, D4), MTLIB=ML2, CUADR=0, DEVA=((00, 2))	X
CONTRLR CUNO=0621, IOCMN=MLU22, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D5, D5), MTLIB=ML2, CUADR=0, DEVA=((00, 2))	X
CONTRLR CUNO=0622, IOCMN=MLU23, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D6, D6), MTLIB=ML2, CUADR=0, DEVA=((00, 2))	X
CONTRLR CUNO=0623, IOCMN=MLU24, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D7, D7), MTLIB=ML2, CUADR=0, DEVA=((00, 2))	X
CONTRLR CUNO=61FE, IOCMN=ACOD1, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=FE, CUADR=0, DEVA=((00, 1))	X
CONTRLR CUNO=62FE, IOCMN=ACOD2, TYPE=NS, PATHID=62, LNKA=FE, CUADR=0, DEVA=((00, 1))	X
CONTRLR CUNO=6601, IOCMN=SDIR1, TYPE=NS, PATHID=66, LNKA=D4, CUADR=0, DEVA=((40, 32))	X
CONTRLR CUNO=66FE, IOCMN=ACOD3, TYPE=NS, PATHID=66, LNKA=FE, CUADR=0, DEVA=((00, 1))	X
CONTRLR CUNO=7001, TYPE=NS, PATHID=(70, 71, 72, 73), DEVA=((00, 256))	X
CONTRLR CUNO=7601, IOCMN=SDIR2, TYPE=NS, PATHID=76, LNKA=D2, CUADR=1, DEVA=((40, 32))	X
CONTRLR CUNO=8001, IOCMN=CCP1, TYPE=NS, PATHID=80, LNKA=E0, CUADR=0, DEVA=((02, 2))	X
CONTRLR CUNO=8601, IOCMN=SDIR3, TYPE=NS, PATHID=86, LNKA=D5, CUADR=0, DEVA=((40, 32))	X
CONTRLR CUNO=8701, IOCMN=SDIR5, TYPE=NS, PATHID=87, LNKA=D1, CUADR=2, DEVA=((40, 32))	X
CONTRLR CUNO=9601, IOCMN=SDIR4, TYPE=NS, PATHID=96, LNKA=D3, CUADR=1, DEVA=((40, 32))	X
IODEVICE UNIT=9415, FEATURE=(ATTENTION), IOTIME=60, CUNO=0000, DEVA=00, DEVMN=C00, ADDRESS=(0000, 1)	X
IODEVICE UNIT=SVP, MODEL=1, FEATURE=(PFKEY), IOTIME=60, CUNO=0000, X DEVA=08, DEVMN=C08, ADDRESS=(0008, 1)	X
IODEVICE UNIT=SVP, MODEL=1, FEATURE=(PFKEY), IOTIME=60, CUNO=0000, X DEVA=09, DEVMN=C09, ADDRESS=(0009, 1)	X
IODEVICE UNIT=F8092, MODEL=50, IOTIME=60, CUNO=0000, DEVA=0A, DEVMN=(10A, HEX), ADDRESS=(000A, 2)	X
IODEVICE UNIT=8268, MODEL=10, FEATURE=(ATTENTION), IOTIME=60, CUNO=0001, DEVA=0F, DEVMN=MSR, ADDRESS=(000F, 1)	X
IODEVICE UNIT=8571, FEATURE=(ATTENTION), IOTIME=60, CUNO=0001, DEVA=1E, DEVMN=(FD0, HEX), ADDRESS=(001E, 2)	X
IODEVICE UNIT=8598, IOTIME=120, CUNO=0200, DEVA=40, DEVMN=(140, HEX), ADDRESS=(0140, 4)	X
IODEVICE UNIT=8488, MODEL=1, FEATURE=(9-TRACK), IOTIME=300, CUNO=0100, DEVA=80, DEVMN=(180, HEX), ADDRESS=(0180, 4)	X
IODEVICE UNIT=8488, MODEL=1, FEATURE=(9-TRACK), IOTIME=300, CUNO=0100, DEVA=84, DEVMN=(184, HEX), ADDRESS=(0184, 4)	X

7. 表示される情報の見方

```

IODEVICE UNIT=6485,MODEL=1,FEATURE=(SHARABLE),IOTIME=300, X
OFFLINE=YES,CUNO=0090,DEVA=80,DEVMN=(280,HEX), X
ADDRESS=(0280,16)
IODEVICE UNIT=6485,MODEL=1,FEATURE=(SHARABLE),IOTIME=300, X
OFFLINE=YES,CUNO=0091,DEVA=90,DEVMN=(290,HEX), X
ADDRESS=(0290,16)
IODEVICE UNIT=F6214,MODEL=51,IOTIME=60,CUNO=0061,DEVA=16, X
DEVMN=C16,ADDRESS=(0616,4)
IODEVICE UNIT=F8092,MODEL=50,IOTIME=60,CUNO=0061,DEVA=1A, X
DEVMN=(11A,HEX),ADDRESS=(061A,4)
IODEVICE UNIT=6488,MODEL=1,FEATURE=(SHARABLE),IOTIME=720, X
OFFLINE=YES,CUNO=0620,DEVA=00,DEVMN=(M60,HEX), X
ADDRESS=(0620,2)
IODEVICE UNIT=6488,MODEL=1,FEATURE=(SHARABLE),IOTIME=720, X
OFFLINE=YES,CUNO=0621,DEVA=00,DEVMN=(M62,HEX), X
ADDRESS=(0622,2)
IODEVICE UNIT=6488,MODEL=1,FEATURE=(SHARABLE),IOTIME=720, X
OFFLINE=YES,CUNO=0622,DEVA=00,DEVMN=(M64,HEX), X
ADDRESS=(0624,2)
IODEVICE UNIT=6488,MODEL=1,FEATURE=(SHARABLE),IOTIME=720, X
OFFLINE=YES,CUNO=0623,DEVA=00,DEVMN=(M66,HEX), X
ADDRESS=(0626,2)
IODEVICE UNIT=6951,FEATURE=(SHARED),IOTIME=960, X
CUNO=(0070,0080),DEVA=(40,50),DEVMN=ML1, X
ADDRESS=((0740,7),(0750,7))
IODEVICE UNIT=6355,IOTIME=120,CUNO=0150,DEVA=20,DEVMN=L20, X
ADDRESS=(1520,1)
IODEVICE UNIT=6355,IOTIME=NO,CUNO=0150,DEVA=21,DEVMN=L21, X
ADDRESS=(1521,1)
IODEVICE UNIT=6355,IOTIME=NO,CUNO=0150,DEVA=22,DEVMN=L22, X
ADDRESS=(1522,1)
IODEVICE UNIT=ES,XFEATUR=ES,CUNO=01F0,DEVA=00,DEVMN=ES0, X
ADDRESS=(1F00,1)
IODEVICE UNIT=ES,XFEATUR=ES,CUNO=01F1,DEVA=01,DEVMN=ES1, X
ADDRESS=(1F01,1)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,FEATURE=(ATTENTION),IOTIME=60, X
CUNO=0300,DEVA=40,DEVMN=(NB0,HEX),ADDRESS=(3040,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,FEATURE=(ATTENTION),IOTIME=60, X
CUNO=0300,DEVA=60,DEVMN=(NA0,HEX),ADDRESS=(3060,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,FEATURE=(ATTENTION),IOTIME=60, X
CUNO=0310,DEVA=30,DEVMN=(NC0,HEX),ADDRESS=(3130,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,FEATURE=(ATTENTION),IOTIME=60, X
CUNO=0310,DEVA=50,DEVMN=(NF0,HEX),ADDRESS=(3150,16)
IODEVICE UNIT=6587,IOTIME=120,CUNO=(0400,0410),DEVA=(00,00), X
DEVMN=(400,HEX),ADDRESS=(4000,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,FEATURE=(ATTENTION),IOTIME=60, X
CUNO=0602,DEVA=40,DEVMN=(MB0,HEX),ADDRESS=(6040,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,FEATURE=(ATTENTION),IOTIME=60, X
CUNO=0601,DEVA=60,DEVMN=(MA0,HEX),ADDRESS=(6060,16)
IODEVICE UNIT=6335,IOTIME=60,CUNO=61FE,DEVA=00,DEVMN=DR1, X
ADDRESS=(6100,1)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,FEATURE=(ATTENTION),IOTIME=60, X
CUNO=0611,DEVA=20,DEVMN=(MC0,HEX),ADDRESS=(6130,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,FEATURE=(ATTENTION),IOTIME=60, X
CUNO=0612,DEVA=20,DEVMN=(MF0,HEX),ADDRESS=(6150,16)
IODEVICE UNIT=6335,IOTIME=60,CUNO=62FE,DEVA=00,DEVMN=DR2, X
ADDRESS=(6200,1)

```

```

IODEVICE UNIT=6335, IOTIME=60, CUNO=66FE, DEVA=00, DEVMN=DR3, X
ADDRESS=(6600, 1)
IODEVICE UNIT=6587, FEATURE=(SHARED), IOTIME=120, X
CUNO=(6601, 8601), DEVA=(40, 40), DEVMN=(U40, HEX), X
ADDRESS=(6640, 32)
IODEVICE UNIT=HCCF, CUNO=7001, DEVA=00, ADDRESS=(7000, 8)
IODEVICE UNIT=6587, FEATURE=(SHARED), IOTIME=120, X
CUNO=(7601, 9601), DEVA=(40, 40), DEVMN=(U60, HEX), X
ADDRESS=(7660, 32)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, FEATURE=(ATTENTION), IOTIME=60, X
CUNO=8001, DEVA=02, DEVMN=(S10, HEX), ADDRESS=(8018, 2)
IODEVICE UNIT=6587, FEATURE=(SHARED), IOTIME=120, CUNO=8701, X
DEVA=40, DEVMN=(U80, HEX), ADDRESS=(8700, 32)
SCHEDULR DEVPREF=(8598, 6587, 8595, 648X-5, 648X-3, 648X-2, 648X-1, X
648X, 848X-1, 848X-2, 848X-3)
UNITNAME NAME=CMT, UNIT=((0280, 32), (0620, 8))
UNITNAME NAME=CTAPE, UNIT=((0280, 32))
UNITNAME NAME=DASD, UNIT=((0140, 4), (6640, 32), (7660, 32), X
(8700, 32))
UNITNAME NAME=DISK, UNIT=((0140, 4))
UNITNAME NAME=EXTES, UNIT=((1F01, 1))
UNITNAME NAME=INTES, UNIT=((1F00, 1))
UNITNAME NAME=LP, UNIT=((061A, 4))
UNITNAME NAME=ML2TAPE, UNIT=((0620, 8))
UNITNAME NAME=MT, UNIT=((0180, 8))
UNITNAME NAME=SYSALLES, TYPE=ES
UNITNAME NAME=SYSSQ, UNIT=((0140, 4), (0180, 8), (0280, 20), X
(0620, 8), (6640, 32), (7660, 32), (8700, 32))
UNITNAME NAME=6587, VIO=YES
END

```

表 7-1 SYSGEN マクロの先頭に出力されるコメントの内容

見出し	コメントの内容
SYSTEM NAME	システム構成の設定ウィンドウの「システム名称」に指定した名称
PROC NAME	システム構成の設定ウィンドウの「プロセッサ名称」に指定した名称
SYNTAX LEVEL	システム構成の設定ウィンドウの「シンタクスレベル」に指定したレベル
CPUMODEL	システム構成の設定ウィンドウの「CPU モデル」に指定した CPU モデル
ACOH	ACONARC チャンネルの使用有無
CREATION TIME	構成定義データの作成日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
UPDATE TIME	構成定義データの更新日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)

7.2 PRMF システム構成定義文の出力情報

PRMF システム構成定義文の出力情報の表示形式を次に示します。また、PRMF システム構成定義文の先頭に出力されるコメントの内容について表 7-2 に示します。

(1) 256 チャンネル構成定義の場合

```

*****
* SYSTEM NAME      : ONLINE      PROC NAME      : PRMF1      *
* CONTROL SYSTEM   : PRMA E2      SYNTAX LEVEL   : LEVEL0     *
* CPUMODEL         : MP5800       ACOH           : YES         *
* CREATION TIME    : 1998-01-29 18:07:24 *
* UPDATE TIME     : 1998-03-13 07:10:33 *
*****
CHANNEL TYPE=MPX, PATHID=00, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=MPX, PATHID=06, ATTR=RCNF, LPAR=(1), LPARDEFR=(2)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=07, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=08, ATTR=DED, LPAR=(2)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=09, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=0A, ATTR=DED, LPAR=(2)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=10, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=15, ATTR=RCNF, LPAR=(1), LPARDEFR=(2)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=18, ATTR=DED, LPAR=(2)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=1F, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=20, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=28, ATTR=DED, LPAR=(2)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=2F, ATTR=DED, LPAR=(2)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=30, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=31, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=40, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=41, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=50, ATTR=DED, LPAR=(2)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=51, ATTR=DED, LPAR=(2)
CHANNEL TYPE=CTC, CUNO=61FE, PATHID=60, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=61FE, PATHID=61, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=62FE, PATHID=62, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=66, ATTR=RCNF, LPAR=(1), X
    LPARDEFR=(2)
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=70, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=71, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=72, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=73, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=76, ATTR=RCNF, LPAR=(1), X
    LPARDEFR=(2)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=80, ATTR=DED, LPAR=(1)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=81, ATTR=DED, LPAR=(2)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=86, ATTR=RCNF, LPAR=(2), X
    LPARDEFR=(1)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=87, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=96, ATTR=RCNF, LPAR=(2), X
    LPARDEFR=(1)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=62FE, PATHID=A2, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CONTRLR CUNO=0000, TYPE=NS, PATHID=00, DEVA=((00, 1), (08, 4))
CONTRLR CUNO=0001, TYPE=NS, PATHID=00, DEVA=((0F, 1), (1E, 2))
CONTRLR CUNO=0061, TYPE=NS, PATHID=06, DEVA=((16, 8))

```

CONTRLR CUNO=0070, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=(07, 08), DEVA=((40, 8))	X
CONTRLR CUNO=0080, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=(07, 08), DEVA=((50, 8))	X
CONTRLR CUNO=0090, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=09, DEVA=((80, 16))	
CONTRLR CUNO=0091, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=09, DEVA=((90, 16))	
CONTRLR CUNO=00A0, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=0A, DEVA=((80, 16))	
CONTRLR CUNO=00A1, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=0A, DEVA=((90, 16))	
CONTRLR CUNO=0100, TYPE=S, PATHID=10, DEVA=((80, 8))	
CONTRLR CUNO=0150, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=15, DEVA=((20, 3))	
CONTRLR CUNO=0180, TYPE=S, PATHID=18, DEVA=((80, 8))	
CONTRLR CUNO=01F0, TYPE=NS, PATHID=(1F, 2F), DEVA=((00, 1))	
CONTRLR CUNO=01F1, TYPE=NS, PATHID=(1F, 2F), DEVA=((01, 1))	
CONTRLR CUNO=0200, TYPE=NS, PATHID=20, DEVA=((40, 32))	
CONTRLR CUNO=0280, TYPE=NS, PATHID=28, DEVA=((40, 32))	
CONTRLR CUNO=0300, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=30, DEVA=((00, 128))	
CONTRLR CUNO=0310, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=31, DEVA=((00, 128))	
CONTRLR CUNO=0400, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=40, DEVA=((00, 16))	
CONTRLR CUNO=0410, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=41, DEVA=((00, 16))	
CONTRLR CUNO=0500, TYPE=NS, PATHID=50, LNKA=A0, CUADR=0, DEVA=((00, 64))	X
CONTRLR CUNO=0510, TYPE=NS, PATHID=51, LNKA=A1, CUADR=0, DEVA=((00, 64))	X
CONTRLR CUNO=0601, TYPE=NS, PATHID=60, LNKA=E1, CUADR=0, DEVA=((60, 16))	X
CONTRLR CUNO=0602, TYPE=NS, PATHID=60, LNKA=D1, CUADR=0, DEVA=((40, 16))	X
CONTRLR CUNO=0611, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=D0, CUADR=0, DEVA=((20, 16))	X
CONTRLR CUNO=0612, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=E0, CUADR=0, DEVA=((20, 16))	X
CONTRLR CUNO=0620, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D4, D4), CUADR=0, DEVA=((00, 2))	X
CONTRLR CUNO=0621, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D5, D5), CUADR=0, DEVA=((00, 2))	X
CONTRLR CUNO=0622, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D6, D6), CUADR=0, DEVA=((00, 2))	X
CONTRLR CUNO=0623, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D7, D7), CUADR=0, DEVA=((00, 2))	X
CONTRLR CUNO=61FE, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=FE, CUADR=0, DEVA=((00, 1))	X
CONTRLR CUNO=62FE, TYPE=NS, PATHID=62, LNKA=FE, CUADR=0, DEVA=((00, 1))	X
CONTRLR CUNO=6601, TYPE=NS, PATHID=66, LNKA=D4, CUADR=0, DEVA=((40, 32))	X
CONTRLR CUNO=66FE, TYPE=NS, PATHID=66, LNKA=FE, CUADR=0, DEVA=((00, 1))	X
CONTRLR CUNO=7001, TYPE=NS, PATHID=(70, 71, 72, 73), DEVA=((00, 256))	
CONTRLR CUNO=7601, TYPE=NS, PATHID=76, LNKA=D2, CUADR=1, DEVA=((40, 32))	X

7. 表示される情報の見方

```

CONTRLR CUNO=8001, TYPE=NS, PATHID=80, LNKA=E0, CUADR=0, X
      DEVA=(02, 2)
CONTRLR CUNO=8101, TYPE=NS, PATHID=81, LNKA=E0, CUADR=1, X
      DEVA=(0A, 2)
CONTRLR CUNO=8601, TYPE=NS, PATHID=86, LNKA=D5, CUADR=0, X
      DEVA=(40, 32)
CONTRLR CUNO=8701, TYPE=NS, PATHID=87, LNKA=D1, CUADR=2, X
      DEVA=(40, 32)
CONTRLR CUNO=9601, TYPE=NS, PATHID=96, LNKA=D3, CUADR=1, X
      DEVA=(40, 32)
IODEVICE UNIT=9415, CUNO=0000, DEVA=00, ADDRESS=(0000, 1)
IODEVICE UNIT=SVP, MODEL=1, CUNO=0000, DEVA=08, ADDRESS=(0008, 1)
IODEVICE UNIT=SVP, MODEL=1, CUNO=0000, DEVA=09, ADDRESS=(0009, 1)
IODEVICE UNIT=F8092, MODEL=50, CUNO=0000, DEVA=0A, X
      ADDRESS=(000A, 2)
IODEVICE UNIT=8268, MODEL=10, CUNO=0001, DEVA=0F, ADDRESS=(000F, 1)
IODEVICE UNIT=8571, CUNO=0001, DEVA=1E, ADDRESS=(001E, 2)
IODEVICE UNIT=8598, CUNO=(0200, 0280), DEVA=(40, 40), X
      ADDRESS=(0140, 4)
IODEVICE UNIT=8488, MODEL=1, CUNO=(0100, 0180), DEVA=(80, 80), X
      ADDRESS=(0180, 4)
IODEVICE UNIT=8488, MODEL=1, CUNO=(0100, 0180), DEVA=(84, 84), X
      ADDRESS=(0184, 4)
IODEVICE UNIT=6485, MODEL=1, CUNO=(0090, 00A0), DEVA=(80, 80), X
      ADDRESS=(0280, 16)
IODEVICE UNIT=6485, MODEL=1, CUNO=(0091, 00A1), DEVA=(90, 90), X
      ADDRESS=(0290, 16)
IODEVICE UNIT=F6214, MODEL=51, CUNO=0061, DEVA=16, X
      ADDRESS=(0616, 4)
IODEVICE UNIT=F8092, MODEL=50, CUNO=0061, DEVA=1A, X
      ADDRESS=(061A, 4)
IODEVICE UNIT=6488, MODEL=1, CUNO=0620, DEVA=00, ADDRESS=(0620, 2), X
      LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488, MODEL=1, CUNO=0621, DEVA=00, ADDRESS=(0622, 2), X
      LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488, MODEL=1, CUNO=0622, DEVA=00, ADDRESS=(0624, 2), X
      LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488, MODEL=1, CUNO=0623, DEVA=00, ADDRESS=(0626, 2), X
      LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6951, CUNO=(0070, 0080), DEVA=(40, 50), X
      ADDRESS=((0740, 7), (0750, 7))
IODEVICE UNIT=6355, CUNO=0150, DEVA=20, ADDRESS=(1520, 1)
IODEVICE UNIT=6355, CUNO=0150, DEVA=21, ADDRESS=(1521, 1)
IODEVICE UNIT=6355, CUNO=0150, DEVA=22, ADDRESS=(1522, 1)
IODEVICE UNIT=ES, XFEATUR=ES, CUNO=01F0, DEVA=00, ADDRESS=(1F00, 1)
IODEVICE UNIT=ES, XFEATUR=ES, CUNO=01F1, DEVA=01, ADDRESS=(1F01, 1)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0300, DEVA=40, ADDRESS=(3040, 16)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0300, DEVA=60, ADDRESS=(3060, 16)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0310, DEVA=30, ADDRESS=(3130, 16)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0310, DEVA=50, ADDRESS=(3150, 16)
IODEVICE UNIT=6587, CUNO=(0400, 0410), DEVA=(00, 00), X
      ADDRESS=(4000, 16)
IODEVICE UNIT=6587, CUNO=(0500, 0510), DEVA=(00, 00), X
      ADDRESS=(5000, 16)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0602, DEVA=40, X
      ADDRESS=(6040, 16), LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0601, DEVA=60, X
      ADDRESS=(6060, 16), LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6335, CUNO=61FE, DEVA=00, ADDRESS=(6100, 1), LPAR=ALL

```

```

IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0611, DEVA=20, X
ADDRESS=(6130, 16), LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0612, DEVA=20, X
ADDRESS=(6150, 16), LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6335, CUNO=62FE, DEVA=00, ADDRESS=(6200, 1), LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6335, CUNO=66FE, DEVA=00, ADDRESS=(6600, 1)
IODEVICE UNIT=6587, CUNO=(6601, 8601), DEVA=(40, 40), X
ADDRESS=(6640, 32)
IODEVICE UNIT=HCCF, CUNO=7001, DEVA=00, ADDRESS=(7000, 8)
IODEVICE UNIT=6587, CUNO=(7601, 9601), DEVA=(40, 40), X
ADDRESS=(7660, 32)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=8001, DEVA=02, ADDRESS=(8018, 2)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=8101, DEVA=0A, ADDRESS=(801A, 2)
IODEVICE UNIT=6587, CUNO=8701, DEVA=40, ADDRESS=(8700, 32), X
LPAR=ALL
LPARDEF START
PIP IP=((0, S, A), (1, S, A))
SYSOPT AUTRSTRT=YES
PFKEY PFNO=3, COMMAND='CALL PRMIDX', TYPE=E
EXPATH CNC=(50, 51), BLMPX=(40, 41)
PARTTION NUMBER=1, NAME=ONLINE1
CPU CPUMODE=MASA
IP COUNT=2, PRIORITY=1, SRVRATIO=50, MODE=S, GROUP=A
STORAGE MS=(512), ES=(512)
OPTION AUTLOAD=YES, AUTACT=YES, RECONFCH=YES, IPLWAIT=2
FEATOPT ALARM=YES, ACF=YES
LOADUNIT UNITO=0140
PARTTION NUMBER=2, NAME=ONLINE2
CPU CPUMODE=MEX
IP COUNT=2, PRIORITY=1, SRVRATIO=50, MODE=S, GROUP=A
STORAGE MS=(500), ES=(512)
OPTION AUTLOAD=YES, AUTACT=YES, RECONFCH=YES, IPLWAIT=5
FEATOPT ALARM=YES
LOADUNIT UNITO=0160
LPARDEF END

```

7. 表示される情報の見方

(2) 512 チャンネル構成定義の場合

```
*****
* SYSTEM NAME      : ONLINE      PROC NAME       : PRMF512      *
* CONTROL SYSTEM   : PRMA E3     SYNTAX LEVEL  : LEVEL2      *
* CPUMODEL        : AP8000      ACOH           : YES          *
* CREATION TIME    : 2002-08-27 09:15:08
* UPDATE TIME     : 2002-08-27 09:18:12
*****
      IOGROUP IOG=0, START
      CHANNEL TYPE=MPX, PATHID=00, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=MPX, PATHID=06, ATTR=RCNF, LPAR=(1), LPARDEFR=(2)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=07, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=08, ATTR=DED, LPAR=(2)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=09, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=0A, ATTR=DED, LPAR=(2)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=10, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=15, ATTR=RCNF, LPAR=(1), LPARDEFR=(2)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=18, ATTR=DED, LPAR=(2)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=1F, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=20, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=28, ATTR=DED, LPAR=(2)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=2F, ATTR=DED, LPAR=(2)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=30, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=31, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=40, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=41, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=50, ATTR=DED, LPAR=(2)
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=51, ATTR=DED, LPAR=(2)
      CHANNEL TYPE=CTC, CUNO=61FE, PATHID=60, ATTR=SHR, LPAR=ALL
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=61FE, PATHID=61, ATTR=SHR, LPAR=ALL
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=62FE, PATHID=62, ATTR=SHR, LPAR=ALL
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=66, ATTR=RCNF, LPAR=(1),      X
          LPARDEFR=(2)
      CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=70, ATTR=SHR, LPAR=ALL
      CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=71, ATTR=SHR, LPAR=ALL
      CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=72, ATTR=SHR, LPAR=ALL
      CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=73, ATTR=SHR, LPAR=ALL
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=76, ATTR=RCNF, LPAR=(1),      X
          LPARDEFR=(2)
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=80, ATTR=DED, LPAR=(1)
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=81, ATTR=DED, LPAR=(2)
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=86, ATTR=RCNF, LPAR=(2),      X
          LPARDEFR=(1)
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=87, ATTR=SHR, LPAR=ALL
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=96, ATTR=RCNF, LPAR=(2),      X
          LPARDEFR=(1)
      CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=62FE, PATHID=A2, ATTR=SHR, LPAR=ALL
```

CONTRLR CUNO=0000, TYPE=NS, PATHID=00, DEVA=((00, 1), (08, 4))
 CONTRLR CUNO=0001, TYPE=NS, PATHID=00, DEVA=((0F, 1), (1E, 2))
 CONTRLR CUNO=0061, TYPE=NS, PATHID=06, DEVA=((16, 8))
 CONTRLR CUNO=0070, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=(07, 08), X
 DEVA=((40, 8))
 CONTRLR CUNO=0080, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=(07, 08), X
 DEVA=((50, 8))
 CONTRLR CUNO=0090, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=09, DEVA=((80, 16))
 CONTRLR CUNO=0091, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=09, DEVA=((90, 16))
 CONTRLR CUNO=00A0, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=0A, DEVA=((80, 16))
 CONTRLR CUNO=00A1, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=0A, DEVA=((90, 16))
 CONTRLR CUNO=0100, TYPE=S, PATHID=10, DEVA=((80, 8))
 CONTRLR CUNO=0150, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=15, DEVA=((20, 3))
 CONTRLR CUNO=0180, TYPE=S, PATHID=18, DEVA=((80, 8))
 CONTRLR CUNO=01F0, TYPE=NS, PATHID=(1F, 2F), DEVA=((00, 1))
 CONTRLR CUNO=01F1, TYPE=NS, PATHID=(1F, 2F), DEVA=((01, 1))
 CONTRLR CUNO=0200, TYPE=NS, PATHID=20, DEVA=((40, 32))
 CONTRLR CUNO=0280, TYPE=NS, PATHID=28, DEVA=((40, 32))
 CONTRLR CUNO=0300, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=30, DEVA=((00, 128))
 CONTRLR CUNO=0310, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=31, DEVA=((00, 128))
 CONTRLR CUNO=0400, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=40, DEVA=((00, 16))
 CONTRLR CUNO=0410, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=41, DEVA=((00, 16))
 CONTRLR CUNO=0500, TYPE=NS, PATHID=50, LNKA=A0, CUADR=0, X
 DEVA=((00, 64))
 CONTRLR CUNO=0510, TYPE=NS, PATHID=51, LNKA=A1, CUADR=0, X
 DEVA=((00, 64))
 CONTRLR CUNO=0601, TYPE=NS, PATHID=60, LNKA=E1, CUADR=0, X
 DEVA=((60, 16))
 CONTRLR CUNO=0602, TYPE=NS, PATHID=60, LNKA=D1, CUADR=0, X
 DEVA=((40, 16))
 CONTRLR CUNO=0611, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=D0, CUADR=0, X
 DEVA=((20, 16))
 CONTRLR CUNO=0612, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=E0, CUADR=0, X
 DEVA=((20, 16))
 CONTRLR CUNO=0620, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D4, D4), CUADR=0, X
 DEVA=((00, 2))
 CONTRLR CUNO=0621, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D5, D5), CUADR=0, X
 DEVA=((00, 2))
 CONTRLR CUNO=0622, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D6, D6), CUADR=0, X
 DEVA=((00, 2))
 CONTRLR CUNO=0623, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D7, D7), CUADR=0, X
 DEVA=((00, 2))
 CONTRLR CUNO=61FE, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=FE, CUADR=0, X
 DEVA=((00, 1))
 CONTRLR CUNO=62FE, TYPE=NS, PATHID=62, LNKA=FE, CUADR=0, X
 DEVA=((00, 1))
 CONTRLR CUNO=6601, TYPE=NS, PATHID=66, LNKA=D4, CUADR=0, X
 DEVA=((40, 32))
 CONTRLR CUNO=66FE, TYPE=NS, PATHID=66, LNKA=FE, CUADR=0, X
 DEVA=((00, 1))
 CONTRLR CUNO=7001, TYPE=NS, PATHID=(70, 71, 72, 73), DEVA=((00, 256))

7. 表示される情報の見方

```

CONTRLR CUNO=7601, TYPE=NS, PATHID=76, LNKA=D2, CUADR=1, X
    DEVA=( (40, 32))
CONTRLR CUNO=8001, TYPE=NS, PATHID=80, LNKA=E0, CUADR=0, X
    DEVA=( (02, 2))
CONTRLR CUNO=8101, TYPE=NS, PATHID=81, LNKA=E0, CUADR=1, X
    DEVA=( (0A, 2))
CONTRLR CUNO=8601, TYPE=NS, PATHID=86, LNKA=D5, CUADR=0, X
    DEVA=( (40, 32))
CONTRLR CUNO=8701, TYPE=NS, PATHID=87, LNKA=D1, CUADR=2, X
    DEVA=( (40, 32))
CONTRLR CUNO=9601, TYPE=NS, PATHID=96, LNKA=D3, CUADR=1, X
    DEVA=( (40, 32))
IODEVICE UNIT=9415, CUNO=0000, DEVA=00, ADDRESS=(0000, 1)
IODEVICE UNIT=SVP, MODEL=1, CUNO=0000, DEVA=08, ADDRESS=(0008, 1)
IODEVICE UNIT=SVP, MODEL=1, CUNO=0000, DEVA=09, ADDRESS=(0009, 1)
IODEVICE UNIT=F8092, MODEL=50, CUNO=0000, DEVA=0A, X
    ADDRESS=(000A, 2)
IODEVICE UNIT=8268, MODEL=10, CUNO=0001, DEVA=0F, ADDRESS=(000F, 1)
IODEVICE UNIT=8571, CUNO=0001, DEVA=1E, ADDRESS=(001E, 2)
IODEVICE UNIT=8598, CUNO=(0200, 0280), DEVA=(40, 40), X
    ADDRESS=(0140, 4)
IODEVICE UNIT=8488, MODEL=1, CUNO=(0100, 0180), DEVA=(80, 80), X
    ADDRESS=(0180, 4)
IODEVICE UNIT=8488, MODEL=1, CUNO=(0100, 0180), DEVA=(84, 84), X
    ADDRESS=(0184, 4)
IODEVICE UNIT=6485, MODEL=1, CUNO=(0090, 00A0), DEVA=(80, 80), X
    ADDRESS=(0280, 16)
IODEVICE UNIT=6485, MODEL=1, CUNO=(0091, 00A1), DEVA=(90, 90), X
    ADDRESS=(0290, 16)
IODEVICE UNIT=F6214, MODEL=51, CUNO=0061, DEVA=16, X
    ADDRESS=(0616, 4)
IODEVICE UNIT=F8092, MODEL=50, CUNO=0061, DEVA=1A, X
    ADDRESS=(061A, 4)
IODEVICE UNIT=6488, MODEL=1, CUNO=0620, DEVA=00, ADDRESS=(0620, 2), X
    LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488, MODEL=1, CUNO=0621, DEVA=00, ADDRESS=(0622, 2), X
    LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488, MODEL=1, CUNO=0622, DEVA=00, ADDRESS=(0624, 2), X
    LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488, MODEL=1, CUNO=0623, DEVA=00, ADDRESS=(0626, 2), X
    LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6951, CUNO=(0070, 0080), DEVA=(40, 50), X
    ADDRESS=( (0740, 7), (0750, 7))
IODEVICE UNIT=6355, CUNO=0150, DEVA=20, ADDRESS=(1520, 1)
IODEVICE UNIT=6355, CUNO=0150, DEVA=21, ADDRESS=(1521, 1)
IODEVICE UNIT=6355, CUNO=0150, DEVA=22, ADDRESS=(1522, 1)
IODEVICE UNIT=ES, XFEATUR=ES, CUNO=01F0, DEVA=00, ADDRESS=(1F00, 1)
IODEVICE UNIT=ES, XFEATUR=ES, CUNO=01F1, DEVA=01, ADDRESS=(1F01, 1)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0300, DEVA=40, ADDRESS=(3040, 16)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=0300, DEVA=60, ADDRESS=(3060, 16)

```

```

IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0310,DEVA=30,ADDRESS=(3130,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0310,DEVA=50,ADDRESS=(3150,16)
IODEVICE UNIT=6587,CUNO=(0400,0410),DEVA=(00,00), X
ADDRESS=(4000,16)
IODEVICE UNIT=6587,CUNO=(0500,0510),DEVA=(00,00), X
ADDRESS=(5000,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0602,DEVA=40, X
ADDRESS=(6040,16),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0601,DEVA=60, X
ADDRESS=(6060,16),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6335,CUNO=61FE,DEVA=00,ADDRESS=(6100,1),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0611,DEVA=20, X
ADDRESS=(6130,16),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0612,DEVA=20, X
ADDRESS=(6150,16),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6335,CUNO=62FE,DEVA=00,ADDRESS=(6200,1),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6335,CUNO=66FE,DEVA=00,ADDRESS=(6600,1)
IODEVICE UNIT=6587,CUNO=(6601,8601),DEVA=(40,40), X
ADDRESS=(6640,32)
IODEVICE UNIT=HCCF,CUNO=7001,DEVA=00,ADDRESS=(7000,8)
IODEVICE UNIT=6587,CUNO=(7601,9601),DEVA=(40,40), X
ADDRESS=(7660,32)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=8001,DEVA=02,ADDRESS=(8018,2)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=8101,DEVA=0A,ADDRESS=(801A,2)
IODEVICE UNIT=6587,CUNO=8701,DEVA=40,ADDRESS=(8700,32), X
LPAR=ALL
LPARDEF START
PIP IP=((0,S,A),(1,S,A))
SYSOPT AUTRSTRT=YES
PFKEY PFNO=3,COMMAND='CALL PRMIDX',TYPE=E
EXPATH CNC=(50,51),BLMPX=(40,41)
PARTTION NUMBER=1,NAME=ONLINE1
CPU CPUMODE=MASA
IP COUNT=2,PRIORITY=1,SRVRATIO=50,MODE=S,GROUP=A
STORAGE MS=(512),ES=(512)
OPTION AUTLOAD=YES,AUTACT=YES,IPLWAIT=2
FEATOPT ALARM=YES,ACF=YES
LOADUNIT UNIT0=0140
PARTTION NUMBER=2,NAME=ONLINE2
CPU CPUMODE=MEX
IP COUNT=2,PRIORITY=1,SRVRATIO=50,MODE=S,GROUP=A
STORAGE MS=(500),ES=(512)
OPTION AUTLOAD=YES,AUTACT=YES,IPLWAIT=5
FEATOPT ALARM=YES
LOADUNIT UNIT0=0160
LPARDEF END
IOGROUP END
IOGROUP IOG=1,START
CHANNEL TYPE=MPX,PATHID=00,ATTR=DED,LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=MPX,PATHID=06,ATTR=RCNF,LPAR=(3),LPARDEFR=(4)
CHANNEL TYPE=BLMPX,PATHID=07,ATTR=DED,LPAR=(3)

```

7. 表示される情報の見方

CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=08, ATTR=DED, LPAR=(4)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=09, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=0A, ATTR=DED, LPAR=(4)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=10, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=15, ATTR=RCNF, LPAR=(3), LPARDEFR=(4)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=18, ATTR=DED, LPAR=(4)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=1F, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=20, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=28, ATTR=DED, LPAR=(4)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=2F, ATTR=DED, LPAR=(4)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=30, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=31, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=40, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=BLMPX, PATHID=41, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=50, ATTR=DED, LPAR=(4)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=51, ATTR=DED, LPAR=(4)
CHANNEL TYPE=CTC, CUNO=61FE, PATHID=60, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=61FE, PATHID=61, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=62FE, PATHID=62, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=66, ATTR=RCNF, LPAR=(3), X
LPARDEFR=(4)
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=70, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=71, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=72, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CFS, PATHID=73, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=76, ATTR=RCNF, LPAR=(3), X
LPARDEFR=(4)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=80, ATTR=DED, LPAR=(3)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=81, ATTR=DED, LPAR=(4)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=86, ATTR=RCNF, LPAR=(4), X
LPARDEFR=(3)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=87, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=66FE, PATHID=96, ATTR=RCNF, LPAR=(4), X
LPARDEFR=(3)
CHANNEL TYPE=CNC, CUNO=62FE, PATHID=A2, ATTR=SHR, LPAR=ALL
CONTRLR CUNO=0000, TYPE=NS, PATHID=00, DEVA=((00, 1), (08, 4))
CONTRLR CUNO=0001, TYPE=NS, PATHID=00, DEVA=((0F, 1), (1E, 2))
CONTRLR CUNO=0061, TYPE=NS, PATHID=06, DEVA=((16, 8))
CONTRLR CUNO=0070, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=(07, 08), X
DEVA=((40, 8))
CONTRLR CUNO=0080, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=(07, 08), X
DEVA=((50, 8))
CONTRLR CUNO=0090, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=09, DEVA=((80, 16))
CONTRLR CUNO=0091, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=09, DEVA=((90, 16))
CONTRLR CUNO=00A0, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=0A, DEVA=((80, 16))
CONTRLR CUNO=00A1, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=0A, DEVA=((90, 16))
CONTRLR CUNO=0100, TYPE=S, PATHID=10, DEVA=((80, 8))
CONTRLR CUNO=0150, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=15, DEVA=((20, 3))
CONTRLR CUNO=0180, TYPE=S, PATHID=18, DEVA=((80, 8))
CONTRLR CUNO=01F0, TYPE=NS, PATHID=(1F, 2F), DEVA=((00, 1))

```

CONTRLR CUNO=01F1, TYPE=NS, PATHID=(1F, 2F), DEVA=((01, 1))
CONTRLR CUNO=0200, TYPE=NS, PATHID=20, DEVA=((40, 32))
CONTRLR CUNO=0280, TYPE=NS, PATHID=28, DEVA=((40, 32))
CONTRLR CUNO=0300, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=30, DEVA=((00, 128))
CONTRLR CUNO=0310, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=31, DEVA=((00, 128))
CONTRLR CUNO=0400, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=40, DEVA=((00, 16))
CONTRLR CUNO=0410, TYPE=NS, IFMODE=S, PATHID=41, DEVA=((00, 16))
CONTRLR CUNO=0500, TYPE=NS, PATHID=50, LNKA=A0, CUADR=0,      X
    DEVA=((00, 64))
CONTRLR CUNO=0510, TYPE=NS, PATHID=51, LNKA=A1, CUADR=0,      X
    DEVA=((00, 64))
CONTRLR CUNO=0601, TYPE=NS, PATHID=60, LNKA=E1, CUADR=0,      X
    DEVA=((60, 16))
CONTRLR CUNO=0602, TYPE=NS, PATHID=60, LNKA=D1, CUADR=0,      X
    DEVA=((40, 16))
CONTRLR CUNO=0611, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=D0, CUADR=0,      X
    DEVA=((20, 16))
CONTRLR CUNO=0612, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=E0, CUADR=0,      X
    DEVA=((20, 16))
CONTRLR CUNO=0620, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D4, D4), CUADR=0, X
    DEVA=((00, 2))
CONTRLR CUNO=0621, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D5, D5), CUADR=0, X
    DEVA=((00, 2))
CONTRLR CUNO=0622, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D6, D6), CUADR=0, X
    DEVA=((00, 2))
CONTRLR CUNO=0623, TYPE=NS, PATHID=(62, A2), LNKA=(D7, D7), CUADR=0, X
    DEVA=((00, 2))
CONTRLR CUNO=61FE, TYPE=NS, PATHID=61, LNKA=FE, CUADR=0,      X
    DEVA=((00, 1))
CONTRLR CUNO=62FE, TYPE=NS, PATHID=62, LNKA=FE, CUADR=0,      X
    DEVA=((00, 1))
CONTRLR CUNO=6601, TYPE=NS, PATHID=66, LNKA=D4, CUADR=0,      X
    DEVA=((40, 32))
CONTRLR CUNO=66FE, TYPE=NS, PATHID=66, LNKA=FE, CUADR=0,      X
    DEVA=((00, 1))
CONTRLR CUNO=7001, TYPE=NS, PATHID=(70, 71, 72, 73), DEVA=((00, 256))
CONTRLR CUNO=7601, TYPE=NS, PATHID=76, LNKA=D2, CUADR=1,      X
    DEVA=((40, 32))
CONTRLR CUNO=8001, TYPE=NS, PATHID=80, LNKA=E0, CUADR=0,      X
    DEVA=((02, 2))
CONTRLR CUNO=8101, TYPE=NS, PATHID=81, LNKA=E0, CUADR=1,      X
    DEVA=((0A, 2))
CONTRLR CUNO=8601, TYPE=NS, PATHID=86, LNKA=D5, CUADR=0,      X
    DEVA=((40, 32))
CONTRLR CUNO=8701, TYPE=NS, PATHID=87, LNKA=D1, CUADR=2,      X
    DEVA=((40, 32))
CONTRLR CUNO=9601, TYPE=NS, PATHID=96, LNKA=D3, CUADR=1,      X
    DEVA=((40, 32))
IODEVICE UNIT=9415, CUNO=0000, DEVA=00, ADDRESS=(0000, 1)
IODEVICE UNIT=SVP, MODEL=1, CUNO=0000, DEVA=08, ADDRESS=(0008, 1)
IODEVICE UNIT=SVP, MODEL=1, CUNO=0000, DEVA=09, ADDRESS=(0009, 1)

```

7. 表示される情報の見方

```

IODEVICE UNIT=F8092,MODEL=50,CUNO=0000,DEVA=0A, X
ADDRESS=(000A,2)
IODEVICE UNIT=8268,MODEL=10,CUNO=0001,DEVA=0F,ADDRESS=(000F,1)
IODEVICE UNIT=8571,CUNO=0001,DEVA=1E,ADDRESS=(001E,2)
IODEVICE UNIT=8598,CUNO=(0200,0280),DEVA=(40,40), X
ADDRESS=(0140,4)
IODEVICE UNIT=8488,MODEL=1,CUNO=(0100,0180),DEVA=(80,80), X
ADDRESS=(0180,4)
IODEVICE UNIT=8488,MODEL=1,CUNO=(0100,0180),DEVA=(84,84), X
ADDRESS=(0184,4)
IODEVICE UNIT=6485,MODEL=1,CUNO=(0090,00A0),DEVA=(80,80), X
ADDRESS=(0280,16)
IODEVICE UNIT=6485,MODEL=1,CUNO=(0091,00A1),DEVA=(90,90), X
ADDRESS=(0290,16)
IODEVICE UNIT=F6214,MODEL=51,CUNO=0061,DEVA=16, X
ADDRESS=(0616,4)
IODEVICE UNIT=F8092,MODEL=50,CUNO=0061,DEVA=1A, X
ADDRESS=(061A,4)
IODEVICE UNIT=6488,MODEL=1,CUNO=0620,DEVA=00,ADDRESS=(0620,2),X
LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488,MODEL=1,CUNO=0621,DEVA=00,ADDRESS=(0622,2),X
LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488,MODEL=1,CUNO=0622,DEVA=00,ADDRESS=(0624,2),X
LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6488,MODEL=1,CUNO=0623,DEVA=00,ADDRESS=(0626,2),X
LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6951,CUNO=(0070,0080),DEVA=(40,50), X
ADDRESS=((0740,7),(0750,7))
IODEVICE UNIT=6355,CUNO=0150,DEVA=20,ADDRESS=(1520,1)
IODEVICE UNIT=6355,CUNO=0150,DEVA=21,ADDRESS=(1521,1)
IODEVICE UNIT=6355,CUNO=0150,DEVA=22,ADDRESS=(1522,1)
IODEVICE UNIT=ES,XFEATUR=ES,CUNO=01F0,DEVA=00,ADDRESS=(1F00,1)
IODEVICE UNIT=ES,XFEATUR=ES,CUNO=01F1,DEVA=01,ADDRESS=(1F01,1)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0300,DEVA=40,ADDRESS=(3040,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0300,DEVA=60,ADDRESS=(3060,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0310,DEVA=30,ADDRESS=(3130,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0310,DEVA=50,ADDRESS=(3150,16)
IODEVICE UNIT=6587,CUNO=(0400,0410),DEVA=(00,00), X
ADDRESS=(4000,16)
IODEVICE UNIT=6587,CUNO=(0500,0510),DEVA=(00,00), X
ADDRESS=(5000,16)
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0602,DEVA=40, X
ADDRESS=(6040,16),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0601,DEVA=60, X
ADDRESS=(6060,16),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6335,CUNO=61FE,DEVA=00,ADDRESS=(6100,1),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0611,DEVA=20, X
ADDRESS=(6130,16),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=8626,MODEL=1,CUNO=0612,DEVA=20, X
ADDRESS=(6150,16),LPAR=ALL
IODEVICE UNIT=6335,CUNO=62FE,DEVA=00,ADDRESS=(6200,1),LPAR=ALL

```

```

IODEVICE UNIT=6335, CUNO=66FE, DEVA=00, ADDRESS=(6600, 1)
IODEVICE UNIT=6587, CUNO=(6601, 8601), DEVA=(40, 40), X
ADDRESS=(6640, 32)
IODEVICE UNIT=HCCF, CUNO=7001, DEVA=00, ADDRESS=(7000, 8)
IODEVICE UNIT=6587, CUNO=(7601, 9601), DEVA=(40, 40), X
ADDRESS=(7660, 32)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=8001, DEVA=02, ADDRESS=(8018, 2)
IODEVICE UNIT=8626, MODEL=1, CUNO=8101, DEVA=0A, ADDRESS=(801A, 2)
IODEVICE UNIT=6587, CUNO=8701, DEVA=40, ADDRESS=(8700, 32), X
LPAR=ALL
LPARDEF START
PIP IP=((0, S, A), (1, S, A))
SYSOPT AUTRSTRT=YES
PFKEY PFNO=3, COMMAND='CALL PRMIDX', TYPE=E
EXPATH CNC=(50, 51), BLMPX=(40, 41)
PARTTION NUMBER=3, NAME=ONLINE3
CPU CPUMODE=MASA
IP COUNT=2, PRIORITY=1, SRVRATIO=50, MODE=S, GROUP=A
STORAGE MS=(512), ES=(512)
OPTION AUTLOAD=YES, AUTACT=YES, IPLWAIT=2
FEATOPT ALARM=YES, ACF=YES
LOADUNIT UNIT0=0140
PARTTION NUMBER=4, NAME=ONLINE4
CPU CPUMODE=MEX
IP COUNT=2, PRIORITY=1, SRVRATIO=50, MODE=S, GROUP=A
STORAGE MS=(500), ES=(512)
OPTION AUTLOAD=YES, AUTACT=YES, IPLWAIT=5
FEATOPT ALARM=YES
LOADUNIT UNIT0=0160
LPARDEF END
IOGROUP END

```

表 7-2 PRMF システム構成定義文の先頭に出力されるコメントの内容

見出し	コメントの内容
SYSTEM NAME	システム構成の設定ウィンドウの「システム名称」に指定した名称
PROC NAME	256 チャンネル構成の場合は、システム構成の設定ウィンドウの「物理プロセッサ名称」に指定した名称 512 チャンネル構成の場合は、システム構成の設定ウィンドウの「物理 CPU」に指定した名称
CONTROL SYSTEM	システム構成の設定ウィンドウの「制御システム」に指定した名称
SYNTAX LEVEL	システム構成の設定ウィンドウの「シntaxレベル」に指定したレベル
CPUMODEL	システム構成の設定ウィンドウの「CPU モデル」に指定した CPU モデル
ACOH	ACONARC チャンネルの使用有無
CREATION TIME	構成定義データの作成日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
UPDATE TIME	構成定義データの更新日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)

7.3 ACOD 外部構成定義コマンドの出力情報

ACOD 外部構成定義コマンドの出力情報の表示形式を次に示します。また、ACOD 外部構成定義コマンドの先頭に出力されるコメントの内容について表 7-3 に示します。

```

/*****
/* SYSTEM NAME      : ONLINE                               */
/* SYNTAX LEVEL    : LEVEL0                               */
/* CREATION TIME   : 1996-10-23 15:11:08                 */
/* UPDATE TIME    : 1998-03-13 07:00:30                 */
*****/
ACODFILE ID (2)
ACODCNCT ACOD_NAME (ACOD1)
  PORTACOD ADDR (X' C1' ) OUTER (CPU (SYSA), X' 61' )
  PORTACOD ADDR (X' C2' ) OUTER (CPU (SYSA), X' 62' )
  PORTACOD ADDR (X' E2' ) OUTER (ACOD (ACOD2, X' C0' ))
  PORTACOD ADDR (X' FE' ) INTERNAL
ACODEND

ACODCNCT ACOD_NAME (ACOD2)
  PORTACOD ADDR (X' C0' ) OUTER (ACOD (ACOD1, X' E2' ))
  PORTACOD ADDR (X' C1' ) OUTER (CPU (SYSA), X' A2' )
  PORTACOD ADDR (X' D4' ) OUTER (IOC (MLU21))
  PORTACOD ADDR (X' D5' ) OUTER (IOC (MLU22))
  PORTACOD ADDR (X' D6' ) OUTER (IOC (MLU23))
  PORTACOD ADDR (X' D7' ) OUTER (IOC (MLU24))
  PORTACOD ADDR (X' FE' ) INTERNAL
ACODEND

ACODCNCT ACOD_NAME (ACOD3)
  PORTACOD ADDR (X' 80' ) OUTER (CPU (SYSA), X' 66' )
  PORTACOD ADDR (X' 81' ) OUTER (CPU (SYSA), X' 76' )
  PORTACOD ADDR (X' 82' ) OUTER (CPU (SYSA), X' 80' )
  PORTACOD ADDR (X' 87' ) OUTER (CPU (SYSA), X' 86' )
  PORTACOD ADDR (X' 88' ) OUTER (CPU (SYSA), X' 87' )
  PORTACOD ADDR (X' 89' ) OUTER (CPU (SYSA), X' 96' )
  PORTACOD ADDR (X' D1' ) OUTER (IOC (SDIR5))
  PORTACOD ADDR (X' D2' ) OUTER (IOC (SDIR2))
  PORTACOD ADDR (X' D3' ) OUTER (IOC (SDIR4))
  PORTACOD ADDR (X' D4' ) OUTER (IOC (SDIR1))
  PORTACOD ADDR (X' D5' ) OUTER (IOC (SDIR3))
  PORTACOD ADDR (X' E0' ) OUTER (IOC (CCP1))
  PORTACOD ADDR (X' FE' ) INTERNAL
ACODEND

```

表 7-3 ACOD 外部構成定義コマンドの先頭に出力されるコメントの内容

見出し	コメントの内容
SYSTEM NAME	システム構成の設定ウィンドウの「システム名称」に指定した名称
SYNTAX LEVEL	システム構成の設定ウィンドウの「シンタクスレベル」に指定したレベル
CREATION TIME	構成定義データの作成日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
UPDATE TIME	構成定義データの更新日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)

7.4 ACOD 内部構成定義コマンドの出力情報

ACOD 内部構成定義コマンドの出力情報の表示形式を次に示します。また、ACOD 内部構成定義コマンドの先頭に出力されるコメントの内容について表 7-4 に示します。

```

/*****
/* SYSTEM NAME      : ONLINE                               */
/* SYNTAX LEVEL     : LEVEL0                               */
/* CREATION TIME    : 1996-10-23 15:11:10                 */
/* UPDATE TIME      : 1998-03-13 07:00:30                 */
/*****
LINKFILE ID(2)
ACODLINK ACOD_NAME(ACOD1)
  PORTLINK ADDR(X' C1' ) CONNECT_ADR(X' FE' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' C2' ) CONNECT_ADR(X' E2' ) OPT(DEDICADE)
  PORTLINK ADDR(X' E2' ) CONNECT_ADR(X' C2' ) OPT(DEDICADE)
  PORTLINK ADDR(X' FE' ) CONNECT_ADR(X' C1' ) OPT(DYNAMIC)
ENDLINK

ACODLINK ACOD_NAME(ACOD2)
  PORTLINK ADDR(X' C0' ) CONNECT_ADR(X' D4' , X' D5' , X' D6' , X' D7' , X' FE' ) +
  OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' C1' ) CONNECT_ADR(X' D4' , X' D5' , X' D6' , X' D7' ) +
  OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D4' ) CONNECT_ADR(X' C0' , X' C1' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D5' ) CONNECT_ADR(X' C0' , X' C1' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D6' ) CONNECT_ADR(X' C0' , X' C1' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D7' ) CONNECT_ADR(X' C0' , X' C1' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' FE' ) CONNECT_ADR(X' C0' ) OPT(DYNAMIC)
ENDLINK

ACODLINK ACOD_NAME(ACOD3)
  PORTLINK ADDR(X' 80' ) CONNECT_ADR(X' D4' , X' FE' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' 81' ) CONNECT_ADR(X' D2' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' 82' ) CONNECT_ADR(X' E0' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' 87' ) CONNECT_ADR(X' D5' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' 88' ) CONNECT_ADR(X' D1' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' 89' ) CONNECT_ADR(X' D3' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D1' ) CONNECT_ADR(X' 88' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D2' ) CONNECT_ADR(X' 81' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D3' ) CONNECT_ADR(X' 89' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D4' ) CONNECT_ADR(X' 80' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' D5' ) CONNECT_ADR(X' 87' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' E0' ) CONNECT_ADR(X' 82' ) OPT(DYNAMIC)
  PORTLINK ADDR(X' FE' ) CONNECT_ADR(X' 80' ) OPT(DYNAMIC)
ENDLINK

```

表 7-4 ACOD 内部構成定義コマンドの先頭に出力されるコメントの内容

見出し	コメントの内容
SYSTEM NAME	システム構成の設定ウィンドウの「システム名称」に指定した名称
SYNTAX LEVEL	システム構成の設定ウィンドウの「シンタクスレベル」に指定したレベル
CREATION TIME	構成定義データの作成日付 (YYYY-MM-DD) , および時刻 (hh:mm:ss)
UPDATE TIME	構成定義データの更新日付 (YYYY-MM-DD) , および時刻 (hh:mm:ss)

7.5 比較結果の出力情報

7.5.1 入出力構成定義の比較結果の表示形式

入出力構成定義の比較結果および比較結果の出力項目を示します。

(1) 不一致がある場合の表示形式

不一致がある場合の入出力構成定義の比較結果の表示形式を次に示します。

```

**** SCMRFC CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-262C-4114 02-00 ) ****                2002-03-12 09:53:44

*** DATABASE INFORMATION LIST ***

ORIGINAL DATABASE NAME : C:\YScmrf\YSamples\YSAMPLE2_ORIGN.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\Program Files\WHITACHI\YSCMRFC\YSAMPLES\YSAMPLE2.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

          +----- ORIGINAL -----+ +----- COMPARE -----+
SYSTEM NAME : ONLINE                ONLINE
PROC NAME   : SYSA                   SYSA
SYNTAX LEVEL : LEVEL0                LEVEL0
CPUMODEL    : MP5800                MP5800
ACOH        : YES                    YES
MEMBER NAME : JAGCOA02              JAGCOA02
CONFIG ID   : SYSCNF02              SYSCNF02
SCDS        : **                    **
IOD         : 02                    02
CREATION TIME : 1998-01-29 18:07:32  1998-01-29 18:07:32
UPDATE TIME  : 1998-03-11 22:32:06   1998-03-13 06:59:50

*** CHANNEL COMPARE RESULT ***

++CHPID++RESULT++TYPE++CUNO++
 62  ADD     CNC   62FE
 A2  ADD     CNC   62FE

*** CONTRLR COMPARE RESULT ***

++CUNO++RESULT+-----PATHID & LNKA-----+CU+-----DEVA-----+TYPE++TFMODE++TOCMN++MTLIB++
      ID-LA  ID-LA  ID-LA  ID-LA  ADR
0601  ADD    60-E1                00  60/016                NS                CTC601
0612  ADD    61-E0                00  20/016                NS                CTC612
0620  ADD    62-D4  A2-D4          00  00/002                NS                MLCU21            ML2
0621  ADD    62-D5  A2-D5          00  00/002                NS                MLCU22            ML2
0622  ADD    62-D6  A2-D6          00  00/002                NS                MLCU23            ML2
0623  ADD    62-D7  A2-D7          00  00/002                NS                MLCU24            ML2
62FE  ADD    62-FE                00  00/001                NS                AC0D2

```

7. 表示される情報の見方

*** IODEVICE COMPARE RESULT ***

ADDRESS	RESULT	CUNO/DEVA	DEV- CNT	UNIT	PRE- MDL	PATH	XFEATUR	OFF- LINE	DEVMN	IO- TIME	FEATURE
0620	ADD	0620/00	2	6488	1			YES	M60 H	720	SHARABLE
0622	ADD	0621/00	2	6488	1			YES	M62 H	720	SHARABLE
0624	ADD	0622/00	2	6488	1			YES	M64 H	720	SHARABLE
0626	ADD	0623/00	2	6488	1			YES	M66 H	720	SHARABLE
6060	ADD	0601/60	16	8626	1			NO	MA0 H	60	ATTENTION
6150	ADD	0612/20	16	8626	1			NO	MF0 H	60	ATTENTION
6200	ADD	62FE/00	1	6335				NO	DR2	60	
7018	DEL	8001/02	2	8626	1			NO	S10 H	60	ATTENTION
8018	ADD	8001/02	2	8626	1			NO	S10 H	60	ATTENTION

*** UNITNAME COMPARE RESULT ***

NAME	RESULT	TYPE1	TYPE2	ADDED/DELETED UNIT ADDRESS
CMT	CHG			ADD DEVS: 0620-0627
MLTAPE	ADD			ADD DEVS: 0620-0627
SYSSQ	CHG			ADD DEVS: 0620-0627
6587	ADD	V10		

*** SCHEDULR COMPARE RESULT ***

RESULT	DEVPREF											
ORIGN	8598	6587	8595	648X-3	648X-2	648X-1	648X	848X-1	848X-2	848X-3		
COMP	8598	6587	8595	648X-5	648X-3	648X-2	648X-1	648X	848X-1	848X-2	848X-3	

7. 表示される情報の見方

(2) 一致している場合の表示形式

一致している場合の入出力構成定義の比較結果の表示形式を次に示します。

```
**** SCMRP CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-262C-4114 02-00 ) ****                2002-03-12 10:52:51
*** DATABASE INFORMATION LIST ***
ORIGINAL DATABASE NAME : C:\SCMR\FYSamples\VSAMPLE2_ORIG.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\Program Files\HITACHI\SCMR\FYCD\FYSAMPLES\VSAMPLE2.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

+----- ORIGINAL -----+ +----- COMPARE -----+
SYSTEM NAME : ONLINE                ONLINE
PROC NAME   : SYSA                   SYSA
SYNTAX LEVEL : LEVEL0                LEVEL0
CPUMODEL    : MP5800                 MP5800
ACOH        : YES                     YES
MEMBER NAME : JAGC0A02                JAGC0A02
CONFIG ID   : SYSCNF02                SYSCNF02
SCDS        : **                      **
IOD         : 02                      02
CREATION TIME : 1998-01-29 13:07:32   1998-01-29 13:07:32
UPDATE TIME  : 1998-03-13 06:59:50    1998-03-13 06:59:50

*** CHANNEL COMPARE RESULT ***

ALL EQUAL

*** CONTRLR COMPARE RESULT ***

ALL EQUAL

*** IODEVICE COMPARE RESULT ***

ALL EQUAL

*** UNITNAME COMPARE RESULT ***

ALL EQUAL

*** SCHEDULR COMPARE RESULT ***

ALL EQUAL
```

(3) 比較結果の出力項目

入出力構成定義の比較結果の出力項目を表 7-5 に示します。

表 7-5 入出力構成定義の比較結果の出力項目

見出し	表示内容
*** DATABASE INFORMATION LIST ***	データベースに関するリストであることを示すタイトル
ORIGINAL DATABASE NAME	変更前のデータベース名
COMPARE DATABASE NAME	現在編集(変更後)のデータベース名
*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***	システム構成に関するリストであることを示すタイトル
SYSTEM NAME	システム名称
PROC NAME	プロセサ名称
SYNTAX LEVEL	シンタクスレベル
CPUMODEL	CPU モデル
ACOH	ACONARC 制御機能の使用の有無
MEMBER NAME	メンバ名称
CONFIG ID	構成 ID
SCDS	SCDS 番号
IOD	ニュークリアス入出力構成定義データ番号
CREATION TIME	構成定義データの作成日付(YYYY-MM-DD), および時刻(hh:mm:ss)
UPDATE TIME	構成定義データの更新日付(YYYY-MM-DD), および時刻(hh:mm:ss)
*** CHANNEL COMPARE RESULT ***	CHANNEL マクロの比較結果であることを示すタイトル
CHPID	チャンネルパス ID
RESULT	比較結果 DEL: 変更前にあるが, 変更後にはない ADD: 変更前にはないが, 変更後にある ORIGN: 変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP: 変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
TYPE	チャンネルタイプ
CUNO	ACOD の制御装置番号
*** CONTRLR COMPARE RESULT ***	CONTRLR マクロの比較結果であることを示すタイトル
CUNO	制御装置番号
RESULT	CHANNEL マクロの「RESULT」と同様

7. 表示される情報の見方

見出し	表示内容
PATHID & LNKA	入出力制御装置の接続先を「ID - LA」の形式で示します。 ID：チャンネルバス ID LA：リンクアドレス
CUADR	制御装置アドレス
DEVA	装置アドレス。「装置アドレス / 装置数」の形式で示す
TYPE	制御装置タイプ
IFMODE	インタフェースモード
IOCMN	制御装置名称
MTLIB	ライブラリ装置記号名
*** IODEVICE COMPARE RESULT ***	IODEVICE マクロの比較結果であることを示すタイトル
ADDRESS	デバイス番号
RESULT	CHANNEL マクロの「RESULT」と同様
CUNO/DEVA	CUNO：制御装置番号 DEVA：装置アドレス
DEVCNT	装置台数
UNIT	装置形式
MDL	モデル番号
PREPATH	優先して選択するチャンネルバス ID
XFEATUR	拡張チャンネルシステム特有の識別情報
OFFLINE	入出力装置がシステム開始時にオフラインかどうかの表示
DEVMN	装置記号名 ccc：装置記号名 xx：装置記号名の下 2 けたの基数。D は 10 進数, H は 16 進数, 36 は 36 進数。接続装置数が 1 台の場合は空白が表示される
IOTIME	入出力終了割り込み時間
FEATURE	入出力装置に付加された選択機能
*** UNITNAME COMPARE RESULT ***	UNITNAME マクロの比較結果であることを示すタイトル
NAME	装置グループ名
RESULT	比較結果 DEL：変更前にあるが、変更後がない ADD：変更前にはないが、変更後にある CHG：変更前と変更後に差分がある

見出し	表示内容
TYPE1 TYPE2	装置グループの属性。 TYPE1：DEL，ADD，CHG の場合は，変更前の指定値 TYPE2：CHG の場合は，変更後の指定値 空白：属性に関する指定値がない ES：TYPE=ES を指定してあることを示す。一時的 ES データセットを割り当てるための装置グループ VIO：VIO=YES を指定してあることを示す。仮想デ タセットを割り当てるための装置グループ PREST：TYPE=PREST を指定してあることを示す。 並列同期転送を使用するための装置グループ
ADDED/DELETED UNIT ADDRESS	比較結果 DEL DEVS：変更前にあるが，変更後にはない装置アドレ ス ADD DEVS：変更前にはないが，変更後にある装置アドレ ス
*** SCHEDULR COMPARE RESULT ***	SCHEDULR マクロの比較結果であることを示すタイト ルです
RESULT	CHANNEL マクロの「RESULT」と同様
DEVPREF	装置タイプ
ALL EQUAL	比較の結果，二つのデータが一致していることを示す。 SYSGEN マクロ単位に表示

7. 表示される情報の見方

7.5.2 PRMF 構成定義の比較結果の表示形式

PRMF 構成定義の比較結果の表示形式および比較結果の出力項目を示します。

(1) 不一致がある場合の表示形式

不一致がある場合の PRMF 構成定義の比較結果の表示形式を次に示します。

```
**** SCMRFC CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-262C-4114 02-00 ) ****
2002-03-12 09:53:42

*** DATABASE INFORMATION LIST ***

ORIGINAL DATABASE NAME : C:\ScmrFf\Samples\YSAMPLE2_ORIGN.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\Program Files\HITACHI\SCMRFC\YSAMPLES\YSAMPLE2.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

+----- ORIGINAL -----+ +----- COMPARE -----+
SYSTEM NAME : ONLINE          ONLINE
CPU NAME    : PRMF1           PRMF1
CONTROL SYSTEM : PRMA E2      PRMA E2
SYNTAX LEVEL : LEVEL0         LEVEL0
CPUMODEL    : MP5800         MP5800
ACOH        : YES            YES
MEMBER NAME  : JAGHO102       JAGHO102
CONFIG ID   : SYSCNF02       SYSCNF02
SCDS        : 02             02
CREATION TIME : 1998-01-29 13:07:24 1998-01-29 13:07:24
UPDATE TIME  : 1998-03-11 22:35:43  1998-03-13 07:10:33

** PRMF SYSTEM CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

*EXPATH
+--LABEL--+--RESULT--+--BLMPX/CVC CHPID--+--CNC CHPID-----+
EXP01    ADD      40 41                50 51

** LPAR 1 CONFIGURATION CONTROL DEFINITION COMPARE LIST **

+--NAME--+CPU MODE--+CPU ID--+
ORIGN : ONLINE  M/ASA
COMP  : ONLINE1 M/ASA

** LPAR 2 CONFIGURATION CONTROL DEFINITION COMPARE LIST **

+--NAME--+CPU MODE--+CPU ID--+
ADD : ONLINE2  M/EX

*LOGICAL IP +COUNT+MAXCOUNT+MODE+GROUP+SRVRATIO+PRIORITY+
2          S      A      50      1

*STORAGE +MS SIZE+MS LOC+ES SIZE+ES LOC+
500          512

*OPTION +AUTACT+AUTLOAD+IPLWAIT+IPLPATRL+AUTLOCK+AUTDEACT+RECONFCH+RECONFIP+WAITDISP+
YES      YES      5      NO      NO      NO      YES      NO      NO

*FEATOPT +ALARM+DC+ACF+APF+PST+CSC+
YES      NO      NO      NO      NO      NO

*LOAD UNIT +UNIT0+UNIT1+UNIT+DUMP+
0169
```

*** CHANNEL COMPARE RESULT ***

CHPID	RESULT	TYPE	SEGNO	CUNO	ATTR	LPAR	LPARDEFR
06	ORIGN	MPX			RCNF	1	
06	COMP	MPX			RCNF	1	2
08	ORIGN	BLMPX			DED		
08	COMP	BLMPX			DED	2	
0A	ORIGN	BLMPX			DED		
0A	COMP	BLMPX			DED	2	
15	ORIGN	BLMPX			RCNF	1	
15	COMP	BLMPX			RCNF	1	2
18	ORIGN	BLMPX			DED		
18	COMP	BLMPX			DED	2	
28	ORIGN	BLMPX			DED		
28	COMP	BLMPX			DED	2	
2F	ORIGN	BLMPX			DED		
2F	COMP	BLMPX			DED	2	
50	ADD	CNC		66FE	DED	2	
51	ADD	CNC		66FE	DED	2	
62	ADD	CNC		62FE	SHR	ALL	
66	ORIGN	CNC		66FE	RCNF	1	
66	COMP	CNC		66FE	RCNF	1	2
76	ORIGN	CNC		66FE	RCNF	1	
76	COMP	CNC		66FE	RCNF	1	2
81	ORIGN	CNC		66FE	DED		
81	COMP	CNC		66FE	DED	2	
96	ORIGN	CNC		66FE	RCNF		1
96	COMP	CNC		66FE	RCNF	2	1
96	ORIGN	CNC		66FE	RCNF		1
96	COMP	CNC		66FE	RCNF	2	1
A2	ADD	CNC		62FE	SHR	ALL	

*** CONTRLR COMPARE RESULT ***

CUNO	RESULT	PATHID & LNKA			CU	DEVA	TYPE	IFMODE
		ID-LA	ID-LA	ID-LA	ADR			
0500	ADD	50-A0			00 00/064			NS
0510	ADD	51-A1			00 00/064			NS
0601	ADD	60-E1			00 60/016			NS
0612	ADD	61-E0			00 20/016			NS
0620	ADD	62-D4	A2-D4		00 00/002			NS
0621	ADD	62-D5	A2-D5		00 00/002			NS
0622	ADD	62-D6	A2-D6		00 00/002			NS
0623	ADD	62-D7	A2-D7		00 00/002			NS
62FE	ADD	62-FE			00 00/001			NS

*** IODEVICE COMPARE RESULT ***

ADDRESS	RESULT	CUNO/DEVA	DEV-		PRE-		XFEATUR	LPAR
			CNT	UNIT	MDL	PATH		
0620	ADD	0620/00	2	6488	1			ALL
0622	ADD	0621/00	2	6488	1			ALL
0624	ADD	0622/00	2	6488	1			ALL
0626	ADD	0623/00	2	6488	1			ALL
5000	ADD	0500/00 0510/00	16	6587				
6060	ADD	0601/60	16	8626	1			ALL
6150	ADD	0612/20	16	8626	1			ALL
6200	ADD	62FE/00	1	6335				ALL
7018	DEL	9001/02	2	8626	1			
701A	DEL	8101/0A	2	8626	1			
8018	ADD	8001/02	2	8626	1			
901A	ADD	8101/0A	2	8626	1			

7. 表示される情報の見方

(2) 一致している場合の表示形式

一致している場合の PRMF 構成定義の比較結果の表示形式を次に示します。

```
**** SCMRP CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-262C-1114 02-00 ) ****                2002-03-12 10:52:49

*** DATABASE INFORMATION LIST ***

ORIGINAL DATABASE NAME : C:\Scmr\FYSamples\YSAMPLE2_ORIGN.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\Program Files\HITACHI\SCMRFFCD\YSAMPLES\YSAMPLE2.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

+-----+ ORIGINAL +-----+ COMPARE +-----+
SYSTEM NAME : ONLINE                               ONLINE
CPU NAME    : PRMF1                                PRMF1
CONTROL SYSTEM : PRMA E2                            PRMA E2
SYNTAX LEVEL : LEVEL0                               LEVEL0
CPUMODEL    : MP5800                                MP5800
ACOH        : YES                                   YES
MEMBER NAME : JAGH0102                              JAGH0102
CONFIG ID   : SYSCNF02                              SYSCNF02
SCDS       : 02                                    02
CREATION TIME : 1998-01-29 18:07:24                 1998-01-29 18:07:24
UPDATE TIME  : 1998-03-13 07:10:33                 1998-03-13 07:10:33

** PRMF SYSTEM CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

** LPAR 1 CONFIGURATION CONTROL DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

** LPAR 2 CONFIGURATION CONTROL DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

*** CHANNEL COMPARE RESULT ***

ALL EQUAL

*** CONTRLR COMPARE RESULT ***

ALL EQUAL

*** IODEVICE COMPARE RESULT ***

ALL EQUAL
```

(3) 512 チャネル構成定義時の表示形式

I/O グループ 0 および 1 同士の比較結果の表示形式を次に示します。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10-----11-----12-----13-----
*** SCMRP CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-262C-4114 02-01 ) ***                               2002-07-04 18:29:17

*** DATABASE INFORMATION LIST ***

ORIGINAL DATABASE NAME : C:\ScmrFYSamples\512CH_ORIGN.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\ScmrFYSamples\512CH_NEW.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

          +----- ORIGINAL -----+ +----- COMPARE -----+
SYSTEM NAME : ONLINE                               ONLINE
CPU NAME    : PRMF512                             PRMF512
IOG         : 0                                    0
CONTROL SYSTEM : PRMA E3                          PRMA E3
SYNTAX LEVEL : LEVEL2                             LEVEL2
CPUMODEL    : AP8000                              AP8000
ACOH        : YES                                 YES
MEMBER NAME : JAGH0102                            JAGH0102
CONFIG ID   : SYSCNF02                            SYSCNF02
SCDS        : 02                                  02
CREATION TIME : 2002-07-01 18:07:24                2002-07-01 12:03:12
UPDATE TIME  : 2002-07-01 20:03:09                2002-07-01 21:05:15

.
.
.
.
中省略
.
.
.
.

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

          +----- ORIGINAL -----+ +----- COMPARE -----+
SYSTEM NAME : ONLINE                               ONLINE
CPU NAME    : PRMF512                             PRMF512
IOG         : 1                                    1
CONTROL SYSTEM : PRMA E3                          PRMA E3
SYNTAX LEVEL : LEVEL2                             LEVEL2
CPUMODEL    : AP8000                              AP8000
ACOH        : YES                                 YES
MEMBER NAME : JAGH0102                            JAGH0102
CONFIG ID   : SYSCNF02                            SYSCNF02
SCDS        : 02                                  02
CREATION TIME : 2002-07-01 21:15:32                2002-07-01 13:05:51
UPDATE TIME  : 2002-07-01 21:55:13                2002-07-01 20:08:53

.
.
.
.

```

7. 表示される情報の見方

(4) 比較結果の出力項目

PRMF 構成定義の比較結果の出力項目を表 7-6 に示します。

表 7-6 PRMF 構成定義の比較結果の出力項目

見出し	表示内容
*** DATABASE INFORMATION LIST ***	データベースに関するリストであることを示すタイトル
ORIGINAL DATABASE NAME	変更前のデータベース名
COMPARE DATABASE NAME	編集前(変更後)のデータベース名
*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***	システム構成に関するリストであることを示すタイトル
SYSTEM NAME	システム名称
CPU NAME	物理プロセッサ名称または物理 CPU 名称 (512 チャンネル構成時)
I/O GROUP	I/O グループ番号 (512 チャンネル構成定義のとき表示)
CONTROL SYSTEM	制御システム名
SYNTAX LEVEL	シンタクスレベル
CPU MODEL	CPU モデル
ACOH	ACONARC 制御機能の使用の有無
MEMBER NAME	メンバ名称
CONFIG ID	構成 ID
SCDS	SCDS 番号
CREATION TIME	構成定義データの作成日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
UPDATE TIME	構成定義データの更新日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
** PRMF SYSTEM CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **	LPAR 構成定義の比較結果であることを示すタイトル
*SYSTEM OPTION	PRMF のオプション機能の比較結果 YES: オプション機能を使用する NO: オプション機能を使用しない 比較結果がすべて一致したときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果を出力しない
AUTPWOFF	自動電源切断機能の使用の有無
AUTDUMP	自動 PRMF ダンプ機能の使用の有無
AUTRSTRT	自動再開始機能の使用の有無

見出し	表示内容
RESULT	比較結果 DEL：変更前にあるが、変更後がない ADD：変更前がないが、変更後にある ORIGN：変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP：変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
*PHYSICAL IP	物理 IP スケジューリング属性の比較結果。比較結果がすべて一致したときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果を出力しない
+0+ +1+ +2+ +3+ +4+ +5+ +6+ +7+, MODE GRP/LP	物理 IP 番号 MODE：物理 IP の割り当て属性を示す GRP/LP：スケジューリンググループのグループ番号、または LPAR 番号を示す
*PFKEY	PF キー定義の比較結果。比較結果がすべて一致したときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果を出力しない
PFNO	PF キー番号
RESULT	比較結果 DEL：変更前にあるが、変更後がない ADD：変更前がないが、変更後にある ORIGN：変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP：変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
TYPE	PF キーに定義された PRMF コマンドの実行契機
COMMAND	PF キーに対応づけた PRMF コマンドテキスト
*EXPATH	EXPATH の定義。EXPATH 文が変更前、変更後のどちらにも指定されていない場合は表示されない。比較結果がすべて一致したときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果を出力しない
LABEL	EXPATH 文を識別するために明示的に指定する情報で、実際の EXPATH 文にはないオペランド
RESULT	比較結果 DEL：変更前にあるが、変更後がない ADD：変更前がないが、変更後にある ORIGN：変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP：変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
BLMPX/CVC CHPID	EXPATH 文の BLMPX オペランドまたは CVC オペランドで指定されたチャンネルバス ID
CNC CHPID	EXPATH 文の CNC オペランドで指定されたチャンネルバス ID

7. 表示される情報の見方

見出し	表示内容
** LPAR n CONFIGURATION CONTROL DEFINITION COMPARE LIST **	LPAR 番号が n の LPAR の比較結果であることを示すタイトル
	以下の「NAME」「CPU MODE」「CPU ID」の比較結果がすべて一致したときは、「NAME」「CPU MODE」「CPU ID」の比較結果は出力しない
NAME	LPAR 名称
CPU MODE	LPAR の CPU 動作モード
CPU ID	LPAR の CPU 識別情報のビット 16 ~ 31 の値を 4 文字の 16 進数字で示す
*LOGICAL IP	IP 文の比較結果を示す。比較結果がすべて一致したのときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果は出力しない
COUNT	論理 IP 台数
MAXCOUNT	最大論理 IP 台数
AC	アクセラレートプロセッサを割り当てた論理 IP
MODE	論理 IP の割り当て属性
GROUP	スケジューリンググループ
SRVGROUP	物理 IP の CPU サービス比の CPU サービスグループ番号
SRVRATIO	CPU サービス比
SRVAC	物理 AC の CPU サービス比
PRIORITY	実行優先順位
PRIAC	論理 AC に対する実行優先順位
*STORAGE	STORAGE 文の比較結果。比較結果がすべて一致したときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果は出力しない
MS SIZE	主記憶装置の容量をメガバイト単位で示す
MAXMS	最大主記憶容量を示す (RECONFMS=YES の場合だけ有効)
MS LOC	主記憶装置を割り当てる物理主記憶装置上の先頭位置をメガバイト単位 (16 進数) で示す
ES SIZE	拡張記憶装置の容量をメガバイト単位で示す
ES LOC	拡張記憶装置を割り当てる物理拡張記憶装置上の先頭位置をメガバイト単位 (16 進数) で示す
*OPTION	OPTION 文の比較結果。比較結果がすべて一致したときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果は出力しない
AUTACT	自動アクティベートオプションの使用の有無
AUTLOAD	自動 IPL オプションの使用の有無

見出し	表示内容
IPLWAIT	自動 IPL 待ち時間を分単位で示す
IPLPATRL	IPL 監視オプションの使用の有無
AUTLOCK	自動 LPAR 操作抑止オプションの使用の有無
AUTDEACT	自動ディアクティブオプションの使用の有無
RECONFCH	ゲストチャネル動的再構成機能を PRMF のフレーム操作での使用の有無
RECONFIP	ゲスト IP 動的再構成機能の使用の有無
RECONFMS	ゲスト主記憶動的再構成機能の使用の有無
WAITDISP	ウェイトディスパッチ機能の使用の有無
SRVCAP	CPU サービスキャッピング機能の使用の有無
*FEATOPT	FEATOPT 文の比較結果。比較結果がすべて一致したときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果は出力しない
ALARM	システム停止警報機構オプションの使用の有無
DC	ダイレクトコントロール機構の使用の有無
ACF	自動通報機構の使用の有無
APF	自動電源投入機構の使用の有無
PST	パラレルシステムタイマ機構の使用の有無
CSC	CSC オプションの使用の有無
LINUX	LINUX 使用の有無
*LOAD UNIT	LOADUNIT 文の比較結果。比較結果がすべて一致したときは、左記タイトルおよび全オペランドの比較結果は出力しない
UNIT0	自動 IPL 機能を使用する、または CSC からの IPL LOAD0 指令によって IPL する場合の IPL 装置の論理装置番号を示す
UNIT1	CSC からの IPL LOAD1 指令によって IPL する場合の IPL 装置の論理装置番号を示す
UNIT	LPROP フレームで IPL する場合の IPL 装置の論理装置番号を示す
DUMP	LPROP フレームでダンププログラムを IPL する場合の IPL 装置の論理装置番号を示す
*** CHANNEL COMPARE RESULT ***	CHANNEL 文の比較結果であることを示すタイトル
CHPID	チャンネルパス ID

7. 表示される情報の見方

見出し	表示内容
RESULT	比較結果 DEL：変更前にあるが、変更後がない ADD：変更前がないが、変更後にある ORIGN：変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP：変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
TYPE	チャンネルタイプ
SEGNO	ネットワークセグメントのセグメント番号
CUNO	ACODの制御装置番号
ATTR	チャンネルパスの割り当て属性
LPAR	アクティベート時にチャンネルパスを割り当てる LPAR の番号 ALL 指定時は「ALL」を表示する
LPARDEFR	チャンネルパスを接続予約割り当てする LPAR の番号を示す ALL 指定時は「ALL」を表示する
*** CONTRLR COMPARE RESULT ***	CONTRLR 文の比較結果であることを示すタイトル
CUNO	制御装置番号
RESULT	比較結果 DEL：変更前にあるが、変更後がない ADD：変更前がないが、変更後にある ORIGN：変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP：変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
PATHID & LNKA	入出力制御装置の接続先を「ID - LA」の形式で示す ID：チャンネルパス ID LA：リンクアドレス
CUADR	制御装置アドレス
DEVA	装置アドレスを「装置アドレス / 装置数」の形式で示す
TYPE	制御装置タイプ
IFMODE	インタフェースモード
*** IODEVICE COMPARE RESULT ***	IODEVICE 文の比較結果であることを示すタイトル
ADDRESS	デバイス番号を示す
RESULT	比較結果 DEL：変更前にあるが、変更後がない ADD：変更前がないが、変更後にある ORIGN：変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP：変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容

見出し	表示内容
CUNO/DEVA	CUNO：制御装置番号を示す DEVA：装置アドレスを示す
DEVCNT	装置台数
UNIT	装置形式
MDL	モデル番号
PREPATH	優先して選択するチャンネルパス ID
XFEATUR	拡張チャンネルシステム特有の識別情報
LPAR	当該装置を使用可能とする LPAR の番号。ALL 指定時は「ALL」を表示する
ALL EQUAL	比較の結果，二つのデータが一致していることを示す。 PRMF,LPAR, チャンネル, 入出力制御装置, 入出力装置 単位に表示する

7. 表示される情報の見方

7.5.3 ACOD 外部構成定義の比較結果の表示形式

ACOD 外部構成定義の比較結果の表示形式および比較結果の出力項目を示します。

(1) 不一致がある場合の表示形式

不一致がある場合の ACOD 外部構成定義の比較結果の表示形式を次に示します。

```
**** SCRMF CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-252C-4114 02-00 ) ****
2002-03-11 22:36:40

*** DATABASE INFORMATION LIST ***

ORIGINAL DATABASE NAME : C:\Scmr\FY\Samples\SAMPLE2_ORIGN.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\Program Files\HITACHI\SCRMFF\CDYSAMPLES\SAMPLE2.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

+----- ORIGINAL -----+ +----- COMPARE -----+
SYSTEM NAME   : ONLINE                               ONLINE
SYNTAX LEVEL  : LEVEL0                               LEVEL0
MEMBER NAME   : JAGA0002                             JAGA0002
CONFIG ID     : SYSCNF02                             SYSCNF02
ACDCNTID     : 02                                    02
CREATION TIME : 1998-03-11 22:16:25                 1998-03-13 05:53:36
UPDATE TIME   : 1998-03-11 22:31:29                 1998-03-13 07:09:30

** ACOD1 EXTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

*PORTACOD
+----+----+-----+-----+
|ADDR|RESULT|-----|OUTER|
+----+----+-----+-----+
C0  ADD   CPU ((*PRMF (PRMF1), SYSA), 60)
C2  ADD   CPU ((*PRMF (PRMF1), SYSA), 62)
D0  ADD   IOC (CTC611)
D1  ADD   IOC (CTC602)
E0  ADD   IOC (CTC612)
E1  ADD   IOC (CTC601)
E2  ADD   ACOD (ACOD2, C0)

** ACOD2 EXTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

*ACODCNCT  +--ACOD_NAME--+--MODEL--+
ADE       : ACOD2      3

** ACOD3 EXTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

*PORTACOD
+----+----+-----+-----+
|ADDR|RESULT|-----|OUTER|
+----+----+-----+-----+
S3  ADD   CPU ((*PRMF (PRMF1)), 81)
S0  ADD   CPU ((*PRMF (PRMF1)), 50)
S1  ADD   CPU ((*PRMF (PRMF1)), 51)
A0  ADD   IOC (DKC400)
A1  ADD   IOC (DKC410)
E0  ORIGN IOC (CCP1)
E0  COMP  IOC (CCP1, CCP2)
```

(2) 一致している場合の表示形式

一致している場合の ACOD 外部構成定義の比較結果の表示形式を次に示します。

```

**** SCMRP CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-262C-4114 02-00 ) ****
                                                                2002-03-12 10:52:53

*** DATABASE INFORMATION LIST ***

ORIGINAL DATABASE NAME : C:\Scmrp\W$Samples\SAMPLE2_ORIGN.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\Program Files\HITACHI\SCMRP\CDYSAMPLESYSAMPLE2.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

      +----- ORIGINAL -----+ +----- COMPARE -----+
SYSTEM NAME : ONLINE                ONLINE
SYNTAX LEVEL : LEVEL0              LEVEL0
MEMBER NAME  : JAGA0002             JAGA0002
CONFIG ID    : SYSCNF02            SYSCNF02
ACDCNTID     : 02                  02
CREATION TIME : 1998-03-13 05:53:36 1998-03-13 05:53:36
UPDATE TIME  : 1998-03-13 07:00:30  1998-03-13 07:00:30

** ACOD1 EXTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

** ACOD2 EXTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

** ACOD3 EXTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

```

(3) 比較結果の出力項目

ACOD 外部構成定義の比較結果の出力項目を表 7-7 に示します。

表 7-7 ACOD 外部構成定義の比較結果の出力項目

見出し	表示内容
*** DATABASE INFORMATION LIST ***	データベースに関するリストであることを示すタイトル
ORIGINAL DATABASE NAME	変更前のデータベース名
COMPARE DATABASE NAME	現在編集中(変更後)のデータベース名
*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***	システム構成に関するリストであることを示すタイトル
SYSTEM NAME	システム名称
SYNTAX LEVEL	シンタクスレベル
MEMBER NAME	メンバ名称
CONFIG ID	構成 ID
ACDCNTID	ACOD 外部構成定義データの情報番号

7. 表示される情報の見方

見出し	表示内容
CREATION TIME	構成定義データの作成日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
UPDATE TIME	構成定義データの更新日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
** ACOD 名称 EXTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **	ACOD 名称の ACOD 外部構成情報の比較結果であることを示すタイトル ACOD 名称は, 変更後の ACOD を示す
*ACODCNCT	ACODCNCT コマンドの比較結果。比較結果がすべて一致したときは, 左記タイトルおよび全オペランドの比較結果は出力しない
ACOD_NAME	ACOD 名称
MODEL	ACOD のモデル
RESULT	比較結果 DEL: 変更前にあるが, 変更後がない ADD: 変更前がないが, 変更後にある ORIGN: 変更前と変更後に差分がある場合の更前の定義内容 COMP: 変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
*PORTACOD	PORTACOD コマンドの比較結果。比較結果がすべて一致したときは, 左記タイトルおよび全オペランドの比較結果は出力しない
ADDR	ポートアドレス
RESULT	比較結果 DEL: 変更前にあるが, 変更後がない ADD: 変更前がないが, 変更後にある ORIGN: 変更前と変更後に差分がある場合の更前の定義内容 COMP: 変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
OUTER	ポートアドレスの外部接続情報。表示は, ACOD 外部構成定義コマンドの OUTER オペランドおよび INTERNAL オペランドの形式で表示する
ALL EQUAL	比較の結果, 二つのデータが一致していることを示す。ACOD 単位に表示される

7.5.4 ACOD 内部構成定義の比較結果の表示形式

ACOD 内部構成定義の比較結果の表示形式および比較結果の出力項目を示します。

(1) 不一致がある場合の表示形式

不一致がある場合の ACOD 内部構成定義の比較結果の表示形式を次に示します。

```

**** SCMRP CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-262C-1114 02-00 ) ****
                                                                2002-03-11 22:36:42

*** DATABASE INFORMATION LIST ***

ORIGINAL DATABASE NAME : C:\ScmrFWSamples\YSAMPLE2_ORIGN.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\Program Files\HITACHI\SCMRFC\CD\YSAMPLES\YSAMPLE2.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

      +----- ORIGINAL -----+ +----- COMPARE -----+
SYSTEM NAME   : ONLINE                ONLINE
SYNTAX LEVEL  : LEVEL0                 LEVEL0
MEMBER NAME   : JAGL0002                JAGL0002
CONFIG ID     : SYSCNF02                SYSCNF02
ACDLNKID     : 02                       02
CREATION TIME : 1998-03-11 22:16:25     1998-03-13 05:53:36
UPDATE TIME   : 1998-03-11 22:31:29     1998-03-13 07:09:30

** ACOD1 INTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

*PORTLINK
+-ADDR-+RESULT+-----CONNECT_ADR-----+-----OPT-----+
C0  ADD   D1 E1                DYNAMIC
C1  ORIGN FE                   DYNAMIC
C1  COMP  D0 E0 FE             DYNAMIC
C2  ADD   E2                   DEDICATE
D0  ADD   C1                   DYNAMIC
D1  ADD   C0                   DYNAMIC
E0  ADD   C1                   DYNAMIC
E1  ADD   C0                   DYNAMIC
E2  ADD   C2                   DEDICATE

** ACOD2 INTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

*ACODLINK +-ACOD_NAME+-MODEL--+
ADD      : ACOD2      3

** ACOD3 INTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

*PORTLINK
+-ADDR-+RESULT+-----CONNECT_ADR-----+-----OPT-----+
83  ADD   E0                DYNAMIC
90  ADD   A0                DYNAMIC
91  ADD   A1                DYNAMIC
A0  ADD   90                DYNAMIC
A1  ADD   91                DYNAMIC
E0  ORIGN 82                DYNAMIC
E0  COMP  82 83            DYNAMIC

```

7. 表示される情報の見方

(2) 一致している場合の表示形式

一致している場合の ACOD 内部構成定義の比較結果の表示形式を次に示します。

```

**** SCMRFC CONFIGURATION DEFINITION FOR WINDOWS (P-262C-4114 02-00 ) ****
                                                                2002-03-12 10:52:57

*** DATABASE INFORMATION LIST ***

ORIGINAL DATABASE NAME : C:\ScmrFYSamples\YSAMPLE2_ORIGN.MDB
COMPARE DATABASE NAME  : C:\Program Files\WHITACHI\SCMRFFCDYSAMPLES\YSAMPLE2.MDB

*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***

+-----+ ORIGINAL +-----+ +-----+ COMPARE +-----+
SYSTEM NAME : ONLINE                               ONLINE
SYNTAX LEVEL : LEVEL0                             LEVEL0
MEMBER NAME  : JAGL0002                             JAGL0002
CONFIG ID    : SYSCNF02                             SYSCNF02
ACDLNKID    : 02                                    02
CREATION TIME : 1998-03-13 05:53:36                 1998-03-13 05:53:36
UPDATE TIME  : 1998-03-13 07:09:30                 1998-03-13 07:09:30

** ACOD1 INTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

** ACOD2 INTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

** ACOD3 INTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **

ALL EQUAL

```

(3) 比較結果の出力項目

ACOD 内部構成定義の比較結果の出力項目を表 7-8 に示します。

表 7-8 ACOD 内部構成定義の比較結果の出力項目

見出し	表示内容
*** DATABASE INFORMATION LIST ***	データベースに関するリストであることを示すタイトル
ORIGINAL DATABASE NAME	変更前のデータベース名
COMPARE DATABASE NAME	現在編集中(変更後)のデータベース名
*** SYSTEM CONFIGURATION INFORMATION LIST ***	システム構成に関するリストであることを示すタイトル
SYSTEM NAME	システム名称
SYNTAX LEVEL	シNTAXレベル
MEMBER NAME	メンバ名称
CONFIG ID	構成 ID
ACDLNKID	ACOD 内部構成定義データの情報番号

見出し	表示内容
CREATION TIME	構成定義データの作成日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
UPDATE TIME	構成定義データの更新日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)
** ACOD 名称 INTERNAL CONFIGURATION DEFINITION COMPARE LIST **	ACOD 名称の ACOD 内部構成情報の比較結果であることを示すタイトル ACOD 名称は, 比較元の ACOD を示す
*ACODLINK	ACODLINK コマンドの比較結果。比較結果がすべて一致したときは, 左記タイトルおよび全オペランドの比較結果を出力しない
ACOD_NAME	ACOD 名称
MODEL	ACOD のモデル
RESULT	比較結果 DEL: 変更前にあるが, 変更後にはない ADD: 変更前にはないが, 変更後にある ORIGN: 変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP: 変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
*PORTLINK	PORTLINK コマンドの比較結果。比較結果がすべて一致のときは, 左記タイトルおよび全オペランドの比較結果は出力しない。
ADDR	ポートアドレス
RESULT	比較結果 DEL: 変更前にあるが, 変更後にはない ADD: 変更前にはないが, 変更後にある ORIGN: 変更前と変更後に差分がある場合の変更前の定義内容 COMP: 変更前と変更後に差分がある場合の変更後の定義内容
CONNECT_ADR	内部接続の接続先となるポートアドレス
OPT	ポート間の接続状態。表示は, ACOD 内部構成定義コマンドの OPT オペランドの形式で表示する
ALL EQUAL	比較の結果, 二つのデータが一致していることを示す。ACOD 単位に表示される

7.6 変更記録を付けた比較結果の出力情報

変更記録を付けて比較結果を出力したときの表示形式を説明します。

7.6.1 CHANNEL マクロの出力情報

変更記録を付けて比較結果を出力したときの CHANNEL マクロの表示形式を次に示します。また、変更記録を付けて比較結果を出力したときの表示項目を表 7-9 に示します。

```
*** CHANNEL COMPARE RESULT ***
+-CHPID--RESULT--TYPE--SEGNO--CUNO-+
  10   ADD      CNC
    <USER NAME : SYSMNGER  UPDATE TIME : 2001-02-14 18:36:55>
  30   DEL      BLMPX
    <USER NAME : SYSMNGER  UPDATE TIME : 2001-02-14 18:37:35>
  50   ORIGN    CNC          20FE
  50   COMP     CNC          50FE
    <USER NAME : SYSMNGER  UPDATE TIME : 2001-02-14 18:38:46>
```

表 7-9 変更記録を付けて比較結果を出力したときの表示項目

見出し	表示内容
USER NAME	この情報を最後に変更したユーザ名
UPDATE TIME	この情報の最終変更日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)

7.6.2 LPAR 情報

変更記録を付けて比較結果を出力したときの LPAR 情報の表示形式を次に示します。また、変更記録を付けて比較結果を出力したときの表示項目を表 7-10 に示します。

```
** LPAR 2 CONFIGURATION CONTROL DEFINITION COMPARE LIST **
<USER NAME : SYSMNGER  UPDATE TIME : 2001-03-20 20:40:13>

      +--NAME--++CPU MODE++CPU ID+
ORIGN :  ONLINE02  M/ASA   1234
COMP  :  ONLINE2   M/ASA   1234

*LOGICAL IP  +-COUNT--MAXCOUNT--MODE--GROUP--SRVRATIO--PRIORITY--+
ORIGN :      1      2      S    A      50      1
COMP  :      2      2      S    A      50      1

*LOAD UNIT   +-UNIT0--UNIT1--UNIT---DUMP--+
ORIGN :    0160      1A88
COMP  :    0160      2B99
```

表 7-10 変更記録を付けて比較結果を出力したときの表示項目

見出し	表示内容
USER NAME	この情報を最後に変更したユーザ名
UPDATE TIME	この情報の最終変更日付 (YYYY-MM-DD), および時刻 (hh:mm:ss)

8

障害対策

この章では、SCMRF CD for Windows で発生する障害への対応について説明します。

8.1 障害の種類と対処方法

8.2 ファイルのバックアップ

8.1 障害の種類と対処方法

SCMRF CD for Windows で発生する障害の種類とその対処方法を表 8-1 に示します。

表 8-1 障害の種類と対処方法

障害の種類		SCMRF CD for Windows の処置	対処方法
電源異常，操作中の強制終了などによる，データベースの一時的障害		なし	SCMRF CD for Windows を再起動する。再起動すると，データベースの修復が自動的に実行される。
そのほかのデータベースの障害	回復できる	メッセージで通知	ユティリティのデータベースの修復機能を実行する。
	回復できない		バックアップからファイルを復元する。
SCMRF CD for Windows の障害	回復できる	メッセージで通知	メッセージに従って対処する。
	回復できない		次に示す障害対策用資料を採取して，保守員に連絡する。 <ul style="list-style-type: none"> • 障害発生時の操作内容 • 障害発生時に操作していたデータベースのコピー • SCMRF CD for Windows の初期化ファイルのコピー • 障害発生時の画面のハードコピー

8.2 ファイルのバックアップ

電源異常などでデータベースが破損した場合に備えて、データベースファイルのバックアップを採取しておく必要があります。なお、少なくとも次に示す契機でバックアップを採取してください。

- データを搬入した後
- 定義完了後

付録

付録 A SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成
定義文との関係

付録 B ファイル転送

付録 C SCMRP CD for Windows の初期化ファイル

付録 D Windows 3.1 SCMRP/Configuration Definition for Windows からの
移行

付録 E メッセージ

付録 F 互換性

付録 G 構成定義データの比較範囲

付録 H SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係

付録 I 各バージョンの変更内容

付録 J 用語解説

付録 A SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文との関係

SCMRF CD for Windows での SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文の扱いと相違点について説明します。

付録 A.1 SCMRF CD for Windows での SYSGEN マクロ・ACOD 構成定義コマンド・PRMF システム構成定義文の扱い

SCMRF CD for Windows での SYSGEN マクロの扱いを表 A-1 に、ACOD 構成定義コマンドの扱いを表 A-2 に、PRMF システム構成定義文の扱いを表 A-3 に示します。

表 A-1 SYSGEN マクロの SCMRF CD for Windows での扱い

SYSGEN マクロ		SCMRF CD for Windows の構成定義ウィンドウ	
マクロ名	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
CHANNEL	PATHID	チャンネル定義	PATHID
	TYPE	チャンネル定義	TYPE
	CUNO	接続定義	ACOD 名称
CONTRLR	CUNO	入出力制御装置定義	CUNO
	DEVA	入出力制御装置定義	DEVA, NUM
	PATHID	接続定義	PATHID
	TYPE	入出力制御装置定義	TYPE
	IFMODE	入出力制御装置定義	IFMODE
	CUADR	入出力制御装置定義	CUADR
	LNKA	接続定義	LNKA
	IOCMN	入出力制御装置定義	IOC 名称
	MTLIB	入出力制御装置定義	MTLIB
IODEVICE	ADDRESS	入出力装置定義	ADDR, NUM, ADDR2, NUM2
	CUNO	接続定義	CUNO
	DEVA	接続定義	DEVA
	UNIT	入出力装置定義	UNIT
	DEVMN	入出力装置定義	DEVMN, 基数
	FEATURE	入出力装置定義	FEATURE
	IOTIME	入出力装置定義	IOTIME
	MODEL	入出力装置定義	MODEL

SYSGEN マクロ		SCMRF CD for Windows の構成定義ウィンドウ	
マクロ名	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
	OFFLINE	入出力装置定義	OFFLINE
	PREPATH	接続定義	PREPATH
	XFEATUR	入出力装置定義	XFEATUR
SCHEDULR	DEVPREF	装置割り当て順序定義	順序, 装置タイプ
UNITNAME (装置タイプ)	NAME	装置タイプ定義	装置タイプ
	VIO	装置タイプ定義	VIO
UNITNAME (装置グループ)	NAME	装置グループ定義	NAME
	TYPE	装置グループ定義	TYPE
	VIO	装置グループ定義	VIO
	UNIT	装置グループ定義	UNIT, NUM

表 A-2 ACOD 構成定義コマンドの SCMRF CD for Windows での扱い

ACOD 構成定義コマンド		SCMRF CD for Windows 構成定義	
コマンド名	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
ACODFILE	ID	システム構成の設定	構成定義情報番号
ACODCNCT	ACOD_NAME	ACOD 定義	ACOD 名称
	MODEL	ACOD 定義	ACOD モデル
PORTACOD	ADDR	ACOD 経路定義	IN, OUT, IN2, OUT2
	OUTER (CPU)	システム構成の設定 ACOD 経路定義	プロセッサ名称または物理プロセッサ名称, PATHID
	OUTER (IOC)	ACOD 経路定義	IOC 名称
	OUTER (ACOD)	ACOD 経路定義	ACOD 名称, OUT, ACOD 名称 2, IN2
	INTERNAL	ACOD 経路定義	OUT または OUT2 (ポートアドレス FE)
ACODEND	-	なし	なし
LINKFILE	ID	システム構成の設定	構成定義情報番号
ACODLINK	ACOD_NAME	ACOD 定義	ACOD 名称
	MODEL	ACOD 定義	ACOD モデル
PORTLINK	ADDR	ACOD 経路定義	IN, OUT, IN2, OUT2
	CONNECT_AD R	ACOD 経路定義	IN, OUT, IN2, OUT2

ACOD 構成定義コマンド		SCMRF CD for Windows 構成定義	
コマンド名	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
	OPT	ACOD 経路定義	接続属性
ENDLINK	-	なし	なし

(凡例)

- : オペランドがないことを示します。

なし : 対応するウィンドウおよびフィールドがないことを示します。

表 A-3 PRMF システム構成定義文の SCMRF CD for Windows での扱い

PRMF システム構成定義文		SCMRF CD for Windows 構成定義	
定義文名	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
IOGROUP	START , IOG	システム構成の設定	IOG 番号
	END	なし	なし
CHANNEL	PATHID	チャンネル定義 (PRMF)	PATHID
	TYPE	チャンネル定義 (PRMF)	TYPE
	ATTR	チャンネル定義 (PRMF)	ATTR
	CUNO	接続定義	ACOD 名称
	LPAR	LPAR へのチャンネル割り当て定義	割り当てチャンネルまたは割り当て LPAR
	LPARDEFR	LPAR へのチャンネル割り当て定義	予約割り当てチャンネルまたは予約割り当て LPAR
	SEGNO	チャンネル定義 (PRMF)	SEGNO
CONTRLR	CUNO	入出力制御装置定義 (PRMF)	CUNO
	DEVA	入出力制御装置定義 (PRMF)	DEVA , NUM
	PATHID	接続定義	PATHID
	LNKA	接続定義	LNKA
	CUADR	入出力制御装置定義 (PRMF)	CUADR
	TYPE	入出力制御装置定義 (PRMF)	TYPE
	IFMODE	入出力制御装置定義 (PRMF)	IFMODE

PRMF システム構成定義文		SCMRF CD for Windows 構成定義	
定義文名	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
IODEVICE	ADDRESS	入出力装置定義 (PRMF)	ADDR, NUM, ADDR2, NUM2
	CUNO	接続定義	CUNO
	DEVA	接続定義	DEVA
	MODEL	入出力装置定義 (PRMF)	MODEL
	UNIT	入出力装置定義 (PRMF)	UNIT
	PREPATH	接続定義	PREPATH
	XFEATUR	入出力装置定義 (PRMF)	XFEATUR
	LPAR	LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義	割り当て LPAR または割り当て入出力装置
LPARDEF	START	なし	なし
	END	なし	なし
PIP	IP	LPAR 共通の構成定義	物理 IP 番号, 割り当て属性, スケジュールリンググループ, LPAR 番号
SYSOPT	AUTPWOFF	LPAR 共通の構成定義	AUTPWOFF
	AUTDUMP	LPAR 共通の構成定義	AUTDUMP
	AUTRSTRT	LPAR 共通の構成定義	AUTRSTRT
PFKEY	PFNO	LPAR 共通の構成定義	PFNO
	COMMAND	LPAR 共通の構成定義	COMMAND
	TYPE	LPAR 共通の構成定義	TYPE
EXPATH	CNC	EXPATH 定義	CNC チャンネルの PATHID
	CVC	EXPATH 定義	BLMPX/CVC チャンネルの PATHID
	BLMPX	EXPATH 定義	BLMPX/CVC チャンネルの PATHID
PARTTION	NAME	LPAR 構成定義	LPAR 名称
	NUMBER	LPAR 構成定義	LPAR 番号
CPU	CPUMODE	LPAR 構成定義	CPUMODE
	CPUID	LPAR 構成定義	CPUID
IP	COUNT	LPAR 構成定義	COUNT
	MAXCOUNT	LPAR 構成定義	MAXCOUNT
	AC	LPAR 構成定義	AC
	MODE	LPAR 構成定義	MODE

PRMF システム構成定義文		SCMRF CD for Windows 構成定義	
定義文名	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
	GROUP	LPAR 構成定義	GROUP
	SRVGROUP	LPAR 構成定義	SRVGROUP
	SRVRATIO	LPAR 構成定義	SRVRATIO
	SRVAC	LPAR 構成定義	SRVAC
	PRIORITY	LPAR 構成定義	PRIORITY
	PRIAC	LPAR 構成定義	PRIAC
	DBPF	なし	なし
STORAGE	MS	LPAR 構成定義	MS サイズ, MS ロケーション
	MAXMS	LPAR 構成定義	MAXMS サイズ
	ES	LPAR 構成定義	ES サイズ, ES ロケーション
OPTION	AUTACT	LPAR 構成定義	AUTACT
	AUTLOAD	LPAR 構成定義	AUTLOAD
	IPLWAIT	LPAR 構成定義	IPLWAIT
	IPLPATRL	LPAR 構成定義	IPLPATRL
	AUTLOCK	LPAR 構成定義	AUTLOCK
	AUTDEACT	LPAR 構成定義	AUTDEACT
	RECONFCH	LPAR 構成定義	RECONFCH
	RECONFIP	LPAR 構成定義	RECONFIP
	RECONFMS	LPAR 構成定義	RECONFMS
	WAITDISP	LPAR 構成定義	WAITDISP
	SRVCAP	LPAR 構成定義	SRVCAP
FEATOPT	ALARM	LPAR 構成定義	ALARM
	DC	LPAR 構成定義	DC
	CSC	LPAR 構成定義	CSC
	ACF	LPAR 構成定義	ACF
	APF	LPAR 構成定義	APF
	PST	LPAR 構成定義	PST
	LINUX	LPAR 構成定義	LINUX
CH	PATHID	LPAR へのチャンネル割り当て定義	割り当てチャンネルまたは割り当て LPAR
	OPTION	LPAR へのチャンネル割り当て定義	予約割り当てチャンネルまたは予約割り当て LPAR

PRMF システム構成定義文		SCMRF CD for Windows 構成定義	
定義文名	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
LOADUNIT	UNIT0	LPAR 構成定義	UNIT0
	UNIT1	LPAR 構成定義	UNIT1
	UNIT	LPAR 構成定義	UNIT
	DUMP	LPAR 構成定義	DUMP

(凡例)

なし : 対応するウィンドウおよびフィールドがないことを示します。

付録 A.2 SCCP ・ AOMPLUS ・ PRMA E2 (HLUSCCP) ・ PRMA E3 (HLUSCCP) と SCMRF CD for Windows の相違点

SCCP と SCMRF CD for Windows の相違点を表 A-4 に , AOMPLUS と SCMRF CD for Windows の相違点を表 A-5 に , PRMA E2 (HLUSCCP) および PRMA E3 (HLUSCCP) と SCMRF CD for Windows の相違点を表 A-6 に示します。

表 A-4 SCCP と SCMRF CD for Windows の仕様上の相違点

SYSGEN マクロ		項目	相違点	
マクロ名	オペランド名		SCCP	SCMRF CD for Windows
CHANNEL	CUNO	ディレクタに対する入出力制御装置の指定方法	制御装置番号 (CUNO)	制御装置名称 (IOCMN)
CONTRLR	LNKA	一つの入出力制御装置と複数のチャネルとの接続で , ACOD を経由する接続と経由しない接続が混在する場合の , ACOD を経由しない接続でのリンクアドレスの指定方法	「 00 」を指定する。	「 00 」が仮定されるが , 指定できない。
		リンクアドレスの指定可能範囲	「 00 ~ FE 」	ACOD : 「 04 ~ FB , FE 」 FBD : 「 01 ~ FE 」
	IOCMN	制御装置名称の指定が意味を持たない入出力制御装置 (HCCF 装置) に対する制御装置名称の重複チェック	チェックしない。	チェックする。

SYSGEN マクロ		項目	相違点	
マクロ名	オペランド名		SCCP	SCMRF CD for Windows
IODEVICE	IOTIME	「0」を指定時の扱い	指定エラーになる。	「NO」を指定できる装置は「NO」を仮定する。指定できない装置は指定エラーになる。
共通	省略時の仮定値を持つオペランド	省略時の仮定値を持つオペランドの指定方法	仮定値を省略できる。	仮定値を省略できない。

表 A-5 AOMPLUS と SCMRF CD for Windows の仕様上の相違点

ACOD 構成定義コマンド		項目	相違点	
コマンド名	オペランド名		AOMPLUS	SCMRF CD for Windows
PORTACOD	INTERNAL	INTERNAL に対するポートアドレス「FE」以外の指定	指定できる。	指定できない。「FE」を自動設定する。

表 A-6 PRMA E2 (HLUSCCP) および PRMA E3 (HLUSCCP) と SCMRF CD for Windows の仕様上の相違点

システム構成定義文		項目	相違点	
定義文名	オペランド名		PRMA E2/PRMA E3 (HLUSCCP)	SCMRF CD for Windows
CHANNEL	CUNO	ディレクタに対する入出力制御装置の指定方法	制御装置番号 (CUNO)	IOC 名称 (ACOD 名称)
	LPAR LPARDEF R	論理チャンネルアドレスの指定	指定できる。	指定できない。
CONTRLR	LNKA	一つの入出力制御装置と複数のチャンネルとの接続で、ディレクタを経由する接続と経由しない接続が混在する場合の、ディレクタを経由しない接続でのリンクアドレスの指定方法	「00」を指定する。	「00」が仮定されるが、指定できない。
		リンクアドレスの指定可能範囲	「00 ~ FE」	ACOD : 「04 ~ FB, FE」 FBD : 「01 ~ FE」

システム構成定義文		項目	相違点	
定義文名	オペランド名		PRMA E2/PRMA E3 (HLUSCCP)	SCMRF CD for Windows
IODEVICE	MODEL	型名の指定方法	任意の英数字が指定できる。	ゲスト OS でも定義する入出力装置の場合は、ゲスト OS の指定値の規則に合わせる。
	UNIT	装置形式の指定方法	特定の入出力装置以外の場合は、任意の英数字を指定できる。	ゲスト OS でも定義する入出力装置の場合は、ゲスト OS の指定値の規則に合わせる。
CPU	CPUMODE	指定できる CPU 動作モード	すべて指定できる。	M, MEA は指定できない。
IP	DBPF	指定の可否	指定できる。	M または M/EA モード用の定義のため、指定できない。
OPTION	RECONFC H	省略時の仮定値	CH 文または CHANNEL 文の定義内容によって、仮定値が変わる。	省略時、「NO」とする。
CH	すべてのオペランド	指定の可否	指定できる。	CHANNEL 文の LPAR または LPARDEFR オペランドで指定する。

注 IOC 名称は CONTRLR 文では指定しない。SCMRF CD for Windows の入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウで入出力制御装置に付けた名称を指定する。

付録 B ファイル転送

ホストとのデータのやりとりをするためのファイル転送について説明します。

付録 B.1 ファイル転送アプリケーションプログラムを使用したファイル転送

ファイル転送の方法には、SCMRF CD for Windows で行う方法と、ファイル転送アプリケーションプログラムを使用して行う方法があります。ここでは、ファイル転送アプリケーションプログラムを使用して行う方法について説明します。SCMRF CD for Windows でファイル転送をする場合は、「4.21 ファイル転送」を参照してください。ファイル転送には、次に示すホストとファイル転送できるアプリケーションプログラムを使います。

- CommuniNet
- ftp でファイル転送できるアプリケーションプログラム

(1) CommuniNet を使ったファイル転送

SCMRF CD for Windows の転送ファイルを CommuniNet を使って転送するときの留意点を説明します。ファイル転送の手順については、御使用になる CommuniNet のマニュアルを参照してください。

環境情報の設定

CommuniNet を使ってファイル転送するには、ファイル転送の環境情報を次に示すように設定します。

ファイル種別

「ランダムファイル」を指定します。

コード変換

「無し」を指定します。

EOF 処理指定

「指定無し」を指定します。

レコード長

「3410」を指定します。

デフォルトディレクトリ

転送ファイルを格納するフォルダのパスを指定します。特に規定はありません。

マクロスクリプトの作成例

CommuniNet のマクロ機能を使ってファイル転送の操作を自動的に実行できます。ファイルを転送するときのマクロスクリプトの作成例を次に示します。

```
AWAIT KEYOK  
WRITE "LOGON ユーザ登録名・・・"
```

```

SEND EXEC
AWAIT KEYOK
SEND EXEC
RECEIVE (12,2) "READY"
WRITE "IFIT"
SEND EXEC
RECEIVE (1,2) "READY"
WRITE "LOGOFF"
SEND EXEC
QUIT

```

「ユーザ登録名・・・」には TSS セッションを開始するために必要なユーザ登録名とユーザ属性を指定します。
 また、RECEIVE コマンドの「(12,2)」または「(1,2)」, および「"READY"」は環境によって設定が異なるので、環境に合わせた値を指定します。

(2) ftp によるファイル転送

ftp を使って SCMRP CD for Windows の転送ファイルを転送する例を示します。ファイル転送の手順については、御使用になるファイル転送プログラムのマニュアルを参照してください。

ホストから PC にファイル転送する場合

ホストから PC にファイル転送する場合の ftp のコマンドの指定例を次に示します。

1. open 相手ホスト名またはIPアドレス
 2. ユーザIDおよびパスワード
 3. binary
 4. lcd パス名
 5. get '転送データセット名' 転送ファイル名
 6. quit
1. 相手ホスト名または IP アドレスを指定します。
 2. ユーザ名称およびパスワードの応答要求に対して、使用する TSS のユーザ ID とパスワードを指定します。
 3. binary モードで転送することを指定します。
 4. PC 側の転送ファイルが存在するフォルダのパスを指定します。
 5. ホスト側転送データセットを PC 側にファイル転送することを指定します。
 6. ファイル転送を終了します。

PC からホストにファイル転送する場合

PC からホストにファイル転送する場合の ftp のコマンドの指定例を次に示します。

1. open 相手ホスト名またはIPアドレス
2. ユーザIDおよびパスワード
3. binary
4. lcd パス名
5. put 転送ファイル名 '転送データセット名'
6. quit

1. 相手ホスト名または IP アドレスを指定します。
2. ユーザ名称およびパスワードの応答要求に対して、使用する TSS のユーザ ID とパスワードを指定します。
3. binary モードで転送することを指定します。
4. PC 側の転送ファイルが存在するフォルダのパスを指定します。
5. PC 側転送ファイルをホスト側にファイル転送することを指定します。
6. ファイル転送を終了します。

付録 B.2 搬入および搬出に伴うファイル転送時の注意事項

転送ファイルの名称は半角 8 文字以内で拡張子が「.cdf」であれば、特に付け方の決まりはありません。しかし、搬入用の転送ファイルと搬出用の転送ファイルとで用途が異なるので、ファイル名を区別しておくとし、搬入・搬出時のファイル名を指定するときに間違ったファイル名を指定しなくて済みます。例えば、次に示すファイル名にして区別します。

例

- 搬入用転送ファイル：ixxxxxxx.cdf
- 搬出用転送ファイル：exxxxxxx.cdf

xxxxxxx：任意の半角英数字を示します。

付録 C SCMRF CD for Windows の初期化ファイル

SCMRF CD for Windows の初期化ファイル (scmrfd2.ini) には、SCMRF CD for Windows の動作環境に関する設定が記述されています。このファイルの中で、変更できる設定について説明します。初期化ファイルの設定は、Windows のメモ帳などのテキストエディタを使って変更できます。

ここで説明する以外の設定は変更しないでください。変更すると、SCMRF CD for Windows が動作しなくなる可能性があります。

変更した設定は、初期化ファイルに変更を格納した後に SCMRF CD for Windows を起動するときに反映されます。SCMRF CD for Windows を起動中に変更しても、起動中の SCMRF CD for Windows にその設定は反映されません。

ログオンユーザ名の仮定値の設定

SCMRF CD for Windows またはユティリティにログオンするときに、ログオンダイアログのユーザ名の欄に、あらかじめユーザ名を表示するための設定です。
[Program Options] セクションに次に示す指定をします。

Logon_User=ログオンするユーザ名の仮定値

付録 D Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows からの移行

Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows のデータを SCMRF CD for Windows に移行する場合の注意事項について説明します。

定義データの移行

定義データを移行する場合、Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows でデータを転送ファイルにデータを搬出し、SCMRF CD for Windows で搬入します。

移行できない情報

次に示す情報は移行できません。SCMRF CD for Windows で設定し直してください。

- 登録したユーザ名、パスワード、およびユーザ権限
- 初期化ファイル の設定内容
- システム構成の設定内容

注 Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows の初期化ファイルは、SCMRF CD for Windows の初期化ファイルとはファイル名および設定内容が異なります。

付録 E メッセージ

SCMRF CD for Windows では、エラー番号付きのメッセージと、エラー番号のない、Access のランタイム版のメッセージが表示されます。ここでは、エラー番号付きのメッセージについて説明します。

付録 E.1 メッセージの表示形式

SCMRF CD for Windows のメッセージは、図 E-1 に示すメッセージボックスに表示されます。

図 E-1 メッセージボックス



シンボル

メッセージの種類を示すシンボルが表示されます。シンボルの種類を次に示します。



操作の情報を示します。



警告の情報を示します。



重大な障害を示します。

エラー番号

エラー種別と種別ごとの番号が表示されます。エラー種別を表 E-1 に示します。

表 E-1 エラー種別

種別	意味
A	操作を確認する質問形式のメッセージ。

種別	意味
C	処理の経過や終了などの情報を知らせるメッセージ。
E	定義内容の重要な誤りを知らせるメッセージ。このエラーがあると搬出できない。
W	定義内容の誤りを知らせるメッセージ。このエラーがあっても搬出できる。
I	データベースに格納できない定義内容の誤り、または操作誤りを知らせるメッセージ。
S	SCMRF CD for Windows の処理が続行できない重大なエラーを知らせるメッセージ。

メッセージテキスト

エラーの内容の説明が表示されます。

付録 E.2 メッセージの記述形式

メッセージを次の形式で説明します。

エラー番号

メッセージテキスト

要因

エラーの要因を説明します。

対処

エラーの対処を説明します。

メッセージの説明では、表 E-2 に示す記号を使用します。

表 E-2 メッセージの説明に使用する記号

記号	意味
{ }	{ }の中のどれか一つが表示される。
	{ }の中の選択肢の区切り。
[]	[]の中のメッセージテキストは表示される場合と表示されない場合がある。

また、メッセージの説明中のゴシック体で記載している文字は任意の値が表示されることを示します。

付録 E.3 メッセージの説明

エラー種別ごとにメッセージを説明します。

(1) エラー種別が A のメッセージ

A0001

実行中の処理をキャンセルしてもよろしいですか？

要因

実行中の処理について、キャンセル要求を受け付けました。

対処

[はい (Y)]: そのままキャンセルします。

[いいえ (N)]: キャンセル要求を取り消します。

A0002

{ 'ファイル名' | '絶対パスのファイル名' } は既に存在します。上書きしますか？

要因

指定したファイル名が同じフォルダに既に存在します。

対処

[はい (Y)]: 既存のファイルに上書きします。

[いいえ (N)]: 操作前に戻ります。

A0003

キー名 (キー名) の初期化ファイルへの書き込みに失敗しました。再度、書き込みしてもよろしいですか？

要因

次に示す要因があります。

- SCMRP CD for Windows の初期化ファイルを、テキストエディタなどの別のアプリケーションで使用しています。

対処

[はい (Y)]: もう一度書き込み処理を実行します。なお、エラーの要因を取り除いてからこのボタンを選択します。

[いいえ (N)]: 処理を中止します。

なお、次回プログラム起動前に書き込みに失敗したオプションを、テキストエディタなどで初期化ファイルに指定してください。

A0004

レコード件数件のレコードを削除します。よろしいですか？

要因

レコード件数で示される数のレコードを削除しようとした。

対処

[はい (Y)]: そのままレコードを削除します。

[いいえ (N)]: レコードの削除を取り消します。

A0005

レコード件数件のレコードを貼り付けます。よろしいですか？

要因

レコード件数で示される数のレコードを貼り付けしようとしてしました。

対処

[はい (Y)]: そのままレコードを貼り付けします。

[いいえ (N)]: レコードの貼り付けを取り消します。

A0006

プロセサ ' プロセサ名称 ' の {チャンネル | 入出力制御装置 | 入出力装置} のコメント番号 ' コメント番号 ' のコメントにラベル名称をコピーします。よろしいですか？

要因

指定したプロセサに対する、メッセージで示される構成のコメント番号のコメントに対して、ラベル名称をコピーしようとしてしました。

対処

[はい (Y)]: ラベル名称をコメントにコピーします。

[いいえ (N)]: ラベル名称のコピーを取り消します。

A0007

プロセサ ' プロセサ名称 ' の {チャンネル | 入出力制御装置 | 入出力装置} のコメント番号 ' コメント番号 ' のコメントには、すでにコメントがあります。上書きしてもよろしいですか？

要因

指定したプロセサに対する、メッセージで示される構成のコメント番号のコメントには、既にコメントがあります。

対処

[はい (Y)]: 上書きでコピーします。

[いいえ (N)]: コピーを取り消します。

A0008

プロセサ ' プロセサ名称 ' の {チャンネル | 入出力制御装置 | 入出力装置} のコメント番号 ' コメント番号 ' のコメントを削除します。よろしいですか？

要因

指定したプロセサに対する、メッセージで示される構成のコメント番号のコメントを削除しようとしてしました。

対処

[はい (Y)]: コメントを削除します。

[いいえ (N)]: コメントの削除を取り消します。

A0010

フォルダ名 ' フォルダ名 ' は存在しません。新しく作成しますか？

要因

フォルダ名で示すフォルダ名が存在しません。

対処

[はい (Y)]: 新しくフォルダを作成します。

[いいえ (N)]: 操作前に戻ります。

A1001

システム資源の不足により、関連するレコードの更新ができませんでした。

要因

メモリ不足など、システム資源が不足しているため、レコードの更新処理が実行できません。

対処

[再試行]: もう一度レコードの更新を実行します。別のアプリケーションを起動している場合は、起動中の別のアプリケーションをいったん終了してから、このボタンを選択してください。

[キャンセル]: レコードの更新を取り消します。この場合、レコードが正しく更新されていない可能性があります。アプリケーションを再起動してから、更新を取り消したレコードを削除して、もう一度登録し直してください。

A1002

エラーが発生している定義データがあります。定義内容を訂正する場合は [キャンセル] を応答してください。

要因

エラーが発生している定義データを修正しないで、ダイアログを閉じようとした。

対処

[OK]: ダイアログを閉じます。

[キャンセル]: ダイアログを閉じる操作を中止します。

A1003

処理の競合により、関連するレコードの更新ができませんでした。

要因

更新の必要なレコードがほかのウィンドウで編集中であるなど、処理が競合しているためレコードの更新処理が実行できません。

対処

[再試行]: もう一度レコードの更新を実行します。

[キャンセル]: レコードの更新を取り消します。この場合、レコードが正しく更新されていない可能性があります。アプリケーションを再起動してから、更新を取り消したレコードを削除して、もう一度登録し直してください。

A3001

指定した IOC 名称 'IOC 名称' は、{ACOD 定義 | ディレクタ定義} ウィンドウで {ACOD 名称 | DIR 名称 (DIR 種別)} として定義されています。この入出力制御装置を {ACOD | FBD} としてもよろしいですか？

要因

入出力制御装置に指定した IOC 名称が、ACOD 定義ウィンドウで ACOD 名称、又はディレクタ定義ウィンドウで DIR 名称 (DIR 種別) として定義されています。

対処

[はい (Y)]: 指定した入出力制御装置を ACOD、又は FBD にします。

[いいえ (N)]: 指定した入出力制御装置を ACOD、又は FBD にしません。定義済みの ACOD 名称、又は DIR 名称と重複しない名称を指定してください。

A3002

指定した IOC 名称 'IOC 名称' は、既に定義中の構成定義データ内のほかの入出力制御装置で定義しています。よろしいですか？

要因

入出力制御装置に指定した IOC 名称が、定義中の構成定義データ内のほかの入出力制御装置で既に定義されています。

対処

[はい (Y)]: 指定した IOC 名称で定義します。

[いいえ (N)]: 入出力制御装置定義を取り消します。定義済みの名称と重複しない名称を指定してください。

A3003

定義中の構成定義データ内のほかの入出力制御装置で、変更前の IOC 名称 'IOC 名称' と同じ名称を定義しているものがあります。ほかの入出力制御装置の名称を変更してもよろしいですか？

要因

定義中の構成定義データ内のほかの入出力制御装置で、同じ名称を定義している入出力制御装置の名称を変更しました。

対処

[はい (Y)]: 変更前の名称と同じ名称を定義しているほかの入出力制御装置について、指定された名称に変更します。

[いいえ (N)]: 変更前の名称と同じ名称を定義しているほかの入出力制御装置については、名称を変更しません。

A3004

ライブラリ装置記号名は、同じ PRMF 上のほかのゲスト OS でも定義する必要があります。ライブラリ装置記号名を定義しますか？

要因

同じ PRMF 構成上のほかのゲスト OS でライブラリ装置記号名を定義していない入出力制御装置に対して、ライブラリ装置記号名を指定しました。

対処

[はい (Y)]: ほかのゲスト OS にライブラリ装置記号名を定義します。

[いいえ (N)]: 入出力制御装置定義を取り消します。入出力制御装置の定義を見直してください。

A3005

指定した入出力制御装置は、同じ PRMF 上のほかのゲスト OS でライブラリ装置記号名を定義しています。ほかのゲスト OS で定義しているライブラリ装置記号名を削除してもよろしいですか？

要因

同じ PRMF 上のほかのゲスト OS でライブラリ装置記号名を定義している入出力制御装置に対して、ライブラリ装置記号名を指定していないか又はライブラリ装置記号名を削除しました。

対処

[はい (Y)]: ほかのゲスト OS で定義しているライブラリ装置記号名を削除します。

[いいえ (N)]: 入出力制御装置定義を取り消します。ライブラリ装置記号名を指定するか、入出力制御装置の定義を見直してください。

A4F01

定義内容の変更により、ゲスト OS の構成定義データでエラーとなる箇所があります。ゲスト OS の構成定義データを編集しますか？

要因

ゲスト OS で定義している入出力装置に対して、ゲスト OS の定義ではエラーとなるような変更をしました。

対処

[はい (Y)]: ゲスト OS の構成定義データを編集します。

[いいえ (N)]: 入出力装置定義の更新を取り消します。

A5001

TYPE フィールドに ES 又は PREST を指定したとき、デバイス番号は指定できません。デバイス番号を削除しますか？

要因

デバイス番号が指定できない装置グループ定義で、デバイス番号を指定しています。

対処

[はい (Y)]: デバイス番号を削除して指定します。

[いいえ (N)]: 指定を中止します。

A7001

指定した { ACOD 経路 | ディレクタ経路 } を変更すると、ほかのチャンネルパスで { ACOD 経路 | ディレクタ経路 } が変更されるものがあります。よろしいですか？

要因

次に示す要因があります。

- 多段接続の変更時、1 段目の OUT フィールドに同じポートアドレスが指定されているチャンネルパスがあります。
- CNC - CTC 接続時、対応する相手側チャンネルパスの ACOD 経路が定義されています。
- FC - CTC 接続時、対応する相手側チャンネルパスのディレクタ経路が定義されています。

対処

[はい (Y)]: ACOD 経路定義、又はディレクタ経路定義を更新します。

[いいえ (N)]: ACOD 経路定義、又はディレクタ経路定義の更新を取り消します。

A7002

指定した ACOD 名称と接続属性では、接続定義ウィンドウで定義したリンクアドレスが無効となります。よろしいですか？

要因

接続定義ウィンドウで動的接続する ACOD を指定したチャンネルに対して、その ACOD と動的接続ができない ACOD 経路を定義しました。

対処

[はい (Y)]: ACOD 経路定義を更新します。

[いいえ (N)]: ACOD 経路定義の更新を取り消します。

A8001

指定した { ACOD 名称 | DIR 名称 } と同じ名称の入出力制御装置が存在します。次に示す入出力制御装置を { ACOD | FBD } としてもよろしいですか？

プロセサ名称 / 制御装置番号 (IOC 名称) ...

要因

ACOD, 又は FBD に対して指定した名称と同じ名称の入出力制御装置を定義しています。

対処

[はい (Y)]: 同じ名称の入出力制御装置を ACOD, 又は FBD にします。

[いいえ (N)]: 同じ名称の入出力制御装置を ACOD, 又は FBD にしません。定義済みの IOC 名称と重複しない ACOD 名称, 又は DIR 名称を指定してください。

A9001

選択した構成定義データは既にデータベース中に存在します。搬入の対象として選択しますか？

要因

搬入の対象として選択したデータが既にデータベース中に存在します。

対処

[はい (Y)]: 搬入の対象にします。

[いいえ (N)]: 搬入の対象にしないで, 選択を取り消します。

A9002

{ 搬入 | 搬出 | ゼネレーションパラメタ生成 } を実行していません。ウィンドウを閉じますか？

要因

搬入, 搬出, 及びゼネレーションパラメタ生成の対象を選択しましたが, 実行をしないでウィンドウを閉じようとしてしました。

対処

[はい (Y)]: そのままウィンドウを閉じます。

[いいえ (N)]: ウィンドウを閉じる操作を中止します。

A9003

選択したデータは既にデータベース中に存在します。上書きしてもよろしいですか？

要因

搬入の対象として選択したデータが既にデータベース中に存在します。

対処

[はい (Y)]: 上書きで搬入します。

[いいえ (N)]: 対象データの搬入を中止します。ほかに搬入していないデータがある場合, 次に搬入するデータの搬入実行ダイアログが表示されます。

A9004

ACOD 経路の生成を完了しました。エラー経路数 = m / n

要因

ACOD 構成定義データの搬入で、ACOD 経路の生成が完了しました。

m : エラーがあった ACOD 経路の数。エラーなしの場合は 0。

n : 生成した ACOD 経路のすべての数。

対処

[続行 (G)] : 搬入処理を続けます。

[詳細 (D)] : ACOD 経路生成結果表示ダイアログを開きます。

A9005

システム構成の設定と一致しないデータがあります。システム構成の設定内容に基づいたチェックをするため、定義データにエラーが表示されることがあります。

要因

搬入する構成定義データにシステム構成の設定と一致しない内容があります。

対処

[続行 (G)] : 搬入処理を続けます。

[詳細 (D)] : 不一致データ一覧表示 (システム構成) ダイアログを開きます。

[中止 (A)] : 対象構成定義データの搬入処理を中止します。

A9006

ACOD 経路生成結果表示ウィンドウを表示していると、ACOD 構成定義データの搬入が実行できません。ウィンドウを閉じて実行しますか？

要因

ACOD 構成定義データの搬入時に ACOD 経路を生成するため、以前の生成時に表示した ACOD 経路生成結果のレポートが無効になります。

対処

[はい (Y)] : ACOD 経路生成結果表示ウィンドウを閉じます。

[いいえ (N)] : ACOD 構成定義データの搬入を中止して、搬入ウィンドウに戻ります。

A9007

構成定義データに含まれる ACOD のうち、データベースで定義している内容と一致しないものがあります。データベースの定義内容によりチェックを実行するため、定義データにエラーが表示されることがあります。

要因

搬入する構成定義データに、データベースで定義している ACOD が含まれていますが、データベースの定義と一致しない内容があります。

対処

- [続行 (G)]: 搬入処理を続けます。
- [詳細 (D)]: 不一致データ一覧表示 (ACOD) ダイアログを開きます。
- [中止 (A)]: 対象構成定義データの搬入処理を中止します。

A9008

次に示す構成定義データのファイル名は、フォルダ名 'フォルダ名' に既に存在します。上書きしますか？

構成定義データ：構成定義データ...

要因

指定したファイル名が、フォルダ名で示すフォルダに既に存在します。

対処

- [はい (Y)]: 既存のファイルに上書きします。
- [いいえ (N)]: 操作前に戻ります。

A9101

選択した構成定義データはエラーチェックを実行していません。構成定義データのエラーチェックを実行しますか？

要因

搬出及びゼネレーションパラメタ生成の対象として選択した構成定義データはエラーチェックを実行していません。

対処

- [はい (Y)]: 構成定義データのエラーチェックを実行します。
- [いいえ (N)]: 搬出及びゼネレーションパラメタ生成の対象にしないで、選択を取り消します。

A9102

{ 構成定義データチェック | ストージ計算 } 結果表示 ({ 入出力構成定義データ | ACOD 構成定義データ | V = R ニュークリアス領域 - 入出力構成情報部分 }) ウィンドウを表示していると、選択した { 入出力構成定義データ | ACOD 構成定義データ | ストージ } の { チェック | 計算 } 結果を表示できません。ウィンドウを閉じてよろしいですか？

要因

{ 構成定義データチェック | ストージ計算 } 結果表示ウィンドウを表示した状態で、{ 構成定義データチェックダイアログ | ストージ計算 } から { エラーチェック 又は チェック | ストージ計算 } 結果表示を実行しました。

対処

- [はい (Y)]: { 構成定義データチェック | ストージ計算 } 結果表示ウィンドウを閉じます。
- [いいえ (N)]: { 構成定義データチェック | ストージ計算 } 結果表示ウィンドウの

表示を中止します。

A9201

‘ プロセッサ名称 ’ の不整合エラー情報をクリアしますか？

要因

PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報を削除します。

対処

[はい (Y)]: 不整合エラー情報を削除します。

[いいえ (N)]: 削除を取り消します。

A9203

システム構成に設定していない { 物理プロセッサ名称 | 物理 CPU 名称 } を指定しています。指定した { 物理プロセッサ名称 | 物理 CPU 名称 } で { PRMF 構成 | 物理 CPU 構成 } を生成しますか？

要因

次に示す要因があります。

- システム構成に設定していない物理プロセッサ名称を指定しています。指定した物理プロセッサ名称から PRMF 構成を生成します。
- システム構成に設定していない物理 CPU 名称を指定しています。指定した物理 CPU 名称から物理 CPU 構成を生成します。

対処

[はい (Y)]: 指定した物理プロセッサ名称又は物理 CPU 名称で新規に PRMF 構成又は物理 CPU 構成を生成します。

[いいえ (N)]: ゲスト OS への変更又は I/O グループへの変更を中止します。

A9204

ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウを表示していると、ゲスト OS への搬入が実行できません。ウィンドウを閉じて実行しますか？

要因

ゲスト OS の搬入時に不整合が発生した場合、不整合データを生成するため、以前のゲスト OS への搬入時に生成されたゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウのレポートが無効になります。

対処

[はい (Y)]: ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウを閉じます。

[いいえ (N)]: ゲスト OS への搬入を中止します。

A9205

PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウを表示していると、ゲスト OS への変更に関する操作が実行できません。ウィンドウを閉じて実行しますか？

要因

次に示す操作では、不整合エラーが表示される場合があるため、PRMF とゲスト OS との不整合情報表示ウィンドウを表示している状態では実行できません。

- ベーシックモードのプロセサの入出力構成のゲスト OS への変更
- ベーシックモードのプロセサの入出力構成と PRMF 構成との整合チェック

対処

[はい (Y)]: 表示しているウィンドウを閉じて、操作を実行します。

[いいえ (N)]: 表示しているウィンドウを閉じないで、操作を中止します。

A9206

{ ACOD 経路 | ディレクタ経路 } 不整合エラー情報表示ウィンドウを表示していると、この操作を実行できません。ウィンドウを閉じて実行しますか？

要因

次に示す操作では、ACOD 経路、又はディレクタ経路の不整合エラーが表示される場合があるため、ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ、又はディレクタ経路不整合エラー情報表示ウィンドウを表示している状態では実行できません。

- 入出力構成定義データ (ゲスト OS) の搬入
- ベーシックモードのプロセサの入出力構成のゲスト OS への変更
- ベーシックモードのプロセサの入出力構成と PRMF 構成との整合チェック

対処

[はい (Y)]: 表示しているウィンドウを閉じて、操作を実行します。

[いいえ (N)]: 表示しているウィンドウを閉じないで、操作を中止します。

A9501

既に比較対象を選択した状態でオリジナルのデータベースを変更しようとしています。変更してもよろしいですか？

要因

比較の対象を選択した状態で、オリジナルデータベースを変更しようとしてしました。

対処

[はい (Y)]: オリジナルのデータベースを変更します。

[いいえ (N)]: 操作前に戻ります。

A9502

比較対象として同一の構成定義データを指定しているものがあります。構成定義データの比較を実行しますか？

要因

比較対象として選択したものに、同一の構成定義データを指定しているものがあります。

対処

[はい (Y)]: 構成定義データの比較を実行します。

[いいえ (N)]: 操作前に戻ります。

AA001

‘ ユーザ名 ’ を削除してもよろしいですか？

要因

ユーザ名を削除しようとしています。

対処

[OK]: 選択したユーザを削除します。

[キャンセル]: 削除を取り消します。

AA002

‘ ユーザ名 ’ の権限が変更されています。権限を変更しますか？

要因

ユーザ権限を変更しようとしています。

対処

[はい (Y)]: 権限を変更して次の処理に移ります。

[いいえ (N)]: 権限の変更をしないで次の処理へ移ります。

AA003

変換先データベースとして変換元データベースと同じデータベースを指定しました。変換処理中に障害が発生した場合、データベースが破壊される可能性があります。変換しますか？

要因

変換先データベースとして変換元データベースと同じデータベースを指定しました。

対処

[はい (Y)]: データベース変換処理を続けます。

[いいえ (N)]: データベース変換処理を中止します。

AC001

定義内容を変更した後にゼネレーションパラメタ生成を実行していない構成定義データがあります。ベースシステムを切り替えてもよろしいですか？

{ プロセサ名称 | ACOD } 更新：更新日時，ゼネレーションパラメタ生成：生成日時

要因

定義内容を変更した後にゼネレーションパラメタ生成を実行していない構成定義データがある状態で，ベースシステムを切り替えようとしています。

対処

[はい (Y)]: ベースシステム情報を更新します。

[いいえ (N)]: ベースシステム情報の切り替え処理を中止します。ゼネレーションパラメタ生成を実行した後で，もう一度実行してください。

注 ゼネレーションパラメタ生成を実行していないときは，生成日時は空白になります。

AC002

ACONARC 装備のプロセサが 1 台も存在しなくなるため，{ ACOD | ディレクタ } 及び ACONARC 制御機能の定義内容を削除します。よろしいですか？

要因

ACONARC 装備のプロセサが 1 台も存在しなくなりました。

対処

[はい (Y)]: 削除します。

[いいえ (N)]: 削除しないで，プロセサの削除及び ACONARC 装備の変更を取り消します。

AC003

次に示すフィールドの内容が変更されたため，構成定義データのシンタクスチェック条件が変更されます。シンタクスチェック条件が変更されると，データの一部が削除される可能性があります。よろしいですか？

フィールド名：フィールド名...

要因

構成定義データのシンタクスチェック条件に関するフィールドの設定が変更されました。

対処

[はい (Y)]: 構成定義データのシンタクスチェック条件を変更します。

[いいえ (N)]: 設定の変更を取り消します。

AC004

オプションの内容が変更されたため、構成定義データのシンタクスチェック条件が変更されます。

よろしいですか？

要因

構成定義データのシンタクスチェック条件に関するフィールドの設定が変更されました。

対処

[はい (Y)]: 構成定義データのシンタクスチェック条件を変更します。

[いいえ (N)]: 設定の変更を取り消します。

AC005

ACONARC 制御機能の定義内容を削除します。よろしいですか？

要因

ACONARC 制御機能の定義内容がありますが、ACONARC 制御機能を使用しない設定にしようとしています。

対処

[はい (Y)]: ACONARC 制御機能の定義内容を削除します。

[いいえ (N)]: 削除しないで、ACONARC 制御機能を使用しない設定を取り消します。

AC006

プロセサ ' プロセサ名称 ' の変更記録をクリアします。よろしいですか？

要因

指定したプロセサの変更記録をクリアしようとしています。

対処

[はい (Y)]: 変更記録をクリアします。

[いいえ (N)]: 変更記録をクリアしないでダイアログを閉じます。

AC007

{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } の変更記録をクリアします。よろしいですか？

要因

指定した ACOD , 又はディレクタの変更記録をクリアしようとしています。

対処

[はい (Y)]: 変更記録をクリアします。

[いいえ (N)]: 変更記録をクリアしないでダイアログを閉じます。

AC008

すべての { プロセサ | ACOD | ディレクタ } の変更記録をクリアします。よろしいですか？

要因

すべてのプロセサ, ACOD, 又はディレクタの変更記録をクリアしようとしています。

対処

[はい (Y)]: 変更記録をクリアします。

[いいえ (N)]: 変更記録をクリアしないでダイアログを閉じます。

AC009

ACONARC 装備のプロセサがなくなるため, ACONARC 制御機能の定義内容を削除します。よろしいですか？

要因

ACONARC 制御機能の定義には ACONARC 装備のプロセサが必要ですが, ACONARC 装備のプロセサが存在しなくなります。

対処

[はい (Y)]: ACONARC 制御機能の定義内容を削除します。

[いいえ (N)]: システム構成の設定変更を取り消します。

ACF01

指定した PRMF 構成定義データに ACONARC 非装備では定義できないデータがあります。これらの定義データが削除されます。よろしいですか？

定義データ: 構成定義データ種別...

要因

ACONARC 装備に設定されている PRMF 構成に対して, ACONARC 非装備を設定しました。この PRMF 構成には ACONARC 非装備では定義できないデータが含まれています。

対処

[はい (Y)]: 定義データを削除します。

[いいえ (N)]: システム構成の変更を取り消します。

AF201

すべての LPAR への割り当てを指定しているチャンネルについて, 特定の LPAR への割り当てを変更します。よろしいですか？

チャンネル: チャンネルパス ID...

要因

すべての LPAR への割り当てを指定したチャンネルに対して, 特定の LPAR への割り

当てを解除するか、又は割り当て方法を変更しようとしてしました。

対処

[はい (Y)]: LPAR へのチャネル割り当ての指定を変更します。

[いいえ (N)]: LPAR へのチャネル割り当ての指定の変更を取り消します。

AF401

すべての LPAR への割り当てを指定している入出力装置について、特定の LPAR を割り当てる指定に変更します。よろしいですか？

入出力装置：デバイス番号（管理名称）...

要因

すべての LPAR への割り当てを指定した入出力装置に対して、特定の LPAR に対して割り当ての指定を解除しようとしてしました。

対処

[はい (Y)]: 割り当てを指定する LPAR を変更します。

[いいえ (N)]: 割り当てを指定する LPAR の変更を取り消します。

(2) エラー種別が C のメッセージ

C0001

シンタクスチェック条件の変更により、エラーとなる定義データがありました。

要因

構成定義データのシンタクスチェック条件が変更となり、エラーとなる構成定義データがあります。

対処

エラーとなった構成定義データを修正してください。

C0002

処理を終了しました。

要因

実行中の処理を終了しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C0003

シンタクスチェック条件の変更により、次に示す定義データが削除されました。

ウィンドウ名 / フィールド名...

要因

構成定義データのシンタクスチェック条件が変更となり、削除された構成定義データがあります。
 CPU モデルが S820 又は S3600 のプロセサの構成定義データを搬入し、
 UNITNAME マクロの ES=YES の装置グループが削除された場合、ウィンドウ名 /
 フィールド名を ' 装置グループ定義 / ES ' として表示します。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C0004

プロセサ ' プロセサ名称 ' で選択したすべてのマクロ・定義文に、ラベル名称はありません。

要因

選択したすべてのマクロ・定義文で、ラベル名称が一つも定義されていません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C0005

プロセサ ' プロセサ名称 ' の { チャンネル | 入出力制御装置 | 入出力装置 } のラベル名称はありません。

要因

表示中の定義ウィンドウで選択しているプロセサでは、定義データに対応するラベル名称が一つも定義されていません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C0006

' 情報種別 ' をファイルに出力しました。

要因

' 情報種別 ' で示される各種情報をファイルに出力しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C0007

プロセサ ' プロセサ名称 ' で選択したマクロ・定義文のうち、ラベル名称のないマクロ・定義文があります。

マクロ・定義文: マクロ・定義文...

要因

選択したマクロ・定義文のうち、ラベル名称が一つも定義されていないマクロ・定義文がありました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C1001

ゲスト OS では定義されていません。

要因

選択された構成定義データは、ゲスト OS では定義されていません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C9002

搬入実行処理を終了します。

要因

搬入対象として選択したデータの搬入実行処理を終了します。

対処

[OK]: 搬入ウィンドウに戻ります。

C9003

{ ' プロセサ名称 ' の { 入出力構成定義データ | PRMF 構成定義データ } | ACOD 構成定義データ } の搬入処理が完了しました。

要因

処理中のデータの搬入が完了しました。

対処

[OK]: 次の搬入対象のデータの搬入をするか、又は最後の搬入対象のデータが完了したならば搬入処理を終了します。

C9005

{ 搬出 | ゼネレーションパラメタ生成 | 構成定義データの比較 } 実行処理を終了します。

要因

搬出、ゼネレーションパラメタ生成又は構成定義データの比較対象として選択したデータの実行処理を終了します。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C9006

対象構成定義データの搬出処理が完了しました。

要因

処理中のデータの搬出が完了しました。

対処

[OK]: 搬出処理を終了します。

C9008

' プロセサ名称 ' の構成定義データが不当にデータベース中に残っています。いったん削除してから搬入を開始します。

要因

搬入対象となっている構成定義データがデータベース上にないことになっていますが、データベース中に不当にデータが残っています。

対処

[OK]: 不当に残っているデータを削除して、搬入を開始します。

C9009

次に示す構成定義データのファイルを開くことができませんでした。

構成定義データ：構成定義データ...

要因

次に示す要因があります。

- 出力したファイルに拡張子がついていない。
- 出力したファイルの拡張子に関連づけているアプリケーションが存在しない。

対処

ファイルの拡張子を見直してください。

C9101

構成定義データにエラーはありませんでした。

要因

構成定義データのエラーチェックを実行した結果、エラーはありませんでした。

対処

[OK]: 選択した構成定義データを搬出対象にして、搬出ウィンドウに戻ります。

C9102

選択した { 入出力構成定義データ | ACOD 構成定義データ } にエラーはありませんでした。

要因

構成定義データチェックダイアログで選択した入出力構成定義データ (PRMF 構成定義データ) 又は ACOD 構成定義データにはエラーがありません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C9202

不整合エラーが発生しました。エラー情報を確認してください。

要因

ゲスト OS への変更時に PRMF とゲスト OS との間で不整合エラーがありました。

対処

[OK]: 処理を中止します。エラー内容はゲスト OS への変更チェックダイアログからエラー情報を確認してください。

C9203

不整合エラーはありませんでした。

要因

ゲスト OS への変更チェックを実行した結果、不整合エラーはありませんでした。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C9204

{ ' プロセサ名称 ' | ' 物理プロセサ名称 ' } を { ゲスト OS | I/O グループ } に変更しました。

要因

ゲスト OS への変更又は I/O グループへの変更を完了しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

C9205

CPU モデル又は ACONARC 装備・非装備又はシNTAXスレベルの設定が異なるため変更できません。

要因

次に示す要因があります。

- ゲスト OS への変更で、変更プロセサと変更先 PRMF 構成の CPU モデル又は ACONARC 装備・非装備の設定が異なるため、ゲスト OS への変更は実行できません。
- I/O グループへの変更で、変更する物理プロセサと変更先物理 CPU 構成の CPU モデル、ACONARC 装備・非装備又はシNTAXスレベルの設定が異なるため、I/O グループへの変更は実行できません。

対処

シNTAXス構成の設定ウィンドウで、CPU モデル、ACONARC 装備・非装備及びシNTAXスレベルの設定を一致させてください。

C9206

選択した { プロセサ | 物理プロセサ } の CPU モデル又はシNTAXレベルは、{ PRMF 構成 | 物理 CPU 構成 } で指定できません。

要因

次に示す要因があります。

- ゲスト OS への変更を実行するプロセサには、PRMF 構成では指定できない CPU モデルが指定されています。
- I/O グループへの変更を実行するプロセサには、物理 CPU 構成では指定できない CPU モデル又はシNTAXレベルが指定されています。

対処

ゲスト OS への変更時

PRMF 構成で指定できる CPU モデルのプロセサを選択してください。

I/O グループへの変更時

物理 CPU 構成で指定できる CPU モデル及びシNTAXレベルの物理プロセサを選択してください。

C9207

{ ACOD 経路 | ディレクタ経路 } にて不整合エラーが発生しました。エラー情報を表示し、後続の搬入処理をすべて中止します。

要因

ゲスト OS への ACOD 経路情報、又はディレクタ経路情報の搬入時に実施された、整合性チェックで不整合エラーが発生しました。

対処

[OK]: ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ、又はディレクタ経路不整合エラー情報表示ウィンドウを表示します。

C9208

{ ACOD 経路 | ディレクタ経路 } にて不整合エラーが発生しました。エラー情報を表示します。

要因

PRMF とゲスト OS 間の ACOD 経路、又はディレクタ経路の整合性チェックで不整合エラーとなる経路が見付かりました。

対処

[OK]: ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ、又はディレクタ経路不整合エラー情報表示ウィンドウを表示します。

C9209

入出力構成定義にて不整合エラーが発生しました。エラー情報を表示し、以降の搬入処理をすべて中止します。

要因

PRMF とゲスト OS との入出力構成定義の整合性チェックで不整合エラーが発生しました。

対処

[OK]: ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウを表示し、以降の搬入処理をすべて中止します。

C9210

入出力構成定義にて不整合エラーが発生しました。エラー情報を表示します。

要因

PRMF とゲスト OS との入出力構成定義の整合性チェックで不整合エラーが発生しました。

対処

[OK]: PRMF とゲスト OS との不整合一覧表示ウィンドウを表示する。

C9211

I/O グループへの変更時、エラーとなる定義データがありました。

要因

物理プロセッサを I/O グループに変更時、I/O グループ間の整合性チェックでエラーが発生しました。

対処

エラー情報を確認し、I/O グループの定義内容を修正してください。

C9301

搬入データ中に { ACOD | ディレクタ } に対する入出力制御装置が定義されています。{ ACOD 名称 | ディレクタ名称 } 指定ダイアログで { ACOD 名称 | DIR 名称 } を指定してください。

要因

搬入データ中に ACOD, 又は FBD に対する入出力制御装置が定義されています。

対処

[OK]: ACOD 名称指定ダイアログで ACOD 名称, 又はディレクタ名称指定ダイアログで DIR 名称を指定します。

C9302

指定した { ACOD 名称 | DIR 名称 } は , { ACOD | ディレクタ } 以外の IOC 名称と重複しています。

{ ACOD | ディレクタ } : { ACOD 名称 | DIR 名称 }

要因

指定した ACOD 名称 , 又は DIR 名称は , 定義内容又は搬入データ中の ACOD , 又はディレクタ以外の IOC 名称と重複しています。

対処

再度表示される ACOD 名称指定ダイアログで ACOD 名称 , 又はディレクタ名称指定ダイアログで DIR 名称を変更してください。

CA001

データベースは最適化されました。

要因

データベースの最適化が正常終了しました。

対処

[OK] : メインウィンドウに戻ります。

CA002

ユーザ名 ' ユーザ名 ' を登録しました。

要因

ユーザ名の新規登録が正常終了しました。

対処

[OK] : 新規登録 / 削除ダイアログに戻ります。

CA003

データベース ' データベースファイル名 ' を作成しました。

要因

データベースの作成が正常終了しました。

対処

[OK] : メインウィンドウに戻ります。

CA004

次回構成定義の起動時に開くデータベースとして ' データベースファイル名 ' を選択しました。

要因

データベースの選択が正常終了しました。

対処

[OK]: メインウィンドウに戻ります。

CA005

データベースは修復されました。

要因

データベースの修復が正常終了しました。

対処

[OK]: メインウィンドウに戻ります。

CA006

データベース ' データベースファイル名 ' の変換が終了しました。

要因

データベースの変換が正常終了しました。

対処

[OK]: メインウィンドウに戻ります。

CC001

プロセサ ' プロセサ名称 ' の ' 種別 ' の構成定義情報はありません。

要因

指定したプロセサに対する、種別で示される構成が定義されていません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC002

{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } の ' 種別 ' の構成定義情報はありません。

要因

指定した ACOD, 又はディレクタに対する、種別で示される構成が定義されていません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC003

プロセサ ' プロセサ名称 ' の ' 種別 ' の変更記録はありません。

要因

指定したプロセサに対する、種別で示される変更記録がありません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC004

{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 '} の ' 種別 ' の変更記録はありません。

要因

指定した ACOD , 又はディレクタに対する , 種別で示される変更記録がありません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC005

構成定義表示 (種別) をファイルに出力しました。

要因

種別で示される構成定義の表示をファイルに出力しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC006

変更記録表示 (種別) をファイルに出力しました。

要因

種別で示される変更記録の表示をファイルに出力しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC007

プロセサ ' プロセサ名称 ' の変更記録をクリアしました。

要因

指定したプロセサの変更記録をクリアしました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC008

{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 '} の変更記録をクリアしました。

要因

指定した ACOD , 又はディレクタの変更記録をクリアしました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC009

プロセサ ' プロセサ名称 ' の変更記録をクリアできませんでした。

要因

指定したプロセサの変更記録をクリア中に障害が発生しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。保守員に連絡してください。

CC010

{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } の変更記録をクリアできませんでした。

要因

指定した ACOD , 又はディレクタの変更記録をクリア中に障害が発生しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。保守員に連絡してください。

CC011

プロセサ ' プロセサ名称 ' の変更記録はありませんでした。

要因

指定したプロセサの変更記録がありません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC012

{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } の変更記録はありませんでした。

要因

指定した ACOD , 又はディレクタの変更記録がありません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC013

すべての { プロセサ | ACOD | ディレクタ } の変更記録をクリアしました。

要因

すべてのプロセサ , ACOD , 又はディレクタの変更記録をクリアしました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC014

すべての { プロセサ | ACOD | ディレクタ } の変更記録はありませんでした。

要因

すべてのプロセサ, ACOD, 又はディレクタの変更記録が全くありません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC015

プロセサ ' プロセサ名称 ' の ' 種別 ' のコメント情報はなりません。

要因

指定したプロセサに対する, 種別で示されるコメント情報がありません。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC016

コメント表示 (種別) をファイルに出力しました。

要因

種別で示されるコメント情報の表示をファイルに出力しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC017

ベースシステムを切り替えました。

要因

ベースシステム情報を正しく更新しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CC018

ファイル転送が完了しました。

要因

ファイルの転送処理が正常に終了しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

CF201

選択された { チャンネル | LPAR } のうち、割り当てを指定できないものがありました。

要因

割り当てを指定するチャンネル又は LPAR として複数の項目を選択しましたが、次に示すどれかの要因のため、割り当てることができないチャンネル又は LPAR があります。

- LPAR に専用属性のチャンネルを割り当てようとしたのですが、指定したチャンネルは既にほかの LPAR に割り当てられています。
- チャンネルを割り当てようとした LPAR には、指定したチャンネルと EXPATH 定義したほかのチャンネルが既に割り当てられています。

対処

割り当てを指定できなかった項目を見直してください。なお、項目を一つずつ選択して割り当てを指定すると、より詳細なエラーメッセージが表示されます。

CF401

選択された { 入出力装置 | LPAR } のうち、削除できないものがありました。

要因

削除する入出力装置又は LPAR として複数の項目を選択しましたが、入出力装置を割り当てる指定をした LPAR が一つもなくなるため、削除できないものがありました。

対処

削除できなかった項目を見直してください。なお、項目を一つずつ選択して割り当てを指定すると、より詳細なエラーメッセージが表示されます。

(3) エラー種別が E のメッセージ

E0001

'フィールド名' には次に示す範囲内の 10 進数字を指定してください。'最小値 - 最大値'

要因

フィールドに指定できない値を指定しました。

対処

メッセージで示す範囲内の 10 進数字を指定してください。

E0002

'フィールド名' には次に示す範囲内の 16 進数字を指定してください。'最小値 - 最大値'

要因

フィールドに指定できない値を指定しました。

対処

メッセージで示す範囲内の 16 進数字を指定してください。

E0003

指定した 'フィールド名' は、既に定義されています。

要因

既に定義されている値を指定しました。

対処

値が重複しないように定義してください。

E0004

指定した装置記号名は、既に定義されています。

要因

次のどれかで定義済みの装置記号名を指定しました。

- 入出力制御装置定義のライブラリ装置記号名
- 入出力装置定義の装置記号名

対処

名称が重複しないように定義してください。

E0005

指定した '値' は、装置記号名又は装置グループ名として使用できません。

要因

装置記号名又は装置グループ名として、システムで使用を禁止している名称を指定しています。装置記号名又は装置グループ名として使用できない名称については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

装置記号名又は装置グループ名を変更してください。

E0006

16 進数字を指定してください。

要因

16 進数字ではない値を指定しました。

対処

16 進数字を指定してください。

E0007

8 文字以内の英字で始まる英数字を指定してください。

要因

8 文字より多い英数字，又は英字以外で始まる英数字を指定しました。

対処

8 文字以内の英字で始まる英数字を指定してください。

E0008

'フィールド名' は 3 けたの英数字を指定してください。

要因

3 けたの英数字以外の文字列を指定しました。

対処

3 けたの英数字を指定してください。

E0009

'フィールド名' は文字数文字以内の英数字を指定してください。

要因

文字数文字より多い英数字，又は英数字以外の文字列を指定しました。

対処

文字数文字以内の英数字を指定してください。

E0010

情報識別子は，4 けたの英数字で指定してください。

要因

情報識別子が，4 けたの英数字で指定されていません。

対処

指定した情報識別子を見直して，正しい値を指定してください。

E0011

'フィールド名' はバイト数以内で指定してください。

要因

指定可能なバイト数を超えるデータを指定しました。

対処

バイト数以内のデータを指定してください。

E0012

'フィールド名' の '値' は指定できません。

要因

フィールド名で示されるフィールドの値として，指定しているシンタクス条件では定義できない値が指定されています。

対処

フィールド名で示されるフィールドの値を見直してください。

E0013

'フィールド名'の中に全角文字が含まれています。

要因

'フィールド名'で示されるフィールドに全角文字が含まれています。

対処

'フィールド名'で示されるフィールドの値を見直してください。

E0014

'フィールド名'の内容は不正です。

要因

テキスト形式のデータを指定するフィールドに、テキスト形式以外のデータを指定しました。

対処

'フィールド名'で示すフィールドの内容を見直してください。

E1001

'フィールド名'の変更により、エラーとなる定義データがありました。

要因

'フィールド名'で示されるフィールドが変更されて、エラーとなる構成定義データがあります。

対処

エラーとなった構成定義データを修正してください。

E1501

装置グループ定義で定義している装置グループ名で、生成した { 装置記号名又は装置タイプ | ライブラリ装置記号名 } と名称が重複するものがあります。

要因

装置グループ名で指定している名称と同じ名称の装置記号名、装置タイプ、又はライブラリ装置記号名が生成されます。

対処

名称が重複しないように定義してください。

E1502

装置タイプ定義で定義している装置タイプのうち、入出力装置定義で生成されなくなるものがあります。

要因

削除又は変更する入出力装置から生成される装置タイプを、装置タイプ定義ウィンドウで定義しています。

対処

必要な装置タイプであれば、指定した装置タイプが生成される入出力装置を定義してください。

E1503

装置グループ定義で定義している入出力装置のうち、存在しなくなるものがあります。

要因

変更又は削除によって存在しなくなったデバイス番号を、装置グループ定義ウィンドウで指定しています。

対処

装置グループの定義を見直してください。また、必要なデバイス番号であれば入出力装置定義ウィンドウで入出力装置をもう一度定義してください。

E1504

装置グループ定義で定義している装置グループ内で、拡張記憶装置とそれ以外の装置が混在しています。

要因

装置グループ定義ウィンドウで、拡張記憶装置とそれ以外の入出力装置が混在します。

対処

装置グループを見直してください。また、装置グループの定義を変更しない場合は、入出力装置をもう一度定義するか、又は変更を元に戻してください。

E1505

仮想データセットを割り当てるための装置グループのうち、ディスク装置のデバイス番号が一つも存在しなくなるものがあります。

要因

デバイス番号又は生成される装置タイプの変更によって、ディスク装置の必要な装置グループからディスク装置がなくなります。

対処

装置グループを見直すか、又はデバイス番号又は生成される装置タイプの変更を元に戻してください。

E1507

ゲスト OS の装置グループ定義で、重要エラーが発生します。

プロセサ：プロセサ名称...

要因

次に示す要因によって、対応するゲスト OS の装置グループ定義で重要エラーが発生します。

- 装置グループ名称と同一のライブラリ装置記号名が指定されました。
- 装置数の増加によって、定義済みの装置グループ名称と同一の装置記号名が生成されました。
- 装置グループ定義で定義しているデバイス番号が、デバイス番号の変更又は削除などによって存在しなくなりました。
- 装置形式の変更によって、装置グループ内で拡張記憶装置とそれ以外の装置が混在します。
- 装置形式の変更によって、仮想データセットを割り当てるための装置グループでディスク装置が存在しなくなりました。

対処

ゲスト OS の装置グループ定義を見直してください。また、装置グループの定義内容を変更しない場合は、入出力制御装置のライブラリ装置記号名又は入出力装置を変更前の状態で再度定義してください。

E1601

指定したチャンネルに接続している入出力制御装置のうち、制御装置アドレスの重複するものがあります。

要因

接続定義ウィンドウで、制御装置アドレスの重複エラーとなる入出力制御装置があります。

対処

チャンネルタイプ、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E1602

指定したチャンネルに接続している入出力制御装置のうち、装置アドレスの重複するものがあります。

要因

接続定義ウィンドウで、装置アドレスの重複エラーとなる入出力制御装置があります。

対処

チャンネルタイプ、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E1603

指定したチャンネルに接続している入出力制御装置又は入出力装置のうち、接続するチャンネルの {チャンネルタイプ | チャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性} が統一されないものがあります。

要因

指定したチャンネルのチャンネルタイプ（PRMF を使用する場合、チャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性）では、同じ入出力制御装置又は入出力装置に接続しているほかのチャンネルのチャンネルタイプ（チャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性）と統一されません。

対処

指定したチャンネル又は接続の定義内容を見直してください。

E1604

指定した入出力制御装置に接続している入出力装置のうち、接続する制御装置タイプ及びインタフェースモードが統一されないものがあります。

要因

指定した入出力制御装置では、同じ入出力装置に接続しているほかの入出力制御装置の制御装置タイプ及びインタフェースモードと統一されません。

対処

制御装置タイプ及びインタフェースモードを変更するか、又は入出力装置の接続を見直してください。

E1901

{ ACOD 経路 | ディレクタ経路 } 定義以外の構成定義で、重要エラーが発生しています。

要因

ACOD 経路定義ウィンドウ、又はディレクタ経路定義ウィンドウ以外の構成定義ウィンドウで、重要エラーがあります。

対処

重要エラーになっている定義内容を確認してください。

E1902

{ ACOD | ディレクタ } 構成定義又はプロセサの { ACOD 経路 | ディレクタ経路 } 定義で、重要エラーが発生しています。

{ { ACOD | ディレクタ } : { ACOD 名称 | DIR 名称 } ... } { プロセサ : プロセサ名称 ... }

要因

構成定義ウィンドウで重要エラーがある ACOD、FBD、ACOD 経路定義ウィンドウ、又はディレクタ経路定義ウィンドウで重要エラーのあるプロセサがあります。

対処

重要エラーになっている定義内容を確認してください。

E2001

定義対象プロセサの CPU モデルでは、定義できないチャンネルタイプを指定しています。

要因

定義できないチャンネルタイプを選択しようとした。CPU モデルごとに定義できるチャンネルタイプは決まっています。CPU モデルとチャンネルタイプとの関係については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

定義できるチャンネルタイプに変更するか、又は CPU モデルを見直してください。

E2002

チャンネルパス ID 'チャンネルパス ID' では、定義できないチャンネルタイプを指定しています。

要因

定義できないチャンネルタイプを選択しようとした。CPU モデルのチャンネルパス ID ごとに定義できるチャンネルタイプは決まっています。チャンネルパス ID とチャンネルタイプとの関係については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

定義できるチャンネルタイプに変更するか、又はチャンネルパス ID を見直してください。

E2003

定義対象プロセサの CPU モデルでは、定義できないチャンネルパス ID を指定しています。

要因

定義できないチャンネルパス ID を選択しようとした。CPU モデルごとに定義できるチャンネルパス ID は決まっています。CPU モデルとチャンネルパス ID の関係については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

定義できるチャンネルパス ID に変更するか、又は CPU モデルを見直してください。

E2004

チャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' のチャンネル数が、上限値 '上限値' を超えます。

要因

指定したチャンネルタイプのチャンネルの数が、定義対象のプロセサの CPU モデルで定義できる上限値を超えました。CPU モデル別のチャンネル数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

上限値以下になるようチャンネルの定義内容を変更してください。

E2101

指定したチャンネルは {ACOD | FBD} に接続しているため、チャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' は指定できません。

要因

ACOD, 又は FBD と接続しているチャンネルに対し、ACOD, 又は FBD に接続できないチャンネルタイプを指定しました。

対処

ACOD, 又は FBD に接続できるチャンネルタイプを指定するか、又は接続定義ウィンドウでチャンネルの接続を見直してください。

E2102

指定したチャンネルは {ACOD | FBD} に動的接続しているため、チャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' は指定できません。

要因

ACOD, 又は FBD と動的接続しているチャンネルに対し、ACOD, 又は FBD に動的接続できないチャンネルタイプを指定しました。

対処

ACOD, 又は FBD に動的接続できるチャンネルタイプを指定するか、又は接続定義ウィンドウでチャンネルの接続を見直してください。

E2103

指定したチャンネルタイプでは、接続できなくなる入出力制御装置との接続定義がされています。

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称)

接続できるチャンネルタイプ：チャンネルタイプ

要因

指定されたチャンネルタイプでは接続できない入出力制御装置が接続されています。チャンネルタイプと、制御装置タイプ、インタフェースモード及び制御装置アドレスとの組み合わせについては、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

チャンネルタイプを変更するか、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E2104

指定したチャンネルタイプでは、接続できなくなる入出力装置との接続定義がされています。

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)

接続できるチャンネルタイプ：チャンネルタイプ

要因

指定されたチャンネルタイプでは、接続できない入出力装置が接続されています。
チャンネルタイプと装置タイプの組み合わせについては、マニュアル「Mシリーズ
入出力構成情報」を参照してください。

対処

チャンネルタイプを変更するか、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E2105

指定したチャンネルに接続する入出力制御装置数が、上限値 ' 上限値 ' を超えます。

要因

次に示す要因があります。

- チャンネルタイプを変更した際、接続している入出力制御装置の台数が指定したチャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。
- PRMF 構成で既に接続定義をしているチャンネルをゲスト OS で指定した際、ゲスト OS 上で接続する入出力制御装置の台数がチャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。

チャンネルタイプ別の接続できる入出力制御装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

チャンネルタイプ、又は接続定義を見直してください。

E2106

指定したチャンネルに接続する入出力装置数が、上限値 ' 上限値 ' を超えます。

要因

次に示す要因があります。

- チャンネルタイプを変更した際、接続している入出力装置の台数が指定したチャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。
- PRMF 構成で既に接続定義をしているチャンネルをゲスト OS で指定した際、ゲスト OS 上で接続する入出力装置の台数がチャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。

チャンネルタイプ別の接続できる入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

チャンネルタイプ、又は接続定義を見直してください。

E2107

指定したチャンネルは、複数範囲の装置アドレスを定義している入出力制御装置に接続しているためチャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' は指定できません。

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称)

要因

指定したチャンネルのチャンネルタイプでは、複数範囲の装置アドレスを定義している入出力制御装置に接続できません。

対処

チャンネルタイプを変更するか、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E2108

指定したチャンネルは入出力制御装置に接続しているため、チャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' は指定できません。

要因

入出力制御装置と接続しているチャンネルに対し、入出力制御装置を接続できないチャンネルタイプを指定しました。

対処

入出力制御装置を接続できるチャンネルタイプを指定するか、又は接続定義ウィンドウでチャンネルの接続を見直してください。

E2109

指定したチャンネルは、他のチャンネルと接続している入出力制御装置と接続しているためチャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' は指定できません。

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称)

要因

指定したチャンネルのチャンネルタイプでは、他のチャンネルと接続している入出力制御装置に接続できません。

対処

チャンネルタイプを変更するか、又は接続定義ウィンドウでチャンネルの接続を見直してください。

E2110

指定したチャンネルは、他のチャンネルと接続している入出力装置と接続しているためチャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' は指定できません。

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)

要因

指定したチャンネルのチャンネルタイプでは、他のチャンネルと接続している入出力装置に接続できません。

対処

チャンネルタイプを変更するか、又は接続定義ウィンドウでチャンネルの接続を見直してください。

E2F01

チャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' では、定義できないチャンネル割り当て属性を指定していません。

要因

定義できないチャンネル割り当て属性を選択しようとした。チャンネルタイプごとに定義できるチャンネル割り当て属性は決まっています。チャンネルタイプとチャンネル割り当て属性との関係については、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

定義できるチャンネル割り当て属性に変更するか、又はチャンネルタイプを見直してください。

E2F02

指定したチャンネルは複数又はすべての LPAR に割り当てられているため、チャンネル割り当て属性 'チャンネル割り当て属性' は指定できません。

要因

複数又はすべての LPAR に割り当ててるチャンネルでは、定義できないチャンネル割り当て属性を選択しようとした。

対処

定義できるチャンネル割り当て属性に変更するか、又はチャンネルの LPAR 割り当て定義を見直してください。

E2F03

指定したチャンネルには EXPATH が定義されているため、チャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' への変更はできません。

要因

EXPATH を定義しているチャンネルについて、チャンネルタイプを CNC から CNC 以外のチャンネルタイプ、又は BLMPX 及び CVC のチャンネルタイプから BLMPX 及び CVC 以外のチャンネルタイプへ変更しようとした。

対処

指定するチャンネルタイプ、又は EXPATH 定義を見直してください。

E2F04

指定したチャンネルタイプでは、接続する入出力制御装置数が上限値 ' 上限値 ' を超えるゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

指定したチャンネルタイプでは、ゲスト OS で指定したチャンネルに接続する入出力制御装置の台数が、指定したチャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。チャンネルタイプ別の接続できる入出力制御装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

チャンネルタイプを見直すか、又はゲスト OS のチャンネル定義及び入出力制御装置定義を見直してください。

E2F05

指定したチャンネルタイプでは、接続する入出力装置数が上限値 ' 上限値 ' を超えるゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

指定したチャンネルタイプでは、ゲスト OS で指定したチャンネルに接続する入出力装置の台数が、指定したチャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。チャンネルタイプ別の接続できる入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

チャンネルタイプを見直すか、又はゲスト OS のチャンネル定義及び入出力制御装置定義を見直してください。

E2F06

指定したチャンネルタイプに、定義できないゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

ゲスト OS で定義しているチャンネルに対し、ゲスト OS では定義できないチャンネルタイプを指定しようとしていました。

対処

ゲスト OS で定義できるチャンネルタイプを指定するか、又はゲスト OS のチャンネル定義を見直してください。

E3001

入出力制御装置の総数が、定義できる上限値 ' 上限値 ' を超えました。

要因

入出力制御装置の台数が定義対象のプロセサの CPU モデルで定義できる上限値を超えました。CPU モデル別の入出力制御装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

上限値以下になるよう入出力制御装置の定義内容を変更してください。

E3002

IOC 名称が { ACOD 名称 | DIR 名称 (DIR 種別) } と重複しています。

要因

次に示す条件に当てはまる入出力制御装置に対して、ACOD 名称、又は DIR 名称 (DIR 種別) と同じ名称を指定しようとしています。

- MTLIB フィールドを指定しています。
- CNC - CTC 接続用、又は FC - CTC 接続用の入出力制御装置として登録しています。
- 既にチャンネル又は入出力装置との接続を定義しています。

対処

ACOD 名称、又は DIR 名称と重複しない名称を指定してください。指定した入出力制御装置を ACOD、又は FBD として定義する場合は、要因で示す条件を取り除いた後、もう一度定義してください。

E3003

指定した入出力制御装置を { ACOD | FBD } として定義していますが、指定した名称と同じ名称の { ACOD | FBD } が定義されていません。

要因

ACOD、又は FBD に対する入出力制御装置に、定義済みの ACOD 名称、又は DIR 名称以外の名称を指定しようとしています。

対処

定義済みの ACOD、又は FBD と同じ名称を指定するか、ACOD 定義ウィンドウで ACOD を定義した後、IOC 名称を指定するか、又はディレクタ定義ウィンドウでディレクタを定義した後、IOC 名称を指定してください。

E3004

指定した入出力制御装置は ' { ACOD | MTLIB | CNC - CTC 接続用 | FBD | CNC/FC - CTC 接続用 } ' として定義されているため ' フィールド名 ' は指定できません。

要因

指定した入出力制御装置では指定できないフィールドを指定しました。

対処

フィールド名で示されるフィールドを指定しないか、又は制御装置種別を変更した後に指定してください。

E3005

指定したライブラリ装置記号名は、既に入出力装置定義で装置記号名として定義されています。

要因

ライブラリ装置記号名として、入出力装置定義で装置記号名として定義されている名称を指定しました。

対処

ライブラリ装置記号名、又は入出力装置の装置記号名を見直してください。

E3050

装置アドレスと装置数の定義の組み合わせで、装置アドレスが 'FF' を超えます。

要因

装置アドレスが FF を超える定義をしています。

対処

FF を超えないように値を指定してください。

E3051

装置アドレスと装置数の定義の組は、入出力制御装置 1 台当たり最大 8 組までです。

要因

装置アドレスと装置数の定義の組を、8 組より多く定義しようとしています。

対処

装置アドレスと装置数の定義の組を、8 組以下で定義してください。

E3052

装置アドレスが重複しています。

要因

装置アドレスが重複する値を指定しようとしています。

対処

重複しない値を指定してください。

E3102

指定した入出力制御装置はチャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' のチャンネルに接続しているため、複数範囲の装置アドレスは指定できません。

チャンネル：チャンネルパス ID (チャンネルタイプ)

要因

複数範囲の装置アドレスを指定できないチャンネルと接続している入出力制御装置に対して、複数範囲の装置アドレスを指定しました。

対処

装置アドレスを複数範囲指定しないか、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E3103

指定した入出力制御装置に対し、接続できないチャンネルとの接続定義がされています。

チャンネル：チャンネルパス ID (チャンネルタイプ)

接続できるチャンネルタイプ：チャンネルタイプ

要因

指定された制御装置タイプ、インタフェースモード及び制御装置アドレスの組み合わせでは、接続できないチャンネルを接続しています。チャンネルタイプに「??」が表示される場合は、指定した入出力装置に接続できるチャンネルタイプが一つもないことを示します。組み合わせについては、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

入出力制御装置の定義内容、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E3104

指定した制御装置アドレスは、接続しているチャンネル配下のほかの入出力制御装置と重複しません。

チャンネル：チャンネルパス ID (チャンネルタイプ)

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称)

要因

既に接続しているチャンネルに対し、同じ制御装置アドレスを持つほかの入出力制御装置が接続されています。

対処

制御装置アドレスを変更するか、又は接続定義を見直してください。

E3105

指定した装置アドレスは、接続しているチャンネル配下のほかの入出力制御装置と重複します。

チャンネル：チャンネルパス ID (チャンネルタイプ)

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称)

要因

接続しているチャンネルに対し、同じ制御装置アドレスを指定した入出力制御装置を接続済みです。

対処

装置アドレスを変更するか、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E3106

指定した入出力制御装置は {ACOD | FBD} 対応の定義です。動的接続するポートアドレスがあるため 'フィールド名' は変更できません。

要因

ACOD、又は FBD に対する入出力制御装置で動的接続のポートアドレスを含んでいますが、フィールド名で示されるフィールドの値を変更しようとしています。

対処

IOC 名称を変更する場合は、ACOD 定義ウィンドウで ACOD 名称を変更するか、又はディレクタ定義ウィンドウで DIR 名称を変更してください。また、それ以外の変更の場合は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E3107

指定した入出力制御装置は、既にカートリッジ型磁気テープ装置以外の入出力装置と接続しているため 'フィールド名' は指定できません。

要因

カートリッジ型磁気テープ装置以外の入出力装置と接続している入出力制御装置に対して、指定できないフィールドを指定しようとしています。

対処

入出力制御装置の定義内容、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E3108

装置数には、接続している装置数より小さい値は指定できません。

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)、装置数

要因

入出力装置が接続している装置アドレスに対し、接続装置数より小さい装置数を指定しようとしています。

対処

接続装置数より大きい値を指定するか、又は接続している入出力装置の装置数を変更した後で指定してください。

E3109

指定した入出力制御装置が接続しているチャンネルで、チャンネルに接続する入出力装置数が上限値 ' 上限値 ' を超えます。

チャンネル：チャンネルパス ID (チャンネルタイプ)

要因

次に示す要因があります。

- 装置アドレスを変更しましたが、装置アドレスを変更した入出力制御装置が接続しているチャンネルのチャンネルタイプでは、チャンネルに接続する入出力装置の台数が上限値を超えます。
- PRMF 構成で既に接続定義をしている入出力制御装置をゲスト OS で指定しましたが、指定した入出力制御装置が接続しているチャンネルのチャンネルタイプでは、ゲスト OS でチャンネルに接続する入出力装置の台数が上限値を超えます。

チャンネルタイプ別の接続できる入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

装置アドレス数、又は接続定義を見直してください。

E3110

指定した制御装置アドレスは、同じリンクアドレスを指定しているほかの入出力制御装置と重複します。

リンクアドレス：{ ACOD 名称 | DIR 名称 } / ポートアドレス

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称)

要因

動的接続する入出力制御装置側のポートアドレスに対し、同じ制御装置アドレスを指定した入出力制御装置を既に接続しています。

対処

制御装置アドレスを変更するか、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E3111

指定した入出力制御装置では、接続できない入出力装置との接続定義がされています。

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)

要因

次に示す要因が考えられます。

- カートリッジ型磁気テープ装置以外の入出力装置と接続している入出力制御装置を、ライブラリ接続機構付き磁気テープ制御装置として定義しようとした。

対処

ライブラリ接続機構付き磁気テープ制御装置以外の入出力制御装置の場合は、ライブラリ装置記号名を指定しないでください。

E3112

指定した入出力制御装置に接続する拡張記憶装置の装置アドレスが、ほかの拡張記憶装置の装置アドレスと重複します。

入出力制御装置：制御装置番号（IOC 名称） - 装置アドレス，接続装置数

入出力装置：デバイス番号（管理名称）

要因

次に示す要因があります。

- 拡張記憶装置を接続している装置アドレスを変更した際、OS 構成内で拡張記憶装置が接続する装置アドレスが重複します。
- PRMF 構成で既に拡張記憶装置を接続している入出力制御装置をゲスト OS で指定した際、ゲスト OS 内で拡張記憶装置が接続する装置アドレスが重複します。

対処

装置アドレス，又は接続定義を見直してください。

E3113

指定した入出力制御装置は 'CNC - CTC 接続用' として定義されているため、制御装置アドレスは次に示す範囲内で指定してください。'最小値 - 最大値'

要因

指定した入出力制御装置では、指定できない範囲の制御装置アドレスを指定しました。

対処

メッセージで示す範囲の制御装置アドレスを指定してください。

E3F01

指定した入出力制御装置が接続しているチャンネルで、チャンネルに接続する入出力装置数が上限値 '上限値' を超えるゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

チャンネル：チャンネルパス ID（チャンネルタイプ）

要因

装置アドレス数を指定しましたが、指定した入出力制御装置が接続しているチャンネルのチャンネルタイプでは、ゲスト OS でチャンネルに接続する入出力装置の台数が上限値を超えます。チャンネルタイプ別の接続できる入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

装置アドレス数を見直すか、又はゲスト OS のチャンネル定義及び入出力制御装置定義を見直してください。

E3F02

指定した入出力制御装置に接続する拡張記憶装置の装置アドレスが、ほかの拡張記憶装置の装置アドレスと重複するゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称) - 装置アドレス, 接続装置数

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)

要因

拡張記憶装置を接続している装置アドレスを変更した際、ゲスト OS で拡張記憶装置が接続する装置アドレスが重複します。

対処

装置アドレスを見直すか、又はゲスト OS の入出力制御装置定義及び入出力装置定義を見直してください。

E3F03

IOC 名称が重複するゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

指定した IOC 名称では、ゲスト OS の構成定義データ内で IOC 名称が重複します。

対処

IOC 名称を見直すか、又はゲスト OS の入出力制御装置定義を見直してください。

E3F04

指定した入出力制御装置では、指定可能な制御装置アドレスの範囲が '最小値 - 最大値' のゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

ゲスト OS で定義している入出力制御装置に対し、ゲスト OS で指定できない範囲の制御装置アドレスを指定しようとした。

対処

ゲスト OS で指定できる範囲の制御装置アドレスを指定するか、又はゲスト OS の入出力制御装置定義を見直してください。

E4001

デバイス番号と接続装置数の指定が、定義できるデバイス番号の上限値 ' 上限値 ' を超えました。

要因

定義対象のプロセサの CPU モデルに対して定義できるデバイス番号の上限値を超えました。CPU モデル別のデバイス番号の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

上限値以下になるようにデバイス番号及び接続装置数の定義を変更してください。

E4003

' フィールド名 ' には次に示す範囲内の 16 進数字を指定してください。ただし、' 0FFF ' は指定できません。' 最小値 - 最大値 '

要因

デバイス番号に不当な値を指定したか、又はデバイス番号と装置数で指定された範囲内に不当な値があります。

対処

メッセージで示す範囲内の 16 進数字を指定してください。

E4004

入出力装置の総数が定義できる上限値 ' 上限値 ' を超えました。

要因

入出力装置の台数が定義対象のプロセサの CPU モデルで定義できる上限値を超えました。CPU モデル別の入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

上限値以下になるよう入出力装置の定義を変更します。

E4005

' フィールド名 ' は先頭 1 けた英数字、下 2 けた { 10 進数字 | 16 進数字 | ¥ , # , 及び @ を除く英数字 } の 3 けたで指定してください。

要因

装置数に 2 以上を指定していますが、装置記号名として次に示すどれかの値を指定しました。

- 1 文字目に英数字以外の文字を指定しました。
- 基数フィールドに DEC を指定していますが、下 2 文字に 10 進数字でない文字を指定しました。
- 基数フィールドに HEX を指定していますが、下 2 文字に 16 進数字でない文字を

指定しました。

- 基数フィールドに B36 を指定していますが、下 2 文字に ¥ , # , 及び @ を除く英数字でない文字を指定しました。

対処

装置数、又は装置記号名を見直してください。

E4006

指定された装置数分の装置記号名が生成できません。

要因

指定された装置数と装置記号名では、装置記号名の 1 文字目の繰り上げが発生しますが、装置記号名の 1 文字目に Z , ¥ , # , 又は @ が指定されているため、1 文字目を繰り上げできません。

対処

装置数、又は装置記号名を見直してください。

E4007

指定した入出力装置は入出力制御装置に接続されているため、デバイス番号の指定方法が異なる装置形式への変更はできません。

要因

既に入出力制御装置に接続している入出力装置の装置形式を、デバイス番号の指定方法が異なる装置形式に変更しようとしています。

対処

デバイス番号の指定方法が同じ装置形式を指定するか、又は入出力制御装置との接続を削除した後、装置形式を変更してください。

E4008

入出力終了割り込み監視時間には NO、又は、次に示す 10 進数を指定してください。' 最小値 - 最大値 '[単位 : 秒]

要因

入出力終了割り込み監視時間に次に示す値を指定しようとしています。

- 10 から 3600 までの範囲外の 10 進数字
- 10 進数字以外の値

対処

正しい値を指定してください。

E4009

入出力終了割り込み監視時間は ' 最小値 - 最大値 '[単位 : 秒] を指定してください。

要因

入出力終了割り込み監視時間に「NO」を指定できない装置形式に「NO」を指定しようとしています。

対処

最小値 - 最大値で示される範囲内の値を指定します。

E4010

装置記号名の基数 ' 値 ' は指定できません。

要因

装置記号名の基数として、選択しているプロセサでは定義できない基数が指定されています。

対処

装置記号名の基数を見直してください。

E4101

指定した装置形式では、接続できない入出力制御装置との接続定義がされています。

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称)

要因

既に接続している入出力制御装置には接続できない装置形式を指定しました。

対処

装置形式を見直してください。

E4102

指定した装置数では、接続している入出力制御装置の装置アドレス数を超えます。

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称)

装置アドレス：接続する装置アドレス、装置数

要因

指定した装置数では、接続する装置アドレスから連続している装置数を超えます。

対処

装置数を変更するか、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E4103

指定した装置数では、接続している入出力制御装置の装置アドレスがほかの入出力装置と重複します。

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称), 先頭装置アドレス - 最終装置アドレス

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)

要因

指定した装置数では、入出力制御装置に接続する入出力装置の装置アドレスがほか

の入出力装置と重複します。

対処

装置数を変更するか、又は接続定義ウィンドウで接続を見直してください。

E4104

指定した入出力装置に対し、接続できないチャンネルとの接続定義がされています。

チャンネル：チャンネルパス ID (チャンネルタイプ)

接続できるチャンネルタイプ：接続できるチャンネルタイプ

要因

接続しているチャンネルのうち接続できなくなるチャンネルタイプがあります。チャンネルタイプに「??」が表示される場合は、指定した入出力装置に接続できるチャンネルタイプが一つもないことを示します。チャンネルタイプと装置タイプの組み合わせについては、マニュアル「M シリーズ 入出力構成情報」を参照してください。

対処

入出力装置の定義内容、又は接続定義を見直してください。

E4105

拡張記憶装置に対する装置アドレスが重複します。

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称) - 装置アドレス, 接続装置数

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)

要因

次に示す要因があります。

- 装置形式を拡張記憶装置に変更した際、OS 構成内で拡張記憶装置が接続する装置アドレスが重複します。
- PRMF 構成で既に拡張記憶装置として定義している入出力装置をゲスト OS で指定した際、ゲスト OS 内で拡張記憶装置が接続する装置アドレスが重複します。

対処

装置形式、又は接続定義を見直してください。

E4F01

次に示すフィールドの定義内容を見直してください。

フィールド名：フィールド名...

要因

PRMF 構成での入出力装置定義の変更によって、フィールド名で示すフィールドの定義内容がエラーとなります。

対処

フィールド名で示すフィールドの定義内容を見直してください。

E4F02

指定した入出力装置は装置形式 ' 装置形式 ' であるため指定できる装置数が ' 装置数 ' と決められています。指定したデバイス番号では決められた装置数分のデバイス番号を生成できません。

要因

PRMF 構成で入出力装置を定義したときに先頭のデバイス番号を指定していません。

対処

デバイス番号の定義を見直してください。

E4F03

指定した入出力装置は既にゲスト OS の入出力装置定義で部分的に定義されているため、装置形式 ' 装置形式 ' を指定できません。

要因

既にゲスト OS で部分的に定義している入出力装置の装置形式を、接続装置数として決められた値しか指定できない装置形式に変更しようとした。

対処

指定する装置形式を見直すか、又は新しく入出力装置を追加して定義してください。

E4F04

指定した装置数では、入出力装置の総数が定義できる上限値 ' 上限値 ' を超えるゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

指定した装置数に合わせてゲスト OS の入出力装置定義の装置数を増加させると、ゲスト OS で入出力装置の台数が定義できる上限値を超えます。

ゲスト OS で定義できる入出力装置の台数についてはマニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

上限値以下になるよう装置数の定義を変更してください。

E4F05

指定した { デバイス番号 | 装置数 } では、デバイス番号が上限値 ' 上限値 ' を超えるゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

次に示す要因があります。

- 指定されたデバイス番号に合わせてゲスト OS の入出力装置定義のデバイス番号

- を変更すると、デバイス番号が上限値を超えます。
- 指定された装置数に合わせてゲスト OS の入出力装置定義の装置数を増加させると、デバイス番号が上限値を超えます。

デバイス番号の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

上限値以下になるようデバイス番号又は装置数の定義を変更してください。

E4F06

指定した { デバイス番号 | 装置数 } では、デバイス番号に ' 0FFF ' が含まれるゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

次に示す要因があります。

- 指定されたデバイス番号に合わせてゲスト OS の入出力装置定義のデバイス番号を変更すると、デバイス番号に ' 0FFF ' が含まれます。
- 指定された装置数に合わせてゲスト OS の入出力装置定義の装置数を増加させると、デバイス番号に ' 0FFF ' が含まれます。

対処

ゲスト OS の入出力装置定義でデバイス番号に ' 0FFF ' が含まれないように、デバイス番号又は装置数の定義を変更してください。

E4F07

指定した { デバイス番号 | 装置数 } では、デバイス番号が重複するゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

次に示す要因があります。

- 指定されたデバイス番号に合わせてゲスト OS の入出力装置定義のデバイス番号を変更すると、既に定義されているほかの入出力装置のデバイス番号と重複します。
- 指定された装置数に合わせてゲスト OS の入出力装置定義の装置数を増加させると、既に定義されているほかの入出力装置のデバイス番号と重複します。

対処

ゲスト OS の入出力装置定義でデバイス番号が重複しないように、デバイス番号又は装置数の定義を変更してください。

E4F13

拡張記憶装置に対する装置アドレスが重複するゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

入出力制御装置：制御装置番号（IOC 名称） - 装置アドレス，接続装置数

入出力装置：デバイス番号（管理名称）

要因

装置形式を拡張記憶装置に変更した際，ゲスト OS で拡張記憶装置が接続する装置アドレスが重複します。

対処

装置形式を見直すか，又はゲスト OS の入出力制御装置定義及び入出力装置定義を見直してください。

E4F14

装置形式 ' 装置形式 ' の入出力装置は，ゲスト OS では定義することはできません。

要因

PRMF 構成で，VOS3 では定義できない装置形式を定義した入出力装置を指定しようとした。

対処

指定する入出力装置，又は入出力装置の装置形式を見直してください。

E5001

装置グループ ' 装置グループ名 ' 内の入出力装置の装置形式に，拡張記憶装置とそれ以外が混在します。

要因

指定したデバイス番号に，拡張記憶装置とそれ以外が混在しています。

対処

拡張記憶装置とそれ以外の装置が混在しないように定義してください。

E5004

仮想データセットを割り当てるための装置グループに，ディスク装置のデバイス番号が一つも定義されていません。

要因

ディスク装置を示すデバイス番号が一つも定義されていません。

対処

ディスク装置のデバイス番号を定義するか，又は VIO フィールドに「NO」を指定してください。

E5005

指定した装置グループ名は，既に装置記号名として定義されています。

要因

装置グループ名として、次のどれかで装置記号名として定義されている名称を指定しました。

- ・ 入出力制御装置定義のライブラリ装置記号名
- ・ 入出力装置定義の装置記号名

対処

装置グループ名、又は装置記号名を見直してください。

E5006

指定した装置グループ名は、入出力装置定義で生成された装置タイプの名称と重複します。

要因

装置グループ名として、入出力装置定義で生成された装置タイプの名称と同じ名称を指定しました。

対処

装置グループ名、又は入出力装置定義を見直してください。なお、生成された装置タイプについて定義する場合は装置タイプ定義ウィンドウで定義してください。

E5009

デバイス番号 ' 先頭デバイス番号 - 最終デバイス番号 ' のうち定義されていない値があります。

要因

入出力装置定義で定義されていないデバイス番号があります。

先頭デバイス番号：装置グループに指定したデバイス番号

最終デバイス番号：装置グループに指定したデバイス番号と装置数で示される最後のデバイス番号

対処

定義済みのデバイス番号を指定するか、又は入出力装置定義ウィンドウでデバイス番号を定義してください。

E5010

デバイス番号 ' 先頭デバイス番号 - 最終デバイス番号 ' の入出力装置の装置形式に拡張記憶装置とそれ以外の装置が混在しています。

要因

指定したデバイス番号と装置数では、拡張記憶装置とそれ以外の入出力装置を示すデバイス番号が混在します。

先頭デバイス番号：装置グループに指定したデバイス番号

最終デバイス番号：装置グループに指定したデバイス番号と装置数で示される最後のデバイス番号

対処

入出力装置が混在しないようにデバイス番号を指定するか、又は入出力装置定義ウィンドウで装置形式を変更してください。

E5011

‘装置グループ名’は英数字、斜線（/）及びハイフン（-）の組み合わせで、1けたから8けたの範囲で指定してください。

要因

装置グループ名を、英数字、斜線（/）及びハイフン（-）の組み合わせで指定していません。

対処

正しい値を指定してください。

E5012

装置グループ定義と装置タイプ定義の総数が定義できる上限値‘上限値’を超えました。

要因

SYSALLDA を除く定義している装置グループ数と、定義している装置タイプ数の合計が登録できる数（450）を超えます。

対処

登録できる数以下になるように見直してください。

E5013

装置グループ当たりの定義装置総数が上限値‘上限値’を超えます。

要因

デバイス番号に対する装置数に、1 から 4095 の範囲外の 10 進数字か、10 進数字以外の値を指定しています。

対処

正しい値を指定してください。

E5014

装置グループ‘装置グループ名’内で入出力装置が重複します。

要因

装置グループ名で示される装置グループ内で、デバイス番号が重複して指定されています。

対処

デバイス番号が重複しないようにしてください。

E5015

装置割り当て順序で定義できる総数の上限値‘上限値’を超えます。

要因

定義したレコード数が 30 を超えました。

対処

定義するレコード数を 30 以下にしてください。

E5016

装置グループ名 'ES' の装置グループが定義されているため、'TYPE=ES' は指定できません。

要因

TYPE フィールドで 'ES' を指定しましたが、定義済みの装置グループ又は定義中の装置グループで装置グループ名に 'ES' が指定されています。

対処

TYPE フィールドの指定を見直すか、又は名称を 'ES' としている装置グループについて名称を 'ES' 以外に変更してください。

E6001

{ACOD 名称 | DIR 名称} を指定できないチャンネルです。

要因

ACOD, 又は FBD と動的接続できないチャンネルタイプのチャンネルに対して、ACOD 名称, 又は DIR 名称を指定しています。

対処

指定したチャンネルのチャンネルタイプを見直すか、又はチャンネルに接続する ACOD 名称, 又は DIR 名称を削除してください。

E6002

チャンネル 'チャンネルパス ID' は {ACOD '接続済みの ACOD 名称' | ディレクタ '接続済みの DIR 名称'} で動的接続しているため、{ACOD 'ACOD 名称' | ディレクタ 'DIR 名称'} は接続できません。

要因

既に ACOD, 又は FBD と接続しているチャンネルに対し、ほかの ACOD, 又は FBD を接続しようとしてしました。

対処

接続するチャンネルを変更するか、又は接続済みの ACOD, 又は FBD を接続しないように変更した後で、接続を定義してください。

E6003

指定した入出力制御装置に接続するチャンネルのパス数が上限値 '上限値' を超えます。

要因

入出力制御装置ごとに接続するチャンネル数が接続上限数を超えます。

対処

上限値以下のチャンネルと接続するように定義してください。

E6004

指定した入出力制御装置に接続される入出力装置で、接続するチャンネルのパス数が上限値 ' 上限値 ' を超えるものがあります。

入出力装置：デバイス番号

要因

入出力装置に接続上限数を超えるチャンネルを接続しようとしています。

対処

1 台の入出力装置が上限値以下のチャンネルと接続するよう定義してください。

E6005

指定した入出力制御装置に接続される入出力装置に、同じチャンネルが既に接続しています。

入出力装置：デバイス番号

要因

入出力装置に対して定義済みのチャンネルを定義しようとしています。

対処

重複するチャンネルがないように定義してください。

E6006

装置数が接続先入出力制御装置の装置アドレス数を超えています。

装置アドレス：装置アドレス，装置アドレス数

要因

指定した入出力装置の装置数は、接続している装置アドレスから連続しているアドレス数を超えています。

対処

接続する装置アドレスを変更するか、又は入出力制御装置及び入出力装置定義を見直してください。

E6007

指定したチャンネルに、装置アドレスを複数範囲で指定した入出力制御装置は接続できません。

要因

複数範囲の装置アドレスを指定できないチャンネルに、複数範囲の装置アドレスを指定している入出力制御装置を接続しようとしています。

対処

チャンネルタイプと接続する入出力制御装置を見直してください。

E6008

指定した装置アドレスには、既にほかの入出力装置が接続されています。

入出力装置：デバイス番号（管理名称）、先頭装置アドレス - 最終装置アドレス

要因

指定した装置アドレスと装置数の範囲では、入出力装置の接続が重複します。

対処

接続する装置アドレスを変更するか、又は接続定義を見直してください。

E6009

{ ACOD | ディレクタ } 以外の入出力制御装置に対するリンクアドレスは、FE を指定できません。

要因

ACOD, FBD ではない入出力制御装置に対して、LNKA フィールドに「FE」を指定しています。

対処

ACOD, FBD 以外の入出力制御装置に対しては、LNKA フィールドに「FE」以外を指定してください。

E6010

指定したチャンネルは、{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } と動的接続してください。

要因

既に ACOD, 又は FBD に対する入出力制御装置と接続しているチャンネルに対して、動的接続する ACOD, 又は FBD に、接続している ACOD, 又は FBD とは異なる ACOD, 又は FBD を指定しています。

対処

ACOD 名称, 又は DIR 名称で示される ACOD, 又は FBD と動的接続するか、又は接続する入出力制御装置を見直してください。

E6011

指定した入出力装置に接続する入出力制御装置数が上限値 ' 上限値 ' を超えます。

要因

入出力装置ごとに接続する入出力制御装置数が接続上限数を超えます。

対処

上限値以下の入出力制御装置と接続するよう定義してください。

E6012

指定した入出力装置に接続するチャンネルのパス数が上限値 ' 上限値 ' を超えます。

要因

入出力装置ごとに接続するチャンネルのパス数が接続上限数を超えます。

対処

上限値以下のチャンネルと接続するよう定義してください。

E6013

指定した入出力装置に対して同じチャンネルのパスが既に定義済みです。

チャンネルパス ID : チャンネルパス ID

要因

入出力装置に対して定義済みのチャンネルを接続しようとしています。

対処

チャンネルが重複しないように定義してください。

E6014

指定したチャンネルに接続する入出力制御装置数が上限値 ' 上限値 ' を超えます。

要因

指定したチャンネルに接続する入出力制御装置の台数が、チャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。チャンネルタイプ別の接続できる入出力制御装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

接続定義を見直すか、又はチャンネルのチャンネルタイプを見直してください。

E6015

指定したチャンネルに接続する入出力装置数が上限値 ' 上限値 ' を超えます。

要因

指定したチャンネルに接続する入出力装置の台数が、チャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。チャンネルタイプ別の接続できる入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

接続定義を見直すか、又はチャンネルのチャンネルタイプ及び入出力制御装置の装置アドレス定義を見直してください。

E6016

{ ACOD 経路 | ディレクタ経路 } の定義内容と一致しないため、{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } は接続できません。

要因

次に示す要因があります。

- 指定した ACOD と動的接続以外の接続属性で接続しています。
- 指定した ACOD，又は FBD 以外の ACOD，又は FBD を指定して，入出力制御装置側までの ACOD 経路，又はディレクタ経路を定義しています。

対処

ACOD 経路定義，又はディレクタ経路定義を見直してください。

E6017

指定したチャンネルは { ACOD 経路 | ディレクタ経路 } 定義で接続属性 ' 占有切替 ' を定義しているため，CNC - CTC 接続用の入出力制御装置は接続できません。

要因

ACOD 経路定義，又はディレクタ経路定義で切替可能占有接続を定義しているチャンネルに対して，CNC - CTC 接続用の入出力制御装置を接続しようとした。

対処

接続又は ACOD 経路，又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E6018

指定したチャンネルは，{ ACOD 経路 | ディレクタ経路 } 定義で { CNC - CTC 接続用の入出力制御装置 | ほかの CNC - CTC 接続用の入出力制御装置 | CNC - CTC 接続用以外の入出力制御装置 } と占有接続しています。

要因

次に示す要因があります。

- CNC - CTC 接続用の入出力制御装置と占有接続しているチャンネルに対して，CNC - CTC 接続用以外の入出力制御装置を接続しようとした。
- CNC - CTC 接続用以外の入出力制御装置と占有接続しているチャンネルに対して，CNC - CTC 接続用の入出力制御装置を接続しようとした。
- ほかの CNC - CTC 接続用の入出力制御装置と占有接続しているチャンネルに対して，CNC - CTC 接続用の入出力制御装置を接続しようとした。

対処

接続又は ACOD 経路，又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E6020

指定した {ACOD 名称 | DIR 名称} とポートアドレスには、同じ制御装置アドレスの入出力制御装置を既に接続しています。

要因

指定されたポートは、同じ制御装置アドレスを持つほかの入出力制御装置に接続されています。

対処

接続するポートを見直すか、又は制御装置アドレスを変更してください。

E6021

拡張記憶装置に対する装置アドレスが重複しています。

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称) - 装置アドレス, 接続装置数

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)

要因

拡張記憶装置に接続する入出力制御装置間で、装置アドレスが重複します。

対処

装置アドレス又は装置形式を見直してください。

E6022

同じ装置アドレスの入出力制御装置を、指定したチャンネルに既に接続しています。

要因

接続する指定をしたチャンネルパス ID には、既に同じ装置アドレスの入出力制御装置を接続しています。

対処

装置アドレスを見直してください。

E6023

ディレクタの種別が {ACOD | FBD} のディレクタは指定できないチャンネルです。

要因

次に示す要因があります。

- ディレクタの種別が ACOD のディレクタを指定できないチャンネルに対して、ディレクタの種別が ACOD の DIR 名称を指定しています。
- ディレクタの種別が FBD のディレクタを指定できないチャンネルに対して、ディレクタの種別が FBD の DIR 名称を指定しています。

対処

指定したチャンネルのチャンネルタイプを見直すか、又はチャンネルに接続する DIR 名称を見直してください。

E6101

指定した入出力制御装置はチャンネルタイプ ' 接続できるチャンネルタイプ ' のチャンネルに接続してください。

要因

チャンネルのチャンネルタイプと、入出力制御装置の制御装置タイプ、インタフェースモード、及び制御装置アドレスの組み合わせが接続できない定義をしようとしています。チャンネルタイプに「??」が表示される場合は、指定した入出力制御装置に接続できるチャンネルタイプが一つもないことを示します。組み合わせについては、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

接続できるチャンネルと接続するように定義するか、又はチャンネル及び入出力制御装置の定義内容を変更してください。

E6102

{ 入出力装置 | 入出力装置 ' デバイス番号 (管理名称) ' } はチャンネルタイプ ' 接続できるチャンネルタイプ ' のチャンネルに接続してください。

要因

接続できない装置タイプとチャンネルタイプの組み合わせがあります。チャンネルタイプに「??」が表示される場合は、指定した入出力装置に接続できるチャンネルタイプが一つもないことを示します。チャンネルタイプと装置タイプの組み合わせについては、マニュアル「M シリーズ 入出力構成情報」を参照してください。

対処

接続できるチャンネルと接続するように定義するか、又はチャンネル及び入出力装置の定義内容を変更してください。

E6103

指定した入出力制御装置と入出力装置は接続できません。

要因

次に示す接続をしようとしています。

- ライブラリ接続機構付き磁気テープ制御装置として定義した入出力制御装置に、カートリッジ型磁気テープ装置以外の入出力装置を接続する
- ACOD に対する入出力制御装置に、ACOD 以外の入出力装置を接続する
- ACOD に対する入出力制御装置を、ACOD 定義ウィンドウで定義した ACOD 名称、又はディレクタ定義ウィンドウで定義した DIR 名称以外の IOC 名称の入出力制御装置に接続する
- FBD に対する入出力制御装置を、ディレクタ定義ウィンドウで定義した DIR 名称以外の IOC 名称の入出力制御装置に接続する
- FBD に対する入出力制御装置に、入出力装置を接続する

対処

接続できる入出力制御装置又は入出力装置を指定するか、又は入出力制御装置及び入出力装置の定義内容を変更してください。

E6201

チャンネルに { ACOD 名称 | DIR 名称 } を指定した時は、入出力制御装置を接続する { ACOD | ディレクタ } のポートアドレスを指定してください。

要因

ACOD 名称、又は DIR 名称が指定されたチャンネルに対し、接続するポートを指定していない入出力制御装置を接続しました。

対処

入出力制御装置を接続する ACOD、又は FBD のポートを指定するか、ACOD 経路定義又はディレクタ経路定義で ACOD 内の接続ポート情報を定義するか、ディレクタ経路定義で FBD 内の接続ポート情報を定義してください。

E6202

同じ制御装置アドレスの入出力制御装置を、指定したチャンネルパス ID に既に接続しています。

要因

接続する指定をしたチャンネルパス ID には、既に同じ制御装置アドレスの入出力制御装置を接続しています。

対処

制御装置アドレスを見直してください。

E6203

チャンネルに接続している入出力制御装置数が、{ ACOD | ディレクタ } を経由しないで接続できる上限値 ' 上限値 ' を超えています。

要因

指定したチャンネルのチャンネルタイプで接続できる入出力制御装置の台数が、ACOD、又は FBD を経由しないで接続できる上限値を超えています。チャンネルタイプ別の接続できる入出力制御装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

チャンネルタイプを見直すか、又は上限値以下の入出力制御装置と接続定義をします。

E6204

チャンネルに接続している入出力装置数が、{ ACOD | ディレクタ } を経由しないで接続できる上限値 ' 上限値 ' を超えています。

要因

指定したチャンネルのチャンネルタイプで接続できる入出力装置の台数（入出力制御装

置定義で定義した装置アドレスの総数)が、ACOD, 又は FBD を経由しないで接続できる上限値を超えています。チャンネルタイプ別の入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

チャンネルタイプを見直すか、又は入出力制御装置で定義した装置アドレスの総数が上限値以下になるように定義してください。

E6301

指定した入出力制御装置に接続するチャンネルの {チャンネルタイプ | チャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性} を統一してください。

要因

入出力制御装置に接続している複数のチャンネルで、OS の場合はチャンネルタイプ、PRMF の場合はチャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性が統一されていません。チャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性の組み合わせについては、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

接続、又はチャンネルの定義内容を見直してください。

E6401

{入出力装置 | 入出力装置' デバイス番号 (管理名称)'} に接続するチャンネルの {チャンネルタイプ | チャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性} を統一してください。

要因

入出力装置に接続している複数のチャンネルで、OS の場合はチャンネルタイプ、PRMF の場合はチャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性が統一されていません。チャンネルタイプ及びチャンネル割り当て属性の組み合わせについては、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

接続、又はチャンネルの定義内容を見直してください。

E6402

入出力装置に接続する入出力制御装置の制御装置タイプ及びインタフェースモードを統一してください。

要因

入出力装置に接続する入出力制御装置の制御装置タイプ及びインタフェースモードが統一されていません。

対処

1 台の入出力装置には、同じ制御装置タイプ及びインタフェースモードの入出力制御装置を接続するよう定義してください。

E6F01

指定したチャンネルと入出力制御装置を接続すると、チャンネルに接続する入出力制御装置数が上限値 ' 上限値 ' を超えるゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

指定したチャンネルと入出力制御装置の接続によって、ゲスト OS で指定したチャンネルに接続する入出力制御装置の台数が、指定したチャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。チャンネルタイプ別の接続できる入出力制御装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

接続定義を見直すか、又はゲスト OS のチャンネル定義及び入出力制御装置定義を見直してください。

E6F02

指定したチャンネルと入出力制御装置を接続すると、チャンネルに接続する入出力装置数が上限値 ' 上限値 ' を超えるゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

要因

指定したチャンネルと入出力制御装置の接続によって、ゲスト OS で指定したチャンネルに接続する入出力装置の台数が、指定したチャンネルタイプで接続できる台数の上限値を超えます。チャンネルタイプ別の接続できる入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」を参照してください。

対処

接続定義及び入出力制御装置の装置アドレスを見直すか、又はゲスト OS のチャンネル定義及び入出力制御装置定義を見直してください。

E6F03

指定した入出力制御装置と入出力装置の接続では、拡張記憶装置に対する装置アドレスが重複するゲスト OS があります。

プロセサ：プロセサ名称

入出力制御装置：制御装置番号 (IOC 名称) - 装置アドレス, 接続装置数

入出力装置：デバイス番号 (管理名称)

要因

指定した入出力制御装置と入出力装置の接続によって、ゲスト OS で拡張記憶装置に接続する装置アドレスが重複します。

対処

接続定義を見直すか、又はゲスト OS のチャンネル定義及び入出力制御装置定義を見直してください。

E7000

指定したポート 'ポートアドレス' は、使用できません。

要因

指定したポートアドレスは、使用できないポートアドレスです。

対処

使用できるポートアドレスを指定してください。

E7001

指定したポート 'ポートアドレス' はほかのチャンネルに既に接続しています。

要因

指定したポートアドレスは、チャンネルと接続するポートアドレスとして既に定義されています。定義中のプロセサ以外のプロセサで定義している場合があります。

対処

ポートアドレス、ACOD 名称、又は DIR 名称を見直してください。

E7002

指定したポート 'ポートアドレス' は、{チャンネル | 入出力制御装置 | 入出力制御装置 (リンクアドレス) | 入出力制御装置 (CNC - CTC 接続用) | 他 ACOD | 他ディレクタ} に既に接続しています。

要因

指定したポートアドレスは、メッセージで示される接続先と接続するポートアドレスとして既に定義されています。定義中のプロセサ以外のプロセサで定義している場合があります。

対処

ポートアドレス又は接続先を見直してください。

E7003

指定したポート 'ポートアドレス' に接続する入出力制御装置の台数が上限値 '上限値' を超えています。

要因

指定したポートアドレスは、既に 16 台以上の入出力制御装置と接続定義されていま

す。定義中のプロセサ以外のプロセサで定義している場合があります。

対処

ポートアドレス, ACOD 名称, 又は DIR 名称を見直してください。

E7004

指定したポート 'ポートアドレス' には同じ制御装置アドレスの入出力制御装置を既に接続しています。

要因

指定したポートアドレスは, 入出力制御装置と接続するポートアドレスとして既に定義されています。定義中のプロセサ以外のプロセサで定義している場合があります。

対処

ポートアドレス, ACOD 名称, 又は DIR 名称を見直してください。

E7005

指定したポート 'ポートアドレス' の接続ポート数が上限値 '上限値' を超えています。

要因

指定したポートアドレスは, 既に 16 以上のポートアドレスと接続定義されています。定義中のプロセサ以外のプロセサで定義している場合があります。

対処

ポートアドレス, ACOD 名称, 又は DIR 名称を見直してください。

E7006

指定したポート 'ポートアドレス' は接続属性 '接続属性' で既に定義されています。

要因

指定したポートアドレスは, 指定した接続属性とは別な接続属性として既に定義されています。定義中のプロセサ以外のプロセサで定義している場合があります。
接続属性: 動的, 占有, 又は占有切替 (切替可能占有接続)

対処

ポートアドレス, ACOD 名称, DIR 名称又は接続属性を見直してください。

E7007

ポート 'ポートアドレス' は複数のポートに接続しているため, 接続属性 '接続属性' は指定できません。

要因

複数ポートに接続しているポートに対して, 指定できない接続属性を指定しています。

接続属性: 動的, 占有, 又は占有切替 (切替可能占有接続)

対処

接続属性を変更するか、又はポートの接続を変更してください。

E7008

指定したポート 'ポートアドレス' はポート 'ポートアドレス' と既に占有接続されています。

要因

既に占有接続しているポートについて、定義済みポート以外のポートと接続しようとしています。

対処

接続先のポートを見直してください。

E7009

指定したポート 'ポートアドレス' は、{ACOD 'ACOD 名称' | ディレクタ 'DIR 名称'} のポート 'ポートアドレス' と既に多段接続されています。

要因

既にほかの ACOD のポートと接続しているポートについて、定義済みポート以外のポートと接続しようとしています。

対処

接続先のポートを見直してください。

E7010

'フィールド名' のポートのデータが不正です。

要因

ACOD 構成定義データを搬入する時の ACOD 経路の生成で、ACOD 構成定義データ中のポートのデータが不正、又はポートのデータがないため、ACOD 経路の生成ができません。

対処

ACOD 経路の生成でエラーとなった経路は搬入を完了した後、ACOD 経路定義ウィンドウ、又はディレクタ経路定義ウィンドウで定義内容を修正してください。

E7011

同じ制御装置アドレスを持つ入出力制御装置が存在するため、接続属性 '{占有 | 占有切替}' はできません。

要因

同じ制御装置アドレスを持つ入出力制御装置が接続されているチャンネルに対して、占有接続又は切替可能占有接続を指定しました。あるいは、ACOD 外部・内部構成定義データ搬入時に生成された ACOD 経路に同じエラーがあります。

対処

接続属性を訂正するか、又は該当する入出力制御装置の制御装置アドレスを変更してください。

E7012

指定したチャンネルには、CNC - CTC 接続用の入出力制御装置とそれ以外の入出力制御装置が接続されているため、占有接続はできません。

要因

CNC - CTC 接続用の入出力制御装置とそれ以外の入出力制御装置が混在して接続されているチャンネルに対して、占有接続を指定しました。あるいは、ACOD 外部・内部構成定義データ搬入時に生成された ACOD 経路に同じエラーがあります。

対処

接続、ACOD 経路、又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E7013

指定したチャンネルには、複数の CNC - CTC 接続用の入出力制御装置が接続されているため、占有接続はできません。

要因

複数の CNC - CTC 接続用の入出力制御装置が接続されているチャンネルに対して、占有接続を指定しました。あるいは、ACOD 外部・内部構成定義データ搬入時に生成された ACOD 経路に同じエラーがあります。

対処

接続、ACOD 経路、又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E7014

指定したチャンネルには CNC - CTC 接続用の入出力制御装置が接続されているため、接続属性 '占有切替' は指定できません。

要因

CNC - CTC 接続用の入出力制御装置が接続されているチャンネルに対して、切替可能占有接続を指定しました。あるいは、ACOD 外部・内部構成定義データ搬入時に生成された ACOD 経路に同じエラーがあります。

対処

接続、ACOD 経路、又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E7015

{ ACOD | FBD } の入出力制御装置が定義されていないので、動的接続を指定できません。

要因

ACOD、又は FBD の入出力制御装置を定義していませんが、動的接続を指定してい

ます。

対処

ACOD，又は FBD の入出力制御装置を入出力制御装置定義ウィンドウで定義してから動的接続を指定するか，又は動的接続以外を指定してください。

E7016

多段接続での接続属性 ' 接続属性 - 接続属性 ' の組み合わせは指定できません。

要因

多段接続した ACOD の接続属性が同じです。

接続属性：動的，占有，又は占有切替（切替可能占有接続）

対処

ACOD 名称，DIR 名称又は接続属性を見直してください。

E7017

IN と OUT に指定したポートアドレスが同じです。

要因

同じポートアドレスをチャンネル側と入出力制御装置側の両方に指定しています。

対処

ポートアドレスを見直してください。

E7018

接続属性 ' 接続属性 ' を指定できないチャンネルです。

要因

接続するチャンネルでは指定できない接続属性を指定しています。

接続属性：動的，占有，又は占有切替（切替可能占有接続）

対処

接続属性を変更するか，又はチャンネルタイプを変更してください。

E7019

指定した {チャンネル | 入出力制御装置} は，{ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } と動的接続してください。

要因

次に示す要因があります。

- 多段接続を定義しない場合，ACOD，又は FBD に接続しているチャンネルに対してほかの ACOD，又は FBD を指定したか，又は動的接続以外を指定しました。
- 多段接続を定義した時，ACOD 対応の入出力制御装置に対して，一方の ACOD がほかの ACOD に接続している場合に，もう一方もほかの ACOD に接続しようとしてしました。

対処

ACOD 名称で示される ACOD，又は DIR 名称で示されるディレクタと動的接続してください。

E7020

指定したチャンネルは { ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } と接続しているため、接続属性 ' 接続属性 ' は指定できません。

要因

ACOD に接続しているチャンネルに対し、指定した ACOD と動的接続以外で接続しようとしたか、又はほかの ACOD と占有接続以外で接続しようとした。

接続属性：動的，占有，又は占有切替（切替可能占有接続）

対処

チャンネルが接続している ACOD を指定した場合は動的接続，又はほかの ACOD を指定した場合は占有接続するように定義してください。

E7021

指定した入出力制御装置は，多段接続できません。

要因

ACOD に対する入出力制御装置に対して，ACOD 経路を定義する場合，指定した入出力制御装置を示す ACOD 名称をチャンネル側の ACOD 名称に指定したときは，入出力制御装置側の ACOD 名称を指定できません。

対処

ACOD に対する入出力制御装置に対して，ACOD 経路を定義する場合，1 段接続で定義するか，又は多段接続時は入出力制御装置側に指定した ACOD 自体が接続するように定義してください。

E7022

{ ACOD ' ACOD 名称 ' | ディレクタ ' DIR 名称 ' } に対応する入出力制御装置が定義されていないプロセサが存在するため，動的接続を指定できません。

プロセサ：プロセサ名称...

要因

動的接続の ACOD 経路，又はディレクタ経路を定義しましたが，指定された ACOD 経路，又はディレクタ経路の変更に伴って変更される，ほかのプロセサ中の ACOD 経路，又はディレクタ経路のうち，動的接続する ACOD，又は FBD に対応する入出力制御装置を定義していないものがあります。

対処

プロセサ名称で示されるプロセサで，動的接続する ACOD，又は FBD に対応する入出力制御装置を定義するか，又は接続属性を見直してください。

E7023

'OUT' に複数のポートが指定されているため、接続属性 '接続属性' は指定できません。

要因

既に OUT ポートとして複数のポートアドレスが指定されている状態で、指定できない接続属性を指定しました。

接続属性：動的，占有，又は占有切替（切替可能占有接続）

対処

接続属性を見直すか、又は OUT ポートを一つのポートアドレスとなるようにしてください。

E7024

指定したチャンネルは、CNC - CTC 接続用以外の入出力制御装置が接続されているチャンネル 'プロセッサ名称 / チャンネルパス ID' と接続しているため、占有接続はできません。

要因

CNC - CTC 接続用以外の入出力制御装置が接続されているチャンネルと接続しているチャンネルに対して、占有接続を指定しました。

対処

接続，ACOD 経路，又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E7025

指定したチャンネルは、複数の CNC - CTC 接続用の入出力制御装置が接続されているチャンネル 'プロセッサ名称 / チャンネルパス ID' と接続しているため、占有接続はできません。

要因

複数の CNC - CTC 接続用の入出力制御装置が接続されているチャンネルと接続しているチャンネルに対して、占有接続を指定しました。

対処

接続，ACOD 経路，又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E7026

ポート 'ポートアドレス' は、ほかの {ACOD | ディレクタ} 経路で 'OUT2' に指定しているため多段接続できません。

要因

既に 2 段目の入出力制御装置側に指定しているポートアドレスに対して、多段接続をしようとしていました。

対処

ACOD 経路，又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E7601

指定した {ACOD | ディレクタ} 経路は、接続定義ウィンドウのリンクアドレスの定義内容と一致していません。

要因

既に ACOD 経路、又はディレクタ経路を定義しているチャンネルに対して、接続定義ウィンドウでリンクアドレスの定義内容を変更しました。

対処

リンクアドレスの定義内容、ACOD 経路、又はディレクタ経路を見直してください。

E7901

チャンネル定義が入出力構成定義データに存在しません。

要因

ACOD 経路で指定されているチャンネルが、搬入した入出力構成定義データの中に定義されていません。

対処

ACOD 経路で指定されているチャンネルが定義された入出力構成定義データを搬入するか、又はチャンネル定義ウィンドウでチャンネルを定義してください。

E7902

チャンネルが定義エラーになっています。

要因

ACOD 経路で指定されているチャンネルの定義で何らかのエラーが発生しています。

対処

チャンネル定義ウィンドウでエラーの内容を確認して、定義内容を修正してください。

E7903

チャンネルタイプが CNC、CTC 又は CVC 以外です。

要因

ACOD 経路で指定されているチャンネルは、CNC、CTC、又は CVC 以外のチャンネルタイプのチャンネルです。

対処

チャンネル定義ウィンドウでチャンネルタイプを見直してください。

E7904

チャンネルには {ACOD | ディレクタ} 経路が既に定義されています。

要因

ACOD 経路、又はディレクタ経路で指定されているチャンネルに対して ACOD 経路、

又はディレクタ経路が既に定義されています。

対処

ACOD 経路定義ウィンドウ, 又はディレクタ経路定義ウィンドウで指定したチャンネルを見直してください。

E7905

'{リンクアドレス | IOC 名称}' が定義内容と一致しません。

要因

搬入データから生成した ACOD 経路がデータベース中の定義内容と一致していないため, 指定した ACOD 経路は格納できません。

対処

一致しない項目についての定義内容, 又は搬入データを確認してください。

E7906

一つのポートに複数の入出力制御装置が接続する経路のうち, 正常に生成されない経路があります。

要因

搬入データから生成した ACOD 経路で, 一つのポートから複数の入出力制御装置に接続されている経路のうち, データベース中の定義内容と一致しない経路があるため, ACOD 経路が正常に生成されませんでした。

対処

エラーとなった経路に対する定義内容, 又は搬入データを確認してください。

E7907

ACOD 経路が PRMF の定義内容と一致しません。

要因

ACOD 経路がデータベース中の PRMF の定義内容と一致していないため, 格納できません。この ACOD 経路については PRMF の定義内容が引き継がれます。

対処

一致しない項目についての定義内容, 又は搬入データを確認してください。

E8001

指定した { ACOD 名称 | DIR 名称 } は { ACOD | FBD } として定義できない入出力制御装置の IOC 名称と重複しています。

プロセサ名称 / 制御装置番号 (IOC 名称) ...

要因

指定された ACOD 名称, 又は DIR 名称は, 次に示す要因によって ACOD, 又は

FBD として定義できない入出力制御装置の IOC 名称と重複しています。

- ACONARC 非装備のプロセサで定義されています。
- 既に ACOD, FBD 以外の入出力制御装置として定義されています。
- 既にチャンネル又は入出力装置との接続定義がされています。
- CNC チャンネル, 又は FC チャンネルに接続できない入出力制御装置です。
- 制御装置アドレスが 0 以外で定義されています。
- プロセサ内で, 名称を変更した ACOD, 又は FBD に対する入出力制御装置を既に定義しています。
- 同じ PRMF 内で, 同じ IOC 名称の入出力制御装置が複数定義されています。

対処

ACOD 名称, 又は DIR 名称をほかの名称で定義するか, 重複する入出力制御装置の名称を変更するか, 又は ACOD, 又は FBD の入出力装置に接続する入出力制御装置の IOC 名称を, あらかじめ ACOD 定義ウィンドウで ACOD 名称として定義するか, 又はディレクタ経路定義ウィンドウで DIR 名称として定義してください。

E8002

指定した {ACOD | DIR} モデルでは使用できないポートアドレスが, 構成定義で定義されています。

要因

定義済みの ACOD について ACOD モデル, 又は DIR モデルが変更されましたが, 指定した ACOD モデル, 又は DIR モデルでは使用できないポートアドレスが接続定義, ACOD 経路定義, 又はディレクタ経路定義で定義されています。

対処

ACOD モデル, 又は DIR モデルを見直すか, 又は接続定義及び ACOD 経路定義, 又はディレクタ経路定義を見直してください。

E8003

ディレクタ 'DIR 名称' は, 接続定義又はディレクタ経路定義で定義されているため, ディレクタの種別を変更できません。

要因

定義済みのディレクタについて, ディレクタの種別を変更しましたが, 接続定義又はディレクタ経路定義で定義されているため, ディレクタの種別を変更できません。

対処

接続定義又はディレクタ経路定義を見直してください。

E8004

ディレクタ 'DIR 名称' は, ACOD の入出力装置と接続されているため, ディレクタの種別を変更できません。

要因

定義済みのディレクタについて、ディレクタの種別を変更しましたが、既に ACOD の入出力装置との接続定義されているため、ディレクタの種別を変更できません。

対処

接続定義を見直してください。

E8601

指定した入出力制御装置は、既に { ACOD | MTLIB | FBD } として定義されています。

要因

ほかの種別として定義している入出力制御装置を、CNC - CTC 接続用、又は FC - CTC 接続用として登録しようとした。

対処

指定した入出力制御装置を見直してください。

E8602

指定した入出力制御装置は、既にチャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' 以外のチャンネルと接続されています。

要因

次に示す要因があります。

- 既に CNC 又は CTC チャンネル以外のチャンネルに接続している入出力制御装置を、CNC - CTC 接続用として登録しようとした。
- 既に FC 又は CTC チャンネル以外のチャンネルに接続している入出力制御装置を、FC - CTC 接続用として登録しようとした。

対処

指定した入出力制御装置を見直してください。

E8603

指定した入出力制御装置が接続しているポートアドレスのうち、{ほかの入出力制御装置 | ほかの入出力制御装置又はチャンネル} に接続しているものがあります。

要因

次に示す要因があります。

- 登録の追加又は削除時に、指定した入出力制御装置が接続しているポートアドレスのうち、ほかの入出力制御装置に接続しているポートアドレスがあります。
- 登録の削除時に、指定した入出力制御装置が接続しているポートアドレスのうち、チャンネルに接続しているポートアドレスがあります。

対処

指定した入出力制御装置、ACOD 経路、又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E8604

指定した入出力制御装置は、チャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' のチャンネルには接続できません。

要因

次に示す要因があります。

- CNC 及び CTC チャンネルに接続できない入出力制御装置を、CNC - CTC 接続用として登録しようとした。
- FC 及び CTC チャンネルに接続できない入出力制御装置を、FC - CTC 接続用として登録しようとした。

対処

指定した入出力制御装置を見直してください。

E8605

指定した入出力制御装置は、{ACOD | ディレクタ} 経路定義で接続属性 '占有切替' を定義しているチャンネルと接続されています。

要因

ACOD 経路定義、又はディレクタ経路定義で切替可能占有接続をしている入出力制御装置を、CNC - CTC 接続用として登録しようとした。

対処

指定した入出力制御装置、ACOD 経路、又はディレクタ経路の定義内容を見直してください。

E9101

構成定義データに重要エラーがあります。

要因

構成定義データに重要エラーがあります。

対処

エラー情報表示ダイアログでエラーを確認して、修正してください。

E9102

チャンネル、入出力制御装置、又は入出力装置を一つも定義していません。

要因

チャンネル、入出力制御装置、又は入出力装置を一つも定義していません。

対処

チャンネル、入出力制御装置、又は入出力装置を定義してください。

E9103

チャンネルと接続していない入出力制御装置があります。

入出力制御装置：制御装置番号（IOC 名称）...

要因

チャンネルと接続していない入出力制御装置があります。

対処

制御装置番号（IOC 名称）で示される入出力制御装置に対し、接続定義ウィンドウでチャンネルと接続するか、又は入出力制御装置定義ウィンドウで入出力制御装置を削除してください。

E9104

入出力装置を指定していない装置グループがあります。

要因

入出力装置を指定していない装置グループがあります。

対処

エラー情報表示ダイアログでエラー箇所を確認して、修正してください。

E9105

定義した入出力装置にディスク装置が一つありません。

要因

定義した入出力装置の中にディスク装置の定義がありません。

対処

入出力装置定義ウィンドウでディスク装置を定義してください。

E9106

ACOD 経路を定義している ACOD が一つもないか、又は ACOD が一つも定義されていません。

要因

ACOD 経路を定義している ACOD が一つもないか、又は ACOD が一つも定義されていません。

対処

ACOD 定義ウィンドウ、又はディレクタ定義ウィンドウ及び ACOD 経路定義ウィンドウ、又はディレクタ経路定義ウィンドウで ACOD 構成を定義してください。

E9107

入出力制御装置の総数が定義できる上限値 ' 上限値 ' を超えています。

要因

入出力制御装置の台数が、定義対象のプロセサの CPU モデルで定義できる上限値を

超えました。CPU モデル別の入出力制御装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

上限値以下になるよう入出力制御装置の定義を変更してください。

E9108

装置アドレスを定義していない入出力制御装置があります。

要因

装置アドレスを定義していない入出力制御装置があります。

対処

エラー情報表示ダイアログでエラー箇所を確認して、修正してください。

E9109

ACONARC 制御機能の対象となる入出力制御装置が経由する ACOD に、ACOD 経路が定義されていません。

ACOD : ACOD 名称 / プロセッサ名称...

要因

ACONARC 制御機能の対象となる入出力制御装置が経由する ACOD に、ACOD 経路が定義されていません。

対処

ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで、ACOD 名称で示される ACOD を経由する入出力制御装置を ACONARC 制御機能の制御対象から削除するか、又は ACOD に対する入出力制御装置に対して ACOD 経路を定義してください。

E9110

入出力装置の総数が定義できる上限値 ' 上限値 ' を超えています。

要因

入出力装置の台数が、定義対象のプロセッサの CPU モデルで定義できる上限値を超えました。CPU モデル別の入出力装置の台数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」、又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

上限値以下になるよう入出力装置の定義を変更してください。

E9111

次に示すプロセサの ACOD 経路が正しく定義されていません。

プロセサ：プロセサ名称...

要因

プロセサ名称で示されるプロセサの ACOD 経路にエラーがあります。

対処

エラー情報表示ダイアログでエラー箇所を確認して、修正してください。

E9112

ACONARC 制御機能の対象となる入出力制御装置が経由する ACOD に、入出力装置が接続されていません。

ACOD：ACOD 名称 / プロセサ名称...

要因

ACONARC 制御機能の対象となる入出力制御装置が経由する ACOD に、ACOD の入出力装置が接続されていません。

対処

ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで、ACOD 名称で示される ACOD を接続する入出力制御装置を ACONARC 制御機能の制御対象から削除するか、又は ACOD に対する入出力制御装置に対して ACOD の入出力装置と接続を定義してください。

E9113

ACONARC 制御機能の対象となるポートの内部接続ポートのうち、ACONARC 制御機能の対象となるポートが上限値 ' 上限値 ' を超えています。

ACOD：ACOD 名称 / ポートアドレス...

要因

ACONARC 制御機能の対象となるポートの内部接続ポートのうち、ACONARC 制御機能の対象となるポートが上限値を超えています。

対処

上限値以下になるように ACOD 名称 / ポートアドレスで示されるポートの ACOD 経路定義を削除するか、又は ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで、ACONARC 制御機能の対象となるポートが接続する入出力制御装置を ACONARC 制御機能の制御対象から削除してください。

E9114

選択したプロセサを LPAR 構成定義で定義している LPAR に登録していません。

要因

選択したプロセサを LPAR 構成定義で定義している LPAR に登録していません。

対処

システム構成の設定ウィンドウで、プロセサに対して LPAR 番号を指定した後、指定した LPAR 番号を LPAR 構成定義ウィンドウで定義しているかを確認してください。

E9115

CNC チャンネル、又は BLMPX・CVC チャンネルのどれかが定義されていない EXPATH があります。

要因

CNC チャンネル、又は BLMPX・CVC チャンネルのどれかのチャンネルが一つも定義されていない EXPATH があります。

対処

エラー情報表示ダイアログでエラー箇所を確認して、修正してください。

E9116

共用又は専用属性のチャンネルに対して、割り当てを指定する LPAR が定義されていません。

要因

共用又は専用属性のチャンネルに対して、割り当てを指定する LPAR が定義されていません。

対処

エラー情報表示ダイアログでエラー箇所を確認して、修正してください。

E9117

入出力装置を割り当てる LPAR に指定した LPAR 番号が、入出力装置を接続しているチャンネルで一つも割り当て定義されていません。

入出力装置：デバイス番号（管理名称）...

要因

入出力装置を割り当てる LPAR に指定した LPAR 番号が、入出力装置を接続しているチャンネルで一つも割り当て定義されていません。

対処

LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウで、指定されている LPAR 番号を削除した後、LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウで指定されている LPAR 番号を指定してください。

E9119

ACONARC 制御機能の対象となるポートのうち、ACONARC 制御機能のシNTAXレベル ' シNTAXレベル ' では制御対象にできないポートアドレスがあります。

ACOD : ACOD 名称 / ポートアドレス...

要因

ACONARC 制御機能の対象となるポートアドレスのうち、システム構成の設定で指定した ACONARC 制御機能のシNTAXレベルでは制御対象にできないポートアドレスがあります。

対処

次に示すどれかの対処をしてください。

- ACOD 経路で、制御対象にできるポートアドレスに変更してください。
- ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで、制御対象にできないポートアドレスを接続している入出力制御装置を ACONARC 制御機能の制御対象から削除してください。
- システム構成の設定で指定している ACONARC 制御機能のシNTAXレベルを見直してください。

E9120

構成定義データのエラーチェックを実行した結果、重要エラーがあります。

要因

構成定義データのエラーチェックを実行した結果、重要エラーがあります。

対処

構成定義データチェックダイアログでエラーを確認して、修正してください。

E9121

複数の EXPATH で重複しているものがあります。

LABEL : ラベル...

要因

複数の EXPATH で重複しているものがあります。

対処

EXPATH 定義ウィンドウで、重複しないように定義を削除するか、又は定義を修正してください。

E9122

BTAM リモート局の入出力装置を接続する入出力制御装置が定義できる上限値 ' 上限値 ' を超えています。

要因

BTAM リモート局の入出力装置を接続する入出力制御装置が定義できる上限値を超えました。

対処

上限値以下になるよう BTAM リモート局の入出力装置を接続する入出力制御装置の接続を削除するか、又は BTAM リモート局の入出力装置を削除してください。

E9123

CFS チャネルと接続する入出力装置に対し、複数の入出力制御装置を接続しています。

入出力装置：デバイス番号（管理名称）...

要因

CFS チャネルと接続する入出力装置に対し、複数の入出力制御装置を接続しています。

対処

接続定義ウィンドウで入出力制御装置との接続を削除するか、又は入出力制御装置定義ウィンドウで入出力制御装置を削除してください。

E9124

接続属性が動的の ACOD 経路が経由する ACOD を入出力制御装置として定義していないものがあります。

ACOD：ACOD 名称...

要因

接続属性が動的の ACOD 経路が経由する ACOD を入出力制御装置として定義していないものがあります。

対処

入出力制御装置定義ウィンドウで接続属性が動的の ACOD 経路が経由する ACOD を入出力制御装置として定義するか、又は接続定義ウィンドウで接続属性が動的の ACOD 経路を削除してください。

E9125

入出力制御装置と接続していない入出力装置があります。

入出力装置：デバイス番号（管理名称）...

要因

入出力制御装置と接続していない入出力装置があります。

対処

デバイス番号（管理名称）で示される入出力装置に対し、接続定義ウィンドウで入出力制御装置と接続するか、又は入出力装置定義ウィンドウで入出力装置を削除してください。

E9126

LPAR 構成定義で LPAR を一つも定義していません。

要因

LPAR 構成定義で LPAR を一つも定義していません。

対処

LPAR 構成定義ウィンドウで LPAR を定義してください。

E9127

チャンネルタイプ 'チャンネルタイプ' のチャンネル数が上限値 '上限値' を超えています。

要因

指定したチャンネルタイプのチャンネル数が、定義対象のプロセッサの CPU モデルで定義できる上限値を超えました。CPU モデル別のチャンネル数の上限値については、マニュアル「VOS3 システムゼネレーション」、又は「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

上限値以下になるようチャンネルの定義内容を変更してください。

E9128

論理 AC の割り当て量、又は論理 AC に対する実行優先順位を定義した状態で、AC の論理 IP 番号を定義していない LPAR があります。

LPAR : LPAR 名称...

要因

論理 AC の割り当て量、又は論理 AC に対する実行優先順位を定義した状態で、アクセラレートプロセッサの論理 IP 番号を定義していない LPAR があります。

対処

エラー情報表示ダイアログでエラー箇所を確認して、修正してください。

E9301

指定した ACOD は既にデータベースで定義されているため、'フィールド名' は変更できません。

要因

データベースで定義している ACOD について、ACOD モデル、又は DIR モデルを変更しようとしてしました。

対処

ACOD モデル、又は DIR モデルを変更する場合は、搬入処理を中止して ACOD 定義ウィンドウで ACOD モデルを変更するか、又はディレクトリ定義ウィンドウで DIR モデルを変更してから再度搬入処理を実行するか、又は搬入完了後に ACOD 定義

ウィンドウで ACOD モデルを変更するか、又はディレクタ定義ウィンドウで DIR モデルを変更してください。

E9302

指定した { ACOD 名称 | DIR 名称 } は、{ ACOD | FBD | 対象のディレクタ種別 } 以外の IOC 名称と重複しています。

{ ACOD : ACOD 名称 | ディレクタ : DIR 名称 }

要因

指定した ACOD 名称、又は DIR 名称は、定義内容又は搬入データ中の対象ディレクタ種別以外の IOC 名称と重複しています。

対処

ACOD 名称、又は DIR 名称を見直してください。

E9901

装置グループ定義ウィンドウで定義している入出力装置の総数が搬出できる上限値 ' 上限値 ' を超えています。

要因

装置グループ定義ウィンドウで定義している入出力装置の総数が、搬出できる上限値を超えました。

対処

上限値以下になるよう装置グループ定義ウィンドウでの入出力装置の定義を変更してください。

EB002

{ ' フィールド名 ' | ' フィールド名 1 = 値 1 または フィールド名 1 = 値 2 ' } を指定した場合、' フィールド名 2 ' は省略できません。

要因

フィールド名 1 で示されるフィールドを指定した場合、又はフィールド名 1 で示されるフィールドに値 1 又は値 2 を指定した場合、フィールド名 2 で示されるフィールドは省略できません。それぞれの指定値の関係については、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

フィールド名 1、又はフィールド名 2 の指定を見直してください。

EB004

56 文字以内の英数字を指定してください。

要因

COMMAND フィールドに 56 文字より多い英数字、又は英数字以外を指定しました。

対処

56 文字以内の英数字を指定してください。

EB005

指定した MS サイズ及び MS ロケーションの指定値では、物理主記憶容量 '物理主記憶容量' を超えます。

要因

物理主記憶容量を超える MS サイズ及び MS ロケーションを指定しました。

対処

MS サイズ及び MS ロケーションの指定値を見直してください。

EB007

指定した 'LPAR 名称' は LPAR 名称として使用できません。

要因

LPAR 名称として 'ALL' 又は 'FORCE' を指定しました。

対処

'ALL' 又は 'FORCE' 以外の名称を指定してください。

EB008

指定した LPAR 番号 'LPAR 番号' は、ほかのプロセサとの対応付けが定義されています。

プロセサ：プロセサ名称

要因

指定した LPAR 番号は、ほかのプロセサとの対応付けが定義されています。

対処

ほかのプロセサとの対応付けが定義されていない LPAR 番号を指定してください。

EB009

'フィールド名' を指定する場合は、'チェックボックス名' をオンにしてください。

要因

チェックボックス名がオフの場合は指定できないフィールドを指定しました。

対処

フィールド名を指定しないか、又はチェックボックス名をオンにした後にフィールド名を指定してください。

EB011

'チェックボックス名1'をオンにする場合は,'チェックボックス名2'をオフにしてください。

要因

'チェックボックス名2'と'チェックボックス名1'をともにオンにしました。

対処

どちらかのチェックボックスをオフにしてください。

EB012

'チェックボックス名1'をオンにする場合は,'チェックボックス名2'をオンにしてください。

要因

- 'チェックボックス名2'がオフのときに'チェックボックス名1'をオンにしました。
- 'チェックボックス名1'がオンのときに'チェックボックス名2'をオフにしました。

対処

'チェックボックス名1'をオンにする場合は,'チェックボックス名2'をオンにしてください。

'チェックボックス名2'をオフにする場合は,'チェックボックス名1'をオフにしてください。

EB013

指定した { LPAR 名称 | LPAR 番号 } は I/O グループ間で重複しています。

要因

指定した LPAR 名称又は, LPAR 番号は I/O グループ間で重複しています。

対処

重複しない LPAR 名称又は, LPAR 番号を指定してください。

EB014

AC に指定した最大論理 IP 番号が不正です。MAXCOUNT, COUNT 又は AC に指定した最大論理 IP 番号を変更してください。

要因

AC に指定した最大論理 IP 番号が, MAXCOUNT 又は COUNT の値以上となっています。

対処

次に示すどれかの対処をしてください。

- 最大論理 IP 番号を MAXCOUNT 又は COUNT より小さくしてください。
- MAXCOUNT 又は COUNT に最大論理 IP 番号より大きい値を指定してください。

ECF01

指定した { PRMF 構成 ' 物理プロセッサ名称 ' の LPAR 番号 ' LPAR 番号 ' | 物理 CPU 構成 ' 物理 CPU 名称 ' の I/O グループ番号 ' I/O グループ番号 ' } は、既に { プロセッサ ' プロセッサ名称 ' | 物理プロセッサ ' 物理プロセッサ名称 ' } で定義されています。

要因

次に示す要因があります。

- 指定した PRMF 構成の LPAR 番号は、既にほかのゲスト OS との対応が定義されています。
- 指定した物理 CPU 構成の I/O グループ番号は、既にほかの物理プロセッサとの対応が定義されています。

対処

PRMF 構成、LPAR 番号の定義、物理 CPU 構成又は I/O グループ番号を見直してください。

EF201

チャンネル ' チャンネルパス ID ' はチャンネル割り当て属性 ' チャンネル割り当て属性 ' で定義されているため、{ 複数の LPAR | すべての LPAR } に割り当てを指定できません。

要因

複数の LPAR に割り当てを指定できないチャンネル割り当て属性のチャンネルを、複数又はすべての LPAR に割り当てようとした。

対処

チャンネルを一つの LPAR に割り当てるか、又はチャンネル割り当て属性の定義を見直してください。

EF202

チャンネル ' チャンネルパス ID ' は同じ LPAR への割り当てが禁止されているため、すべての LPAR に割り当てを指定できません。

要因

EXPATH 定義ウィンドウで EXPATH 定義しているチャンネルを、すべての LPAR に割り当てようとした。

対処

チャンネルを特定の LPAR に割り当てるか、又は EXPATH 定義を見直してください。

EF203

LPAR ' LPAR 名称 ' には、既にチャンネル ' チャンネルパス ID ' と同じ LPAR への割り当てが禁止されているチャンネルが割り当てられています。

EXPATH : ラベル / チャンネルパス ID (チャンネルタイプ)

要因

EXPATH 定義ウィンドウで定義しているチャンネルについて、既に割り当ての指定がされているチャンネル以外のチャンネルの割り当てが禁止されている LPAR に割り当てを指定しようとした。

対処

LPAR へのチャンネルの割り当て定義、又は EXPATH 定義を見直してください。

EF204

チャンネル ' チャンネルパス ID ' と ' チャンネルパス ID ' は同じ LPAR への割り当てが禁止されているため、同時に選択できません。

EXPATH : ラベル / チャンネルパス ID (チャンネルタイプ)

要因

LPAR に割り当てを指定するチャンネルとして、同じ LPAR への割り当てが禁止されているチャンネルを同時に選択しました。

対処

LPAR に割り当てるチャンネルの定義、又は EXPATH 定義を見直してください。

EF230

指定したチャンネル ' チャンネルパス ID ' は、既にチャンネル ' チャンネルパス ID (チャンネルタイプ) ' と同じ LPAR ' LPAR 名称 ' に割り当てられています。

要因

既に同じ LPAR に割り当てられている CNC チャンネル又は BLMPX・CVC チャンネルについて、同じ LPAR への割り当てを禁止しようとした。

対処

EXPATH 定義、又は LPAR へ割り当てるチャンネルの定義を見直してください。

EF231

EXPATH の総数が定義できる上限値 ' 上限値 ' を超えました。

要因

EXPATH の定義数が定義できる上限値を超えました。

EXPATH の定義数の上限値については、マニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E2 使用の手引」又はマニュアル「プロセッサ資源分割管理機構支援 PRMA E3 使用の手引」を参照してください。

対処

上限値以下となるように定義してください。

EF401

入出力装置 'デバイス番号(管理名称)' の割り当てを指定している LPAR が一つもなくなるので、割り当てを指定した LPAR を削除できません。

要因

入出力装置の割り当てを指定している LPAR をすべて削除しようとした。

対処

入出力装置の割り当てを指定している LPAR を変更する場合は、まずほかの割り当てる LPAR を定義してから不要な LPAR を削除してください。

(4) エラー種別が I のメッセージ

I0001

編集中のレコードが保存されていません。

要因

編集中のレコードを確定しないまま、ほかのウィンドウに移動しました。

対処

編集中のレコードを保存する必要がある場合は、元のウィンドウに戻り編集中のレコードを確定してください。

I0002

'値' は見付かりませんでした。

要因

指定された値と一致する値が見付かりませんでした。

対処

指定値を見直してください。

I0003

対象となる '値' を選択してください。

要因

要求された処理の対象となる値が選択されていません。

対処

対象とする値を選択した後、処理を実行してください。

I0004

ワイルドカードの使い方が不正です。

要因

ワイルドカードが正しく指定されていません。

対処

ワイルドカードを正しく指定してください。

I0005

データの形式が一致しないため、データを貼り付けることができません。

要因

次に示す要因があります。

- フィールド中のデータをコピーして、レコード又は複数のセルを選択して貼り付けようとした。
- レコード又は複数のセルのデータをコピーして、フィールド中のデータとして貼り付けようとした。
- 他のアプリケーションでデータをコピーして、レコード又は複数のセルを選択して貼り付けようとした。
- チェックボックスに、数字以外の文字を含む文字列を貼り付けようとした。
- 入力できる文字が制限されているフィールドに、入力できない文字を含む文字列を貼り付けようとした。

対処

コピーしたデータ、又は貼り付け先を見直してください。

I0006

次のフィールドは省略できません。必ず指定してください。'フィールド名'

要因

省略できないフィールドに値を指定しないで、レコードを保存しようとした。

対処

省略できないフィールドをすべて指定するか、レコードの保存を取り消してください。

I0007

レコードの削除はできません。

要因

削除できないレコードを削除しようとした。

対処

指定したレコードを削除しないでください。

I0008

データの貼り付けを中止します。

要因

データの貼り付け中にエラーが発生しました。

対処

エラーとなった要因を取り除いた後、再度データのコピー及び貼り付けを実行してください。

I0009

検索を実行できません。

要因

次に示す要因があります。

- 検索するフィールド、又はフィールドのデータがありません。
- Tab キーで移動できないフィールドに対して、フィールドセレクトをクリックしてフィールド全体を選択しています。

対処

要因を排除して、もう一度実行します。

I0010

ウィンドウを表示する領域が小さすぎます。

要因

初期ウィンドウのサイズが、指定されたウィンドウを表示できるサイズではありません。

対処

初期ウィンドウのサイズを広げて、もう一度ウィンドウを表示してください。

I0011

{ 'ファイル名' | '絶対パスのファイル名' } が見付かりません。パス及びファイル名を確認してください。

要因

指定したファイル名が指定したフォルダ内に存在しません。

対処

ファイル名又はフォルダを確認して、指定し直してください。

I0012

レコードを挿入できません。

要因

次に示す要因があります。

- キーとなる値が生成できません。
- カレントレコードが編集集中です。
- カレントレコードが追加レコードです。

対処

- キーとなる値が生成できない場合：レコードを増やせないで、定義済みのレコードを削除するか、又は定義済みのレコードを変更してください。
- カレントレコードが編集中的の場合：編集中的のレコードを確定した後にレコードを挿入してください。
- カレントレコードが追加レコードの場合：追加レコードに値を指定してください。その位置にレコードが追加されます。

I0013

コメントの { コピー | 削除 } は実行できません。

要因

次に示す要因があります。

- 表示中の定義ウィンドウでは、データが 1 件も定義されていません。
- 表示中の定義ウィンドウでは、編集中的のレコードが保存されていません。
- 表示中の定義ウィンドウでは、操作モードが [表示] となっています。

対処

- データが 1 件も定義されていない場合：表示中のウィンドウ、又は選択しているプロセサを見直してください。
- 編集中的のレコードが保存されていない場合：編集中的のレコードを保存してから、再度実行してください。
- 操作モードが [表示] となっている場合：操作モードを [編集] にしてから、再度実行してください。

I0016

フィルタの実行はできません。

要因

フィルタの実行ができないウィンドウ又はウィンドウのヘッダで、フィルタを実行しようとした。

対処

フィルタの実行ができるウィンドウに移動するか、又は定義シートにカーソルを移動して実行してください。

I0017

生成情報の確認はできません。

要因

次に示す要因があります。

- 装置情報の確認が実行できないウィンドウです。
- 指定したレコードが編集中的です。
- 指定したレコードが追加レコードです。
- 装置情報の生成対象となるフィールドに値を指定していません。

対処

- 装置情報の確認が実行できないウィンドウの場合：入出力装置定義ウィンドウに移動してください。
- 指定したレコードが編集中の場合：編集中のレコードを保存した後，装置情報を確認してください。
- 指定したレコードが追加レコードの場合：定義済みのレコードに移動して，装置情報を確認してください。
- 装置情報を確認するフィールドに値を指定していない場合：値を指定して保存した後，装置情報を確認してください。

I0018

変更記録のクリアはできません。

要因

メインウィンドウが非アクティブの状態に変更記録のクリアを実行しようとした。

対処

メインウィンドウをアクティブにしてから実行してください。

I0019

エラー内容の表示はできません。

要因

ERROR フィールドのないレコードに対して，エラー内容の表示を実行しました。

対処

ERROR フィールドのあるレコードにカーソルを移動して実行してください。

I0020

エラーはありません。

要因

エラーの発生していないレコードに対して，エラー内容の確認を実行しました。

対処

ERROR フィールドにエラー番号が表示されているレコードで実行してください。

I0021

指定された条件に該当するレコードは 1 件もありません。

要因

指定された条件に該当するレコードがありません。

対処

フィルタの実行条件を見直してください。

I0024

メモリ不足が発生しました。

要因

SCMRF CD for Windows で使用するためのメモリが不足しています。

対処

使用していないアプリケーションなどを終了してください。

I0025

ディスクの空き容量が不足です。

要因

ディスクの空き容量が不足しています。

対処

必要がないファイルをほかのドライブに移動するか、又は削除してください。

I0026

これ以上ウィンドウを開くことはできません。

要因

ウィンドウを開き過ぎています。

対処

使用していないウィンドウを閉じてください。

I0027

処理中にエラーが発生しました。

エラー番号：エラー番号

エラー内容：エラーの説明

関数名：関数名

要因

処理中にエラー番号及びエラーの説明に表示されたエラーが発生しました。

対処

もう一度実行してください。もう一度実行してもエラーが発生する場合は、センタ管理者に連絡してください。センタ管理者は、「8. 障害対策」を参照して資料を採取した後、バックアップファイルからファイルを復元してください。

I0028

これ以上テーブルを開くことはできません。

要因

ウィンドウを多く開いています。

対処

必要がないウィンドウを閉じてください。

I0029

通常使うプリンタがありません。Windows のコントロールパネルを使って選択するか、又は組み込んでください。

要因

Windows で通常使うプリンタを設定していません。

対処

通常使うプリンタを Windows のコントロールパネルを使って設定するか、又はプリンタを組み込んでください。

I0030

指定したドライブが開けません。

要因

次に示すどれかの要因が発生しています。

- 指定されたドライブにディスクがセットされていません。
- ディスクドライブのドアが開いています。
- アクセスしようとしたデバイスがオンラインでないか、又は存在しません。

対処

要因を排除して、もう一度実行してください。

I0031

ファイル名にワイルドカードは使えません。

要因

ファイル名にワイルドカード (* , ?) を指定しています。

対処

ワイルドカードがないファイル名を指定し、もう一度実行してください。

I0032

指定したファイルが開けません。

要因

指定したファイルが他のアプリケーションで使われています。

対処

指定したファイル名を見直すか、又は指定したファイルを閉じた後、もう一度実行してください。

I0033

更新しようとしたレコード又はテーブルは、既にほかの処理で使用されています。

要因

ほかの処理で使用しているレコード又はテーブルを更新しようとした。

対処

ほかの処理で使用しているレコード又はテーブルを保存してから、もう一度実行してください。

I0034

フォルダを作成することができません。

要因

フォルダ名規則に反した名称を指定しています。

対処

フォルダ名を確認して、指定し直してください。

I0035

ファイル '絶対パスのファイル名' のサイズがバイト数を超えているため、読み込むことができません。

要因

指定したファイル名のサイズがバイト数を超えています。

対処

ファイルのサイズを確認してください。

I0036

ファイル '絶対パスのファイル名' の中に全角文字が含まれているため、読み込むことができません。

要因

指定したファイルの中には全角文字が含まれています。

対処

ファイルの内容を確認してください。

I0037

ファイル名が正しくありません。

要因

ファイル名規則に反した名称を指定しています。

対処

ファイル名を確認して、指定し直してください。

I0038

上書き禁止になっているため、ファイルを作成できません。

要因

作成しようとしたファイルが上書き禁止か、又はディスク装置が書き込み禁止になっています。

対処

ファイルの書き込み禁止状態を解除するか、又はディスク装置を書き込みできる状態にしてください。

I1001

表示しているほかのウィンドウ及びレポートを閉じて、もう一度レコード更新処理を実行します。閉じられたウィンドウ及びレポートの表示が必要であれば、もう一度開いてください。

要因

複数のウィンドウを開いているため、メモリ不足などのシステム資源の不足によって、レコードの更新処理が実行できません。

対処

要因を排除して、もう一度実行してください。

I1002

ゲスト OS での定義状態は確認できません。

要因

次に示す要因があります。

- ゲスト OS 定義状態の確認が実行できないウィンドウです。
- カレントレコードでキーとなる値が指定されていません。

対処

- ゲスト OS 定義状態の確認が実行できないウィンドウの場合：実行できるウィンドウに移動してください。
- カレントレコードでキーとなる値が指定されていない場合：キーとなる値を指定して、再度実行してください。

I1003

ほかのウィンドウでのレコードの編集をキャンセルして、もう一度レコード更新処理を実行します。レコードの編集がキャンセルされたウィンドウについては、もう一度レコードの編集をしてください。

要因

更新の必要なレコードがほかのウィンドウで編集中のため、レコードの更新処理が実行できません。

対処

要因を排除して、もう一度実行してください。

I3101

入出力制御装置 '制御装置番号 (IOC 名称)' は、{ ACOD | FBD } に対する入出力制御装置です。動的接続するポートアドレスがあるため削除できません。

要因

動的接続のポートのポートアドレスを指定している ACOD、又は FBD に対する入出力制御装置を削除、又はほかの入出力制御装置に変更しようとしています。

対処

ACOD、又は FBD を削除する場合、ACOD 定義ウィンドウ、又はディレクタ定義ウィンドウで削除してください。ACOD、又は FBD に対する入出力制御装置の定義の削除だけの場合、ポートをすべて動的接続以外のポートに変更してから、削除してください。

I4004

FEATURE に '選択機能' が指定されているため、'フィールド名 = 値' を仮定します。

要因

FEATURE フィールドに選択機能で示される機能が指定されたため、フィールド名で示されるフィールドに対して値を設定しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

I4F01

指定した入出力装置はゲスト OS で定義しているため、'{ UNIT | MODEL }' はリスト項目と同じテキストを入力してください。

要因

ゲスト OS で定義している入出力装置に対して、VOS3 では指定できない装置形式を指定しました。

対処

UNIT 及び MODEL フィールドは、リスト項目と同じテキストを指定してください。

I5001

装置グループ '装置グループ名' はシステムで使用しているため、定義内容を変更できません。

要因

システムで使用している装置グループに対して、定義内容を変更しようとしてしました。

対処

システムで使用していない装置グループの定義内容を変更してください。

I5004

入出力装置 ' デバイス番号 (管理名称) , 装置数 ' はシステムで予約している装置グループ ' 装置グループ名 ' で対象としているため、定義内容を変更できません。

要因

システムで予約している装置グループで対象としている入出力装置の定義内容を変更しようとしていました。

対処

システムで予約していない装置グループに対して変更する場合、変更後の定義内容で入出力装置を新しく定義して、その入出力装置を、システムで予約していない装置グループで対象としてください。

I5011

移動できません。

要因

次に示す要因があります。

- 先頭レコードを上へ移動しようとしています。
- 最終レコードを下へ移動しようとしています。
- カレントレコードが追加レコードです。

対処

要因で示される操作をしないように移動してください。

I6009

指定したチャンネルは { ACOD | ディレクタ } 経路が定義されているため、リンクアドレスの定義内容は変更できません。

要因

既に ACOD , 又は FBD を定義しているチャンネルパスに対して、リンクアドレスの定義内容を更新しました。

対処

ACOD 経路定義ウィンドウ、又はディレクタ定義ウィンドウで、定義内容を変更してください。なお、リンクアドレスだけを定義する場合は、ACOD 定義、又はディレクタ定義削除してから実行してください。

I7002

多段接続をしている { ACOD | ディレクタ } 経路があります。

要因

ACOD を多段接続していますが、多段接続なしにしようとしています。

対処

多段接続の定義を削除してから、多段接続なしに切り替えてください。

I7012

‘フィールド名’は変更できません。

要因

次に示す要因があります。

- CNC - CTC 接続の ACOD 経路, 又はディレクタ経路で, ほかのプロセサのチャンネルに接続している入出力制御装置に対し, 接続するポートアドレスを変更しようとしています。
- FC - CTC 接続のディレクタ経路で, ほかのプロセサのチャンネルに接続している入出力制御装置に対し, 接続するポートアドレスを変更しようとしています。

対処

接続先プロセサのチャンネルに接続するポートアドレスを変更してください。

I8002

変更するポートアドレスが選択されていません。

要因

変更するポートアドレスを選択しないで, ポートアドレスの変更を選択しました。

対処

変更するポートアドレスを選択して, 実行してください。

I8003

変更できるポートアドレスが見つかりません。

要因

選択したポートアドレスと置き換えられるポートアドレスがありません。

対処

変更できるポートアドレスを定義して, 実行してください。

I9001

入出力構成定義データを搬入した後, ACOD 構成定義データを搬入してください。

要因

入出力構成定義データが一つも搬入されていませんが, ACOD 構成定義データを搬入対象にしています。

対処

入出力構成定義データを同時に搬入対象にするか, 又は入出力構成定義データを搬入した後で, ACOD 構成定義データを搬入対象にしてください。

I9003

{ 'ファイル名' | '絶対パスのファイル名' } ファイルのデータが不正です。転送ファイルを作り直すか、転送ファイルのファイル拡張子を cdf にしてください。

要因

指定したファイル名の拡張子が「cdf」以外か、又は認識できないファイル形式です。

対処

指定したファイルが、転送ファイルであるか、又は壊れていないか確認して、正しいファイル名を指定してください。

I9004

{ 'ファイル名' | '絶対パスのファイル名' } には、{ プロセサ名称の入出力 | ACOD } 構成定義データがありません。ファイル名又は情報識別子が正しいか確認してください。

要因

指定したファイルの中に搬入対象にした構成定義データがありません。

対処

搬入対象にした構成定義データが含まれるファイル名を指定して、もう一度実行してください。

I9009

転送ファイル名が正しくありません。

要因

ファイル拡張子に「cdf」以外を指定したか、又はファイル名規則に反した名称を指定しています。

対処

ファイル名を確認して、指定し直してください。

I9011

転送ファイルのプロトコルバージョンが不整合です。

要因

読み込んだ転送ファイルのプロトコルバージョンが、使用中の SCMRF CD for Windows で読み込めません。

対処

プロトコルバージョンの不整合にならないファイル名を指定して、もう一度実行してください。

I9012

プロセサ名称の削除はできません。

要因

ACOD 構成に関するデータを搬入する、プロセサ名称を削除しようとしています。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

I9014

一回の搬出操作で、同じ情報識別子を持つプロセサ名称は対象にできません。

要因

同じ情報識別子を持つ複数の入出力構成定義データを搬出対象にしています。

対処

2 回に分けて搬出するか、又は一方の情報識別子を変更してください。

I9015

搬出するファイルが、許容量を超えました。

要因

出力中のファイルが、転送ファイルの許容量である 2 ギガバイトを超えました。

対処

搬出するプロセサの数を減らして、ファイルを分けるなどして、許容量を超えないようにしてください。

I9016

上書き禁止になっているため、転送ファイルを作成できません。

要因

作成しようとしたファイルが上書き禁止か、又はディスク装置が書き込み禁止になっています。

対処

ファイルの書き込み禁止状態を解除するか、又はディスク装置を書き込みできる状態にしてください。

I9018

ACONARC 非装備のプロセサに対し、ACONARC 装備のプロセサのデータは搬入できません。'プロセサ名称' の搬入を中止します。

要因

ACONARC 非装備となっているプロセサに対し、ACONARC 装備のプロセサのデータを搬入しようとしています。

対処

システム構成の設定及び搬入データを確認してください。

I9019

選択したプロセサに対応する PRMF 構成定義データを搬入してください。

要因

PRMF 構成を定義していない状態で、入出力構成定義データ (ゲスト OS) を搬入対象にしています。

対処

選択したプロセサに対応する PRMF 構成を定義するか、又は PRMF 構成定義データを搬入してください。

I9020

次に示すファイル名は、複数の構成定義データで指定されています。

ファイル名：ファイル名...

要因

ファイル名で示すファイル名は、複数の構成定義データで指定されています。

対処

ファイル名を見直して、もう一度実行してください。

I9021

{ FIBARC | LPAR 間高速連携機能 } の構成を定義できないプロセサに対し、{ FIBARC | LPAR 間高速連携機能 } の構成を含むプロセサのデータは搬入できません。' プロセサ名称 ' の搬入を中止します。

要因

次に示す要因があります。

- FIBARC の構成を定義できないプロセサに対し、FIBARC の構成が定義されているプロセサのデータを搬入しようとしています。
- LPAR 間高速連携機能の構成を定義できないプロセサに対し、LPAR 間高速連携機能の構成が定義されているプロセサのデータを搬入しようとしています。

対処

システム構成の設定及び搬入データを確認してください。

I9022

次に示す構成定義データはファイルが上書き禁止になっているため、ファイルを作成できません。

構成定義データ：構成定義データ...

要因

指定したファイルが上書き禁止か、又はディスク装置が書き込み禁止になっていません。

対処

ファイルの書き込み禁止状態を解除するか、又はディスク装置を書き込みできる状態にしてください。

I9023

次に示す構成定義データのファイル名が正しくありません。

構成定義データ：構成定義データ...

要因

指定したファイル名はファイル名規則に反しています。

対処

ファイル名を確認して、指定し直してください。

I9024

構成定義データに含まれるディレクトラの DIR 名称のうち、ほかの種別として定義済みの入出力制御装置の IOC 名称と重複するものがあるため、搬入できません。' プロセサ名称 ' の搬入を中止します。

ディレクトラ：DIR 名称...

要因

次に示す要因があります。

- 搬入する構成定義データに含まれる ACOD の ACOD 名称のうち、定義済みの ACOD 以外の入出力制御装置の IOC 名称と重複しているものがあります。
- 搬入する構成定義データに含まれる FBD の DIR 名称のうち、定義済みの FBD 以外の入出力制御装置の IOC 名称と重複しているものがあります。

対処

入出力制御装置定義、ACOD 定義、ディレクトラ定義、及び搬入データを確認してください。

I9025

システム構成の設定で ' チェックボックス名 ' をオフにしている状態で、{ACOD | FBD} の構成を含むプロセサのデータは搬入できません。' プロセサ名称 ' の搬入を中止します。

要因

システム構成の設定で、' チェックボックス名 ' をオフにしている状態で ACOD、又は FBD が定義されている構成定義データを搬入しようとしています。

対処

システム構成の設定及び搬入データを確認してください。

I9026

ACOD 構成定義データに含まれる ACOD の ACOD 名称のうち、ほかの種別として定義済みの入出力制御装置の IOC 名称と重複するものがあるため、搬入できません。ACOD 構成定義データの搬入を中止します。

ACOD : ACOD 名称...

要因

搬入する ACOD 構成定義データに含まれる ACOD の ACOD 名称のうち、定義済みの ACOD 以外の入出力制御装置の IOC 名称と重複しているものがあります。

対処

入出力制御装置定義、ACOD 定義、ディレクタ定義、及び搬入データを確認してください。

I9027

システム構成の設定で 'ACOD を定義する' をオフにしている状態で、ACOD 構成定義データを対象にできません。

要因

システム構成の設定で、'ACOD を定義する' をオフにしている状態で、ACOD 構成定義データを搬入対象にしています。

対処

システム構成の設定で、'ACOD を定義する' をオンにしてから ACOD 構成定義データを搬入対象にしてください。

I9101

構成定義データにエラーがありました。

要因

構成定義データのエラーチェックを実行した結果、エラーがありました。

対処

構成定義データチェックダイアログ及びエラー情報表示ダイアログでエラーを確認して、修正してください。

I9401

追加データ ID '追加データ ID' の追加データには、1 行が 80 バイトを超えるデータが含まれています。

要因

次に示す要因があります。

- ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウで指定した追加データ ID の追加データには、1 行が 80 バイトを超えるデータが含まれています。

- ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウで指定済みの追加データ ID の追加データに、1 行が 80 バイトを超えるデータを定義しました。

対処

追加データを確認してください。

I9402

追加データ ID '追加データ ID' の追加データには、全角文字が含まれています。

要因

次に示す要因があります。

- ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウで指定した追加データ ID の追加データに、全角文字が含まれています。
- ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウで指定済みの追加データ ID の追加データに、全角文字を定義しました。

対処

追加データを確認してください。

I9501

ACOD 構成定義データの比較は実行できません。

要因

次に示す要因があります。

- 構成定義データの比較ダイアログの [比較 ACOD] オプションボタンで「任意の ACOD」を選択した状態で、比較 ACOD 選択ダイアログで、比較対象の ACOD を一つも選択していません。

対処

比較 ACOD 選択ダイアログで比較対象の ACOD を選択してください。

I9502

ACOD が一つも定義されていません。

要因

編集中のデータベース及び [オリジナル DB] テキストボックスに指定したデータベースに、ACOD が一つも定義されていません。

対処

ACOD 定義ウィンドウ、又はディレクタ定義ウィンドウで ACOD を定義してください。

I9503

比較 ACOD 選択ダイアログを開くことはできません。

要因

次に示す要因があります。

- 編集中のデータベース、又は [オリジナル DB] テキストボックスに指定したデータベースに ACOD が一つも定義されていません。
- [オリジナル DB] テキストボックスに指定したデータベースが正しくありません。

対処

[OK]: 操作前に戻ります。

I9504

プロセサ名称と同じ名称が存在しないため、オリジナルプロセサ名称は指定する必要がありません。

要因

プロセサ名称と同じ名称が存在しない状態で、[オリジナルプロセサ名称] にプロセサ名称を指定しないで、[対象] チェックボックスを選択状態にしようとした。

対処

オリジナルプロセサ名称にプロセサ名称を指定してください。

I9505

同じプロセサ種別のプロセサが一つも定義されていません。

要因

[オリジナル DB] テキストボックスに指定したデータベースに、同じプロセサ種別のプロセサが一つも定義されていない状態で、[対象] チェックボックスを選択状態にしようとした。

対処

同じプロセサ種別のプロセサが定義されているデータベースを [オリジナル DB] テキストボックスに指定してください。

IA001

' ユーザ名 ' は不正です。

要因

ユーザ名として不正な名前を指定しています。又は登録されていないユーザ名を削除しようとしています。

対処

正しいユーザ名を指定してください。

IA002

' ユーザ名 ' は既に存在します。

要因

登録済みのユーザ名を登録しようとしています。

対処

登録されていないユーザ名を指定してください。

IA003

[確認] ボックスに新しいパスワードを指定してください。

要因

[新しいパスワード] ボックスと [確認] ボックスの内容が異なります。

対処

適切なパスワードを [新しいパスワード] ボックスと [確認] ボックスに指定してください。

IA004

' ユーザ名 ' に対する権限がありません。

要因

[旧パスワード] ボックスに指定したパスワードは、現在設定されているパスワードと異なります。

対処

パスワードを確認して、もう一度実行してください。

IA005

データベースは書き込み禁止です。

要因

選択したファイルが書き込み禁止又は使用中です。

対処

ファイルの状態を確認して、もう一度実行してください。

IA006

ユーザ ' ユーザ名 ' は削除できません。

要因

選択したユーザ名は登録されていないユーザ名です。

対処

ユーザ名を確認して、もう一度実行してください。

IA007

ユーザ ' SYSMNGR ' のユーザ権限は変更できません。

要因

SYSMNGR の権限を変更しようとしています。

対処

[OK]: 権限を変更しないで、処理を続行します。

IA008

拡張子 { 'ldb' | 'laccdb' } のファイルは指定できません。

要因

ファイル名として拡張子が「ldb」又は「laccdb」のファイルを指定しています。

対処

[OK]: データベースの作成ダイアログ又はメインウィンドウに戻ります。
拡張子が「mdb」又は「accdb」のファイルを指定してください。

IA009

パスワードが不正です。

要因

パスワードが 8 文字を超えています。

対処

パスワードを 8 文字以内にしてください。

IA010

データベースは形式が不正なため使用できません。

要因

SCMRP CD for Windows では使用できないデータベースが指定されました。

対処

データベース名称を見直してください。なお、データベース名称が正しい場合はデータベースが破壊されている恐れがあるため、「8. 障害対策」を参照して資料を採取し、保守員に連絡してください。

IA011

データベースの作成に必要なファイルがオープンできませんでした。

要因

データベースの作成に必要なファイル 'cdpdata.accdb' が使用できないか、存在しません。

対処

データベースが破壊、又は削除されている恐れがあるため、保守員に連絡してください。

IA012

データベース 'データベースファイル名' は変換できません。

要因

変換できないデータベースを指定しました。

対処

データベースのファイル名を見直して、正しいファイル名を指定してください。データベースのファイル名が正しい場合、データベースが破壊されている可能性があります。データベースファイルをほかのフォルダに退避した後、データベースを修復してください。データベースを修復しても同じエラーが発生する場合は、「8. 障害対策」を参照して退避したファイルについての資料を採取した後、保守員に連絡してください。

IA013

データベース 'データベースファイル名' は変換対象外の形式です。

要因

Windows 3.1 SCMRP/Configuration Definition for Windows で作成したデータベースを指定しました。

対処

指定したデータベースを確認してください。データベースが正しい場合は、「付録 D Windows 3.1 SCMRP/Configuration Definition for Windows からの移行」を参照して定義データを移行してください。

IC001

ユーザ名又はパスワードが不正です。

要因

登録されていないユーザ名を指定したか、又はパスワードが間違っています。

対処

正しいユーザ名とパスワードの組み合わせを指定してください。

IC002

データベース 'データベースファイル名' はこのバージョンでは使用できません。

要因

現在動作中のバージョンでは使用できないデータベースを指定しました。

対処

指定したデータベースを確認してください。データベースが正しい場合は、ユーティリティのデータベース変換機能を使用してデータベースを変換してください。

IC003

データベース ' データベースファイル名 ' は見付かりませんでした。

要因

存在しないデータベースを指定しています。

対処

データベースのファイル名を見直すか、又はデータベースを作成した後、もう一度実行してください。

IC004

データベース ' データベースファイル名 ' は形式が不正なため使用できません。

要因

SCMRF CD for Windows では使用できないデータベースを指定しています。

対処

データベースのファイル名を見直して、正しいファイル名を指定してください。
データベースのファイル名が正しい場合、データベースが破壊されている可能性があります。データベースファイルをほかのフォルダに退避した後、データベースを修復してください。データベースを修復しても同じエラーが発生する場合は、「8. 障害対策」を参照して退避したファイルについての資料を採取した後、保守員に連絡してください。

IC005

データベース ' データベースファイル名 ' は上書き禁止のため使用できません。

要因

指定されたデータベースが上書き禁止か、又は上書き禁止のフォルダにあります。

対処

データベース又はフォルダの属性を確認して、もう一度実行してください。

IC006

データベース ' データベースファイル名 ' にアクセスする権限がありません。

要因

アクセス権限のないデータベースを指定しています。SCMRF CD for Windows 以外のアプリケーションで作成したデータベースを指定した可能性があります。

対処

データベースのファイル名を確認してください。
データベースのファイル名が正しい場合、データベースファイルをほかのフォルダに退避した後、データベースを修復してください。データベースを修復しても同じエラーが発生する場合は、「8. 障害対策」を参照して退避したファイルについての資料を採取した後、保守員に連絡してください。

IC007

定義している構成定義データでは、シンタクスチェック条件の変更はできません。

要因

次に示す要因があります。

- ACONARC チャンネルを定義しているプロセサに対し、ACONARC 非装備を指定しました。
- 共用又は専用チャンネルを定義しているプロセサに対し、ACONARC 非装備を指定しました。
- FIBARC チャンネルを定義しているプロセサに対し、FIBARC チャンネルが定義できなくなるシンタクスレベルを指定しました。
- LPAR 間高速連携機能の構成を定義しているプロセサに対し、LPAR 間高速連携機能の構成が定義できなくなるシンタクスレベルを指定しました。

対処

プロセサの管理情報、又は構成定義データの内容を見直してください。

IC008

データベース ' データベースファイル名 ' は既に使用されています。

要因

指定されたデータベースは、現在ほかのユーザ又はアプリケーションで使用しています。

対処

ほかのユーザ又はアプリケーションの処理が終了してからもう一度実行してください。

IC012

指定した ' データ項目名 ' の範囲が不正です。

要因

指定したデータ項目の範囲指定が正しくありません。

対処

指定範囲を見直して、もう一度実行してください。

IC013

指定した ' データ項目名 ' は不正です。

要因

指定したデータ項目の値が正しくありません。

対処

指定した値を見直して、もう一度実行してください。

IC014

Excel を起動してから Excel へ貼り付けを実行してください。

要因

Excel のパスが見つからなかったため、起動に失敗しました。

対処

[OK]: メッセージボックスを閉じます。

Excel を起動してから Excel へ貼り付けを実行するか、又は Excel のパスを環境変数に登録してください。

IC015

メッセージテキストの生成処理中にメモリ不足が発生しました。

エラー番号：エラー番号

要因

エラー番号に対するメッセージのテキスト生成中にメモリ不足が発生しました。

対処

エラー番号の内容を確認するとともに、使用していないウィンドウを閉じるなどしてメモリを解放してください。

IC016

重要エラーの発生している構成定義データがあるため、ベースシステムを切り替えできません。

要因

重要エラーの発生している構成定義データがある状態で、ベースシステムを切り替えようとしています。

対処

重要エラーを修正した後、もう一度実行してください。

IC017

メッセージテキスト生成処理中にエラー（エラー番号 1）が発生しました。

エラー番号：エラー番号 2

要因

エラー番号 2 で示されるメッセージのテキスト生成中にエラー番号 1 で示されるエラーが発生しました。

対処

もう一度実行してください。もう一度実行してもエラーが発生する場合は、センタ管理者に連絡してください。重要エラーを修正した後、もう一度実行してください。センタ管理者は、「8. 障害対策」を参照して資料を採取した後、バックアップファイルからファイルを復元してください。

IC018

指定したプロセサは既に構成定義データを定義しているため、'フィールド名'の変更はできません。

要因

既に構成定義データを定義しているプロセサに対して、変更できないフィールドの内容を変更しようとした。

対処

フィールドの内容を変更する場合は、構成定義データを削除してください。

IC019

定義済み { プロセサ | 物理プロセサ } に対する { 物理プロセサ名称 | 物理 CPU 名称 } の指定は、指定ありからなし、又は指定なしからありへ変更できません。

要因

次に示す要因があります。

- 定義済みのプロセサに対して、物理プロセサ名称の指定をありからなしに、又はなしからありに変更しようとした。
- 定義済みの物理プロセサに対して、物理 CPU 名称の指定をありからなしに、又はなしからありに変更しようとした。

対処

物理プロセサ名称を変更した場合

物理プロセサ名称の指定の有無を変更する場合は、該当するプロセサの定義を削除してから再度定義してください。また、既に入出力構成を定義している場合は次に示す方法で変更してください。

- 物理プロセサ名称を指定ありにする場合：ゲスト OS への変更機能を実行してください。
- 物理プロセサ名称を指定なしにする場合：変更するプロセサを削除して、新しくプロセサを追加してください。入出力構成を引き継ぐ場合は、変更するプロセサの入出力構成定義データを一度搬出した後、追加したプロセサに搬入してください。

物理 CPU 名称を変更した場合

物理 CPU 名称の指定の有無を変更する場合は、該当する物理プロセサの定義を削除してから再度定義してください。また、既に PRMF 構成を定義している場合は次に示す方法で変更してください。

- 物理 CPU 名称を指定ありにする場合：I/O グループへの変更機能を実行してください。
- 物理 CPU 名称を指定なしにする場合：変更する物理プロセサを削除して、新しく物理プロセサを追加してください。

IC020

{ PRMF 構成 | 物理 CPU 構成 | ACOD | FBD | FC - CTC 接続用の入出力制御装置 | FBD 又は FC - CTC 接続用の入出力制御装置 } が定義されています。

要因

次に示す要因があります。

- PRMF 構成を定義している状態で、PRMF を使用しない設定に変更しようとした。
- 物理 CPU 構成を定義している状態で、512 チャンネル拡張機能を使用しない設定に変更しようとした。
- ACOD を定義している状態で、ACOD を定義しない設定に変更しようとした。
- FBD を定義している状態で、FBD を定義しない設定に変更しようとした。

対処

PRMF 構成の場合

PRMF 構成をすべて削除してから、PRMF を使用しない設定に変更してください。

物理 CPU 構成の場合

物理 CPU 構成をすべて削除してから、512 チャンネル拡張機能を使用しない設定に変更してください。

ACOD の場合

ACOD をすべて削除してから、ACOD を定義しない設定に変更してください。

FBD の場合

FBD をすべて削除してから、FBD を定義しない設定に変更してください。

FC - CTC 接続用の入出力制御装置の場合

FC - CTC 接続用入出力制御装置として登録されている入出力制御装置を登録から削除してから、FBD を定義しない設定に変更してください。

FBD 又は FC - CTC 接続用の入出力制御装置の場合

FBD をすべて削除し、FC - CTC 接続用入出力制御装置として登録されている入出力制御装置を登録から削除してから、FBD を定義しない設定に変更してください。

IC021

ゲスト OS のうち、' 最小値 - 最大値 ' の範囲外の LPAR 番号を指定したゲスト OS が存在するため、シンタクスチェック条件の変更はできません。

プロセサ：プロセサ名称...

要因

ゲスト OS で指定している LPAR 番号が指定できないシンタクス条件に変更しようとした。

対処

シンタクス条件，又はゲスト OS の LPAR 番号を見直してください。

IC022

ファイル転送中にホスト側でエラーが発生しました。

エラー要因：エラー要因

要因

ファイルの転送処理中にホスト側でエラーが発生しました。エラー要因にはホスト側 (FTP サーバ) から送られてきたメッセージが出力されます。

対処

エラー要因を取り除き，再度実行してください。エラー要因の詳細については，マニュアル「VOS3 XNF TCP/IP 接続機能 XNF/TCP 使用の手引」又はマニュアル「VOS3 XNF TCP/IP 接続機能 XNF/TCP メッセージ」を参照のこと。

IC023

ファイル転送中に PC 側でエラーが発生しました。

エラー要因：エラー要因

要因

ファイルの転送処理中に PC 側でエラーが発生しました。エラー要因には PC 側 (FTP クライアント) で発生したメッセージが出力されます。

対処

エラー要因を取り除き，再度実行してください。

IC024

ホスト側にメンバが存在します。

要因

PC 側からホストへのファイル転送時，ホスト側データセットに同一名称のメンバが存在します。

対処

重複しないメンバ名称を指定するか，又はメンバの置換を有効にして再度実行してください。

IC025

次に示す構成定義データのファイル転送は実行できませんでした。

構成定義データ：構成定義データ...

要因

ユーザによるキャンセル，又は処理中にエラーが発生したためファイル転送が実行

されていないものがあります。

対処

ファイル転送実行時のエラー要因を取り除き、ファイル転送を再度実行してください。

IC026

ファイル転送中に予期せぬエラーが発生しました。

エラーコード：エラーコード

要因

ファイル転送中に予期せぬエラーが発生しました。

対処

エラーコードを採取して、センタ管理者に連絡してください。

IC027

ホスト側にデータセットがありません。

エラー要因：エラー要因

要因

PC側からホストへのファイル転送時、ホスト側にデータセットがありませんでした。

対処

ホスト側に転送先となるデータセットを作成して、再度実行してください。

IC028

'チェックボックス名'をオフにしようとしたますが、ディレクタ定義オプションのチェックボックスは、1つ以上オンにする必要があります。

要因

ディレクタ定義オプションのチェックボックスを、すべてオフにしようとした。

対処

'チェックボックス名'で示すチェックボックス以外のチェックボックスを1つ以上オンにしたあと、'チェックボックス名'で示すチェックボックスをオフにしてください。

ICF01

指定したプロセサは構成定義データの搬入処理が完了していないため、定義内容を変更できません。

要因

構成定義データの搬入処理が完了していないプロセサについて、定義内容を変更しようとした。

対処

定義内容を変更する場合は、構成定義データの搬入処理を完了させるか、又は中止させてください。

(5) エラー種別が S のメッセージ

SC001

アプリケーションは上書き禁止か、上書き禁止のフォルダにあるため実行できません。

要因

アプリケーションデータベース又はライブラリデータベースが、上書き禁止か、又は上書き禁止のフォルダにあります。

対処

データベース又はフォルダの属性を確認して、もう一度実行してください。

SC002

アプリケーションの動作に必要なテーブルが見つかりませんでした。

要因

指定されたデータベース中に必要なテーブルがありません。

対処

データベースが破壊されている恐れがあるため、「8. 障害対策」を参照して資料を採取した後、保守員に連絡してください。

SC003

アプリケーションが必要とする '絶対パスのファイル名' が見つかりません。

要因

セットアップしたフォルダに必要なファイルがありません。

対処

ファイルがない場合、再セットアップしてください。

SC004

メモリ不足のためアプリケーションを起動できませんでした。

要因

メモリが不足しています。

対処

起動しているアプリケーションを終了して、起動し直してください。

SC005

アプリケーション '絶対パスのファイル名' を起動できませんでした。

要因

アプリケーションが起動できません。

対処

絶対パスのファイル名で示されるアプリケーションが破壊されているため、再セットアップしてください。

SC006

アプリケーションの動作に必要なデータベースがオープンできませんでした。

要因

初期化ファイルでシステムデータベース名称が指定されていないか、又は指定されたデータベースが使用できません。

対処

初期化ファイルの指定内容を確認してください。

正しく指定している場合、データベースが破壊されている可能性があります。「8. 障害対策」を参照して資料を採取した後、保守員に連絡してください。

SC007

アプリケーションの動作に必要なライブラリが見つかりませんでした。

要因

次に示す要因があります。

- ライブラリを削除しました。
- ライブラリをセットアップしたフォルダからほかのフォルダに移動しました。

SCMRF CD for Windows のライブラリについては、「Readme.txt」を参照してください。

対処

- ライブラリを削除した場合：再度セットアップを実行し、必要なライブラリをインストールしてください。
- フォルダを移動した場合：セットアップしたフォルダに戻してください。

SC008

アプリケーションを終了します。

要因

直前に出力されたメッセージで示すエラーによって、アプリケーションが起動できませんでした。

対処

このメッセージの直前に出力されるメッセージで示すエラー要因を取り除いて、再度実行してください。

SC009

指定されている Microsoft Access のオプションでは、アプリケーションを実行することはできません。

要因

指定されている Microsoft Access のオプションが次に示す設定内容になっているため、アプリケーションを実行できません。

- [編集 / 検索] タブの [確認] - [レコードの変更] の状態がオフになっている。
- [詳細] タブの [OLE/DDE タイムアウト (秒)] の状態が 0 になっている。

対処

Microsoft Access のオプションの設定内容を見直すか、又は Microsoft Access のオプションの設定が必要なアプリケーションと SCMRP CD for Windows で、それぞれ実行する Windows のメンバを分けてください。

SC010

前回使用していたデータベースが無効なパスとなっているため、アプリケーションを再起動する必要があります。

要因

前回使用していたデータベースが無効なパスとなっているため、処理を続行できません。

対処

アプリケーションを起動し直してください。

(6) エラー種別が W のメッセージ

W1901

{ ACOD | ディレクタ } 経路定義以外の構成定義で、警告エラーが発生しています。

要因

ACOD 経路定義ウィンドウ、ディレクタ経路定義ウィンドウ以外の構成定義ウィンドウで、警告エラーがあります。

対処

警告エラーがある構成定義ウィンドウをエラー情報表示ダイアログで確認してください。

W1902

{ ACOD | ディレクタ } 構成定義又はプロセサの { ACOD 経路 | ディレクタ経路 } 定義で、警告エラーが発生しています。

{ { ACOD | ディレクタ } : { ACOD 名称 | DIR 名称 } ... } { プロセサ : プロセサ名称 ... }

要因

構成定義ウィンドウで警告エラーがある ACOD, FBD, ACOD 経路定義ウィンドウ, 又はディレクタ経路定義ウィンドウで警告エラーのあるプロセスがあります。

対処

警告エラーがある構成定義ウィンドウをエラー情報表示ダイアログで確認してください。

W2F01

指定したチャンネルは共用又は専用属性であるため、チャンネルの割り当てを指定する LPAR を必ず定義してください。

要因

共用又は専用属性のチャンネルに対して、チャンネルの割り当てを指定する LPAR が定義されていません。

対処

チャンネルの割り当てを指定する LPAR を定義するか、又はチャンネル割り当て属性を見直してください。

W3001

指定した入出力制御装置に、装置アドレスを定義していません。

要因

装置アドレスを定義していない入出力制御装置があります。

対処

装置アドレスを定義してください。

W5001

指定した装置グループに、入出力装置を定義していません。

要因

入出力装置を指定していない装置グループがあります。

対処

入出力装置を指定してください。

W5002

指定した装置タイプを生成する入出力装置がありません。

要因

入出力装置の変更や削除をしたため、指定した装置タイプが生成されなくなりました。

対処

必要な装置タイプであれば、指定した装置タイプを生成する入出力装置を定義してください。

W6001

指定したチャンネルは、入出力制御装置と接続していません。

要因

指定したチャンネルは、入出力制御装置と一つも接続していないチャンネルです。

対処

接続定義ウィンドウで接続を定義してください。

W6002

指定した入出力制御装置は、チャンネルと接続していません。

要因

指定した入出力制御装置は、チャンネルと一つも接続していない入出力制御装置です。

対処

接続定義ウィンドウで接続を定義してください。

W6003

指定した入出力制御装置は、入出力装置と接続していません。

要因

指定した入出力制御装置は、入出力装置と一つも接続していない入出力制御装置です。

対処

接続定義ウィンドウで接続を定義してください。

W6004

指定した入出力装置は、入出力制御装置と接続していません。

要因

指定した入出力装置は、入出力制御装置と一つも接続していない入出力装置です。

対処

接続定義ウィンドウで接続を定義してください。

W7001

指定したチャンネルパス ID とポートアドレスの組み合わせが、ほかのプロセサでも定義されています。

要因

複数プロセサ間でチャンネルパス ID とポートアドレスの組み合わせが同じ定義をしています。PRMA のチャンネル共用機能を使っている場合は正常です。

対処

組み合わせを見直してください。

W7002

入出力制御装置側の { ACOD | ディレクタ } 経路を定義してください。

要因

ACOD, 又は FBD と入出力制御装置間の接続を定義していません。

対処

入出力制御装置側のポートを定義してください。ACOD, 又は FBD を経由しない場合, チャンネル側のポートと ACOD, 又は FBD を削除してください。

W9101

構成定義データに警告エラーがあります。

要因

次に示す要因があります。

- 構成定義データに警告エラーがあります。
- 構成定義データのエラーチェックを実行した結果, 警告エラーがあります。

対処

構成定義データチェックダイアログ及びエラー情報表示ダイアログで, エラー内容を確認して修正してください。

W9103

入出力装置に LPAR の割り当てを指定していますが, LPAR の割り当てを指定できないチャンネルと接続しています。

入出力装置: デバイス番号 (管理名称) ...

要因

入出力装置に LPAR の割り当てを指定していますが, LPAR の割り当てを指定できないチャンネルと接続しています。

対処

LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウで, 指定されている LPAR を削除するか, チャンネル定義 (PRMF) ウィンドウで LPAR の割り当てが指定できるチャンネルに変更してください。

W9104

入出力装置に割り当てる指定をした LPAR のうち, 接続されているチャンネルで割り当てられない LPAR があります。

入出力装置: デバイス番号 (管理名称) ...

要因

入出力装置を割り当てる指定をした LPAR のうち, 接続されているチャンネルの割り当てが指定されていない LPAR があります。

対処

LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウで、LPAR の割り当てを解除するか、又は LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウで LPAR の割り当て又は接続予約割り当てを指定してください。

W9105

ACOD 経路定義で一つもポートを定義していない ACOD があります。

ACOD : ACOD 名称...

要因

ACOD 経路定義で一つもポートを定義していない ACOD があります。

対処

ACOD 経路を定義するか、又は ACOD 名称で示される ACOD を削除してください。

W9106

ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置が登録されていません。

要因

ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置が登録されていません。

対処

ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで、対象入出力制御装置を登録してください。

W9107

ACONARC 制御機能の制御対象にならない入出力制御装置が登録されています。

要因

CNC - CTC 接続用入出力制御装置として登録されている入出力制御装置か、又は ACOD 経路を定義していない入出力制御装置が登録されています。

対処

ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログで、CNC - CTC 接続用入出力制御装置として登録されている入出力制御装置を登録から削除するか、入出力制御装置に対して ACOD 経路を定義してください。

W9108

共用及び専用属性以外のチャンネルのうち、割り当てを指定する LPAR を定義していないチャンネルがあります。

チャンネル : チャンネルパス ID (チャンネルタイプ) ...

要因

ACONARC 装備の物理プロセサで、共用及び専用属性以外のチャンネルに対して、割

り当てを指定する LPAR が定義されていません。

対処

定義中の構成定義データを AMIF 機能をサポートする物理プロセッサで使用する場合、チャンネルの割り当てを指定する LPAR を定義してください。

W9110

Linux 専用の LPAR で、ゲスト OS が指定されているものがあります。

LPAR : LPAR 名称...

要因

LINUX オペランドが有効になっている LPAR に対し、ゲスト OS を定義していません。

対処

LPAR 構成の定義内容を確認するか、又はゲスト OS と LPAR の対応を確認してください。

WB001

SRVAC、又は PRIAC を指定した場合、AC を指定する必要があります。

要因

SRVAC 又は PRIAC を指定している状態で、AC が指定されていません。

対処

AC を指定するか、SRVAC 又は PRIAC を指定しないでください。

WF230

指定した EXPATH に CNC チャンネル、又は BLMPX・CVC チャンネルのどれかが指定されていません。

要因

指定した EXPATH では CNC チャンネル、又は BLMPX・CVC チャンネルのどれかのチャンネルが一つも定義されていません。

対処

CNC チャンネル、又は BLMPX 及び CVC チャンネルの両方を必ず指定してください。

付録 F 互換性

付録 F.1 SCMRF/CD の「SYSGEN マクロ・PRMF 構成定義文生成機能 (PARMGEN 文)」との相違点

SCMRF CD for Windows の「ゼネレーションパラメタ生成機能」と SCMRF/CD の「SYSGEN マクロ・PRMF 構成定義文生成機能」との相違点を表 F-1 に示します。

表 F-1 SCMRF/CD の「SYSGEN マクロ・PRMF 構成定義文生成機能 (PARMGEN 文)」との相違点

種別	マクロ・定義文名	オペランド名	相違点
OS/ PRMF 共通	-	-	<ul style="list-style-type: none"> SCMRF/CD 出力結果のヘッダ情報の内容は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> システム名称 プロセサ名称 作成日付 更新日付 SCMRF CD for Windows SCMRF/CD の出力情報に加えて次の情報が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> 制御システム (PRMF だけ) シンタクスレベル CPU モデル ACONARC 装備, 非装備
OS/ PRMF 共通	CHANNEL CONTRLR IODEVICE	すべて	<ul style="list-style-type: none"> SCMRF/CD 1 マクロ・定義文当たりの出力行数が複数行になる場合、1 行当たりの最大文字数は 71 文字、または 71 文字未満になります。
OS	UNITNAME	UNIT	<ul style="list-style-type: none"> SCMRF CD for Windows 1 マクロ・定義文当たりの出力行数が複数行になる場合、1 行当たりの最大文字数はすべて 71 文字になります。ただし、改行位置はオペランド単位となるため、オペランド途中で改行となるときは 71 文字未満で改行します。また、CONTRLR 文の DEVA, IODEVICE 文の FEATURE オペランドは 1 オペランドで 71 文字を超えるときがあるのでオペランド内で改行します。
OS	SCHEDULE R	DEVPREF	
PRMF	EXPATH	CNC BLMPX CVC	

種別	マクロ・定義文名	オペランド名	相違点
OS/ PRMF 共通	IODEVICE	ADDRESS	<ul style="list-style-type: none"> • SCMRFC/CD UNIT=6951 のデバイス番号 1(ADDR1) とデバイス番号 2 (ADDR2) の値が ADDR1>ADDR2 の場合、ADDR2,ADDR1 の昇順で出力されます。出力例を次に示します。 ADDR1:0750,ADDR2:0740 の場合 ・ ADDRESS=((0740,7),(0750,7)) • SCMRFC CD for Windows UNIT=6951 のデバイス番号 1(ADDR1) とデバイス番号 2 (ADDR2) の値が ADDR1>ADDR2 の場合、ADDR2,ADDR1 の降順で出力されます。出力例を次に示します。 ADDR1:0750,ADDR2:0740 の場合 ・ ADDRESS=((0750,7),(0740,7)) <p>なお、この指定でもゼネレーション上問題ありません。</p>

(凡例)

OS : 入出力構成定義データ

PRMF : PRMF 構成定義データ

付録 F.2 SCMRFC/CD の「構成定義データ比較機能 (COMPARE 文)」との相違点

SCMRFC CD for Windows の「構成定義データ比較機能」と SCMRFC/CD の「構成定義データ比較機能」との相違点を表 F-2 に示します。

表 F-2 SCMRFC/CD の「構成定義データ比較機能 (COMPARE 文)」との相違点

種別	マクロ・定義文名	オペランド名	相違点
OS/PRMF 共通	IODEVICE	XFEATUR	<ul style="list-style-type: none"> • SCMRFC/CD 一つの選択機能につき 5 文字固定で出力し、5 文字未満の選択機能については残りを空白で埋めます。 • SCMRFC CD for Windows 5 文字固定で出力しません。選択機能の文字数分をそのまま出力し、余分な空白は出力しません。そのため、出力位置は空白を出力しない分ずれます。
OS	IODEVICE	FEATURE	<ul style="list-style-type: none"> • SCMRFC/CD 一つの選択機能につき 9 文字固定で出力し、9 文字未満の選択機能については残りを空白で埋めます。 • SCMRFC CD for Windows 9 文字固定で出力しません。選択機能の文字数分をそのまま出力し、余分な空白を出力しません。そのため、出力位置が空白を出力しない分ずれます。

種別	マクロ・定義文名	オペランド名	相違点
PRMF	EXPATH	-	<ul style="list-style-type: none"> SCMRF/CD 比較しません。定義内容をすべて表示します。 SCMRF CD for Windows SCMRF CD for Windows の「EXPATH 定義ウィンドウ」で EXPATH 文を識別するために指定します。「LABEL」を主キーとして比較し、比較結果を出力します。
	CHANNEL	LPAR	<ul style="list-style-type: none"> SCMRF/CD ALL 指定があるときは、LPAR 番号に直して比較し、ALL 指定有無については比較しません。 SCMRF CD for Windows ALL 指定があるときは、LPAR 番号に直さず ALL 指定有無を比較します。
		LPARDEFR	
	IODEVICE	LPAR	

(凡例)

OS : 入出力構成定義データ

PRMF : PRMF 構成定義データ

付録 G 構成定義データの比較範囲

付録 G.1 SCMRF CD for Windows の「構成定義データ比較機能」の比較範囲

(1) 入出力構成定義データ

入出力構成定義データの比較対象範囲を表 G-1 に示します。なおマクロの比較順については、この表に記述している順番に比較します。

表 G-1 入出力構成定義データの比較対象範囲

マクロ名	比較対象	説明
CHANNEL		<ul style="list-style-type: none"> 「PATHID」オペランドの昇順に比較します。 どちらかの構成にチャンネルパスの定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。
CONTRLR		<ul style="list-style-type: none"> 「CUNO」オペランドの昇順で比較します。 どちらかの構成に入出力制御装置の定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。 「CUADR」オペランドが「00」の場合、接続しているチャンネルのチャンネルタイプによって、CUADR 指定可能チャンネルパスの CUADDR の値は「00」であり、CUADR 指定不可能チャンネルパスの CUADDR の値は「指定なし」としてしています。そのため、両者を比較した場合、CUADR は不一致となります。 一つの制御装置に対して、CNC、FC、または CTC チャンネル直結のチャンネルだけに接続している場合と、ディレクタ経由のチャンネルと、CNC、FC、または CTC チャンネル直結のチャンネルの接続が混在する場合、「LNKA」オペランドの値は、チャンネル直結の場合「なし」、チャンネルパスが混在している場合「00」としてしています。そのため両者を比較した場合、LNKA は不一致となります。
IODEVICE		<ul style="list-style-type: none"> 「ADDRESS」オペランドの昇順で比較します。 どちらかの構成に入出力装置の定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。
UNITNAME		<ul style="list-style-type: none"> 「NAME」オペランドの昇順（EBCDIK コード順）で比較します。 どちらかの構成に装置グループ / 装置タイプの定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。 「UNIT」オペランドの比較については 1 台ごとにデバイス番号で比較し、差分だけ表示します。
SCHEDULR		

(凡例)

: 比較します

付録 G.2 PRMF 構成定義データ

PRMF 構成定義データの比較対象範囲を表 G-2 に示します。なお定義文の比較順については、この表に記述している順番に比較します。

表 G-2 PRMF 構成定義データの比較対象範囲

定義文名	比較対象	説明
SYSOPT		-
PIP		-
PFKEY		<ul style="list-style-type: none"> 「PFNO」オペランドの昇順で比較します。 どちらかの構成に PFKEY の定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。
EXPATH		<ul style="list-style-type: none"> SCMRF CD for Windows の「EXPATH 定義ウィンドウ」で EXPATH 文を識別するために指定する「LABEL」の昇順で比較します。 どちらかの構成に LABEL の定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。
PARTTION		<ul style="list-style-type: none"> 「NUMBER」オペランドの昇順で比較します。 どちらかの構成に PARTTION の定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。 PARTTION ~ LOADUNIT の比較については、LPAR 数分繰り返します。
CPU		-
IP		-
STORAGE		-
OPTION		-
FEATOPT		-
CH	×	比較しません。
LOADUNIT		-
CHANNEL		<ul style="list-style-type: none"> 「PATHID」オペランドの昇順で比較します。 どちらかの構成にチャンネルパスの定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。 「LPAR」オペランドおよび「LPARDEFR」オペランドについては、ALL 指定有無についても比較します。

定義文名	比較対象	説明
CONTRLR		<ul style="list-style-type: none"> 「CUNO」オペランドの昇順で比較します。 どちらかの構成に入出力制御装置の定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。 「CUADR」オペランドが「00」の場合、接続しているチャンネルのチャンネルタイプによって、CUADR 指定可能チャンネルパスの CUADDR の値は「00」であり、CUADR 指定不可能チャンネルパスの CUADDR の値は「指定なし」としています。そのため、両方を比較した場合、CUADR は不一致となります。 <p>一つの制御装置に対して、CNC、CTC/FC、または CTC チャンネル直結のチャンネルだけに接続している場合と、ディレクタ経由のチャンネルと、CNC または CTC チャンネル直結のチャンネルの接続が混在する場合、「LNKA」オペランドの値は、チャンネル直結の場合「なし」、チャンネルパスが混在している場合「00」としています。そのため両者を比較した場合、LNKA は不一致となります。</p>
IODEVICE		<ul style="list-style-type: none"> 「ADDRESS」オペランドの昇順で比較します。 どちらかの構成に入出力装置の定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。 「LPAR」オペランドについては、ALL 指定有無についても比較します。

(凡例)

: 比較します

× : 比較しません

- : 該当しません

付録 G.3 ACOD 構成定義データ

ACOD 外部構成情報コマンドの比較対象範囲を表 G-3 に、ACOD 内部構成情報コマンドの比較対象範囲を表 G-4 にそれぞれ示します。なおコマンドは、表の順番に比較します。

表 G-3 ACOD 外部構成情報コマンドの比較対象範囲

コマンド名	比較対象	説明
ACODFILE		-
ACODCNCT		<ul style="list-style-type: none"> 「ACOD_NAME」オペランドの昇順で比較します。
PORTACOD		<ul style="list-style-type: none"> 「ADDR」オペランドの昇順で比較します。 どちらかの構成にポートアドレスの定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。
ACODEND	×	オペランドがないため、比較しません。

(凡例)

: 比較します

- × : 比較しません
- : 該当しません

表 G-4 ACOD 内部構成情報コマンドの比較対象範囲

コマンド名	比較対象	説明
LINKFILE		-
ACODLINK		<ul style="list-style-type: none"> • 「ACOD_NAME」オペランドの昇順で比較します。
PORTLINK		<ul style="list-style-type: none"> • 「ADDR」オペランドの昇順で比較します。 • どちらかの構成にポートアドレスの定義がない場合は、追加 / 削除とし、両方の構成に定義がされているときはオペランドの内容を比較します。
ENDLINK	×	オペランドがないため、比較しません。

(凡例)

- : 比較します
- × : 比較しません
- : 該当しません

付録 G.4 シンタクスレベルで表示 / 非表示が切り替わるオペランドの比較

システム構成の設定ウィンドウで指定するシンタクスレベルによって、定義ウィンドウで表示 / 非表示が切り替わるオペランドを比較した場合、表 G-5 に示す結果となります。

表 G-5 シンタクスレベルで表示 / 非表示が切り替わるオペランドの比較

変更前	変更後	結果
表示	表示	比較を行い、比較結果を出力します。
表示	非表示	非表示側については、指定がないものとして比較し、比較結果として " - " を出力します。
非表示	表示	
非表示	非表示	比較しません。結果を表示するフィールドを非表示にします。

付録 G.5 構成定義データ内にエラーがある場合の比較

構成定義データの中に未接続などのエラーがある場合でも、比較できます。

付録 H SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係

SCMRF CD for Windows での SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値の扱いと相違点について説明します。

付録 H.1 SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値の扱い

SCMRF CD for Windows での SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値の扱いについて、JASSCCP プログラムの扱いを表 H-1 に、SCCP 実行用カタログドプロシジャの扱いを表 H-2 に、HLUSCCP プログラムの扱いを表 H-3 に示します。

表 H-1 JASSCCP プログラムの指定値の扱い

JASSCCP プログラム		SCMRF CD for Windows の構成定義	
オペランド名		ウィンドウ名	フィールド名
SCDSNO		システム構成の設定	SCDS 番号
DSNAME		システム構成の設定	構成 ID
TESTRUN	CPU 識別記号	システム構成の設定	CPU モデル
	NOACOH ACOH	システム構成の設定	ACONARC
CPU	CPU 識別記号	システム構成の設定	CPU モデル
	NOACOH ACOH	システム構成の設定	ACONARC
DIAGLVL		なし	なし
IODRF		なし	なし

表 H-2 SSCP 実行用カタログドプロシジャの指定値の扱い

カタログドプロシジャ		SCMRF CD for Windows の構成定義	
カタログドプロシジャ	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
SCCPIOD	SCDS	システム構成の設定	SCDS 番号
	IOD	システム構成の設定	IOD 番号
	CCD	なし	なし
	IODID	システム構成の設定	構成 ID
	SCDSU	なし	なし
	CPU	システム構成の設定	CPU モデル
	TESTRUN	システム構成の設定	CPU モデル
	SYSUNIT	なし	なし
	PARMLIB	なし	なし
	OCLASS	なし	なし
	LIB	なし	なし
	xxxxDSP	なし	なし
SCCPIODC	SCDS	システム構成の設定	SCDS 番号
	IOD	システム構成の設定	IOD 番号
	CCD	なし	なし
	IODID	システム構成の設定	構成 ID
	SCDSU	なし	なし
	CPU	システム構成の設定	CPU モデル
	TESTRUN	システム構成の設定	CPU モデル
	SYSUNIT	なし	なし
	PARMLIB	なし	なし
	CATDSN	なし	なし
	OCLASS	なし	なし
	LIB	なし	なし
SCCPCDS	SCDS	システム構成の設定	SCDS 番号
	IODID	システム構成の設定	構成 ID
	SCDSU	なし	なし
	TESTRUN	システム構成の設定	CPU モデル
	OCLASS	なし	なし
	LIB	なし	なし

カタログドプロシジャ		SCMRF CD for Windows の構成定義	
カタログドプロシジャ	オペランド名	ウィンドウ名	フィールド名
SCCPSCDC	SCDS	システム構成の設定	SCDS 番号
	IODID	システム構成の設定	構成 ID
	SCDSU	なし	なし
	TESTRUN	システム構成の設定	CPU モデル
	CATDSN	なし	なし
	OCLASS	なし	なし

表 H-3 HLUSCCP プログラムの指定値の扱い

HLUSCCP プログラム		SCMRF CD for Windows の構成定義	
オペランド名		ウィンドウ名	フィールド名
SCDSNO		システム構成の設定	SCDS 番号
DSNAME		システム構成の設定	構成 ID
TESTRUN	CPU 識別記号	システム構成の設定	CPU モデル
	NOACOH ACOH	システム構成の設定	ACONARC
IODRF		なし	なし
IOCD		なし	なし
CPU	CPU 識別記号	システム構成の設定	CPU モデル
	NOACOH ACOH	システム構成の設定	ACONARC

付録 H.2 SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との相違点

SCMRF CD for Windows での SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との相違点について、JASSCCP プログラムとの相違点を表 H-4 に、SCCP 実行用カタログドプロシジャとの相違点を表 H-5 に示します。HLUSCCP プログラムとの相違点はありません。

表 H-4 JASSCCP プログラムの指定値との相違点

JASSCCP プログラム		項目	相違点	
オペランド名			JASSCCP プログラム	SCMRF CD for Windows
TESTRUN	CPU 識別記号	使用する CPU の指定方法	AP8000 AP8800	AP8000 AP8000E AP8000EX AP8800 AP8800E

JASSCCP プログラム		項目	相違点	
オペランド名			JASSCCP プログラム	SCMRF CD for Windows
CPU	CPU 識別記号	使用する CPU の指定方法	AP8000 AP8800	AP8000 AP8000E AP8000EX AP8800 AP8800E

表 H-5 SSCP 実行用カタログドプロシジャの指定値との相違点

カタログドプロシジャ	オペランド名	項目	相違点	
			SSCP 実行用カタログドプロシジャ	SCMRF CD for Windows
SCCPIOD	CPU	使用する CPU の指定方法	AP8000 AP8800	AP8000 AP8000E AP8000EX AP8800 AP8800E
	TESTRUN	使用する CPU の指定方法	AP8000 AP8800	AP8000 AP8000E AP8000EX AP8800 AP8800E
SCCPIODC	CPU	使用する CPU の指定方法	AP8000 AP8800	AP8000 AP8000E AP8000EX AP8800 AP8800E
	TESTRUN	使用する CPU の指定方法	AP8000 AP8800	AP8000 AP8000E AP8000EX AP8800 AP8800E
SCCPCDS	TESTRUN	使用する CPU の指定方法	AP8000 AP8800	AP8000 AP8000E AP8000EX AP8800 AP8800E
SCCPCDC	TESTRUN	使用する CPU の指定方法	AP8000 AP8800	AP8000 AP8000E AP8000EX AP8800 AP8800E

付録 I 各バージョンの変更内容

変更内容 (3020-3-710-B0) SCMRF Configuration Definition for Windows 02-05

追加・変更内容

FIBARC ディレクタ対応機能を追加した。

PRMA E3(04-00) の CPU サービスグルーピング, IP/AC 個別サービス比指定, IP/AC 個別プライオリティ指定機能に対応するオペランドを追加した。

メッセージを追加しました。

E6023, E8003, E8004, E9128, I9024, I9025, I9026, I9027, IC028, WB001

メッセージを変更しました。

A3001, A7001, A8001, A9206, AC002, AC007, AC008, C9207, C9208, C9301, C9302, CC002, CC004, CC008, CC010, CC012, CC013, CC014, E1901, E1902, E2101, E2102, E3002, E3003, E3004, E3106, E3110, E6001, E6002, E6009, E6010, E6016, E6017, E6018, E6020, E6103, E6201, E6203, E6204, E7001, E7002, E7003, E7004, E7005, E7006, E7009, E7010, E7012, E7013, E7014, E7015, E7016, E7019, E7020, E7022, E7024, E7025, E7026, E7601, E7904, E8001, E8002, E8601, E8602, E8603, E8604, E8605, E9106, E9301, E9302, EB002, I3101, I6009, I7002, I7012, I9502, IC020, W1901, W1902, W7002

変更内容 (3020-3-710-A0) SCMRF Configuration Definition for Windows 02-04

追加・変更内容

- VOS/LS 03-00 で使用する入出力構成を定義できるようにしました。
- PRMA E3 03-00 で使用する PRMF 構成を定義できるようにしました。

適用 OS から Windows95 を削除しました。

メッセージを追加しました。

変更内容 (3020-3-710-90) SCMRF Configuration Definition for Windows 02-03

追加・変更内容

VOS3 システムのメモリ所要量 (ニュークリアス領域) を自動計算する, ストージ計算機能を追加しました。

表示情報の出力機能を改善しました。

メッセージを変更しました。

付録 J 用語解説

SCMRF CD for Windows の用語の意味を説明します。

(数字)

1 段接続

チャンネルと入出力制御装置の間に、1 台の ACOD を接続した構成です。

(英字)

ACOD (Advanced Connection Optical Director)

ACONARC ディレクタ。ACONARC を構成する装置の一つです。チャンネルと入出力制御装置の間に位置し、チャンネルと入出力制御装置間を動的、または占有的に接続するダイナミックスイッチ機構を持つ装置です。

ACOD 外部構成定義初期データ

ホストの ACOD 外部構成定義コマンドから生成した初期データです。

ACOD 外部構成定義データ

SCMRF CD for Windows から搬出した ACOD 外部構成定義に相当するデータです。搬出するときに ACOD 経路の定義から生成されます。

ACOD 経路

あるチャンネルパス ID から、経由する ACOD のポート、ポートと接続する入出力制御装置までの接続に関する情報です。

ACOD 構成情報

ACOD 外部構成情報 (ACOD と接続するチャンネルや入出力制御装置が、ACOD のどのポートと接続されているかを定義した情報) と ACOD 内部構成情報 (ACOD 内のポート間の接続情報) の総称です。

ACOD 構成定義初期データ

ACOD 外部構成定義初期データと ACOD 内部構成定義初期データの総称です。

ACOD 構成定義データ

SCMRF CD for Windows で定義する ACOD 外部構成定義データ、および ACOD 内部構成定義データの総称です。

ACOD 内部構成定義初期データ

ホストの ACOD 内部構成定義コマンドから生成した初期データです。

ACOD 内部構成定義データ

SCMRF CD for Windows から搬出した ACOD 内部構成定義に相当するデータです。搬出するときに ACOD 経路の定義から生成されます。

ACOD モデル

ACONARC ディレクタをハードウェアのスペックで分類 / 識別するためのコードです。

ACONARC (Advanced Connection Architecture)

光ファイバケーブルを使用した、接続距離延長、接続装置台数拡張などの特長を持つ入出力アーキテクチャです。

ACONARC コンバータ

ACOC (Advanced Connection Optical Converter) ともいいます。非 ACONARC インタフェースの周辺装置を ACONARC チャンネルに接続するための装置です。

ACONARC 制御機能 (AOMPLUS/AF)

AOMPLUS の補助機能の一つです。ACOD を管理・制御することによって、ACOD 配下の入出力制御装置を対象に、ホットスタンバイやシナリオ指令によって、構成変更ができます。

ACONARC チャンネル

CNC チャンネル、CTC チャンネル、および CVC チャンネルの総称です。

AOMPLUS (Auto - Operation Monitor PLUS for Multiple Systems)

統合システム自動運転を実現するためのプログラムプロダクトです。システムの統合運転や自動運転などが管理できます。

CPU 識別記号

CPU の機種を識別する記号です。プロセッサグループごとに決まっています。

CSV 形式

Windows で使用できる、コンマ区切りのファイル形式です。

DAT 形式

OFIS/POL for Windows で使用できる、コンマ区切りのファイル形式です。

FBD

FIBARC(FIBre connection ARChitecture) ディレクタの略称です。

FC チャンネル

FC チャンネル (Fibre Connection channel) とは、FIBARC チャンネルのチャンネルタイプの一つです。

FIBARC チャンネル

FIBARC(FIBre connection ARChitecture) チャンネルとは、ACONARC 同様光ファイバ技術を応用し、従来の ACONARC の機能を更に拡張した入出力接続アーキテクチャのチャンネルの総称です。

FIBARC ディレクタ

ACONARC ディレクタと同様に複数ポートのマトリクスで構成され、光ファイバーケーブルに接続されるポートを介して、ホスト側の FIBARC チャンネルや周辺機器を動的に接続する装置です。ACONARC ディレクタと異なり、ディレクタ制御装置を持たず、AOMPLUS/AF によるポートの制御はできません。

HLUSCCP

PRMA E2 または PRMA E3 のユティリティプログラムの一つで、サービスプロセサのコンソールファイルに SCDS と LCDS を作成するためのシステム構成制御プログラムです。SCDS と LCDS のほかに、PRMF 構成定義初期データ、SCMRF の IOCDF 入出力構成定義情報も作成できます。

IOCDF (Input/Output Configuration Definition File)

システム構成定義データ、および初期データを格納するためのホスト上のデータセットです。

IOC 名称

機器構成の管理用に入出力制御装置に付ける名称です。

LPAR (Logical Partition)

PRMF によって論理的に分割された論理プロセサです。

LPAR 間高速連携機能

複数の LPAR 間で、高速なデータ転送を実現する機能です。ILA2 (内蔵 LAN アダプタ タイプ 2) と同様に使用することができ、また、新たな専用ハードウェアを追加することなく実現します。

LPAR モード

PRMF が有効となるホストの CPU 動作モードの一つです。

PRMA E2 (Processor Resource Management Feature Assist Extended Version 2)

PRMF 支援のことで、PRMF の運転を支援するプログラムプロダクトです。

PRMA E3 (Processor Resource Management Feature Assist Extended Version 3)

PRMF 支援のことで、PRMF の運転を支援するプログラムプロダクトです。

PRMF (Processor Resource Management Feature)

プロセサ資源を論理的に分割し、複数の論理プロセサ (LPAR) を実現する機能の総称です。また、ハードウェアに実装されるハードウェア機構そのものです。

PRMF 構成定義初期データ

ホストの PRMF システム構成定義文から生成した初期データです。

PRMF 構成定義データ

SCMRF CD for Windows で定義した、PRMF の入出力構成・LPAR 構成に関するデータです。ホストに転送した PRMF 構成定義データから PRMF のシステム構成定義文が生成されます。

PRMF システム構成定義文

PRMF を使用するシステムの入出力構成と LPAR 構成を表すパラメタです。PRMA E2 または

PRMA E3 の HLUSCCP で SCDS と LCDS を作成するとき、または PRMF 構成定義初期データを生成するときの入力となります。

SCCP (System Configuration Control Program)

サービスプロセサのコンソールファイルに SCDS を作成するためのシステム構成制御プログラムです。SCDS のほかに、入出力構成定義初期データ、SCMRF の IOCDF 入出力構成定義情報なども作成できます。

SCDS (System Configuration Data Set)

システム構成データセットです。装置の物理的な構成情報をハードウェアに通知するためのデータセットです。サービスプロセサのコンソールファイルに作成します。

VILA (Virtual ILA)

ILA2 のモデル種別 Gigabit-Ethernet (1000BASE-SX)(alteon 社製) のサブセットの機能を持つ、VILA ネットワークでのネットワーク端点です。

VILA チャネル

VILA ネットワークを定義するためのチャネルです。VILA ネットワークと 1 対 1 に対応します。

VILA ネットワーク

LPAR 間高速連携機能によって生成される仮想的なネットワークです。

VILA ネットワークセグメント

VILA が仮想的に接続される仮想 LAN です。一般的な LAN のセグメントに相当します。

(力行)

外部ポート

チャネルまたは入出力制御装置と接続される ACOD のアクセスポイントです。

カレントレコード

操作対象のレコードです。レコードセレクトに三角のマークが表示されます。

キー値

コピーおよび貼り付けの基準となるレコードを指します。

切替可能占有接続

あるポートを占有接続で切り替えられるポートの接続形態です。ACONARC コンバータを介して、ACONARC に対応していない装置の切り替え制御をする場合に指定します。

ゲスト OS

LPAR 上で動作する OS です。

構成 ID

初期データ、システム構成定義データ、システム構成情報間の整合を確認するための識別子です。それぞれのデータを生成するときにユーザが付けます。

構成定義

入出力構成, ACOD 構成を定義・管理する機能です。データベースに関する操作は, ユティリティを使用します。

コメント番号

チャンネルパス ID, 制御装置番号, デバイス番号に付けるコメントを管理するための番号です。コメント番号を変更することによって, 表示するコメントを切り替えることができます。

(サ行)

シートセレクト

レコードセレクトとフィールドセレクトが交差している領域です。シートセレクトをクリックすると, 定義シート全体が選択状態になります。

システム構成情報

VOS3 システムを運用するために必要なハードウェアおよびソフトウェアの各種情報の総称です。

システム構成定義データ

入出力構成定義データ, ACOD 構成定義データ, および PRMF 構成定義データの総称です。SCMRF CD for Windows で定義し, ホストの IOCDF に転送します。

情報識別子

システム構成定義データを識別するための 4 けたの文字列です。SCMRF CD for Windows で設定します。IOCDF に格納するときに, メンバ名の下 4 けたとしても使用されます。

初期データ

既存の SYSGEN マクロ, ACOD 構成定義コマンド, および PRMF システム構成定義文を流用する場合に, ホスト上で一時的に生成するデータです。初期データを PC に転送すると, PC 上で編集できるようになります。SYSGEN マクロから生成された初期データを「入出力構成定義初期データ」, ACOD 構成定義コマンドから生成された初期データを「ACOD 構成定義初期データ」, PRMF システム構成定義文から生成された初期データを「PRMF 構成定義初期データ」と呼びます。

シンタクスレベル

構成定義のシンタクスチェックに適用する, ホスト側のゼネレーション実行プログラムのバージョンに対応したシンタクスチェック条件を示す情報です。

接続予約割り当て

LPAR のアクティブ時にはチャンネルを割り当てないで, ゲストチャンネル動的再構成機能によって OS 稼働中にあとからチャンネルを割り当てるときの指定方法です。

セル

フィールドとレコードで示される, 定義シートの 1 コマです。

占有接続

あるポートとの接続を一つのポートだけに許可するポート間の接続形態です。

(タ行)

多段接続

チャンネルと入出力制御装置の間に、2 台の ACOD を接続した構成です。

追加レコード

定義シートの最終レコードで、データを追加するためのレコードです。レコードセレクトにアスタリスクマークが表示されます。

定義シート

データベースの内容を表示する、ウィンドウ上の表形式の領域です。

ディレクタ

ACONARC ディレクタと FIBARC ディレクタの総称です。

ディレクタ経路

あるチャンネルバス ID から、経由するディレクタのポート、ポートと接続する入出力制御装置までの接続に関する情報です。

データの管理情報

システム名称やプロセッサ名称など、データベースや定義データを識別するための情報です。システム構成の設定ウィンドウで設定します。

転送ファイル

PC とホストのファイル転送で使用する PC 上のファイルです。

動的接続

あるポートと同時に複数のポートとの接続を許可するポート間の接続形態です。

(ナ行)

内部ポート

ACOD を制御する内部処理機構に接続する ACOD 内のアクセスポイントです。内部ポートのポートアドレスは「FE」です。

入出力構成定義初期データ

ホスト上の既存の SYSGEN マクロから生成する入出力構成に関するデータです。SCCP によって生成し、PC に転送します。

入出力構成定義データ

SCMRF CD for Windows のデータベースに格納した VOS3 システムの入出力構成に関するデータです。ホストの IOCDF に転送し、SYSGEN マクロを生成します。

(八行)

搬出

SCMRF CD for Windows からホストにシステム構成定義データを転送するため、PC の転送ファイルにデータベース中のデータを格納することです。

搬入

ホストから転送したデータを PC の転送ファイルからデータベースに格納することです。

フィールド

定義シートの列です。

フィールドセクタ

レコードの上であり、フィールドに対するタイトルが表示される領域です。フィールドセクタをクリックすると、クリックしたフィールドのすべてのセルが選択状態になります。

プロセッサ資源分割管理機構

PRMF を参照のこと。

ベーシックモード

物理計算機の CPU 動作モードで、LPAR モード以外の CPU 動作モードを指します。OS が使用する CPU 動作モードです。

ベースシステム

構成を定義しているシステムの基になったシステムです。ベースシステムの情報として、プロセッサ名称、CPU モデル、構成 ID などが表示できます。

変更記録

キーとなるフィールドに対して、追加・変更・削除の操作があった日時と操作したユーザ名を記録する機能です。キーとなるフィールドには、チャンネルパス ID、制御装置番号、デバイス番号、ポートアドレスなどがあります。

変更レコード

レコードセクタに鉛筆マークが表示されているカレントレコードです。

ポート

ACOD と外部装置とのアクセスポイントです。ACOD と外部装置のアクセスポイントを「外部ポート」、ACOD の内部処理機構へのアクセスポイントを「内部ポート」と呼びます。

ポートアドレス

ポートに付ける論理識別子です。2 けたの 16 進数を指定します。

(マ行)

メニュー

幾つかのコマンドをグループにしたときのタイトルを指します。ウィンドウタイトルの下のメ

ニューバーに表示されます。

(ヤ行)

ユーザ権限

ユーザに対して設定する SCMRP CD for Windows の使用権利です。データベースやユーザの管理ができる管理者権限と、データの操作ができる構成定義権限があります。どちらの権限も設定されていないユーザは、データの参照だけです。

ユティリティ

ユーザの登録、データベースの作成・保守をする機能です。

(ラ行)

ラベル名称

SCMRP/CD で SYSGEN マクロまたは PRMF システム構成定義文を生成した時、名称欄に付加される名称です。

レコード

定義シートの行です。

レコードセクタ

フィールドの左にあり、レコードの状態（カレントレコード、新規追加レコード、変更レコード）を示すマークが表示される領域です。レコードセクタをクリックすると、クリックしたレコードのすべてのセルが選択されます。

連携レコード

定義文（SYSGEN マクロの CONTRLR など）の性質上、一つの定義文を複数の定義シートで定義するものを連携レコードといいます。

論理パス

ACOD を介して接続する複数のチャンネルと入出力制御装置間の接続パスです。

索引

数字

- 1 段接続の場合 170
- 256 チャンネル構成の物理プロセサの I/O グループへの流用 47
- 512 チャンネル拡張機能を使用する設定 133
- 512 チャンネル拡張機能を使用する場合のシステム構成の設定方法 128
- 512 チャンネル構成の概要 34
- 512 チャンネル構成の定義 34

A

- Access との関連 415
- ACOD 経路生成結果表示ウィンドウ 315
- ACOD 経路生成結果表示ダイアログ 314
- ACOD 経路定義ウィンドウ (1 段接続) 171
- ACOD 経路定義ウィンドウ (多段接続) 173
- ACOD 経路の定義 170
- ACOD 経路不整合エラー情報表示ウィンドウ 222
- ACOD 構成定義コマンド 466
- ACOD 構成定義コマンドの SCMRP CD for Windows での扱い 467
- ACOD 構成定義データの変更記録の表示 245
- ACOD 構成の表示 256
- ACOD の多段接続の場合 172
- ACOD の追加・削除 169
- ACOD 搬入プロセサ確認ダイアログ 312
- ACOD 名称および ACOD モデルの指定 310
- ACOD 名称指定ダイアログ 311
- ACOD 名称の定義 167
- ACONARC 制御機能対象範囲の登録機能 27
- ACONARC 制御機能の制御対象にする入出力制御装置の登録 178
- ACONARC 制御機能の対象入出力制御装置の登録ダイアログ 179
- ACONARC 制御機能を使用する設定 121, 126, 133

- AMIF を使用する場合の CNC-CTC 接続用入出力制御装置の IOC 名称の付け方 31
- AOMPLUS と SCMRP CD for Windows の仕様上の相違点 472

C

- CNC-CTC 接続用入出力制御装置の IOC 名称の付け方 30
- CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録 176
- CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録機能 28
- CNC-CTC 接続用入出力制御装置の登録ダイアログ 177
- CommuniNet を使ったファイル転送 474
- CSV 形式 284

D

- DAT 形式 284

E

- Excel への貼り付け 284
- EXPATH 定義ウィンドウ 197
- EXPATH 定義ウィンドウ (操作支援) 404
- EXPATH の定義 196

F

- FBD 定義時の注意事項 41
- FBD の定義方法 39
- ftp によるファイル転送 475

G

- GUI 2

I

- IOC 名称 25

L

-
- LPAR 共通の構成定義ダイアログ 187
 - LPAR 構成定義ウィンドウ (操作支援) 401
 - LPAR 構成定義ウィンドウ (制御システムが PRMA E2 の場合) 182
 - LPAR 構成定義ウィンドウ (制御システムが PRMA E3 の場合) 183
 - LPAR 構成の定義 182
 - LPAR 構成の表示 257
 - LPAR で使用できる入出力装置の割り当ての定義 204
 - LPAR に割り当てるチャンネルの定義 191
 - LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウ (LPAR 基準) 206
 - LPAR への共用チャンネル配下の入出力装置割り当て定義ウィンドウ (入出力装置基準) 205
 - LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウ (LPAR 基準) 194
 - LPAR へのチャンネル割り当て定義ウィンドウ (チャンネル基準) 192

P

-
- PRMA E2 (HLUSCCP) および PRMA E3 (HLUSCCP) と SCMRF CD for Windows の仕様上の相違点 472
 - PRMF 構成と LPAR 上のゲスト OS との整合性チェックの実行 219
 - PRMF 構成とゲスト OS の不一致 309
 - PRMF 構成のチャンネルの定義 189
 - PRMF 構成の入出力制御装置の定義 199
 - PRMF 構成の入出力装置の定義 201
 - PRMF システム構成定義文 466
 - PRMF システム構成定義文の SCMRF CD for Windows での扱い 468
 - PRMF とゲスト OS との不整合エラー情報表示ウィンドウ 221
 - PRMF を使用する設定 126, 133
 - PRMF を使用する場合の構成定義例 356
 - PRMF を使用する場合のシステム構成の設定方法 122
 - PRMF を使用する場合の定義順序 33

S

-
- SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との関係 615
 - SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値との相違点 617
 - SCCP・HLUSCCP 実行時の指定値の扱い 615
 - SCCP と SCMRF CD for Windows の仕様上の相違点 471
 - SCMRF CD for Windows が導入済みの状態でのセットアップ 415
 - SCMRF CD for Windows 削除時の注意事項 416
 - SCMRF CD for Windows の機能 9, 19
 - SCMRF CD for Windows の構成 7
 - SCMRF CD for Windows の構成要素 7
 - SCMRF CD for Windows の削除手順 415
 - SCMRF CD for Windows の使用方法 109
 - SCMRF CD for Windows の初期化ファイル 477
 - SCMRF CD for Windows の導入 411
 - SCMRF CD for Windows の特長 2
 - SCMRF CD for Windows の用語 620
 - SCMRF CD for Windows を使用する前に 85
 - SYSGEN マクロ 466
 - SYSGEN マクロの SCMRF CD for Windows での扱い 466

W

-
- Windows 3.1 SCMRF/Configuration Definition for Windows からの移行 478

い

-
- 印刷 284
 - 印刷プレビューでの操作に関するショートカットキー 105
 - 印刷プレビューの形式のウィンドウの操作 104

う

-
- ウィンドウの共通操作 91

ウィンドウの体系 88

え

- エラー種別が A のメッセージ 481
- エラー種別が C のメッセージ 496
- エラー種別が E のメッセージ 508
- エラー種別が I のメッセージ 571
- エラー種別が S のメッセージ 600
- エラー種別が W のメッセージ 602
- エラー情報詳細表示ウィンドウ (PRMF を使用する物理プロセサのエラーを表示する場合) 214
- エラー情報詳細表示ウィンドウ (VOS3 のプロセサのエラーを表示する場合) 214
- エラー情報の表示 211
- エラー情報表示ダイアログ (PRMF を使用する物理プロセサのエラーを表示する場合) 213
- エラー情報表示ダイアログ (VOS3 のプロセサのエラーを表示する場合) 212
- エラーチェックの実行 215
- エラーのチェック・表示機能 35
- エラーの内容ダイアログ 211
- エラーフィールド 95
- エラーメッセージの表示 211

お

- オプション機能 12, 44
- オプションダイアログ (構成定義データの比較オプション) 239
- オプションダイアログ (ゼネレーションパラメタ生成オプション) 236
- オプションダイアログ (入出力制御装置定義オプション) 233
- オプションダイアログ (入出力装置定義オプション) 234
- オプションダイアログ (ファイル転送オプション) 237
- オプションダイアログ (編集オプション) 240
- オプションの設定 233

か

- カーソルの移動に関するショートカットキー 106
- 各バージョンの変更内容 619
- 管理名称 26

き

- キーとなるフィールド 95
- 機器管理支援機能 14, 56
- 機器構成の表示 254
- 機器構成表示機能 14, 57
- 既存の 256 チャンnel物理プロセサ構成定義データを I/O グループに変更する 134
- 起動 111
- 共通のショートカットキー 105

け

- 形式を選択した貼り付けの操作例 407
- ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (チャンネルの定義) 209
- ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (入出力制御装置の定義) 209
- ゲスト OS 定義状態の確認ダイアログ (入出力装置の定義) 210
- ゲスト OS 入出力装置定義の修正ダイアログ 203
- ゲスト OS の追加・削除 126, 133
- ゲスト OS の定義状態の確認 208
- ゲスト OS への搬入不可要因表示ウィンドウ 310
- ゲスト OS への変更ダイアログ 127
- ゲスト OS への変更チェックダイアログ 220
- 検索ダイアログ 103

こ

- 構成定義エラーの確認 211
- 構成定義エラーの確認方法 211
- 構成定義機能 9, 20
- 構成定義支援機能 12, 42
- 構成定義データチェック結果表示ウィンドウ (ACOD 構成定義データ) 219

- 構成定義データチェック結果表示ウィンドウ
（入出力構成定義データ） 218
 - 構成定義データチェックダイアログ 216
 - 構成定義データチェックの実行 215
 - 構成定義データの比較 223
 - 構成定義データの比較ダイアログ 224
 - 構成定義データ比較確認ダイアログ 228
 - 構成定義のウィンドウ体系 88
 - 構成定義の起動 111
 - 構成定義の終了 115
 - 構成定義のメインウィンドウ 112
 - 構成定義表示（ACOD）ウィンドウ 268
 - 構成定義表示（ACOD）ウィンドウの表示内
容 268
 - 構成定義表示（LPAR 構成）ウィンドウ 270
 - 構成定義表示（LPAR 構成）ウィンドウの表
示内容 270
 - 構成定義表示（システム構成）ウィンドウ
259
 - 構成定義表示（システム構成）ウィンドウの
表示内容 259
 - 構成定義表示（装置グループ）ウィンドウ
267
 - 構成定義表示（装置グループ）ウィンドウの
表示内容 267
 - 構成定義表示（装置タイプ）ウィンドウ 267
 - 構成定義表示（装置タイプ）ウィンドウの表
示内容 268
 - 構成定義表示（チャンネル）ウィンドウ
261, 262
 - 構成定義表示（チャンネル）ウィンドウの表示
内容 261, 262
 - 構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウ 335
 - 構成定義表示（ディレクタ）ウィンドウの表
示内容 335
 - 構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウ
263, 264
 - 構成定義表示（入出力制御装置）ウィンドウ
の表示内容 264
 - 構成定義表示（入出力装置）ウィンドウ
265, 266
 - 構成定義表示（入出力装置）ウィンドウの表
示内容 265, 266
 - 構成定義表示（ポート）ウィンドウ 269
 - 構成定義表示（ポート）ウィンドウの表示内
容 269
 - 構成定義表示ダイアログ 254, 255, 258
 - 構成定義例 338
 - コメント機能 14, 56
 - コメント番号 93
 - コメント表示（チャンネル）ウィンドウ 281
 - コメント表示（入出力制御装置）ウィンドウ
282
 - コメント表示（入出力装置）ウィンドウ 282
 - コメント表示ダイアログ 280
 - コンボボックスの操作に関するショートカッ
トキー 108
- ## さ
-
- 作業手順 86
- ## し
-
- シートセクタ 95
 - システム構成の設定 12, 118
 - システム構成の設定ウィンドウ 118
 - システム構成例 338
 - システム名称 91
 - 終了 111
 - 障害対策 461
 - 障害の種類 462
 - 条件を満たすレコードだけを表示する 98
 - 使用例 337
 - ショートカットキー 105
 - 初期ウィンドウ 112
 - 新規登録 / 削除ダイアログ 327
 - シンタクスレベル
119, 120, 123, 124, 131, 624
- ## す
-
- ズームダイアログ 102
 - ストレージ計算 285
 - ストレージ計算機能 12, 47

せ

- 生成された ACOD 経路・生成されなかった ACOD 経路の表示 313
- 生成された ACOD 経路の確認 313
- 接続定義(入出力装置基準時)操作の構成図 396
- 接続定義ウィンドウ(チャンネル基準時)(操作支援) 395
- 接続定義ウィンドウ(入出力制御装置基準) 161
- 接続定義ウィンドウ(入出力装置基準) 163
- 接続定義ウィンドウ(入出力装置基準時)(操作支援) 396
- 接続定義操作の構成図 395
- 接続の定義 158
- セットアップするときの注意事項 415
- セットアップ時の注意事項 415
- セットアップの手順 414
- ゼネレーションパラメタ生成ウィンドウ 292
- ゼネレーションパラメタ生成機能 59
- ゼネレーションパラメタの生成 292
- ゼネレーションパラメタの生成とファイル転送を同期させる 82
- セル 94
- セルに値を入力する 96
- セルの操作に関するショートカットキー 108
- セルの内容を拡大表示する 101

そ

- 操作支援機能 15, 64
- 操作支援機能を用いた操作例 393
- 操作モード 93
- 装置グループ定義(装置グループ基準時)操作の構成図 398
- 装置グループ定義(入出力装置基準時)操作の構成図 400
- 装置グループ定義ウィンドウ(装置グループ基準) 149
- 装置グループ定義ウィンドウ(装置グループ基準時)(操作支援) 398
- 装置グループ定義ウィンドウ(入出力装置基準時) 399

- 装置グループの定義 148
- 装置タイプの挿入 157
- 装置タイプの定義 153
- 装置割り当て順序の定義 155
- ソフトウェア環境 412

た

- 他アプリケーションとのデータ交換 104
- 多段接続から 1 段接続に変更する例(1 段目の ACOD 経路を残す) 392
- 多段接続から 1 段接続に変更する例(2 段目の ACOD 経路を残す) 390
- 多段接続と 1 段接続の表示の切り替え 175
- 多段接続の ACOD 経路の変更例 389

ち

- チャンネルから入出力制御装置までの ACOD 経路を削除する例 389
- チャンネル定義(PRMF)ウィンドウ(VILA チャンネル定義ができる場合) 190
- チャンネル定義ウィンドウ 138
- チャンネルの定義 138

つ

- 追加データの登録 297
- 追加データの登録ダイアログ 297
- 追加データ編集ダイアログ 299

て

- 定義シートの構成 94
- 定義シートの操作 94
- 定義順序 32
- 定義データの管理機能 12, 49
- 定義方法 21
- ディスク占有量 413
- ディレクタ経路 20
- ディレクタ構成の表示 335
- ディレクタ定義ウィンドウ 332
- ディレクタの追加・削除 334
- ディレクタ名称の定義 331
- データの管理情報 12, 49

データベースと転送ファイルの関係 66
 データベースの管理 83
 データベースの最適化 329
 データベースの最適化機能 84
 データベースの作成 83, 328
 データベースの作成機能 83
 データベースの修復 329
 データベースの修復機能 84
 データベースの選択 329
 データベースの選択機能 83
 データベースの変換 84, 330
 データベースの保守 84
 転送ファイル内容一覧の表示 305
 転送ファイル内容一覧表示ダイアログ 306
 転送ファイル名入力ダイアログ 307

と

同一ウィンドウ内での連携レコードのコピー
 および貼り付け 64
 動作環境 412

に

入出力機器の管理名称 25
 入出力機器別の構成の表示 255
 入出力構成定義データ・PRMF 構成定義
 データの変更記録の表示 245
 入出力制御装置操作の構成図 393
 入出力制御装置定義 (PRMF) ウィンドウ
 199
 入出力制御装置定義ウィンドウ (操作支援)
 393
 入出力制御装置定義オプションの設定 233
 入出力制御装置の定義 139
 入出力装置定義 (PRMF) ウィンドウ 201
 入出力装置定義オプションの設定 234
 入出力装置の定義 143
 入力した値を確定する 97
 任意のラベル名称定義ダイアログ
 (CONTRLR を選択した場合) 275
 任意のラベル名称定義ダイアログ
 (SCHEDULR を選択した場合) 276

は

ハードウェア環境 412
 パスワードの設定・変更 327
 パスワードの変更ダイアログ 327
 貼り付け時のデータ形式の選択 (操作支援)
 407
 搬出 317
 搬出機能 77
 搬出実行ダイアログ 320
 搬出実行ダイアログ (512 チャネル構成定義
 データの場合) 321
 搬出とファイル転送を同期させる 81
 搬入 301
 搬入・搬出機能 15
 搬入ウィンドウ 301
 搬入オプションの設定 235
 搬入および搬出に伴うファイル転送時の注意
 事項 476
 搬入機能 67
 搬入実行ダイアログ 303, 304
 搬入時に表示されるウィンドウ 307
 搬入する転送ファイルの指定 303
 搬入データと格納先データベースの ACOD
 の ACOD モデルの不一致 308
 搬入データと格納先プロセサの不一致 307
 搬入データに定義されているプロセサ名称ま
 たは物理プロセサ名称の確認 312
 搬入データの指定 301
 搬入とファイル転送を同期させる 80
 搬入の指定 301

ひ

比較 ACOD 選択ダイアログ 227
 必要なプログラムプロダクト 7
 表示される情報の見方 417
 表示情報の出力機能 14
 表示情報の出力方法 284

ふ

ファイル転送 474
 ファイル転送オプションの設定 236
 ファイル転送ダイアログ 323

ファイル転送ダイアログの形式 323
 ファイルの転送 323
 ファイルのバックアップ 463
 ファイルへの出力 284
 フィールド 94
 フィールドセクタ 95
 不一致データ一覧表示 (ACOD) ダイアログ 309
 不一致データ一覧表示 (システム構成) ダイアログ 308
 フィルタ条件の指定ダイアログ 99
 複数コメント行の一括コピーおよび貼り付け 65
 複数コメント行のコピーおよび貼り付け操作例 408
 物理 CPU の追加・削除 133
 物理プロセッサの追加・削除 126, 133
 プロセッサの追加・削除 121
 プロセッサ名称 91

へ

ページ移動ボタン 104
 ベーシックモードのプロセッサの定義データのゲスト OS への流用 46
 ベーシックモードのプロセッサの定義データをゲスト OS の定義データに変更する 126
 ベースシステム情報 13
 ベースシステム情報の記録機能 54
 ベースシステム情報の表示 252
 ベースシステム情報表示ダイアログ 252
 ベースシステムの確認 252
 ベースシステムの切り替え 253
 ヘッドの操作 91
 変更記録 13
 変更記録機能 52
 変更記録として採取される内容 52
 変更記録のクリア 242
 変更記録のクリアダイアログ 242
 変更記録の採取 242
 変更記録の表示 242
 変更記録表示 (EXPATH) ウィンドウ 251
 変更記録表示 (LPAR 構成) ウィンドウ 250
 変更記録表示 (接続) ウィンドウ 249

変更記録表示 (装置グループ) ウィンドウ 248
 変更記録表示 (装置割り当て順序) ウィンドウ 249
 変更記録表示 (チャンネル) ウィンドウ 247
 変更記録表示 (入出力制御装置) ウィンドウ 247
 変更記録表示 (入出力装置) ウィンドウ 248
 変更記録表示 (ポート) ウィンドウ 250
 変更記録表示ダイアログ 244
 変更フィールド 95
 編集オプションの設定 240
 編集支援機能 64

ほ

ポートアドレス使用状況ウィンドウ 231
 ポートアドレス使用状況ダイアログ 231
 ポートアドレスの使用状況の表示 231
 ポートアドレスの使用状況の表示機能 14
 ポートアドレスの使用状況表示機能 43
 ポートアドレスの変更ダイアログ (ACOD) 169
 ポートアドレスの変更ダイアログ (ディレクタ) 334
 ポートアドレス変更機能 12, 42
 ポートアドレス変更機能の実行 (ACOD) 169
 ポートアドレス変更機能の実行 (ディレクタ) 334
 ホストとのデータのやりとり 474
 ホストプログラムとの関係 5

め

メインウィンドウ (構成定義) 113
 メインウィンドウ (ユティリティ) 116
 メッセージ 479
 メッセージボックス 479

も

モード 93
 文字列の検索 102
 文字列のコピー・貼り付け 102

文字列の操作 102

ゆ

ユーザ権限の種類 83
ユーザ権限の設定 328
ユーザ権限の設定ダイアログ 328
ユーザ登録ダイアログ 326
ユーザの管理 83
ユーザの削除 327
ユーザの新規登録 327
ユーザの新規登録・削除 326
ユーザの登録 326
ユーティリティ機能 83
ユーティリティのウィンドウ体系 90
ユーティリティの起動 116
ユーティリティの終了 117
ユーティリティの操作 326

よ

用語解説 620

ら

ラベル名称確認ダイアログ 277
ラベル名称定義ウィンドウ 272
ラベル名称定義機能 14, 58
ラベル名称の確認 277
ラベル名称の定義・確認 272
ラベル名称表示ウィンドウ 278
ラベル名称をコメントにコピーする 279
ラベル名称を定義できる SYSGEN マクロおよび PRMF システム構成定義文 58

り

領域の選択（拡張モード）に関するショートカットキー 107
領域の選択に関するショートカットキー 106

れ

レコード 94
レコードおよび文字列の操作に関するショートカットキー 107

レコードセクタ 94
レコードのコピー・貼り付け 97
レコードの追加・削除 97
連携レコードのコピーおよび貼り付け 64
連携レコードのコピーおよび貼り付け操作例 393
連携レコードのコピーおよび貼り付けとしない場合 65

ろ

ログオンダイアログ 112
ログオンユーザ名の仮定値の設定 477

わ

割り当て順序の変更 157